別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ　ｻｶﾞﾐｼﾞｮｼｶﾞｲｶﾞｸ 学校法人　相模女子大学	
フリガナ 大学の名称	ｻｶﾞﾐｼﾞｮｼｶﾞｲｶﾞｸ 相模女子大学　(Sagami Women's University)	
大学本部の位置	神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号	
大学の目的	本学は、女子に広く高度な知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、建学の精神「高潔善美」にもとづく教養ある人材を育成することを目的とする。	
新設学部等の目的	【学芸学部】 学芸学部の「学芸」とは、自由学芸（リベラルアーツ）という理念に基づくもので、人間ひとりひとりが真に充実した人生を送るために必要な、知識・教養・倫理を総合的にあらわしたものである。この理念に基づき、各学科での専門的な知識・技能の修得と習熟を通して、本当の意味で自立した自由な人間、社会の中で自分の価値観を持って行動できる人間を養成する。 【国際コミュニケーション学科】 キャンパス、国境、オン・オフライン、ヒトとAIの領域を主体的に横断することで、多様な人、社会、文化に共感・協働する能力を育成し、自身の特性を最大限に活かす力を養う。また、得られた多様な経験や知識を体系化し、生涯にわたり自己開発し続ける能力を培う。これにより、多様な社会で活躍する資質を備えた人材を養成する。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
学芸学部 [Faculty of Arts and Sciences]	年	人	年次 人	人	学士（国際コミュニケーション学） 【Bachelor of Arts in International Communication】	文学関係	年　月 第　年次	神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号
国際コミュニケーション学科 [Department of International Communication]	4	60	3年次 5	250			令和8年4月 第1年次 令和10年4月 第3年次	
計		60	5	250				

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）

相模女子大学
令和7年4月　収容定員の変更に係る学則変更届出予定
学芸学部
日本語日本文学科〔定員減〕　(△25)　(令和8年4月)
英語文化コミュニケーション学科（廃止）　(△110)　(令和8年4月)
(3年次編入学定員)　(△ 5)
※令和8年4月学生募集停止
(3年次編入学定員は令和10年4月学生募集停止)
生活デザイン学科〔定員増〕(35)　(令和8年4月)

人間社会学部
社会マネジメント学科〔定員減〕(△20)　(令和8年4月)
人間心理学科〔定員減〕(△10)　(令和8年4月)

人間社会学部
地域クリエーション学科（60）　(令和7年4月届出予定)
(3年次編入学定員）(5)

相模女子大学短期大学部（廃止）
食物栄養学科（廃止）　(△80)　※令和8年4月学生募集停止

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
学芸学部　国際コミュニケーション学科	90科目	75科目	28科目	193科目	124単位

学部等の名称	基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
	教授	准教授	講師	助教	計			
新 学芸学部　国際コミュニケーション学科	人 8 (8)	人 1 (1)	人 1 (1)	人 0 (0)	人 10 (10)	人 0 (0)	人 105 (89)	
a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
小計（ａ～ｂ）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（ａ～ｄ）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			

設	人間社会学部　地域クリエーション学科	6 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (8)	0 (0)	103 (86)	令和7年4月届出済み
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (8)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (8)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (5)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	9 (8)			
分	計	14 (13)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	19 (18)	0 (0)	－ (－)	
既	学芸学部　日本語日本文学科	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	140 (140)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　5人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (10)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	13 (13)			
	子ども教育学科	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	143 (143)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	9 (9)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	19 (19)			
	メディア情報学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	134 (134)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　7人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)			
	生活デザイン学科	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	138 (138)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
設	人間社会学部　社会マネジメント学科	6 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (12)	0 (0)	131 (130)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (12)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (12)			

	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (12)			
	人間心理学科	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	115 (115)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　8人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	8 (8)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	13 (13)			
	栄養科学部　健康栄養学科	10 (10)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	5 (5)	134 (134)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	10 (10)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	10 (10)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	15 (15)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	10 (10)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	15 (15)			
	管理栄養学科	6 (6)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	15 (15)	6 (6)	115 (115)	
	a．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，主要授業科目を担当するもの	6 (6)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	15 (15)			大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数　6人
	b．基幹教員のうち，専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（ａ～ｂ）	6 (6)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	15 (15)			
	c．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ又はｂに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d．基幹教員のうち，専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し，かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって，年間８単位以上の授業科目を担当するもの（ａ，ｂ又はｃに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（ａ～ｄ）	6 (6)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	15 (15)			
分	計	64 (65)	32 (32)	9 (9)	3 (3)	108 (109)	11 (11)	－ (－)	
	合　　計	78 (78)	34 (34)	12 (12)	3 (3)	127 (127)	11 (11)	－ (－)	

職　　種	専　属	その他	計
	人	人	人
事　務　職　員	57 (57)	74 (76)	131 (133)
技　術　職　員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
図　書　館　職　員	2 (2)	0 (0)	2 (2)
そ　の　他　の　職　員	0 (0)	0 (0)	0 (0)
指　導　補　助　者	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	59 (59)	74 (76)	133 (135)

校地等	区　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計
	校　舎　敷　地	106,722㎡	6,461㎡	0㎡	113,183㎡
	そ　の　他	11,555㎡	0㎡	0㎡	11,555㎡
	合　計	118,277㎡	6,461㎡	0㎡	124,738㎡

校　舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計
	47,992.14㎡ (47,992.14㎡)	1,497.32㎡ (1,497.32㎡)	0㎡ (0㎡)	49,489.46㎡ (49,489.46㎡)

教　室　・　教　員　研　究　室	教　室	172室	教員研究室	10室	大学全体

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数
	国際コミュニケーション学科	327,824〔47,743〕 (326,944〔47,666〕)	822〔 0 〕 (602〔 0 〕)	7,137〔2,677〕 (7,136〔2,675〕)	2,285〔2,285〕 (2,285〔2,285〕)	117 (117)	0 (0)	
	計	327,824〔47,743〕 (326,944〔47,666〕)	822〔 0 〕 (602〔 0 〕)	7,137〔2,677〕 (7,136〔2,675〕)	2,285〔2,285〕 (2,285〔2,285〕)	117 (117)	0 (0)	

スポーツ施設等	スポーツ施設	講堂	厚生補導施設	大学全体
	0㎡	0㎡	7,751㎡	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	図書購入費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む
	経費の見積り 教員１人当り研究費等		460千円	460千円	460千円	460千円	― 千円	― 千円	
	経費の見積り 共同研究費等		400千円	400千円	400千円	400千円	― 千円	― 千円	
	経費の見積り 図書購入費	1,085千円	1,085千円	1,085千円	1,085千円	1,085千円	― 千円	― 千円	
	経費の見積り 設備購入費	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	3,000千円	― 千円	― 千円	
	学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
			1,425千円	1,170千円	1,181千円	1,125千円	― 千円	― 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		経常費補助金、雑収入、資産運用収入、手数料等						

既設大学等の状況

大学等の名称：相模女子大学

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
学芸学部						0.75		神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号	
日本語日本文学科	4	110	3年次 5	490	学士(文学)	0.59	昭和24年度		令和6年度より入学定員減(△20人)
英語文化コミュニケーション学科	4	110	3年次 5	470	学士(文学)	0.45	昭和42年度		令和6年度より入学定員減(△10人)
子ども教育学科	4	100	2年次 2 3年次 5	416	学士(子ども教育)	0.75	平成20年度		
メディア情報学科	4	95	3年次 5	360	学士(メディア情報学)	1.12	平成20年度		令和6年度より入学定員減(15人)
生活デザイン学科	4	45	3年次 5	190	学士(生活デザイン学)	1.18	平成25年度		
人間社会学部						0.77			
社会マネジメント学科	4	110	3年次 10	480	学士(社会マネジメント学)	0.63	平成20年度		令和6年度より入学定員減(△10人)
人間心理学科	4	120	3年次 10	480	学士(人間心理学)	0.91	平成20年度		令和6年度より入学定員増(10人)
栄養科学部						0.85			
健康栄養学科	4	80	3年次 8	336	学士(栄養学)	0.82	平成20年度		
管理栄養学科	4	100	3年次 10	420	学士(栄養学)	0.88	平成20年度		
相模女子大学大学院									
栄養科学研究科									
栄養科学専攻（M）	2	6	―	12	修士(栄養科学)	0.25	平成20年度		
栄養科学専攻（D）	3	2	―	6	博士(栄養科学)	0	平成22年度		
社会起業研究科									
社会起業専攻（P）	2	30	―	60	社会起業修士(専門職)	0.81	令和2年度		

既設大学等の状況	大学等の名称	相模女子大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	食物栄養学科	年 2	人 80	年次人 —	人 160	短期大学士(栄養学)	倍 0.52	平成15年度	神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号
附属施設の概要		名称：相模女子大学日本学国際研究所 目的：本学を拠点として日本の文化・社会を軸とした国際的な研究を推進すると共に、日本の文化・社会の国際的な理解を促進することを目的とする。 所在地：神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号 設置年月：令和6年4月 規模等：28㎡ 名称：教職センター 目的：教職課程運営に関する全学的な業務を統括し、教員養成教育の整備・充実を図り、優秀な教員の輩出に努めること。 所在地：神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号 設置年月：平成28年4月 規模等：　83㎡　（マーガレット本館1階 ） 名称：子育て支援センター 目的：子どもの健やかな育ちと親の子育てを支援するために、研究活動、教育活動、臨床活動を行うことを目的とする。 所在地：神奈川県相模原市南区文京2丁目1番1号 設置年月：平成22年5月 規模等：・子育て支援センター　81㎡（1号館1階） ・子育て支援相談室　32㎡（想定：守衛横）							

（注）

1　共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

2　「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあっては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあっては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあっては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。

3「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。

4　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

6　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

学芸学部 国際コミュニケーション学科

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
全学共通科目	基礎科目	さがみ総合講座	1前		2			○			1						メディア
		基礎教育講座	1前		2			○			1		1				メディア
		コンピュータリテラシー	1前・後		2				○							2	メディア
		小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			2	0	1	0	0	2	－
	教養科目	法学	1後			2		○								1	メディア
		日本国憲法	1前・後			2		○								1	メディア
		倫理学	1前・後			2		○								2	メディア
		経済学	1前・後			2		○								2	メディア
		社会学	1前・後			2		○								3	メディア
		心理学	1前・後			2		○								2	メディア
		言語学	1前・後			2		○								2	
		文学	1前・後			2		○			1					1	メディア
		諸外国の社会と文化	1前・後			2		○								2	メディア
		メディアと文化	1前・後			2		○								3	
		アート	1前・後			2		○								2	オムニバス、メディア
		情報処理概論	1前・後			2		○								1	メディア
		小計（12科目）	－	－	0	24	0	－			1	0	0	0	0	18	－
	発想・実践科目	地域から学ぶ知の実践	1前			2		○								1	メディア
		社会貢献・地域連携	1前			2		○								2	オムニバス
		地域協働活動	2通			1				○	1						標準外
		さがみ発想講座	1後			2		○			2					7	オムニバス、メディア
		問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	3通			1			○							1	標準外
		問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	4通			1			○							1	標準外
		ジェンダー論	1前			2		○								1	メディア
		くらしと文化	1前・後			2		○								2	メディア
		日本の社会と文化	1前・後			2		○								2	メディア
		データサイエンス	1前・後			2		○								1	
		AIと社会	1前・後			2		○								1	
		情報リテラシー	1前・後			1			○							2	メディア
		書道	1前・後			2		○								4	
		小計（13科目）	－	－	0	22	0	－			3	0	0	0	0	21	－
	キャリア支援科目	キャリア・プランニング	1前・後			2		○								2	メディア
		ビジネス実務総論	1前・後			2		○								2	メディア
		SPI対策講座	3前			2		○								1	メディア
		就職支援講座	3前			2		○			1						メディア
		小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			1	0	0	0	0	4	－
	健康・スポーツ科目	ウエルネス	1前・後			2		○								1	メディア
		身体の科学	1前			2		○								1	メディア
		球技スポーツ	1前・後			1				○						3	メディア
		ラケットスポーツ	1前・後			1				○						4	メディア
		健康スポーツ	1前・後			1				○						5	メディア
		シーズンスポーツ	1通			1				○						1	メディア、標準外
		小計（6科目）	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	9	－
	語学科目	言語と異文化	1前			2		○			1					4	オムニバス・共同（一部）、メディア
		英語Ⅰ	1前・後			1			○		2					6	メディア、標準外
		英語Ⅱ	1前・後			1			○		2					4	メディア、標準外
		英語Ⅲ	1前・後			1			○		1					1	メディア
		英語Ⅳ	1前・後			1			○		1					1	メディア
		韓国／朝鮮語Ⅰ	1前・後			1			○		1					2	メディア、標準外
		韓国／朝鮮語Ⅱ	1後・2前			1			○		1					1	メディア、標準外
		韓国／朝鮮語Ⅲ	2前			1			○		1						メディア
		韓国／朝鮮語Ⅳ	2後			1			○		1						メディア
		中国語Ⅰ	1前・後			1			○							4	標準外

			中国語Ⅱ	1後・2前			1			○								5	標準外
			中国語Ⅲ	2前			1			○								1	メディア
			中国語Ⅳ	2後			1			○								1	
			フランス語Ⅰ	1前・後			1			○								4	メディア、標準外
			フランス語Ⅱ	1後・2前			1			○								3	メディア、標準外
			フランス語Ⅲ	2前			1			○								1	メディア
			ドイツ語Ⅰ	1前・後			1			○								3	標準外
			ドイツ語Ⅱ	1後・2前			1			○								2	標準外
			ドイツ語Ⅲ	2前			1			○								1	
			イタリア語Ⅰ	1前・後			1			○								1	標準外
			イタリア語Ⅱ	1後・2前			1			○								1	標準外
			スペイン語Ⅰ	1前・後			1			○								2	メディア、標準外
			スペイン語Ⅱ	1後			1			○								2	メディア、標準外
			海外研修Ⅰ	1後			2				○	1							標準外
			海外研修Ⅱ	2前			2				○	1							標準外
			海外研修Ⅲ	2後			2				○	1							標準外
			日本語Ⅰ	1前			1			○		1							
			日本語Ⅱ	1後			1			○		1							
			小計（28科目）	－	－	0	32	0	－			5	0	0	0	0	29	－	
専門教育科目	導入科目	基礎	国際教養入門	1前	○	2			○			1	1				1	オムニバス、メディア	
			異文化コミュニケーション	1後	○	2			○			1						メディア	
			小計（2科目）	－	－	4	0	0	－			2	1	0	0	0	1	－	
	文化・社会科目	基礎	グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2前			2		○			1						メディア	
			グローバル文化Ⅱ（フィリピン、タイ）	2前			2		○			1						メディア	
			グローバル文化Ⅲ（韓国、台湾）	2後			2		○			1							
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			3	0	0	0	0	0	－	
		専門	アジアパシフィック・スタディーズ	1後			2		○			1						メディア	
			国際日本学	2後			2		○			1							
			国際韓国学	2後			2		○			1							
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			3	0	0	0	0	0	－	
		統合	映像文化コミュニケーション	2後			2		○			1						メディア	
			文化演習Ⅰ	3前	○		2			○		1						メディア	
			文化演習Ⅱ	3後	○		2			○		1						メディア	
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			3	0	0	0	0	0	－	
	アート科目	基礎	芸術作品鑑賞（英語文学）	2前			2		○			1							
			ポピュラーアート （韓国系）	2後			2		○			1							
			小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			2	0	0	0	0	0	－	
		専門	英語文学	2前			2		○			1					1	オムニバス、メディア	
			映像芸術	2後			2		○			1						メディア	
			小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			2	0	0	0	0	1	－	
		統合	複合芸術	2前			2		○			1						メディア	
			アート＆コミュニケーション演習Ⅰ	3前	○		2			○		1						メディア	
			アート＆コミュニケーション演習Ⅱ	3後	○		2			○		1						メディア	
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			2	0	0	0	0	0	－	
	教育科目	基礎	英語科教育法（中） Ⅰ	2前			2		○					1				メディア	
			英語科教育法（中） Ⅱ	2後			2		○					1				メディア	
			小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			0	0	1	0	0	0	－	
		専門	英語科教育法（中・高） Ⅰ	3前			2		○					1				メディア	
			英語科教育法（中・高） Ⅱ	3後			2		○					1				メディア	
			小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			0	0	1	0	0	0	－	
		統合	国際教育論Ⅰ	3前			2		○								1		
			国際教育論Ⅱ	3後			2		○					1				メディア	
			国際教育論Ⅲ	3後			2		○								1		
			教育演習Ⅰ	3前	○		2			○				1				メディア	
			教育演習Ⅱ	3後	○		2			○				1				メディア	
			小計（5科目）	－	－	0	10	0	－			0	0	1	0	0	2	－	
	言語科目	基礎	英語文章読解	1前	○	2				○		2						メディア	
			英語文章表現	1後	○	2				○		2						メディア	
			小計（2科目）	－	－	4	0	0	－			2	0	0	0	0	0	－	
		専門	英語音声学	2前			2		○			1						メディア	
			英語学概論	2前			2		○								1	メディア	
			応用言語学	3後			2		○			1						メディア	
			小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			2	0	0	0	0	1	－	

	統合	上級英語読解・表現	2前			2			○		1						メディア
		コースワーク演習Ⅰ	3前	○		2			○		1						メディア
		コースワーク演習Ⅱ	3後	○		2			○		1						メディア
		小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			1	0	0	0	0	0	－
表現・スキル科目	基礎	Speaking Skills Ⅰ	1前	○	1				○			1				2	
		Speaking Skills Ⅱ	1後	○	1				○			1				2	
		Speaking Skills Ⅲ	2前	○	1				○		1					2	
		Speaking Skills Ⅳ	2後	○	1				○		1					2	
		小計（4科目）	－	－	4	0	0	－			1	1	0	0	0	4	－
	専門	English for Advanced Speaking Ⅰ	3前			2			○		1						メディア
		English for Advanced Speaking Ⅱ	3後			2			○		1						メディア
		English for Presentation	3前			2			○			1					
		English for Relationship-building	3後			2			○			1					
		English for Translation	3前			2			○		1						メディア
		English for Hospitality	3前			2			○		1						メディア
		English for Business	3前			2			○		1						
		小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			3	1	0	0	0	0	－
	統合	Integrated Communication Ⅰ	2前			2			○		1						
		Integrated Communication Ⅱ	2後			2			○		1						
		Integrated Communication Ⅲ	3前			2			○							1	
		Integrated Communication Ⅳ	3後			2			○							1	
		小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			1	0	0	0	0	1	－
探究・研究科目	深める	地域研究：韓国Ⅰ	4前	○		2			○		1						メディア
		地域研究：韓国Ⅱ	4後	○		2			○		1						メディア
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			1	0	0	0	0	0	－
	耕す	グローバル教育Ⅰ	4前	○		2			○				1				メディア
		グローバル教育Ⅱ	4後	○		2			○				1				メディア
		コミュニケーション・デザインⅠ	4前	○		2			○		1						メディア
		コミュニケーション・デザインⅡ	4後	○		2			○		1						メディア
		小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			1	0	1	0	0	0	－
	極める	Advanced English Studies Ⅰ	4前	○		2			○		1						メディア
		Advanced English Studies Ⅱ	4後	○		2			○			1					メディア
		コースワーク・デザインⅠ	4前	○		2			○		1						メディア
		コースワーク・デザインⅡ	4後	○		2			○		1						メディア
		小計（4科目）	－	－	0	8	0	－			2	1	0	0	0	0	－
実践科目	オンキャンパス	TOEIC Ⅰ	1後			1			○		1					1	
		TOEIC Ⅱ	2前			1			○		1					1	
		TOEIC Ⅲ	2後			1			○							1	
		越境・協働学習教育Ⅰ	2前			1			○		1						メディア、標準外
		越境・協働学習教育Ⅱ	2後			1			○		1						メディア、標準外
		小計（5科目）	－	－	0	5	0	－			2	0	0	0	0	2	－
	グローバル	スクール・インターンシップⅠ	2後			1				○			1				メディア、標準外
		スクール・インターンシップⅡ	3前			1				○			1				メディア、標準外
		短期英語研修Ⅰ	1前			1				○	1						標準外
		短期英語研修Ⅱ	1前			1				○	1						標準外
		短期韓国語研修Ⅰ	1前			1				○	1						標準外
		短期韓国語研修Ⅱ	1前			1				○	1						標準外
		長期語学留学Ⅰ	2後			6				○	1						標準外
		長期語学留学Ⅱ	2後			6				○	1						標準外
		長期語学留学Ⅲ	2後			12				○	1						標準外
		長期語学留学Ⅳ	2後			12				○	1						標準外
		特別研修Ⅰ	1前			1				○	1						標準外
		特別研修Ⅱ	1前			1				○	1						標準外
		ボランティア研修Ⅰ	1前			1				○	1						標準外
		ボランティア研修Ⅱ	1後			2				○	1						標準外
		インターンシップⅠ	1前			1				○	1						標準外
		インターンシップⅡ	1前			1				○	1						標準外
		インターンシップⅢ	2前			2				○	1						標準外
		小計（17科目）	－	－	0	51	0	－			1	0	1	0	0	0	－

教職課程	教育の基礎的理解に関する科目	教育の原理	1前・後			2		○								2	メディア
		教職論	2前・後			2		○								1	メディア
		教育の制度	1前・後			2		○								1	メディア
		教育心理学	1前・後			2		○								1	メディア
		特別支援教育概論	2前・後			2		○								1	メディア
		カリキュラム論	1前・後			1		○								1	メディア
		小計（6科目）	－	－	0	11	0	－			0	0	0	0	0	7	－
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論	1前・後			2		○								1	メディア
		総合的な学習の時間の指導	2前・後			2		○								1	標準外
		特別活動論	1前・後			2		○								1	メディア
		教育方法論	1前・後			1		○								1	
		情報通信技術の活用	3前・後			1		○								1	メディア、標準外　※演習
		生徒・進路指導	1前・後			2		○								2	メディア
		教育相談	1前・後			2		○								2	
		小計（7科目）	－	－	0	12	0	－			0	0	0	0	0	7	－
	教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ	4通			4				○						1	標準外
		教育実習Ⅱ	4通			2				○						1	標準外
		事前・事後指導	4前・後			1			○							2	メディア、標準外
		教職実践演習（中・高）	4後			2			○							2	メディア、共同
		小計（4科目）	－	－	0	9	0	－			0	0	0	0	0	2	－
	司書課程	生涯学習概論	1前			2		○								1	メディア
		図書館概論	1後			2		○								1	
		図書館制度・経営論	3前			2		○								1	
		図書館情報技術論	2前			2		○								1	メディア　※演習
		図書館サービス概論	2前			2		○								1	メディア
		情報サービス論	2後			2		○								1	メディア
		児童サービス論	2後			2		○								1	※演習
		情報サービス演習Ⅰ	3前・後			1			○							1	メディア
		情報サービス演習Ⅱ	3前・後			1			○							1	メディア
		図書館情報資源概論	1後			2		○								1	
		情報資源組織論Ⅰ	2前			2		○								2	
		情報資源組織論Ⅱ	3前			2		○								1	
		情報資源組織演習Ⅰ	3前			1			○							1	
		情報資源組織演習Ⅱ	3後			1			○							1	
		図書・図書館史	1後			2		○								1	
		図書館基礎特論	2後			2		○								1	※演習
		図書館サービス特論Ⅰ	3後			2		○								1	
		図書館サービス特論Ⅱ	3後			2		○								1	
		図書館施設論	2後			2		○								1	メディア
		図書館実習（事前・事後の指導を含む）	3通			2				○						1	標準外
		小計（20科目）	－	－	0	36	0	－			0	0	0	0	0	10	－
	司書教諭課程	学校経営と学校図書館	2前			2		○								1	メディア
		学校図書館メディアの構成	3前			2		○								1	※演習
		学習指導と学校図書館	3後			2		○								1	メディア
		読書と豊かな人間性	2後			2		○								1	
		情報メディアの活用	3前			2		○								1	メディア　※演習
		小計（5科目）	－	－	0	10	0	－			0	0	0	0	0	3	－
	学校司書プログラム	学校図書館サービス論	2前			2		○								1	
		学校図書館情報サービス論	2後			2		○								1	※演習
		学校教育概論	1後			2		○								1	
		小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	2	－
合計（193科目）			－	－	18	338	0	－			8	1	1	0	0	105	

学位又は称号	学士（国際コミュニケーション学）	学位又は学科の分野	文学関係

卒　業　・　修　了　要　件　及　び　履　修　方　法	授業期間等	
必修科目18単位以上、選択必修科目20単位以上、選択科目66単位以上を修得し、124単位以上修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位（年間）） なお、全学共通科目の教養科目より4単位以上、キャリア支援科目より2単位以上、健康・スポーツ科目より1単位以上、日本語Ⅰ・日本語Ⅱを除く語学科目より4単位以上（同一言語のⅠ及びⅡを一つ以上履修すること）を選択必修とする。 また、専門教育科目の文化演習Ⅰ／アート＆コミュニケーション演習Ⅰ／教育演習Ⅰ／コースワーク演習Ⅰより2単位以上、文化演習Ⅱ／アート＆コミュニケーション演習Ⅱ／教育演習Ⅱ／コースワーク演習Ⅱより2単位以上、地域研究：韓国Ⅰ／グローバル教育Ⅰ／コミュニケーション・デザインⅠ／Advanced English StudiesⅠ／コースワーク・デザインⅠより2単位以上、地域研究：韓国Ⅱ／グローバル教育Ⅱ／コミュニケーション・デザインⅡ／Advanced English Studies Ⅱ／コースワーク・デザインⅡより2単位以上を選択必修とする。実践科目のグローバルのうち、短期英語研修Ⅰ～インターンシップⅢまでの科目より1単位以上を選択必修とする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	14週
	1時限の授業の標準時間	100分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。

9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（学芸学部 英語文化コミュニケーション学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考
						必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員（助手を除く）以外の教員	
全学共通科目	基礎共通科目		さがみ総合講座Ⅰ	1前		2			○			1						メディア、標準外
			さがみ総合講座Ⅱ	1後		2			○			1						メディア、標準外
			基礎教育講座	1前		2			○			2		1				メディア
			小計（3科目）	－	－	6	0	0	－			3	0	1	0	0	0	－
	共通教養科目	教養科目群（人文科学）	哲学	1前・後			2		○								2	メディア
			倫理学	1前・後			2		○								2	メディア
			音楽	1前・後			2		○								2	オムニバス、メディア、標準外
			美術	1前			2		○								1	
			書道	1前・後			2		○								3	
			文学	1前・後			2		○			1					1	メディア
			言語学	1前・後			2		○								2	
			文化人類学	1前・後			2		○								2	メディア
			臨床心理学入門	1前・後			2		○								2	メディア
			小計（9科目）	－	－	0	18	0	－			1	0	0	0	0	15	－
		教養科目群（自然科学）	数理の科学	1前・後			2		○								2	メディア
			生命の科学	1前			2		○								1	メディア
			宇宙の科学	1前			2		○								1	メディア
			行動の科学	1前・後			2		○								5	メディア
			生活の科学	1前・後			2		○								2	メディア
			栄養の科学	1前・後			2		○								1	
			基礎統計学	1前・後			2		○								1	
			情報ネットワーク論	1前・後			2		○								1	
			情報システム論	1前・後			2		○								1	
			情報処理概論	1前			2		○								1	メディア
			小計（10科目）	－	－	0	20	0	－			0	0	0	0	0	13	－
		教養科目群（社会科学）	法学	1後			2		○								1	メディア
			日本国憲法	1前・後			2		○								1	メディア
			社会福祉行政論	1前・後			2		○								1	
			経済学	1前・後			2		○								2	メディア
			社会学	1前・後			2		○								2	メディア
			現代教育論	1前・後			2		○			1					1	メディア
			メディアと文化	1前・後			2		○								3	
			日本の社会と文化	1前・後			2		○								2	メディア
			諸外国の社会と文化	1前・後			2		○								2	メディア
			小計（9科目）	－	－	0	18	0	－			1	0	0	0	0	13	－
		健康・スポーツ科目群	健康管理	1前・後			2		○								1	メディア
			身体の科学	1前・後			2		○								2	メディア
			球技スポーツ	1前・後			1				○						3	
			ラケットスポーツ	1前・後			1				○						5	
			健康スポーツ	1前・後			1				○						5	メディア
			シーズンスポーツ	1通			1				○						1	標準外
			小計（6科目）	－	－	0	8	0	－			0	0	0	0	0	10	－
		社会人基礎力向上科目群	数理リテラシー	1前・後			2		○								1	メディア
			言語リテラシー	1前・後			2		○								3	メディア
			情報リテラシーⅠ	1前・後			1			○							5	メディア
			情報リテラシーⅡ	1前・後			1			○							4	メディア
			キャリアプランニング	1前			2		○								1	メディア
			ビジネス実務総論	1前・後			2		○								2	メディア
			小計（6科目）	－	－	0	10	0	－			0	0	0	0	0	12	－
	語学科目		英語Ⅰ	1前・後			1			○		2					6	メディア、標準外
			英語Ⅱ	1前・後			1			○		1					4	メディア、標準外
			英語Ⅲ	1前・後			1			○		1					1	メディア
			英語Ⅳ	1前・後			1			○		1					1	メディア
			中国語Ⅰ	1前・後			1			○							4	標準外
			中国語Ⅱ	1後・2前			1			○							5	標準外
			中国語Ⅲ	2前			1			○							1	
			中国語Ⅳ	2後			1			○							1	
			韓国／朝鮮語Ⅰ	1前・後			1			○							3	メディア、標準外
			韓国／朝鮮語Ⅱ	1後・2前			1			○							2	メディア、標準外
			韓国／朝鮮語Ⅲ	2前			1			○							1	メディア

		韓国／朝鮮語Ⅳ	2後			1			○								1	メディア
		フランス語Ⅰ	1前・後			1			○								4	メディア、標準外
		フランス語Ⅱ	1後・2前			1			○								3	標準外
		フランス語Ⅲ	2前			1			○								1	メディア
		ドイツ語Ⅰ	1前・後			1			○								3	標準外
		ドイツ語Ⅱ	1後・2前			1			○								2	標準外
		ドイツ語Ⅲ	2前			1			○								1	
		イタリア語Ⅰ	1前・後			1			○								1	標準外
		イタリア語Ⅱ	1後・2前			1			○								1	標準外
		スペイン語Ⅰ	1前・後			1			○								2	メディア、標準外
		スペイン語Ⅱ	1後			1			○								2	メディア、標準外
		海外語学集中講座Ⅰ	1後			2				○	1							標準外
		海外語学集中講座Ⅱ	2前			2				○	1							標準外
		海外語学集中講座Ⅲ	2後			2				○	1							標準外
		日本語Ⅰ	1前			1			○		1							
		日本語Ⅱ	1後			1			○		1							
		小計（27科目）	－	－	0	30	0		－		3	0	0	0	0	28	－	
	実践科目	地域協働活動	1通			1				○	1							標準外
		さがみ発想講座	1後			2		○			1						9	オムニバス、メディア
		ビジネスのための経済・経営学	1前・後			2		○									1	メディア
		問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	3通			1			○								1	標準外
		問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	4通			1			○								1	標準外
		小計（5科目）	－	－	0	7	0		－		2	0	0	0	0	10	－	
専門教育科目	導入科目	基礎教育演習	1後		1				○		2	1						メディア
		基礎ゼミナールⅠ	2前		1				○		3							メディア
		基礎ゼミナールⅡ	2後		1				○		1	1	1					メディア
		国際教養入門	1前		2			○			3		1					オムニバス、メディア
		観光ビジネス入門	1後		2			○			2						3	オムニバス、メディア
		小計（5科目）	－	－	7	0	0		－		7	1	1	0	0	3	－	
	ゼミナール	専門ゼミナールⅠ	3前		2				○		8	1	1				1	メディア、標準外
		専門ゼミナールⅡ	3後		2				○		8	1	1				1	メディア、標準外
		専門ゼミナールⅢ	4前		2				○		7	1	1				1	オムニバス、メディア、標準外
		専門ゼミナールⅣ	4後		2				○		7	1	1				1	オムニバス、メディア、標準外
		小計（4科目）	－	－	8	0	0		－		8	1	1	0	0	1	－	
	英語科目	English Grammar Ⅰ	1前		1				○								2	メディア
		English Grammar Ⅱ	1後		1				○								2	メディア
		Speaking Skills Ⅰ	1前		1				○			1					2	
		Speaking Skills Ⅱ	1後		1				○			1					2	
		Speaking Skills Ⅲ	2前		1				○								3	
		Speaking Skills Ⅳ	2後		1				○								3	
		Advanced Speaking Skills Ⅰ	3前			1			○		2	1						メディア
		Advanced Speaking Skills Ⅱ	3後			1			○		2	1						メディア
		English Communication Ⅰ	1前		1				○		1						2	
		English Communication Ⅱ	1後		1				○		1						2	
		English Communication Ⅲ	2前		1				○								3	
		English Communication Ⅳ	2後		1				○								3	
		Reading & Writing Ⅰ	2前		1				○		3							メディア
		Reading & Writing Ⅱ	2後		1				○		3							メディア
		Advanced Reading & Writing	3前			1			○		1							メディア
		Comprehensive English Ⅰ	3前			1			○			1					1	
		Comprehensive English Ⅱ	3後			1			○			1					1	
		TOEIC Ⅰ	1前		1				○								2	メディア
		TOEIC Ⅱ	1後		1				○								1	
		TOEIC Ⅲ	2前			1			○								1	
		Business English	2前			1			○		1							
		English for Tourism/Hospitality	3後			1			○		1							メディア
		Interpreting Skills	3後			1			○		1							メディア
		Translation Skills	3前			1			○		1							メディア
		Global Issues	3前			1			○		1							
		上級英語演習Ⅰ	3後			1			○				1					メディア
		上級英語演習Ⅱ	4前			1			○		1							メディア
		英語の構造	2前			2		○			1							
		英語音声学	2前・後			2		○			1						1	メディア
		検定英語Ⅰ	1前			2				○	1							標準外
		検定英語Ⅱ	1前			4				○	1							標準外
		小計（31科目）	－	－	14	23	0		－		7	1	1	0	0	12	－	

国際教養科目	文化コミュニケーション	英語圏の文化Ⅰ	2後			2		○			1						メディア
		英語圏の文化Ⅱ	2前			2		○			1						メディア
		異文化コミュニケーション	2後			2		○			1						メディア
		映像芸術	2前			2		○			1						メディア
		映像コミュニケーション	2後			2		○			1						メディア
		Japanese Culture & Society	2後			2		○			1						
		日本文化演習	2前			1			○							1	
		小計（7科目）	－	－	0	13	0	－			4	0	0	0	0	1	－
	英語文学	イギリス文学史	2後			2		○			1						メディア
		アメリカ文学史	2前			2		○			1						
		イギリス文学研究	2前			2		○			1						メディア
		アメリカ文学研究	2後			2		○			1						
		児童文学	2前			2		○								1	メディア
		イギリス文学特別講義	3後			2		○								1	メディア
		アメリカ文学特別講義	3前			2		○								1	メディア
		小計（7科目）	－	－	0	14	0	－			2	0	0	0	0	2	－
	言語教育	英語学概論	2前			2		○								1	メディア
		応用言語学	3後			2		○			1						メディア
		英語科教育法（中）Ⅰ	2前			2		○					1				メディア
		英語科教育法（中）Ⅱ	2後			2		○					1				メディア
		英語科教育法（中・高）Ⅰ	3前			2		○					1				メディア
		英語科教育法（中・高）Ⅱ	3後			2		○					1				メディア
		小計（6科目）	－	－	0	12	0	－			1	0	1	0	0	1	－
観光ビジネス科目	観光学基礎	観光学概論	2前			2		○								1	
		ホスピタリティ概論	2後			2		○								1	
		旅行業概論	2後			2		○								1	
		観光地理学	3前			2		○								1	
		観光ビジネス論	3前			2		○			1						メディア
		小計（5科目）	－	－	0	10	0	－			1	0	0	0	0	3	－
	観光学専門	観光学特別講義Ⅰ	2前			2		○								1	
		観光学特別講義Ⅱ	2前			2		○			1						メディア
		観光学特別講義Ⅲ	2前			2		○								1	
		観光事業特別講義	2前			2		○								1	
		観光交通論	2前			2		○								1	
		マーケティング論	2後			2		○								1	
		消費者行動論	2後			2		○								1	メディア
		マネジメント論	2前			2		○								1	
		ホスピタリティマネジメント	3前			2		○			1						
		マーケティングリサーチ	3後			2		○								1	
		観光学特別演習	2後			1			○							1	メディア
		小計（11科目）	－	－	0	21	0	－			2	0	0	0	0	6	－
グローバル実践科目		Pre/Post Study Abroad	1前			1			○		1						メディア
		インターンシップ教育Ⅰ	2前			1			○		2						オムニバス、メディア、標準外
		インターンシップ教育Ⅱ	2後			1			○		2						オムニバス、メディア、標準外
		ビジネス・プレゼンテーションⅠ	2前			1			○							1	
		ビジネス・プレゼンテーションⅡ	2後			1			○							1	メディア
		キャリアデザイン実践	3前			1			○							1	メディア
		海外英語研修Ⅰ	1前			1				○	1						標準外
		海外英語研修Ⅱ	1前			1				○	1						標準外
		海外英語研修Ⅲ	1前			1				○	1						標準外
		海外英語研修Ⅳ	1前			1				○	1						標準外
		長期英語留学Ⅰ	2後			6				○	1						標準外
		長期英語留学Ⅱ	2後			6				○	1						標準外
		長期英語留学Ⅲ	2後			12				○	1						標準外
		特別語学研修	1前			2				○	1						標準外
		ボランティア研修Ⅰ	1前			1				○	1						標準外
		ボランティア研修Ⅱ	1後			2				○	1						標準外
		短期インターンシップⅠ	1前			1				○	1						標準外
		短期インターンシップⅡ	1前			1				○	1						標準外
		インターンシップⅠ	2前			2				○	1						標準外
		インターンシップⅡ	2前			2				○	1						標準外
		インターンシップⅢ	3前			2				○	1						標準外
		インターンシップⅣ	3前			2				○	1						標準外
		インターンシップⅤ	3前			4				○	1						標準外
		学校インターンシップⅠ	2後			1				○			1				メディア、標準外
		学校インターンシップⅡ	3前			1				○			1				メディア、標準外
		小計（25科目）	－	－	0	55	0	－			3	0	1	0	0	2	－

教職課程	教育の基礎的理解に関する科目	教育の原理	1前・後			2		○									1	メディア
		教職論	2前・後			2		○									1	
		教育の制度	1前・後			2		○									1	
		教育心理学	1前・後			2		○									1	
		特別支援教育概論	2前・後			2		○									1	
		カリキュラム論	1前・後			1		○			1							
		小計（6科目）	－	－	0	11	0	－			1	0	0	0	0	4	－
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論	1前・後			2		○			1						
		総合的な学習の時間の指導	2前・後			2		○									1	標準外
		特別活動論	1前・後			2		○			1							
		教育方法論	1前・後			1		○			1							
		情報通信技術の活用	3前・後			1		○									1	標準外
		生徒・進路指導	1前・後			2		○									2	
		教育相談	1前・後			2		○									2	
		小計（7科目）	－	－	0	12	0				1	0	0	0	0	6	－
	教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ	4通			4				○						1	標準外
		教育実習Ⅱ	4通			2				○	1						標準外
		事前・事後指導	4前・後			1			○		1					1	標準外
		教職実践演習（中・高）	4後			2			○		1					1	共同
		小計（4科目）	－	－	0	9	0	－			1	0	0	0	0	1	－
	司書課程	生涯学習概論	1前			2		○								1	メディア
		図書館概論	1後			2		○								1	
		図書館制度・経営論	3前			2		○								1	
		図書館情報技術論	2前			2		○								1	メディア
		図書館サービス概論	2前			2		○								1	メディア
		情報サービス論	2後			2		○								1	メディア
		児童サービス論	2後			2		○								1	
		情報サービス演習Ⅰ	3前・後			1			○							1	メディア
		情報サービス演習Ⅱ	3前・後			1			○							1	メディア
		図書館情報資源概論	1後			2		○								1	
		情報資源組織論Ⅰ	2前			2		○								2	
		情報資源組織論Ⅱ	3前			2		○								1	
		情報資源組織演習Ⅰ	3前			1			○							1	
		情報資源組織演習Ⅱ	3後			1			○							1	
		図書・図書館史	1後			2		○								1	
		図書館基礎特論	2後			2		○								1	
		図書館サービス特論Ⅰ	3後			2		○								1	
		図書館サービス特論Ⅱ	3後			2		○								1	
		図書館施設論	2後			2		○								1	メディア
		図書館実習（事前・事後の指導を含む）	3通			2				○						1	標準外
		小計（20科目）	－	－	0	36	0	－			0	0	0	0	0	10	－
	司書教諭課程	学校経営と学校図書館	2前			2		○								1	メディア
		学校図書館メディアの構成	3前			2		○								1	
		学習指導と学校図書館	3後			2		○								1	メディア
		読書と豊かな人間性	2後			2		○								1	
		情報メディアの活用	3前			2		○								1	メディア
		小計（5科目）	－	－	0	10	0	－			0	0	0	0	0	3	－
	学校司書プログラム	学校図書館サービス論	2前			2		○								1	
		学校図書館情報サービス論	2後			2		○								1	
		学校教育概論	1後			2		○								1	
		小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			0	0	0	0	0	2	－
合計（221科目）			－	－	35	343	0	－			10	1	1	0	0	131	－

学位又は称号	学士(文学)	学位又は学科の分野	文学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
必修科目35単位、選択必修科目28単位以上、全学共通科目及び専門教育科目の選択科目41単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位（年間）） なお、全学共通科目の共通教養科目の教養科目群（人文科学）の科目で2単位以上、教養科目群（自然科学）の科目で2単位以上、教養科目群（社会科学）の科目で2単位以上、健康・スポーツ科目群の科目で1単位以上、社会人基礎力向上科目群の科目で2単位以上を選択必修とする。全学共通科目の語学科目において、日本語Ⅰ・Ⅱ以外の科目で4単位以上（同一言語のⅠ及びⅡを一つ以上履修すること）を選択必修とする。 専門教育科目の英語科目の選択科目のうち、TOEIC Ⅲ～検定英語Ⅱまでの科目で4単位以上、国際教養科目の選択科目のうち、英語圏の文化Ⅰ～応用言語学までの科目で4単位以上、観光ビジネス科目の観光学基礎の科目で4単位以上、観光学専門の科目で2単位以上、グローバル実践科目の選択科目のうち、海外英語研修Ⅰ～インターンシップⅤまでの科目で1単位以上を選択必修とする。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業の標準時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「単位数」の欄は，各授業科目について，「必修」，「選択」，「自由」のうち，該当する履修区分に単位数を記入すること。

6　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

7　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

8　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員等」と読み替えること。

9　「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は，「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

10　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

11　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（学芸学部 国際コミュニケーション学科）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
全学共通科目	基礎科目	さがみ総合講座		建学の精神、本学の歴史などの知識を習得し、本学の学生であることの自覚を涵養するための必修科目である。この授業を通して大学教育の意味、本学の教育の特徴を知り、キャリアデザインのための教養と知識の手がかりを得る。	
		基礎教育講座		この授業は、本学科での学びに必要な非認知能力やアカデミックなコミュニケーション力の基礎を養うことを目的とする。ICT機器や学習プラットフォームを活用し、自ら「問い」を持って多面的に考察する力、対話や議論を通じた問題解決力、説得力のあるプレゼンテーションスキル、根拠に基づくアカデミックライティングを段階的に育成する。受動的な学びから能動的・主体的な学びへの意識改革を図り、大学での知の探究のアプローチ方法、また態度や姿勢、マインドセットも学ぶ。	
		コンピュータリテラシー		日常生活および学生として活動する上で必要とされるコンピュータリテラシーの習得を目標とする。具体的には、1)学内のコンピュータ環境の利用方法を知る、2)インターネットに関する基礎的な仕組みを理解する、3)文書・レポートの作成、データの集計および発表資料の作成に関わる文書作成ソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的な操作方法を身に付ける。 この授業では毎回、インターネットに接続されたパソコンを使った演習を通して、情報社会で不可欠なICT活用の基礎を習得する。具体的には、タイピング練習から始めて、コンピュータ、インターネットの基礎知識やブラウザを使ったWeb上の操作を学び、Microsoft Word（文書作成）、Excel（表計算）、PowerPoint（プレゼンテーション）の基本的な機能を使った演習を行う。	
	教養科目	法学		この授業では以下の知識、能力を身につけることを目標とする。 ・人間生活の基礎となる法律について、日常の市民生活に必要な最低限の知識を示すとともに、法的な思考方法の基礎を身につけることができる。 ・本学のディプロマポリシーに基づき、社会生活上に起こりうる法律問題を通して、その問題解決の方法を法的な側面から自ら考え、自ら調べることで、多角的な視点で、考えることができる。 それにより、社会人としての法的知識を身につけ、大学での学習基盤となるアカデミックスキルを身につける。	
		日本国憲法		憲法は、国家の組織の基本法である。それだけに我々は新聞・テレビなどで憲法問題を目にする機会が多い。しかしこのような意味で馴染み深い憲法も、学ぶことなしには理解できない。そして、憲法を理解するには、ある程度深い法的な考察が必要となる。そこで本講義では、日本国憲法の成立過程、日本国憲法の具体的内容（国民主権と天皇制・絶対平和主義・基本的人権・国会・内閣・司法）などから、日本国憲法の全体像と条文の意味内容を明らかにする。	
		倫理学		倫理学は、人の生き方や行為、社会に関わる様々な問題について、その是非を理論的に考える学問である。本授業では、様々な倫理学的問題を理解するための基礎となる哲学、倫理学や思想史の基本的な知識を習得するとともに、そうした知識を用いて、現実の様々な倫理的諸問題について、その論点を理解したうえで、筋道だった仕方でそうした問題について自らの考えを語ることができる能力を身に着けることを目指す。	
		経済学		私たちの消費生活や買物などから垣間見る企業戦略を通じて、経済の諸問題を学習するとともに、ミクロ経済学、マクロ経済学、応用経済学の諸領域の入口の部分を紹介する。ミクロ経済学の領域では、消費者行動、生産者行動、市場分析、厚生経済、市場メカニズムの限界と新たな経済学の動向などを、マクロ経済学の領域では、IS-LM分析、AD-AS分析、景気変動、国際経済などを扱う。これらの経済学の理論的事項と関係づけながら、マーケティング、産業組織論、公共経済学、国際経済学など応用領域で採り上げられる諸テーマを示す。	

	社会学		この講義は、社会学という学問に対する基礎的な知識の習得と包括的な理解を深めることを目的とする。 学説史もまじえながら、これまでの社会学における諸議論を紹介し、社会学という学問の発想法に対する理解を深める。そのうえで、労働、グローバライゼーション、文化、コミュニケーション、メディア等のトピックを取り上げ、それらに対する社会学的な議論の方法を学ぶ。これらを通して、教養としての社会学を身につけることを、またより専門的な下位・隣接領域の研究や社会調査法などを効果的に学習できるようになることを目指す。	
	心理学		「心理学」では、心や行動の基本的な理解を深めるため、心理学の理論や概念を学びます。知覚や記憶、感情などのしくみあるいは、ストレスや不適応行動といった心の健康に関連するテーマを取り上げ。これらが日常生活や対人関係にどのように影響するかを考察します。心理学的な視点を通じて、心のはたらきや行動を理解し、問題解決に応用できる基礎力を身につけることを目指します。	
	言語学		「言語学」の基本的な考え方を学び、さまざまな観点から「ことば」を観察する。授業では、各テーマに基づき、様々な言語現象や問題を、用例などを挙げながら紹介していく。私たちが無意識に扱っている「ことば」について意識的に見直す機会となることを期待したい。授業は言語現象の分析等のタスクを通して、各自の意識と理解を確認しながら、進めていく。	
	文学		日常生活で使用する言語は、話し手の考えなり、意志なりを相手に伝達する道具にすぎない。そのような言語が、どうして文学という芸術作品となるのか、その仕組みについて基本的な理解を得ようとする。文学作品を成り立たせるのは、その素材・モチーフ・思想であるより、言葉そのものであり、その事情を、詩および小説の具体的な作品例に則して明らかにするとともに、作品の詠み方を学んでゆく。	
	諸外国の社会と文化		日本と深い繋がりのある韓国、中国、台湾を中心としたアジアの国や地域、もしくはヨーロッパ社会の文化や風習について理解を深め、それらの国や地域の現状、そして文化の多様性について考えられるようになることを目的とする。全般的な歴史の流れに沿って主要な出来事を確認し、それぞれの時代に生きた人々が何を考え、どのような生活を送っていたのかを解説する。さらに日本の文化や社会を再確認し、日本と各国々の文化や風習などはどのように影響し合っているのかということを見つめて、文化を通して日本と世界との関わりを考えられるようにする。	
	メディアと文化		この講義ではメディアと文化の関係について考えるための視点や概念や方法についての基本的な知識を獲得し、具体的なメディア文化を分析・考察していく。文化の特徴や成り立ちについて、メディアという観点から捉えることができ、メディアは表現文化の形式を根本的なところで規定しているといえる。本講義では、特に社会学をベースとした文化現象の捉え方を理解したり、映像作品の社会や文化に対する影響を分析し、映像の力の可能性と同時に危険性も考察しながら、リテラシー能力を高めたりすることを目指す。	
	アート		アートは、様々な美的経験を私たちに与えてくれるものであるとともに、感性を通じて人間や社会についての問いやその問いを紐解く手がかりを与えてくれる。つまり、アートは今日の私たちの生活と深く結びついている。この授業は、こうした現代の私たちの生活に不可欠なものとなったアートについて、それを味わい楽しむ能力を身に付けるとともに、その根底にある人間の美的経験をもたらす心のあり方について深く理解することを目標とする。 （オムニバス方式／全14回） （15　伊東俊彦／7回） アートの文化的・社会的意義について筋道だった仕方で考える。 （39　山本絵里子／7回） 人間の美的判断や美的体験を支える心の仕組みについて、心理学や美学等の知見を基に、深く理解する。	オムニバス方式

		情報処理概論		情報通信技術の基礎を学ぶ講義であり、一般教養としての情報学を学ぶ。内容としては、情報とその媒体の特徴を理解し、現在の技術の中心であるマルチメディアの処理技術や処理ソフト・装置について学習する。さらにマルチメディアの応用システムの紹介と著作権を中心にインターネット社会の問題点について考える。具体的には、情報のディジタル表現について学び、これをもとに情報のディジタル化と処理について学習する。以上のようなことを学び、現在の情報通信技術に対応できる知識を身につける。	
	発想・実践科目	地域から学ぶ知の実践		本授業は、本学が位置する相模原市やその周辺地域で行われている知的実践を知ることを通じて、地域をより深く知ることを目的とした授業である。相模原市にやその周辺地域で活動する方に講師をお願いし、携わっている様々な実践について知り、相模原の地域資源の豊かさを理解することを目的とする。	
		社会貢献・地域連携		相模女子大学の一つの大きな特徴であり、社会的にも評価を受けている社会貢献・地域協働活動に参加する意義を「地域や社会」、「自身の学びやキャリア形成」の視点から示し、学生自身の参加やグループ活動が継続するための方策や地域との関係づくりの方策と同時に、自身の成長と社会貢献の両立性を考えていく。抽象的総論だけではなく、具体的各論として、夢をかなえるセンターがキャリア形成支援ポリシーの下で正課外活動として提供している「Sagamiチャレンジプログラム」を中心に、活動内容や意義、成果を紹介し、教員が直接かかわっている活動に関し教育的、研究的視点から講義する。また、活動に参加している／いた学生たちや受入れ先など多様なゲストも交えて、学生たちがより実感をもって活動の意義を理解できる講義とする。 （オムニバス方式／全14回） （21　久保康彦／5回） 女性の多様な働き方と地域との関係や、地域の関係構造とイノベーションの関係を講義する。 （33　湧口清隆／9回） 地域活性化やそのための商品開発の意義や、継続性を確保するための手法について講義する。	オムニバス方式
		地域協働活動		本学が提携している日本の各地域や企業、ＮＰＯ等の団体との交流事業や体験学習、地元の農産物を使った商品開発など、学生が各地へ出向いて現場体験を行い、人々の多様な考え方、生き方を学ぶことで、①社会・対人間関係力、②自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、③ファシリテーション力、④課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とする。また、事前事後指導を設け、事前では提携先より地域の情報や事業、体験の説明・指導を受け、活動後は体験や反省を報告会ならびに報告書にて振り返り、社会貢献の重要性を学ぶ。	

	さがみ発想講座		「発想力」は、本学の学生としてどの学科に所属していても共通して必要とされる能力である。この授業では、受講者ひとりひとりが対象を「見つめ」て、答えを「見つけ」るための発想法の基礎を身につける。大学のディプロマポリシー「社会におけるさまざまな場において多角的視点でものごとを見つめ、身につけた知識や技能と柔軟な発想力を活用して社会や生活に役立つ新しいことを生み出すことができる」に関連する。 複数の教員が、それぞれの領域における「発想法」を紹介し、講義とともに具体的な作業を行いながら発想技術を学ぶ。外部講師を招くことがある。期末には最終成果物の準備を行い、成果物は学内で公表する場合がある。 （オムニバス方式／全14回） （2　渡辺幸倫／1回） 新しい昔話。日本の昔話を新しい視点（舞台の転換：イタリア版桃太郎、韓国版浦島太郎、ジャンルの転換：ホラー版鶴の恩返し、コメディ版傘地蔵）、で再構築し、創造的なストーリーテリングを通じて発想力を養う。 （5　堤龍一郎／1回） 社会課題を発見し捉えなおす意味のイノベーションとアート思考を学ぶ。 （12　池田仁人／4回） 人間の様々な年代における「見え方」について学び、人のために何かをするとき、どのようなことに留意したら良いのかを考える。具体的には幼児の見え方、高齢者の見え方動き方を体験することを通して考察していく。 最終成果物の準備。発想手法の選択、構想を練る。 最終成果物の準備。発想手法を活かした成果物の製作、報告の準備。 まとめ、最終成果物の経過報告。履修者の成果物や発想手法からお互いに発想力を学ぶ。 （16　稲田大祐／1回） 「音」からの発想をする。見えない音を色と形にして視覚化。オノマトペからの想像と創造を学ぶ。オノマトペから抽象画の理解、音による体への刺激と制作活動。 （21　久保康彦／1回） 基礎的発想法を学ぶ。「強制連想法」と「類比法」を学ぶ。属性列挙法、チェックリスト法、欠点列挙法、希望点列挙法、ゴードン法、MN法を使って新しい製品を考えてみる。 （22　桑原茂／3回） ・全体のガイダンス「発想講座とは？」を解説し、今後のままナビの方向性について定めていく。アーティスト・芸人・美術家・起業家・デザイナー・エンジニア・科学者etc、立場は違っても発想の過程はとても似ている。彼らの迷いの過程から発想に至る過程を読み解く。 ・デザイン思考で発想力を鍛える。デザイナーの作業工程は「観察・仮説・試行・検証」の繰り返しである。その工程を紐解いていく。 ・ デザイン思考で発想力を鍛える。固定観念に捉われない、セレンディピティに出会える暮らし方を学ぶ。思考と試行を掛け合わせ、偶発性を楽しんでみる。デザイナー的な思考プロセスを用いて、発想力を鍛える。 （31　水上由紀／1回） アルコールにまつわる社会問題について学ぶ。最近の企業の取組みを紹介し、どのような飲料が提案できるか考える。 （39　山本絵里子／1回） 「発想力」を測る方法。発想力を測ることはできるだろうか。心理学の視点からこの問題に取り組む。 （40　藤田佑／1回） まずは、ことばとしての「発想」の意味を考える。そのうえで、日本文学・日本語の例を扱いながら、ことばを通した世界の見方＝「発想」について考える。	オムニバス方式
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ		学科横断プログラムの指定科目の大半を履修し、各コースで求められる知識や能力を獲得したであろうことを踏まえ、指定プロジェクトに参加して、これらの知識や能力を実践的に活用する体験をすることにより、社会人基礎力の習得を確実なものにし、将来の就職やキャリアを想定した実践力を身につけることを目標とする。 学科横断プログラムの各プログラムが指定するプロジェクトに参加し、最後まで活動を終えた後、担当教員が指定する報告を行うとともに、活動内容等をカルテに記載する。この科目は、担当教員が学科内の正課として行う「ゼミナール」「卒業研究」以外のプログラムとしてプロジェクトに参加した場合にのみ、単位認定される（担当教員所属学科以外の学生、担当教員所属学科の学生で当該教員がその「ゼミナール」「卒業研究」以外に実施したプログラムに参加した学生）。	

	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ		3年生で学科横断プログラムの指定プロジェクトに参加した人が、4年生になって関連する指定プロジェクトに参加し、3年生の指導を行うことにより、社会人基礎力の習得を確実なものにし、将来の就職やキャリアを想定した実践力を身につけることを目標とする。 学科横断プログラムの各プログラムが指定するプロジェクトに参加し、3年生の指導を含めて最後まで活動を終えた後、担当教員が指定する報告を行うとともに、活動内容等をカルテに記載する。この科目は、担当教員が学科内の正課として行う「ゼミナール」「卒業研究」以外のプログラムとしてプロジェクトに参加した場合にのみ、単位認定される（担当教員所属学科以外の学生、担当教員所属学科の学生で当該教員がその「ゼミナール」「卒業研究」以外に実施したプログラムに参加した学生）。	
	ジェンダー論		これまでに社会的、歴史的、文学的になど様々な形でジェンダーにまつわる課題が描出されてきたかについて解説していく。どのような課題がこれまでにあったか、どのように扱われてきたかを知り、これからの課題に対してどのように対応していくかについて、心理学的な要素も含めて考える。社会や家庭などにおける女性の立場、自らがすべきことについても考えを深め、主体的に動くこれからの女性像について考察していく。	
	くらしと文化		この授業では、文化とは何かという視点から各トピックにおいて人びとの暮らしのありようを学び、人の営みや心、文化についての理解を深めていくことを目的とする。私たちが慣れ親しんできた文化について異なる視点や基準を学び、文化の意味をあらためて考え、異なる文化に属する人びとを理解するための想像力を養う。文化や常識について多様な視点から切り込み、人間同士、自然との関わりについて再考する。切り口の一つとして現代社会における食と農の諸問題についての理解も深める。	
	日本の社会と文化		私たちが生まれ育った日本の社会や文化の成り立ちについて、特定の時期・テーマに関して客観的な知識を身に着けていく。現在とは価値観やとりまく環境が異なる、過去の社会を生きていた人々の心について、共通する部分、異なる部分を認識し、社会におけるさまざまな場において多面的・多角的な視点でものごとを見つめることとする。そして、この日本の歴史を知ることで、現在の私たちの生き方についても振り返り、各自の専攻を学ぶための意欲を高めていく。	
	データサイエンス		現在ICTやAI技術が急激に発展・普及したことで、人々の行動履歴など、膨大で多様なデータ（ビッグデータ）を収集・蓄積・活用できるようになった。これらのビッグデータを分析することで新しい価値を生み出す学問をデータサイエンスという。私たちが自らデータに基づいて現状を理解でき、更には未来を予測できる知識やスキルを身に付けておくことが、今後を生きるために必須になる。この授業では、データサイエンスの基礎（リテラシー）として、統計学の基本的な内容を学ぶ。	
	AIと社会		情報システムとは、組織体（または社会）の活動に必要な情報の収集・処理・伝達・利用にかかわる仕組みである。これらは、私達が生活する社会において、すでに無くてはならないものとなっている。更に今日、生成AI等のAI技術の進歩、普及が著しい。そこで、AIを含む情報システムを利用するために必要とされる、正しい知識とシステムを構成する基礎技術に関して学び、これらと社会との関わりについて考察する。	
	情報リテラシー		表計算ソフトの利用やWebページの基本的仕組みと制作について学ぶ。主な内容は、セルの操作、計算機能、集計機能、関数の利用法、グラフ機能、データベース機能、罫線とレイアウト、印刷、Webページの仕組みとタグ、簡易Webページ作成、リンクなどである。これらを通して、情報社会の基盤への知見を養うことを目標とする。	
	書道		書は文字を素材とする芸術であり、文字は長い年月をかけて書写され、人々の美意識を反映して、その造形や、美しさの内容などさまざまな表情をみせている。 漢字には、篆書・隷書・楷書・行書・草書の五体や、草書から生まれた日本独自のかなもある。書の基本を筆で学習しながら、書が生活の中でどのように生かせるか、楽しめるかということを考える。書家・画家・小説家・詩人などの書作品を鑑賞したり、書に関する随筆や評論を読んだり、多様な視点から取り組み、書を通して自分の表現をしていきます。	

キャリア支援科目	キャリア・プランニング		大学生活の先には、人生の長い期間を費やす「職業生活」が待っています。では、人々はどのようにして職業のスキルを身につけ、仕事のおもしろさを見出していくのでしょうか。この授業では人々が歩む「キャリア」について学び、大学生活から既に始まっている自分自身の「キャリア･プランニング」に取り組みます。 自己のキャリアを主体的に歩むためには、1年次から目標や将来像を描き、その実現に向けて学修やアルバイトなどの活動に計画的に取り組むことが重要です。目的意識をもち、自己の能力開発に積極的に取り組んでいくために、職業とキャリアに関する理論と現状を学びます。 さらに、さまざまな生き方、働き方、キャリア形成について知るために「キャリアモデル」を紹介していきます。メディアに取り上げられた職業人の生き方を参考にしたり、時には社会人の講演なども予定して、多くのキャリアモデルを知る機会を持ちます。	
	ビジネス実務総論		社会人として円滑にものごとを進めることができるように、社会人基礎力を身につけることを目的とする。組織システムの理解を通じて、実践的なビジネス実務能力が発揮できるような考え方や技術を学ぶ。具体的なビジネス事例を用いて、基礎的な知識の理解を深める。ビジネスマナーの基本をしっかり習得することも目指す。	
	SPI対策講座		公務員試験に現れる数的推理の問題やSPIの問題を解きながら、小・中・高等学校で学んだ算数・数学の総復習をし、数理科学に現れる基礎的な用語理解ならびに数理判断力を養う。各回ごとに配布されたプリントを解きながら、計算演習、数的論理、基本用語について学習する。	
	就職支援講座		就職活動、就職試験、インターンシップなどに臨む上での態度や心構えについて解説していく。マナーや身だしなみなど基本的なことからはじめ、自己分析や業界職種企業研究などを通して自らを正しく表現していく手法について学び、実際の就職活動に活かす。お互いに情報交換もしながら就職活動へのモチベーションを高め、望む職種への就職を支援していく。	
健康・スポーツ科目	ウエルネス		健康を多角的に捉え理解を深化させる。授業では健康の社会的決定要因、ヘルスリテラシー、予防医学、メンタルヘルス、がん予防、生活習慣病など多様な健康のテーマを扱う。また、日常生活や社会環境における健康の社会課題について批判的に思考する。	
	身体の科学		運動生理学を基礎として、ダイエットやスポーツ選手の体力といった、身体活動とそれによる身体の適応現象を科学的視点から学習します。自分自身の身体を考え、スポーツの実践や身体を動かすことの大切さの再認識とその実践意欲の高揚化をはかり、学んだ内容を自らの健康の維持、増進に生かしていく能力を養うことを目標とする。	
	球技スポーツ		ボールを用いたスポーツ(球技)を実施する。本授業では最終的にゲームを楽しむことができる技術を身に着けることに加え、学生間のコミュニケーションの活性化を目指す。毎回、基本的な技術練習をグループ単位で取り組んでいく。またルールや審判法などについても随時学習する。	
	ラケットスポーツ		テニス、バドミントンといったラケットを使用して行うスポーツを実践し、その運動を実践するために必要な技術要素、体力要素、そしてルール・マナーについて学修する。これらの学修を通じてスポーツの楽しさを理解し、健康の保持増進を目的とした運動の一つとして利用できるようになることを目的とする。	
	健康スポーツ		心身の健康を保持増進するための運動として、競技性を伴わないダンスなどのエクササイズを行い、体を巧みに動かす事や、自身の心身が変化する事の楽しさを体験する。この体験を基に、自ら健康の保持増進を目的とした運動の一つとして利用できるようになることを目的とする。	
	シーズンスポーツ		アウトドアアクティビティの基本的スキルを習得する。また非日常的集団体験を通じて非認知スキルの習得・向上を目指す。実習後のリフレクションにおいて自己成長や共生などについて理解を深化させる。	

語学科目	言語と異文化		この授業の目的は、海外の言語をめぐる諸相を学ぶことを通じて異文化理解を深めることである。そのためには先ず、その国や地域の言葉を知ることが肝要であり、それぞれの言語の構造や表現を学ぶことで、各国の文化的背景や価値観を理解し、国際的な視野を広げることができると考える。英語、フランス語、ドイツ語、中国語、韓国／朝鮮語など、本学の全学共通科目で扱っている外国語を例に取り、その言葉を通して各国の文化について理解することを目標とする。 　さらに食文化をテーマに取り上げ、異文化理解を深める。 （オムニバス方式／全14回） （1　中林正身・30　松永幸子・31　水上由紀／1回）（共同） 外国語について知ることが異文化理解につながるということを本講義では学んでもらう、その内容を概説する。 （1　中林正身／3回） 英語という言語の約1500年にわたる変遷を概説し、そしてイギリス英語とアメリカ英語の分岐についての歴史的背景を知る。さらに、文学作品にみられる「（英語の）方言」の文化的意義を学ぶ。 （17　岡部芳広／1回） 一般的に「中国語」と呼ばれる「北京語」以外にも多く話されている中華文化圏の言語状況について概説するとともに、本学とも関わりの深い台湾の、更に複雑な言語状況について触れ、隣人への理解を深めてもらいたい。 （24　坂本佳子／2回） フランス語を例に、文法や語彙と社会構造の相関関係について考える。また、フランス語と英語の各文化圏に関して、言語の成立過程や植民地をめぐる争いの歴史を概観し、異文化理解の条件を探る。 （30　松永幸子／3回） 具体を抽象化したいという人間の欲求流れを体験する。異文化コミュニケーションに必要なもの、ヘイトスピーチなど、その欠乏により起こりえる現象について、また、異文化理解のために必要なものについて探究するための講義を行う。 （31　水上由紀／4回） ヒトはなぜ食べるのか？地域や時代によって食べ物の認識が変わるのはなぜか？を考え、さらに地理、文化、歴史が食事にどのような影響を与えてきたのかについて学ぶ。	オムニバス方式・共同（一部）
	英語Ⅰ		基礎的な英語力を身につけることを目標とする。そのため、大学入学までの学習の過程において習得しておくべきであるスキルの学び残しを見直しつつ、「聞く、話す、読む、書く」という四方面の能力をバランスよく向上させる授業を行う。主として日本語母語者が授業を担当し、英語学習において日本語母語者が陥りやすい問題を確認しつつ、各スキル習得のために、日常生活や職場、海外旅行などで頻用される実用的な英語表現を中心として、社会生活に役立つ英語を学ぶ。	
	英語Ⅱ		基礎的な英語力を身につけることを目標とする。そのため、大学入学までの学習の過程において習得したコミュニケーションスキルを見直しつつ、「聞く、話す、読む、書く」という四方面の能力をバランスよく向上させる授業を行う。主として英語母語者が授業を担当し、英語母語者の英語に触れながら、各スキル習得のために、日常生活や職場、海外旅行などで頻用される実用的な英語表現を中心として、社会生活に役立つ英語を学ぶ。	
	英語Ⅲ		基礎的な英語力をすでに修得している学生を対象とし、日常生活、異文化理解から、研究活動に及ぶまで、必要とされる場面において幅広く用い得る英語運用能力の養成を目標とする。主として日本語母語者が授業を担当し、日本語母語者の英語学習において看過されやすい問題点を認識させつつ、実際的な運用能力の養成の一環として、実用英語検定やTOEIC等の資格・検定試験を視野に入れた、文法、語彙、読解、聴解その他の演習も含めつつ授業展開を行う。	
	英語Ⅳ		基礎的な英語力をすでに修得している学生を対象とし、日常生活、異文化理解から、研究活動に及ぶまで、必要とされる場面において幅広く用い得る英語能力の養成を目標とする。主として英語母語者が授業を担当して、さまざまな話題に関してディベートできるコミュニケーション能力を身につけるように展開し、併せて異文化に対する深い理解が得られることを目指す。	
	韓国／朝鮮語Ⅰ		韓国／朝鮮語を初めて学ぶ学生を対象とする。他言語に比して文法が日本語のものにはるかに似ていることを利点とし得る一方で、発音は母音・子音ともに日本語より多く複雑であるので、発音の習得をまずは第一の目的とする。また、隣国であることから歴史的にも日本との関わりが深いことは明白であり、日韓の交流は近年ますます活発化してきている。発音の習得に続いては、実際の交流を念頭に置きつつ会話の学習を中心として授業展開をする。	

韓国／朝鮮語Ⅱ		「韓国／朝鮮語Ⅰ」の学習を通して身につけたことを基として、読む・書く・聴く・話すという四つの能力のバランスに意を払いつつ、より具体的な場面を設定しつつ柔軟に対応できる会話能力と、今日の韓国／朝鮮語の文化圏に対する理解につながる基本的な文献が理解できる文章能力の獲得を目的とする。また、日本との関係や比較に関する知見も紹介して、言語のみならず、文化や歴史等に対する深い理解が得られるようにする。	
韓国／朝鮮語Ⅲ		「韓国／朝鮮語Ⅰ・Ⅱ」で学んだ学習内容をより発展・応用させ、コミュニケーション能力の向上を目標とする。 日常生活に必要な基礎的な会話を駆使でき、身近な話題の内容を理解、表現でき、またより広い範囲の語彙と文法を習得し、自分の考えや意見を表現できることを目標とする。 「韓国語Ⅰ／Ⅱ」で学習した知識をもとに、中級レベルで必要となる新しい語彙や文型を学ぶとともに、より広い範囲の会話の練習と韓国・朝鮮の文化コンテンツを楽しめるための学習も行う。授業に歌やドラマなどを取り入れて、楽しみながら勉強できるよう工夫をする。また学生の意見を積極的に取り入れて学習内容やコンテンツを柔軟に活用する。	
韓国／朝鮮語Ⅳ		「韓国／朝鮮語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の読解力、作文力、会話力をより一層発展させ、実際に活用できるまでの実力向上をめざす。日常会話を超えて、韓国朝鮮語で書かれたテキストを読む、ニュースを聞いて理解できる、今日の韓国／朝鮮語関係の話題で会話ができることを目標とする。 いままでの学習をふまえて、講読力、会話力、作文力をより深めていく。新聞・小説などあらゆるジャンルの資料を教材として、映画やドラマなどの映像教材なども使って、総合的な言語運用能力の向上を目指す。授業では学習したものを応用し作文とディスカッションなども行う。	
中国語Ⅰ		中国語を初めて学ぶ学生を対象として、読む、書く、話す、聴くという四つの能力をバランスよく身につけながら、日常的な会話や基礎的な文章を使えるようにすること。また、わが国と長く深い関わりのある中国についての理解を深めるのに資するような語学力の基礎を確立することを目的とする。具体的には、ピンイン（中国語発音ローマ字表記）の修得を通じた音の理解を基盤として、基礎的な会話や文章を理解する力を開発する。	
中国語Ⅱ		「中国語Ⅰ」で学んだ基礎を踏まえて、会話については、より具体的な場面を設定しつつ柔軟に対応できる能力を身につけることを目標とする。また、読解については、新聞や雑誌等の記事も含めた文章がある程度理解できることを目標とする。そして、こうした学習や日本との比較に関する知見を紹介すること等を通して、今日の中国の言語のみならず、文化や制度等に対する、広く深い理解の一歩を踏み出せるように授業を展開することとする。	
中国語Ⅲ		・「中国語Ⅰ・Ⅱ」の学習を踏まえて、より高度な中国語の運用を目標とする。 ・語彙力を増やし、文法に対する理解を深め、日常会話文を作文することとができる。 ・聴き取る力を養い、簡単な日常会話をすることができる。 中国語Ⅰ・Ⅱでの学習を踏まえて、発音・文法・作文・会話などをより発展的に学ぶ。その際、中国や台湾の風俗や文化についても触れながら、多面的な理解を促す。本学との協定校である台湾の文藻外語大学での語学研修の概要にも触れ、机上の語学学習にとどまらず、広いアプローチで中国語や中華文化、華人社会に対する関心を高めてもらいたい。そのために、授業内で語学研修に関する授業を行うこともある。	
中国語Ⅳ		・「中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の学習を踏まえて、より高度な中国語の運用ができることを目標とする。 ・語彙力を増やし、文法に対する理解を深め、日常会話文を作文することができる。 ・聴き取る力を養い、簡単な日常会話をすることができる。 中国語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでの学習を踏まえて、発音・文法・作文・会話などをより発展的に学ぶ。その際、中国や台湾の風俗や文化についても触れながら、多面的な理解を促す。本学との協定校である台湾の文藻外語大学での語学研修の概要にも触れ、机上の語学学習にとどまらず、広いアプローチで中国語や中華文化、華人社会に対する関心を高めてもらいたい。そのために、授業内で語学研修に関する授業を行うこともある。	

フランス語Ⅰ		フランス語を初めて学ぶ学生を対象とし、「聞く」「話す」「読む」「書く」の各技能の基礎を身につけさせる。視聴覚教材の使用により、他者とのコミュニケーションの成立を体験、理解させる。フランス語圏文化に関する情報を提供して語学学習の動機づけを行うとともに、自己の文化を客観化する契機を獲得させる。	
フランス語Ⅱ		「フランス語Ⅰ」で扱った初歩的な事項を随時確認しながら、動詞の時制や各種機能語の習得により、初級文法の理解を深め、語彙を増やす。視聴覚教材を使用して臨場感と実用性に配慮し、日常会話や平易な文章の読解など運用面の訓練を行う。フランス語圏の文化と社会への関心を通して、異文化理解の課題を認識させる。	
フランス語Ⅲ		「フランス語Ⅰ」、「フランス語Ⅱ」で扱った事項を随時確認しながら、動詞の時制や法、各種機能語の理解をさらに深めるとともに、語源にも注意を払い、語彙力の増強を図る。視聴覚教材を使用し、会話、読解、作文の訓練を通して、趣味、旅行、研究、仕事などでフランス語を運用する能力を開発する。フランス語圏の文化と社会に関する理解を深め、多文化共生への展望を持たせる。	
ドイツ語Ⅰ		ドイツ語を初めて学ぶ学生を対象とし、日常生活、異文化理解、研究活動に資する語学力の獲得をめざして、その基盤を構築することを目的とする。読む、書く、話す、聞く能力の各々をバランスよく開発し、学習意欲を高めながら、ドイツ語の理解能力と運用能力の基礎を着実に固める。また、ドイツ語圏文化の諸様相にも触れ、国際的な出来事やその背景に対する関心を深める。	
ドイツ語Ⅱ		ドイツ語Ⅰを履修済み、または同程度のドイツ語基礎をすでに習得している学生を対象とする。読む、書く、話す、聞く能力の各々をバランスよく開発、発展させ、短文あるいは平易な文を使いこなせるよう演習する。また、ドイツ語圏の文化と諸社会のダイナミズム、他言語文化圏との対立あるいは共存関係の歴史と現状、日本文化との比較をも取り上げ、異文化への理解と国際的視野を得るための契機を提供する。	
ドイツ語Ⅲ		「ドイツ語Ⅱ」を履修した学生が、ドイツ語のしくみをさらに理解し、ドイツ語の基礎力をつけることをめざす。それによって、ドイツ語の文章を読む力や、会話力の向上を目標とする。 「ドイツ語Ⅱ」で学んだ内容をふまえて、さらに着実に力がつくように演習形式で授業を進める。必要に応じて音声・映像教材なども用い、読む・書く・聞く・話す練習をバランスよく行う。	
イタリア語Ⅰ		イタリア語を初めて学ぶ学生を対象として設定する。アルファベットから始めて、基本的な発音・語彙・文法等の学習を積み重ねてゆき、初歩的な会話の習得を目的とする。また、イタリアは、衣食の文化をはじめとする日常生活の面において日本との関わりが少なくないので、学習においては言語にのみ特化せず、これらの面についても視覚教材も使用しながら紹介して、多彩なイタリア文化にも親しむこととしたい。	
イタリア語Ⅱ		「イタリア語Ⅰ」で学んだ基礎を踏まえて学習を進め、読む・書く・聴く・話すという四つの能力をバランスよく身につけることを意識しながら、より具体的な場面にも柔軟に対応できる会話能力と基礎的な文献が読解できる文章能力を育てることを目的とする。また、イタリアの今日的面や文化的な面に加えて、国際的な面や歴史的な面にも意識を向けつつイタリア語という言語の習得における深化を図ることとしたい。	
スペイン語Ⅰ		スペイン語の初修者を対象として設定し、発音・文法・基礎的会話を学習することを通して、将来における社会的・経済的交流に資する基盤の第一歩とすることを目的とする。スペイン語が中国語・英語に次ぐ世界言語であることは多様な文化を伝えるものであることを物語ってもいるので、広範で多様な文化について、視聴覚教材等も使用しながら紹介して親しませ、スペイン語の言語学習がより有機的なものとなるようにする。	
スペイン語Ⅱ		「スペイン語Ⅰ」の学習を通して身につけたことを基として、より具体的な場面を設定しつつ柔軟に対応できる会話能力と、今日のスペイン語文化圏の理解に繋がる基本的な文献が理解できる文章能力の獲得を目的とする。授業展開においては、国際的な広がりのなかでスペイン語文化を捉えながら、日本との比較に関する知見を紹介すること等も通して、スペイン語のみならず、歴史や制度等に対する広い理解の一助となるよう心がけることとする。	

			海外研修Ⅰ		この科目は、本学で実施している夏季・春季外国語研修プログラム等に参加し、所定の成果を修めた場合に単位を認定するものである。研修や留学プログラムは、現地での学修・集中トレーニングを通じた外国語運用能力やコミュニケーション能力の向上、異文化への理解の深化・適応力の向上を目的として実施する。期間中の学修成果やレポートにより評価を行い、基準を満たした学生に対して単位を認定する。	
			海外研修Ⅱ		この科目は、本学で実施している夏季・春季外国語研修プログラム等に参加し、所定の成果を修めた場合に単位を認定するものである。研修や留学プログラムは、現地での学修・集中トレーニングを通じた外国語運用能力やコミュニケーション能力の向上、異文化への理解の深化・適応力の向上を目的として実施する。期間中の学修成果やレポートにより評価を行い、基準を満たした学生に対して単位を認定する。	
			海外研修Ⅲ		この科目は、本学で実施している夏季・春季外国語研修プログラム等に参加し、所定の成果を修めた場合に単位を認定するものである。研修や留学プログラムは、現地での学修・集中トレーニングを通じた外国語運用能力やコミュニケーション能力の向上、異文化への理解の深化・適応力の向上を目的として実施する。期間中の学修成果やレポートにより評価を行い、基準を満たした学生に対して単位を認定する。	
			日本語Ⅰ		日本語を母語としない留学生を対象に、基礎的な日本語能力を身につけることを目指す科目である。授業では、日常生活や学習に必要な基本的な文法、語彙、表現を学び、聞く・話す・読む・書くの4技能を総合的に伸ばす。日本語を母語とする学生や教職員との交流を通じて、実践的な日本語の運用力を高める機会を提供し、クラス内外での積極的なコミュニケーションを促す。	
			日本語Ⅱ		初級を修了した学生が中級レベルの日本語能力を習得することを目的とする。授業では、より複雑な文法や語彙を学び、自己表現力を高める。授業では、日本語の実践的な使用を促進し、学内の様々な場面で日本語を使う機会を提供する。実践的な資料を使って、読解力やライティング力を強化することにも重点を置く。	
専門教育科目	導入科目	基礎	国際教養入門	○	グローバルな視点から日本国内外の諸問題を英語で学び、考察する基礎を築くことを目的としています。 （オムニバス方式／全14回） （7　BOURKE GARY・9　GOLD JASON DAVID／13回） 国際関係、文化的多様性、環境問題、技術革新など、現代社会の基本的なテーマを扱い、これらのトピックを通じて、学生はグローバルな課題に対する基礎的な理解を深めます。 （30　松永幸子／1回） 国際教養という観点から、諸外国の人間や生命についての考え方の歴史や、途上国の支援活動について取り上げます。特に途上国での女性・女子に対する待遇や教育環境、経済事情と具体的支援、国際協力について学びます。	オムニバス方式
			異文化コミュニケーション	○	異文化コミュニケーションの授業では、異なる文化的背景を持つ人々との効果的なコミュニケーション方法を学びます。授業では、異文化コミュニケーションの基本理論（氷山モデル、批判的アプローチ、ステレオタイプ、高低コンテキスト文化など）を理解し、言語や非言語的な要素、文化的価値観の違いについて探ります。また、多様な人との意見交換を通じて、実際の異文化交流に役立つスキルを実践的に養います。日本の状況と対比しながら学びを深め、グローバルな視野を育むことを目指します。	
	文化・社会科目	基礎	グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）		この授業では、伝統的英語圏のポップカルチャーとそれを伝えるメディアを題材に、現代の伝統的英語圏の社会の地域性・歴史・文化的側面を分析し、理解を深めます。音楽、テレビ、映画、スポーツ、コミックなど多様なメディアを通じて、伝統的英語圏の社会が抱える課題や問題点、多文化共生の現実を考察します。さらに、ポップカルチャーメディアを介して異文化コミュニケーションの理解を深め、伝統的英語圏の文化的背景を読み取る力を養うことを目指します。	
			グローバル文化Ⅱ（フィリピン、タイ）		本授業では、フィリピンやタイなどASEAN諸国の文化を通じて、グローバルな視野を広げることを目的としています。音楽や映画、テレビ、スポーツに加え、文学やファッション、食文化、祭りなど多様な文化的要素を題材に、それぞれの国が持つ社会的・文化的・歴史的な背景を分析します。また、地理的特性と歴史的経緯がこれらの文化にどのように影響を与えているかを考察し、地域社会でのアイデンティティ形成や異文化交流において、文化が果たす役割を探ります。この授業を通じて、日本の学生がASEAN諸国の多様な文化的特徴を理解し、グローバルな視点を持ちながら異文化コミュニケーションの重要性を学ぶ機会を提供します。	

		グローバル文化Ⅲ（韓国、台湾）		韓国と台湾を中心に、これらの地域の文化を深く理解し、国際的な視野を広げることを目指します。授業では、映画や音楽、テレビドラマ、伝統芸能、さらには現代のポップカルチャーや社会運動、食文化など、多岐にわたるテーマを取り上げます。韓国と台湾の地理的・歴史的背景を踏まえながら、社会的・文化的な特徴やそれらが現代のアイデンティティ形成に与える影響について考察します。また、これらの国々が持つ独自の文化と、それがグローバルな文脈の中でどのように位置づけられているかを探り、学生が異文化理解とコミュニケーション能力を高めることを目指します。さらに、現代社会における韓国と台湾の役割や国際関係にも触れ、地域の特性を理解しながら、広い視点から学びを深めます。	
	専門	アジアパシフィック・スタディーズ		アジア太平洋地域の国々の文化、社会、経済、国際関係について幅広く学びます。授業では、ASEAN諸国、台湾、太平洋諸島、オーストラリア、ニュージーランド、アメリカなどから、受講者の興味関心に合わせて多様な地域を対象とします。各地域の文化的背景、政治的な動き、経済発展の現状、国際関係について深く理解し、それぞれの地域が持つ独自性とグローバルな文脈での役割を考察します。また、学生が興味を持つ特定のテーマについて調査・発表する機会を提供し、異文化理解とコミュニケーション能力を向上させることを目指します。	
		国際日本学		この授業では、国際的な視点から日本の生活や文化を英語で説明する力を養うことを目的としています。食文化、習慣、マナーなど日常生活に関わるトピックを中心に、海外旅行や訪日外国人との交流に役立つフレーズや表現を学びます。毎週、日本文化に関連したテーマについてディスカッションを行い、最終的には、日本のさまざまな側面を国際的な文脈で自信を持って英語で説明できるようになることを目指します。	
		国際韓国学		この授業では、国際的な視点から韓国の文化や社会を深く理解し、韓国語と英語の両方でコミュニケーションできる力を養うことを目指します。韓国の食文化、礼儀作法、言語、教育制度など、多岐にわたるテーマを取り上げ、それに関連する韓国語と英語の表現やフレーズを学びます。授業を通じて、韓国人とのコミュニケーションをスムーズに行い、韓国文化の多様な側面について、国際的な文脈で自信を持ってディスカッションできるスキルを身につけることを目指します。	
	統合	映像文化コミュニケーション		グローバル、地域・社会、個人というスケールで映像文化を多角的かつ分野横断的に探究する科目です。映像産業と消費文化、表象とイデオロギー、ジェンダーやナショナリティの視点から映像を分析し、特に外から見た日本の映像文化を比較対象として扱います。後半では、個人が映像メディア上でどのように映り、受け取られるのかを検討し、その上での表現やコミュニケーションのあり方を掘り下げます。	
		文化演習Ⅰ	○	アメリカの歴史、社会構造、文化、そして国際的な影響力について総合的に理解し、考察することを目的としています。まず、主要な歴史的出来事とそれらの社会的影響、多様性、政治的ダイナミズムについて学び、アメリカ文学や映画を通して、文化的価値観やイデオロギーを分析します。さらにアメリカを中心とした国際問題についての知識を深め、それらがグローバルな文脈でどのように展開されているかを理解し、現代の国際問題に対するアメリカの立場や政策を批判的に評価します。	
		文化演習Ⅱ	○	韓国の歴史、社会構造、文化、そして国際的な影響力について総合的に理解し、考察することを目的としています。まず、主要な歴史的出来事とそれらが社会に与えた影響、多様性、政治的ダイナミズムについて学び、韓国メディアやコンテンツ産業、また映画やドラマなどの作品を通じて、文化的価値観やイデオロギーを分析します。さらに、韓国を中心とした国際問題に関する知識を深め、それらがグローバルな文脈でどのように展開されているかを理解し、現代の国際問題に対する韓国の立場や課題を批判的に考察します。	
アート科目	基礎	芸術作品鑑賞（英語文学）		アメリカ文学の代表的な作品を通じて、各時代の社会的・歴史的背景とその影響を探ります。作家の小説、詩、劇を分析し、なぜその作品が時代を超えて読み継がれているのかを考察します。文学史に縛られず、作品が持つ普遍的なメッセージや社会への影響を重視し、さまざまな視点から作品を読み解く力を養います。最終的には、アメリカ文学を通して広い視野で社会や文化を理解することを目指します。	
		ポピュラーアート （韓国系）		韓国の多様なポピュラーアート作品を鑑賞し、その文化的背景や社会的影響を探ります。K-POP、映画、テレビドラマ、ウェブトゥーンなど、韓国の現代文化を代表する作品を中心に取り上げ、作品がどのようにして国内外で支持を集めているのかを考察します。さらに、これらの作品を通じて、韓国社会の特有の価値観や時代の変遷を理解し、グローバルな視点から韓国のポピュラーアートの役割と影響力を学びます。	

		専門	英語文学		本講義では、読書という行為をとおして、受講生が過去や未来の自分自身の思想や体験の振り返り、あるいは想像により自己を内省する契機とします。「文学は社会の鏡である」といわれてきました。英語文学の各作品から、当時の人間や社会の有り方を炙り出し、現代の価値観との相違を認識することにより、自分の価値観を相対化します。そして何よりも、読書によって惹起された疑問や課題について自分自身で考え、あるいは他者との共有をとおして理解を深める力を養います。また、更なる知識の獲得に向かおうとする自発的意識の醸成を目指します。 （オムニバス方式／全14回） （1　中林正身／11回） 英語で書かれた作品を読みます。英語を正確に読むことに加え、授業で取り上げる一場面から自分なりの意味または解釈を作り上げていく力を養います。教員の問いに対し、学生一人ひとりが回答を自ら考え、それを他者と共有し理解を深めます。 （30　松永幸子／3回） 主には17・18世紀イギリスの文学作品を中心に扱い、当時の人間観、生命観、モラル観などを抽出し、検討します。また、文学の効能や文学と社会とのかかわりについて講じます。自分自身の理解をグループワークなどを通して表現し他者と共有します。	オムニバス方式
			映像芸術		視覚情報を国際共通言語ともいえる映像言語（ビジュアルテクスト）として読み解く力を養い、物事を客観的に観察し、分析できるメタな視点を獲得することを目指します。基本的な映像文法や表現を学びながら、文学的視点から物語構造、芸術的視点からデザイン性、心理学的視点から意味を探究します。これにより、視点を多角的かつ自在に動かし、物事を深く考える並列・並行思考の源泉を養成します。	
		統合	複合芸術		複合芸術の授業では、D.H.ロレンスの作品を中心に、舞台化や映像化された作品を鑑賞・分析します。原作小説とその映像表現を比較し、文学的解釈と映像化の違いや共通点を探ります。受講者は作品の深い理解を目指し、文学と映像の両面から作品を読み解き、その成果を第三者に説明できるスキルを養います。	
			アート＆コミュニケーション演習Ⅰ	○	この授業では、アート思考を基盤に、コミュニケーションの新たな可能性を探求します。学生は、プロジェクトベースで学び、アートが持つ独自の視点やアプローチを理解し、社会的・文化的課題に対する創造的な解決策を考案します。具体的には、リサーチと批判的分析を通じて、異なる視点を融合し、複雑な問題に対する多角的な思考を養います。最終的には、プロジェクトを通じて得られた知見を共有し、アート思考がコミュニケーションにどのように活かされるかを深く理解します。	
			アート＆コミュニケーション演習Ⅱ	○	この授業では、アート思考をさらに深化させ、より高度でグローバルなテーマに取り組みます。学生は、国際的な社会課題や文化的テーマに焦点を当て、アート思考を用いて解決策を模索します。プロジェクトベースで進行するこの演習では、批判的思考と創造的アプローチを融合し、アートとコミュニケーションの関係性を深く探求します。学生は、課題に対する多面的な分析を行い、アートが持つ思考方法が現代社会における広義のコミュニケーションにどのように貢献できるかを実証的に学びます。	
	教育科目	基礎	英語科教育法（中）Ⅰ		この授業では、中学校英語教育の基礎を学び、効果的な指導方法と学習評価のスキルを身につけることを目指します。学習指導要領や教科書の理解を深め、生徒の特性に応じた授業計画の作成や指導法を習得します。また、第二言語習得理論の応用や、異文化理解、ICTを活用した英語教育についても学びます。授業は実務経験豊富な教員による指導で進められ、現場での実践に役立つ知識と技能を修得します。	
			英語科教育法（中）Ⅱ		この授業では、中学校英語教育の指導法をさらに深め、実践的な授業展開や評価方法を習得することを目指します。検定教科書の理解を基に、4技能5領域別の指導法やICTの活用、ALTとのティーム・ティーチングなど、具体的な指導方法を学びます。また、学習指導案の作成やパフォーマンス評価の基礎を学び、実際に模擬授業（マイクロ・ティーチング）を通して、授業力を高める実践的なスキルを身につけます。	
		専門	英語科教育法（中・高）Ⅰ		この授業では、中学校および高等学校における英語教育の基礎を学び、効果的な指導法と学習評価のスキルを身につけることを目指します。学習指導要領や教科書の理解を深め、4技能5領域別の指導法やICTの活用を学びます。また、小・中・高の連携や学習到達目標に基づく授業の組み立て方を理解し、実際の授業計画を立てる力を養います。模擬授業を通じて、理論と実践の両面から指導力を強化します。	

		英語科教育法（中・高）Ⅱ		この授業では、中学校および高等学校の英語教育において、英語科教育法（中・高）Iで学んだ内容を基に、より実践的な指導法や評価法を学びます。複数の領域を統合した指導法、ICTやALTとのティーム・ティーチング、第二言語習得理論の応用を中心に、学習者の特性に合わせた授業の組み立て方を習得します。受講生は、マイクロ・ティーチングを通じて、実際の授業で活用できるスキルを身に付け、英語教育の質を向上させることを目指します。	
	統合	国際教育論Ⅰ		この授業では、国際バカロレア（IB）とは何か、IBの使命、IB学習者像、IBのカリキュラム構成、IBの学習原則を理解します。さらに、学習プログラムをどのように設計し、「真正の学び（authentic learning）」をどのように実現するのかを学びます。特にIBの４つのプログラム（DP）のうち、高等学校段階のディプロマプログラムに焦点をあてて学習します。最終的には、IBの教育理念を踏まえて、Unit Outline（年間指導計画）とUnit Planner（単元の指導計画）を作成できることを目標とします。	
		国際教育論Ⅱ		この授業では、国際バカロレア（IB）の学習理論を理解するとともに、高等学校段階におけるディプロマプログラム（DP）における教育方法を理解します。特に生徒の実態に応じた指導をどのように行うのか、教材をどのように取り扱うのか等について探究します。最終的には、IBDPで採用されている理論を適用し、マイクロティーチングを実施し、実践の場面を想定した授業実演を行います。	
		国際教育論Ⅲ		この授業では、IBディプロマプログラムにおける評価についての理念や理論を学びます。具体的には指導と評価をどのように一体化させるのか、逆向き設計理論を実現させるための評価活動をどのように実施するのか、DPの各科目及びコア授業における評価をどのように実施するのか等について理解を深めます。最終的には、各授業の形成的評価及び総括的評価を設定し、ルーブリック（評価指標）に基づき、学習者をどのように評価づけするのかを実践できるようにします。	
		教育演習Ⅰ	○	この授業では、教育全般への理解を深めることを目的とし、学校教育、社会教育、成人教育、家庭教育等について幅広く探究します。加えて、英語教育や国際教育に対する理解を深め、国際化が進む社会で求められる教育について探究します。授業では、自分たちで探究した内容をクリティカルな視点で分析したりまとめたりし、個別またはグループによるプレゼンテーションや議論等を行い、学習者同士による協同学習を行います。	
		教育演習Ⅱ	○	この授業は、教育演習Iの発展として位置づけられ、教育全般への理解を深めるため、教育学領域全般について幅広く探究します。特に小・中高等学校での英語教育や国際的視野を育む教育に対する理解を深め、国際化が進展する社会で求められる教育の在り方を探究します。授業では、個別またはグループによるプレゼンテーションや議論等を行い、学習者同士による協同学習を行います。	
言語科目	基礎	英語文章読解	○	英語の文章読解力を高めることを目指し、さまざまなジャンルの英文を扱います。文章構造や文法、語彙の理解を深めるだけでなく、文脈や文化的背景を踏まえた解釈力を養います。また、読み取った内容を自分の言葉で表現する練習も行い、総合的な読解力を強化します。最終的には、複雑な英語文章を正確に理解し、効果的に分析できるスキルを身に付けることを目指します。	
		英語文章表現	○	この授業では、英語での文章表現力を向上させることを目指し、さまざまなスタイルや目的に応じた英文の書き方を学びます。文法や語彙の適切な使用だけでなく、論理的な構成や説得力のある表現方法を習得します。エッセイやレポート、クリエイティブライティングなど、多様な形式のライティング課題に取り組むことで、効果的に自分の意見や考えを英語で表現する力を養います。最終的には、正確で流暢な英語文章を書けるスキルを身に付けることを目指します。	
	専門	英語音声学		この授業では、実践的な英語音声学を学びます。具体的には、国際音声記号（IPA）の理解と使用を中心に、発音記号を正確に音声化する技術を習得し、耳にした語彙を発音記号で表記できる力を養います。授業では、音声学の理論的な基礎を学びつつ、発音、聞き取り、発音記号の書き取りなどの実技を行います。これにより、自分自身や学習者が抱える発音問題の解決を目指します。	
		英語学概論		英語学の主要分野を広く学び、英語を専門とする学生に必要な基礎知識と問題解決の方法を身につけることを目的とした授業です。形態論、統語論、意味論、社会英語学、歴史英語学などを概観し、英語と日本語を比較しながら、英語学の基本的な概念を学びます。これにより、英語学的な視点から言語を分析し、問題を解決する力を養います。	

		応用言語学		応用言語学の基本概念を理解し、日常生活や言語学習に応用できる力を養います。『言葉の力学 - 応用言語学への招待』をテキストに、輪読やディスカッションを通じて、言語政策、バイリンガル教育、メディアと言語、言語障害など、さまざまなテーマを学びます。履修者同士の意見交換を通じて、理論を実生活に結びつけ、自分の言語実践を説明・改善する力を身につけることを目指します。	
	統合	上級英語読解・表現		この授業では、上級レベルの英語読解力と表現力をさらに向上させることを目指します。パラグラフ・ライティングの基礎を復習した上で複雑で高度な英文を読解し、文章の構造や文脈を分析する力を養います。また、読解した内容を基に、論理的で説得力のある英語表現を習得します。エッセイやリサーチペーパーなどの高度なライティング課題に取り組み、自分の意見を明確かつ効果的に英語で表現できるスキルを強化します。最終的には、学術的な場面でも通用する英語の読解・表現能力を習得します。	
		コースワーク演習Ⅰ	○	この授業では自主学習の概念を理解したうえで実践することを目標としています。自主学習とは「学習者が自らの学習目標を設定し、認知、動機づけ、行動をモニターして調整しようとする能動的なプロセス」です。この授業では個々の履修者が自ら目標設定、計画、実行、振り返りの１サイクルを実践します。授業最後には学習成果を口頭で報告し、必要に応じて学習アプローチの修正を提案してもらいます。	
		コースワーク演習Ⅱ	○	「コースワーク演習Ⅰ」に引き続き、自主学習の概念を理解したうえで個々に自ら目標設定、計画、実行、振り返りの１サイクルを実践します。授業最後には学習成果を口頭で報告し、必要に応じて学習アプローチの修正を提案してもらいます。	
表現・スキル科目	基礎	Speaking Skills Ⅰ	○	1年生を対象とした初級英語スピーキングコースで、日常的な状況での英語の聞き取りと話す力を基礎から養います。ネイティブ英語講師の指導のもと、ペアや小グループでのリスニングやスピーキングタスクを通じて、基本的な表現を習得し、簡単なリクエストや短い会話ができるようになることを目指します。授業では、日常のトピックを扱い、語彙や表現を学びながら、実践的な会話力を育成します。	
		Speaking Skills Ⅱ	○	1年生を対象とした英語スピーキングの入門コースで、Speaking Skills Ⅰで培った基礎力をさらに強化します。ネイティブ英語講師の指導のもと、ペアや小グループでのリスニングとスピーキングタスクを通じて、歴史的な出来事や個人的な経験、技術の変化やマーケティングのトレンドなど、さまざまなトピックについて学びます。これにより、基本的な表現を使って短い会話や簡単なリクエストを行う自信を深めます。	
		Speaking Skills Ⅲ	○	2年生を対象とした中級英語スピーキングコースで、Speaking Skills Ⅰ・Ⅱで学んだスキルを基に、日常的な状況での会話力と聞き取り力をさらに向上させます。経験や出来事を説明し、意図や目標を簡潔に伝える力を養うことを目指します。ネイティブ講師の指導のもと、ペアやグループでの練習を通じて、流暢さと表現力を向上させます。地域の料理や健康管理、過去の達成など、具体的なトピックを扱います。	
		Speaking Skills Ⅳ	○	2年生を対象とした中級英語スピーキングコースで、Speaking Skills Ⅲで培ったスキルをもとに、より高度な会話力と聞き取り力を磨きます。消費習慣、ライフスタイル、旅行やキャリアの選択など、多様なトピックについて深く語る力を養い、意図や目標を明確かつ効果的に伝える能力を強化します。ネイティブ講師の指導のもと、ペアやグループでの練習を通じて、さらに高度な英語コミュニケーション能力を身につけます。	
	専門	English for Advanced Speaking Ⅰ		この授業は、Speaking Skillsの上位科目で、英語での実践的なコミュニケーション能力をさらに向上させることを目的としています。リスニングとスピーキングに重点を置き、リーディングとライティングもサポートとして活用します。授業は英語のみで行われ、さまざまなトピックについてディスカッションを行い、英語で自信を持って意見を述べられるスキルを強化します。トピックには、インターネットの進化や幸福論などが含まれ、学術的な英語スキルを高めます。	
		English for Advanced Speaking Ⅱ		English for Advanced Speaking Ⅰの次に位置する上級スピーキングコースで、リスニングとスピーキングのスキルをさらに深化させます。リーディングとライティングをサポートとして活用しながら、学生が自信を持って英語で意見を述べる能力を強化します。美容整形、健康、メディア、ジェンダー問題など、より高度で複雑なトピックについてディスカッションを行い、学術的な英語スキルを一層向上させることを目指します。	

		English for Presentation		この授業は、英語での効果的なプレゼンテーションスキルを養うことを目的としています。スピーチの構成や視覚資料の作成、聴衆に対するアプローチ方法など、プレゼンテーションの基本を学びます。さまざまなトピックでプレゼンテーションを実施し、フィードバックを通じてスピーキング力と自信を向上させます。また、質疑応答の対応方法や、プレゼンテーションの際に必要な非言語コミュニケーションのスキルも習得します。最終的には、英語での説得力あるプレゼンテーションができるようになることを目指します。	
		English for Relationship-building		この授業は、ビジネスや日常の場面での英語を用いた信頼関係の構築スキルを向上させることを目的としています。初対面の相手とのコミュニケーション、長期的な関係を築くための言葉遣いや文化的理解、異文化間での誤解を避ける方法などを学びます。ロールプレイやディスカッションを通じて実践的なスキルを身につけ、英語を用いた効果的な人間関係構築の能力を強化します。これにより、職場やグローバルな環境でのコミュニケーションが円滑に行えるようになります。	
		English for Translation		正確な英文理解を基に、実務分野の英日翻訳スキルを向上させることを目指します。解説文、マニュアル、ビジネスメール、広告文の4つの代表的な文体を扱い、それぞれの特徴に応じた適切な翻訳方法を学びます。授業前半では翻訳に共通する基本知識を学び、後半では実際の翻訳作業を通じて日本語らしい訳し方を身につけます。また、翻訳技能検定試験に関する解説も行われ、最終週には翻訳トライアルを実施します。	
		English for Hospitality		この授業は、観光分野や旅行分野で必要とされる英語力を育成し、観光事情や日本事情に関する文化的理解を深めることを目的としています。前半は観光英語検定2級の対策として、エアラインやホテル、レストランなどのテーマを中心に学びます。後半は、履修者の関心に応じた実務的な英語表現を学び、発表を通じて実践的なスキルを習得します。観光英検2級の受験が必須であり、授業では試験問題演習や模擬試験も行います。	
		English for Business		この授業は、観光業界で働くことを目指す学生を対象とした入門的なビジネス英語コースで、海外からの顧客対応に必要な英語のスピーキングとリスニングスキルを向上させることを目指します。授業はすべて英語で行われ、旅行、航空、ホテル業界に関連する語彙やフレーズを学びます。また、TOEICの語彙力向上にも焦点を当てています。実践的なペアワークを通じて、英語でのビジネスコミュニケーション能力を強化します。	
	統合	Integrated Communication Ⅰ		この授業は、英語の基礎力を育成する統合英語コースです。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルを総合的に向上させることを目指します。日常のトピックを通じて、これまでに学んだ文法や語彙を活用し、英語でのコミュニケーションに自信を持てるようになります。ペアやグループでの練習を通じて、実践的な英語力を養います。	
		Integrated Communication Ⅱ		この授業は、Integrated Communication Ⅰで培った基礎をさらに発展させるコースです。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルをバランスよく強化し、複雑な表現や文法の理解を深めます。日常生活のさまざまなトピックを扱いながら、より流暢に、かつ自信を持って英語でコミュニケーションできるようになることを目指します。	
		Integrated Communication Ⅲ		この授業は、さらに高度な英語力を養成するために、Integrated Communication Ⅱの内容を発展させたコースです。学生は、過去の経験や未来の計画など、より複雑なトピックを通じて、英語の表現力と理解力を向上させます。授業では、リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの各スキルを強化し、実践的な英語力を一層高めます。	
		Integrated Communication Ⅳ		この授業は、Integrated Communication Ⅲを基に、さらに高度な英語コミュニケーション能力を習得することを目指します。クリエイティブなキャリアや成功の鍵といった専門性の高いトピックを扱い、学生が複雑な状況でも自信を持って英語を使えるようにします。ペアやグループでの活動を通じて、実社会での応用力をさらに強化します。	
探究・研究科目	深める	地域研究：韓国Ⅰ	○	韓国の現代社会と文化に焦点を当てます。特に、韓国のポップカルチャー（K-POP、映画、ドラマなど）、ファッション、メディア、消費者文化など、現代韓国における日常生活や若者文化の側面を探究します。学生は自身の興味に基づいてテーマを選び、調査・発表を通じて理解を深めます。歴史的背景を簡潔に触れつつも、主に現代の視点から韓国を捉えることに重点を置きます。	

		地域研究：韓国Ⅱ	○	韓国の経済、政治、国際関係、教育システム、環境問題など、社会構造や政策に関連するテーマを探究します。学生は、韓国の現在直面している課題やトレンドに対する理解を深め、各自の研究テーマに基づいて調査・分析を行います。この授業では、韓国の未来を見据えた議論や提案を行うことを目指し、学術的な視点からの発信力を養います。	
	耕す	グローバル教育Ⅰ	○	学校教育全般に焦点をあてます。特に、英語教育全般、国際バカロレア教育全般に関連するテーマを探究します。受講生は現代的な教育課題である批判的思考、論理的思考、創造的思考の育成、逆向き設計論を踏まえたカリキュラムデザインの仕方等について探究します。本授業では、学生による学会または研究会での発表を推奨し、大学内外の研究者・実践者等によるフィードバックを得ることで、最新の知見を得ながら、教育学領域のアカデミックスキルを養います。	
		グローバル教育Ⅱ	○	教育学領域全般、とりわけ、問いを核とした授業、探究型の授業、批判的思考を育成する授業等について探究します。英語教育全般及び国際バカロレア教育に関するテーマに加え、構成主義に基づく教育を支える学習理論や教育実践を探究の対象とします。各自の研究テーマに基づき、自ら調査・分析を行います。本授業では、学生による国内外での学会または研究会での発表を必須とし、大学内外の研究者・実践者等によるフィードバックを得ることで、学術的な視点から発信する態度・技能を養います。	
		コミュニケーション・デザインⅠ	○	この授業では、デザイン思考とアート思考を行き来し、経験学習と越境学習を通じて、プロジェクトベースで実社会の課題に取り組みます。学生は、ターゲットオーディエンスのインサイトを探りながら、意味のイノベーションを創発するためのアプローチや思考のリフレーミングを実践します。プロジェクトは、異なる文化や社会的背景を越境し、現実の社会と連携して実施されるため、学生は異文化理解と多様な視点を取り入れたコミュニケーション戦略の構築を学びます。これにより、基礎的なプロジェクトマネジメントやファシリテーションスキルの習得を目指します。	
		コミュニケーション・デザインⅡ	○	この授業では、越境学習の視点から、異なる文化や社会を背景に持つ課題に対し、アート思考を活用したコミュニケーション手法をさらに深化させます。学生は、国際的な地域コミュニティや団体、企業と協働し、実際のターゲットオーディエンスのインサイトに基づいたコンテクスト作りやPRを行います。経験学習を通じて、現場からのフィードバックを反映しながら、より高度な実践スキルを磨きます。また、関係性構築やプロジェクトマネジメントの能力を深化させ、最終的には成果を体系的にまとめ、プレゼンテーションを通じて発表します。	
	極める	Advanced English Studies Ⅰ	○	この授業では、教育心理学やポジティブ心理学、現代のニューストピック、留学体験に関連するテーマを通して英語で学びます。タスクベースの学習を通じて、英語環境での学びを模擬体験し、総合的な英語力と批判的思考能力を養成します。異文化コミュニケーションの基礎も学びつつ、効果的なコミュニケーションと問題解決に必要なスキルを向上させます。授業は全て英語で行われます。	
		Advanced English Studies Ⅱ	○	この授業では、より専門的なテーマに取り組みます。学生は、タスクベースの学習アプローチを活用し、より高度なスピーキング活動やディスカッションを通じて、アカデミックな英語力を一層強化します。また、実践的なプロジェクトを通じて、現場からのフィードバックを反映しながら、批判的思考力と分析力を高めます。最終的には、学術および職業的な環境での成功に必要な高度なコミュニケーションスキルを習得し、自信を持って英語で問題解決や意思決定を行う能力を身に付けます。授業は全て英語で行われます。	
		コースワーク・デザインⅠ	○	この授業は、学生が自身の学習プロセスを主体的にデザインし、管理する能力を養成することを目的としています。自主学習の理論と実践を融合させ、学生が自らの学びをカスタマイズし、デジタルツール等を用いて最適化する方法を学びます。具体的には学習計画の設計と実行、学習ポートフォリオの作成、ピアレビュー、最終プレゼンテーション等を行います。	
		コースワーク・デザインⅡ	○	「コースワーク・デザインⅠ」に引き続き、この授業では単に知識を習得するだけでなく、生涯にわたって学び続けるための実践的なスキルと思考法を身につけることを目標としています。学生が自らの学びをカスタマイズし、デジタルツール等を用いて最適化する方法を学びます。具体的には学習計画の設計と実行、学習ポートフォリオの作成、ピアレビュー、最終プレゼンテーション等を行います。	

実践科目	オンキャンパス	TOEIC Ⅰ		TOEICテスト対策の基礎を学ぶコースです。TOEICテストの形式や頻出語句、問題の傾向を理解し、英語力を向上させることを目指します。授業は教科書に沿って進み、ビジネスや日常生活など様々な場面に関連した問題を解きながら、TOEICの各パートに対応するスキルを養います。授業後半にはプリント教材や映像を使い、別の視点からの対策も学びます。最終的に、各自の目標スコアを達成するための基盤を築きます。	
		TOEIC Ⅱ		TOEIC Ⅰで学んだ基礎をさらに深め、TOEICスコア600点以上を目指す中級者向けコースです。前半では、教科書に基づいた問題演習を通じて、頻出語句や解答スキルを強化します。後半はプリント教材や映像を使用し、実際のテスト形式に即した対策を行います。授業中に行われる小テストを通じて、自分の進捗を確認しながら、効果的な学習方法を身につけます。最終的に、TOEICで高得点を狙うための戦略を構築します。	
		TOEIC Ⅲ		TOEIC Ⅱで培ったスキルをさらに向上させ、TOEICスコア700点以上を目指す上級者向けのコースです。前半では、より高度な問題に取り組み、ビジネスシーンや専門的なトピックに関連する語句や表現を学びます。後半は、実際の試験形式に合わせた模擬テストや、個別の弱点補強を行います。各回の授業では、細かな問題分析や、解答のスピードアップを目指すトレーニングを実施し、受験本番に向けた実力を養成します。	
		越境・協働学習教育Ⅰ		この授業では、学生が学外でのインターンシップ、ボランティア、語学研修、留学などを通じて、実践的なスキルや異文化理解を深めることを目指します。授業の初期段階では、希望する研修先や活動に関する基礎知識やビジネスマナーを学び、事前準備を行います。活動後には、研修や経験をレポートにまとめ、発表することで、自己評価とフィードバックを行い、学びを他の学生と共有します。活動を通して、職業観や社会性、自立性を養います。	
		越境・協働学習教育Ⅱ		この授業では、学外でのインターンシップやボランティア、語学研修などの経験を通じて得た知識やスキルをさらに深化させ、実践的な場面での応用力を強化します。授業は事前指導、実践、事後指導の3段階で構成されており、特にレポート作成やプレゼンテーションを通じて論理的思考力と表現力を養います。就業体験や異文化理解を通して、グローバル社会での職業観や社会性を身につけることが目的です。最終的に、実習内容をレポートにまとめ、他の履修者に共有します。	
	グローバル	スクール・インターンシップⅠ		この授業は、教育現場（国際バカロレア認定校を含む）でのインターンシップを通じて、英語教師としての理解を深めることを目指します。事前指導で教師としての心構えや必要なスキルを学び、実際の教育現場での体験を通じて観察力や実践力を養います。インターンシップ終了後には、学んだことをレポートにまとめ、プレゼンテーションを行い、他のインターンシップ生と意見交換を行います。最終的に、教師としての基礎的な能力を総合的に身につけることを目標とします。	
		スクール・インターンシップⅡ		この授業は、教育現場（国際バカロレア認定校を含む）でのインターンシップを通じて、教師としての研修の理解を深めることを目的としています。事前指導では、教師の態度や心構え、さらに英語力と教養を高める方法について学びます。インターンシップ中は、現場での観察力と実践力を養い、学んだことを整理・検討します。終了後には、経験を振り返り、レポートにまとめ、報告会で発表します。これにより、教師としての総合的なスキルをさらに強化します。	
		短期英語研修Ⅰ		短期英語研修Ⅰは、学生が春休みや夏休みの期間中に大学指定の英語研修プログラムに参加し、所定の成果を収めた場合に単位が認定されるシステムです。学生は、英語圏での集中トレーニングを通じて英語運用能力を向上させ、異文化理解を深めます。研修期間中の学習成果やレポートの提出が評価され、基準を満たした学生に対して単位が付与されます。	
		短期英語研修Ⅱ		短期英語研修Ⅱは、短期英語研修Ⅰを修了した学生、もしくは短期間で一定の基準を超える英語学習を達成した学生に対して、追加の単位が認定されるシステムです。長時間の学習を行った場合には、ⅠとⅡの単位が同時に認められることもあります。	
		短期韓国語研修Ⅰ		短期韓国語研修Ⅰは、学生が春休みや夏休みを利用して大学指定の韓国語研修プログラムに参加し、一定の学習成果を収めた場合に単位が認定されるシステムです。学生は現地での言語学習や文化体験を通じて韓国語能力を向上させ、一定の学習目標を達成することが求められます。研修後にはレポートを提出し、その成果が単位認定の基準となります。	

短期韓国語研修Ⅱ		短期韓国語研修Ⅱは、短期韓国語研修Ⅰを修了した学生、もしくは短期間で集中的に韓国語を学び、規定の学習成果を達成した学生に対して、さらに単位が認定されるシステムです。一度の研修で長時間の学習を行った場合、ⅠとⅡの単位が同時に認められることもあります。	
長期語学留学Ⅰ		長期語学留学Ⅰは、1学期以上の語学留学を行った学生が、その学習成果に応じて単位を認定されるシステムです。学生は現地の教育機関で語学学習に取り組み、文化理解や言語運用能力を高めることが求められます。留学後、学習成果をレポートや試験で示すことで単位が認定されます。	
長期語学留学Ⅱ		長期語学留学Ⅱは、語学能力のさらなる向上を目指し、長期語学留学Ⅰを超える留学を行った学生に対して認定されるシステムです。留学先での高度な学習成果が求められ、その成果を報告することで単位が認定されます。	
長期語学留学Ⅲ		長期語学留学Ⅲは、語学能力のさらなる向上を目指し、長期語学留学Ⅱを超える留学を行った学生に対して認定されるシステムです。留学先での高度な学習成果が求められ、その成果を報告することで単位が認定されます。	
長期語学留学Ⅳ		長期語学留学Ⅳは、語学能力のさらなる向上を目指し、長期語学留学Ⅲを超える留学を行った学生に対して認定されるシステムです。留学先での高度な学習成果が求められ、その成果を報告することで単位が認定されます。	
特別研修Ⅰ		特別研修Ⅰは、多様な分野において、学外で特別な研修を受けた場合に単位が認定されるシステムです。学生は、指定された研修プログラムに参加し、専門的なスキルや知識を身につけることが求められます。研修の内容や成果に基づき、報告書やプレゼンテーションなどを通じてその学びを証明することで、単位が認められます。	
特別研修Ⅱ		特別研修Ⅱは、特別研修Ⅰを既に取得した学生を対象に、さらに高度な内容や異なる分野で学外の特別研修を行った場合に単位が認定されるシステムです。学生は、より専門的または新しい分野の研修に参加し、その成果を報告書やプレゼンテーションを通じて証明することで、追加の単位が認められます。特定の研修内容や成果に応じて、個別に評価が行われます。	
ボランティア研修Ⅰ		ボランティア研修Ⅰは、学生が学外で一定の時間以上のボランティア活動に従事し、その経験と成果を報告書としてまとめることで単位が認定されるシステムです。ボランティア活動を通じて社会貢献の意識を高め、実践的なスキルやリーダーシップを養うことを目的としています。	
ボランティア研修Ⅱ		ボランティア研修Ⅱは、ボランティア研修Ⅰを既に取得した学生が、さらに継続的または新たなボランティア活動を行い、その経験と成果を報告することで追加の単位が認定されるシステムです。より専門的な活動や長期間のプロジェクトに従事することが求められます。	
インターンシップⅠ		インターンシップⅠは、学生が一定期間、企業や組織での実務経験を積むことで、実践的なスキルや知識を習得し、単位が認定されるシステムです。参加者は、職業選択の視野を広げ、社会人としての基礎力を養うことを目指します。インターンシップ終了後には、報告書を提出し、その成果を評価されます。	

		インターンシップⅡ		インターンシップⅡは、インターンシップⅠを修了した学生が、さらに高度な実務経験を積むためのプログラムです。より専門的な業務に従事し、実務能力を深めるとともに、キャリア形成における明確な目標設定を行います。修了後には、詳細な報告書とプレゼンテーションが求められます。	
		インターンシップⅢ		インターンシップⅢは、インターンシップⅡを修了した学生が、長期的かつ専門的なインターンシップに参加することで、実際の業務に深く関わり、リーダーシップやプロジェクトマネジメントのスキルを習得する機会を提供します。この段階では、自らの専門分野での実績を築くことが期待され、評価は実務成果に基づいて行われます。	
教職課程	教育の基礎的理解に関する科目	教育の原理		本講義では、教育の理念並びに基本的諸概念を、その歴史や思想の変遷を含んで基本的知識を講義し、受講者による理解を目指す。具体的には、①学力形成をめぐる教授と学習論を軸として、その理念と歴史と思想の変遷をつかめるようにする　②家族・子どもの生活と教育との関連要因と相互関係を事例に即してつかみ、その基本的諸概念を理解できるようにする　③意図的組織的教育制度である学校の歴史的変遷をたどりつつ、学校・教員の位置と役割についての基本的概念を理解できるようにする。 上記目標に迫るため、受講生の学校体験の振り返りを出発点として、学校・教師の位置・役割の変遷につなげられるようにしたい。また、過去と今日の学力問題の諸説を紹介しながら、教授と学習をめぐる諸概念を深められるようにしたい。さらに、家族と子どもの生活の変遷とそこへの教育的対応をめぐる歴史と理念を、視聴覚教材・実践記録も活用しつつ理解できるようにしたい。	
		教職論		本講義では、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等についての基本的な知識・技術について理解・習得を目指す。具体的には①教師の労働実態を踏まえつつ、組織としての学校における多様で多面的な日常の教員の役割を理解する。②「教育課程と授業」「生徒へのケアとクラス」「学校運営と校務分掌」「地域との連携」等に即して、教員の職務内容の基本を理解する。③教師の「困難とやりがい」等の教師文化、並びに社会からの要請も踏まえつつ、教職の意義を理解する。 上記目標に迫るため、まず受講生の教師体験の振り返り、並びに教師の日常の仕事の実際から、教員の役割を考察する。また、教師の「困難とやりがい」等の教職に対する自意識や保護者や地域住民からの要請を検討する。さらにいくつかの柱に即して、「教員の主要任務」の実際を、視聴覚教材や実践記録等を素材に考察する。	
		教育の制度		授業のテーマと到達目標は、教育制度の基本的な原理を、具体的な制度や社会、学校現場と関連付けて考えられるようになることと、諸制度が作られた歴史的経緯を踏まえながら現在の教育制度の課題を指摘できるようになることである。 日本の教育を支えてきた制度や、その制度が現在抱えている課題を学習する。	
		教育心理学		授業のテーマと到達目標は、教育心理学の基本的な概念や理論を理解し、それを実践に活かす思考力を身につけることである。人間の発達、および学習、教授法、評価法をテーマとして教育現場に活かせる心理学的知見を紹介していく。	
		特別支援教育概論		特別支援教育の理念や概要、対象となる生徒の障害や特別な教育的ニーズについて、正しく理解するとともに、特別支援教育の歴史、制度、仕組み、教育課程、等についても基礎的知識を学ぶ。また、学校における特別支援教育の具体的な進め方や、合理的配慮、インクルーシブ教育システムの構築、ユニバーサルデザインの授業等についても理解を図る。 それぞれの知識の理論だけでなく、学校現場の状況や課題など踏まえたものとする。	
		カリキュラム論		日本の公教育の学校カリキュラム・教育課程を主題に、学習指導要領および教育課程行政、カリキュラム理論、カリキュラム編成の考え方、カリキュラム開発と評価、カリキュラムの国際比較、カリキュラムと学力の関係等を取り上げ、グループワークと講義を行っていく。	

道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育論		道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。 道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。	
	総合的な学習の時間の指導		学習指導要領をもとに「総合的な学習の時間」の一般的な目標・内容・方法について学ぶ。さらに優れた先行実践の比較・分析を通して，自分が将来担うであろう発達階梯に即して，具体的な指導案を作成し，その実現可能性を探る。	
	特別活動論		特別活動は、学校でのさまざまな集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、集団や学校生活の向上を目指して行われるさまざまな活動の全体を指す。この授業では、学校教育における特別活動の位置と性格や特別活動の様々な活動、具体的な指導のあり方をグループワークを行いながら進めていきます。とくにクラス活動を中心に据えて、担任教師の役割、クラスづくり、生徒の関係づくりなどを中心に具体的な素材を使いながら進めていく。	
	教育方法論		学校の実際の授業のあり方を中心にして、諸外国の授業例との比較も交えながら、知識の伝達と習得、指導過程・指導法の工夫、指導計画、学習指導案、学習の実際、学習形態の工夫、学習と理解に関する心理学的知見、教材・教具の理論と活用、情報機器の活用等に関して、グループワークと講義を進めていく。	
	情報通信技術の活用		情報通信技術を活用する知識や技能はすべての教員に必須である。この授業科目では、情報通信技術を活用した学習指導や校務の考え方や理論、情報通信技術を活用することで実現する個別最適な学びや協働的な学び、児童及び生徒に情報活用能力を育むための指導法について、講義と演習を通して学ぶ。	講義　4／7回 演習　3／7回
	生徒・進路指導		生徒指導・進路指導の役割や課題は、社会の状況と密接に関連したものである。そこで、現在の生徒指導・進路指導の役割はどのような歴史的な経緯を経て求められるようになってきたのか、また、現在の具体的な教育問題についての検討を通して、現在求められている生徒指導・進路指導の実践を考えていく。さらに、生徒指導・進路指導を営む上で肝要なのは、児童生徒理解である。私たち（教師）は、どのように他者（児童生徒）を理解しているのかという理論的な検討を踏まえて、生徒指導・進路指導を実践する上での課題を考えていく。	
	教育相談		本講義では、教育相談の基本的な考え方を概説し、具体的な実践例を通して、児童生徒をとりまく諸問題への対応方法を考える。さらに、学校における教育相談の役割について、カウンセリングの理論・方法・内容の概説を加えながら検討する。	
教育実践に関する科目	教育実習Ⅰ		教育実習は、教職課程の総決算ともいうべきもので、一定の期間、生きた教育が行われている学校現場で、実際の教員の指導のもとに、教員として必要な知識・技能を修得する。 授業内容が実習であることから、教職課程で学んできた基礎理論を振り返りながら、実習校の指導方針に従い実習に当たる。	
	教育実習Ⅱ		教育実習は、教職課程の総決算ともいうべきもので、一定の期間、生きた教育が行われている学校現場で、実際の教員の指導のもとに、教員として必要な知識・技能を修得する。 授業内容が実習であることから、教職課程で学んできた基礎理論を振り返りながら、実習校の指導方針に従い実習に当たる。	
	事前・事後指導		教育実習は、教職課程の総決算ともいうべきものです。教育現場での実習を通じて教職に必要な力量の形成を目指します。 教育実習にあたって事前に心得ておくべきこと、事前練習を行い、さらに実習終了後は実習の反省を行います	

	教職実践演習（中・高）		これまでの教職課程の学修における到達点を受講生ごとに把握する。そのために、必要に応じて、教科教育法担当教員、現職教員、教員経験者等さまざまなゲストティーチャーを取り入れながら実施していく。あわせて、教員に必要な資質能力についてのグループ討論、ロールプレイング、模擬授業、指導案・指導計画作成、ICTの利活用に関するワーク、学校現場観察等の活動を行い、教員に必要な実践力の基礎を培っていく。	共同
司書課程	生涯学習概論		生涯学習の基本的概念を、教育の歴史および関連資料を通して理解し、生涯学習施設と専門的職員の役割、支援のあり方について理解を深めていく。生涯学習についての、受講生自身の捉え方、説明ができることを目指す。 教育の歴史や関連する資料から社会教育・生涯学習の関連や概念を理解し、施行の実際との関連をとらえる授業を行っていく。随時、授業に関連した資料（新聞記事等）を読んで、グループワークによる他者との意見交流から、他者の考えを知り、自分の考えを深め、表現していく力を養っていく。	
	図書館概論		本授業では、図書館の歴史、法制度、役割と意義、サービス、図書館職員の業務、他機関との連携、課題と展望等について、基礎知識を学習する。受講生は授業を通して（1）図書館の歴史と現状、法制度（2）日本における図書館の種類及び各図書館の業務（3）公共図書館を中心とする図書館サービスの内容とその意義、（4）社会における図書館の位置づけと他機関連携について、理解し、説明できるようになることを目指す。 本授業は司書資格取得の必修科目かつ入門科目であり、図書館の基礎知識を学ぶものである。授業では講義および講義内容をより深く理解するためのグループディスカッションを行う。まず、図書館に関する科目で共通する基礎知識・基礎概念を学ぶ。その後、図書館の館種別に、歴史、法制度、社会での役割、サービスの内容と意義、図書館職員の資格と業務内容、他機関との連携、課題と今後の展望について、幅広く解説する。	
	図書館制度・経営論		公共図書館に関する法令や基準、また他の館種の図書館に関する法令を学び、図書館がどのような制度として存在しているかを理解するとともに、その枠組みの中での図書館経営の考え方、予算、職員等の経営資源の状況、統計と評価、管理形態等についてなどを学ぶ。また、7～8回程度の小レポートを出題する予定。	
	図書館情報技術論		本授業では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するために、コンピュータやネットワークの基礎、図書館業務システム、データベース、検索エンジン、電子資料（電子書籍、電子ジャーナル、マルチメディアデイジー図書など）、コンピュータシステム管理における情報セキュリティ、情報倫理について取り上げる。また、最新の情報技術と図書館について紹介し、図書館のアクセシビリティについても理解を深める。 毎回の授業では、講義と演習を組み合わせて行い、授業内容の理解を深めるために課題やmanabaを用いた小テストを行う。	講義　11／14回 演習　3／14回
	図書館サービス概論		公共図書館における各種サービスについて、実際に行われている事例など具体的に学んでいく。 前半では講義により、公共図書館サービスの基本的な内容の理解を深める。後半では、課題解決型サービスの現状と課題について、グループで調べて考えたことをまとめて発表を行う。	
	情報サービス論		情報サービスについて、レファレンスサービスを中心に講義を行う。 前半はレファレンスサービスを中心に、サービスの種類や提供のプロセス、レファレンスインタビューについて学習する。 後半は情報検索サービスや発信型情報サービス、利用者教育、各種情報源の特性について学習する。	
	児童サービス論		本科目は、児童サービスの意義や目的を理解し、基本的な知識を身につけるとともに、子どもと本を結びつける基礎的技術の習得することを目的とする。そのために公共図書館の児童サービスについて、概要を知るとともに実際のサービス手法について演習を行い、基礎的技術を習得していく。演習ではグループワークも行い、実習とともに受け手としての体験も大切にする。授業を通して図書館に足を運び、サービスを見たり、児童資料に触れたりできるようにする。	講義　8／14回 演習　6／14回
	情報サービス演習Ⅰ		この授業の目的は、図書館でレファレンス・サービスを行うための、基本的な知識と技術を身につけることである。 大学図書館を使って、様々なレファレンス・ツールの活用方法に習熟し、演習を通して探索方法のパターンを身につけ、図書館情報専門職としての実践的な能力を養っていく。	

情報サービス演習Ⅱ		この授業の目的は、図書館でレファレンス・サービスを行うための、基本的な知識と技術を身につけることである。 大学図書館のデータベースやwebサイトなど、様々なデジタルレファレンス・ツールを学び、演習を通して探索方法のパターンを身につけ、図書館情報専門職としての実践的な能力を養っていく。	
図書館情報資源概論		直接サービスを含めて、図書館は図書をはじめとした情報資源を前提としてサービスを提供する。このように図書館のサービスの中核をなす情報資源について、その種類とそれぞれの特性、その扱い方(収集や蓄積の仕方など)を解説し、その上で実際の業務であるコレクション形成に関する理論及び技術を解説する。	
情報資源組織論Ⅰ		情報資源組織化の手法を、現在採用されているものに加えてこれまで提案されてきたものを含めて体系的に理解する事を目指す。また、複数の図書館で行われている情報資源を組織化するための方法を理解する。おもに日本十進分類法をもとに、主題組織法の意義、主題分析、分類法、件名法について理解し、知識を得るとともに、図書館における情報資源組織化の業務を理解、実践できるようにする。	
情報資源組織論Ⅱ		授業の到達目標は、図書館情報資源組織化の目的・意義を理解し、組織化にあたって必要となる目録作業やメタデータ作成の基礎知識を修得する。これにより、目録法やメタデータについて説明できるようになることである。 授業では、各種図書館情報資源の組織化の理論と技術について、目録法、メタデータ、書誌コントロール等を解説する。 前半では、情報資源組織の目的・意義や方法を、次いで目録法の基礎的な事項を解説する。後半はメタデータと情報通信技術、書誌コントロールについて解説する。	
情報資源組織演習Ⅰ		情報資源に対する主題分析、分類作業、件名作業の演習を行う。これにより、情報資源組織業務についての実践的な能力を修得する。 第1回、2回で主題組織法の概要について演習した後、第3回～10回では『日本十進分類法 新訂10版』（NDC）に基づいて分類記号付与の技術について演習する。続いて第11回～15回では『基本件名標目表第4版』（BSH）に基づいて、件名標目付与の技術について演習する。毎回の授業では概ね、前半に理論を解説し、後半に演習問題を行う。	
情報資源組織演習Ⅱ		「情報資源組織論II」で学修した知識に基づき、多様な情報資源に関する目録作成の演習を行う。これにより、情報資源組織業務についての実践的な能力を修得する。 第1回で目録法の定義やその構成要素を解説し、第2回では『日本目録規則 2018年版』（NCR2018）の概要を解説する。第3回以降はNCR2018に基づいて、書誌データ作成の技術について演習する。さらに第13回では書誌ユーティリティにおける目録作成について解説し、第14回ではメタデータについて演習する。なお、毎回の授業では概ね前半に理論を解説し、後半に演習問題を行う。	
図書・図書館史		授業の到達目標は、図書館の起源から現代の図書館に至るまでの発展の流れを、記録メディアの変遷や社会的・文化的背景とともに理解することである。 本講義では人類がさまざまな記録や図書をどのように利用してきたか、図書館がどのように生まれ発展してきたかを学ぶ。図書および図書館の起源から現在の図書館に至るまでの発展の流れを社会的、文化的背景とともに理解することを目指す。海外ならびに日本の図書館史を学ぶ中で、図書館が担ってきた機能や役割がどのように変化していったのかを辿っていく。また、図書館が取り扱う図書をはじめとする様々な記録媒体の変遷や、読書・読書行為の歴史にも触れる。	

	図書館基礎特論		本科目は、図書館業務のうち特に情報発信に必要な情報技術を理解し、その技術を使いこなすための基礎力を身に付けることを目的とする。まずはデジタルデータの特徴を理解した上で、インターネットを利用した情報の発信、プログラミングについて学修する。特にインターネットを利用した情報の発信に関しては、学生自らがウェブページの作成を通じて、情報発信の基礎的な知識を修得する。 授業では、ウェブページの作成およびプログラミングについて講義し、必要に応じて演習を行う。具体的には、まず第１回でデジタルデータの特徴について解説し、第２回～第７回ではインターネットを利用した情報の発信として、ウェブページ作成のための技術を解説した後、実際に各自がウェブページを作成しそれを発表する。続く第８回以降はプログラミングについて、プログラミング言語Pythonを用いて解説するとともに演習を行う。	講義　7／14回 演習　7／14回
	図書館サービス特論Ⅰ		本科目では、司書課程で学んだすべての内容を復習し、専門用語や専門知識の定着を図る。司書課程学修の総括だけでなく、図書館採用試験への準備に活かすことを目的とする。 授業の各回では司書職採用試験で出題された問題にもチャレンジし、司書課程の内容で理解が浅い分野や、さらに学修すべき箇所を見つけ、今後の採用試験への準備につなげていくことを目指す。	
	図書館サービス特論Ⅱ		本科目では、大学図書館の機能や役割、諸活動について学修する。これにより、大学図書館に関わる法的根拠、機能や役割、各種サービスとそれを実現するために必要な情報資源について説明できるようになる。 授業の前半では、大学図書館の機能や役割、情報資源や職員、相互協力など基本的な内容について解説する。後半では、学術情報流通やオープンアクセス、情報リテラシー教育やラーニングコモンズなど発展的な内容について解説する。	
	図書館施設論		授業の到達目標は、（１）利用者・図書館員・設計者の視点から、図書館の施設や設備の意義について理解し、第三者に説明できるようになること、（２）現代社会の要請に合う図書館の施設づくりや設備の選定ができるようになることである。 本科目では、利用者が使いやすい図書館になるよう、建物の設計や館内の配置、備品の選定に留意し、利用環境を向上させるための知見を身につけていく。映像資料や図書館見学なども通して、施設の実際を視覚的にも理解していけるように工夫する。	
	図書館実習（事前・事後の指導を含む）		これまで司書課程で学んだ知識や技術を元に、図書館業務を実際に体験し、今日の図書館サービスが抱える課題や問題点等を見つけ、自分の解決方法を示すことができるようにすることを目的とする。 本科目は、学内での事前指導、図書館における実習、実習後の報告から構成される。事前指導では、実習に向けた心構えや基本的な知識・技術の確認、実習中の過ごし方等について指導を行い、実習では、公共図書館や本学大学図書館等において、指導を受けながら、各図書館の実習プログラムに沿って業務を経験する。事後にまとめとして実習報告会などの学修成果の発表、実習報告書の提出を行う。	
司書教諭課程	学校経営と学校図書館		本科目は、学校教育における学校図書館の役割を明らかにし、学校図書館の理念、教育行政との関わり、教育改革と学校図書館法改正後の諸課題を含め、学校図書館への総合的な理解を深める事を目的とする。 授業全体で身に付けることは、学校図書館の機能・役割を理解し、学校図書館の現状について、自分の言葉で説明できるようになることを目指す。そして学校図書館の活性化について、自分なりに考えていく力を養う。 授業では発表課題を複数回課すことで、司書に必要な「説明力」を身に付けるようにする。最終課題は、グループで学校図書館再生のための提言をまとめ、発表する。	

	学校図書館メディアの構成		本科目では、多様な学校図書館メディアとコレクションの構築、さらにはメディアを的確に提供するために必要な組織化について学修する。これにより、学校図書館メディアの種類や特性、学校図書館コレクションの構築について説明できるようになる。また、メディアの組織化に関しては、目録法、分類法、件名法の演習を行うことで、各業務についての実践的な能力を修得する。 本科目の前半では、学校図書館メディアの教育的意義と役割、学校図書館メディアの種類と特性、学校図書館のコレクション構築について解説する。後半の学校図書館メディアの組織化に関しては、第7回目に組織化の意義やプロセスを解説した後、第8回目以降において、目録法、分類法、件名法それぞれの解説および演習を行う。	講義　11／14回 演習　3／14回
	学習指導と学校図書館		学校図書館が学習情報センターとして機能すること、そして様々な背景を持つ生徒が十分に利用することができるよう、司書教諭に必要な知識とスキルを習得することを目標とする。 下記の5つの授業テーマを設け、講義・調査・個人発表を通して理解を進める。 ① 学校図書館行政のありかた ② 教科学習のサポートのありかた ③ 学校図書館を活用した授業のありかた ④ 様々な背景をもつ児童生徒に対する指導 ⑤ 教員に対する支援のありかた 授業内容は次のとおりである。 (1)　教科書をもとに講義を聴き、個人単位で各課題に取り組む。「調査」回はオンデマンドとし、集中的に取り組む時間を確保する。 (2)　課題の成果を発表し、全員で内容を共有する。 (3)　最終課題として、司書教諭・学校司書としての模擬授業を、いずれかのテーマ（読書指導／調べ学習／利用教育）で行う。	
	読書と豊かな人間性		読書の目的と意義、読書環境の整備や読書指導の方法等について理解し、それらを説明できるようになる。また、ブックトークなど子どもと本を結ぶための方法を体験し、その基本的な技能を身につける。 本科目では、学校図書館の3つの機能（「読書センター」、「学習センター」、「情報センター」）のうち、「読書センター」としての機能を解説する。はじめに読書の目的と意義を解説し、その後は、子どもの読書環境や発達段階に応じた読書指導、ブックトークやストーリーテリングなど子どもと本を結ぶための方法等を解説する。またグループワークを行い、その結果を発表する機会を設ける。	
	情報メディアの活用		本授業では、高度情報社会における学校図書館や教育現場で扱われている多様な情報メディアの特性を取り上げ、適切に利活用するための知識と技術を学ぶ。学校図書館メディアに関する著作権・情報倫理、読書バリアフリー・情報アクセシビリティについても触れ、演習を通して学校教育における情報通信技術の活用について理解を深める。課題制作ではグループワークを行う。	講義　7／14回 演習　7／14回
学校司書プログラム	学校図書館サービス論		学校図書館が学校教育の場でどのような役割を期待されているかを理解する。学校教育の場で、年間行事や学習計画や読書推進計画と学校図書館の関わり、学校司書の役割の重要性を認識する。学校司書の資質が学習や読書活動に影響を与えることを踏まえ、積極的かつ幅広いサービスの方策を探る。	
	学校図書館情報サービス論		学校図書館における情報サービスの種類や情報源の特性の理解を図るとともに、必要に応じて演習を行い、児童生徒及び教員に資料・情報を適切に提供できる能力を育む。	講義　7／14回 演習　7／14回

	学校教育概論		学校司書として学校に勤務することをねらいとし、学校教育や児童生徒の心身の発達、学校を取り巻く今日的課題などの基本的事項についての理解を深め、学校司書としての実践的な資質と能力を高めていくことを目標とする。 学校や教育行政における経験をもとに、学校に関わる諸課題について次の事項を中心に講義を展開する。　①学校教育の意義と目標　②学校教育と教育行政　③教育課程の意義と学習指導要領　④学校教育と教科書　⑤児童生徒の心身の発達及び学習の過程　⑥特別の支援を必要とする児童生徒に対する理解　⑦学校教育に関する今日的諸課題 また、授業内で課題に取り組むことが多いので授業参加は必修となる。	

（注）
1　開設する授業科目の数に応じ，適宜枠の数を増やして記入すること。
2　専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が４０人を超えることを想定するものについては，その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
4　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。なお，高等専門学校の学科を設置する場合は，「主要授業科目」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　高等専門学校の学科を設置する場合は，高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については，備考欄に「☆」を記入すること。

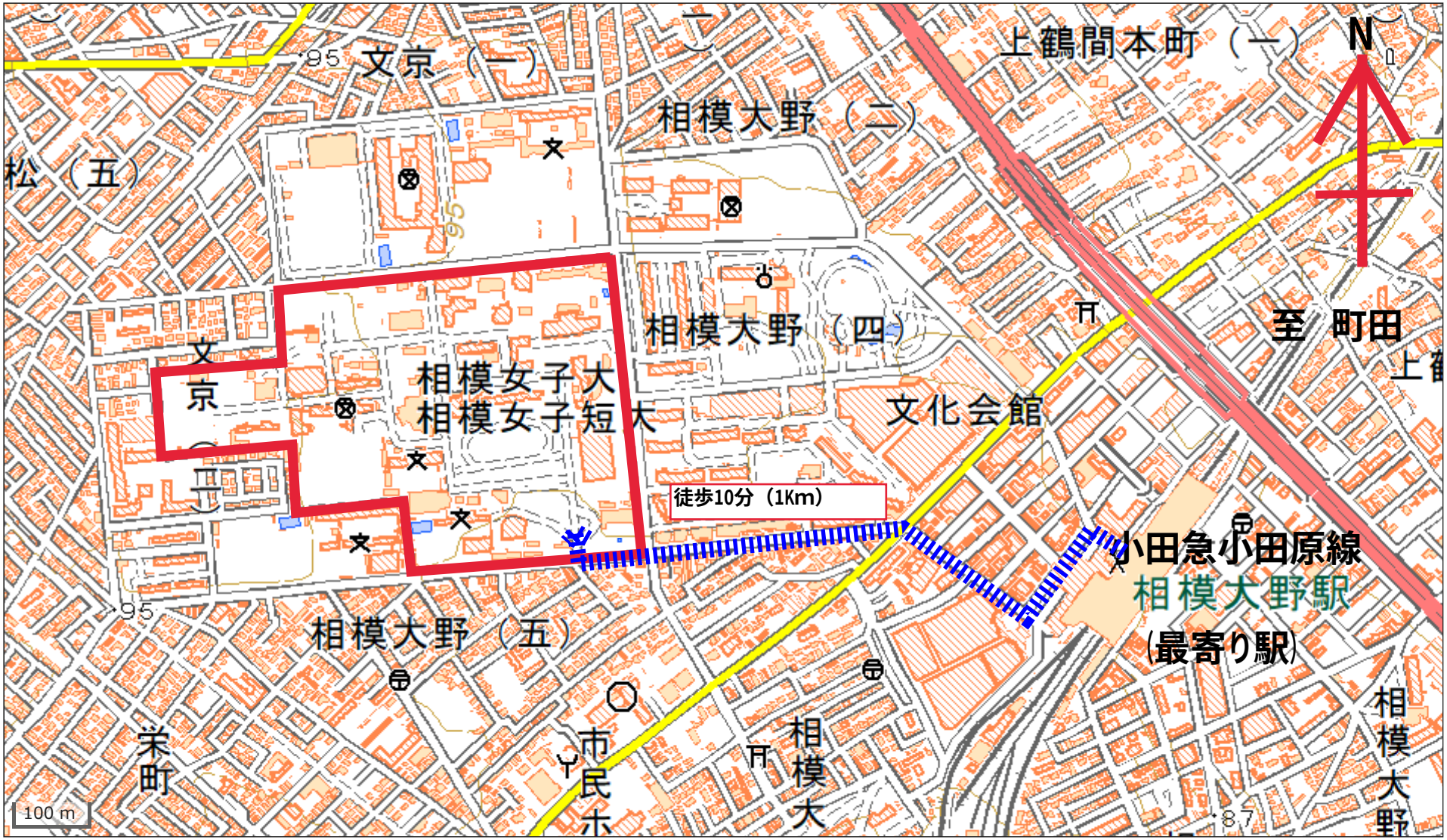
学校法人　相模女子大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
相模女子大学				相模女子大学				
学芸学部				学芸学部				
日本語日本文学科	110	3年次 5	450	日本語日本文学科	85	3年次 5	350	定員変更（△25）
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	110	3年次 5	450		0	3年次 0	0	令和8年4月学生募集停止 令和10年4月3年次編入学募集停止
				国際コミュニケーション学科	60	3年次 5	250	学科の設置（届出）
子ども教育学科	100	2年次 2 3年次 5	416	子ども教育学科	100	2年次 2 3年次 5	416	
メディア情報学科	95	3年次 5	390	メディア情報学科	95	3年次 5	390	
生活デザイン学科	45	3年次 5	190	生活デザイン学科	80	3年次 5	330	定員変更（35）
人間社会学部				人間社会学部				
社会マネジメント学科	110	3年次10	460	社会マネジメント学科	90	3年次10	380	定員変更（△20）
人間心理学科	120	3年次10	500	人間心理学科	110	3年次10	460	定員変更（△10）
				地域クリエーション学科	60	3年次5	250	学科の設置（届出）
栄養科学部				栄養科学部				
健康栄養学科	80	3年次 8	336	健康栄養学科	80	3年次 8	336	
管理栄養学科	100	3年次10	420	管理栄養学科	100	3年次10	420	
計	870	2年次 2 3年次 63	3,612	計	860	2年次 2 3年次68	3,582	
相模女子大学大学院				相模女子大学大学院				
栄養科学研究科				栄養科学研究科				
栄養科学専攻（M）	6	―	12	栄養科学専攻（M）	6	―	12	
栄養科学専攻（D）	2	―	6	栄養科学専攻（D）	2	―	6	
社会起業研究科 社会起業専攻（P）	30	―	60	社会起業研究科 社会起業専攻（P）	30	―	60	
計	38	－	78	計	38	－	78	
相模女子大学短期大学部				相模女子大学短期大学部				
食物栄養学科	80	―	160		0	―	0	令和8年4月学生募集停止
計	80	―	160	計	0	―	0	

⑴ 都道府県内における位置関係の図面

神奈川県相模原市南区文京2-1-1
学校法人　相模女子大学

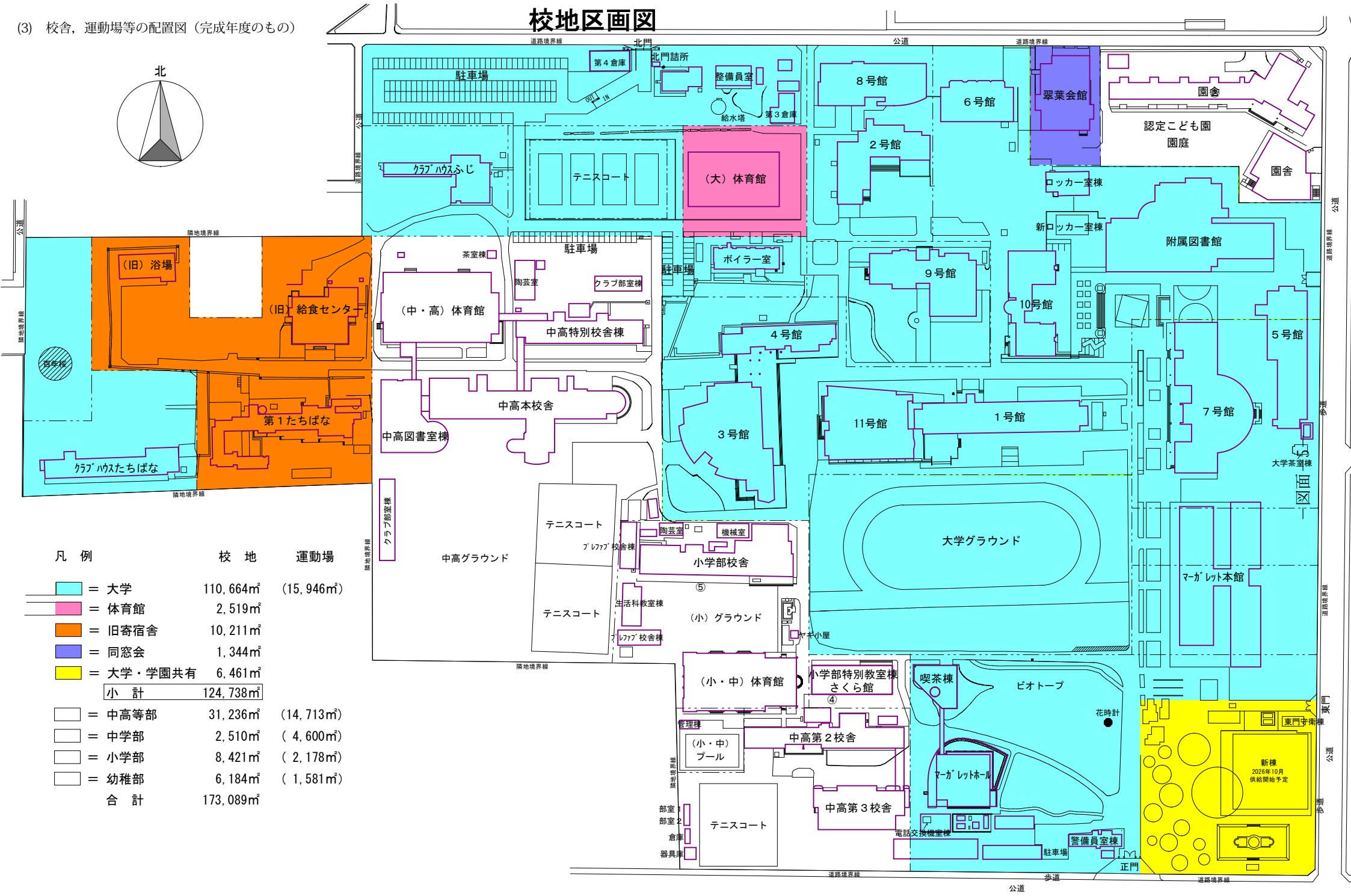
出典：国土地理院ウェブサイト　地理院地図Globeを加工して作成
https://maps.gsi.go.jp/globe/index_globe.html#46469/35.4382089/139.4311134/1/360/-90/0/&base=std&ls=std&disp=1&lcd=



出典：国土地理院ウェブサイト　地理院地図Globeを加工して作成
https://maps.gsi.go.jp/globe/index_globe.html#2528/35.53398444/139.42910773/1/360/-90/0/&base=std&ls=std&disp=1&lcd

(3)　校舎，運動場等の配置図（完成年度のもの）

校地区画図



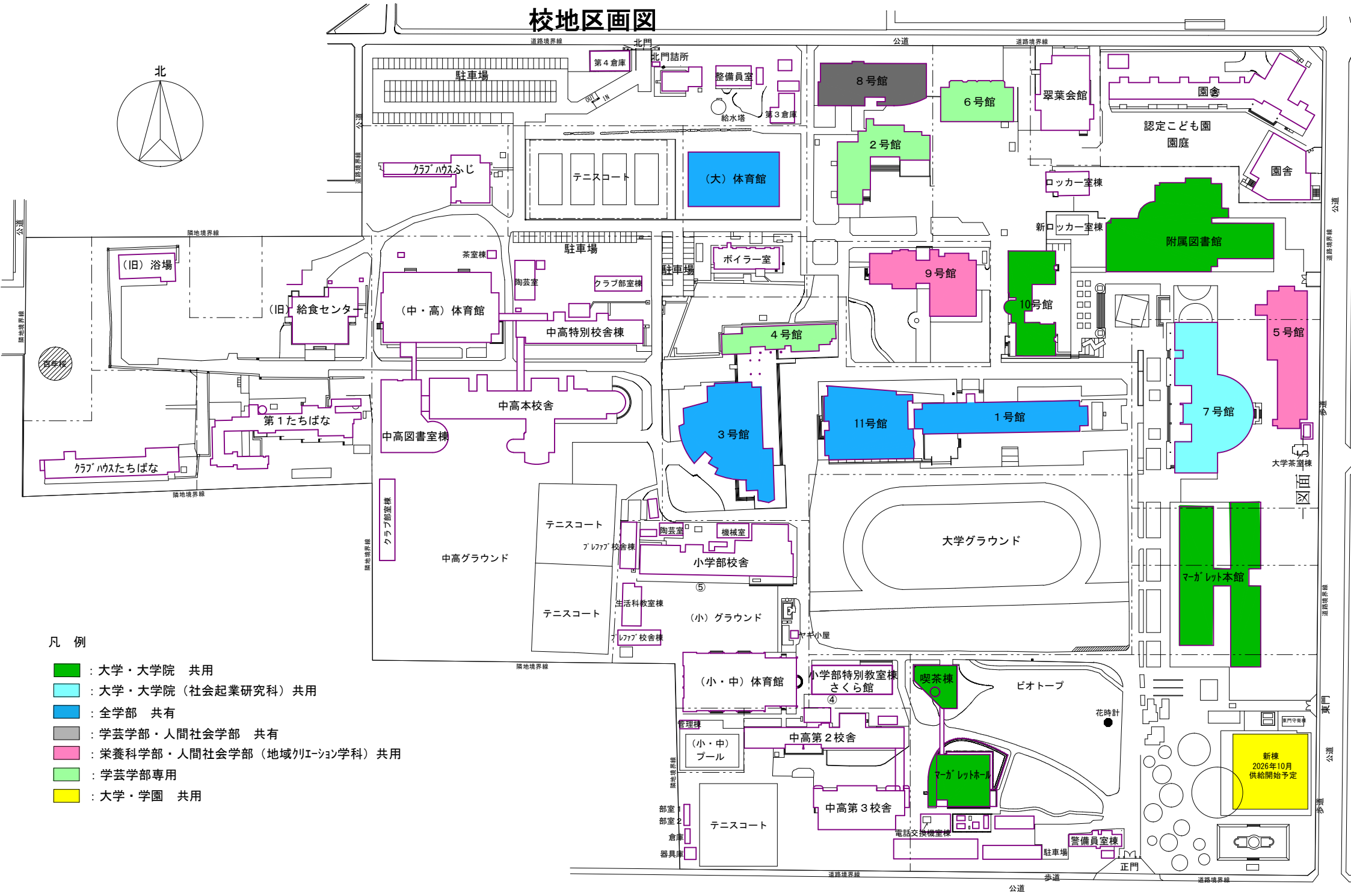
凡　例

	校　地	運動場
＝ 大学	110,664㎡	(15,946㎡)
＝ 体育館	2,519㎡	
＝ 旧寄宿舎	10,211㎡	
＝ 同窓会	1,344㎡	
＝ 大学・学園共有	6,461㎡	
小　計	124,738㎡	
＝ 中高等部	31,236㎡	(14,713㎡)
＝ 中学部	2,510㎡	(4,600㎡)
＝ 小学部	8,421㎡	(2,178㎡)
＝ 幼稚部	6,184㎡	(1,581㎡)
合　計	173,089㎡	

相模女子大学
—図面—3—

承　認	確　認	作　成	工事名称	縮尺	図面番号
			相模女子大学・施設配置図		
			図面名称	作成日	
			校地区画図	2024年12月	9

校地区画図



凡　例

- ：大学・大学院　共用
- ：大学・大学院（社会起業研究科）共用
- ：全学部　共有
- ：学芸学部・人間社会学部　共有
- ：栄養科学部・人間社会学部（地域ｸﾘｴｰｼｮﾝ学科）共用
- ：学芸学部専用
- ：大学・学園　共用

相模女子大学
―図面―4―

承認	確認	作成	工事名称	縮尺	図面番号
			相模女子大学・施設配置図		
			図面名称	作成日	
			校地区画図	2024年12月	9

（仮称）相模女子大学125周年記念事業キャンパス整備事業計画工程表（案）

20240703　（第4版）

年	2024												2025												2026
月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	～8					
打合	設計・監理契約 設計定例会議（頻度：0.5～1回/週）			基本設計図書説明 内外装仕上材提案					実施設計図書説明		金額調整提案	工事契約													
学園側承認	▼運営者の選定・契約			▼基本設計内容の承認 ▼内外装・構造方針・設備環境方針の承認		▼相見積業者のリストアップ	▼最終方針の承認		▼実施設計内容の承認		▼VE内容の承認	▼工事金額及び契約条件の承認									▼中間検査				
建築設計	基本設計(3ヶ月)			実施設計（5か月）					見積質疑対応・見積査定・VE調整				現場監理業務（14か月）												
	方針決定	基本設計図書作成		基本設計図書提出	コスト調整（１カ月）	実施設計図書作成			実施設計図書提出																
申請・協議	法規・条例整理		審査機関事前相談						確認申請準備											中間検査				完了検査	
	役所協議								省エネ申請																
							開発許可 照会申請	開発許可申請（必要な場合要調整）																	
建築 施工・積算	敷地測量・地質調査			大概算積算（適宜）					現場説明会		見積提出		地鎮祭							2026年10月中旬供給開始予定					
				大概算積算					質疑	見積	調整・契約	茜館解体工事（2か月）	建築工事 （12ヶ月） ～2026年8月初旬　（その後各検査要調整）												
ランドスケープ 設計	基本設計(3ヶ月)			実施設計（5か月）					見積質疑対応・見積査定・VE調整				現場監理業務（14か月）												
	方針決定	基本設計図書作成		基本設計図書提出	コスト調整（１カ月）	実施設計図書作成			実施設計図書提出																
ランドスケープ 施工・積算	敷地測量・地質調査			大概算積算（適宜）					現場説明会		見積提出														
				大概算積算					質疑	見積	調整・契約											ランドスケープ工事 （7ヶ月） ～2026年9月初旬 （その後各検査要調整）				

※学園承認スケジュールによって以降の工程は変動します。

相模女子大学学則（案）

第　1　章　総　　則

第１条　相模女子大学は、女子に広く高度な知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、建学の精神「高潔善美」にもとづく教養ある人材を育成することを目的とする。

第１条の２　本学は、教育研究の向上を図り、前条の目的および社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検および評価を行い、その教育研究活動等の改善・充実に努める。

２　前項の自己点検・評価に関する規程は別に定める。

第２条　本学に学芸学部、人間社会学部および栄養科学部を置く。

２　学芸学部に日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科、子ども教育学科、メディア情報学科、生活デザイン学科を置く。

３　人間社会学部に社会マネジメント学科、人間心理学科、地域クリエーション学科を置く。

４　栄養科学部に健康栄養学科、管理栄養学科を置く。

５　各学部の修業年限は４年とする。ただし、在学期間は８年を超えることはできない。

第２条の２　本学に大学院及び専門職大学院を置く。

２　大学院及び専門職大学院の学則は、別に定める。

(学芸学部の目的)

第２条の３　学芸学部は、真に自立した人間の育成を目指し、人文科学系の学問を中心に、総合的な知識･教養･倫理を教授し、情報化･国際化社会に対応できるコミュニケーション能力を養成することを目的とする。

２　前項の目的を達成するため、学芸学部各学科の目的は次に掲げるとおりとする。

（１）日本語日本文学科

日本語日本文学科は、日本語･日本文学の探究を基盤として、日本の文化について幅広くとらえ、その更なる創造と発展に寄与することのできる人間を育成する。

（２）国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科は、自身の特性を最大限に活かし、他者と協働する力、生涯にわたり学ぶ力、を身に着け、グローバルにコミュニケーションできる人材を育成する。

（３）子ども教育学科

子ども教育学科は、現代社会における教育・保育のあり方を問い直し、新しい子育てのシステムおよび教育･学習システムを構築することを目指し、幅広い教養を基礎に、実践的な教育力のある人間を育成する。

（４）メディア情報学科

メディア情報学科は、メディアに対する深い知識を身につけ、その内容である情報を文化的・社会的に幅広く理解し、メディアクリエーターとして実践的に情報発信に携わることのできる人間を育成する。

（５）生活デザイン学科

生活デザイン学科は、生活者としての視点で、社会を的確に捉え、読み解く力を養うと共に、社会での自立を目標に幅広い知識や教養を身につけ、人の生活を基盤とした生活のしくみ、環境、情報、モノをデザインする力を養い、クリエイションを通して社会で活躍できる人材を育成することを目的にする。

（人間社会学部の目的）

第２条の４　人間社会学部は、社会の動きやしくみを的確に把握する力、感性を生かして人の心を敏感に感じ取る力を育むとともに、社会人としてあるべき教養とマナーを身につけ、自立の実現をめざし、社会の発展と人類の平和に貢献できる人材の育成を目的とする。

２　前項の目的を達成するため、人間社会学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。

（１）社会マネジメント学科

社会マネジメント学科は、社会を通じて自らの存在を理解し、多様な社会生活の場で必要とされる企画、運営、実行の基礎となる能力を修得することにより、実際の社会で生き生きと活躍できる女性を養成する。

（２）人間心理学科

人間心理学科は、多様な視点から現代人の心を探求することにより、他者の心を理解しつつ自分自身の感覚と判断に従って自立的に生きる態度を培い、社会において幅広く活躍できる女性を養成する。

（３）地域クリエーション学科

地域クリエーション学科は、現在、地域が抱えている諸問題を再認識し、食や観光についての専門的知見やデータをもとに、新旧さまざまな地域固有の資源に多様な形で光を当て、地域振興に貢献することを第一に考える。すなわち、食や文化、景観などの地域資源を活かしながら、居住者と国内外からの訪問者が共に豊かに暮らし滞在することのできる持続可能な観光のあり方を提案し、実践するとともに、取組みをストーリー化して地域内外に発信できる人材を育成する。

（栄養科学部の目的）

第２条の５　栄養科学部は、食による健康維持、疾病の予防と治療が実践できる質の高い専門知識と技術を習得し、食の現場で活躍できる人材、かつ教職の場で栄養指導ができる人材、さらに食の安全衛生に関する監視・指導を行うことのできる人材を育成することを目的とする。

２　前項の目的達成のために、栄養科学部を健康栄養学科と管理栄養学科の２学科より編成し、それぞれの学科の特色に沿った授業科目を設定する。

（１）健康栄養学科

健康栄養学科は、地域社会で暮らす人々を対象に、栄養・食と運動による健康維持・増進や、健康を支える食品開発・流通を学び、健康維持・増進の指導ができる人材、食品開発・流通に携わる人材、家政教育や保健体育教育に携わる人材の育成を目的とする。

（２）管理栄養学科

管理栄養学科は、臨床の現場で、食による病気の予防と治療が実践でき、かつ教職の場で食教育の指導ができる人材の育成を目的とする。

第３条　本学は、神奈川県相模原市南区文京２丁目１番１号に置く。

第４条　本学は、図書館、研究室、実験実習室、体育館を設け附属として高等部、中学部、小学部、幼稚部を置く。

第　２　章　学年、学期、休業日

第５条　学年は、４月１日に始まり翌年３月３１日に終わる。

第６条　学年は、これを分けて春学期、秋学期とする。

春学期　　４ 月 １ 日より ９ 月２３日に至る。

秋学期　　９ 月２４日より ３ 月３１日に至る。

第７条　学年中休業日は次のとおりとする。

（１）日曜日

（２）国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する休日

（３）本学創立記念日　１０月１８日

（４）春季休業　　自　 ３ 月２１日　　至　３ 月３１日

（５）夏季休業　　自　 ８ 月 １ 日　　至　９ 月２３日

（６）冬季休業　　自　１２月２１日　　至　１ 月 ９ 日

ただし、休業日でも実習を課し、または特別講義を聴講させることがある。

２　前項の休業日ならびに休業期間については、学長は必要と認めた場合臨時に変更し、または臨時の休業日を定めることができる。

第　３　章　授業科目および教育課程

第８条　学芸学部の授業科目は全学共通科目、専門教育科目に分け、別に教職・教科に関する科目および特別支援教育に関する科目、司書・司書教諭・学校司書に関する科目、保育士に関する科目、学芸員に関する科目、情報処理士、上級情報処理士に関する科目、ビジネス実務士に関する科目、ウェブデザイン実務士に関する科目、一級・二級建築士試験指定科目、インテリアプランナー登録資格科目、商業施設士（補）に関する科目を置く。

２　授業科目は、必修科目または選択必修科目・選択科目として指定される。

第８条の２　人間社会学部の授業科目は全学共通科目、専門教育科目に分け、別にプレゼンテーション実務士、社会調査士および社会福祉士国家試験受験に関する科目、公認心理師国家試験受験資格に関する科目、准学校心理士に関する科目、ピアヘルパーに関する科目、フードコーディネーター３級に関する科目、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目、二等無人航空機操縦士に関する科目、温泉保養士に関する科目、情報処理士に関する科目を置く。

２　授業科目は、必修科目または選択必修科目・選択科目として指定される。

第８条の３　栄養科学部の授業科目は全学共通科目、専門教育科目に分け、別に栄養士・管理栄養士に関する科目、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目、教職・教科に関する科目および栄養教諭に関する科目、フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目、情報処理士に関する科目を置く。

２　授業科目は、必修科目または選択必修科目・選択科目として指定される。

第９条　授業科目を履修した学生には、修了認定の上授業科目ごとに単位が与えられる。

２　各授業科目の単位は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準により計算する。

（1） 講義については、１５時間の授業をもって１単位とする。ただし、大学が別に定める授業科目については、３０時間の授業をもって１単位とする。

（2） 演習については、３０時間の授業をもって１単位とする。ただし、大学が別に定める授業科目については、１５時間の授業をもって１単位とする。

（3） 実験、実習および実技については、４５時間の授業をもって１単位とする。ただし、大学が別に定める授業科目については、３０時間の授業をもって１単位とする。

3　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

第９条の２　前条第２項に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

2　前項に規定する授業の方法により修得できる単位数は、60単位を限度とする。

第10条　各学部学科の授業科目および単位数は別表のとおりとする。

2　教授会は、必要に応じて、前項の別表に定めた授業科目以外の授業科目およびその単位数を定めることができる。

第11条　学生は、履修しようとする授業科目を、毎学期の初めの所定の期間内に届け出なければならない。

2　各学部の授業科目の履修方法は次のとおりとする。

（1）学芸学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。（別表第１、２）

授業科目区分＼学科		日本語日本文学科	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	子ども教育学科	メディア情報学科	生活デザイン学科
全学共通科目	必修	6	6	6	6	6
	選択必修	11	11	11	11	11
	選択	7	7	7	7	7
小　計		24	24	24	24	24
専門教育科目	必修	28	12	11	26	25
	選択必修	36	9	7	38	34
	選択	16	59	62	16	21
小　計		80	80	80	80	80
自由科目		20	20	20	20	20
合　計		124	124	124	124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

（2）人間社会学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。（別表第１、２）

授業科目区分＼学科		社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	人間心理学科	地域ｸﾘｴｰｼｮﾝ学科
全学共通科目	必修	6	6	6
	選択必修	11	11	11
	選択	7	7	7
小　計		24	24	24
専門教育科目	必修	13	28	55
	選択必修	56	14	12
	選択	7	38	9
小　計		76	80	76
自由科目		24	20	24
合　計		124	124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

（3）栄養科学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。（別表第１、２）

授業科目区分＼学科		健康栄養学科	管理栄養学科
全学共通科目	必修	6	6
	選択必修	11	11
	選択	7	5
小　計		24	22
専門教育科目	必修	62	83
	選択必修	―	―
	選択	13	6
小　計		75	89
自由科目		25	13
合　計		124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

２年次までに配当されている専門教育科目の中で、健康栄養学科においては50単位中33単位を、管理栄養学科においては58単位中39単位を取得することを、３年次への進級要件とする。

（4）学芸学部および栄養科学部において教育職員免許状を得ようとする者は、（1）、（3）

の規定によるほか、教育職員免許法および同法施行規則の定める科目（別表第３、４）を履修し、単位を修得しなければならない。

各学部学科において取得できる教育職員免許状の種類と教科は次のとおりである。

学芸学部

日本語日本文学科	中学校教諭１種免許状	国語
	高等学校教諭１種免許状	国語、書道
国際コミュニケーション学科	中学校教諭１種免許状	外国語（英語）
	高等学校教諭１種免許状	外国語（英語）
子ども教育学科	小学校教諭１種免許状	
	幼稚園教諭１種免許状	
	特別支援学校教諭１種免許状	知的障害者、肢体不自由者、病弱者
メディア情報学科	高等学校教諭１種免許状	情報

栄養科学部

健康栄養学科	中学校教諭１種免許状	家庭、保健体育
	高等学校教諭１種免許状	家庭、保健体育
管理栄養学科	栄養教諭１種免許状	

（５）学芸学部日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科およびメディア情報学科において図書館司書の資格を得ようとする者は、（１）の規定によるほか、図書館法および同法施行規則の定める所定の科目(別表第５)を履修し、単位を修得しなければならない。

（６）学芸学部日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科、子ども教育学科およびメディア情報学科において司書教諭の資格を得ようとする者は、(１)の規定によるほか、（４）の規定による教職・教科に関する科目を履修するとともに、学校図書館司書教諭講習規程に基づく所定の科目（別表第５）を履修し、単位を修得しなければならない。

（７）学芸学部日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科、子ども教育学科およびメディア情報学科において学校司書モデルカリキュラムに準拠した所定の科目の単位を得ようとする者は、（１）の規定によるほか、 学校司書に関する所定の科目（別表第５）を履修し、単位を修得しなければならない。

（８）学芸学部子ども教育学科において保育士の資格を得ようとする者は、（１）の規定によるほか、児童福祉法施行規則第６条の２第１項第３号の規定に基づき、厚生労働大臣の定める修業教科目および単位数（別表第６）を修得しなければならない。

（９）学芸学部メディア情報学科において学芸員の資格を得ようとする者は、（１）の規定によるほか、博物館に関する科目（別表第７）を履修し、単位を修得しなければならない。

(10) 学芸学部メディア情報学科において上級情報処理士の資格を得ようとする者は、(１)の規定によるほか、上級情報処理士に関する科目（別表第８）を履修し、単位を修得しなければならない。

(11) 学芸学部メディア情報学科においてビジネス実務士の資格を得ようとする者は、(１)の規定によるほか、ビジネス実務士取得に関する科目（別表第９）を履修し、単位を修

得しなければならない。

(12) 学芸学部メディア情報学科においてウェブデザイン実務士の資格を得ようとする者は、（１）の規定によるほかウェブデザイン実務士取得に関する科目（別表第10）を履修し、単位を修得しなければならない。

(13) 学芸学部生活デザイン学科において一級建築士、二級建築士の受験資格を得るためには（１）の規定によるほか一級・二級建築士試験指定科目（別表第11）を履修し、単位を修得しなければならない。

(14) 学芸学部生活デザイン学科においてインテリアプランナーの登録資格を得るためには、（１）の規定によるほか、インテリアプランナー登録資格科目（別表第12）を履修し、単位を修得しなければならない。

(15) 学芸学部生活デザイン学科において商業施設士（補）の資格を得るためには、（１）の規定によるほか、商業施設士（補）に関する科目（別表第13）を履修し、単位を修得しなければならない。

(16) 人間社会学部社会マネジメント学科においてプレゼンテーション実務士の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、プレゼンテーション実務士に関する科目（別表第14）を履修し、単位を修得しなければならない。

(17) 人間社会学部社会マネジメント学科において社会調査士の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、社会調査士に関する科目（別表第15）を履修し、単位を修得しなければならない。

(18) 人間社会学部社会マネジメント学科および人間心理学科において社会福祉士国家試験の受験資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、社会福祉士国家試験の受験資格に関する科目（別表第16）を履修し、単位を修得しなければならない。

(19) 人間社会学部人間心理学科において准学校心理士の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、准学校心理士に関する科目（別表第17）を履修し、単位を修得しなければならない。

(20) 人間社会学部人間心理学科においてピアヘルパーの受験資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、ピアヘルパーに関する科目（別表第18）を履修し、単位を修得しなければならない。

(21) 人間社会学部人間心理学科において公認心理師国家試験の受験資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、公認心理師国家試験の受験資格に関する科目（別表第19）を履修し、単位を修得しなければならない。

(22) 人間社会学部地域クリエーション学科においてフードコーディネーター３級の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、フードコーディネーター３級に関する科目（別表第20）を履修し、単位を修得しなければならない。

(23) 人間社会学部地域クリエーション学科において食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目（別表第23）を履修し、単位を修得しなければならない。

(24) 人間社会学部地域クリエーション学科において二等無人航空機操縦士の受験資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、「ドローン操縦技術」を履修し、単位を修得しなければならない。

(25) 人間社会学部地域クリエーション学科において温泉保養士の資格を得ようとする者は、

（２）の規定によるほか、「ホスピタリティ産業論」を履修し、単位を修得しなければならない。

(26) 栄養科学部健康栄養学科において栄養士の資格を得るためには、（３）の規定によるほか、栄養士法、同法施行令および同法施行規則に定める所定の科目（別表第21）を履修し、単位を修得しなければならない。

(27) 栄養科学部健康栄養学科においてフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの受験資格を得ようとする者は、（３）の規定によるほか、フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目（別表第22）を履修し、単位を修得しなければならない。

(28) 栄養科学部健康栄養学科および管理栄養学科において食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を得ようとする者は、（３）の規定によるほか、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目（別表第23）を履修し、単位を修得しなければならない。

(29) 栄養科学部管理栄養学科において栄養士の資格を得るためには、（３）の規定によるほか、栄養士法、同法施行令および同法施行規則に定める所定の科目（別表第24）を履修し、単位を修得しなければならない。

(30) 栄養科学部管理栄養学科において管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、（３）の規定によるほか、栄養士法、同法施行令、同法施行規則および管理栄養士学校指定規則に定める所定の科目（別表第25）を履修し、単位を修得しなければならない。

(31) 学芸学部、人間社会学部、栄養科学部において情報処理士の資格を得ようとする者は、（１）（２）（３）の規定によるほか、情報処理士に関する科目（別表第26）を履修し、単位を修得しなければならない。

第11条の２　本学は、学生が各学期にわたって適切に授業科目を履修するために、卒業要件として学生が修得すべき単位数について、学生が１学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めることができる。

２　本学は、その定めるところにより、所定の単位を優れた成績をもって修得した学生については、前項に定める上限を越えて履修科目の登録を認めることができる。

３　本条に関する規程は別に定める。

第11条の３　本学は、他学科の専門教育科目を履修させることができる。

２　他学科科目履修に関し必要な事項は、別に定める。

第12条　本学が教育上有益と認めるときは、他の大学または短期大学との協議により、学生に当該大学または当該短期大学の授業科目を履修させることができる。

２　前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、６０単位を限度として本学において修得した単位として認定できる。

３　前２項の規定は、学生が外国の大学または短期大学に留学する場合に準用する。

第12条の２　本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

２　前項により認定できる単位数は、前条第２項および第３項の単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

第13条　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学または短期大学において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）を、

本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

2　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第１項に規定する学修を、本学における授業科目の履修により修得したものとして認定することができる。

3　前１項および２項により認定できる単位数は、編入学、転入学等の場合を除き本学において修得した単位以外のものについては、第12条第２項および第３項ならびに前条第２項の単位数と合わせて６０単位を超えないものとする。

第　4　章　　入学、留学、転学部転学科、休学、復学、退学、転学、再入学および編入学

第14条　入学の時期は４月とする。

第15条　収容定員は次のとおりとする。

	入学定員	編入学定員（第２年次）	編入学定員（第３年次）	収容定員
学芸学部				
日本語日本文学科	85名		５名	350名
国際コミュニケーション学科	60名		５名	250名
子ども教育学科	100名	２名	５名	416名
メディア情報学科	95名		５名	390名
生活デザイン学科	80名		５名	330名
小　　計	420名	２名	25名	1,736名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	90名		10名	380名
人間心理学科	110名		10名	460名
地域クリエーション学科	60名		５名	250名
小　　計	260名		25名	1,090名
栄養科学部				
健康栄養学科	80名		８名	336名
管理栄養学科	100名		10名	420名
小　　計	180名		18名	756名
合　　計	860名	２名	68名	3,582名

2　学芸学部子ども教育学科および栄養科学部健康栄養学科、管理栄養学科の学級数は、１学年各２学級、４学年合計各８学級とする。

第16条　本学に入学できる者は、女子にして次の各号の１に該当する者でなければならない。

（１）　高等学校を卒業した者または中等教育学校を卒業した者

（２）　通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）

（３）　外国において学校教育における12年の課程を修了した者、またはこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

（４）　文部科学大臣の指定した者

（５）　高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程

による大学入学資格検定に合格した者を含む)

（６） 相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本学において認めた者

（７） 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（８） 個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、１８歳に達した者

第17条 前条の入学志願者の数が定員を超えるときは、選抜試験の上、学長は入学を許可することができる。

第18条 入学志願者は、所定の様式の入学願書に別に定めるところの書類その他を添えて提出しなければならない。

第19条 入学を許可された者は、速やかに本学所定の在学保証書を保証人および副保証人連署の上提出しなければならない。

第20条 保証人は、父母またはこれに準ずる者で本人在学中における一切の事項について責任を負うものとする。副保証人は、独立の生計を営む者でなければならない。

第21条 保証人または副保証人が死亡し、または前条の要件を失った場合には、さらに保証人または副保証人を定め在学保証書を提出しなければならない。保証人または副保証人を変更しようとするときも同様とする。保証人または副保証人が転居したときは、速やかに届け出なければならない。

第22条 保証人または副保証人が長期にわたり不在のときは、あらかじめ相当の代理保証人を定め届け出なければならない。

第23条 本学に在学する者は、自宅または学寮以外から通学する場合は、居住先を学長に届け出なければならない。

第24条 本学の学生が、本学との間であらかじめ留学に関する協議が成立しているか、または教授会の議を経て学長が認定した外国の大学または短期大学の授業科目を履修するため、当該大学等への留学を希望するときは、審査の上、学長はこれを許可することができる。

２ 留学期間は、１年以内とする。ただし、特別の事情があると認められる場合は、通算して２年を超えない範囲で留学期間の延長ができる。

３ 留学期間は、修業年限および在学年限に算入する。

第24条の２ 本学の学生が特別の事情により、他の学部の学科、同一学部内の他の学科を志望するときは、選考の上、学長はこれを許可することができる。

２ 前項に関する規程は、別に定める。

第25条 病気その他やむを得ない事情により２カ月以上休学する者は、その理由を記し、保証人連署の上願い出なければならない。

２ 休学期間は、継続して１年以内とする。ただし、特別の事情があると認められる場合は、通算して４年を超えない範囲で休学期間の延長ができる。

３ 休学期間は、修業年限および在学期間に算入しない。

４ 休学の理由が消滅して出校する場合は、保証人連署の上復学を願い出なければならない。

５ 復学は、学期の始めとする。

第26条 退学および転学を望む者は、その理由を記し、保証人連署の上願い出なければならない。

第27条 本学を退学した者が再入学を希望するときは、選考の上、学長はこれを許可することが

できる。

第28条　次に掲げる者に対しては、欠員または編入学定員のある場合に限り、選考の上、学長は転入学または編入学を許可することができる。

（１）他の大学から本学に転入学を志望する者

（２）大学、短期大学または編入学に関する法令に定める教育課程の卒業者で本学に編入学を希望する者

第29条　次の各号の１に該当する者は、教授会の議を経て学長が退学を命ずることができる。

（１）第　２　条第５項に定める在学年限を超えた者

（２）第２５条第２項に定める休学期間を超えた者

（３）授業料等納付金を滞納し、督促を受けてもなお納入しない者

（４）長期間行方不明の者

第30条　学生の入学、留学、転学部転学科、休学、復学、退学、転学、再入学および編入学は、教授会の議を経て学長が許可することができる。ただし、教授会での審議に当たっては、第52条の２第３項、第４項および第５項によるものとする。

第　５　章　　委託生、外国学生、科目等履修生、単位互換履修生、研究生、聴講生

第31条　公共団体その他の機関から本学の特定科目につき研究を委託された者があるときは、教授会の議を経て学長は委託生として許可することがある。外国学生の場合は大学評議会の議を経て学長はこれを許可することがある。

２　委託生、外国学生に関しては、本学則および規則を適用する。

第32条　本学に開設されている授業科目のうち、１または複数の科目の履修を希望する者に対しては、正規課程の学生の教育に支障が生じない場合に限り、教授会において選考の上、学長は科目等履修生としてこれを許可することができる。

２　科目等履修生として願い出ることのできる者は、第１６条に規定する入学資格を有する者とする。ただし、教授会が当該授業科目を履修することのできる十分な学力を有すると認める者については、この限りではない。

３　履修を希望する者は、所定の期日までに願書等必要書類に検定料10,000円を添えて願い出なければならない。

４　履修を許可された者は、所定の期日までに登録料10,000円、履修料１単位につき15,000円を納入しなければならない。実験実習費は別途徴収する。一度納入した学費は一切返還しない。

５　科目等履修生の在学期間は、６カ月とする。ただし、引き続き履修しようとする者は、新たに願い出て許可を受けなければならない。

６　科目等履修生は、その履修する科目について正規の学生に準じ単位を修得することができる。

７　科目等履修生に関する規程は別に定める。

第32条の２　本学と単位互換協定を締結している大学および短期大学に在籍し、本学に単位互換科目として開設されている授業科目の履修を希望する者に対しては、正規課程の学生の教育に支障が生じない場合に限り、教授会の議を経て、学長は単位互換履修生としてこれを許可することができる。

２　単位互換履修生に関する規程は、別に定める。

第32条の３　本学において特定の事項について研究を行うことを希望する者があるときは、教授

会の議を経て、学長は研究生としてこれを許可することができる。
2　研究生に関する規程は、別に定める。
第32条の４　本学の学生以外の者で、本学に開設されている授業科目のうち、１または複数の科目の聴講を希望する者があるときは、正規課程の学生の教育に支障が生じない場合に限り、教授会において選考の上、学長は聴講生としてこれを許可することができる。
2　聴講生に関する規程は別に定める。

第　６　章　　試験および卒業

第33条　授業科目の終了は、試験によって認定する。
第34条　試験は、毎学期の終わりの所定の期間に行う。ただし、授業科目により特別の事情がある場合は他の時期に行うことができる。
2　試験等に関する事項は、別に定める。
第35条　試験は、筆記試験、論文試験または口述試験および実習、実験とする。
第36条　試験の成績は、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｄ又はＰ、Ｆの７種類の評語をもって表し、Ｓ、Ａ、Ｂ、Ｃ、Ｐを合格とする。
第37条　病気その他やむを得ない事情により試験に欠席した者に対しては、追試験を行うことができる。
第38条　休学した者は、その学期の試験を受けることができない。
第39条　削除
第40条　本学に４年以上、途中編入の場合はそれぞれ指定された期間在学し、所定の科目および単位数を修得した者に対して学長は、教授会の議を経て卒業証書を授与する。
2　卒業の時期は、学年の終了日とする。ただし、春学期終了日までに卒業要件を充たした場合は、春学期の終了日とすることができる。
3　本学を卒業した者には、学士の学位を授与する。
4　前項の学位の表記は、次のとおりとする。

学芸学部	
日本語日本文学科	学士（文　学）
国際コミュニケーション学科	学士（国際コミュニケーション学）
子ども教育学科	学士（子ども教育）
メディア情報学科	学士（メディア情報学）
生活デザイン学科	学士（生活デザイン学）
人間社会学部	
社会マネジメント学科	学士（社会マネジメント学）
人間心理学科	学士（人間心理学）
地域クリエーション学科	学士（地域クリエーション学）
栄養科学部	
健康栄養学科	学士（栄養学）
管理栄養学科	学士（栄養学）

第　７　章　　検定料、入学金および授業料その他

第41条　本学に入学を志願する者は、入学検定料35,000円を納めなければならない。

第42条　入学金および授業料等の学費は別表第27のとおりとする。

第43条　本学に入学を許可された者は、第42条の別表第27に定める入学金および授業料等の学費を納めなければならない。

第44条　授業料、施設設備費、実験実習費は半額ずつ春学期分は４月30日まで、秋学期分は10月31日までに納めなければならない。

第45条　一度納入した学費その他の納入金は返還しない。ただし、入学時の学費については、本人及び保証人の連署で所定の期間内に入学辞退の申し出のあった者に限り入学金以外の納入金を返還する。

第46条　休学を許可された者は、学期ごとに在籍料100,000円を納めなければならない。

第47条　授業料等の学費を納めない者は、納めた後でなければ試験を受けることができない。

第48条　実験、実習等に必要な費用は別に徴収する。

第　８　章　　賞　　罰

第49条　本学学生中品行方正、学業優秀な者は、授業料を免除し、あるいは奨学金を貸与または給与することがある。

第50条　本学に在学する者で本学の学則および規則に反し、または学生の本分にもとり本学の名誉を毀損する行為ある者および成業の見込みのない者は、教授会の議を経て学長がこれを懲戒する。

２　懲戒は、譴責、謹慎、停学および退学とする。ただし、退学は、次の各号の１に該当する者についてのみ行う。

（１）性行不良で改善の見込みがないと認められる者

（２）学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

（３）正当の理由がなく出席常でない者

（４）学校の秩序を乱しその本分に反した者

３　学生の懲戒の手続については別に定める。

第　９　章　　職員組織その他

第51条　本学に学長、副学長、学部長、学科長、附属図書館長を置く。

２　学長、副学長、附属図書館長の職務は別に定める。

３　学部長は、学部に関する校務をつかさどる。

４　学科長は、学科に関する校務をつかさどる。

第51条の２　本学に教授、准教授、講師、助教、助手、図書館司書および事務職員を置く。

第51条の３　本学に特任教員を置く。

２　特任教員の職務については別に定める。

第52条　本学に大学評議会（以下「評議会」という。）を置く。

２　評議会は、学長が招集し、その議長となる。

３　評議会は、大学、短期大学部および研究科に関し、次に掲げる事項について審議する。

（１）学事に関する重要事項
（２）学生の身上に関する事項
（３）学則その他重要な規則の制定又は改廃に関する事項
（４）大学予算の原案に関する事項
（５）その他、学長の諮問事項
４　評議会に関する規程は、別に定める。

第52条の２　各学部に教授会を置く。
２　教授会は、教授、准教授および講師をもって構成する。
３　教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長がそれらの事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
（１）学生の入学、卒業及び課程の修了
（２）学位の授与
（３）教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
４　教授会は、次に掲げる事項について審議し、学長に対して意見を述べることができる。
（１）教授、准教授、講師、助教および助手の任用、昇任の際の教育研究業績に関する事項
（２）学部学科の教育課程に関する事項
（３）授業科目の種類および編成に関する事項
（４）各種委員の選出に関する事項
（５）学術研究に関する事項
（６）学生の学籍に関する事項
ただし、前項で規定する事項を除く
（７）学生の賞罰に関する事項
（８）その他教育研究に関する事項および学長からの諮問事項
５　前項で規定される事項について、教授会が長期に亘り開催されないことで、学生に不利益が生ずる場合は、必ずしも教授会の議を経ることなく、学長はこれを決定することができる。
６　学部教授会に関する規程は、別に定める。

第　１０　章　　図　書　館

第53条　本学に図書館を置く。
２　図書館の規程は、別に定める。

第　１１　章　附属施設

第54条　本学に日本学国際研究所を置く。
２　日本学国際研究所の規程は、別に定める。

第55条　本学に教職センター及び子育て支援センターを置く。
２　教職センター及び子育て支援センターの規程は、別に定める。

附　則

１．昭和３１年４月１日一部改正
本学則は昭和３１年４月１日からこれを適用する。但し昭和３０年度以前の入学者については、従前の学則による。

２．昭和３５年４月１日一部改正
本学則は昭和３５年４月１日からこれを適用する。但し昭和３４年度以前の入学者については、従前の学則によるが教育職員免許状を取得する者は本学則による。

３．昭和３６年４月１日一部改正
本学則は昭和３６年４月１日からこれを適用する。但し昭和３５年度以前の入学者については、従前の学則によるが教育職員免許状を取得する者は本学則による。

４．昭和３７年４月１日一部改正
本学則は昭和３７年４月１日からこれを適用する。但し昭和３６年度以前の入学者については、従来の学則によるが教育職員免許状を取得する者は本学則による。

５．昭和３９年４月１日一部改正
本学則は昭和３９年４月１日からこれを適用する。但し昭和３８年度以前の入学者については、従来の学則による。

６．昭和４０年４月１日一部改正
本学則は昭和４０年４月１日からこれを適用する。但し昭和３９年度以前の入学者については、従来の学則による。

７．昭和４１年４月１日一部改正
本学則は昭和４１年４月１日からこれを適用する。

８．昭和４２年４月１日一部改正
本学則は昭和４２年４月１日からこれを適用する。ただし第２条・第１１条・第１３条ならびに第３６条については昭和４１年４月１日からこれを適用する。

９．昭和４３年４月１日一部改正
本学則は昭和４３年４月１日からこれを適用する。ただし第２条・第１１条・第１３条ならびに第３６条については昭和４１年４月１日からこれを適用する。

10．昭和４４年４月１日一部改正
本学則は昭和４４年４月１日からこれを適用する。ただし第２条・第１１条・第１３条ならびに第３６条については昭和４１年４月１日からこれを適用する。

11．昭和４６年４月１日一部改正
本学則は昭和４７年４月１日からこれを適用する。ただし「別表第３」英米文学科専門教育科目中英語学関係科目の単位数については、昭和４２年４月１日よりこれを適用する。

12．昭和４７年４月１日一部改正
本学則は昭和４７年４月１日からこれを適用する。

13．昭和４８年４月１日一部改正
本学則は昭和４８年４月１日からこれを適用する。

14．昭和４９年４月１日一部改正

本学則は昭和４９年４月１日からこれを適用する。

15. 昭和５０年４月１日一部改正

本学則は昭和４９年４月１日からこれを適用する。

16. 昭和５１年４月１日一部改正

本学則は昭和５１年４月１日からこれを適用する。

17. 昭和５２年４月１日一部改正

本学則は昭和５２年４月１日からこれを適用する。

18. 昭和５３年４月１日一部改正

本学則は昭和５３年４月１日からこれを適用する。ただし授業科目およびその単位数、ならびに授業料は、昭和５２年度以前の入学生についてはなお従前の学則を適用する。

19. 昭和５４年４月１日一部改正

本学則は昭和５４年４月１日からこれを適用する。ただし授業科目およびその単位数、ならびに授業料は、昭和５３年度以前の入学生についてはなお従前の学則を適用する。

20. 昭和５６年４月１日一部改正

本学則は昭和５６年４月１日からこれを適用する。ただし授業科目およびその単位数、ならびに授業料は、昭和５５年度以前の入学生についてはなお従前の学則を適用する。

21. 昭和５７年４月１日一部改正

本学則は昭和５７年４月１日からこれを適用する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに授業料は、昭和５６年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

22. 昭和６０年４月１日一部改正

本学則は昭和６０年４月１日からこれを適用する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに授業料は、昭和５９年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

23. 昭和６２年４月１日一部改正

本学則は昭和６２年４月１日からこれを適用する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに授業料は、昭和６１年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

24. 昭和６３年４月１日一部改正

本学則は昭和６３年４月１日からこれを適用する。ただし、授業科目および単位数は、昭和６２年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

25. 平成 元 年４月１日一部改正

本学則は平成元年４月１日からこれを適用する。ただし、昭和６３年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

26. 平成 2 年４月１日一部改正

本学則は平成２年４月１日からこれを適用する。ただし、平成元年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

27. 平成 3 年４月１日一部改正

本学則は平成３年４月１日からこれを適用する。ただし、平成２年度以前の入学生については、第12条、第24条および第３０条の規定を除き、なお従前の学則を適用する。

28. 平成 4 年４月１日一部改正

本学則は平成４年４月１日からこれを適用する。ただし、平成３年度以前の入学生については、従前の入学年度の学則を適用する。

29. 平成 5 年４月１日一部改正

本学則は平成５年４月１日から施行する。ただし、平成４年度以前の入学生の授業科目、単位数、授業料ならびに第１３条に規定する既修得単位の認定については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

30．平成 ６ 年４月１日一部改正

本学則は平成６年４月１日から施行する。ただし、平成５年度以前の入学生の授業科目、単位数、入学金および授業料等の学費については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

31．平成 ７ 年４月１日一部改正

本学則は平成７年４月１日から施行する。ただし、平成６年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

32．平成 ８ 年４月１日一部改正

本学則は平成８年４月１日から施行する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、平成７年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

33．平成 ９ 年４月１日一部改正

本学則は平成９年４月１日から施行する。ただし、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、平成８年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

34．平成１０年４月１日一部改正

本学則は平成１０年４月１日から施行する。ただし、別表第６（図書館学に関する科目）以外の授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、平成９年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

35．平成１１年４月１日一部改正

本学則は平成１１年４月１日から施行する。ただし、別表第６（図書館学に関する科目）以外の授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、平成１０年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

36．平成１２年４月１日一部改正

本学則は平成１２年４月１日から施行する。ただし、平成１１年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

英米文学科の学科名称を英語英米文学科に変更する。

37．平成１２年４月１日一部改正

本学則は平成１２年４月１日から施行する。ただし、平成１１年度以前の入学生については、第12条、第12条の２および第１３条の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

38．平成１３年４月１日一部改正

本学則は平成１３年４月１日から施行する。ただし、平成１２年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第１５条の規定にかかわらず、食物学科食物学専攻および食物学科管理栄養士専攻の収容定員は次のとおりとする。

	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
食物学科食物学専攻	２０５名	２１０名	２１０名	２１０名
食物学科管理栄養士専攻	２６０名	３２０名	３７０名	４２０名

39．平成１３年４月１日一部改正

本学則は平成１３年４月１日から施行する。ただし、平成１２年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

40．平成１４年４月１日一部改正

本学則は平成１４年４月１日から施行する。ただし、平成１３年度以前の入学生については、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、なお従前の入学年度の学則を適用する。

41. 平成１５年４月１日一部改正

本学則は平成１５年４月１日から施行する。ただし、平成１４年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

42. 平成１５年４月１日一部改正

本学則は平成１５年４月１日から施行する。ただし、平成１４年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

国文学科の学科名称を日本語日本文学科に変更する。

43. 平成１５年４月１日一部改正

本学則は平成１５年４月１日から施行する。ただし、平成１４年度以前の入学生については、第６条、第４４条、第４６条、第５１条および第５２条の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第１５条の規定にかかわらず人間社会学科の収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成１５年度	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度
人間社会学科	１００名	２００名	３００名	４００名
計	１，９８０名	２，１３０名	２，２３０名	２，３３０名

44. 平成１６年４月１日一部改正

本学則は平成１６年４月１日から施行する。ただし、第３２条の３の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

45. 平成１７年４月１日一部改正

本学則は平成１７年４月１日から施行する。ただし、平成１６年度以前の入学生については、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、なお従前の入学年度の学則を適用する。

また、第１５条の規定に拘わらず、日本語日本文学科、英語英米文学科、人間社会学科の収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成１６年度	平成１７年度	平成１８年度
日本語日本文学科	６６０名	６４０名	６２０名
英語英米文学科	６４０名	６３０名	６２０名
人間社会学科	２００名	３１０名	４２０名
計	２，１３０名	２，２１０名	２，２９０名

46. 平成１８年４月１日一部改正

本学則は平成１８年４月１日から施行する。ただし、平成１７年度以前の入学生については、授業科目およびその単位数ならびに卒業に要する単位数は、なお従前の入学年度の学則を適用する。

47. 平成１９年４月１日一部改正

本学則は平成１９年４月１日から施行する。ただし、平成１８年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

48. 平成２０年４月１日一部改正

本学則は平成２０年４月１日から施行する。ただし、平成１９年度以前の入学生については、

第9条、第11条の３、第24条の２、第25条、第27条、第30条、第32条の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

英語英米文学科の学科名称を英語文化コミュニケーション学科に変更する。

平成２０年度より学芸学部人間社会学科、食物学科の学生募集を停止する。

また、第１５条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
学芸学部				
日本語日本文学科	600名	580名	560名	540名
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	610名	600名	595名	590名
人間社会学科	320名	220名	110名	－
食物学科食物学専攻	160名	110名	55名	－
食物学科管理栄養士専攻	320名	220名	110名	－
子ども教育学科	100名	200名	300名	400名
メディア情報学科	95名	190名	295名	400名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	140名	280名	440名	600名
人間心理学科	110名	220名	350名	480名
栄養科学部				
健康栄養学科	80名	160名	248名	336名
管理栄養学科	100名	200名	310名	420名
合　計	2,635名	2,980名	3373名	3,766名

49. 平成２１年３月１２日一部改正

平成２１年４月１日から施行する。

50. 平成２２年３月１８日一部改正

平成２２年４月１日から施行する。ただし、平成２１年度以前の入学生については、第３条および第４０条第２項の規定を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

51. 平成２２年１０月２１日一部改正

平成２３年４月１日から施行する。ただし、平成２２年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

52. 平成２４年２月９日一部改正

平成２４年４月１日から施行する。ただし、同学則第１１条第２項第６号の規定を除き、平成２３年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

53. 平成２４年９月２７日一部改正

平成２５年４月１日から施行する。ただし、同学則第１１条第２項第６号の規定を除き、平成２４年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

54. 平成２５年２月２８日一部改正

平成２５年４月１日から施行する。ただし、平成２４年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第１５条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
学芸学部				

日本語日本文学科	535名	530名	530名	530名
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	560名	530名	510名	490名
子ども教育学科	400名	400名	400名	400名
メディア情報学科	380名	360名	345名	330名
生活デザイン学科	45名	90名	140名	190名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	570名	540名	520名	500名
人間心理学科	480名	480名	480名	480名
栄養科学部				
健康栄養学科	336名	336名	336名	336名
管理栄養学科	420名	420名	420名	420名
合　　計	3,726名	3,686名	3,681名	3,676名

55. 平成２５年１２月１９日一部改正

平成２６年４月１日から施行する。ただし、同学則第１１条第２項第６号の規定を除き、平成２５年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

56. 平成２６年２月２７日一部改正

平成２６年４月１日から施行する。ただし、同学則第１１条第２項第６号の規定を除き、平成２５年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

57. 平成２６年３月２０日一部改正

平成２６年４月１日から施行する。ただし、同学則第１１条第２項第６号の規定を除き、平成２５年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

58. 平成27年2月26日一部改正

平成27年4月1日から施行する。ただし、同学則第11条第２項第13号の規定を除き、平成26年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第15条の規定にかかわらず、子ども教育学科、人間心理学科の収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学芸学部			
子ども教育学科	407名	414名	416名
小　　計	1,932名	1,954名	1,956名
人間社会学部			
人間心理学科	472名	464名	464名
小　　計	992名	964名	964名
合　　計	3,680名	3,674名	3,676名

59. 平成 28 年２月 25 日一部改正

平成28年４月１日から施行する。ただし、同学則第11条第２項第13号の規定を除き、平成27年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

60. 平成29年12月21日一部改正、平成30年４月１日から施行する。ただし、第46条の規定を除き、平成29年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

61. 平成30年２月22日一部改正

平成30年４月１日から施行する。ただし、第46条の規定を除き、平成29年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

62.　平成30年９月27日一部改正

平成31年４月１日から施行する。ただし、第46条の規定を除き、平成30年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

63.　平成31年２月28日一部改正

平成31年４月１日から施行する。ただし、第11条第２項第19号および第46条の規定を除き、平成30年度の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第46条の規定を除き、平成29年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

64.　令和元年12月19日一部改正

令和２年４月１日から施行する。ただし、第11条第２項第19号および第46条の規定を除き、平成30年度の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第46条の規定を除き、平成29年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。

65.　令和２年２月27日一部改正

令和２年４月１日から施行する。ただし、令和元年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第46条については、本改正後の規定を適用、別表第11（一級・二級建築士試験指定科目）および別表第16（社会福祉士国家試験の受験資格に関する科目）については、平成28年度以降の入学生より本改正後の規定を適用、さらに別表第18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）については、平成30年度以降の入学生より本改正後の規定を適用する。

66.　令和２年10月29日一部改正

令和３年４月１日から施行する。ただし、令和２年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第46条については、本改正後の規定を適用、別表第18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）については、平成30年度以降の入学生より本改正後の規定を適用する。

67.　令和３年１月 28 日一部改正

令和３年４月１日から施行する。ただし、令和２年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、第 46 条については、本改正後の規定を適用、別表第 18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）については、平成 30 年度以降の入学生より本改正後の規定を適用する。

68.　令和３年２月 25 日一部改正

令和３年４月１日から施行する。ただし、令和２年度以前の入学生については、別表 18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

69.　令和３年３月 17 日一部改正

令和３年４月１日から施行する。ただし、令和２年度以前の入学生については、別表 18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）を除き、なお従前の入学年度の学則を適用する。

70.　令和３年７月 29 日一部改正、令和４年４月１日から施行する。ただし、第９条の２および別表 18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）を除き、令和３年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

71.　令和４年１月 27 日一部改正、令和４年４月１日から施行する。

72.　令和４年２月 24 日一部改正、令和４年４月１日から施行する。ただし、第９条の２および別表 18（公認心理師国家試験の受験資格に関する科目）を除き、令和３年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。また、別表第 12（インテリアプランナー登録資格に関する科目）については、令和３年度の入学生より本改正後の規定を適用する。

73.　令和５年２月 22 日一部改正、令和５年４月１日から施行する。令和４年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。ただし、別表第３のうち、教育の基礎的理解に関する科目等（小）および教育の基礎的理解に関する科目等（中高）については、令和４

年度の入学生より本改正後の規定を適用する。

74. 令和５年３月 23 日一部改正

本学則は令和６年４月 1 日から施行する。ただし、令和５年度以前の入学生については、なお従前の学則を適用する。また、第 15 条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
学芸学部				
日本語日本文学科	510名	490名	470名	450名
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	480名	470名	460名	450名
子ども教育学科	416名	416名	416名	416名
メディア情報学科	345名	360名	375名	390名
生活デザイン学科	190名	190名	190名	190名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	490名	480名	470名	460名
人間心理学科	472名	480名	490名	500名
栄養科学部				
健康栄養学科	336名	336名	336名	336名
管理栄養学科	420名	420名	420名	420名
合　　計	3,659名	3,642名	3,627名	3,612名

75. 令和６年２月22日一部改正

令和６年４月１日から施行する。令和５年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

76. 令和６年３月 21 日一部改正

令和６年４月１日から施行する。令和５年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

77. 令和６年５月 23 日一部改正

令和６年４月１日から施行する。令和５年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

78. 令和７年２月 27 日一部改正

令和７年４月１日から施行する。令和６年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

79. 令和７年２月 27 日一部改正

令和８年４月１日から施行する。令和７年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

令和８年度より学芸学部英語文化コミュニケーション学科の学生募集を停止する。

また、第 15 条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	令和８年度	令和９年度	令和 10 年度	令和 11 年度
学芸学部				
日本語日本文学科	445 名	400 名	375 名	350 名
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	350 名	230 名	115 名	－
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	60 名	120 名	185 名	250 名
子ども教育学科	416 名	416 名	416 名	416 名
メディア情報学科	375 名	390 名	390 名	390 名
生活デザイン学科	225 名	260 名	295 名	330 名
人間社会学部				
社会マネジメント学科	450 名	420 名	400 名	380 名

人間心理学科	480名	480名	470名	460名
地域クリエーション学科	60名	120名	185名	250名
栄養科学部				
健康栄養学科	336名	336名	336名	336名
管理栄養学科	420名	420名	420名	420名
合　　計	3,617名	3,592名	3,587名	3,582名

別表第１　全学共通科目

学部学科	授　業　科　目	単位	備考
学芸学部	全学共通科目		
日本語日本文学科	基礎科目		
国際コミュニケーション学科	さがみ総合講座	2	必修
	基礎教育講座	2	必修
子ども教育学科	コンピュータリテラシー	2	必修
メディア情報学科	教養科目		
生活デザイン学科	法学	2	4単位必修
	日本国憲法	2	
人間社会学部	倫理学	2	
社会マネジメント学科	経済学	2	
人間心理学科	社会学	2	
地域クリエーション学科	心理学	2	
	言語学	2	
栄養科学部	文学	2	
健康栄養学科	諸外国の社会と文化	2	
管理栄養学科	メディアと文化	2	
	アート	2	
	情報処理概論	2	
	発想・実践科目		
	地域から学ぶ知の実践	2	
	社会貢献・地域連携	2	
	地域協働活動	1	
	さがみ発想講座	2	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	1	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	1	
	ジェンダー論	2	
	くらしと文化	2	
	日本の社会と文化	2	
	データサイエンス	2	
	AIと社会	2	
	情報リテラシー	1	
	書道	2	
	キャリア支援科目		
	キャリア・プランニング	2	2単位必修
	ビジネス実務総論	2	
	SPI対策講座	2	
	就職支援講座	2	
	健康・スポーツ科目		
	ウエルネス	2	1単位必修
	身体の科学	2	
	球技スポーツ	1	
	ラケットスポーツ	1	
	健康スポーツ	1	
	シーズンスポーツ	1	
	語学科目		
	言語と異文化	2	4単位必修
	英語Ⅰ	1	
	英語Ⅱ	1	
	英語Ⅲ	1	
	英語Ⅳ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅰ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅱ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅲ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅳ	1	
	中国語Ⅰ	1	
	中国語Ⅱ	1	
	中国語Ⅲ	1	
	中国語Ⅳ	1	
	フランス語Ⅰ	1	
	フランス語Ⅱ	1	
	フランス語Ⅲ	1	
	ドイツ語Ⅰ	1	
	ドイツ語Ⅱ	1	
	ドイツ語Ⅲ	1	
	イタリア語Ⅰ	1	
	イタリア語Ⅱ	1	
	スペイン語Ⅰ	1	
	スペイン語Ⅱ	1	
	海外研修Ⅰ	2	
	海外研修Ⅱ	2	
	海外研修Ⅲ	2	
	日本語Ⅰ	1	
	日本語Ⅱ	1	
	計	100	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	専門教育科目		
日本語日本文学科	コア科目		
	入門ゼミナール	2	必修
	基礎ゼミナールⅠ	2	必修
	基礎ゼミナールⅡ	2	必修
	専門ゼミナールⅠ	2	必修
	専門ゼミナールⅡ	2	必修
	卒業研究・卒業制作ゼミナールⅠ	3	必修
	卒業研究・卒業制作ゼミナールⅡ	3	必修
	古典文学入門	2	必修
	古典文学講読Ⅰ	2	必修
	近現代文学入門	2	必修
	近現代文学講読Ⅰ	2	必修
	日本語学概論Ⅰ（含音声言語学）	2	必修
	日本語学概論Ⅱ	2	必修
	文章表現講座	2	8単位必修
	日本語教育入門	2	
	情報と日本語	2	
	社会人基礎力講座	2	
	実用書道講座	2	
	基礎科目		
	近現代文学講読Ⅱ	2	12単位必修
	近現代文学講読Ⅲ	2	
	現代文化論入門	2	
	現代文化論Ⅰ	2	
	現代文化論Ⅱ	2	
	文学と文化の理論	2	
	中国古典文学入門（含漢文学）	2	
	中国古典文学概論	2	
	古典文学講読Ⅱ	2	
	古典文学講読Ⅲ	2	
	出版文化論	2	
	メディア文化論	2	
	日本古典文学史	2	
	日本近現代文学史	2	
	日本語古典文法	2	
	現代日本語文法	2	
	書写・書道Ⅰ	1	
	書写・書道Ⅱ	1	
	朗読	1	
	特講・研究科目		
	現代文化研究Ⅰ	2	16単位必修
	現代文化研究Ⅱ	2	
	現代文化研究Ⅲ	2	
	現代文化研究Ⅳ	2	
	近現代文学研究Ⅰ	2	
	近現代文学研究Ⅱ	2	
	近現代文学研究Ⅲ	2	
	近現代文学研究Ⅳ	2	
	近現代文学研究Ⅴ	2	
	近現代文学研究Ⅵ	2	
	伝統文化研究Ⅰ	2	
	伝統文化研究Ⅱ	2	
	古典文学研究Ⅰ	2	
	古典文学研究Ⅱ	2	
	古典文学研究Ⅲ	2	
	古典文学研究Ⅳ	2	
	古典文学研究Ⅴ	2	
	古典文学研究Ⅵ	2	
	メディア文化研究Ⅰ	2	
	メディア文化研究Ⅱ	2	
	日本語研究Ⅰ	2	
	日本語研究Ⅱ	2	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	日本語研究Ⅲ	2	
日本語日本文学科	日本語研究Ⅳ	2	
	伝統文化特講Ⅰ	2	
	伝統文化特講Ⅱ	2	
	近現代文学特講Ⅰ	2	
	近現代文学特講Ⅱ	2	
	作家・作品精読Ⅰ	2	
	作家・作品精読Ⅱ	2	
	古典文学特講Ⅰ	2	
	古典文学特講Ⅱ	2	
	中国古典文学特講Ⅰ	2	
	中国古典文学特講Ⅱ	2	
	中国古典文学研究Ⅰ	2	
	中国古典文学研究Ⅱ	2	
	日本語学特講Ⅰ	2	
	日本語学特講Ⅱ	2	
	展開科目		
	映像と文学	2	
	近現代文学（童話・児童文学）	2	
	創作実習Ⅰ	1	
	創作実習Ⅱ	1	
	創作実習Ⅲ	1	
	創作実習Ⅳ	1	
	伝統文化実習Ⅰ	1	
	伝統文化実習Ⅱ	1	
	中国書道史	2	
	日本書道史	2	
	書論・鑑賞Ⅰ	2	
	書論・鑑賞Ⅱ	2	
	書誌学	2	
	古文書学	2	
	図書館概論	2	
	図書館情報資源概論	2	
	生涯学習概論	2	
	図書館サービス概論	2	
	学校図書館サービス論	2	
	出版流通論	2	
	編集実務	2	
	古文教材特講	2	
	漢文教材特講	2	
	小説教材特講	2	
	評論教材特講	2	
	日本語史Ⅰ	2	
	日本語史Ⅱ	2	
	日本語教授法Ⅰ	2	
	日本語教授法Ⅱ	2	
	日本語教授法Ⅲ	2	
	日本語教育実習Ⅰ	1	
	日本語教育実習Ⅱ	1	
	対照言語学	2	
	日本語コミュニケーション論Ⅰ	2	
	日本語コミュニケーション論Ⅱ	2	
	楷書（書道実習A）	1	
	行書（書道実習B）	1	
	草書（書道実習C）	1	
	隷書（書道実習D）	1	
	篆書（書道実習E）	1	
	篆刻（書道実習F）	1	
	かなⅠ（書道実習G）	1	
	かなⅡ（書道実習H）	1	
	漢字かな交じりの書Ⅰ（書道実習I）	1	
	漢字かな交じりの書Ⅱ（書道実習J）	1	
	作家・作品Ⅰ（書道実習K）	1	
	作家・作品Ⅱ（書道実習L）	1	
	日文校外研修	1	
	国語科教育法（中）Ⅰ	2	
	国語科教育法（中）Ⅱ	2	
	国語科教育法（中・高）Ⅰ	2	
	国語科教育法（中・高）Ⅱ	2	
	書道科教育法Ⅰ	2	
	書道科教育法Ⅱ	2	
	国語教員能力養成講座Ⅰ	2	
	国語教員能力育成講座Ⅱ	2	
	計	240	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	専門教育科目		
国際コミュニケーション学科	導入科目		
	基礎		
	国際教養入門	2	必修
	異文化コミュニケーション	2	必修
	文化・社会科目		
	基礎		
	グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2	
	グローバル文化Ⅱ（フィリピン、タイ）	2	
	グローバル文化Ⅲ（韓国、台湾）	2	
	専門		
	アジアパシフィック・スタディーズ	2	
	国際日本学	2	
	国際韓国学	2	
	統合		
	映像文化コミュニケーション	2	
	文化演習Ⅰ	2	2単位必修
	文化演習Ⅱ	2	2単位必修
	アート科目		
	基礎		
	芸術作品鑑賞（英語文学）	2	
	ポピュラーアート　（韓国系）	2	
	専門		
	英語文学	2	
	映像芸術	2	
	統合		
	複合芸術	2	
	アート＆コミュニケーション演習Ⅰ	2	
	アート＆コミュニケーション演習Ⅱ	2	
	教育科目		
	基礎		
	英語科教育法（中）Ⅰ	2	
	英語科教育法（中）Ⅱ	2	
	専門		
	英語科教育法（中・高）Ⅰ	2	
	英語科教育法（中・高）Ⅱ	2	
	統合		
	国際教育論Ⅰ	2	
	国際教育論Ⅱ	2	
	国際教育論Ⅲ	2	
	教育演習Ⅰ	2	
	教育演習Ⅱ	2	
	言語科目		
	基礎		
	英語文章読解	2	必修
	英語文章表現	2	必修
	専門		
	英語音声学	2	
	英語学概論	2	
	応用言語学	2	
	統合		
	上級英語読解・表現	2	
	コースワーク演習Ⅰ	2	
	コースワーク演習Ⅱ	2	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	表現・スキル科目		
国際コミュニケーション学科	基礎		
	Speaking Skills Ⅰ	1	必修
	Speaking Skills Ⅱ	1	必修
	Speaking Skills Ⅲ	1	必修
	Speaking Skills Ⅳ	1	必修
	専門		
	English for Advanced Speaking Ⅰ	2	
	English for Advanced Speaking Ⅱ	2	
	English for Presentation	2	
	English for Relationship-building	2	
	English for Translation	2	
	English for Hospitality	2	
	English for Business	2	
	統合		
	Integrated Communication Ⅰ	2	
	Integrated Communication Ⅱ	2	
	Integrated Communication Ⅲ	2	
	Integrated Communication Ⅳ	2	
	探究・研究科目		
	深める		
	地域研究：韓国Ⅰ	2	2単位必修
	地域研究：韓国Ⅱ	2	2単位必修
	耕す		
	グローバル教育Ⅰ	2	
	グローバル教育Ⅱ	2	
	コミュニケーション・デザインⅠ	2	
	コミュニケーション・デザインⅡ	2	
	極める		
	Advanced English Studies Ⅰ	2	
	Advanced English Studies Ⅱ	2	
	コースワーク・デザインⅠ	2	
	コースワーク・デザインⅡ	2	
	実践科目		
	オンキャンパス		
	TOEIC Ⅰ	1	
	TOEIC Ⅱ	1	
	TOEIC Ⅲ	1	
	越境・協働学習教育Ⅰ	1	
	越境・協働学習教育Ⅱ	1	
	グローバル		
	スクール・インターンシップⅠ	1	
	スクール・インターンシップⅡ	1	
	短期英語研修Ⅰ	1	
	短期英語研修Ⅱ	1	
	短期韓国語研修Ⅰ	1	
	短期韓国語研修Ⅱ	1	
	長期語学留学Ⅰ	6	
	長期語学留学Ⅱ	6	
	長期語学留学Ⅲ	12	
	長期語学留学Ⅳ	12	1単位必修
	特別研修Ⅰ	1	
	特別研修Ⅱ	1	
	ボランティア研修Ⅰ	1	
	ボランティア研修Ⅱ	2	
	インターンシップⅠ	1	
	インターンシップⅡ	1	
	インターンシップⅢ	2	
	計	172	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備考
学芸学部	専門教育科目		
子ども教育学科	基礎科目		
	子ども教育の基礎		
	基礎理論		
	生涯発達心理学	2	4単位必修
	保育の原理	2	
	教育の原理	2	
	教育の歴史	2	
	教育の制度	2	
	教育心理学	2	
	子育て支援の心理学	2	
	教職論	2	
	保育者論	2	
	教育とジェンダー	2	
	特別支援教育論	2	
	子ども理解		
	子どもの理解と援助	2	
	乳児保育Ⅰ	2	
	乳児保育Ⅱ	1	
	特別支援教育･保育Ⅰ	1	
	特別支援教育･保育Ⅱ	1	
	子どもの保健	2	
	子ども家庭福祉	2	
	基礎技能		
	音楽表現活動	1	
	絵画・造形表現活動	1	
	運動・身体表現活動	1	
	保育表現活動	1	
	音楽Ⅰ	1	
	音楽Ⅱ	1	
	音楽Ⅲ	1	
	音楽Ⅳ	1	
	手話の基礎	1	1単位必修
	点字の基礎	1	
	展開科目		
	学習支援		
	教育内容（国語）	2	
	教育内容（社会）	2	
	教育内容（算数）	2	
	教育内容（理科）	2	
	教育内容（生活）	2	
	教育内容（音楽）	2	
	教育内容（図画工作）	2	
	教育内容（家庭）	2	
	教育内容（体育）	2	
	教育内容（英語）	2	
	教育課程論	2	
	保育カリキュラム論	2	
	幼児指導論	2	
	国語科指導法	2	
	社会科指導法	2	
	算数科指導法	2	
	理科指導法	2	
	生活科指導法	2	
	音楽科指導法	2	
	図画工作科指導法	2	
	家庭科指導法	2	
	体育科指導法	2	
	英語科指導法	2	
	総合的な学習の時間の指導法	2	
	教育の方法	2	
	道徳教育論	2	
	特別活動論	2	
	教育相談	2	
	生徒・進路指導	2	
	英語遊び指導法	1	
	授業研究	2	
	介護等体験の指導	1	
	知的障害教育	2	
	肢体不自由教育	2	
	病弱教育	2	
	LD・ADHD等の理解と指導法	1	
	情緒障害児の理解と指導法	1	
	重複障害児の理解と指導法	1	
	視覚障害児の理解と指導法	1	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備考
学芸学部	聴覚・言語障害児の理解と指導法	1	
子ども教育学科	子どもの教育とメディア	2	
	子ども・家庭支援		
	社会福祉	2	
	社会的養護Ⅰ（原理）	2	
	社会的養護Ⅱ（内容）	1	
	子育て支援	1	
	子どもの健康と安全	1	
	子どもの食事と栄養	2	
	保育内容総論	1	
	子どもと健康	2	
	保育内容指導法（健康）	1	
	子どもと人間関係	2	
	保育内容指導法（人間関係）	1	
	子どもと環境	2	
	保育内容指導法（環境）	1	
	子どもと言葉	2	
	保育内容指導法（言葉）	1	
	子どもと表現	2	
	保育内容指導法（表現）	1	
	子ども家庭支援論	2	
	知的障害児の心理	2	
	知的障害児の生理・病理	2	
	肢体不自由児の心理	2	
	肢体不自由児の生理・病理	2	
	病弱児の心理	2	
	病弱児の生理・病理	2	
	子育て支援実践研究	1	
	発展科目		
	実践的指導力		
	教育コミュニケーション	1	
	実践遊び学	1	
	“楽”習教材研究(文系)	2	} 2単位必修
	“楽”習教材研究(理系)	2	
	“楽”習活動研究（表現系）	2	
	“楽”習プロジェクト演習	1	
	教育指導法実践研究Ⅰ	1	
	教育指導法実践研究Ⅱ	1	
	保育指導法実践研究	1	
	保育・教職実践演習	2	
	教職実践演習(小学校)	2	
	子ども教育ゼミナールⅠ	2	必修
	子ども教育ゼミナールⅡ	2	必修
	卒業研究Ⅰ	2	必修
	卒業研究Ⅱ	2	必修
	体験・活動・実習		
	教育インターンシップ（小学校）	1	
	教育インターンシップ（幼稚園）	1	
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	1	
	保育実習指導Ⅰ（施設）	1	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	1	
	保育実習指導Ⅲ（施設）	1	
	保育実習Ⅰ（保育所）	2	
	保育実習Ⅰ（施設）	2	
	保育実習Ⅱ（保育所）	2	
	保育実習Ⅲ（施設）	2	
	教育実習Ⅰ１（幼稚園）事前・事後指導	1	
	教育実習Ⅱ１（幼稚園）	2	
	教育実習Ⅱ２（幼稚園）	1	
	教育実習Ⅰ２（小学校）事前・事後指導	1	
	教育実習Ⅲ１（小学校）	2	
	教育実習Ⅲ２（小学校）	2	
	教育実習Ⅰ３（特別支援学校）事前･事後指導	1	
	教育実習Ⅳ（特別支援学校）	2	
	総合演習		
	子ども教育基礎演習Ⅰ	1	必修
	子ども教育基礎演習Ⅱ	1	必修
	子ども教育基礎演習Ⅲ	1	必修
	子ども教育特別演習Ⅰ	1	
	子ども教育特別演習Ⅱ	1	
	子ども教育特別演習Ⅲ	1	
	計	214	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授業科目	単位数	備　　考
学芸学部	専門教育科目		
メディア情報学科	基礎科目		
	情報・メディア論	2	必修
	メディアの英語	2	必修
	アカデミックライティング	2	必修
	メディアと法	2	必修
	デジタルデザイン	2	必修
	情報社会論	2	必修
	メディア文化史	2	必修
	コンセプト構想論	2	必修
	デザイン概論	2	6単位必修
	色彩文化論	2	
	ミュージアム概論	2	
	メディアアート概論	2	
	インターネットとビジネス	2	
	文章作法	2	4単位必修
	デジタルプレゼンテーション演習	2	
	メディアアート演習	2	
	ポートフォリオ制作	2	
	基幹科目		
	人文		
	言語とメディア	2	2単位必修
	多文化共生とメディア	2	
	モードとメディア	2	
	世界における日本文化	2	
	サブカルチャーとメディア	2	
	ポピュラー音楽論	2	4単位必修
	映像史	2	
	アニメーション史	2	
	マンガ史	2	
	出版文化史	2	
	絵本文化論	2	
	ゲームメディア論	2	
	ミュージアム教育論	2	
	アーカイブ論	2	
	マンガ制作Ⅰ	2	
	社会		
	マスメディア論	2	2単位必修
	メディアの行動と心理	2	
	広告とメディア	2	
	流通論	2	2単位必修
	マーケティング論	2	
	情報管理論	2	
	知的財産と法Ⅰ	2	
	情報		
	電子メディア論	2	2単位必修
	メディアデザイン	2	
	Webデザイン基礎	2	
	プログラミング基礎	2	2単位必修
	3DCG基礎	2	
	サウンドデザイン基礎	2	
	ゲーム制作演習	2	
	エディトリアルデザイン基礎	2	
	写真技法	2	
	動画編集基礎	2	
	展開科目		
	人文		
	デジタルコミュニケーションと言語	2	
	言語文化論	2	
	パフォーマンスと言語	2	
	芸能文化論	2	
	パフォーマンスメディア論	2	
	モードと社会	2	
	メディア文化演習Ⅰ	2	
	メディア文化演習Ⅱ	2	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授業科目	単位数	備　　考
学芸学部	エンターテインメント論	2	
メディア情報学科	現代映像論	2	6単位必修
	アニメーション論	2	
	マンガ論	2	
	雑誌文化論	2	
	ゲームメディア演習	2	
	アーカイブ管理論	2	
	生涯学習とメディア	2	
	空間プレゼンテーション論	2	
	ストーリーライティング	2	
	メディアライティング	2	
	声優の発声法と演技	2	
	マンガ制作Ⅱ	2	
	博物館実習	3	
	社会		
	ミュージアム経営論	2	
	コミュニケーション論	2	
	メディアコミュニケーション論	2	
	プロモーションとサービス	2	
	マネジメント論	2	
	データ分析演習	2	4単位必修
	マーケティングリサーチ	2	
	情報環境論	2	
	知的財産と法Ⅱ	2	
	情報セキュリティと法	2	
	メディアビジネスプロジェクトⅠ	2	
	メディアビジネスプロジェクトⅡ	2	
	広告制作演習	2	
	番組制作演習	2	
	情報		
	ITマネジメント論	2	
	ネットワークセキュリティ論	2	
	情報通信ネットワーク論	2	
	情報通信ネットワーク演習	2	
	データベース論	2	
	データベース演習	2	
	プログラミング応用	2	
	プログラミング実践	2	
	3DCG応用	2	4単位必修
	Webデザイン応用	2	
	Webデザイン実践	2	
	アプリケーション開発	2	
	サウンドデザイン応用	2	
	エディトリアルデザイン応用	2	
	エディトリアルデザイン実践	2	
	動画撮影	2	
	動画編集応用	2	
	ビジュアルエフェクト演習	2	
	アニメーション技法	2	
	情報科教育法Ⅰ	2	
	情報科教育法Ⅱ	2	
	総合科目		
	メディアワークⅠ	2	
	メディアワークⅡ	2	
	メディアワークⅢ	2	
	プロジェクトワークⅠ	2	
	プロジェクトワークⅡ	2	
	完成科目		
	ゼミナールⅠ	2	必修
	ゼミナールⅡ	2	必修
	卒業研究Ⅰ	3	必修
	卒業研究Ⅱ	3	必修
	計	233	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備考
学芸学部	専門教育科目		
生活デザイン学科	新領域創造科目		
	横断統合		
	デザインの入り口	2	必修
	デザイン概論	2	必修
	デザインワークⅠ-1	1	
	デザインワークⅠ-2	1	
	デザインワークⅡ-1	1	
	デザインワークⅡ-2	1	
	デザインワークⅢ-1	1	
	デザインワークⅢ-2	1	
	デザインプロジェクトⅠ	2	必修
	ゼミ		
	デザインプロジェクトⅡ	4	必修
	デザインプロジェクトⅢ	6	必修
	生活デザイン総合科目		
	デザイン教養科目		
	デザイン史Ⅰ	2	4単位必修
	デザイン史Ⅱ	2	
	イメージと言葉	2	
	環境学	2	
	スモールビジネス	2	
	基礎講義科目		
	色彩論	2	8単位必修
	人間工学	2	
	ファブリック概論	2	
	空間デザインと環境	2	
	住宅デザインの歴史	2	
	造形心理	2	
	住宅計画	2	
	建築の歴史	2	
	ファッションデザイン史	2	
	デザインとビジネス	2	
	基礎演習科目		
	デザイン基礎	2	必修
	空間構成	2	6単位必修
	立体構成	1	
	グラフィックデザインⅠ	2	
	グラフィックデザインⅡ	2	
	ファッションメイキングⅠ	2	
	ファッションメイキングⅡ	2	
	空間デザイン	2	
	モデルメイキングⅠ	2	
	モデルメイキングⅡ	2	
	ディスプレイデザイン	1	
	基礎技法科目		
	デジタルペインティング	1	8単位必修（必修科目は除く）
	コンピュータスキルⅠ	2	必修
	コンピュータスキルⅡ	1	必修
	コンピュータスキルⅢ	2	
	コンピュータスキルⅣ	2	
	プレゼンテーションスキル	1	
	3DCG演習	2	
	WEBスキル	1	
	素材実習（布・プリンティング）	1	
	素材実習（メタルワーク）	1	
	CADⅠ	2	
	CADⅡ	2	
	CADⅢ	2	
	アパレルCADⅠ	2	
	アパレルCADⅡ	2	
	製図Ⅰ	1	
	製図Ⅱ	1	
	デザインスケッチ	1	
	写真表現	2	必修
	ファッションドローイング	1	
	テキスタイルデザイン	2	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備考
学芸学部	生活デザイン各論		
生活デザイン学科	建築デザインⅠ	2	
	建築デザインⅡ	2	
	建築デザインⅢ	2	
	インテリアデザインⅠ	2	
	インテリアデザインⅡ	2	
	建築構法演習	1	
	ファッションデザインⅠ	2	
	ファッションデザインⅡ	2	
	ファッションデザインⅢ	2	
	プロダクトデザインⅠ	2	
	プロダクトデザインⅡ	2	
	プロダクトデザインⅢ	2	
	WEBデザインⅠ	2	8単位必修
	WEBデザインⅡ	2	
	アートディレクションⅠ	2	
	アートディレクションⅡ	2	
	アートディレクションⅢ	2	
	DTP	1	
	インタラクティブデザイン	2	
	空間デザインと材料	2	
	空間デザインと構造	2	
	空間デザインと構法	2	
	空間デザインと計画	2	
	空間デザインと設備	2	
	建築施工	2	
	建築法規	2	
	建築構造	2	
	資格支援科目		
	カラーコーディネイト演習	1	
	ファッションビジネス演習	1	
	インテリアコーディネイト演習	1	
	福祉住環境演習	1	
	デザイン研修		
	デザインキャリア研修	2	必修
	デザイン見学	1	
	デザインインターンシップ	1	
	作品発表	1	
	デザインスキルアップ	1	
	計	166	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部	専門教育科目		
社会マネジメント学科	基礎科目		
	社会マネジメント学入門	2	必修
	日本語スキルアップ講座	2	必修
	地域で学ぶ社会のしくみ	1	必修
	映像で学ぶ近現代史１	2	必修
	社会人デビュー講座（基礎編）	1	必修
	社会人デビュー講座（応用編）	1	必修
	社会人デビュー講座エクストラ	2	
	フィールドワーク実習	2	
	映像で学ぶ近現代史２	2	必修
	統計基礎	2	必修
	基幹科目		
	情報		
	プレゼンテーション概論	2	
	コンピュータ概論	2	
	情報技術と人間	2	
	日本語表現法	2	4単位必修
	応用統計学	2	
	集計・分析の技法	2	
	情報メディアリテラシー論	2	
	社会		
	グローバリゼーションとローカリゼーション	2	
	遊びと人間	2	
	身体とセクシャリティ	2	
	社会調査法概論	2	
	社会調査法演習	2	4単位必修
	フィールドワークの技法	2	
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	
	法律・政治		
	憲法Ⅰ	2	
	憲法Ⅱ	2	
	刑法	2	
	民法（契約法）	2	
	民法（家族法）	2	4単位必修
	労働法	2	
	社会保障法Ⅰ	2	
	社会保障法Ⅱ	2	
	政治学	2	
	経済・経営		
	ミクロ経済学	2	
	マクロ経済学	2	
	公共経済学	2	
	行動経済学	2	4単位必修
	経営学	2	
	簿記論	2	
	会計学	2	
	展開科目		
	国際社会と私たち		
	多民族社会と共生	2	
	経済発展と国際社会	2	
	地球環境と私たち	2	
	エスニシティとナショナリズム	2	
	国際交流演習	2	
	海外調査演習	2	
	TOEICⅠ	1	
	TOEICⅡ	1	
	Comprehensive EnglishⅠ	1	
	コミュニティ		
	家族論	2	
	地域社会論	2	
	現代社会論	2	
	行政法	2	
	公共政策論	2	
	地方自治論	2	
	NPO概論	2	
	交通・ロジスティクス論	2	
	消費者と企業		
	消費者行動論	2	
	流通論	2	
	ベンチャー論	2	
	ブランド戦略・商品開発論	2	
	経営組織・人事管理論	2	
	マーケティング・経営戦略論	2	
	広報・広告論	2	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部	消費者問題と政策	2	
社会マネジメント学科	消費者取引と法	2	
	企業法	2	
	経済法	2	
	税制度論	2	
	資産運用演習	2	
	エンターテイメント・ホスピタリティ		
	エンターテイメント産業論	2	
	ホスピタリティ産業論	2	
	情報通信産業論	2	
	スポーツ産業論	2	
	エンターテイメント特講	2	
	メディアと表現		
	クリエイティブ技法Ⅰ（構成）	2	
	クリエイティブ技法Ⅱ（撮影）	2	
	クリエイティブ技法Ⅲ（制作）	2	
	クリエイティブ技法Ⅳ（サウンド）	2	30単位必修
	プレゼンテーション演習Ⅰ	2	
	プレゼンテーション演習Ⅱ	2	
	プレゼンテーション演習Ⅲ	2	
	プログラミング演習Ⅰ	2	
	プログラミング演習Ⅱ	2	
	ジャーナリズム論	2	
	地域社会と情報	2	
	映像メディア論	2	
	知的財産権法	2	
	心理		
	社会・集団・家族心理学	2	
	知覚・認知心理学Ⅰ（知覚心理学）	2	
	知覚・認知心理学Ⅱ（認知心理学）	2	
	社会倫理学	2	
	応用倫理学	2	
	産業・組織心理学	2	
	司法・犯罪心理学	2	
	現代の癒し文化	2	
	地域と福祉		
	人体の構造と機能及び疾病	2	
	心理学概論	2	
	社会学と社会システム	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	
	福祉サービスの組織と経営	2	
	高齢者福祉	2	
	障害者福祉	2	
	児童・家庭福祉	2	
	生活保護制度	2	
	保健医療と福祉	2	
	権利擁護を支える法制度	2	
	刑事司法と福祉	2	
	ソーシャルワーク演習（基礎）	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	
	社会福祉士試験対策講座Ⅰ	2	
	社会福祉士試験対策講座Ⅱ	2	
	完成科目		
	ゼミナールⅠ	2	
	ゼミナールⅡ	2	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	1	4単位必修
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	1	
	卒業研究Ⅰ	3	
	卒業研究Ⅱ	3	6単位必修
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	6	
	地域連携プロジェクト演習Ⅰ	2	
	地域連携プロジェクト演習Ⅱ	2	
	社会調査法実習Ⅰ	2	
	社会調査法実習Ⅱ	2	
	資格科目		
	資格支援講座１	2	
	資格支援講座２	2	
	計	268	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部	専門教育科目		
人間心理学科	基礎科目		
	心理学概論	2	必修
	臨床心理学概論	2	必修
	ソマティック心理学概論	2	必修
	人間文化概論	2	必修
	心理学研究法	2	必修
	心理学統計法Ⅰ	2	必修
	心理学実験演習Ⅰ	2	必修
	心理的アセスメント	2	必修
	キャリアデザイン	2	必修
	展開科目		
	心理		
	発達心理学	2	6単位必修
	社会・集団・家族心理学	2	
	学習・言語心理学	2	
	知覚・認知心理学I（知覚心理学）	2	
	知覚・認知心理学II（認知心理学）	2	
	心理学的支援法	2	
	人体の構造と機能及び疾病	2	
	精神疾患とその治療	2	
	感情・人格心理学	2	
	神経・生理心理学	2	
	障害者・障害児心理学	2	
	健康・医療心理学	2	
	福祉心理学	2	
	教育・学校心理学	2	
	司法・犯罪心理学	2	
	産業・組織心理学	2	
	心理学史	2	
	トラウマの心理学	2	
	コミュニケーションの心理学	2	
	トランスパーソナル心理学	2	
	ポジティブ心理学	2	
	宗教心理学	2	
	青年心理学	2	
	動物心理学	2	
	環境心理学	2	
	カウンセリング・スキル	2	
	心理療法演習Ⅰ	2	
	心理療法演習Ⅱ	2	
	心理療法演習Ⅲ	2	
	心理療法演習Ⅳ	2	
	心理療法演習Ⅴ	2	
	心理療法演習Ⅵ	2	
	ソマティックス演習Ⅰ	2	
	ソマティックス演習Ⅱ	2	
	ソマティックス演習Ⅲ	2	
	ソマティックス演習Ⅳ	2	
	ソマティックス演習Ⅴ	2	
	心理学統計法Ⅱ	2	
	心理学実験演習Ⅱ	2	
	心理調査法演習	2	
	公認心理師の職責	2	
	関係行政論	2	
	心理演習	2	
	心理実習指導Ⅰ	1	
	心理実習指導Ⅱ	1	
	心理実習	2	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部	人間文化		
人間心理学科	医療人類学	2	
	ケアの人類学	2	
	スピリチュアリティ	2	
	現代の癒し文化	2	
	身体の人類学	2	
	代替医学	2	
	社会倫理学	2	
	応用倫理学	2	
	心身の哲学	2	
	社会福祉の原理と政策Ⅰ	2	8単位必修
	社会福祉の原理と政策Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	2	
	家族論	2	
	地域社会論	2	
	エスノグラフィ論	2	
	エスノグラフィ演習	2	
	社会福祉		
	社会調査法概論	2	
	社会学と社会システム	2	
	福祉サービスの組織と経営	2	
	社会保障法Ⅰ	2	
	社会保障法Ⅱ	2	
	高齢者福祉	2	
	障害者福祉	2	
	児童・家庭福祉	2	
	生活保護制度	2	
	保健医療と福祉	2	
	権利擁護を支える法制度	2	
	刑事司法と福祉	2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	2	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	2	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	1	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	6	
	社会福祉士試験対策講座Ⅰ	2	
	社会福祉士試験対策講座Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク演習（基礎）	1	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	1	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	1	
	完成科目		
	ゼミナールⅠ	2	必修
	ゼミナールⅡ	2	必修
	卒業研究Ⅰ	3	必修
	卒業研究Ⅱ	3	必修
	計	208	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部	専門教育科目		
地域クリエーション学科	基礎科目		
	総合		
	地域クリエーション学入門	2	必修
	地域クリエーション学実践	1	必修
	ライフデザイン	2	必修
	観光		
	観光学概論	2	必修
	食文化論	2	必修
	映像制作入門	2	必修
	観光地理学	2	必修
	ホスピタリティ概論	2	必修
	ウェルビーイングと観光	2	必修
	ホスピタリティ産業論	2	必修
	地域コミュニティ論	2	必修
	ビジネス		
	プレゼンテーション入門	2	必修
	データ分析入門	2	必修
	マクロ経済学	2	必修
	経営理論	2	必修
	会計学	2	必修
	食		
	基礎化学	2	必修
	食品の化学	2	必修
	公衆衛生学	2	必修
	食品衛生学	2	必修
	調理科学	2	必修
	食品安全学	2	必修
	健康と栄養	2	必修
	基幹科目		
	観光と政策		
	グローバリゼーションとローカリゼーション	2	
	アニマルウェルフェア	2	
	交通・ロジスティクス論	2	
	エスニシティと地域社会	2	
	映像で学ぶ社会の進歩	2	2単位必修
	公共経済学	2	
	公共政策論	2	
	生物と生態系	2	
	ビジネスツール		
	民法（契約法）	2	
	ミクロ経済学	2	
	消費者問題と政策	2	
	流通論	2	
	ベンチャー論	2	
	経営組織・人事管理論	2	2単位必修
	マーケティング・経営戦略論	2	
	広報と広告	2	
	消費者行動論	2	
	ブランド戦略・商品開発論	2	
	情報		
	社会調査法入門	2	
	ドローン操縦技術	1	
	映像制作演習（基礎）	2	
	プレゼンテーションⅠ（言語と身体表現）	2	
	無線通信技術と法	2	
	映像メディア論	2	1単位必修
	地域データ分析	2	
	気候変動と気象予測	2	
	映像制作演習（発展）	2	
	プレゼンテーションⅡ（PCと視覚資料）	2	
	知的財産権法	2	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部	食品の科学		
地域クリエーション学科	生化学	2	
	微生物学	2	
	栄養機能学	2	
	栄養生理学	2	
	食と環境	2	2単位必修
	食品加工と保蔵	2	
	フードプランニング論	2	
	発酵・醸造学	2	
	食品分析学	2	
	メニュー開発論	2	
	展開科目		
	観光		
	観光ビジネス論	2	
	エンターテイメント産業論	2	
	情報通信産業論	2	
	ホスピタリティマネジメント	2	
	日本文化演習	1	
	世界遺産入門	2	
	旅行業概論	2	
	フードツーリズム論	2	
	エンターテイメント特講	2	
	スポーツ産業論	2	
	地域資源発掘活用演習	1	
	食・農		
	フードデザイン実習（基礎調理）	1	
	食文化と伝承	2	
	基礎化学実験	1	
	ライフステージと食	2	
	フードデザイン実習（応用調理）	1	
	農水産業と地域社会	2	
	農水産物の加工と流通	2	5単位必修
	食品衛生学実験	1	
	栄養マネジメント実習	1	
	地域栄養学	2	
	食品加工学実習	1	
	食育活動	1	
	食安全マネジメント演習	1	
	フードプランニング実習Ⅰ	1	
	フードプランニング実習Ⅱ	1	
	フードプランニング実習Ⅲ	1	
	テーブルコーディネート論（演習含む）	2	
	実務		
	ファシリテーション	2	
	ホスピタリティ実践	1	
	資格支援講座	2	
	インターンシップⅠ	2	
	キャリア実践Ⅰ	1	
	キャリア実践Ⅱ	1	
	インターンシップⅡ	2	
	完成科目		
	ゼミナールⅠ	2	必修
	ゼミナールⅡ	2	必修
	卒業研究Ⅰ	3	必修
	卒業研究Ⅱ	3	必修
	計	186	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
栄養科学部	専門教育科目		
健康栄養学科	栄養士資格科目		
	公衆衛生学	2	必修
	社会福祉論	2	必修
	解剖生理学	2	必修
	解剖生理学実習	1	必修
	運動生理学	2	必修
	生化学	2	必修
	生化学実験	1	必修
	臨床医学	2	必修
	食品学総論	2	必修
	食品学各論	2	必修
	食品学実験	1	必修
	食品衛生学	2	必修
	食品衛生学実験	1	必修
	微生物学	2	必修
	栄養学総論	2	必修
	ライフステージの栄養学Ⅰ	2	必修
	ライフステージの栄養学Ⅱ	2	必修
	ライフステージの栄養学実習	1	必修
	運動栄養学	2	必修
	臨床栄養学	2	必修
	臨床栄養学実習	1	必修
	公衆栄養学	2	必修
	栄養士入門	2	必修
	栄養指導論	2	必修
	栄養士基礎実習	1	必修
	栄養指導論実習	1	必修
	給食管理論Ⅰ	2	必修
	給食管理論Ⅱ	2	必修
	給食管理実習(校内)	2	必修
	給食管理実習(校外)	1	必修
	校外実習事前事後指導	1	必修
	調理学	2	必修
	調理科学実験	1	必修
	調理学実習Ⅰ	1	必修
	調理学実習Ⅱ	1	必修
	学科専門科目		
	有機化学	2	必修
	食育プラクティス	2	選択
	試験対策講座	1	必修
	ゼミナールⅠ	1	必修
	ゼミナールⅡ	1	必修
	卒業研究Ⅰ	2	選択
	卒業研究Ⅱ	2	選択
	キャリア形成プラクティス（インターンシップを含む）	1	選択

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
栄養科学部	食ビジネスコース科目		
健康栄養学科	食品機能論	2	選択
	食品官能評価・鑑別演習	2	選択
	フードスペシャリスト論	2	選択
	専門フードスペシャリスト試験対策講座	1	選択
	フードコーディネート論	2	選択
	フードコーディネート論実習	1	選択
	製菓実習	1	選択
	食品加工学	2	選択
	食品加工学実習	1	選択
	消費者商品学	2	選択
	消費経済学	2	選択
	食品開発概論	2	選択
	食品開発演習	1	選択
	ブランド戦略・商品開発論	2	選択
	マーケティング・経営戦略論	2	選択
	マーケティング論	2	選択
	プロモーションとサービス	2	選択
	流通論	2	選択
	生活科学コース科目		
	家族関係	2	選択
	家庭経営（家庭経済学を含む）	2	選択
	衣生活論（衣料学を含む）	2	選択
	被服構成（被服実習を含む）1	1	選択
	被服構成（被服実習を含む）2	1	選択
	住生活論	2	選択
	住居学	2	選択
	保育学	2	選択
	消費者問題論	2	選択
	家庭科教育法（中）Ⅰ	2	選択
	家庭科教育法（中）Ⅱ	2	選択
	家庭科教育法（中・高）Ⅰ	2	選択
	家庭科教育法（中・高）Ⅱ	2	選択
	スポーツ健康科学コース科目		
	体育実技（陸上）	1	選択
	体育実技（水泳）	1	選択
	体育実技（体つくり運動・器械運動）	1	選択
	体育実技（武道）	1	選択
	体育実技（球技）	1	選択
	体育実技（ダンス）	1	選択
	地域健康スポーツ演習	1	選択
	体育原理	2	選択
	体育心理学	2	選択
	体育経営管理学	2	選択
	スポーツ社会学（体育社会学を含む）	2	選択
	スポーツ栄養学	2	選択
	スポーツ栄養学実習	1	選択
	体育史	2	選択
	運動学（運動方法学を含む）	2	選択
	運動生理学・トレーニング実習	1	選択
	学校保健（小児保健、精神保健、学校安全を含む）	2	選択
	スポーツ医学（救急処置を含む）	2	選択
	保健体育科教育法（中）Ⅰ	2	選択
	保健体育科教育法（中）II	2	選択
	保健体育科教育法（中・高）Ⅰ	2	選択
	保健体育科教育法（中・高）II	2	選択
	計	159	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
栄養科学部	専門教育科目		
管理栄養学科	基礎導入科目		
	食べ物の基礎	1	
	栄養の基礎	2	
	基礎科学実験	1	
	微生物学	2	
	専門基礎分野		
	社会・環境と健康		
	公衆衛生学Ⅰ	2	必修
	公衆衛生学Ⅱ	2	必修
	保健統計学実習	1	必修
	保健介護福祉論	2	必修
	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち		
	生化学Ⅰ	2	必修
	生化学Ⅱ	2	必修
	生化学実験	1	必修
	解剖生理学Ⅰ	2	必修
	解剖生理学Ⅱ	2	必修
	解剖生理学実習	1	必修
	臨床医学Ⅰ	2	必修
	臨床医学Ⅱ	2	必修
	臨床検査実習	1	必修
	「身体活動」の生理学	2	必修
	食べ物と健康		
	食品学総論	2	必修
	食品学各論	2	必修
	食品学実験Ⅰ	1	必修
	食品学実験Ⅱ	1	必修
	調理科学	2	必修
	調理学実習	1	必修
	応用調理学実習	1	必修
	調理科学実験	1	必修
	食品衛生学	2	必修
	食品衛生学実験	1	必修
	専門分野		
	基礎栄養学		
	基礎栄養学	2	必修
	基礎栄養学実験	1	必修
	応用栄養学		
	応用栄養学Ⅰ	2	必修
	応用栄養学Ⅱ	2	必修
	応用栄養学実習	1	必修
	食事摂取基準論	2	必修
	栄養ケアマネジメント実習	1	必修
	栄養教育論		
	栄養教育論Ⅰ	2	必修
	栄養教育論Ⅱ	2	必修
	栄養教育実践活動論	2	必修
	栄養教育実習	1	必修

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
栄養科学部	臨床栄養学		
管理栄養学科	臨床栄養管理学Ⅰ	2	必修
	臨床栄養管理学Ⅱ	2	必修
	臨床栄養管理学Ⅲ	2	必修
	病態栄養治療学演習	2	必修
	臨床栄養管理実習	1	必修
	食事療法実習	1	必修
	公衆栄養学		
	公衆栄養学Ⅰ	2	必修
	公衆栄養学Ⅱ	2	必修
	公衆栄養学実習	1	必修
	給食経営管理論		
	給食経営管理論Ⅰ	2	必修
	給食経営管理論Ⅱ	2	必修
	給食経営管理実習	2	必修
	総合演習		
	管理栄養士演習Ⅰ	1	必修
	管理栄養士演習Ⅱ	1	必修
	管理栄養士演習Ⅲ	1	必修
	管理栄養士演習Ⅳ	1	
	管理栄養士演習Ⅴ	2	必修
	臨地実習		
	臨地実習Ⅰ（給食の運営）	1	必修
	臨地実習Ⅱ（臨床栄養学）	2	
	臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）	1	
	専門発展分野		
	実践実習科目		
	応用食事療法実習	1	
	福祉栄養管理実習	1	
	フードマネジメント実習	1	
	フードサービスマネジメント実習	1	
	地域保健活動実習	1	
	地域の食・健康活動実習	1	
	共通選択科目		
	卒業研究Ⅰ	1	
	卒業研究Ⅱ	1	
	卒業研究Ⅲ	1	
	特別講義Ⅰ	2	
	特別講義Ⅱ	2	
	特別講義Ⅲ	2	
	特別講義Ⅳ	2	
	特別講義Ⅴ	2	
	特別講義Ⅵ	2	
	特別講義Ⅶ	2	
	特別講義Ⅷ	2	
	栄養教諭選択科目		
	学校栄養教諭論	2	
	学校食育指導論	2	
	計	122	

別表第３　教育の基礎的理解に関する科目等（幼）

施行規則に定める科目区分等				本学における科目等			
科目	各科目に含めることが必要な事項		単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		10	教育の原理	2		
				教育の歴史		2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職論		2	1科目2単位必修
				保育者論		2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育の制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			生涯発達心理学		2	
				教育心理学	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育･保育Ⅰ	1		
				特別支援教育･保育Ⅱ		1	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			保育カリキュラム論		2	1科目2単位必修
				教育課程論		2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		4	教育の方法	2		
	幼児理解の理論及び方法			子どもの理解と援助	2		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談	2		
教育実践に関する科目	教育実習		5	教育実習Ⅰ1(幼稚園)事前･事後指導	1		
				教育実習Ⅰ２（小学校）事前・事後指導		1	
				教育実習Ⅱ１(幼稚園)	2		
				教育実習Ⅱ２(幼稚園)	1		
				教育実習Ⅲ１(小学校)		2	
				教育実習Ⅲ２(小学校)		2	
	学校体験活動			教育インターンシップ(幼稚園)	1		
	教職実践演習		2	保育・教職実践演習		2	1科目2単位必修
				教職実践演習(小学校)		2	
領域及び保育内容の指導法に関する科目		保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容総論	1		
				幼児指導論	2		
				保育内容指導法（健康）	1		
				保育内容指導法（人間関係）	1		
				保育内容指導法（環境）	1		
				保育内容指導法（言葉）	1		
				保育内容指導法（表現）	1		
				子どもの教育とメディア		2	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健　康		子どもと健康	2		
		人間関係		子どもと人間関係	2		
		環　境		子どもと環境	2		
		言　葉		子どもと言葉	2		
		表　現		子どもと表現	2		
				音楽表現活動	1		
				絵画・造形表現活動	1		
				運動・身体表現活動	1		
				実践遊び学		1	
	領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
				計	39	25	

別表第３　教育の基礎的理解に関する科目等（小）

施行規則に定める科目区分等				本学における科目等			
科目	各科目に含めることが必要な事項		単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	履修方法等
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		10	教育の原理	2		
				教育の歴史		2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）			教職論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）			教育の制度	2		
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程			生涯発達心理学		2	
				教育心理学	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解			特別支援教育･保育Ⅰ	1		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）			教育課程論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		10	道徳教育論	2		
	総合的な学習の時間の指導法			総合的な学習の時間の指導法	2		
	特別活動の指導法			特別活動論	2		
	教育の方法及び技術			教育の方法	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			ICT教育実践研究	1		
	生徒指導の理論及び方法			生徒・進路指導	2		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法			教育相談	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
教育実践に関する科目	教育実習		5	教育実習Ⅰ１（幼稚園）事前・事後指導		1	
				教育実習Ⅰ２(小学校）事前・事後指導	1		
				教育実習Ⅱ１(幼稚園)		2	
				教育実習Ⅲ１(小学校)	2		
				教育実習Ⅲ２(小学校)	2		
	学校体験活動			教育インターンシップ(小学校)		1	
	教職実践演習		2	教職実践演習(小学校)	2		
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国　語（書写を含む。）		教育内容(国語)		2	4科目8単位以上必修
		社　会		教育内容(社会)		2	
		算　数		教育内容(算数)		2	
		理　科		教育内容(理科)		2	
		生　活		教育内容(生活)		2	
		音　楽		教育内容(音楽)		2	
		図画工作		教育内容(図画工作)		2	
		家　庭		教育内容(家庭)		2	
		体　育		教育内容(体育)		2	
		外国語		教育内容(英語)	2		
	教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目						
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	国　語（書写を含む。）		国語科指導法	2		
		社　会		社会科指導法	2		
		算　数		算数科指導法	2		
		理　科		理科指導法	2		
		生　活		生活科指導法	2		
		音　楽		音楽科指導法	2		
		図画工作		図画工作科指導法	2		
		家　庭		家庭科指導法	2		
		体　育		体育科指導法	2		
		外国語		英語科指導法	2		
大学が独自に設定する科目				授業研究		2	
				教育指導法実践研究Ⅰ		1	
				教育指導法実践研究Ⅱ		1	
				計	53	30	

別表第３　特別支援教育に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分		単位数	本学における科目等			
			授業科目	単位数		履修方法等
				必	選	
特別支援教育の基礎理論に関する科目		2	特別支援教育論	2		
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	16	知的障害児の心理	2		
			知的障害児の生理・病理	2		
			肢体不自由児の心理	2		
			肢体不自由児の生理・病理	2		
			病弱児の心理	2		
			病弱児の生理・病理	2		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		知的障害教育	2		
			肢体不自由教育	2		
			病弱教育	2		
特別の教育課程による領域及び自立活動に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	5	LD・ADHD等の理解と指導法	1		
			重複障害児の理解と指導法	1		
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目		視覚障害児の理解と指導法	1		
			聴覚・言語障害児の理解と指導法	1		
			情緒障害児の理解と指導法	1		
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		3	教育実習Ｉ３（特別支援学校）事前・事後指導	1		
			教育実習Ⅳ（特別支援学校）	2		
			計	28		

別表第３　教育の基礎的理解に関する科目等（中高）

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学授業科目				
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	共通開設	履修方法等
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育の原理	2		栄	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		栄	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度	2		栄	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		栄	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	2		栄	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	1		栄	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	中10 高8	道徳教育論	2		栄	中免のみ
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導	2		栄	
	特別活動の指導法		特別活動論	2		栄	
	教育の方法及び技術		教育方法論	1		栄	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報通信技術の活用	1			
	生徒指導の理論及び方法		生徒･進路指導	2		栄	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法を含む。
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		栄	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法						
教育実践に関する科目	教育実習	中5 高3	教育実習Ⅰ		4		中一種免については「教育実習Ⅰ」必修、高一種免については「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」から1科目選択必修
			教育実習Ⅱ		2		
			事前･事後指導	1			
	学校体験活動						
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2			
			計	26	6		

別表第４　教育の基礎的理解に関する科目等（栄養教諭）

施行規則に定める科目区分等			左記に対応する本学授業科目				
科目	各科目に含めることが必要な事項	単位数	授業科目	単位数 必	単位数 選	共通開設	履修方法等
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育の原理	2		中・高	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2		中・高	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育の制度	2		中・高	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		中・高	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育概論	2		中・高	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		カリキュラム論	1		中・高	
道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容	6	道徳教育論	2		中・高	
			総合的な学習の時間の指導	2			
			特別活動論	2			
	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		教育方法論	1		中・高	
	生徒指導の理論及び方法		生徒･進路指導	2		中・高	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		中・高	
教育実践に関する科目	栄養教育実習	2	栄養教諭教育実習	1			
			栄養教諭教育実習事前・事後指導	1			
	教職実践演習	2	教職実践演習（栄養教諭）	2			
			計	26			

別表第５　図書館学に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考		
			司書	司書教諭	学校司書
学芸学部	生涯学習概論	2	必修		
日本語日本文学科	図書館概論	2	必修		
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	図書館制度・経営論	2	必修		
子ども教育学科	図書館情報技術論	2	必修		必修
但し子ども教育学科は司書教諭、学校司書科目に限る	図書館サービス概論	2	必修		
	情報サービス論	2	必修		
メディア情報学科	児童サービス論	2	必修		
	情報サービス演習Ⅰ	1	必修		
	情報サービス演習Ⅱ	1	必修		
	図書館情報資源概論	2	必修		必修
	情報資源組織論Ⅰ	2	必修		必修
	情報資源組織論Ⅱ	2	必修		必修
	情報資源組織演習Ⅰ	1	必修		必修
	情報資源組織演習Ⅱ	1	必修		必修
	図書館基礎特論	2	選択必修4		
	図書館サービス特論Ⅰ	2			
	図書館サービス特論Ⅱ	2			
	図書館施設論	2			
	図書・図書館史	2			
	図書館実習（事前・事後の指導を含む）	2	必修		
	学校経営と学校図書館	2		必修	必修
	学校図書館メディアの構成	2		必修	
	学習指導と学校図書館	2		必修	必修
	読書と豊かな人間性	2		必修	必修
	情報メディアの活用	2		必修	
	学校図書館サービス論	2			必修
	学校図書館情報サービス論	2			必修
	学校教育概論	2			必修
	計	52	30	10	22

別表第６　保育士に関する科目

学部学科	告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					授業時間（時間）	備　考
	系列	教科目	授業形態	開　設単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	配当年次	単位数 必修	単位数 選択		
学芸学部 子ども教育学科	教養科目	外国語、体育以外の科目	不問	6以上	さがみ総合講座	講義	1	2			6単位必修
					基礎教育講座	講義	1	2			
					日本国憲法	講義	1		2		
	教養科目	外国語	演習	2以上	英語Ⅰ	演習	1		1		
					英語Ⅱ	演習	1		1		
					英語Ⅲ	演習	1		1		
					英語Ⅳ	演習	1		1		
					中国語Ⅰ	演習	1		1		
					中国語Ⅱ	演習	1		1		
					中国語Ⅲ	演習	1		1		
					中国語Ⅳ	演習	1		1		
					韓国／朝鮮語Ⅰ	演習	1		1		
					韓国／朝鮮語Ⅱ	演習	1		1		
					韓国／朝鮮語Ⅲ	演習	1		1		
					韓国／朝鮮語Ⅳ	演習	1		1		
					フランス語Ⅰ	演習	1		1		
					フランス語Ⅱ	演習	1		1		
					フランス語Ⅲ	演習	1		1		
					ドイツ語Ⅰ	演習	1		1		
					ドイツ語Ⅱ	演習	1		1		
					ドイツ語Ⅲ	演習	1		1		
					イタリア語Ⅰ	演習	1		1		
					イタリア語Ⅱ	演習	1		1		
					スペイン語Ⅰ	演習	1		1		
					スペイン語Ⅱ	演習	1		1		
		体育	講義	1	ウエルネス	講義	1		2		2単位必修
					身体の科学	講義	1		2		
			実技	1	球技スポーツ	実技	1		1		1単位必修
					ラケットスポーツ	実技	1		1		
					健康スポーツ	実技	1		1		
					シーズンスポーツ	実技	1		1		
		10単位以上			計			4	32		
					２４（≧１０単位）						

別表第６　保育士に関する科目

学部学科	告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					授業時間（時間）	備　考
	系列	教科目	授業形態	開　設単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	配当年次	単位数 必修	単位数 選択		
学芸学部 子ども教育学科	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	講義	2	保育の原理	講義	1	2		30	
		教育原理	講義	2	教育の原理	講義	1	2		30	
		子ども家庭福祉	講義	2	子ども家庭福祉	講義	1	2		30	
		社会福祉	講義	2	社会福祉	講義	2	2		30	
		子ども家庭支援論	講義	2	子ども家庭支援論	講義	2	2		30	
		社会的養護Ⅰ	講義	2	社会的養護Ⅰ（原理）	講義	2	2		30	
		保育者論	講義	2	保育者論	講義	1	2		30	
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	講義	2	生涯発達心理学	講義	1	2		30	
		子ども家庭支援の心理学	講義	2	子育て支援の心理学	講義	2	2		30	
		子どもの理解と援助	演習	1	子どもの理解と援助	演習	2	2		30	
		子どもの保健	講義	2	子どもの保健	講義	2	2		30	
		子どもの食と栄養	演習	2	子どもの食事と栄養	演習	3	2		30	
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	講義	2	保育カリキュラム論	講義	2	2		30	
		保育内容総論	演習	1	保育内容総論	演習	1	1		30	
		保育内容演習	演習	5	保育内容指導法（健康）	演習	1	1		30	
					保育内容指導法（人間関係）	演習	2	1		30	
					保育内容指導法（環境）	演習	2	1		30	
					保育内容指導法（言葉）	演習	2	1		30	
					保育内容指導法（表現）	演習	3	1		30	
		保育内容の理解と方法	演習	4	音楽表現活動	演習	2	1		30	
					絵画・造形表現活動	演習	2	1		30	
					運動・身体表現活動	演習	1	1		30	
					保育表現活動	演習	3	1		30	
		乳児保育Ⅰ	講義	2	乳児保育Ⅰ	講義	1	2		30	
		乳児保育Ⅱ	演習	1	乳児保育Ⅱ	演習	2	1		30	
		子どもの健康と安全	演習	1	子どもの健康と安全	演習	3	1		30	
		障害児保育	演習	2	特別支援教育・保育Ⅰ	演習	2	1		30	
					特別支援教育・保育Ⅱ	演習	2	1		30	
		社会的養護Ⅱ	演習	1	社会的養護Ⅱ（内容）	演習	3	1		30	
		子育て支援	演習	1	子育て支援	演習	3	1		30	
	保育実習	保育実習Ⅰ	実習	4	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	3	2		90	
					保育実習Ⅰ（施設）	実習	3	2		90	
		保育実習指導Ⅰ	演習	2	保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	3	1		30	
					保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	3	1		30	
	総合演習	保育実践演習	演習	2	保育・教職実践演習	演習	4	2		30	
	合　計		５１単位		計			52	0		
					５２単位（≧５１単位）						

別表第６　保育士に関する科目

学部学科	告示による教科目				当該養成施設における教科の開設状況等					授業時間（時間）	備　考
	系列	教科目	授業形態	開　設単位数	左に対応して開設されている教科目	授業形態	配当年次	単位数 必修	単位数 選択		
学芸学部 子ども教育学科	保育の本質に関する科目・保育の目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定		１５単位以上	教育とジェンダー	講義	3		2	30	13単位必修（保育実習2単位、保育実習指導1単位以上含む）
					教育心理学	講義	1		2	30	
	保育の対象の理解に関する科目				子どもの教育とメディア	講義	2		2	30	
					保育指導法実践研究	演習	3	1		30	
					幼児指導論	講義	3		2	30	
	保育の内容・方法に関する科目				子育て支援実践研究	演習	3	1		30	
					英語遊び指導法	演習	4		1	30	
					音楽Ⅰ	演習	1		1	30	
					音楽Ⅱ	演習	1		1	30	
					音楽Ⅲ	演習	2		1	30	
					音楽Ⅳ	演習	2		1	30	
					実践遊び学	演習	1	1		30	
					手話の基礎	演習	2	1		30	
					点字の基礎	演習	2	1		30	
	保育実習	保育実習Ⅱ	実習	2	保育実習Ⅱ（保育所）	実習	4		2	90	2単位必修
		保育実習Ⅲ	実習	2	保育実習Ⅲ（施設）	実習	4		2	90	
		保育実習指導Ⅱ	演習	1	保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習	4		1	30	1単位必修
		保育実習指導Ⅲ	演習	1	保育実習指導Ⅲ（施設）	演習	4		1	30	
	合　計			１８単位以上	計			5	19		
					２４単位（≧１８単位）						

注記.　児童福祉法施行規則第6条の2第１項第6号に基づき、保育士に関する演習・実習科目の履修生数は、50人以下とする。

別表第７　博物館に関する科目

学部学科	施行規則に定める科目		本学における科目		
	科目名	単位数	授業科目	単位数	備考
学芸学部 メディア情報学科	生涯学習概論	2	生涯学習とメディア	2	必修
	博物館概論	2	ミュージアム概論	2	必修
	博物館経営論	2	ミュージアム経営論	2	必修
	博物館資料論	2	アーカイブ論	2	必修
	博物館資料保存論	2	アーカイブ管理論	2	必修
	博物館展示論	2	空間プレゼンテーション論	2	必修
	博物館教育論	2	ミュージアム教育論	2	必修
	博物館情報・メディア論	2	情報・メディア論	2	必修
	博物館実習	3	博物館実習	3	必修
	計	19	計	19	

別表第８　上級情報処理士に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	領域1		
メディア情報学科	情報処理概論	2	必修
	インターネットとビジネス	2	
	メディアデザイン	2	
	デジタルデザイン	2	
	プログラミング基礎	2	
	電子メディア論	2	
	デジタルプレゼンテーション演習	2	
	情報管理論	2	
	領域2		
	メディアと法	2	必修
	情報社会論	2	必修
	Webデザイン基礎	2	
	アニメーション技法	2	
	データベース論	2	
	データベース演習	2	
	Webデザイン応用	2	
	プログラミング応用	2	
	情報通信ネットワーク論	2	
	情報通信ネットワーク演習	2	
	ビジュアルエフェクト演習	2	
	アプリケーション開発	2	
	領域3		
	ゼミナールⅠ	2	必修
	メディアワークⅠ	2	
	メディアワークⅡ	2	
	メディアワークⅢ	2	
	プロジェクトワークⅠ	2	
	プロジェクトワークⅡ	2	
	ゼミナールⅡ	2	
	合計	54	必修科目を含め合計24単位以上

別表第９　ビジネス実務士取得に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	領域１		
メディア情報学科	ビジネス実務総論	2	
	マーケティング論	2	必修
	マネジメント論	2	
	領域２		
	流通論	2	必修
	プロモーションとサービス	2	
	マーケティングリサーチ	2	
	領域３		
	ゼミナールI	2	必修
	ゼミナールII	2	
	合計	16	総計10単位以上

別表第10　ウェブデザイン実務士取得に関する科目

学部学科	規則等に規定する教育内容	該当授業科目	必修・選択の別	単位数	備考
学芸学部	必修科目	領域１			
メディア情報学科		Webデザイン基礎	必修	2	
		情報リテラシー	必修	1	
		領域２			
		デジタルデザイン	必修	2	
		Webデザイン応用	必修	2	
		領域３			
		Webデザイン実践	必修	2	
		小計		9	
	選択必修科目	領域１			
		メディアと法	選択必修	2	
		領域２			
		色彩文化論	選択必修	2	
		３DCG基礎	選択必修	2	12単位必修
		アニメーション技法	選択必修	2	
		アプリケーション開発	選択必修	2	
		領域３			
		コンセプト構想論	選択必修	2	
		小計		12	
		合計		21	

別表第11　一級・二級建築士試験指定科目

学部学科	分　野	授　業　科　目　名	単位数	一級建築士				二級建築士					
学芸学部	①建築設計製図	製図Ⅱ	1	7単位必修		7単位必修		3単位必修		3単位必修		3単位必修	
		空間デザイン	2										
		建築デザインⅡ	2										
		インテリアデザインⅡ	2										
		建築デザインⅢ	2										
	②建築計画	住宅デザインの歴史	2	7単位必修		7単位必修		2単位必修		2単位必修		2単位必修	
		建築の歴史	2										
		住宅計画	2										
		空間デザインと計画	2										
	③建築環境工学	空間デザインと環境	2	2		2							
	④建築設備	空間デザインと設備	2	2		2							
	⑤構造力学	空間デザインと構造	2	4単位必修	50単位必修	4単位必修	40単位必修		40単位必修		30単位必修		20単位必修
		建築構造	2										
	⑥建築一般構造	空間デザインと構法	2	3単位必修		3単位必修		3単位必修		3単位必修		3単位必修	
		建築構法演習	1										
	⑦建築材料	空間デザインと材料	2	2		2							
	⑧建築生産	建築施工	2	2		2		2		2		2	
	⑨建築法規	建築法規	2	2		2		2		2		2	
	⑩その他	空間構成	2										
		製図Ⅰ	1										
		ＣＡＤⅠ	2										
		ＣＡＤⅡ	2										
		ＣＡＤⅢ	2										
		人間工学	2										
		インテリアデザインⅠ	2										
		福祉住環境演習	1										
		建築デザインⅠ	2										
	合計単位数		50	50		40		40		30		20	
	免許登録時に必要となる建築実務の経験			3年		4年		0年		1年		2年	

別表第12　インテリアプランナー登録資格に関する科目

学部学科	区分	科目名称	単位数	備考
学芸学部 生活デザイン学科	インテリア関連科目	デザイン史Ⅰ	2	A （36単位-B-C）単位以上
		デザイン史Ⅱ	2	
		色彩論	2	
		空間構成	2	
		立体構成	1	
		デザインスケッチ	1	
		モデルメイキングⅠ	2	
		建築の歴史	2	
		住宅デザインの歴史	2	
		デザインの入り口	2	
	インテリア専門科目	住宅計画	2	B （24単位-C）単位以上
		人間工学	2	
		空間デザインと環境	2	
		空間デザインと設備	2	
		造形心理	2	
		空間デザインと材料	2	
		ファブリック概論	2	
		空間デザインと構法	2	
		建築構法演習	1	
		空間デザインと構造	2	
		建築施工	2	
		建築法規	2	
		建築デザインⅠ	2	
		空間デザイン	2	
		製図Ⅰ	1	
		ＣＡＤⅠ	2	
		ＣＡＤⅡ	2	
		ＣＡＤⅢ	2	
		空間デザインと計画	2	
		インテリアデザインⅠ	2	
		インテリアコーディネイト演習	1	
		インテリアデザインⅡ	2	C （1単位以上必修）
		製図Ⅱ	1	
		建築デザインⅡ	2	
		建築デザインⅢ	2	
	合計		64	36単位以上

別表第13　商業施設士（補）に関する科目

群	区分	内容／考えられる科目の一例	科目名称	単位数	備考
Ａ－１	商業一般	商業一般に関する科目 《考えられる科目名の一例》 消費経済学　生活概論　マーケティング論　流通論　など	環境学 スモールビジネス デザインとビジネス デザインの入り口	2 2 2 2	2区分以上にわたり30単位以上
Ａ－２	業態計画	商業施設の構成に関する科目 《考えられる科目名の一例》 まちづくり論　商空間計画論　空間演出論　スペースデザイン論　など	色彩論 人間工学 造形心理	2 2 2	
Ａ－３	計画一般	商業施設の企画、商業施設の計画、法規、安全計画、展示・装置計画、設計 に関する科目 《考えられる科目名の一例》 インテリアデザイン　店舗(小売業)計画　安全設備論　展示学　など	空間構成 立体構成 モデルメイキングⅠ モデルメイキングⅡ インテリアデザインⅠ インテリアデザインⅡ デザイン史Ⅰ デザイン史Ⅱ	2 1 2 2 2 2 2 2	
Ａ－４	施設計画	建築一般に関する科目 《考えられる科目名の一例》 建築計画学　建築法規　建築史　都市計画　など	空間デザインと環境 住宅デザインの歴史 住宅計画 建築の歴史 空間デザイン 建築デザインⅠ 建築デザインⅡ 空間デザインと構造 空間デザインと計画 建築法規	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
Ａ－５	監理・施工	商空間の工事監理・施工に関する科目 《考えられる科目名の一例》 建築施工　材料　積算･見積り　安全管理　など	建築構法演習 プロダクトデザインⅠ プロダクトデザインⅡ 空間デザインと材料 空間デザインと構法 空間デザインと設備 建築施工 建築構造	1 2 2 2 2 2 2 2	
Ｂ－１	図案表現	設計・製図・ＣＡＤ・ＣＧなどにより、商業施設を構想し表現することに関する科目 《考えられる科目名の一例》 インテリアデザイン演習　表現法演習　設計･製図実習　ＣＡＤなど	製図Ⅰ ＣＡＤⅠ 製図Ⅱ デザインスケッチ ＣＡＤⅡ	1 2 1 1 2	どちらかの区分で4単位以上
Ｂ－１	文章表現	プレゼン・マーケティング・コンサルにより、商業施設を構想し表現することに関する科目 《考えられる科目名の一例》 マーケティング戦略演習　プレゼン力　分析･解析技法　など	プレゼンテーションスキル ＣＡＤⅢ ３ＤＣＧ演習	1 2 2	

別表第14　プレゼンテーション実務士に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部			
社会マネジメント学科	１．領域1		
	プレゼンテーション概論	2	必修
	プレゼンテーション演習Ⅰ	2	
	プレゼンテーション演習Ⅱ	2	
	日本語表現法	2	
	２．領域2		
	プレゼンテーション演習Ⅲ	2	必修
	社会人デビュー講座（基礎編）	1	
	社会人デビュー講座（応用編）	1	10単位以上
	統計基礎	2	
	映像で学ぶ近現代史１	2	
	３．領域3		
	基礎教育講座	2	必修
	地域で学ぶ社会のしくみ	1	
	日本語スキルアップ講座	2	
	計	21	

別表第15　社会調査士に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部			
社会マネジメント学科	A　社会調査の基本的事項に関する科目		
	社会調査法概論	2	必修
	B　調査設計と実施方法に関する科目		
	社会調査法演習	2	必修
	C　基本的な資料とデータの分析に関する科目		
	統計基礎	2	必修
	D　社会調査に必要な統計学に関する科目		
	応用統計学	2	必修
	E　量的データ解析の方法に関する科目		
	集計・分析の技法	2	2単位必修
	F　質的な分析の方法に関する科目		
	フィールドワークの技法	2	
	G　社会調査の実習を中心とする科目		
	ゼミナールⅠ	2	4単位以上 ただし同一科目をⅠ・Ⅱ連続で履修し単位を修得しなければならない
	ゼミナールⅡ	2	
	社会調査法実習Ⅰ	2	
	社会調査法実習Ⅱ	2	
	地域連携プロジェクト演習Ⅰ	2	
	地域連携プロジェクト演習Ⅱ	2	
	計	24	

別表第16 社会福祉士国家試験の受験資格に関する科目

学部学科	項目		該当授業科目	授業形態	単位数	時間数	備考
人間社会学部	規則等に規定する教育内容	一　医学概論	人体の構造と機能及び疾病	講義	2	30	必修
社会マネジメント学科		二　心理学と心理的支援	心理学概論	講義	2	30	必修
人間心理学科		三　社会学と社会システム	社会学と社会システム	講義	2	30	必修
		四　社会福祉の原理と政策	社会福祉の原理と政策Ⅰ	講義	2	30	必修
			社会福祉の原理と政策Ⅱ	講義	2	30	必修
		五　社会福祉調査の基礎	社会調査法概論	講義	2	30	必修
		六　ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	講義	2	30	必修
		七　ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	講義	2	30	必修
		八　ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	講義	2	30	必修
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	講義	2	30	必修
		九　ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	講義	2	30	必修
			ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	講義	2	30	必修
		十　地域福祉と包括的支援体制	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	講義	2	30	必修
			地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	講義	2	30	必修
		十一　福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	講義	2	30	必修
		十二　社会保障	社会保障法Ⅰ	講義	2	30	必修
			社会保障法Ⅱ	講義	2	30	必修
		十三　高齢者福祉	高齢者福祉	講義	2	30	必修
		十四　障害者福祉	障害者福祉	講義	2	30	必修
		十五　児童・家庭福祉	児童・家庭福祉	講義	2	30	必修
		十六　貧困に対する支援	生活保護制度	講義	2	30	必修
		十七　保健医療と福祉	保健医療と福祉	講義	2	30	必修
		十八　権利擁護を支える法制度	権利擁護を支える法制度	講義	2	30	必修
		十九　刑事司法と福祉	刑事司法と福祉	講義	2	30	必修
		二十　ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習（基礎）	演習	1	30	必修
		二十一　ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	演習	1	30	必修
			ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	演習	2	60	必修
			ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	演習	1	30	必修
		二十二　ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	演習	1	30	必修
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	演習	1	30	必修
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	演習	1	30	必修
		二十三　ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習Ⅰ	実習	2	60	必修
			ソーシャルワーク実習Ⅱ	実習	6	180	必修
	本学独自に規定する教育内容		社会福祉士試験対策講座Ⅰ	講義	2	30	
			社会福祉士試験対策講座Ⅱ	講義	2	30	
	計				68	64単位以上	

別表第17　准学校心理士に関する科目

学部学科	授業科目	単位数	備考
人間社会学部人間心理学科	教育・学校心理学	2	必修
	発達心理学	2	必修
	障害者・障害児心理学	2	必修
	福祉心理学	2	必修
	心理的アセスメント	2	必修
	心理学的支援法	2	必修
	計	12	

別表第18　ピアヘルパーに関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部			
人間心理学科	心理学的支援法	2	4単位必修
	青年心理学	2	
	カウンセリング・スキル	2	
	計	6	

別表第19　公認心理師国家試験の受験資格に関する科目

学部学科	公認心理師法施行規則に定める科目	学則に定める本学開講科目	単位数	備考
人間社会学部	公認心理師の職責	公認心理師の職責	2	必修
人間心理学科	心理学概論	心理学概論	2	必修
	臨床心理学概論	臨床心理学概論	2	必修
	心理学研究法	心理学研究法	2	必修
	心理学統計法	心理学統計法Ⅰ	2	必修
	心理学実験	心理学実験演習Ⅰ	2	必修
	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学Ⅰ（知覚心理学）	2	必修
		知覚・認知心理学Ⅱ（認知心理学）	2	必修
	学習・言語心理学	学習・言語心理学	2	必修
	感情・人格心理学	感情・人格心理学	2	必修
	神経・生理心理学	神経・生理心理学	2	必修
	社会・集団・家族心理学	社会・集団・家族心理学	2	必修
	発達心理学	発達心理学	2	必修
	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学	2	必修
	心理的アセスメント	心理的アセスメント	2	必修
	心理学的支援法	心理学的支援法	2	必修
	健康・医療心理学	健康・医療心理学	2	必修
	福祉心理学	福祉心理学	2	必修
	教育・学校心理学	教育・学校心理学	2	必修
	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学	2	必修
	産業・組織心理学	産業・組織心理学	2	必修
	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2	必修
	精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	2	必修
	関係行政論	関係行政論	2	必修
	心理演習	心理演習	2	必修
	心理実習	心理実習指導Ⅰ	1	必修
		心理実習指導Ⅱ	1	必修
		心理実習	2	必修
	計		54	

別表第20　フードコーディネーター3級に関する科目

学部学科	授業科目	単位数	備　　考
人間社会学部 地域クリエーション学科	食文化論	2	必修
	ホスピタリティ概論	2	必修
	フードデザイン実習（応用調理）	1	必修
	メニュー開発論	2	必修
	テーブルコーディネート論(演習含む)	2	必修
	ホスピタリティ実践	1	必修
	フードデザイン実習（基礎調理）	1	必修
	食品の化学	2	必修
	公衆衛生学	2	必修
	食品衛生学	2	必修
	調理科学	2	必修
	フードプランニング論	2	必修
	健康と栄養	2	必修
	計	23	

別表第21　健康栄養学科における栄養士免許取得に関する科目

学部学科	規則等に規定する教育内容	単位数		該当授業科目	単位数	
		講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
栄養科学部 健康栄養学科	社会生活と健康	4		公衆衛生学	2	
				社会福祉論	2	
				社会生活と健康の小計	4	
	人体の構造と機能	8		解剖生理学	2	
				解剖生理学実習		1
				運動生理学	2	
				生化学	2	
				生化学実験		1
			4	臨床医学	2	
				人体の構造と機能の小計	8	2
	食品と衛生	6		食品学総論	2	
				食品学各論	2	
				食品学実験		1
				食品衛生学	2	
				食品衛生学実験		1
				微生物学	2	
				食品と衛生の小計	8	2
	栄養と健康	8		栄養学総論	2	
				ライフステージの栄養学Ⅰ	2	
				ライフステージの栄養学Ⅱ	2	
				ライフステージの栄養学実習		1
				運動栄養学	2	
				臨床栄養学	2	
				臨床栄養学実習		1
				栄養と健康の小計	10	2
	栄養の指導	6		公衆栄養学	2	
				栄養士入門	2	
				栄養指導論	2	
				栄養士基礎実習		1
			10	栄養指導論実習		1
				栄養の指導の小計	6	2
	給食の運営	4		給食管理論Ⅰ	2	
				給食管理論Ⅱ	2	
				給食管理実習（校内）		2
				給食管理実習（校外）		1
				校外実習事前事後指導	1	
				調理学	2	
				調理科学実験		1
				調理学実習Ⅰ		1
				調理学実習Ⅱ		1
				給食の運営の小計	7	6
	小計	36	14	小計	43	14
	合計	50		合計	57	

別表第22　フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目

学部学科	規定科目	単位数	該当授業科目	単位数	備　　考
栄養科学部 健康栄養学科	フードスペシャリスト論	２単位以上	フードスペシャリスト論	2	必修
	食品の官能評価・鑑別論 〔統計処理を含む〕	次のいずれかを含む授業が行われること （１）演習２単位以上 （２）講義２単位以上及び演習１単位以上 （３）講義１単位以上及び実験もしくは実習１単位以上	食品官能評価･鑑別演習	2	必修
	食物学（食品学、食品加工学、食商品学等）に関する科目	講義４単位以上及び実験又は実習１単位以上	食品学総論	2	必修
			食品学各論	2	必修
			食品学実験	1	必修
	食品の安全性（食品衛生、食中毒、有害物質、食品添加物、水質等）に関する科目	２単位以上	微生物学	2	必修
			食品衛生学	2	必修
			食品衛生学実験	1	必修
	調理学（調理科学を含む）に関する科目	講義２単位以上及び実験又は実習２単位以上	調理学	2	必修
			調理科学実験	1	必修
			調理学実習Ⅰ	1	必修
			調理学実習Ⅱ	1	必修
	栄養と健康に関する科目 〔食品機能論を含む〕	２単位以上	栄養学総論	2	2単位以上
			食品機能論	2	
	食品流通・消費に関する科目 〔マーケティングリサーチを含む〕	２単位以上	消費者商品学	2	2単位以上
			消費経済学	2	
			ブランド戦略・商品開発論	2	
			マーケティング・経営戦略論	2	
			マーケティング論	2	
			プロモーションとサービス	2	
			流通論	2	
	フードコーディネート論	２単位以上	フードコーディネート論	2	2単位以上
			フードコーディネート論実習	1	
			計	40	

別表第23　食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する科目

学部学科	規則等に規定する科目群	基本科目名	左記基本科目に該当する本学の授業科目名	単位数	地域クリエーション学科	健康栄養学科	管理栄養学科
人間社会学部 地域クリエーション学科 栄養科学部 健康栄養学科 管理栄養学科	A群 化学関係	分析化学	基礎化学	2	○		
			基礎化学実験	1	○		
			基礎科学実験	1			○
		有機化学	有機化学	2		○	
	B群 生物化学 関係	生物化学	生化学	2	○	○	
			生化学Ⅰ	2			○
			生化学Ⅱ	2			○
			生化学実験	1		○	○
		生理学	栄養生理学	2	○		
		食品化学	食品学総論	2		○	○
			食品学各論	2		○	○
			調理科学	2			○
			食品の化学	2	○		
		食品分析学	食品学実験Ⅰ	1			○
			食品学実験Ⅱ	1			○
			食品学実験	1		○	
			調理科学実験	1		○	
			食品官能評価・鑑別演習	2		○	
	C群 微生物学 関係	微生物学	微生物学	2	○	○	○
		食品製造学	食品加工学	2		○	
			食品加工学実習	1		○	
		食品微生物学	発酵・醸造学	2	○		
	D群 公衆衛生学 関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2	○	○	
			公衆衛生学Ⅰ	2			○
			公衆衛生学Ⅱ	2			○
			食と環境	2	○		
		食品衛生学	食品衛生学	2	○	○	○
			食品衛生学実験	1	○	○	○
			食品安全学	2	○		
			合計（A群+B群+C群+D群）		22単位以上		
	E群 その他の 関連科目	水産化学、畜産化学、 放射線化学、乳化学、 食肉化学、高分子化学、 生物有機化学、 環境汚染物質分析学、 酵素化学、食品理化学、 水産生理学、家畜生理学、 植物生理学、環境生物学、 応用微生物学、 酪農微生物学、病理学、 医学概論、解剖学、 医科学、産業医学、 血液学、血清学、遺伝学、 寄生虫学、獣医学、 栄養化学、衛生統計学、 栄養学、環境保健学、 衛生管理学、水産製造学、 畜産品製造学、 農産物製造学、 醸造調味食品製造学、 乳製品製造学、缶詰工学、 食品工学、食品保存学、 冷凍冷蔵学、 品質管理学、等	●講義科目				
			栄養学総論	2		○	
			ライフステージの栄養学Ⅰ	2		○	
			ライフステージの栄養学Ⅱ	2		○	
			臨床医学	2		○	
			臨床栄養学	2		○	
			公衆栄養学	2		○	
			解剖生理学	2		○	
			運動栄養学	2		○	
			基礎栄養学	2			○
			応用栄養学Ⅰ	2			○
			応用栄養学Ⅱ	2			○
			解剖生理学Ⅰ	2			○
			解剖生理学Ⅱ	2			○
			臨床医学Ⅰ	2			○
			臨床医学Ⅱ	2			○
			公衆栄養学Ⅰ	2			○
			健康と栄養	2	○		
			栄養機能学	2	○		
			ライフステージと食	2	○		
			地域栄養学	2	○		
			生物と生態系	2	○		
			食品加工と保蔵	2	○		
			調理科学	2	○		
			食品分析学	2	○		
			フードプランニング論	2	○		
			●実習科目				
			ライフステージの栄養学実習	1		○	
			応用栄養学実習	1			○
			臨床栄養学実習	1		○	
			解剖生理学実習	1		○	
			保健統計学実習	1			○
			基礎栄養学実験	1			○
			栄養マネジメント実習	1	○		
			食品加工学実習	1	○		
			食安全マネジメント演習	1	○		
			合計（E群）		20単位以上	18単位以上	
			最低必要単位数　総合計（A群+B群+C群+D群+E群）		42単位以上	40単位以上	

別表第24　管理栄養学科における栄養士免許取得に関する科目

学部学科	規則等に規定する講義内容	単位数		該当授業科目	単位数	
		講義又は演習	実験又は実習		講義又は演習	実験又は実習
栄養科学部	社会生活と健康	4	4	公衆衛生学Ⅰ	2	
管理栄養学科				保健介護福祉論	2	
				社会生活と健康の小計	4	
	人体の構造と機能	8		解剖生理学Ⅰ	2	
				解剖生理学Ⅱ	2	
				解剖生理学実習		1
				生化学Ⅰ	2	
				生化学実験		1
				臨床医学Ⅰ	2	
				人体の構造と機能の小計	8	2
	食品と衛生	6		食品学総論	2	
				食品学各論	2	
				食品学実験Ⅰ		1
				食品衛生学	2	
				食品衛生学実験		1
				食品と衛生の小計	6	2
	栄養と健康	8	10	基礎栄養学	2	
				基礎栄養学実験		1
				食事摂取基準論	2	
				応用栄養学Ⅰ	2	
				応用栄養学Ⅱ	2	
				応用栄養学実習		1
				栄養と健康の小計	8	2
	栄養の指導	6		栄養教育論Ⅰ	2	
				栄養教育実践活動論	2	
				栄養教育実習		1
				食事療法実習		1
				臨床栄養管理実習		1
				公衆栄養学Ⅰ	2	
				公衆栄養学実習		1
				栄養の指導の小計	6	4
	給食の運営	4		給食経営管理論Ⅰ	2	
				給食経営管理論Ⅱ	2	
				給食経営管理実習		2
				調理学実習		1
				臨地実習Ⅰ（給食の運営）		1
				給食の運営の小計	4	4
	小計	36	14	小計	36	14
	合計	50		合計	50	

別表第25　管理栄養学科における管理栄養士国家試験の受験資格を得るための科目

学部学科	規則等に規定する教育内容		単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習	該当授業科目	単位数 講義又は演習	単位数 実験又は実習
栄養科学部 管理栄養学科	専門基礎分野	社会・環境と健康	6	10	公衆衛生学Ⅰ	2	
					公衆衛生学Ⅱ	2	
					保健統計学実習		1
					保健介護福祉論	2	
					社会・環境と健康の小計	6	1
		人体の構造と機能及び疾病の成り立ち	14		生化学Ⅰ	2	
					生化学Ⅱ	2	
					生化学実験		1
					解剖生理学Ⅰ	2	
					解剖生理学Ⅱ	2	
					臨床医学Ⅰ	2	
					臨床医学Ⅱ	2	
					解剖生理学実習		1
					臨床検査実習		1
					「身体活動」の生理学	2	
					人体の構造と機能及び疾病の成り立ちの小計	14	3
		食べ物と健康	8		食品学総論	2	
					食品学各論	2	
					食品学実験Ⅰ		1
					食品学実験Ⅱ		1
					調理科学	2	
					調理学実習		1
					応用調理学実習		1
					調理科学実験		1
					食品衛生学	2	
					食品衛生学実験		1
					食べ物と健康の小計	8	6
		小計	28	10	専門基礎分野合計	28	10
	専門分野	基礎栄養学	2	8	基礎栄養学	2	
					基礎栄養学実験		1
					基礎栄養学の小計	2	1
		応用栄養学	6		応用栄養学Ⅰ	2	
					応用栄養学Ⅱ	2	
					応用栄養学実習		1
					食事摂取基準論	2	
					栄養ケアマネジメント実習		1
					応用栄養学の小計	6	2
		栄養教育論	6		栄養教育論Ⅰ	2	
					栄養教育論Ⅱ	2	
					栄養教育実践活動論	2	
					栄養教育実習		1
					栄養教育論の小計	6	1
		臨床栄養学	8		臨床栄養管理学Ⅰ	2	
					臨床栄養管理学Ⅱ	2	
					臨床栄養管理学Ⅲ	2	
					病態栄養治療学演習	2	
					臨床栄養管理実習		1
					食事療法実習		1
					臨床栄養学の小計	8	2
		公衆栄養学	4		公衆栄養学Ⅰ	2	
					公衆栄養学Ⅱ	2	
					公衆栄養学実習		1
					公衆栄養学の小計	4	1
		給食経営管理論	4		給食経営管理論Ⅰ	2	
					給食経営管理論Ⅱ	2	
					給食経営管理実習		2
					給食経営管理論の小計	4	2
		総合演習	2		管理栄養士演習Ⅰ	1	
					管理栄養士演習Ⅱ	1	
					管理栄養士演習Ⅲ	1	
					管理栄養士演習Ⅳ	1	
					管理栄養士演習Ⅴ	2	
					総合演習の小計	6	
		臨地実習		4	臨地実習Ⅰ（給食の運営）※		1
					臨地実習Ⅱ（臨床栄養学）		2
					臨地実習Ⅲ（公衆栄養学）		1
					臨地実習の小計		4
		専門分野の小計	32	12	専門分野の小計	36	13
		累計	60	22	累計	64	23
		合計	82		合計	87	

※給食の運営に係る校外実習

別表第26　情報処理士に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	領域1		
日本語日本文学科	情報リテラシー	1	
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	AIと社会	2	
子ども教育学科	コンピュータリテラシー	2	必修
メディア情報学科			
生活デザイン学科	領域2		
人間社会学部	情報処理概論	2	必修
社会マネジメント学科	データサイエンス	2	
人間心理学科	SPI対策講座	2	
地域クリエーション学科	キャリア・プランニング	2	
栄養科学部	ビジネス実務総論	2	
健康栄養学科	倫理学	2	
管理栄養学科	経済学	2	
	メディアと文化	2	
	社会学	2	
	領域3		
	基礎教育講座	2	必修
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	1	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	1	
	計	27	必修科目を含め合計16単位以上

別表第27　入学金、授業料等の学費

（単位　　円）

	学　芸　学　部				
	日本語日本文学科	国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	子ども教育学科	メディア情報学科	生活デザイン学科
入　学　金 （入学時）	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000
授　業　料 （年　額）	765,000	765,000	770,000	765,000	785,000
施設設備費 （年　額）	350,000	350,000	390,000	350,000	390,000

（単位　　円）

	人間社会学部		
	社会マネジメント学科	人間心理学科	地域クリエーション学科
入　学　金 （入学時）	260,000	260,000	260,000
授　業　料 （年　額）	765,000	765,000	770,000
施設設備費 （年　額）	350,000	350,000	390,000

（単位　　円）

	栄養科学部	
	健康栄養学科	管理栄養学科
入　学　金 （入学時）	260,000	260,000
授　業　料 （年　額）	785,000	785,000
施設設備費 （年　額）	390,000	390,000

学則の変更事項を記載した書類

１．変更の事由

①2026（令和８）年度に学芸学部国際コミュニケーション学科及び人間社会学部地域クリエーション学科を設置するとともに、学芸学部英語文化コミュニケーション学科の学生募集を停止することに伴い、以下のとおり一部改正する。

(ア) 同学則第２条第２項について学芸学部英語文化コミュニケーション学科を廃止し、国際コミュニケーション学科を新設する。
(イ) 同学則第２条第３項について人間社会学部に地域クリエーション学科を新設する。
(ウ) 同学則第２条の３第２項第２号について、英語文化コミュニケーション学科の目的を国際コミュニケーション学科の目的に変更する。
(エ) 同学則第２条の４第２項第３号に地域クリエーション学科の目的を追加する。
(オ) 同学則第８条の２に「フードコーディネーター３級に関する科目」、「食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目」、「二等無人航空機操縦士に関する科目」、「温泉保養士に関する科目」を追加する。
(カ) 同学則第 11 条第２項第１号について、英語文化コミュニケーション学科の卒業要件の単位数を国際コミュニケーション学科の単位数に変更する。
(キ) 同学則第 11 条第２項第２号に地域クリエーション学科の卒業要件の単位数を追加する。
(ク) 同学則第 11 条第２項第４号について英語文化コミュニケーション学科を国際コミュニケーション学科に変更する。
(ケ) 同学則第 11 条第２項第５号について英語文化コミュニケーション学科を国際コミュニケーション学科に変更する。
(コ) 同学則第 11 条第２項第６号について英語文化コミュニケーション学科を国際コミュニケーション学科に変更する。
(サ) 同学則第 11 条第２項第７号について英語文化コミュニケーション学科を国際コミュニケーション学科に変更する。
(シ) 同学則第 11 条第２項第 22 号に「人間社会学部地域クリエーション学科においてフードコーディネーター３級の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、フードコーディネーター３級に関する科目（別表第 20）を履修し、単位を修得しなければならない。」を新設する。また、同学則別表第 20 に「フードコーディネーター３級に関する科目」を新設する。
(ス) 同学則第 11 条第２項第 23 号に「人間社会学部地域クリエーション学科において食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目（別表第 23）を履修し、単位を修得しなければならない。」を新設する。また、同学則別表第 23 に「食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目」を追加する。

(セ) 同学則第 11 条第２項第 24 号に「人間社会学部地域クリエーション学科において二等無人航空機操縦士の受験資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、「ドローン操縦技術」を履修し、単位を修得しなければならない。」を新設する。

(ソ) 同学則第 11 条第２項第 25 号に「人間社会学部地域クリエーション学科において温泉保養士の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、「ホスピタリティ産業論」を履修し、単位を修得しなければならない。」を新設する。

(タ)（シ）～（ソ）に伴い、同学則第 11 条第２項第 22 号以下について順次繰り下げ、下記のとおり変更する。

新学則	旧学則
同学則第 11 条第２項第 22 号	新設
同学則第 11 条第２項第 23 号	新設
同学則第 11 条第２項第 24 号	新設
同学則第 11 条第２項第 25 号	新設
同学則第 11 条第２項第 26 号	同学則第 11 条第２項第 22 号
同学則第 11 条第２項第 27 号	同学則第 11 条第２項第 23 号
同学則第 11 条第２項第 28 号	同学則第 11 条第２項第 24 号
同学則第 11 条第２項第 29 号	同学則第 11 条第２項第 25 号
同学則第 11 条第２項第 30 号	同学則第 11 条第２項第 26 号
同学則第 11 条第２項第 31 号	同学則第 11 条第２項第 27 号

また、同学則別表第 20 以下について順次繰り下げ、下記のとおり変更する。

新学則	旧学則
別表第20　フードコーディネーター3級に関する科目	新設
別表第 21　健康栄養学科における栄養士免許取得に関する科目	別表第 20　健康栄養学科における栄養士免許取得に関する科目
別表第 22　フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目	別表第 21　フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目
別表第 23　食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する科目	別表第 22　食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する科目
別表第 24　管理栄養学科における栄養士免許取得に関する科目	別表第 23　管理栄養学科における栄養士免許取得に関する科目
別表第 25　管理栄養学科における管理栄養士国家試験の受験資格を得るための科目	別表第 24　管理栄養学科における管理栄養士国家試験の受験資格を得るための科目
別表第 26　情報処理士に関する科目	別表第 25　情報処理士に関する科目
別表第 27　入学金、授業料等の学費	別表第 26　入学金、授業料等の学費

(チ) 同学則第 40 条第４項について、学芸学部英語文化コミュニケーン学科を国際コミュニケーション学科に変更し、学位を学士（国際コミュニケーション学）とする。また、人間社会学部地域クリエーション学科の学位として学士（地域クリエーション学）を追加する。
(ツ) 別表第１に学芸学部国際コミュニケーション学科、人間社会学部地域クリエーション学科を追加し、学芸学部英語文化コミュニケーション学科を削除する。
(テ) 別表第２に学芸学部国際コミュニケーション学科、人間社会学部地域クリエーション学科を新設し、学芸学部英語文化コミュニケーション学科を削除する。
(ト) 別表第５に学芸学部国際コミュニケーション学科を追加し、学芸学部英語文化コミュニケーション学科を削除する。
(ナ) 別表第 26 に学芸学部国際コミュニケーション学科、人間社会学部地域クリエーション学科を追加し、学芸学部英語文化コミュニケーション学科を削除する。
(ニ) 別表 27 について、学部学科改組に伴い、学芸学部国際コミュニケーション学科、人間社会学部地域クリエーション学科を追加し、学芸学部英語文化コミュニケーション学科を削除する。また、社会情勢による物価高騰のため校納金の一部改定を行う。

②学部学科改組とともに、近年の募集状況を踏まえて収容定員を変更するため、以下のとおり一部改正する。

(ア) 同学則第 15 条について、学芸学部日本語日本文学科の入学定員を 25 名減員して 85 名とし、収容定員を 350 名とする。
(イ) 同学則第 15 条について、学芸学部国際コミュニケーション学科の入学定員を 60 名、３年次編入学定員を５名、収容定員を 250 名とする。
(ウ) 同学則第 15 条について、学芸学部英語文化コミュニケーション学科を削除する。
(エ) 同学則第 15 条について、学芸学部生活デザイン学科の入学定員を 35 名増員して 80 名とし、収容定員を 330 名とする。
(オ) 同学則第 15 条について、学芸学部の入学定員を 40 名減員の 420 名、収容定員を 160 名減員の 1,736 名とする。
(カ) 同学則第 15 条について、人間社会学部社会マネジメント学科の入学定員を 20 名減員して 90 名とし、収容定員を 380 名とする。
(キ) 同学則第 15 条について、人間社会学部人間心理学科の入学定員を 10 名減員して 110 名とし、収容定員を 460 名とする。
(ク) 同学則第 15 条について、人間社会学部地域クリエーション学科の入学定員を 60 名、３年次編入学定員を５名、収容定員を 250 名とする。
(ケ) 同学則第 15 条について、人間社会学部の入学定員を 30 名増員の 260 名、収容定員を 130 名増員の 1,090 名とする。
(コ) 同学則第 15 条について、大学全体の入学定員を 10 名減員の 860 名、３年次編入学定員を５名増員の 68 名、収容定員を 30 名減員の 3,582 名とする。

③附則 79 に「令和７年２月 27 日一部改正　令和８年４月１日から施行する。令和７年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。令和８年度より学芸学部英語文化コミュニケーション学科の学生募集を停止する。
また、第 15 条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。」と加える。

２．施行の時期
令和８年４月１日

３．新旧対照表

新	旧
昭和 24 年３月 25 日 制定	昭和 24 年３月 25 日 制定
第１条　－略－	**第１条**　－略－
第２条　本学に学芸学部、人間社会学部および栄養科学部を置く。 ２　学芸学部に日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科、子ども教育学科、メディア情報学科、生活デザイン学科を置く。 ３　人間社会学部に社会マネジメント学科、人間心理学科、地域クリエーション学科を置く。 ４～５　－略－	**第２条**　本学に学芸学部、人間社会学部および栄養科学部を置く。 ２　学芸学部に日本語日本文学科、英語文化コミュニケーション学科、子ども教育学科、メディア情報学科、生活デザイン学科を置く。 ３　人間社会学部に社会マネジメント学科、人間心理学科を置く。 ４～５　－略－
第２条の２　－略－	**第２条の２**　－略－
（学芸学部の目的） **第２条の３**　学芸学部は、真に自立した人間の育成を目指し、人文科学系の学問を中心に、総合的な知識・教養・倫理を教授し、情報化・国際化社会に対応できるコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 ２　前項の目的を達成するため、学芸学部各学科の目的は次に掲げるとおりとする。 （１）　－略－ （２）国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーション学科は、自身の特性を最大限に活かし、他者と協働する力、生涯にわたり学ぶ力、を身に着け、グローバルにコミュニケー	（学芸学部の目的） **第２条の３**　学芸学部は、真に自立した人間の育成を目指し、人文科学系の学問を中心に、総合的な知識・教養・倫理を教授し、情報化・国際化社会に対応できるコミュニケーション能力を養成することを目的とする。 ２　前項の目的を達成するため、学芸学部各学科の目的は次に掲げるとおりとする。 （１）　－略－ （２）英語文化コミュニケーション学科 英語文化コミュニケーション学科は、英語を中心としたコミュニケーション能力を高めるとともに、さまざまな文化に対する視野を広げ、国際的

ションできる人材を育成する。 （3）～（5）　－略－ （人間社会学部の目的） **第２条の４**　人間社会学部は、社会の動きやしくみを的確に把握する力、感性を生かして人の心を敏感に感じ取る力を育むとともに、社会人としてあるべき教養とマナーを身につけ、自立の実現をめざし、社会の発展と人類の平和に貢献できる人材の育成を目的とする。 ２　前項の目的を達成するため、人間社会学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。 （1）～（2）　－略－ （3）地域クリエーション学科 地域クリエーション学科は、現在、地域が抱えている諸問題を再認識し、食や観光についての専門的知見やデータをもとに、新旧さまざまな地域固有の資源に多様な形で光を当て、地域振興に貢献することを第一に考える。すなわち、食や文化、景観などの地域資源を活かしながら、居住者と国内外からの訪問者が共に豊かに暮らし滞在することのできる持続可能な観光のあり方を提案し、実践するとともに、取組みをストーリー化して地域内外に発信できる人材を育成する。 **第２条の５～第８条**　－略－ **第８条の２**　人間社会学部の授業科目は全学共通科目、専門教育科目に分け、別にプレゼンテーション実務士、社会調査士および社会福祉士国家試験受験に関する科目、公認心理師国家試験受験資格に関する科目、准学校心理士に関する科目、ピアヘルパーに関する科目、フードコーディネーター３級に関する科目、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目、二等無人航空機操縦士に関する科目、温泉保養士に関する科目、情報処理士に関する科目を置く。 **第８条の３～第 10 条**　－略－ **第11条**　学生は、履修しようとする授業科目を、毎学期の初めの所定の期間内に届け出なければならない。	に活躍できる人間を育成する。 （3）～（5）　－略－ （人間社会学部の目的） **第２条の４**　人間社会学部は、社会の動きやしくみを的確に把握する力、感性を生かして人の心を敏感に感じ取る力を育むとともに、社会人としてあるべき教養とマナーを身につけ、自立の実現をめざし、社会の発展と人類の平和に貢献できる人材の育成を目的とする。 ２　前項の目的を達成するため、人間社会学部各学科の目的は、次に掲げるとおりとする。 （1）～（2）　－略－ （新設） **第２条の５～第８条**　－略－ **第８条の２**　人間社会学部の授業科目は全学共通科目、専門教育科目に分け、別にプレゼンテーション実務士、社会調査士および社会福祉士国家試験受験に関する科目、公認心理師国家試験受験資格に関する科目、准学校心理士に関する科目、ピアヘルパーに関する科目、情報処理士に関する科目を置く。 **第８条の３～第 10 条**　－略－ **第11条**　学生は、履修しようとする授業科目を、毎学期の初めの所定の期間内に届け出なければならない。

２　各学部の授業科目の履修方法は次のとおりとする。

（１）学芸学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。（別表第１、２）

授業科目区分＼学科		日本語日本文学科	国際コミュニケーション学科	子ども教育学科	メディア情報学科	生活デザイン学科
全学共通科目	必修	6	6	6	6	6
	選択必修	11	11	11	11	11
	選択	7	7	7	7	7
小　計		24	24	24	24	24
専門教育科目	必修	28	12	11	26	25
	選択必修	36	9	7	38	34
	選択	16	59	62	16	21
小　計		80	80	80	80	80
自由科目		20	20	20	20	20
合　計		124	124	124	124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

（２）人間社会学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。（別表第１、２）

授業科目区分＼学科		社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	人間心理学科	地域クリエーション学科
全学共通科目	必修	6	6	6
	選択必修	11	11	11
	選択	7	7	7
小　計		24	24	24
専門教育科目	必修	13	28	55
	選択必修	56	14	12
	選択	7	38	9
小　計		76	80	76
自由科目		24	20	24
合　計		124	124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

（３）　－略－

２　各学部の授業科目の履修方法は次のとおりとする。

（１）学芸学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。（別表第１、２）

授業科目区分＼学科		日本語日本文学科	英語文化コミュニケーション学科	子ども教育学科	メディア情報学科	生活デザイン学科
全学共通科目	必修	6	6	6	6	6
	選択必修	11	11	11	11	11
	選択	7	7	7	7	7
小　計		24	24	24	24	24
専門教育科目	必修	28	29	11	26	25
	選択必修	36	15	7	38	34
	選択	16	36	62	16	21
小　計		80	80	80	80	80
自由科目		20	20	20	20	20
合　計		124	124	124	124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

（２）人間社会学部の卒業に要する単位は、次のとおりとする。（別表第１、２）

授業科目区分＼学科		社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	人間心理学科
全学共通科目	必修	6	6
	選択必修	11	11
	選択	7	7
小　計		24	24
専門教育科目	必修	13	28
	選択必修	56	14
	選択	7	38
小　計		76	80
自由科目		24	20
合　計		124	124

自由科目は、全学共通科目および専門教育科目の卒業要件となる単位数を超える科目単位数並びに資格科目・単位互換科目等を認定する単位数である。

（３）　－略－

（4）学芸学部および栄養科学部において教育職員免許状を得ようとする者は、（1）、（3）の規定によるほか、教育職員免許法および同法施行規則の定める科目（別表第3、4）を履修し、単位を修得しなければならない。

各学部学科において取得できる教育職員免許状の種類と教科は次のとおりである。

学芸学部		
日本語日本文学科	中学校教諭1種免許状	国語
	高等学校教諭1種免許状	国語、書道
国際コミュニケーション学科	中学校教諭1種免許状	外国語（英語）
	高等学校教諭1種免許状	外国語（英語）
子ども教育学科	小学校教諭1種免許状	
	幼稚園教諭1種免許状	
	特別支援学校教諭1種免許状	知的障害者、肢体不自由者、病弱者
メディア情報学科	高等学校教諭1種免許状	情報
栄養科学部		
健康栄養学科	中学校教諭1種免許状	家庭、保健体育
	高等学校教諭1種免許状	家庭、保健体育
管理栄養学科	栄養教諭1種免許状	

（5）学芸学部日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科およびメディア情報学科において図書館司書の資格を得ようとする者は、（1）の規定によるほか、図書館法および同法施行規則の定める所定の科目（別表第5）を履修し、単位を修得しなければならない。

（6）学芸学部日本語日本文学科、国際コミュニケーション学科、子ども教育学科およびメディア情報学科において司書教諭の資格を得ようとする者は、（1）の規定によるほか、（4）の規定による教職・教科に関する科目を履修するとともに、学校図書館司書教諭講習規程に基づく所定の科目（別表第5）を履修し、単位を修得しなければならない。

（7）学芸学部日本語日本文学科、国際コミュニケー

（4）学芸学部および栄養科学部において教育職員免許状を得ようとする者は、（1）、（3）の規定によるほか、教育職員免許法および同法施行規則の定める科目（別表第3、4）を履修し、単位を修得しなければならない。

各学部学科において取得できる教育職員免許状の種類と教科は次のとおりである。

学芸学部		
日本語日本文学科	中学校教諭1種免許状	国語
	高等学校教諭1種免許状	国語、書道
英語文化コミュニケーション学科	中学校教諭1種免許状	外国語（英語）
	高等学校教諭1種免許状	外国語（英語）
子ども教育学科	小学校教諭1種免許状	
	幼稚園教諭1種免許状	
	特別支援学校教諭1種免許状	知的障害者、肢体不自由者、病弱者
メディア情報学科	高等学校教諭1種免許状	情報
栄養科学部		
健康栄養学科	中学校教諭1種免許状	家庭、保健体育
	高等学校教諭1種免許状	家庭、保健体育
管理栄養学科	栄養教諭1種免許状	

（5）学芸学部日本語日本文学科、英語文化コミュニケーション学科およびメディア情報学科において図書館司書の資格を得ようとする者は、（1）の規定によるほか、図書館法および同法施行規則の定める所定の科目（別表第5）を履修し、単位を修得しなければならない。

（6）学芸学部日本語日本文学科、英語文化コミュニケーション学科、子ども教育学科およびメディア情報学科において司書教諭の資格を得ようとする者は、（1）の規定によるほか、（4）の規定による教職・教科に関する科目を履修するとともに、学校図書館司書教諭講習規程に基づく所定の科目（別表第5）を履修し、単位を修得しなければならない。

（7）学芸学部日本語日本文学科、英語文化コミュ

ション学科、子ども教育学科およびメディア情報学科において学校司書モデルカリキュラムに準拠した所定の科目の単位を得ようとする者は、（１）の規定によるほか、 学校司書に関する所定の科目（別表第５）を履修し、単位を修得しなければならない。	ニケーション学科、子ども教育学科およびメディア情報学科において学校司書モデルカリキュラムに準拠した所定の科目の単位を得ようとする者は、（１）の規定によるほか、 学校司書に関する所定の科目（別表第５）を履修し、単位を修得しなければならない。
（８）～（21） －略－	（８）～（21） －略－
（22）人間社会学部地域クリエーション学科においてフードコーディネーター３級の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、フードコーディネーター３級に関する科目（別表第20）を履修し、単位を修得しなければならない。	（新設）
（23）人間社会学部地域クリエーション学科において食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目（別表第23）を履修し、単位を修得しなければならない。	
（24）人間社会学部地域クリエーション学科において二等無人航空機操縦士の受験資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、「ドローン操縦技術」を履修し、単位を修得しなければならない。	
（25）人間社会学部地域クリエーション学科において温泉保養士の資格を得ようとする者は、（２）の規定によるほか、「ホスピタリティ産業論」を履修し、単位を修得しなければならない。	
（26）栄養科学部健康栄養学科において栄養士の資格を得るためには、（３）の規定によるほか、栄養士法、同法施行令および同法施行規則に定める所定の科目（別表第21）を履修し、単位を修得しなければならない。	（22）栄養科学部健康栄養学科において栄養士の資格を得るためには、（３）の規定によるほか、栄養士法、同法施行令および同法施行規則に定める所定の科目（別表第20）を履修し、単位を修得しなければならない。
（27）栄養科学部健康栄養学科においてフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの受験資格を得ようとする者は、（３）の規定によるほか、フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目（別表第2	（23）栄養科学部健康栄養学科においてフードスペシャリスト・専門フードスペシャリストの受験資格を得ようとする者は、（３）の規定によるほか、フードスペシャリスト・専門フードスペシャリストに関する科目（別表第2

2）を履修し、単位を修得しなければならない。

(28) 栄養科学部健康栄養学科および管理栄養学科において食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を得ようとする者は、（３）の規定によるほか、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目（別表第23）を履修し、単位を修得しなければならない。

(29) 栄養科学部管理栄養学科において栄養士の資格を得るためには、（３）の規定によるほか、栄養士法、同法施行令および同法施行規則に定める所定の科目（別表第24）を履修し、単位を修得しなければならない。

(30) 栄養科学部管理栄養学科において管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、（３）の規定によるほか、栄養士法、同法施行令、同法施行規則および管理栄養士学校指定規則に定める所定の科目（別表第25）を履修し、単位を修得しなければならない。

(31) 学芸学部、人間社会学部、栄養科学部において情報処理士の資格を得ようとする者は、（１）（２）（３）の規定によるほか、情報処理士に関する科目（別表第26）を履修し、単位を修得しなければならない。

第 11 条の２　－略－

第 11 条の３　－略－

第 12 条～第 14 条　－略－

第15条　収容定員は次のとおりとする。

	入学定員	編入学定員（第２年次）	編入学定員（第３年次）	収容定員
学芸学部				
日本語日本文学科	85名		５名	350名
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	60名		５名	250名
子ども教育学科	100名	２名	５名	416名
メディア情報学科	95名		５名	390名
生活デザイン学科	80名		５名	330名
小　　計	420名	２名	25名	1,736名
人間社会学部				
社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	90名		10名	380名
人間心理学科	110名		10名	460名

1）を履修し、単位を修得しなければならない。

(24) 栄養科学部健康栄養学科および管理栄養学科において食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を得ようとする者は、（３）の規定によるほか、食品衛生管理者および食品衛生監視員に関する科目（別表第22）を履修し、単位を修得しなければならない。

(25) 栄養科学部管理栄養学科において栄養士の資格を得るためには、（３）の規定によるほか、栄養士法、同法施行令および同法施行規則に定める所定の科目（別表第23）を履修し、単位を修得しなければならない。

(26) 栄養科学部管理栄養学科において管理栄養士国家試験の受験資格を得るためには、（３）の規定によるほか、栄養士法、同法施行令、同法施行規則および管理栄養士学校指定規則に定める所定の科目（別表第24）を履修し、単位を修得しなければならない。

(27) 学芸学部、人間社会学部、栄養科学部において情報処理士の資格を得ようとする者は、（１）（２）（３）の規定によるほか、情報処理士に関する科目（別表第25）を履修し、単位を修得しなければならない。

第 11 条の２　－略－

第 11 条の３　－略－

第 12 条～第 14 条　－略－

第15条　収容定員は次のとおりとする。

	入学定員	編入学定員（第２年次）	編入学定員（第３年次）	収容定員
学芸学部				
日本語日本文学科	110名		５名	450名
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	110名		５名	450名
子ども教育学科	100名	２名	５名	416名
メディア情報学科	95名		５名	390名
生活デザイン学科	45名		５名	190名
小　　計	460名	２名	25名	1,896名
人間社会学部				
社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	110名		10名	460名
人間心理学科	120名		10名	500名

地域ｸﾘｴｰｼｮﾝ学科	60名		５名	250名
小　　計	260名		25名	1,090名
栄養科学部				
健康栄養学科	80名		８名	336名
管理栄養学科	100名		10名	420名
小　　計	180名		18名	756名
合　　計	860名	２名	68名	3,582名

２　－略－

第 16 条　～　第 39 条　－略－

第40条　本学に４年以上、途中編入の場合はそれぞれ指定された期間在学し、所定の科目および単位数を修得した者に対して学長は、教授会の議を経て卒業証書を授与する。

２　－略－

３　本学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

４　前項の学位の表記は、次のとおりとする。

学芸学部	
日本語日本文学科	学士（文　学）
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	学士（国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学）
子ども教育学科	学士（子ども教育）
メディア情報学科	学士（メディア情報学）
生活デザイン学科	学士（生活デザイン学）
人間社会学部	
社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	学士（社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学）
人間心理学科	学士（人間心理学）
地域ｸﾘｴｰｼｮﾝ学科	学士（地域ｸﾘｴｰｼｮﾝ学）
栄養科学部	
健康栄養学科	学士（栄養学）
管理栄養学科	学士（栄養学）

第 41 条　－略－

第42条　入学金および授業料等の学費は別表第27のとおりとする。

第43条　本学に入学を許可された者は、第42条の別表第27に定める入学金および授業料等の学費を納めなければならない。

第 44 条　～　第 55 条　－略－

附　則

１．～78.　－略－

（新設）

小　　計	230名		20名	960名
栄養科学部				
健康栄養学科	80名		８名	336名
管理栄養学科	100名		10名	420名
小　　計	180名		18名	756名
合　　計	870名	２名	63名	3,612名

２　－略－

第 16 条　～　第 39 条　－略－

第40条　本学に４年以上、途中編入の場合はそれぞれ指定された期間在学し、所定の科目および単位数を修得した者に対して学長は、教授会の議を経て卒業証書を授与する。

２　－略－

３　本学を卒業した者には、学士の学位を授与する。

４　前項の学位の表記は、次のとおりとする。

学芸学部	
日本語日本文学科	学士（文　学）
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	学士（文　学）
子ども教育学科	学士（子ども教育）
メディア情報学科	学士（メディア情報学）
生活デザイン学科	学士（生活デザイン学）
人間社会学部	
社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	学士（社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学）
人間心理学科	学士（人間心理学）
（新設）	
栄養科学部	
健康栄養学科	学士（栄養学）
管理栄養学科	学士（栄養学）

第 41 条　－略－

第42条　入学金および授業料等の学費は別表第26のとおりとする。

第43条　本学に入学を許可された者は、第42条の別表第26に定める入学金および授業料等の学費を納めなければならない。

第 44 条　～　第 55 条　－略－

附　則

１．～78.　－略－

79. 令和７年２月 27 日一部改正

令和８年４月１日から施行する。令和７年度以前の入学生については、なお従前の入学年度の学則を適用する。

令和８年度より学芸学部英語文化コミュニケーション学科の学生募集を停止する。

また、第 15 条の規定にかかわらず収容定員および収容定員の合計は次のとおりとする。

	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
学芸学部				
日本語日本文学科	445名	400名	375名	350名
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	350名	230名	115名	－
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	60名	120名	185名	250名
子ども教育学科	416名	416名	416名	416名
メディア情報学科	375名	390名	390名	390名
生活デザイン学科	225名	260名	295名	330名
人間社会学部				
社会ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	450名	420名	400名	380名
人間心理学科	480名	480名	470名	460名
地域ｸﾘｴｰｼｮﾝ学科	60名	120名	185名	250名
栄養科学部				
健康栄養学科	336名	336名	336名	336名
管理栄養学科	420名	420名	420名	420名
合　　計	3,617名	3,592名	3,587名	3,582名

別表第１
別表第２
別表第３～４　－略－
別表第５
別表第６～19　－略－
別表第 20
別表第 21～22　－略－
別表第 23
別表第 24～25　－略－
別表第 26

（新設）

別表第１
別表第２
別表第３～４　－略－
別表第５
別表第６～19　－略－
（新設）
別表第 20～21　－略－
別表第 22
別表第 23～24　－略－
別表第 25

別表第 27	別表第 26

以上

新学則

別表第１　全学共通科目

学部学科	授　業　科　目	単位	備考
学芸学部	全学共通科目		
日本語日本文学科	基礎科目		
国際コミュニケーション学科	さがみ総合講座	2	必修
	基礎教育講座	2	必修
子ども教育学科	コンピュータリテラシー	2	必修
メディア情報学科	教養科目		
生活デザイン学科	法学	2	4単位必修
	日本国憲法	2	
人間社会学部	倫理学	2	
社会マネジメント学科	経済学	2	
人間心理学科	社会学	2	
地域クリエーション学科	心理学	2	
	言語学	2	
栄養科学部	文学	2	
健康栄養学科	諸外国の社会と文化	2	
管理栄養学科	メディアと文化	2	
	アート	2	
	情報処理概論	2	
	発想・実践科目		
	地域から学ぶ知の実践	2	
	社会貢献・地域連携	2	
	地域協働活動	1	
	さがみ発想講座	2	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	1	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	1	
	ジェンダー論	2	
	くらしと文化	2	
	日本の社会と文化	2	
	データサイエンス	2	
	AIと社会	2	
	情報リテラシー	1	
	書道	2	
	キャリア支援科目		
	キャリア・プランニング	2	2単位必修
	ビジネス実務総論	2	
	SPI対策講座	2	
	就職支援講座	2	
	健康・スポーツ科目		
	ウエルネス	2	1単位必修
	身体の科学	2	
	球技スポーツ	1	
	ラケットスポーツ	1	
	健康スポーツ	1	
	シーズンスポーツ	1	
	語学科目		
	言語と異文化	2	4単位必修
	英語Ⅰ	1	
	英語Ⅱ	1	
	英語Ⅲ	1	
	英語Ⅳ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅰ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅱ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅲ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅳ	1	
	中国語Ⅰ	1	
	中国語Ⅱ	1	
	中国語Ⅲ	1	
	中国語Ⅳ	1	
	フランス語Ⅰ	1	
	フランス語Ⅱ	1	
	フランス語Ⅲ	1	
	ドイツ語Ⅰ	1	
	ドイツ語Ⅱ	1	
	ドイツ語Ⅲ	1	
	イタリア語Ⅰ	1	
	イタリア語Ⅱ	1	
	スペイン語Ⅰ	1	
	スペイン語Ⅱ	1	
	海外研修Ⅰ	2	
	海外研修Ⅱ	2	
	海外研修Ⅲ	2	
	日本語Ⅰ	1	
	日本語Ⅱ	1	
	計	100	

旧学則

別表第１　全学共通科目

学部学科	授　業　科　目	単位	備考
学芸学部	全学共通科目		
日本語日本文学科	基礎科目		
英語文化コミュニケーション学科	さがみ総合講座	2	必修
	基礎教育講座	2	必修
子ども教育学科	コンピュータリテラシー	2	必修
メディア情報学科	教養科目		
生活デザイン学科	法学	2	4単位必修
	日本国憲法	2	
人間社会学部	倫理学	2	
社会マネジメント学科	経済学	2	
人間心理学科	社会学	2	
	心理学	2	
栄養科学部	言語学	2	
健康栄養学科	文学	2	
管理栄養学科	諸外国の社会と文化	2	
	メディアと文化	2	
	アート	2	
	情報処理概論	2	
	発想・実践科目		
	地域から学ぶ知の実践	2	
	社会貢献・地域連携	2	
	地域協働活動	1	
	さがみ発想講座	2	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	1	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	1	
	ジェンダー論	2	
	くらしと文化	2	
	日本の社会と文化	2	
	データサイエンス	2	
	AIと社会	2	
	情報リテラシー	1	
	書道	2	
	キャリア支援科目		
	キャリア・プランニング	2	2単位必修
	ビジネス実務総論	2	
	SPI対策講座	2	
	就職支援講座	2	
	健康・スポーツ科目		
	ウエルネス	2	1単位必修
	身体の科学	2	
	球技スポーツ	1	
	ラケットスポーツ	1	
	健康スポーツ	1	
	シーズンスポーツ	1	
	語学科目		
	言語と異文化	2	4単位必修
	英語Ⅰ	1	
	英語Ⅱ	1	
	英語Ⅲ	1	
	英語Ⅳ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅰ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅱ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅲ	1	
	韓国／朝鮮語Ⅳ	1	
	中国語Ⅰ	1	
	中国語Ⅱ	1	
	中国語Ⅲ	1	
	中国語Ⅳ	1	
	フランス語Ⅰ	1	
	フランス語Ⅱ	1	
	フランス語Ⅲ	1	
	ドイツ語Ⅰ	1	
	ドイツ語Ⅱ	1	
	ドイツ語Ⅲ	1	
	イタリア語Ⅰ	1	
	イタリア語Ⅱ	1	
	スペイン語Ⅰ	1	
	スペイン語Ⅱ	1	
	海外研修Ⅰ	2	
	海外研修Ⅱ	2	
	海外研修Ⅲ	2	
	日本語Ⅰ	1	
	日本語Ⅱ	1	
	計	100	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	専門教育科目		
国際コミュニケーション学科	導入科目		
	基礎		
	国際教養入門	2	必修
	異文化コミュニケーション	2	必修
	文化・社会科目		
	基礎		
	グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2	
	グローバル文化Ⅱ（フィリピン、タイ）	2	
	グローバル文化Ⅲ（韓国、台湾）	2	
	専門		
	アジアパシフィック・スタディーズ	2	
	国際日本学	2	
	国際韓国学	2	
	統合		
	映像文化コミュニケーション	2	
	文化演習Ⅰ	2	2単位必修
	文化演習Ⅱ	2	2単位必修
	アート科目		
	基礎		
	芸術作品鑑賞（英語文学）	2	
	ポピュラーアート　（韓国系）	2	
	専門		
	英語文学	2	
	映像芸術	2	
	統合		
	複合芸術	2	
	アート＆コミュニケーション演習Ⅰ	2	
	アート＆コミュニケーション演習Ⅱ	2	
	教育科目		
	基礎		
	英語科教育法（中）Ⅰ	2	
	英語科教育法（中）Ⅱ	2	
	専門		
	英語科教育法（中・高）Ⅰ	2	
	英語科教育法（中・高）Ⅱ	2	
	統合		
	国際教育論Ⅰ	2	
	国際教育論Ⅱ	2	
	国際教育論Ⅲ	2	
	教育演習Ⅰ	2	
	教育演習Ⅱ	2	
	言語科目		
	基礎		
	英語文章読解	2	必修
	英語文章表現	2	必修
	専門		
	英語音声学	2	
	英語学概論	2	
	応用言語学	2	
	統合		
	上級英語読解・表現	2	
	コースワーク演習Ⅰ	2	
	コースワーク演習Ⅱ	2	

	表現・スキル科目		
	基礎		
	Speaking Skills Ⅰ	1	必修
	Speaking Skills Ⅱ	1	必修
	Speaking Skills Ⅲ	1	必修
	Speaking Skills Ⅳ	1	必修
	専門		
	English for Advanced Speaking Ⅰ	2	
	English for Advanced Speaking Ⅱ	2	
	English for Presentation	2	
	English for Relationship-building	2	
	English for Translation	2	
	English for Hospitality	2	
	English for Business	2	
	統合		
	Integrated Communication Ⅰ	2	
	Integrated Communication Ⅱ	2	
	Integrated Communication Ⅲ	2	
	Integrated Communication Ⅳ	2	
	探究・研究科目		
	深める		
	地域研究：韓国Ⅰ	2	2単位必修
	地域研究：韓国Ⅱ	2	2単位必修
	耕す		
	グローバル教育Ⅰ	2	
	グローバル教育Ⅱ	2	
	コミュニケーション・デザインⅠ	2	
	コミュニケーション・デザインⅡ	2	
	極める		
	Advanced English Studies Ⅰ	2	
	Advanced English Studies Ⅱ	2	
	コースワーク・デザインⅠ	2	
	コースワーク・デザインⅡ	2	
	実践科目		
	オンキャンパス		
	TOEIC Ⅰ	1	
	TOEIC Ⅱ	1	
	TOEIC Ⅲ	1	
	越境・協働学習教育Ⅰ	1	
	越境・協働学習教育Ⅱ	1	
	グローバル		
	スクール・インターンシップⅠ	1	
	スクール・インターンシップⅡ	1	
	短期英語研修Ⅰ	1	
	短期英語研修Ⅱ	1	
	短期韓国語研修Ⅰ	1	
	短期韓国語研修Ⅱ	1	
	長期語学留学Ⅰ	6	
	長期語学留学Ⅱ	6	
	長期語学留学Ⅲ	12	
	長期語学留学Ⅳ	12	1単位必修
	特別研修Ⅰ	1	
	特別研修Ⅱ	1	
	ボランティア研修Ⅰ	1	
	ボランティア研修Ⅱ	2	
	インターンシップⅠ	1	
	インターンシップⅡ	1	
	インターンシップⅢ	2	
	計	172	

別表第２　専門教育科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
人間社会学部	専門教育科目		
地域クリエーション学科	基礎科目		
	総合		
	地域クリエーション学入門	2	必修
	地域クリエーション学実践	1	必修
	ライフデザイン	2	必修
	観光		
	観光学概論	2	必修
	食文化論	2	必修
	映像制作入門	2	必修
	観光地理学	2	必修
	ホスピタリティ概論	2	必修
	ウェルビーイングと観光	2	必修
	ホスピタリティ産業論	2	必修
	地域コミュニティ論	2	必修
	ビジネス		
	プレゼンテーション入門	2	必修
	データ分析入門	2	必修
	マクロ経済学	2	必修
	経営理論	2	必修
	会計学	2	必修
	食		
	基礎化学	2	必修
	食品の化学	2	必修
	公衆衛生学	2	必修
	食品衛生学	2	必修
	調理科学	2	必修
	食品安全学	2	必修
	健康と栄養	2	必修
	基幹科目		
	観光と政策		
	グローバリゼーションとローカリゼーション	2	
	アニマルウェルフェア	2	
	交通・ロジスティクス論	2	
	エスニシティと地域社会	2	
	映像で学ぶ社会の進歩	2	2単位必修
	公共経済学	2	
	公共政策論	2	
	生物と生態系	2	
	ビジネスツール		
	民法（契約法）	2	
	ミクロ経済学	2	
	消費者問題と政策	2	
	流通論	2	
	ベンチャー論	2	
	経営組織・人事管理論	2	2単位必修
	マーケティング・経営戦略論	2	
	広報と広告	2	
	消費者行動論	2	
	ブランド戦略・商品開発論	2	
	情報		
	社会調査法入門	2	
	ドローン操縦技術	1	
	映像制作演習（基礎）	2	
	プレゼンテーションⅠ（言語と身体表現）	2	
	無線通信技術と法	2	
	映像メディア論	2	1単位必修
	地域データ分析	2	
	気候変動と気象予測	2	
	映像制作演習（発展）	2	
	プレゼンテーションⅡ（PCと視覚資料）	2	
	知的財産権法	2	

	食品の科学		
	生化学	2	
	微生物学	2	
	栄養機能学	2	
	栄養生理学	2	
	食と環境	2	2単位必修
	食品加工と保蔵	2	
	フードプランニング論	2	
	発酵・醸造学	2	
	食品分析学	2	
	メニュー開発論	2	
	展開科目		
	観光		
	観光ビジネス論	2	
	エンターテイメント産業論	2	
	情報通信産業論	2	
	ホスピタリティマネジメント	2	
	日本文化演習	1	
	世界遺産入門	2	
	旅行業概論	2	
	フードツーリズム論	2	
	エンターテイメント特講	2	
	スポーツ産業論	2	
	地域資源発掘活用演習	1	
	食・農		
	フードデザイン実習（基礎調理）	1	
	食文化と伝承	2	
	基礎化学実験	1	
	ライフステージと食	2	
	フードデザイン実習（応用調理）	1	
	農水産業と地域社会	2	
	農水産物の加工と流通	2	5単位必修
	食品衛生学実験	1	
	栄養マネジメント実習	1	
	地域栄養学	2	
	食品加工学実習	1	
	食育活動	1	
	食安全マネジメント演習	1	
	フードプランニング実習Ⅰ	1	
	フードプランニング実習Ⅱ	1	
	フードプランニング実習Ⅲ	1	
	テーブルコーディネート論（演習含む）	2	
	実務		
	ファシリテーション	2	
	ホスピタリティ実践	1	
	資格支援講座	2	
	インターンシップⅠ	2	
	キャリア実践Ⅰ	1	
	キャリア実践Ⅱ	1	
	インターンシップⅡ	2	
	完成科目		
	ゼミナールⅠ	2	必修
	ゼミナールⅡ	2	必修
	卒業研究Ⅰ	3	必修
	卒業研究Ⅱ	3	必修
	計	186	

新学則

別表第５　図書館学に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　考		
			司書	司書教諭	学校司書
学芸学部	生涯学習概論	2	必修		
日本語日本文学科	図書館概論	2	必修		
国際コミュニケーション学科	図書館制度・経営論	2	必修		
子ども教育学科	図書館情報技術論	2	必修		必修
但し子ども教育学科は司書教諭、学校司書科目に限る	図書館サービス概論	2	必修		
	情報サービス論	2	必修		
メディア情報学科	児童サービス論	2	必修		
	情報サービス演習Ⅰ	1	必修		
	情報サービス演習Ⅱ	1	必修		
	図書館情報資源概論	2	必修		必修
	情報資源組織論Ⅰ	2	必修		必修
	情報資源組織論Ⅱ	2	必修		必修
	情報資源組織演習Ⅰ	1	必修		必修
	情報資源組織演習Ⅱ	1	必修		必修
	図書館基礎特論	2	選択必修4		
	図書館サービス特論Ⅰ	2			
	図書館サービス特論Ⅱ	2			
	図書館施設論	2			
	図書・図書館史	2			
	図書館実習（事前・事後の指導を含む）	2	必修		
	学校経営と学校図書館	2		必修	必修
	学校図書館メディアの構成	2		必修	
	学習指導と学校図書館	2		必修	必修
	読書と豊かな人間性	2		必修	必修
	情報メディアの活用	2		必修	
	学校図書館サービス論	2			必修
	学校図書館情報サービス論	2			必修
	学校教育概論	2			必修
	計	52	30	10	22

旧学則

別表第５　図書館学に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　考		
			司書	司書教諭	学校司書
学芸学部	生涯学習概論	2	必修		
日本語日本文学科	図書館概論	2	必修		
英語文化コミュニケーション学科	図書館制度・経営論	2	必修		
子ども教育学科	図書館情報技術論	2	必修		必修
但し子ども教育学科は司書教諭、学校司書科目に限る	図書館サービス概論	2	必修		
	情報サービス論	2	必修		
メディア情報学科	児童サービス論	2	必修		
	情報サービス演習Ⅰ	1	必修		
	情報サービス演習Ⅱ	1	必修		
	図書館情報資源概論	2	必修		必修
	情報資源組織論Ⅰ	2	必修		必修
	情報資源組織論Ⅱ	2	必修		必修
	情報資源組織演習Ⅰ	1	必修		必修
	情報資源組織演習Ⅱ	1	必修		必修
	図書館基礎特論	2	選択必修4		
	図書館サービス特論Ⅰ	2			
	図書館サービス特論Ⅱ	2			
	図書館施設論	2			
	図書・図書館史	2			
	図書館実習（事前・事後の指導を含む）	2	必修		
	学校経営と学校図書館	2		必修	必修
	学校図書館メディアの構成	2		必修	
	学習指導と学校図書館	2		必修	必修
	読書と豊かな人間性	2		必修	必修
	情報メディアの活用	2		必修	
	学校図書館サービス論	2			必修
	学校図書館情報サービス論	2			必修
	学校教育概論	2			必修
	計	52	30	10	22

別表第20　フードコーディネーター3級に関する科目

学部学科	授業科目	単位数	備　　考
人間社会学部 地域クリエーション学科	食文化論	2	必修
	ホスピタリティ概論	2	必修
	フードデザイン実習（応用調理）	1	必修
	メニュー開発論	2	必修
	テーブルコーディネート論(演習含む)	2	必修
	ホスピタリティ実践	1	必修
	フードデザイン実習（基礎調理）	1	必修
	食品の化学	2	必修
	公衆衛生学	2	必修
	食品衛生学	2	必修
	調理科学	2	必修
	フードプランニング論	2	必修
	健康と栄養	2	必修
	計	23	

新学則

別表第23　食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する科目

学部学科	規則等に規定する科目群	基本科目名	左記基本科目に該当する本学の授業科目名	単位数	地域クリエーション学科	健康栄養学科	管理栄養学科
人間社会学部 地域クリエーション学科 栄養科学部 健康栄養学科 管理栄養学科	A群 化学関係	分析化学	基礎化学	2	○		
			基礎化学実験	1	○		
			基礎科学実験	1			○
		有機化学	有機化学	2		○	
	B群 生物化学 関係	生物化学	生化学	2	○	○	
			生化学Ⅰ	2			○
			生化学Ⅱ	2			○
			生化学実験	1		○	○
		生理学	栄養生理学	2	○		
		食品化学	食品学総論	2		○	○
			食品学各論	2		○	○
			調理科学	2			○
			食品の化学	2	○		
		食品分析学	食品学実験Ⅰ	1			○
			食品学実験Ⅱ	1			○
			食品学実験	1		○	
			調理科学実験	1		○	
			食品官能評価・鑑別演習	2		○	
	C群 微生物学 関係	微生物学	微生物学	2	○	○	○
		食品製造学	食品加工学	2		○	
			食品加工学実習	1		○	
		食品微生物学	発酵・醸造学	2	○		
	D群 公衆衛生学 関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2	○	○	
			公衆衛生学Ⅰ	2			○
			公衆衛生学Ⅱ	2			○
			食と環境	2	○		
		食品衛生学	食品衛生学	2	○	○	○
			食品衛生学実験	1	○	○	○
			食品安全学	2	○		
	合計（A群+B群+C群+D群）				22単位以上		
	E群 その他の 関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医科学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、缶詰工学、食品工学、食品保存学、冷凍冷蔵学、品質管理学、等	●講義科目				
			栄養学総論	2		○	
			ライフステージの栄養学Ⅰ	2		○	
			ライフステージの栄養学Ⅱ	2		○	
			臨床医学	2		○	
			臨床栄養学	2		○	
			公衆栄養学	2		○	
			解剖生理学	2		○	
			運動栄養学	2		○	
			基礎栄養学	2			○
			応用栄養学Ⅰ	2			○
			応用栄養学Ⅱ	2			○
			解剖生理学Ⅰ	2			○
			解剖生理学Ⅱ	2			○
			臨床医学Ⅰ	2			○
			臨床医学Ⅱ	2			○
			公衆栄養学Ⅰ	2			○
			健康と栄養	2	○		
			栄養機能学	2	○		
			ライフステージと食	2	○		
			地域栄養学	2	○		
			生物と生態系	2	○		
			食品加工と保蔵	2	○		
			調理科学	2	○		
			食品分析学	2	○		
			フードプランニング論	2	○		
			●実習科目				
			ライフステージの栄養学実習	1		○	
			応用栄養学実習	1			○
			臨床栄養学実習	1		○	
			解剖生理学実習	1		○	
			保健統計学実習	1			○
			基礎栄養学実験	1			○
			栄養マネジメント実習	1	○		
			食品加工学実習	1	○		
			食安全マネジメント演習	1	○		
			合計（E群）		20単位以上	18単位以上	
	最低必要単位数　総合計（A群+B群+C群+D群+E群）				42単位以上	40単位以上	

旧学則

別表第22　食品衛生管理者及び食品衛生監視員に関する科目

学部学科	規則等に規定する科目群	基本科目名	左記基本科目に該当する本学の授業科目名	単位数	健康栄養学科	管理栄養学科
栄養科学部 健康栄養学科 管理栄養学科	A群 化学関係	分析化学	基礎科学実験	1		○
		有機化学	有機化学	2	○	
	B群 生物化学 関係	生物化学	生化学	2	○	
			生化学Ⅰ	2		○
			生化学Ⅱ	2		○
			生化学実験	1	○	○
		食品化学	食品学総論	2	○	○
			食品学各論	2	○	○
			調理科学	2		○
		食品分析学	食品学実験Ⅰ	1		○
			食品学実験Ⅱ	1		○
			食品学実験	1	○	
			調理科学実験	1	○	
			食品官能評価・鑑別演習	2	○	
	C群 微生物学 関係	微生物学	微生物学	2	○	○
		食品製造学	食品加工学	2	○	
			食品加工学実習	1	○	
	D群 公衆衛生学 関係	公衆衛生学	公衆衛生学	2	○	
			公衆衛生学Ⅰ	2		○
			公衆衛生学Ⅱ	2		○
		食品衛生学	食品衛生学	2	○	○
			食品衛生学実験	1	○	○
	合計（A群+B群+C群+D群）				22単位以上	
	E群 その他の 関連科目	水産化学、畜産化学、放射線化学、乳化学、食肉化学、高分子化学、生物有機化学、環境汚染物質分析学、酵素化学、食品理化学、水産生理学、家畜生理学、植物生理学、環境生物学、応用微生物学、酪農微生物学、病理学、医学概論、解剖学、医科学、産業医学、血液学、血清学、遺伝学、寄生虫学、獣医学、栄養化学、衛生統計学、栄養学、環境保健学、衛生管理学、水産製造学、畜産品製造学、農産物製造学、醸造調味食品製造学、乳製品製造学、缶詰工学、食品工学、食品保存学、冷凍冷蔵学、品質管理学、等	●講義科目			
			栄養学総論	2	○	
			ライフステージの栄養学Ⅰ	2	○	
			ライフステージの栄養学Ⅱ	2	○	
			臨床医学	2	○	
			臨床栄養学	2	○	
			公衆栄養学	2	○	
			解剖生理学	2	○	
			運動栄養学	2	○	
			基礎栄養学	2		○
			応用栄養学Ⅰ	2		○
			応用栄養学Ⅱ	2		○
			解剖生理学Ⅰ	2		○
			解剖生理学Ⅱ	2		○
			臨床医学Ⅰ	2		○
			臨床医学Ⅱ	2		○
			公衆栄養学Ⅰ	2		○
			●実習科目			
			ライフステージの栄養学実習	1	○	
			応用栄養学実習	1		○
			臨床栄養学実習	1	○	
			解剖生理学実習	1	○	
			保健統計学実習	1		○
			基礎栄養学実験	1		○
			合計（E群）		18単位以上	
	最低必要単位数　総合計（A群+B群+C群+D群+E群）				40単位以上	

新学則

別表第26　情報処理士に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	領域1		
日本語日本文学科	情報リテラシー	1	
国際ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	AIと社会	2	
子ども教育学科	コンピュータリテラシー	2	必修
メディア情報学科			
生活デザイン学科	領域2		
人間社会学部	情報処理概論	2	必修
社会マネジメント学科	データサイエンス	2	
人間心理学科	SPI対策講座	2	
地域クリエーション学科	キャリア・プランニング	2	
栄養科学部	ビジネス実務総論	2	
健康栄養学科	倫理学	2	
管理栄養学科	経済学	2	
	メディアと文化	2	
	社会学	2	
	領域3		
	基礎教育講座	2	必修
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	1	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	1	
	計	27	必修科目を含め合計16単位以上

旧学則

別表第25　情報処理士に関する科目

学部学科	授　業　科　目	単位数	備　　考
学芸学部	領域1		
日本語日本文学科	情報リテラシー	1	
英語文化ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ学科	AIと社会	2	
子ども教育学科	コンピュータリテラシー	2	必修
メディア情報学科			
生活デザイン学科	領域2		
人間社会学部	情報処理概論	2	必修
社会マネジメント学科	データサイエンス	2	
人間心理学科	SPI対策講座	2	
栄養科学部	キャリア・プランニング	2	
健康栄養学科	ビジネス実務総論	2	
管理栄養学科	倫理学	2	
	経済学	2	
	メディアと文化	2	
	社会学	2	
	領域3		
	基礎教育講座	2	必修
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ	1	
	問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ	1	
	計	27	必修科目を含め合計16単位以上

新学則

別表第27　入学金、授業料等の学費

（単位　円）

	学芸学部				
	日本語日本文学科	国際コミュニケーション学科	子ども教育学科	メディア情報学科	生活デザイン学科
入学金（入学時）	260,000	260,000	260,000	260,000	260,000
授業料（年額）	765,000	765,000	770,000	765,000	785,000
施設設備費（年額）	350,000	350,000	390,000	350,000	390,000

（単位　円）

	人間社会学部		
	社会マネジメント学科	人間心理学科	地域クリエーション学科
入学金（入学時）	260,000	260,000	260,000
授業料（年額）	765,000	765,000	770,000
施設設備費（年額）	350,000	350,000	390,000

（単位　円）

	栄養科学部	
	健康栄養学科	管理栄養学科
入学金（入学時）	260,000	260,000
授業料（年額）	785,000	785,000
施設設備費（年額）	390,000	390,000

旧学則

別表第26　入学金、授業料等の学費

（単位　円）

	学芸学部				
	日本語日本文学科	英語文化コミュニケーション学科	子ども教育学科	メディア情報学科	生活デザイン学科
入学金（入学時）	300,000	300,000	300,000	300,000	300,000
授業料（年額）	725,000	725,000	730,000	725,000	745,000
施設設備費（年額）	350,000	350,000	390,000	350,000	390,000

（単位　円）

	人間社会学部		
	社会マネジメント学科	人間心理学科	（新設）
入学金（入学時）	300,000	300,000	（新設）
授業料（年額）	725,000	725,000	（新設）
施設設備費（年額）	350,000	350,000	（新設）

（単位　円）

	栄養科学部	
	健康栄養学科	管理栄養学科
入学金（入学時）	300,000	300,000
授業料（年額）	745,000	745,000
施設設備費（年額）	390,000	390,000

相模女子大学学芸学部教授会規則（案）

昭和45年２月25日
制定

（趣旨）

第１条　相模女子大学学則第52条の２第６項の規定に基づき、学芸学部教授会（以下「教授会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定める。

（組織）

第２条　教授会は専任の教授、准教授、講師並びに特任教授（基幹教員に限る）、特任准教授（基幹教員に限る）をもって組織する。

（審議事項）

第３条　教授会は次の事項を審議し、学長がそれらの事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

（１）学生の入学（再入学及び編入学を含む)、卒業及び課程の修了

（２）学位の授与

（３）教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

２　教授会は次の事項を審議し、学長に対して意見を述べることができる。

（１）学部長の選定に関する事項

（２）学科長の選定に関する事項

（３）教授、准教授、講師、助教及び助手の任用、昇任の際の教育研究業績に関する事項

（４）名誉教授の推薦に関する事項

（５）学則の改正に関する事項

（６）学部学科の教育課程に関する事項

（７）授業科目の種類及び編成に関する事項

（８）各種委員の選出に関する事項

（９）学術研究に関する事項

（10）学生の留学、転学部転学科、休学、復学、退学、転学に関する事項

（11）学生の試験及び単位修得に関する事項

（12）委託生、外国学生、科目等履修生、単位互換履修生、研究生、聴講生に関する事項

（13）学生の賞罰に関する事項

（14）学生団体、学生活動、学生生活に関する事項

（15）その他教育研究に関する事項および学長からの諮問事項

（学部長及び学科長の選定）

第４条　第３条第１号、第２号に掲げる学部長及び学科長の選定に関しては別に規則を定める。

（各種委員の選出）

第５条　第３条第８号に掲げる各種委員の選出に関しては別に規則を定める。

（議長）

第６条　教授会は学部長がこれを招集し、その議長となる。

２　議長に事故あるときは、議長があらかじめ教授会の議を経て指名した教授会員が、その職務を代行する。

（会議の招集）

第７条　学部長は原則として月１回定例教授会を招集しなければならない。

２　学部長は必要と認めたとき臨時教授会を招集しなければならない。

３　専任の教授、准教授、講師並びに特任教授（基幹教員に限る）、特任准教授（基幹教員に限る）の３分の１以上の者から附議すべき事項を示して教授会招集の請求があったときには、学部長は10日以内にこれを招集しなければならない。

４　教授会を招集するには３日以上前に会議の目的たる事項及び日時、場所を通知しなければならない。ただし、教授会の決議による承認があるときは、予告された附議事項を変更し、又は予告された附議事項以外につき審議することができる。

（定足数）

第８条　教授会は専任の教授、准教授、講師並びに特任教授（基幹教員に限る）、特任准教授（基幹教員に限る）の過半数の出席がなければ成立しない。ただし、休職・休業者、研究専念期間利用者、６ヶ月以上にわたる海外出張者並びに６ヶ月以上にわたる長期欠勤者はこの定足数の計算に加えない。

（議事）

第９条　議事は出席者の過半数によって決する。ただし、出席者の過半数がとくに重要と認めた事項に関しては、出席者の３分の２以上の同意を得て決議する。

（事務処理）

第10条　教授会に書記を置きその事務を処理する。書記は議長が委嘱する。

（議事録）

第11条　学部長は教授会の議事録を作成し、決議事項及びその他の重要事項については、次回教授会の確認をうけ、学部長がこれを保管する。

（細則）

第12条　この規則に定めるもののほか、教授会の運営その他に関する細則は別に定めることができる。

（疑義の解釈）

第13条　この規則に疑義を生じた場合は、その解釈は教授会においてこれを決する。

（雑則）

第 14 条　この規則の改正及び改廃は大学評議会の決議を経るものとする。

附　則

1　この規則は、昭和45年２月25日より適用する。

2　平成９年２月21日一部改正、平成９年４月１日から施行する。

3　平成20年12月24日一部改正、平成20年４月１日から施行する。

4　平成23年２月９日一部改正、平成23年４月１日から施行する。

5　平成24年11月１日一部改正、平成24年11月１日から施行する。

6　平成27年２月５日一部改正、平成27年４月１日から施行する。

7　平成28年12月１日一部改正、平成29年１月１日から施行する。

8　令和７年３月４日一部改正、令和８年４月１日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類　目次

Ⅰ 設置の趣旨及び必要性 3
Ⅱ 学部・学科等の特色 10
Ⅲ 学部・学科等の名称及び学位の名称 13
Ⅳ 教育課程の編成の考え方及び特色 14
Ⅴ 教育方法，履修指導方法及び卒業要件 30
1. 授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定、配当年次について 30
2. 卒業要件について 31
3. 卒業研究への単位付与について 31
4. CAP 制について 31
5. 他学部における授業科目の履修について 31
6. 他大学における授業科目の履修等について 32
7. 履修モデル 32
8. メディア授業と卒業要件の関係 33
9. 指導補助者について 33
Ⅵ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画 34
Ⅶ 編入学定員を設定する場合の具体的計画 35
1. 既修得単位の認定方法 35
2. 履修指導方法 36
3. 教育上の配慮 36
Ⅷ 企業実習（インターンシップを含む）や海外研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画 36
1. 語学留学及び研修 37
(1) 実習先の確保の状況 37
(2) 実習先との連携体制 37
(3) 成績評価体制及び単位認定方法 38
(4) その他特記事項 38
2. インターンシップ 39
(1) 実習先の確保の状況 39
(2) 実習先との連携体制 40
(3) 成績評価体制及び単位認定方法 40

(4) その他特記事項.....40
Ⅸ 取得可能な資格.....40
Ⅹ 入学者選抜の概要.....42
Ⅺ 教育研究実施組織の編制の考え方及び特色.....45
Ⅻ 研究の実施についての考え方、体制、取組.....47
XIII 施設，設備等の整備計画.....49
1. 校地、運動場の整備計画.....49
2. 校舎等施設の整備計画.....49
3. 図書館等の資料及び図書館の整備計画.....50
XIV 管理運営.....51
XV 自己点検・評価.....53
XVI 情報の公表.....54
XVII 教育内容等の改善を図るための組織的な取組.....57
XVIII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制.....59
1. 教育課程内の取組について.....59
2. 教育課程外の取組について.....60
3. 適切な体制の整備について.....61

Ⅰ 設置の趣旨及び必要性

1. 本学の沿革

相模女子大学は、1900 年に西澤之助が当時の東京市本郷区龍岡町（現在の東京都文京区湯島）に設立した日本女学校を起点として創立され、1909 年に本学の前身となる帝国女子専門学校を開設、戦災により 1946 年に現在地の神奈川県相模原市に移転し、1949 年に相模女子大学学芸学部を開設した。1951 年に相模女子大学短期大学部、2008 年に相模女子大学人間社会学部、栄養科学部、大学院栄養科学研究科、2020 年に専門職大学院社会起業研究科を開設し、時代の変革とともに社会のニーズに合わせて学部学科の改組を進め、現在は、学芸学部 5 学科、人間社会学部 2 学科、栄養科学部 2 学科の計 3 学部 9 学科が置かれ、大学院 1 研究科、専門職大学院 1 研究科、相模女子大学短期大学部に1学科を有し、2025 年に創立 125 周年を迎える。

本学は、女子に広く高度な知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的および応用的能力を展開させ、建学の精神「高潔善美」にもとづく教養ある人材を育成することを目的としている。「高潔善美」とは、「固き心を以て、やさしき行いをせよ」のもと、女子の地位が確立されていなかった時代において自立した女性を育成するために 1900 年に設立した日本女学校の理念であり、「品格ある美しさを備え、先進的に行動できる女性」を育成するという、本学の教育の基本を表している。

2010 年には、創立 110 周年の節目として新たなスローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」を掲げ、「女性ならではのしなやかな発想力、豊かな包容力を身につけながら、地域社会の未来を女性ならではの着眼点で発想し、貢献する女性を育成すること」を具体的な目標として定め、本学の理念・目的の達成に向けてさまざまな教育研究活動を展開している。

2. 国際コミュニケーション学科の設置の理由及び必要性について

相模女子大学では、学生が自身の特性を最大限に活かし、他者と協働する力、生涯にわたり学ぶ力を身につけ、グローバルな場面でコミュニケーションを取れる人材の育成を目指し、新たに「学芸学部国際コミュニケーション学科」を設置する。

本学科は、1967 年に開設された英米文学科を前身とする英語文化コミュニケーション学科を発展的に改組する形で構想されている。これまでの学びの基盤であった英語の言語力に加え、文化やコミュニケーション能力の向上を目指して 2008 年に改称された英語文化コミュニケーション学科は、時代の要請に応じた教育を提供してきた。この度の改組は、さらにグローバル社会に対応したコミュニケーション教育を発展させるものである。

国際コミュニケーション学科では、英語教育を核としつつ、多極化する国際社会のニーズを反映し、韓国や台湾、ASEAN 地域の言語や文化にも触れる教育を展開する。また、AI やデジタル技術を用いた新しいコミュニケーション方法を学びに取り入れ、現代の多様な国際コミュニケーションの

在り方に対応する。このように、言語・文化・テクノロジーを統合した教育により、多文化共生社会で活躍できる人材を育成することを目指す。

なお、現行の英語文化コミュニケーション学科に在籍する学生に対しては、卒業に至るまで現在の教育環境を継続するとともに、新学科で提供される教育の一部を科目の読み替えや聴講を通じて学べる体制を整え、安心して学びを継続できるよう配慮する。

本学科の設置により、国際社会で求められる知識と技能を備えた人材の育成を推進し、本学の教育ミッションのさらなる発展を図る。

3. 養成する人材像　、教育上の目的

[学芸学部]

(1) 養成する人材像

学芸学部では、「学芸」の理念に基づき、自由学芸(リベラルアーツ)を重視した幅広い教養と深い専門知識を兼ね備えた人材を育成する。学芸学部の「学芸」とは、自由学芸という理念に基づくもので、人間ひとりひとりが真に充実した人生を送るために必要な、知識・教養・倫理を総合的にあらわしたものである。この理念に基づき、各学科での専門的な知識・技能の修得と習熟を通して、本当の意味で自立した自由な人間、社会の中で自分の価値観を持って行動できる人間を育成する。

(2) 教育上の目的

学芸学部は、真に自立した人間の育成を目指し、人文科学系の学問を中心に、総合的な知識・教養・倫理を教授し、情報化・国際化社会に対応できるコミュニケーション能力を養成することを目的とする。

[国際コミュニケーション学科]

(1) 養成する人材像

国際コミュニケーション学科では、キャンパス、国境、オン・オフライン、ヒトとAIの領域を主体的に横断することで、多様な人、社会、文化に共感・協働する能力を育成し、自身の特性を最大限に活かす力を養う。また、得られた多様な経験や知識を体系化し、生涯にわたり自己開発し続ける能力を培う。これにより、多様な社会で活躍する資質を備えた人材を養成する。

(2) 教育上の目的

国際コミュニケーション学科は、学生自身の特性を最大限に活かし、他者と協働する力、生涯にわたり学ぶ力を身につけ、グローバルにコミュニケーションできる人材の育成を目的とする。具体的には、グローバルな視点から現代の社会的課題を理解し、それに対応するための理論と実践を提供する。特に、AIやデジタル技術を活用した新しいコミュニケーション方法を学びに取り入れ、学生が国際的な場面で即戦力として活躍できるスキルを習得することを目指す。

4．3つのポリシー

(1) ディプロマ・ポリシー

［学芸学部］

学芸学部は、全学が掲げる教育目標とスローガンに照らして、以下に挙げる能力を身に付け、必要な単位を修得するなどの要件を満たす学生に卒業を認定して、学位を授ける。

ア 自らの課題を発見して、主体的に計画を立案し継続的に学んでいく能力。

イ 物事を体系的に整理し、筋道立てて考える能力。

ウ 自らの設定した問題に対しての解決案を生み出す能力。

エ 多様な情報や知識を活用し、自らの考えを様々な媒体を通じて的確に表現する能力。

［国際コミュニケーション学科］

国際コミュニケーション学科では、以下の能力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与する。

ア 言語運用能力：日本語に加えて最低一言語の言語能力を一定水準で修得し、多文化共生社会での実践的なコミュニケーションができる。

イ 異文化理解と協働力：多様な文化や価値観を理解し、それを論理的に整理し、他者と協働する能力を持つ。

ウ 情報活用力：AI やデジタル技術を効果的に活用し、現代社会に適応した新しいコミュニケーションの形を創造できる。

エ 生涯学習能力：自身の経験を体系化し、生涯にわたり自己開発を続ける姿勢を持つ。

オ 実社会での応用力：得られた知識やスキルを実社会で応用し、地域社会や国際社会に貢献できる。

(2) カリキュラム・ポリシー

［学芸学部］

学芸学部は、全学のカリキュラム・ポリシーにもあるスローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」を実現することを前提として、以下のような方針に基づいてカリキュラムを展開する。

ア 各学科の教育目標を実現するために、きめ細やかな指導を行う。

イ 専門的知識や技能を活かすための基盤となる科目を設置する。

ウ 専門的な知識や技能を体系的に習得するための科目を設置する。

エ 4年間の多様な学びの集大成として、知識と技能の統合をはかり、具体的な形で成果をまとめる。

［国際コミュニケーション学科］

国際コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力を達成するため、以下の方針で教育課程を編成・実施する。

ア 教育課程の編成

① 英語教育を中心に、言語運用能力を高める専門科目を設置する。

② 異文化理解や多文化共生を深めるため、グローバル社会や文化背景に関する科目を提供する。

③ AI やデジタル技術を活用した新しいコミュニケーション手法を学ぶ科目を設置する。

④ 韓国、台湾、ASEAN 諸国の文化など興味関心を広げる科目を設け、全学共通科目で提供される各種語学科目と連携した多言語教育を提供する。

⑤ 生涯にわたり学び続ける生涯学習能力育成を念頭に、自身の興味関心に従った履修デザインを教員の支援を受けながら毎学期進めていく仕組みを提供する。

⑥ 学内での学びを学外（地域社会や国際社会）で実践できる科目を設置する。

イ 教育内容と方法

① アクティブ・ラーニングやプロジェクト型学習を導入し、主体的な学びを促進する。

② グループディスカッションやワークショップを通じて、協働力や異文化理解を育成する。

③ デジタルツールやオンライン教材を活用し、柔軟な学習環境を整備する。

ウ 学修成果の評価

① プレゼンテーション、レポート、試験、グループプロジェクトなど多様な方法で成果を評価する。

② 言語科目ではスピーキングやライティングの実践力を重視した課題評価を行う。

③ AI やデジタル技術の活用に関する科目では、プロジェクト成果物を中心に評価する。

(3) アドミッション・ポリシー

［学芸学部］

学芸学部は、自立した人間を目指して、総合的かつ普遍的な知識・教養・倫理・技能（リベラルアーツ）を修得し、情報化・国際化社会に対応できるコミュニケーション能力を身に付けたいという人を求める。

ア 学芸学部の教育目的・目標を理解し、文系や理系にとらわれない学びに対する知的好奇心を有する者。

イ 学芸学部の教育課程を履修するための継続力と実行力を有する者。

ウ 多様性を理解し、様々な人々とコミュニケーションし、新しいものを創造したいという意思を有する者。

［国際コミュニケーション学科］

国際コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、次のような資質や能力を持つ学生を求める。

① 自己のコミュニケーション能力を開発し、よりインクルーシブな社会の実現に貢献したいと考える者。
② キャンパス外での実践的な学習活動に意欲がある者。
③ 英語のみならず、韓国語などの学習を通して多様な視点からグローバルなつながりに関心を持つ者。
④ グローバルな視点から英語教育について探究し、指導者を志す者。

5. 養成する人材像と3つのポリシーとの相関及び整合性

国際コミュニケーション学科では、養成する人材像として、多文化共生社会や国際社会で活躍できる資質を持つ人材の育成を掲げている。この目標を達成するために、3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）を相互に関連付けている。ディプロマ・ポリシーは学修成果の目標を明示し、カリキュラム・ポリシーはその達成に必要な教育課程を編成、アドミッション・ポリシーは求める学生像を定めている。これにより、学科の教育方針が一貫性を持ち、実現可能となっている。以下、それぞれのねらいについて詳述する。

（1） 養成する人材像

国際コミュニケーション学科は、多文化共生社会や国際社会で活躍できる以下の資質を備えた人材の育成を目指す。

ア 言語運用能力：日本語に加え最低一言語を習得し、実践的なコミュニケーションを行える。
イ 異文化理解と協働力：多様な文化や価値観を理解し、他者と協働する力を持つ。
ウ 情報活用力：AI やデジタル技術を活用して現代社会の課題に対応できる。
エ 生涯学習能力：経験を体系化し、自己成長を続ける姿勢を持つ。
オ 実社会での応用力：知識やスキルを社会に応用し、地域や国際社会に貢献できる。

（2） 3 つのポリシーとの相関と整合性

ア ディプロマ・ポリシーとの整合性

① 養成する人材像に対応し、具体的な能力（言語運用能力、異文化理解、情報活用力、生涯学習能力、実社会での応用力）を学修成果として明確に定めている。
② 例：言語運用能力は「日本語に加えて最低一言語を一定水準で修得」という具体的な成果に紐づいている。

イ カリキュラム・ポリシーとの整合性

① 学科の教育課程は、ディプロマ・ポリシーの達成を目的として編成されており、以下のように対応している：
- 言語運用能力：英語を中心とした専門科目と、全学共通科目での他外国語学習。
- 異文化理解：多文化共生や国際社会に関する授業での学び。
- 情報活用力：AI やデジタル技術を活用する実践的な授業。

ウ アドミッション・ポリシーとの整合性

① 養成する人材像を反映し、次のような資質を持つ学生を受け入れる:

- 多様な他者と協働し、共生社会の形成に関わろうとする姿勢
- 枠を超えた学びに積極的に関与し、経験を自らの成長につなげる力
- 異なる文化的視点を柔軟に受け入れ、広い視野でつながりを築こうとする意識
- 教育や言語に関する課題に対して、主体的に問いを立て、深く学ぼうとする態度

6. 研究対象とする中心的な学問分野

国際コミュニケーション学科では、多文化共生社会や国際社会で活躍できる人材の育成を目指し、学際的なアプローチを採用している。異文化コミュニケーション、英語教育、地域研究など多様な分野を統合し、グローバルな視点を育むと同時に、地域性と国際性を両立させた教育研究を推進する。

(1) 異文化コミュニケーション

異なる文化背景を持つ人々との効果的なコミュニケーションを研究する。言語的・非言語的なコミュニケーションの特性、多文化間の協働方法、アジア地域(韓国、台湾、ASEAN 諸国)の文化的背景を学ぶカリキュラムを通じて、グローバルな視点を養う。

代表的な科目: 異文化コミュニケーション(担当教員: 渡辺幸倫)、グローバル文化Ⅰ(伝統的英語圏:担当教員:堤龍一郎)、Ⅱ(フィリピン・タイ:担当教員: 渡辺幸倫)、Ⅲ(韓国・台湾:担当教員:宣元錫)、アジアパシフィック・スタディーズ(担当教員:上條美和子)

(2) 英語教育

英語を国際共通語として活用するための教育手法を研究し、学生の実践的な言語運用能力を高める。第二言語習得理論を基にした教授法や、AI を活用した学習支援の研究も行う。また、アジア圏における英語使用の実態調査を通じて、多文化共生に寄与する英語教育の革新を目指す。

代表的な科目:英語科教育法(中)Ⅰ、Ⅱ、英語科教育法(中・高)Ⅰ、Ⅱ、グローバル教育Ⅰ、Ⅱ(担当教員: 赤塚裕哉)、応用言語学(担当教員: 渡辺幸倫)、英語音声学(担当教員:上條美和子)、Speaking Skills Ⅰ、Ⅱ(担当教員:ジェイソン デイビッド ゴールド)、Advanced English Studies Ⅰ(担当教員:ボーク ギャリー)、Ⅱ(担当教員:ジェイソン デイビッド ゴールド)

(3) 多言語・多文化研究

韓国語を中心に、台湾や ASEAN 諸国の言語・文化についても学ぶことで、地域社会と国際社会の架け橋となる能力を養う。日本国内外の多文化共生に関する事例研究や、学生が地域の課題解決に取り組むプロジェクト学習も重視する。

代表的な科目: 地域協働活動(担当教員:中村真理)、海外研修Ⅰ～Ⅲ(担当教員:上條美和子)、国際日本学(担当教員:ボーク　ギャリー)、越境・協働学習教育Ⅰ、Ⅱ(担当教員:宮本節子)、地域研究:韓国Ⅰ、Ⅱ(担当教員:宣元錫)

(4) デジタルコミュニケーションとテクノロジー

AI やデジタル技術を用いた新しい形態のコミュニケーションを研究する。非対面型のコミュニケーションや、デジタル環境での多言語対応を中心に、新しいツールやアプリケーションの教育利用についても探求する。

代表的な科目: アート&コミュニケーション演習Ⅰ、映像文化コミュニケーション(担当教員:堤龍一郎)、アート&コミュニケーション演習Ⅱ、複合芸術(担当教員:中林正身)

7. 教育研究上の具体的な到達目標等

国際コミュニケーション学科では、グローバル社会で活躍するための基礎能力として、言語運用能力、多文化理解と協働力、デジタル技術の活用力、社会的実践力を養成する。英語や初修外国語を通じた実践的なコミュニケーションスキル、多文化共生社会に対応する異文化理解、AI を活用した新しいコミュニケーション手法、さらに地域や国際社会での問題解決力を育成し、学修成果は客観テストに偏重することなく、多角的な評価を通じて測定し、学生一人ひとりの成長を支える。

(1) 言語運用能力の習得

ア 英語: 実践的なコミュニケーションを可能にする基礎的な運用能力を養成する。具体的には、会話や文章表現で日常的なやり取りができるレベルを目指すが、資格試験の結果に限らず、多角的な評価を行う。

イ 初修外国語: 入門レベルを修了し、基礎的な単語や表現を習得した段階を目標とする。複数の初級レベルの言語を修めることも評価対象とする。

(2) 多文化理解と協働力の養成

ア 異文化に関する知識を深めるとともに、多文化共生社会で必要とされる他者との協働力を身につける。具体的には、異文化間の課題を理解し、解決に向けて協働できる能力を育てる。

(3) デジタル技術を活用したコミュニケーション能力の向上

ア AI やデジタル技術を活用した新しいコミュニケーション形態の基礎を習得する。特に、翻訳ツールや言語学習アプリを効果的に活用する方法を学ぶ。

(4) 社会的実践力の強化

ア 地域社会や国際社会における具体的な課題に対し、問題解決に必要な分析力と応用力を養う。プロジェクト型学習やフィールドワークを通じ、学びを実践に結びつける力を育成する。

(5) 成績評価の方法

ア 学修成果は、試験、レポート、グループプロジェクト、プレゼンテーションなどを通じて多角的に評価する。

イ 英語と初修外国語については、言語の特性や学習進度に応じた柔軟な評価基準を設ける。

ウ デジタル技術や多文化理解に関する科目では、具体的なプロジェクトや実践的な成果物を基準として評価する。

Ⅱ 学部・学科等の特色

1. 国際コミュニケーション学科の特色

国際コミュニケーション学科の特色は、言語運用能力、多文化理解、デジタル技術の活用力を中心とした学際的教育を実践し、地域社会や国際社会での問題解決力を育成することにある。英語を中心とした言語教育に加え、韓国語やアジア地域の多言語・多文化研究を重視し、グローバルな視点を養うことが大きな特徴である。また、AI やデジタル技術を活用した新しいコミュニケーション手法の習得や、地域社会や海外でのフィールドワークを通じ、学問を実社会と結びつける学びを提供する。これにより、多文化共生社会で活躍するための実践力を備えた人材を育成する。

(1) グローバルな視点を養う学際的アプローチ

国際コミュニケーション学科では、グローバル化が進む現代社会において、言語運用能力、多文化理解、デジタル技術の活用を中心に据えた学際的な教育を行う。異文化コミュニケーション、英語教育、地域研究などといった幅広い分野を統合することで、複雑化する国際社会の課題に対応できる人材を育成する。

このアプローチの特徴は、学生が幅広い学問領域に触れながら、具体的な実践力を高めるカリキュラムにある。特に、英語を基盤としながら、韓国語や台湾語、ASEAN 諸国の言語と文化に触れることで、アジア太平洋地域を中心とした国際的な視点も養う。

(2) 実践的な言語教育

言語教育は本学科の中核的な柱であり、英語と初修外国語を中心とした学びを提供し、英語教育では、日常的なコミュニケーションを可能にする基礎的な運用能力を目指す。一方で、資格試験の結果に依存せず、実際の言語使用能力を多面的に評価する。

また、初修外国語（韓国語やその他多言語）では、入門レベルの習得を目標とし、複数の初級言語を学ぶことも積極的に評価する。これにより、学生は広い視野を持ち、多文化共生社会での基礎的な言語スキルを獲得する。

(3) デジタル技術を活用した新しい学び

現代社会におけるデジタル技術やAIの重要性を踏まえ、本学科ではこれらを活用した新しいコミュニケーション方法の学びを提供する。翻訳ツールやAIを活用した言語学習アプリの使用を通じて、学生は効率的かつ効果的に言語スキルを向上させることができる。

さらに、デジタル環境での非対面型コミュニケーションの特性や課題を理解し、多言語環境での情報伝達を探求する科目も設置している。この学びにより、学生は現代社会の多様なコミュニケーション形態に柔軟に対応できる力を身につける。

(4) 地域社会と国際社会を結ぶ実践的教育

地域社会と国際社会を結ぶ架け橋としての役割を果たす人材育成を目的に、プロジェクト型学習やフィールドワークを取り入れた実践的な教育を展開する。例えば、地域観光の振興や国際交流イベントの企画を通じて、実社会の課題解決に取り組む機会を提供する。

さらに、韓国、台湾、フィリピンなどのアジア地域でのグローバルプログラムでの経験を加えて、学生は多文化共生や国際交流の具体的な実践を体験する。これにより、地域性と国際性を兼ね備えた視野とスキルを養う。

(5) 多様な教員陣とサポート体制

本学科では、異文化コミュニケーション、英語教育、デジタル技術、アジア地域研究など、幅広い専門分野を持つ教員陣が揃っている。それぞれの専門性を活かし、学生一人ひとりが自身の興味や目標に合わせて学びを深められるようサポートする。

また、資格取得（TOEFL、TOPIKなど）や進路指導に向けた支援も整備しており、観光業、教育職、NPO、メディア関連職など、多岐にわたるキャリアパスをサポートする。

(6) 柔軟な成績評価と学修成果の可視化

本学科では、試験やレポートに加え、グループプロジェクト、プレゼンテーションなど多様な評価方法を採用している。語学に関しては資格試験だけでなく、実践的なスキルの習得を重視した評価基準を設定する。

さらに、プロジェクト型学習やフィールドワークでは成果物を基にした評価を行い、学生の学修成果を可視化する。客観テストなどを偏重しない柔軟な評価方法により、学生の努力や成長を適切に評価する。

以上、国際コミュニケーション学科は、言語運用能力、多文化理解、デジタル技術の活用力、実践的な問題解決力を兼ね備えた人材を育成する。アジア太平洋地域を中心に、多様な文化や価値観に対応する力を養い、グローバル社会での活躍を目指す。また、学生の可能性を広げるための柔軟な学びと支援体制を提供し、卒業後の進路や地域社会での貢献に直結する教育を実践する。

2. 国際コミュニケーション学科の設置が本学へ与える影響

国際コミュニケーション学科の設置は、相模女子大学が掲げる「自由学芸（リベラルアーツ）」の理念を具現化し、多様な文化や価値観に対応できる人材を育成する大学全体の目標を推進する。この設置により、以下のような多面的な好影響が大学全体にもたらされると考える。

（1） 教育内容の多様化

本学科の設置により、大学全体の教育内容がさらに多様化する。特に、これまでの英語文化コミュニケーション学科では扱えなかった韓国語や中国語、ASEAN 諸国の言語・文化を学ぶ科目が加わることで、学生全体が多文化理解を深める機会を得られる。また、AI やデジタル技術を活用した教育手法が他学科にも波及し、新しい学びの可能性を広げる基盤となる。

(2) 学生のグローバル化促進

本学科は、グローバル社会で活躍するためのスキルと実践力を育むことを目的としている。この学びは、学科内の学びだけでなく、全学共通科目や学科間の連携を通じて、他学科の学生にも波及する。異文化理解や国際交流に関連した授業は、学部全体の国際化を促進し、相模女子大学全体で多文化共生社会を支える教育環境を強化する。

(3) 地域との連携強化

本学科は、地域社会との連携を重要視しており、その取り組みは大学全体の重点方針でもある社会的貢献を高めるものである。具体的には、地域観光振興プロジェクトや国際交流イベントの企画を通じて、地域の課題解決に寄与する。これにより、大学は地域社会における信頼性と存在感を向上させ、他学科の学生もこれらの活動に参加することで、実践的な学びを得られる。

(4) 大学のブランド力向上

国際コミュニケーション学科は、英語教育、多文化教育、AI やデジタル技術の活用を統合した先進的な学びを提供する。このような学科の設置により、相模女子大学は多文化共生や国際交流に関心のある学生層にアピールでき、志願者の増加や大学全体の競争力向上が期待される。特に、「国際性」と「実践力」を備えた教育機関としてのブランド力が向上する。

(5) 教員陣の多様性拡大

本学科では、多文化理解やデジタル技術などを専門とする教員が自在に教育を行うことで、大学全体の教育・研究力が強化する。これにより、他学科との共同研究や授業の連携が進み、教育環境全体が充実する。例えば、異文化間コミュニケーションや若者に人気の韓国文化に関する授業を他学科向けに展開するなど、シナジー効果が期待される。

以上、国際コミュニケーション学科の設置は、教育内容の多様化、学生のグローバル化促進、地域連携の強化、大学のブランド力向上、教員陣の多様性拡大といった多方面において相模女子大学全体に好影響を与えることが予想される。これにより、大学全体が掲げる「自由学芸」の理念に基づく教育目標を達成し、地域社会や国際社会での評価が一層高まることが期待される。

Ⅲ 学部・学科等の名称及び学位の名称

1. 学部・学科・学位の名称

学芸学部
国際コミュニケーション学科
学士（国際コミュニケーション学）

2. 上記名称とした理由・背景

(1) 学科名称（国際コミュニケーション学科）

「国際コミュニケーション学科」という名称は、本学科の教育内容と目的を端的に表現している。本学科では、国際社会を念頭に、英語教育を基盤としつつ、韓国語や台湾語、ASEAN 地域の言語や文化、多文化共生社会における実践的なコミュニケーションスキルの育成を重視している。また、AI やデジタル技術を活用した新しいコミュニケーション手法を取り入れることで、現代社会の多様なニーズに応える教育を提供する。

この名称は、これまでの「英語文化コミュニケーション学科」の枠を超え、英語に限らず多言語・多文化教育を取り入れた学科であることを示している。また、学生が国内外の多様な社会で活躍するための能力を養う学びを提供する学科として、相模女子大学の発展的な方向性を象徴する名称である。

(2) 学位名称（学士（国際コミュニケーション学））

これまでは「学士（文学）」として英米文学や英語を中心とした教育を行ってきたが、国際コミュニケーション学科の設置に伴い、「学士（国際コミュニケーション学）」へと変更する。この学位名称は、本学科が提供する学びの範囲をより正確に反映するものと考える。

本学科では、英語を中心とした言語運用能力、多文化理解、デジタル技術の活用力を含む学際的なカリキュラムを展開する。これにより、従来の文学的視点を超えた、多分野にまたがる教育を提供し、国際社会や地域社会で実践的に活躍できる人材を育成する。「学士（国際コミュニケーショ

ン学）」という学位名称は、これらの新しい学びの方向性を反映し、国際性や実践性を備えた学問分野を象徴するものである。

(3) 背景

1967 年に開設された「英米文学科」を前身とする「英語文化コミュニケーション学科」は、時代の変化に対応しながら、英語を中心とした言語運用能力とコミュニケーション能力の育成に注力してきた。2008 年に改称された英語文化コミュニケーション学科では、英語教育に加え、文化やコミュニケーションを重視した学びを提供してきた。しかし、現代社会における多文化共生や国際的なコミュニケーションの重要性を踏まえ、さらなる教育の発展が求められている。

このような背景を受け、従来の教育内容を基盤に、新たに多言語教育、デジタル技術、地域社会との連携を加えた「国際コミュニケーション学科」を設置すべきという考えに至った。これにより、相模女子大学の教育内容はさらに進化し、社会の多様なニーズに応える体制が整うと考える。

Ⅳ 教育課程の編成の考え方及び特色

本学の教育課程は大別して「全学共通科目」と「専門教育科目」の 2 つの柱から構成される。授業科目を配置するかを考えるにあたっては、3 つのポリシーを念頭に、本学のすべての学生につけていきたい資質・能力を検討し、まず「課題解決能力」「表現力」「発信力」「国際的感覚」「語学力」を設定した。さらに本学の大きな特徴の一つである社会・地域貢献のさらなる活発化を促すという目的も併せて考慮することとした。

このような資質・能力を身につけ、個々の学生の長所を伸ばしていくためには、「共通教育」「専門教育」がそれぞれ独立して設定されるのではなく、体系性や関連性を重視してカリキュラム編成を行うことが肝要であると考え、「国際コミュニケーション学科」をはじめとする各学科での専門的な学びを念頭に置き、「全学共通科目」は、そこに必要な教養・能力を培うという位置づけとした。「専門教育科目」と「全学共通科目」はこのような連携・協調の関係性にあり、これらを統合的に履修していくことで学生自らが、共通教育科目、各学科の専門科目、さらには正課外活動も視野に入れた学びをデザインしていく力を育成することを目指す。

なお、本学においては語学力や企画力を生かした課外活動を展開するなど、正課科目と正課外活動とが有機的に連関できるように配慮している点なども特徴としてあげられる。

1. 全学共通科目

本学の全学共通科目は 2025 年度にカリキュラム改定を実施したが、その際に、前述のように、本学学生に必要な資質・能力（課題解決能力・表現力・発信力、国際的感覚、語学力）を明確化することに加えて、文部科学省の要請にもある「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を正課に導入した。さらに本学学生がそれら資質能力を獲得して社会や地域に貢献できる人間となるための科目/活動を設置している。

科目群、構成、理由は、詳細は以下のとおりである。共通教育の科目群は「基礎科目」「教養科目」「発想・実践科目」「キャリア支援科目」「健康・スポーツ科目」「語学科目」から構成される。

「基礎科目」では「さがみ総合講座」にて大学生、社会人としての一般教養・一般常識等を学ぶとともに本学学生としての発想力や企画力を磨いていく。また、「コンピュータリテラシー」を必修科目として配置し、未来に繋がるデジタル技術を安全に使いこなすための基礎的な知識・技術・情報活用能力を培う。

「教養科目」には「日本国憲法」「法学」「心理学」「アート」「メディアと文化」などを配し、幅広い教養を得ることができるようにしている。

「発想・実践科目」には「地域から学ぶ知の実践」「社会貢献・地域連携」「問題発見・解決型プロジェクトⅠ・Ⅱ」「さがみ発想講座」など、本学の特徴である地域貢献へ視野を広げていくことを含め、本学学生に付けたい資質・能力を磨く実際的・実践的な科目を配する。一方で「ジェンダー論」「データサイエンス」など、今日的でもあり、将来に繋がる課題について考える科目も配し、さらに発想力を広げることができるようにしている。

「キャリア支援科目」には、「キャリア・プランニング」「ビジネス実務総論」「SPI 対策講座」「就職支援講座」等を配し、キャリア教育、就職対策だけでなく、社会人としての基礎的な力を養う。

「健康・スポーツ科目」には「球技スポーツ」「ラケットスポーツ」「健康スポーツ」など、実際に体を動かし、心身の健康の維持・増進につとめ、健康への意識を高める科目群と、「身体の科学」「ウェルネス」等、健康維持に必要な知識及び方法論を習得することができる科目を配している。

「語学科目」は「英語Ⅰ～Ⅳ」「中国語Ⅰ～Ⅳ」など、様々な言語を習得できる演習科目を配すると共に、「海外研修Ⅰ～Ⅲ」といった、海外研修に取り組むことにより認定される科目など実践的な科目、「言語と異文化」といった、多様な文化を学ぶことができる科目も設置し、多角的に国際感覚を身につけていくことができるように配慮している。なお、この科目群と国際コミュニケーション学科のカリキュラムとは緊密に連関しており、例えば、同学科が用意している教育プログラムの修了条件として「韓国語/朝鮮語Ⅰ～Ⅳ」を修得することをあげている。

2. 教職に関連する科目

国際コミュニケーション学科では外国語（英語）の中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状を取得できる。教職免許を取得しようとする者は教職課程に申請の後、必要科目を履修する。教育職員免許法施行規則 66 条の 6 に定める科目は全学共通科目にて履修し、教科及び教職に関する科目は教職課程で展開している科目を履修する。さらに、教科及び教科の指導法に関する科目については国際コミュニケーション学科の専門教育科目より選択履修する。なお、本学子ども教育学科の必要科目を履修することにより小学校教諭二種免許状を取得できる単位を修得することができる。

3. 司書課程科目

国際コミュニケーション学科では、司書資格を取得することができる。司書資格を取得しようとす

る者は司書課程に申請の後、必要科目を履修する。資格取得に必要な科目は司書課程で展開している必要科目を履修する。また、司書教諭資格の取得希望者は、中学校・高等学校の教職免許を取得し、司書課程で展開している必要科目を履修する必要がある（教職免許は取得見込みでも可）。

本学では学校司書プログラムも実施している。司書課程で展開している必要科目を履修した後、大学より「履修証明書」が発行される。

4. 専門教育科目

体系的配置とカリュラム・ポリシーとの整合性

カリキュラム・ポリシーとの整合性の基本方針

国際コミュニケーション学科では、学科設置の趣旨およびディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与方針）を実現するため、教育課程の体系的配置を行っている。本学科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーで掲げた 5 つの能力（言語運用能力、多文化理解と協働力、情報活用力、生涯学習能力、実社会での応用力）を育成することを目標として設計されている。これに基づき、各学問分野の専門性を活かしながら、多文化共生社会や国際社会で必要とされる実践的能力を体系的に育成する。

（1） 体系的配置の概要

本学科のカリキュラムは以下の 4 つの柱で構成されている。

ア 言語運用能力の育成

英語を中心とした多言語教育を基盤とし、英語科目では基礎から応用までの段階的な履修を可能にする。初修外国語（韓国語、中国語など）については、全学共通科目との密な連携を前提に文化面からの導入科目や実践の場を提供し、多言語環境に対応できる力を養う。

イ 多文化理解と協働力の強化

異文化間コミュニケーション、地域研究（伝統的英語圏、韓国、台湾、ASEAN 諸国など）を通じて、国際的な多文化共生社会での協働力を育てる。

ウ 情報活用力とデジタル技術の習得

AI やデジタル技術を活用したコミュニケーション方法を積極的に利用する専門科目を設置し、現代社会に必要なスキル習得の機会を提供する。

エ 実践的能力の育成

プロジェクト型学習やフィールドワークを通じて、地域社会や国際社会での実践的な問題解決能力を育成する。

(2) カリキュラム設計における具体的な整合性

ア 基礎教育と専門教育の連携

1 年次は全学共通科目を中心に基礎教養を養うと同時に、学科の専門教育につながる基盤科目（例：国際教養入門、異文化コミュニケーション、Speaking Skills など）を履修する。

2 年次以降は、専門性を深める科目群（例：グローバル文化Ⅰ～Ⅲ、映像芸術、コミュニケーション・デザインⅠ、Ⅱ、English for Translation、 English for Hospitality など）を段階的に学び、3 年次以降では統合科目（プロジェクト型学習、Advanced English Studies Ⅰ、Ⅱなど）に進む構成となっている。

イ ディプロマ・ポリシーとの対応

各科目群はディプロマ・ポリシーで掲げた 5 つの能力に対応しており、カリキュラムマップを通じてその対応関係を明確化している。たとえば、「言語運用能力」に関しては、英語運用能力を段階的に強化する Speaking Skills Ⅰ～Ⅳや Integrated Communication Ⅰ～Ⅳなどの科目が含まれる。また、「情報活用力」については、コミュニケーション・デザインⅠ、Ⅱやアート&コミュニケーション演習Ⅰ、Ⅱなどデジタルツールを用いたコミュニケーションを学ぶ科目でその育成を図る。

ウ 履修順序の考慮

体系的な学びを実現するため、基礎科目から専門科目、統合科目への段階的履修を設定している。これにより、学生は基礎的なスキルを習得した上で、より高度で専門的な内容へと進むことができると考える。

(3) 学際的なアプローチの具体化

国際コミュニケーション学科の教育課程は、異文化コミュニケーションや多様な地域研究に加え、教育学、芸術、デジタル技術といった学問分野を横断的に統合している。この学際的なアプローチにより、学生は多角的な視点で課題を捉え、解決に導く力を身につける。

たとえば、地域研究科目（グローバル文化Ⅰ～Ⅲなど）では、対象地域の歴史や文化だけでなく、社会的課題や経済的背景を学ぶことで、国際的な視点から多文化共生社会における実践的なコミュニケーション能力を強化する。また、デジタル技術を積極的に活用した科目では、AI ツールや翻訳アプリの実践的かつ倫理的な活用を学び、現代社会の多様なコミュニケーション環境に適応する力を養う。

(4) 柔軟性を備えた教育課程

国際コミュニケーション学科では、多様な進路に対応できる柔軟性を備えた教育課程を提供する。選択科目の中には、学生の興味やキャリア志向に応じた多様な科目（国際教養入門、インターンシップⅠ～Ⅲ、コミュニケーション・デザインⅠ、Ⅱ）が含まれており、履修内容を個別にカスタマ

イズすることが可能となっている。たとえば、観光業を目指す学生にはEnglish for Hospitalityや国際日本学、越境・協働学習教育Ⅰ、Ⅱなどの科目が、教育分野を志望する学生には英語科教育法や国際教育論Ⅰ～Ⅲなどの科目が提供されている。

(5) 評価方法の整合性

本学科のカリキュラムでは、試験やレポートに加え、プロジェクト型学習や成果物による評価を取り入れている。これにより、客観テストの点数に偏重することなく、学生の実践的スキルや応用力を多角的に評価する。また、評価基準はカリキュラム・ポリシーに明示されており、各科目の教育目標に応じた基準が設定されている。

以上、国際コミュニケーション学科のカリキュラムは、ディプロマ・ポリシーで掲げた5つの能力を実現するため、体系的かつ段階的に設計されている。基礎教育と専門教育の連携、多文化共生とデジタル技術の融合、柔軟性を持つ選択科目群など、カリキュラム・ポリシーと整合した教育内容が特徴となる。これにより、学生が国際社会や地域社会で活躍するための基礎力と応用力を着実に育成できる仕組みが構築されていると考える。

(6) 科目区分の設定及び理由

国際コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの能力（言語運用能力、多文化理解と協働力、情報活用力、生涯学習能力、実社会での応用力）の育成を目的とし、体系的な学びを実現するために、専門教育科目を以下の区分に分けている。全体の設計としては、全員が必修として履修する導入科目を基礎に、下記のような多様な科目区分から学生それぞれの興味関心に沿って履修していく。それぞれの科目区分は、学生が基礎から応用、そして実践まで段階的に学びを深められるように設計されている。

ア 導入科目

導入科目は、大学での学びの基盤を形成するために設置されており、必修として「国際教養入門」と「異文化コミュニケーション」が含まれる。これらの科目は、学生が本学科での学びに必要な基礎知識やスキルを身につけるとともに、多文化社会や国際社会への理解を深めることを目的としている。

イ 文化・社会科目

文化・社会科目では、グローバルな視点で文化や社会に関する理解を深める内容を学ぶ。「グローバル文化Ⅰ～Ⅲ」や「アジアパシフィック・スタディーズ」などの科目を通じて、伝統的な英語圏文化からアジア地域の文化まで幅広く学ぶ。学年の進行に伴い、基礎的な学びから「文化演習」などの統合的な内容へと発展させ、実践的な課題解決力を養成する。

ウ アート科目

アート科目では、言語と文化、表現を統合的に学ぶことを目的としている。「芸術作品鑑賞」や「ポピュラーアート（韓国系）」などの基礎科目からスタートし、専門科目として「映像芸術」「英語文学」と視野を広げることを意識しながら学ぶ。さらに、統合科目では「アート＆コミュニケーション演習」を通じて、複合的な視点で表現力や創造性を高めることを目指す。

エ 教育科目

教育科目は、英語教育や国際教育の基礎から専門知識までを学び、将来の教育分野での活躍を見据えたカリキュラムが組まれている。「英語科教育法」や「国際教育論」などの科目が含まれ、教職を目指す学生にとって特に重要な内容を網羅している。3 年次以降には「教育演習」などの統合的な科目を履修し、実践的なスキルを習得する。

オ 言語科目

言語科目は、学生が多文化社会で活躍するための英語運用能力を育成することを目的としている。基礎科目として「英語文章読解」や「英語文章表現」を履修し、専門科目では「英語音声学」「英語学概論」「応用言語学」などの学問的内容を学ぶ。また、統合科目では「上級英語読解・表現」や「コースワーク演習」を通じて、高度な言語運用能力を身につける。

カ 表現・スキル科目

表現・スキル科目では、実際に英語を使用したコミュニケーション能力を高めることを目的としている。1、2 年次の「Speaking Skills I～IV」は全員が必修として履修し、スピーキング能力の基盤を形成する。3 年次以降には、「English for Relationship-building」や「English for Translation」など、専門的なスキルを磨く科目が設置されている。また、「Integrated Communication Ⅰ～Ⅳ」を通じて、統合的な表現力と応用力を育成する。

キ 探究・研究科目

探究・研究科目は、主に 4 年次を対象とし、学びの集大成として位置づけられている。「地域研究：韓国」、「グローバル教育」、「Advanced English Studies」などの科目を通じて、自ら設定したテーマについて探究を深め成果をまとめる。この区分は、学生が自らの興味関心に従って主体的に学びを発展させる力を養うことを目的としている。

ク 実践科目

実践科目は、教室内で学んだ内容を現場で活用する力を養成することを目的としている。オンキャンパス科目として「TOEIC」や「越境・協働学習教育」が設置されており、語学力やチームや地域との協働力を高める。また、キャンパス外では、「短期語学研修」「長期語学留学」

「ボランティア研修」や「インターンシップ」など、多様な選択肢が提供されており、学生が自身の興味やキャリア目標に応じて履修できる柔軟な構成となっている。

以上、これらの科目区分は、導入から探究・研究、実践に至るまで学生の成長を段階的にサポートし、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力を育成するために体系的に設計されている。さらに、実践的な学びと学問的探究を融合させることで、多文化共生社会や国際社会に貢献できる人材の育成を目指している。

(7) 各科目区分の科目構成及び理由

国際コミュニケーション学科では、学生が基礎から応用、統合、そして実践的な学びへと段階的に進むことができるよう、各科目区分に対応した具体的な科目が設定されている。それぞれの科目群について、以下に科目構成とその理由を説明する。

ア 導入科目

科目構成:「国際教養入門」「異文化コミュニケーション」

理由: 導入科目は、大学での学びの基礎を形成するために設置されており、全学生が必修として履修する。「国際教養入門」では、国際的な視点で基礎知識を学び、「異文化コミュニケーション」では、多文化社会での交流に必要な基礎的なスキルと考え方を習得する。この区分は、全学生が共有する共通基盤を形成し、専門教育への準備を整える重要な役割を担う。

イ 文化・社会科目

科目構成:

基礎:「グローバル文化Ⅰ(伝統的英語圏)」「グローバル文化Ⅱ(フィリピン、タイ)」「グローバル文化Ⅲ(韓国、台湾)」

専門:「アジアパシフィック・スタディーズ」「国際日本学」「国際韓国学」

統合:「映像文化コミュニケーション」「文化演習Ⅰ」「文化演習Ⅱ」

理由: この科目区分は、グローバルな視点で文化や社会を理解し、多文化共生社会で活躍するための基礎を築くことを目的としている。基礎科目では、地域や文化の多様性を学び、専門科目では特定の地域やテーマに焦点を当てた学びを提供する。統合科目では、学んだ内容を活用し、より実践的で応用的な力を育成する。

ウ アート科目

科目構成:

基礎:「芸術作品鑑賞(英語文学)」「ポピュラーアート(韓国系)」

専門:「英語文学」「映像芸術」

統合:「複合芸術」「アート＆コミュニケーション演習Ⅰ」「アート＆コミュニケーション演習Ⅱ」
理由: アート科目では、言語と文化、表現を統合的に学び、表現力や創造性を高めることを目指す。「芸術作品鑑賞」や「ポピュラーアート」を通じて、異文化や芸術に触れる基礎的な学びを提供し、「映像芸術」などの専門科目では、多様な芸術のあり方への理解を深める。統合科目では、制作や発表も視野に入れた実践的な力を養う。

エ 教育科目

科目構成:
基礎:「英語科教育法(中学)Ⅰ、Ⅱ」
専門:「英語科教育法(中・高)Ⅰ、Ⅱ」
統合:「国際教育論Ⅰ～Ⅲ」「教育演習Ⅰ、Ⅱ」
理由: 教育科目は、英語教育や国際教育に関する専門知識とスキルを養成することを目的としている。基礎段階で中学校レベルの教育法を学び、専門段階では高校教育や応用的な教育技術に進む。統合科目では、教育現場での実践力を高めるための演習が行われる。

オ 言語科目

科目構成:
基礎:「英語文章読解」「英語文章表現」
専門:「英語音声学」「英語学概論」「応用言語学」
統合:「上級英語読解・表現」「コースワーク演習Ⅰ」「コースワーク演習Ⅱ」
理由: 言語科目は、英語を中心とした運用能力を育成し、国際社会での活躍を支える基礎的かつ専門的な力を養う。基礎段階では、文章読解や表現力を重視し、専門段階では英語学や言語学的視点を取り入れた学びを提供する。統合科目では、課題解決型の学びを通じて実践力を育てる。

カ 表現・スキル科目

科目構成:
基礎:「Speaking Skills I～IV」
専門:「English for Advanced Speaking Ⅰ、Ⅱ」「English for Presentation」「English for Relationship-building」「English for Translation」「English for Hospitality」「English for Business」
統合:「Integrated Communication Ⅰ～Ⅳ」
理由: 表現・スキル科目では、英語での実践的なコミュニケーション能力を育成する。基礎科目ではスピーキングスキルの習得を重視し、専門科目では状況に応じた応用スキルを学ぶ。統合科目では、総合的な表現力を高め、ビジネスや国際交流での応用力を養成する。

キ 探究・研究科目

科目構成:「地域研究:韓国Ⅰ、Ⅱ」「グローバル教育Ⅰ、Ⅱ」「コミュニケーション・デザインⅠ、Ⅱ」「Advanced English Studies Ⅰ、Ⅱ」「コースワーク・デザインⅠ、Ⅱ」

理由: 探究・研究科目は、学生が学びを集大成し、成果をまとめることを目的としている。4年次に集中して履修し、各自の興味に基づく課題を探究する。デザイン思考により、長期にわたる学習研究計画を立案、実施することで学びの最大化を目指す。

ク 実践科目

科目構成:

オンキャンパス:「TOEIC Ⅰ～Ⅲ」「越境・協働学習教育Ⅰ、Ⅱ」

グローバル(キャンパス外):「短期語学研修Ⅰ、Ⅱ」「短期韓国語研修Ⅰ、Ⅱ」「長期語学留学Ⅰ～Ⅳ」「インターンシップⅠ～Ⅲ」「ボランティア研修Ⅰ、Ⅱ」

理由: 実践科目は、教室内の学びを現場で活用する力を養成する。「TOEIC」シリーズでは英語運用能力を測定・強化する。また、キャンパス外での実践的な体験を通じて国際的な視野と応用力を育てる。キャンパスとキャンパス外での学びを往還することで段階的に成長していくことを支援する。

以上、各科目区分は、基礎から応用、統合、実践まで段階的に構成され、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力の育成に直結している。これにより、学生は多文化共生社会や国際社会で活躍できる総合的な能力を身につけることができる。

(8) 学科の設置の趣旨等を実現するための科目の対応関係

国際コミュニケーション学科では、学科設置の趣旨を具体的に実現するため、各科目がディプロマ・ポリシーで掲げた能力(言語運用能力、多文化理解と協働力、情報活用力、生涯学習能力、実社会での応用力)に対応するよう体系的に配置されている。以下に、それぞれの趣旨に対応する主要な科目を示す。

ア 言語運用能力

趣旨: 英語を中心とした言語運用能力を高め、実践的なコミュニケーションを可能にする基礎力と応用力を育成する。これらの科目を通じて、学生は基礎的な言語スキルを習得し、応用的な場面での実践力を身につける。

対応科目:

基礎科目:「Speaking Skills I～IV」「英語文章読解」「英語文章表現」

専門科目:「English for Advanced Speaking」「English for Presentation」「English for Relationship-building」「英語音声学」「英語学概論」

統合科目:「Integrated Communication Ⅰ～Ⅳ」「上級英語読解・表現」「TOEIC Ⅰ～Ⅲ」

イ 多文化理解と協働力

趣旨: 多文化共生社会で他者と協働し、異なる文化や価値観を理解する力を育成する。これらの科目は、地域や文化の多様性を理解し、他者と協働するための知識とスキルを提供する。

対応科目:

文化・社会科目:「グローバル文化Ⅰ(伝統的英語圏)」「グローバル文化Ⅱ(フィリピン・タイ)」「グローバル文化Ⅲ(韓国・台湾)」

専門科目:「アジアパシフィック・スタディーズ」「国際日本学」「国際韓国学」

統合科目:「文化演習Ⅰ・Ⅱ」「映像文化コミュニケーション」

ウ 情報活用力

趣旨: AI やデジタル技術を活用した新しいコミュニケーション方法を習得し、現代社会での情報伝達力を高める。これらの科目を通じて、デジタル技術を活用し、多文化社会に適応した新しいコミュニケーション手法を学ぶ。

対応科目:

基礎科目:「Speaking Skills」「英語文章表現」

専門科目:「English for Translation」「English for Business」「English for Hospitality」

統合科目:「Integrated Communication」シリーズ

実践科目:「越境・協働学習教育」「アート&コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」

エ 生涯学習能力

趣旨: 自身の経験を体系化し、主体的に学び続ける力を育成する。これらの科目を通じて、学生は主体的な学びを深め、知識やスキルを持続的に発展させる能力を養う。

対応科目:

統合科目:「国際教育論Ⅰ～Ⅲ」

探究・研究科目:「地域研究:韓国Ⅰ、Ⅱ」「グローバル教育Ⅰ、Ⅱ」「Advanced English Studies Ⅰ、Ⅱ」「卒業研究」

オ 実社会での応用力

趣旨: 学びを地域社会や国際社会で応用し、具体的な課題を解決する力を養成する。これらの科目では、学生が現場での体験を通じて、学びを社会の中で実践する力を育てる。

対応科目:
実践科目:
オンキャンパス:「TOEIC Ⅰ～Ⅲ」「越境・協働学習教育Ⅰ、Ⅱ」
キャンパス外(グローバル):「短期語学研修Ⅰ、Ⅱ」「短期韓国語研修Ⅰ、Ⅱ」「長期語学留学Ⅰ～Ⅳ」「インターンシップⅠ～Ⅲ」「ボランティア研修Ⅰ、Ⅱ」

以上、国際コミュニケーション学科では、各科目をディプロマ・ポリシーで掲げる5つの能力に対応させることで、学生が基礎から応用、実践に至るまで段階的に学びを深められる仕組みを構築していく。この体系的な科目配置により、学科設置の趣旨を実現し、多文化共生社会や国際社会で活躍できる人材の育成を目指す。

(9) 必修科目・選択科目・自由科目の構成及び理由

国際コミュニケーション学科では、学生が基礎から応用、実践に至るまで段階的に学びを深めることができるよう、必修科目、選択科目、自由科目を適切に組み合わせたカリキュラムを設計している。それぞれの科目構成と理由は以下の通り。

ア 必修科目

構成:
必修科目には、学科全学生が共通して履修する「国際教養入門」「異文化コミュニケーション」「Speaking Skills I～IV」「英語文章読解」「英語文章表現」などが含まれている。特に「国際教養入門」は多様な選択科目の導入としての役割を持たせるとともに、英語科目ではより高度な段階に進められるよう興味関心を喚起することを目的とした基礎的な教育が行われる。

理由:
必修科目は、学科設置の趣旨やディプロマ・ポリシーで掲げた能力を育成するための基盤を形成するものである。これらの科目を履修することで、全学生が共通して求められる言語運用能力や国際社会への理解、多文化共生の基礎を習得し、多様な選択科目を自ら選び取っていくための視座を持つことを可能とする。

イ 選択科目(選択必修科目を含む)

構成:
選択科目には、「グローバル文化Ⅰ～Ⅲ」「アジアパシフィック・スタディーズ」「国際日本学」「English for Presentation」「English for Translation」など、多様な興味やキャリア目標に応じた科目が含まれる。これらの科目は、学生が自身の関心や目標に沿って履修できる柔軟な

構成となっている。これらの選択科目は、内容によって、「文化・社会科目」「アート科目」「教育科目」などに分類されている。また、専門教育科目の文化演習Ⅰ／アート&コミュニケーション演習Ⅰ／教育演習Ⅰ／コースワーク演習Ⅰより2単位以上、文化演習Ⅱ／アート&コミュニケーション演習Ⅱ／教育演習Ⅱ／コースワーク演習Ⅱより2単位以上、地域研究:韓国Ⅰ／グローバル教育Ⅰ／コミュニケーション・デザインⅠ／Advanced English Studies Ⅰ／コースワーク・デザインⅠより2単位以上、地域研究:韓国Ⅱ／グローバル教育Ⅱ／コミュニケーション・デザインⅡ／Advanced English Studies Ⅱ／コースワーク・デザインⅡより2単位以上を選択必修とし、実践科目のグローバルのうち、短期英語研修Ⅰ～インターンシップⅢの科目より1単位以上を選択必修とする。

理由:
選択科目は、学生が個々の興味や将来のキャリアに応じて学びを深められるように設定されている。また選択必修科目を設定することで、全科目分類の基礎的な部分については、一定の共通した基盤を構築する。その上で、特定の関心領域に絞って専門性を高めていくことを志向する学生にも、横断的に幅広い学びを志向する学生にも対応できるように配慮してある。これによって自らの学びを主体的にデザインする力を養うことができる。このような力は生涯学習力へとつながるものと考える。

ウ 自由科目

国際コミュニケーション学科では、自由科目を設定していない。これは体系的な学びの設計を重視しているためである。本学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を育成するために、カリキュラム全体を計画的に構築している。その中で、選択科目の幅を広げ、学生が自身の興味や目標に応じて柔軟に履修できる仕組みを導入している。文化・社会科目、アート科目、教育科目、表現スキル科目、探究・研究科目、実践科目など多様な選択肢が提供され、これらが事実上の「自由科目」と類似した機能を果たしている。また、オンキャンパスでの講義やグローバルプログラム(短期・長期語学研修、ボランティア研修、インターンシップなど)を含む実践科目が充実しており、学生の学びの幅を広げる役割を果たしている。このように、自由科目を特別に設けることなく、学びの柔軟性と計画性を両立させ、学生が段階的かつ効率的に能力を育成できる環境を提供している。

以上、必修科目、選択科目が、それぞれの役割を果たしながら相互に連携し、学生が基礎的な能力を身につけ、専門性を高め、自身の興味やキャリア目標に応じた学びを主体的に設計できるように構成されている。この構成は、学科設置の趣旨やディプロマ・ポリシーに基づき、体系的かつ柔軟な教育を実現している。

(10) 履修順序(配当年次)の考え方

国際コミュニケーション学科では、学生が基礎から応用、そして実践へと段階的に学びを深められるよう、履修順序を体系的に設計している。これにより、ディプロマ・ポリシーで掲げる能力（言語運用能力、多文化理解と協働力、情報活用力、生涯学習能力、実社会での応用力）の習得を確実に進めることを目的としている。

1 年次：基礎の構築

1 年次では、導入科目と基礎科目を中心に学び、大学での学問的思考の基盤を養う。「国際教養入門」や「異文化コミュニケーション」などの導入科目を必修とし、言語運用能力を高める「英語文章読解」「英語文章表現」や「Speaking Skills I～II」を履修する。また、全学共通科目で提供される教養科目や語学科目（韓国語・中国語など）を通じて、多文化社会への理解を深める。

2 年次：専門性の深化

2 年次では、文化・社会科目やアート科目などの専門科目が中心となる。例えば、「グローバル文化Ⅰ～Ⅲ」や「国際日本学」を履修し、多文化共生社会における異文化理解を深化させる。また、「Speaking Skills III～IV」や「Integrated Communication I～II」では、より高度なコミュニケーション能力を育成する。さらに、基礎科目から発展した内容を学び、語学研修やインターンシップなど、実践的なプログラムへの参加も推奨する。

3 年次：統合的な学びと応用

3 年次では、統合科目や応用的な専門科目を履修し、学びを総合的に深める。「文化演習Ⅰ・Ⅱ」「アート&コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱ」「コースワーク演習Ⅰ・Ⅱ」など、理論と実践を結びつけた学習が重視される。また、「English for Advanced Speaking」や「English for Presentation」などの表現スキル科目を通じて、実際の場面での英語活用能力を磨く。さらに、語学留学やボランティア研修など、実社会での経験を積む機会も提供する。

4 年次：探究と実践の集大成

4 年次では、探究・研究科目を中心に、自ら設定したテーマについて深く学ぶ。「地域研究：韓国Ⅰ・Ⅱ」「グローバル教育Ⅰ・Ⅱ」「Advanced English Studies」などの科目を通じて、研究活動を展開し、その成果をプロジェクトとしてまとめる。また、コミュニケーション・デザイン科目や実践的なプロジェクト型学習を履修することで、社会での課題解決に必要な応用力を養う。

以上、履修順序は、基礎→専門→統合→探究・実践という流れを基軸に、学びの段階的な深化を実現する。これにより、学生は計画的かつ効果的に能力を育成し、多文化共生社会や国際社会で活躍するための素地を確立することができると考える。

（11） 設定単位数の考え方

国際コミュニケーション学科では、ディプロマ・ポリシーで掲げた 5 つの能力（言語運用能力、多文化理解と協働力、情報活用力、生涯学習能力、実社会での応用力）を効果的に育成するために、設定単位数を以下のように配分し、全体のカリキュラムを設計した。

ア 卒業要件単位数

学士（国際コミュニケーション学）の学位取得には、124 単位以上の修得を要件としている。この単位数は、文部科学省の大学設置基準に基づき、全学共通科目および専門教育科目を含む総合的な教育内容を保証するものである。

イ 全学共通科目と専門教育科目のバランス

全学共通科目: 学問的基盤を形成し、多様な視点を養うために設けられており、約 30 単位が設定されている。これには、基礎科目、教養科目、キャリア支援科目、語学科目、健康・スポーツ科目などが含まれる。

専門教育科目: 本学科での専門性を育成するために約 90 単位が設定されており、導入科目、文化・社会科目、アート科目、教育科目、言語科目、表現スキル科目、探究・研究科目、実践科目の 8 つの区分に分けられている。

ウ 必修科目、選択必修科目、選択科目の構成

必修科目: 学科の基礎的な能力を習得するために必要不可欠な科目として、全員が履修するものを設定している。例としては、「国際教養入門」「異文化コミュニケーション」などが含まれ、18 単位以上を必修としている。

選択必修科目: 学生の興味やキャリア目標に応じて選択できる科目でありつつも、特定の能力育成を目的として履修を求めるものである。文化演習や教育演習、探究・研究科目など、学びの深化に重要な科目を含め、20 単位以上を選択必修としている。

選択科目: 学生が自らの興味に応じて自由に履修可能な科目であり、幅広い分野を学ぶ機会を提供する。例としては、短期語学研修や長期留学、ボランティア活動などが含まれ、66 単位以上を選択科目として設定している。

エ 単位数の配分の考え方

基礎科目: 学習の基盤を構築するために、1～2 年次で履修する科目に重点を置き、全体の約 30%を配分している。

専門科目: 学問的な専門性を高めるために、2～3 年次に重点を置き、全体の約 35%を配分している。

統合科目および探究・研究科目: 学びの集大成として、3〜4 年次に重点を置き、全体の約25%を配分している。
実践科目: 社会的な実践力を養成するため、学年に応じて柔軟に履修可能な形で全体の約 10%を配分している。

オ 学問的幅広さと専門性の両立
設定単位数の構成は、文部科学省の大学設置基準に準拠しつつ、国際コミュニケーション学科の設置趣旨に合致している。全学共通科目による幅広い教養教育と、専門教育科目による深い学びをバランスよく組み合わせることで、社会で活躍するために必要な実践力と専門性を兼ね備えた人材を育成する。

以上の単位設定の考え方により、基礎から応用、そして実践に至る体系的な学びを提供する。これにより、学生が学科の目的に沿った能力を段階的に習得し、多文化共生社会や国際社会で活躍する人材へと成長できる教育環境を整えていると言えよう。

(12) 主要授業科目として設定する考え方

国際コミュニケーション学科では、学生が基礎的な学力を確立し、専門性を深め、学びを実践に結びつける段階的な学修モデルを構築するために、基礎形成、専門性深化、応用・実践といった各レベルで中核となる科目を主要授業科目に位置づけている。これらの科目は、学科の設置趣旨やディプロマ・ポリシーに基づき、学修成果を最大化するための基盤的かつ中核的な役割を果たしている。

ア 基礎形成レベル
国際教養入門や異文化コミュニケーションなど、全学生が履修する必修科目は、国際的視野の基礎を築き、多文化社会で活躍するための出発点として機能する。また、英語文章読解、英語文章表現、Speaking Skills I〜Ⅳなどは、言語運用能力の基盤を育て、将来的な学びを支える役割を担っている。

イ 専門性深化レベル
コースワーク演習Ⅰ・Ⅱは、実践的なスキルを段階的に育むために設計されており、文化演習Ⅰ・Ⅱやアート&コミュニケーション演習Ⅰ・Ⅱは、文化や芸術を深く理解し、統合的な視点を持つための科目である。また、地域研究:韓国Ⅰ・Ⅱやグローバル教育Ⅰ・Ⅱでは、国をまたいだ研究を通じて専門性を高める。

ウ 応用・実践レベル

コミュニケーション・デザインⅠ、Ⅱや Advanced English Studies Ⅰ、Ⅱは、学びの集大成として高度な応用力・実践力を養成する科目群である。コースワーク・デザインⅠ・Ⅱは、実践的な課題を発見し、解決する力を育て、キャリア形成に結びつける。

以上のように、主要授業科目は、学生の多様な興味やキャリア目標に対応しながら、段階的かつ体系的に設計されている。学科の設置趣旨と緊密に連動し、実践力と専門性を備えた人材育成を目指す重要な基盤を構成している。

(13) 一年間の授業期間や各授業科目について

ア 授業期間と学期区分

1年間の授業期間はオリエンテーション、試験期間、補講期間、集中講義期間などを含め 35 週間、うち授業は春学期および秋学期において各 14 週間である。1コマ 100 分、14 回授業(1,400 分)を基本としていることから、1コマ 90 分、15 回授業(1,350 分)を基本とする「大学設置基準」に定める標準的な学修時間を超えるものであり、十分な教育効果を確保できる設定となっていると考えられる。

イ 授業科目の種類と形態

授業科目は以下の 3 つの形態で提供する。

① 講義科目

学生が基礎的な知識を習得することを目的とし、「国際教養入門」や「英語文章読解」などが該当する。

② 演習科目

学生が主体的に課題に取り組み、学んだ知識を応用できるようにすることを目的とし、「文化演習Ⅰ」「アート&コミュニケーション演習Ⅰ」などがこれに該当する。

③ 実習科目

現場での実践を通じて、理論と実践の統合を図る科目で、「短期語学研修」「インターンシップ」などが含まれる。

ウ 授業科目と単位設定

各授業科目は、その内容や目標に応じて単位数が設定されている。講義科目では通常 2 単位、演習科目では一部の基礎的科目(Speaking Skills Ⅰ～Ⅳ)とオンキャンパスの実践科目(TOEIC Ⅰ～Ⅲ、越境・協働学習教育Ⅰ、Ⅱ)は 1 単位、その他は 2 単位、実習科目は活動量に応じて 1～12 単位と柔軟に設定されている。このような単位設計により、学生が計画的に履修を進められる仕組みを提供する。

(14) 学修支援と評価基準

学科では、学生が効果的に学びを進めるための学修支援体制を整えている。履修指導や担任制を通じた個別相談を通じて、学生が自身の興味やキャリア目標に応じた学修計画を立てられるようサポートする。また、成績評価については、試験、レポート、プレゼンテーション、プロジェクト成果物など、多様な方法を組み合わせて行い、学生の学びの成果を多角的に評価する仕組みを導入する。

(15) 授業の柔軟性と実践性

本学科では、オンキャンパスでの授業に加え、グローバルプログラム（短期語学研修、長期語学留学、ボランティア研修、インターンシップなど）を通じて、学生が教室と教室外を往還しながら学びを深められるよう配慮する。これにより、学生は実践的な能力を身につけるとともに、国際的な視点から多文化共生社会での応用力を養うことが可能と考える。

以上の設計に基づき、国際コミュニケーション学科の授業は、学生が基礎的な知識から応用力、実践力をバランスよく身につけ、ディプロマ・ポリシーで掲げた能力を着実に達成できるよう体系的に構築されている。

Ⅴ 教育方法，履修指導方法及び卒業要件

1. 授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定、配当年次について

本学科では、講義科目や教室内での演習科目においてアクティブ・ラーニングを積極的に活用し、双方向型の授業を展開する。また、言語運用能力や国際コミュニケーション能力を向上させるため、グループワークやディスカッションを取り入れ、主体的な学びを促進する。

相模女子大学では座学の最大受講者数を 175 人としている。国際コミュニケーション学科の入学定員は 60 人であり、時間割上で必修科目や選択必修科目などを適切に設計することで、専門科目の受講者数が過度に集中することはない。理論上、入学定員 60 人に編入学者や再履修者を加えた約 70 人が最大受講者数となるが、一部の必修科目を除き、受講者数は最大でも 40 人程度にとどまると想定される。

また、少人数制を重視する科目（ゼミナール形式の「グローバル教育 I、II」「コミュニケーション・デザイン I、II」「Advanced English Studies I、II」「地域研究：韓国 I、II」など）では、教員 1 人あたりの指導可能範囲を考慮し、最大 10 人程度の小規模クラスで実施することで、学生一人ひとりの学習をきめ細かくサポートする。

一方、実践的な学びを重視する本学科では、学外での活動を伴う演習科目を複数設け、フィールドワークやインターンシップを通じて、実際の国際コミュニケーションの現場を体験する機会を提供する。このような科目では、実践活動に適したグループサイズ（約 5〜15 人）に分け、対話的な学習環境を確保する。

本学科では、言語習得やデジタルメディア活用の科目において、オンライン教材やデジタルツールを併用する授業を導入し、ICT を活用した実践的な学習環境を整えている。特に、AI を活用したコミュニケーションツールの実践や、国際的な情報発信スキルの習得を目的とした授業では、オンラインと対面を組み合わせた学びの最適化を図る。

なお、各科目の配当年次については、学習スキルを含む基礎的な科目を 1 年次に配置した上で、学年進行にともなって選択科目を増やし専門性を高めていく。特に 3・4 年次ではより高度な専門科目やフィールドワークを中心とした実践的な学びを充実させるカリキュラム設計となっている。詳細は次項以降で記述する。

2. 卒業要件について

必修科目 18 単位以上、選択必修科目 20 単位以上、選択科目 66 単位以上を修得し、124 単位以上修得することとする。

3. 卒業研究への単位付与について

大学での学びの集大成として 4 年次に「グローバル教育Ⅰ、Ⅱ」「コミュニケーション・デザインⅠ、Ⅱ」「Advanced English Studies Ⅰ、Ⅱ」「コースワーク・デザインⅠ、Ⅱ」「地域研究：韓国Ⅰ、Ⅱ」などから選択必修の形で履修し、1 年間を通した研究を実施、成果を取りまとめる。これらを十分に修めた者に対して、半期 2 単位、合計4単位を認める。

4. CAP 制について

本学では、単位の実質化を図るため、学生が過剰に履修することを防ぎ、1単位の修得に必要な学修時間（自学自習時間を含めて 45 時間）を確保できるよう、履修科目の登録上限（CAP制）を導入している。1 学期に履修登録できる単位数は、原則として 24 単位を上限としており、下記は「履修単位数制限規程」の抜粋である。

ただし、学生の学修意欲の向上や資格取得の促進のため、次の(1)と(2)に該当する場合は 27 単位までを上限としている。

【相模女子大学履修単位数上限制限規程】

1 学期に履修登録できる単位数は、原則として 24 単位を上限とする。ただし、次の各号の一に該当するときは、上限を超えて 27 単位まで履修登録を認めることができる。

(1)前学期において GPA3.2 以上の者。

(2)全学共通科目及び専門教育科目以外の資格科目を履修するとき。

5. 他学部における授業科目の履修について

本学では、所属する学部学科の科目以外に、他学部や他学科で開講されている一部の科目を履修できる「他学部他学科履修」という制度を設けている。これにより学生は、在学中に学部や学

科を問わず様々な学問分野を学ぶことができるので、自身の専門科目以外の知識も幅広く養うことができる。本制度を通して修得した単位は、卒業要件における自由科目の修得単位に算入される。

6. 他大学における授業科目の履修等について

本学では、他大学で開講されている授業科目を履修し、そこで修得した単位を本学の自由科目の修得単位として認定することができる。これにより学生は、他大学において本学にはない特色ある学びを得ることができ、幅広い教養と知見を養うことができる。

ただし、本学での授業を優先とするため、1 年次の春学期は出願できない等の注意点を設けている。

7. 履修モデル

国際コミュニケーション学科の履修モデルは、学生が基盤形成から専門性の横断や深化、そして社会での実践力の育成まで、体系的に学べる構成を採用している。1 年次は語学力や多文化理解、越境学習を基盤として学び、2 年次以降は専門科目を横断的に履修できる仕組みを整えている。複数のプログラムを組み合わせて修了を目指すことで、学生は自分の特性を最大限に活かし、独自性を持った人材を目指す。

また、生成 AI を活用した言語学習や、デザイン・アート思考を用いたプロジェクト学習（PBL）を通じ、協働力や創造力といった非認知能力の向上も目指す。卒業要件は、必修科目、選択科目、そして最終的な探究・研究演習を通じて学びを総合的に統合する構成である。多様性を受け入れた環境で、自分らしさを発揮しながら、地域創生や異文化交流の場で活躍できる人材を育成する。

履修モデル①:【資料 1】

2つのプログラム（Area Studies Program on Korea、Communication Designer Program）を横断修了するモデルとなる。新学科の特長である韓国に加えて異文化やコミュニケーションに興味関心を持って入学してくる学生を想定している。1～2年で文化や社会、アートについて大いに学び、3～4 年から演習や実践経験でしっかり出口に向けたキャリア・プランニングに軸足を向けていく流れになる。

履修モデル②:【資料 2】

2 つのプログラム（Advanced English Studies Program, Global Practioner Program）を横断修了するモデルとなる。英語を重点として留学や語学研修など学外での学びに興味関心がある学生を想定している。旧英語文化コミュニケーション学科のターゲット層への対応モデルとして想定している。2 年生で留学を経験し、3 年生でその経験を活かしてさらに英語力や実践力を鍛えていく流れである。

履修モデル③:【資料 3】

Global Education Program を修了し、なおかつ教職課程も修了するモデルとなる。国際コミュニケーション学科の特長であり、なおかつ教職課程を持つ他大学とも差異化できる国際バカロレア教員養成資格(IBCTL)取得実現を想定したプログラムに興味関心がある学生、そもそも教職に関心がある学生への訴求を想定している。1～2年で教職科目を押さえてから 3～4 年で国際教育へと視座を高めていく流れである。

8. メディア授業と卒業要件の関係

本学では、同時性又は即応性を持つ双方向性(対話性)を有し、面接授業に相当する教育効果を有すると認められる科目について、オンライン授業を導入している。全学共通科目および専門教育科目のそれぞれで、オンライン授業として科目設定できる単位数には、上限を設けている。上限の詳細は、下記の通りである。

オンライン授業を開講できる単位数　上限一覧表

全学共通科目	24 単位
専門教育科目	32 単位

卒業要件は「2. 卒業要件について」に記載の通りであり、上記表の通り、全学共通科目および専門教育科目のオンライン授業科目を全て履修したとしても、オンライン授業科目の修得単位数合計が 60 単位を上回ることは無い。

【相模女子大学学則　第 3 章　授業科目および教育課程　第 9 条の 2】

前条第2項に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

2　前項に規定する授業の方法により修得できる単位数は、60 単位を限度とする。

9. 指導補助者について

本学では、授業担当者に代わり、独立して授業を担う指導補助者は設置していないが、下記のような場合に、SA(スチューデント・アシスタント)等の授業補助者を設置することがある。

(1) 授業前後の補助

授業実施に必要となる準備作業・片付け(演習結果等の整理、教材の準備・片付け)を行う場合。

(2) 授業中の補助

授業中の受講者補助作業(グループワークにおける各グループの進め方のサポート、PC 等の操作や演習課題の進め方のサポート)を行う場合。

【教員の授業補助者への指導計画】

学科長および共通教育機構長は、SA 業務が適切に運用されているかを適時に確認し、不適切な運用がなされていた場合には、当該授業の担当者にその是正を指導するとともに、学科長より学部長に報告する。

SA による授業補助が実施された学科を有する学部長および共通教育機構長は、SA制度の運用状況に関するレビューを定期的に行い、制度の適正な運用に努めるとともに、必要な見直し検討等を行うものとする。

【教員と授業補助者の責任関係と役割分担】

SA は授業担当者に代わり独立して授業を担うことはなく、授業担当教員の指示を受けて補助業務を行う。なお、SA は授業補助によって知り得た個人情報を他に漏らしてならず、また、授業内容や授業中の出来事等について SNS 等で公開をしてはならない等の守秘義務を負う。

Ⅵ 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学では、同時性又は即応性を持つ双方向性(対話性)を有し、面接授業に相当する教育効果を有すると認められる科目について、オンライン授業を導入している。

【実施場所】

オンライン授業を実施する場所は、授業を行う教員と授業に参加する学生のそれぞれが所在する場所とする。本学では、パソコンやインターネット環境が整わない学生のために、学内の情報処理教室の開放やラーニングコモンズでのパソコン貸出、Wi-Fi 整備等を行っており、オンライン授業の開講によって学生に不利益が生じないようにしている。

【学則における規定】

「相模女子大学学則　第 3 章　授業科目および教育課程　第 9 条の 2」

前条第2項に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

2　前項に規定する授業の方法により修得できる単位数は、60 単位を限度とする。

【告示の要件を満たすものであることの説明】

「0 メディア授業と卒業要件の関係」に記載の通り、オンライン授業科目を全て履修したとしても、60 単位を上回ることは無い。

【授業科目名、授業内容】

「教育課程等の概要　別記様式2号（その2の1）　備考欄」において「メディア」と記載した授業において、オンライン授業を実施することがある。また、その授業内容については、「授業科目の概要　別記様式第2号（その3の1）」にて示す。

【授業内容を踏まえた実施方法】

1. オンデマンド型授業

授業資料や動画を学習管理システム（LMS）上で配信し、学生が自分のペースで学修できる環境を提供する。学生は LMS 上で授業に関する十分な指導（レポート課題に対する質疑応答や添削指導）を受けることができ、常時、教員との意見交換が可能である。

2. リアルタイム型授業

Zoom などのオンライン会議ツールを利用し、対話型授業を実施する。特に「短期語学研修」などでは現地とのリアルタイム連携を図ることを目指す。

3. オンライン英会話

海外の講師とリアルタイムで会話練習をする機会を授業内外で設け、実践的な会話力の養成を図る。

なお、オンデマンド型とリアルタイム型それぞれの実施回数を予めシラバスに明示することにより、学生の主体的な科目選択や計画的な学修を支援している。

Ⅶ 編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学科は、3 年次に 5 人の編入学定員を設定している。既修得単位の認定方法、履修指導方法、教育上の配慮等は以下のとおりである。

1. 既修得単位の認定方法

学生が本学に入学する前に大学又は短期大学及び大学以外の教育施設等において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む）について、本学の授業科目の履修により修得したとみなし、単位を認めることができる。全学共通科目の単位認定にあたっては、予め定められた認定可能上限単位数に基づき最大限包括的な認定を行う。科目ごとの個別認定を行う場合は共通教育機構運営委員会にて本学の授業科目に読み替えができるか判断し、認定案を作成する。専門教育科目の単位認定にあたっては、編入学先の学科専任教員が本学の授業科目に読み替え

ができるか判断し、予め定められた認定可能上限単位数の範囲内で認定案を作成する。認定の可否の判断には、既修得科目の記載された成績証明書および履修科目のシラバスを用いる。認定案は教授会にて諮り承認を得た後、学長により最終決定がなされる。成績評価は、他大学等で修得した単位等の認定を意味する「TC」を付す。

2. 履修指導方法

入学年度当初に編入学生を対象とした新入生オリエンテーションを実施し、本学における履修制度（履修登録の方法やポータルサイトの使用方法など）および卒業要件について説明を行う。また、年間の履修計画等について所属学科の指導教員と面談を行う。特に免許や資格取得を目指す学生には、個別認定可能な科目を確認し、取得に向けた履修計画が不利にならないよう指導する。編入学後の履修モデル（卒業要件単位数で作成したもの）は【資料 4】のとおり。

3. 教育上の配慮

編入学生がスムーズに学科の教育プログラムに適応できるよう、以下の配慮を行う。

⑴ 演習科目の優先配属

3 年次から履修が始まる「文化演習Ⅰ、Ⅱ」「アート&コミュニケーション演習Ⅰ、Ⅱ」「教育演習Ⅰ、Ⅱ」「コースワーク演習Ⅰ、Ⅱ」などゼミナール形式の科目について、編入決定時点から学生に科目内容や履修方法を詳細に説明し、学生の興味・関心やキャリア目標に応じた演習科目に優先的に配属する。

⑵ 事前オリエンテーションの実施

編入学生を対象とした事前オリエンテーションを実施し、学科の教育方針や学修内容を説明する。これにより、編入学生が円滑に学修を進められる環境を整える。

⑶ 個別相談の実施

編入学後の不安を軽減するため、学科の教員や学修・生活支援課の職員が個別に学修計画やキャリア設計について適切な指導を行う。

Ⅷ 企業実習（インターンシップを含む）や海外研修等の学外実習を実施する場合の具体的計画

国際コミュニケーション学科では、グローバルプログラムの実習科目として、海外での留学・語学研修及びインターンシップ、また国内でインターンシップ・ボランティア研修の学外実習の機会を提供する。学外実習は学内での学びを実践、深化させるための重要な機会と位置づけ、必修選択科目（1単位）とする。

本学における学外実習のうち、国際コミュニケーション学科で授業科目として実施を計画している学外実習（教員が引率し、特定の実習施設を定めないものを除く）について以下に説明する。

1. 語学留学及び研修

海外での研修体験を通して、外国語を利用したコミュニケーション活動の実践、異文化と自らの文化および多様性の理解、それらの体験的学習を促すことを目標とした科目として、以下の科目群において学外実習の単位を認定する。

全学共通科目

「海外研修Ⅰ～Ⅲ」　（各 2 単位）

国際コミュニケーション学科専門科目

「短期英語研修Ⅰ」、「短期英語研修Ⅱ」　（1 単位）
「短期韓国語研修Ⅰ」、「短期韓国語研修Ⅱ」　（1 単位）
「長期語学留学Ⅰ」、「長期語学留学Ⅱ」　（6 単位）
「長期語学留学Ⅲ」、「長期語学留学Ⅳ」　（12 単位）
「特別研修Ⅰ」、「特別研修Ⅱ」　（1 単位）

(1) 実習先の確保の状況

国際コミュニケーション学科の海外留学・研修受け入れ先として、英語圏を中心に 6 大学と合意、受け入れ実績がある。

	国名・都市名	大学名	コース名称	受け入れ人数	研修期間
本学協定校	オーストラリア・メルボルン	ビクトリア大学	英語集中コース（ELICOS）	制限なし	6カ月、又は12カ月
	カナダ・ウィニペグ	マニトバ州立大学	Intensive Academic English Program (IAEP)	制限なし	12カ月
	台湾・高雄市	文藻外語大学	中国語センター(華語中心)	制限なし	2週間
	韓国・ソウル市	ソウル女子大学	韓国語教育部（語学堂）	制限なし	4週間
学科認定研修校	フィリピン・セブ	ラプラプセブ国際大学	Center for English Language Studies (CELS)	制限なし	4週間
	フィリピン・マニラ	エンデラン大学	Enderun Extension Program	制限なし	4週間

(2) 実習先との連携体制

ア 基本的な連携構造

本学は海外協定校と学長同士で基本合意書（MOU: Memorandum of Understanding）を締結している。また、アジア地域での研修機会を拡充するため、協定校と同等の研修水準と環境を有する認定校も設定している。【資料 5】

イ 実習水準確保の基準

海外留学・研修先の選定は、以下の基準に基づいて行っている。

① 相手国で正式認可を受けた 4 年制大学の所属機関であること。

② 学生の学力・語学力に適したプログラムを提供し、レベル別クラス分けを実施していること。

③ 国・キャンパス内外の安全が確保され、宿舎を含む環境が整備されていること。

④ 留学生対応の組織を備え、本学の連携教育推進課または国際コミュニケーション学科と緊密な連絡体制を維持できること。

ウ 具体的な連携体制

協定校・認定校との実習開始前には、必ず事前調査と打ち合わせを実施し、連携体制を調整している。実習中は担当者間の直接連絡に加え、委託旅行代理店を通じた状況報告システムとトラブル対応体制を整備している。

(3) 成績評価体制及び単位認定方法

海外語学研修・留学の成績評価は、国際コミュニケーション学科全員で以下の基準に基づき評価を行う。

ア 4 週間以内の語学研修成績評価

① 研修先の大学でのクラス分けの結果、どのレベルの語学クラスに配置されたかを確認し、同クラスでの出席状況、最終的な成績評価。

② 帰国後に提出された「研修報告書」の内容評価。

上記2点を合わせて、研修活動を評価する。

イ 4 週間以上の語学研修・留学の成績評価

留学先の大学でのクラス分けの結果、どのレベルの語学クラスに配置されたかを確認し、同クラスでの出席状況、最終的な成績評価を踏まえ総合的に判断する。留学期間によって取得単位が異なるが、評価方法に変わりはない。

(4) その他特記事項

学外実習の教育効果を最大化するための科目「越境・協働学習教育Ⅰ・Ⅱ」の設置

本科目群は、学外研修での実践的学びを深化させ、学生間の知見共有を通じて教育効果を高め

ることを目的とするプログラムであり、2年次前期・後期に開講する。事前学習においては、研修先に関する基礎知識の習得およびビジネスマナーの修得を行う。事後学習では、活動報告書の作成およびプレゼンテーションを通じて、実践での学びを体系化し、履修者間での知見共有を行う。これらのプロセスを通じ、社会性および自律性の育成を目指す。

2. インターンシップ

学内での学びを地域社会や国際社会で応用し、具体的な課題を解決する力を養成する機会として、また自己発見やキャリアについて考える機会として、以下の専門科目群において国内外でのインターンシップ、及びボランティア研修を実習科目として認定する。なお、実習の内容と時間に応じて認定する科目を決定する。

「ボランティア研修Ⅰ」(1 単位)
「ボランティア研修Ⅱ」(2 単位)
「インターンシップⅠ」、「インターンシップⅡ」(各 1 単位)
「インターンシップⅢ」(2 単位)
「スクール・インターンシップⅠ」、「スクール・インターンシップⅡ」(各 1 単位)

(1) 実習先の確保の状況

国内・海外ともにインターンシップ及びボランティアは原則として授業が行われない夏季休暇、春季休暇中に実施する。

国内/海外	実習先	実習先情報	受け入れ期間	受け入れ可能数
国内	米陸軍基地管理本部(キャンプ座間)	神奈川県座間市	3 週間～4週間	5 名程度(選考あり)
	エスシー総合管理	東京都港区赤坂 1-3-18	3 週間～4週間	若干名
	中日本エクシス株式会社	愛知県名古屋市中区栄二丁目 3 番 1 号	2 週間～3 週間	若干名
	リゾートトラスト	東京都渋谷区代々木 4-36-19	3 週間～4週間	若干名
	やまのうち観光インターンシップ	観光教育・インターンシップセンター 長野県下高井郡山ノ内町平穏 2277 番地	3 週間～4週間	山ノ内町の各提携旅館にて若干名
	誠心保育園	神奈川県相模原市南区相模大野3丁目12−7	3 週間～4週間	若干名
	相模女子大学小学部	神奈川県相模原市南区文京2丁目1−1	3 週間～4週間	教職課程履修者対象、若干名

	NPO 法人 海外に子ども用車椅子を送る会	東京都福生市加美平3丁目7番13号	年間を通して月一回以上	制限なし
海外	グローバルビジネス研修 （外部委託企業の現地オフィスがある都市にある企業での研修）	オーストラリア・シドニー オーストラリア・ケアンズ ベトナム・ホーチミン マレーシア・クアラルンプール	3週間～4週間	制限なし（各研修先で希望する企業を選択）
	幼稚園アシスタント・ティーチャーボランティア	オーストラリア・シドニー市内の幼稚園	3週間～4週間	若干名

(2) 実習先との連携体制

国内インターンシップ及びボランティアの実習先とは、年間を通じて担当者間で随時連絡を取り、定期的に打ち合わせることで、学生に適切なインターンショップを実施するための検討を継続的に行なう。受け入れ先からの要請がある場合には本学と受け入れ先との間で覚書を取り交わす。

海外インターンシップ及びボランティアの実習先とは、海外研修ビジネス、旅行業、保険代理業などの企業を外部委託組織に選定し、外部委託組織を経由して研修承諾書を取り交わす。実習開始前には現地のビジネスマナーやリスクマネジメントのオリエンテーションを実施し、安全な実習を行うための事前指導を行う。実習開始後は週一回の委託組織の現地スタッフによる報告及び参加者への聞き取り結果が学科基幹教員に届く体制が整っている。

(3) 成績評価体制及び単位認定方法

実習先での学生の活動状況に対する実習担当者からの報告、評価を受けるとともに、学生が作成する活動報告書に基づき、国際コミュニケーション学科の基幹教員が評価を行う。

(4) その他特記事項

上記「海外留学・研修」の項目でも述べた通り、「越境・協働学習教育Ⅰ及びⅡ」において、（各1単位）を2年次前期・後期に開講し、学外での実践的活動を通じて得られた知識・技能を更に発展させ、実務における応用力の向上を図る。事前指導、実践、事後指導の三段階で構成され、特に実践報告書の作成とプレゼンテーションを通じて、論理的思考力および表現力の向上を目指すとともに、実践での学びを履修者間で共有することで、相互研鑽の機会を提供する。

Ⅸ 取得可能な資格

国際コミュニケーション学科で取得可能な資格は下記のとおりである。なお、これらの資格はいずれも卒業の必須要件ではない。

資格・免許の種類	取得条件等 ア:国家資格または民間資格 イ:資格取得可能または受験資格取得可能 ウ:追加科目履修の有無
中学・高校教員 1 種(英語)	ア 国家資格 *1 イ 資格取得可能 ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、追加して教職関連科目の履修が必要
司書	ア 国家資格 イ 資格取得可能 ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、追加して司書資格関連科目の履修が必要
司書教諭	ア 国家資格 イ 資格取得可能 ウ 卒業要件単位に含まれる科目のほか、追加して司書教諭関連科目の履修と該当する教員免許状が必要
学校司書	ア 国家資格 *2 イ 資格取得可能 ウ 学校司書プログラムの関連科目の履修が必要
情報処理士	ア 民間資格((一財)全国大学実務教育協会) イ 資格取得可能 ウ 情報処理士関連科目を履修し、一般財団法人全国大学実務教育協会へ申請することで取得可能
社会福祉主事	ア 国家資格 *3 イ 資格取得(任用資格) ウ 社会福祉主事関連科目を履修し、卒業後に該当の業務についた場合に効力を得る任用資格

*1 教員免許状は国の資格制度が規定する国家資格ではなく、教育職員免許法に基づき都道府県教育委員会が授与する免許状であるが、本表では便宜的に国家資格に分類した。

*2 学校司書は国の資格制度が規定する国家資格ではなく、学校図書館法に基づき配置を努めることとされている職種であるが、本表では便宜的に国家資格に分類した。

*3 社会福祉主事は国の資格制度が規定する国家資格ではなく、社会福祉法に基づき各種行政機関等が任命する任用資格であるが、本表では便宜的に国家資格に分類した。

X 入学者選抜の概要

1. アドミッション・ポリシー

学芸学部および国際コミュニケーション学科のアドミッション・ポリシーは次のとおりである。

［学芸学部のアドミッション・ポリシー］

学芸学部は、自立した人間を目指して、総合的かつ普遍的な知識・教養・倫理・技能（リベラルアーツ）を修得し、情報化・国際化社会に対応できるコミュニケーション能力を身に付けたいという人を求めます。

1. 学芸学部の教育目的・目標を理解し、文系や理系にとらわれない学びに対する知的好奇心を有する者。
2. 学芸学部の教育課程を履修するための継続力と実行力を有する者。
3. 多様性を理解し、様々な人々とコミュニケーションし、新しいものを創造したいという意思を有する者。

［国際コミュニケーション学科のアドミッション・ポリシー］

1. 自己のコミュニケーション能力を開発し、よりインクルーシブな社会の実現に貢献したいと考える者。
2. キャンパス外での実践的な学習活動に意欲がある者。
3. 英語のみならず、韓国語などの学習を通して多様な視点からグローバルなつながりに関心を持つ者。
4. グローバルな視点から英語教育について探究し、指導者を志す者。

2. 入学者選抜の方法

国際コミュニケーション学科の入学者選抜は、アドミッション・ポリシーを踏まえ、次の選抜方法で、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、入学志願者の能力・意欲・適性等を多面的・総合的に評価・判定する。

(1)【一般選抜】募集人員 11 名

アドミッション・ポリシーを踏まえ、英語を含む高等学校までに学んだ主要科目（英語のほか、国語・数学、地理歴史）についての以下の基礎知識や応用力等を多面的、総合的に評価・判定する。なお、A・B・C日程のうち、B・C日程については1科目での選抜とする。

ア 大学での専門的な学びにスムーズに移行するための準備段階として、高校までに習得すべき基礎学力を問う。

イ 単なる知識の暗記ではなく、それらを活用して問題を解く力を評価する。

ウ 外国語（英語）については、限られた時間内で複数の問題に取り組み、長文読解や文法力・語彙力、会話文の内容を理解し読み解く力を評価する。

【A日程】

国語を必須科目として、選択科目（英語、数学、地理歴史）から1科目を選択した2科目の合計200 点満点で合否を判定する。地区会場として静岡会場での選抜を実施する。

【B日程】

国語、外国語（英語）、数学、地理歴史から1科目を選択し、100 点満点で合否を判定する。

【C日程】

国語、外国語（英語）、数学、地理歴史から1科目を選択し、100 点満点で合否を判定する。

⑵【学校推薦型選抜】募集人員 30 名

学校推薦型選抜は、指定校推薦、公募制推薦、高等部（内部）推薦があり、学校長からの推薦と調査書によって高等学校での学びや活動を重視するほか、面接では志望動機や入学後に本学科で学ぶことへの意欲、卒業後の進路についてどのように考えているか等を中心に確認し、アドミッション・ポリシーを踏まえた考えや学習活動への意欲、グローバルなつながりへの関心等について、求められる水準にあるかを評価する。受験生はオープンキャンパスや個人見学、高等学校でのガイダンスや進学説明会に参加し、当学科への理解を深める必要がある。

［学校推薦型選抜（指定校）］

学校長からの推薦と、高等学校での成績（調査書による全体の学習成績の状況）及び学習態度のほか、集団面接にて学科への適性を評価・判定する。

［学校推薦型選抜（公募制）］

学校長からの推薦と、高等学校での成績（調査書による全体の学習成績の状況）及び学習態度、高等学校での外国語（英語）科目の評価を重視するほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

［学校推薦型選抜（高等部）］

学校長からの推薦と、本学の教育理念を理解し共感して入学を強く希望する者を対象とし、選抜する。

【前期】

併設高等部での成績（調査書による全体の学習成績の状況）及び学習態度のほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

【後期】

併設高等部での成績（調査書による全体の学習成績の状況）及び学習態度のほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

［同窓生特別推薦選抜］

本学の在学生または卒業生の4親等以内にあたる者（子ども、姉妹、孫、姪、従姉妹など）、または本学の卒業生が現在高等学校の教員（専任・臨時）または講師（専任・非常勤）として教育した者で、本学の教育理念を理解し共感して入学を強く希望し、学校長の推薦を受けた者。なお、非常勤講師からの推薦の場合は、学校長の推薦のほかに受験生の担任教員もしくは進路指導部長の推薦もあわせて必要となる。

【A日程】

高等学校での成績（調査書による全体の学習成績の状況）及び学習態度のほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

【B日程】

高等学校での成績（調査書による全体の学習成績の状況）及び学習態度のほか、個人面接によって学科への適性を評価・判定する。

(3) 【総合型選抜（9月・10月・11月・12月・3月実施）】募集人員 19 名

一般選抜では測りにくい個性や可能性、そしてアドミッション・ポリシーに関わる秀でたものを受験生が自らアピールし、それらを多面的に評価することで、大学に多様な人材を集めることを目的とする。

［アピールシート方式］

アピールシートと面接で評価する。面接では事前に公表している課題についての発表を評価する。

［調査書方式］

調査書・作文・面接で評価する。評価における調査書の割合は 30%。作文は決められたテーマについて作成した 600 字から 800 字のものを提出する。面接では当学科の学問分野についての興味や関心について確認し評価する。

［探究シート方式］

出願時に高等学校の探究学習の授業の中で作成した成果物と、探究学習の中で自身が担当した役割や、その取り組みによって得たもの、そして当学科の志望動機を記した探究シートを評価する。面接では提出された成果物をもとにしたプレゼンテーションも評価する。

［部活動等シート方式］

高等学校における部活動・クラブ活動や委員会活動について、目的・目標に対してどのように努力をし、何を得、どのような成果を上げることができたか。また、活動で得た経験やスキルを大学進学後はどのように活かしていきたいのかを記した部活動シートと面接で評価する。

［基礎学力方式］

高等学校での学習に真摯に取り組み、基礎学力に一定の自信をもつ受験生が力を発揮できる選抜制度として実施する。基礎学力試験の成績と調査書で評価を行う。試験科目は国語、外国語（英語）、生物基礎、化学基礎から1科目を選択する。

(4)【社会人特別選抜(11月・2月実施)】募集人員若干名

すでに社会人経験を持つ者を対象とした選抜制度であり、これまでの職務経験や学びの成果を重視してアドミッション・ポリシーを踏まえ選抜を行う。通常の入学者選抜とは異なり、社会での実績や人生経験を生かして、大学での学びに取り組む意欲と当学科への適性を評価する。

以上の各入試制度は、下記の表のとおり、アドミッション・ポリシー(AP)と合致するように配慮している。

アドミッション・ポリシーの要素	関連する選抜方法	評価方法の具体例	整合性について
自己のコミュニケーション能力を開発し、よりインクルーシブな社会の実現に貢献したいと考える者	学校推薦型選抜（公募・指定校・内部）、総合型（部活動等シート・調査書方式）、社会人特別選抜	面接、活動実績シート、調査書	面接やシート等で、社会貢献意識や他者との関係性への配慮を確認
キャンパス外での実践的な学習活動に意欲がある者	総合型選抜（探究シート方式、部活動等シート方式）、学校推薦型選抜	探究成果物、探究シート、活動報告、プレゼンテーション、面接	高校での探究活動や部活動経験を通じた「実践力」を評価
英語のみならず、韓国語などの学習を通して多様な視点からグローバルなつながりに関心を持つ者	一般選抜（英語選択可）、学校推薦型選抜（英語成績を重視）、総合型選抜（作文・面接）	外国語（英語）試験、英語科目評価、作文での国際理解、面接での言語学習動機	英語試験・英語評価等を通じて語学力と多言語・多文化への関心を評価
グローバルな視点から英語教育について探究し、指導者を志す者	総合型選抜（調査書方式・探究シート方式）、学校推薦型（公募）	作文、調査書、面接での将来の展望に関する記述や発言	指導者志望や教育関心を表明する機会を複数設けており、志望動機と学びの整合を確認

3. 入学者選抜の実施体制

総務担当副学長を委員長とした全学入学委員会を設置し、入学者選抜の全体的な方針の策定、入学者選抜の全般的な実務の調査及び実施にあたっている。

合格者の決定は、教授会の議を経て学長が行う。

一般選抜の入試問題作成および採点業務については、出題委員会において各科目の出題責任者、出題者、採点者等を選定する。出題及び採点にあたっては、予め定められた手順で業務を行うことにより、ミスの防止及び公平性の確保に努めている。

4. 科目等履修生、聴講生の受入について

科目等履修生・聴講生については、受入人数は特に定めず、正規課程の学生の教育に支障が生じない場合に限り受講を認める。春学期・秋学期の年 2 回募集を行い、教授会又は共通教育機構運営委員会にて選考の上、学長が受入を許可する。

XI 教育研究実施組織の編制の考え方及び特色

1. 教育研究実施組織の編成の考え方及び特色

国際コミュニケーション学科の教育研究組織は、学科の設置趣旨で掲げられている多文化共生社会における実践的なコミュニケーション能力を育成する目的を基盤に編成されている。この組織

は、学科特有の教育目標を実現するため、異文化コミュニケーション、言語教育、芸術、デジタル技術活用、および地域研究に特化した専門的な教員陣を中心に構成されている。その組織構成は、教授7名、准教授1名、講師 2 名であり、基幹教員の年齢構成は、40 代 3 名、50 代 3 名、60 代 4 名である。完成年度末までに 67 歳の定年に達する基幹教員は 1 名いるが【資料 6】、引き続き特任教員として本学科の教育研究に従事する予定である【資料 7】。完成年度以降においては、後任となる教員を補充し、教育研究の継続性を確保する。編成の特色として、次の点が挙げられる。

(1) 多分野を統合した学際的な構成

異文化コミュニケーション、言語学、社会学、教育学、文学、など多様な分野の専門性を持つ教員が連携し、教育・研究活動を進める。

(2) 実践重視の教育体制

地域社会や国際社会との連携を重視し、プロジェクト型学習やフィールドワークを中心に据えた教育を提供する。

(3) デジタル技術の活用

教育の効率化と多様な学びを実現するため、LMS（学習管理システム）や生成 Ai などデジタルツールを積極的に活用する。

2. 本学科において中心となる研究分野と研究体制

本学科で中心となる研究分野は以下の通りである。

(1) 異文化コミュニケーション研究

異文化間の相互理解と協働を促進するための理論的・実践的研究を行う。これには、観光や国際交流の現場でのコミュニケーション分析を含む。

(2) 言語教育研究

英語を中心とした第二言語教育の方法論や、デジタルツールを活用した新しい教育手法の開発を行う。

(3) 地域研究

伝統的英語圏、韓国、台湾、ASEAN 諸国を中心に、地域の文化・社会・歴史に関する学際的研究を推進する。

(4) 研究体制

これらの研究分野を推進するため、教員陣は各自の専門領域を活かして共同研究を行うとともに、学科横断的なプロジェクトにも参画する。また、学内外の研究者や専門家との連携を図り、最新の知見を教育に反映させる。

3. 教員及び事務職員等の協働や組織的な連携体制

教育と研究活動を効果的に実施するため、以下のような協働体制を構築する。

(1) 教員間の連携

定期的なカリキュラム会議や研究会を通じて、教育内容の共有・改善を図る。また、教員間で共同研究を実施し、学問的相乗効果を高めていく。

(2) 事務職員との協働

学生支援や教育運営において、事務職員が教員と密接に連携し、円滑な運営を支援する。特に留学支援やインターンシップに関する実務では重要な役割を果たすことになる。

(3) 組織的な支援体制

教員と職員が協働して、学生の学修やキャリア形成を支援するための窓口を設置し、きめ細かな対応を行う。

Ⅻ 研究の実施についての考え方、体制、取組

1. 研究の実施についての考え方、実施体制、環境整備等

本学では、教員の研究活動を推進するための事務組織として、大学事務部学術研究支援課があり、「相模女子大学紀要」の発行、科学研究費を含む外部研究費の執行管理や、科学研究費獲得支援、研究倫理の遵守などにあたっている。

研究活動を推進するための施策等を検討、決定する機関として、学長、副学長、各学部長、各研究科長、各学科長、学術研究支援課長から構成される研究推進委員会があり、学長が委員長を担っている。

教員の研究活動を支援するため、教育研究費及び研究出張助成費が一律に配分されている他、学術的又は社会的要請の極めて強い領域における焦点のしぼられた具体的な研究課題の研究を行うものを対象とした特定研究助成費や、海外出張助成費、学術図書刊行助成費などの研究助成制度がある。

なお、本学の研究公正について「相模女子大学・相模女子大学短期大学部における研究活動に関する行動規範」を定め、研究者としての責務等を明確にしているほか、「研究倫理委員会」「ヒトを対象とする研究に関する倫理審査委員会」「利益相反マネジメント委員会」「遺伝子組換え実験安全委員会」「動物実験委員会」を設置し、研究倫理遵守のための体制を整備している。

また、国際コミュニケーション学科では、多文化共生社会や国際社会における実践的課題に対応する研究活動を重要視している。本学科の研究の基本的な考え方は、次の 3 点に集約される。

(1) 実社会との接続

学科の教育理念に基づき、グローバル化する社会の課題を解決するための応用研究を重視する。特に異文化コミュニケーション、言語教育、デジタル技術を活用した新しいコミュニケーション手法などの研究分野を推進する。

(2)学際的アプローチ

本学科は、異文化理解やグローバル教育を軸としながら、言語学、教育学、芸術、文学、社会学などの多様な分野を統合する学際的アプローチを採用する。これにより、従来の学問分野にとらわれない新しい研究視点を提供する。

(3)研究の多様性と支援体制

学内外の共同研究を促進し、教員間の協働や外部研究機関との連携を強化する。また、学生の研究参加も奨励し、プロジェクト型学習を通じて研究体験の機会を提供する。

研究の実施体制としては、専任教員を中心とし、研究領域ごとに専門性を持った教員がそれぞれの分野で主導する。また、研究活動に必要な環境整備として、ICT 機器やオンライン研究プラットフォーム、データ分析ツールなどの他、学内図書館や電子リソースの充実も進める。

2. 研究活動をサポートする技術職員や URA の配置状況、役割、責任等

現時点では、技術職員や URA（University Research Administrator）の配置予定はない。しかし、これまで前身となる学科でも複数の教員が科学研究費などの助成を受け、必要に応じて研究補助のアルバイトなどを雇用することで研究を進めてきた。国際コミュニケーション学科でも、同様の方法を実施することに加えて、大学全体の研究支援体制を活用し、研究活動のサポートを受けることが可能と考える。

以上、技術職員や URA の専任配置がない中でも、教員間の協働や大学全体の支援を活用しながら、研究活動を推進する。多様な研究を支える環境を整備することで、学際的なアプローチを深化させ、教育研究を実社会に還元することを目指す。

本学には URA は配置しておらず、他機関との共同研究や受託研究などは学術研究支援課がサポートを行っている。

XIII 施設，設備等の整備計画

1. 校地、運動場の整備計画

本学の校地、運動場は、神奈川県北部に位置する相模原市の南の玄関口、小田急線相模大野駅から徒歩 10 分の神奈川県相模原市南区文京に位置し、新宿から最速で 32 分、横浜から 35 分と立地環境が良好なキャンパスである。

本学の校地面積等の面積は 124,738 ㎡を有しており、マーガレット本館の 1 階テラスや 2 階屋外テラスなど学生の憩いのスペースを設け、休息スペースやその他の利用のための適当な空地を含め、大学設置基準を十分に確保している。

また、キャンパスの桜並木や銀杏並木など、緑豊かな四季折々の表情を見せる景観は学生の安らぎと快適な空間を創出するキャンパスとなっている。

運動場は、15,946 ㎡の面積を確保しており、設備としては、体育館、テニスコート 4 面（ナイター設備有）を備え、授業及び課外活動などに有効に活用されている。

本学は、相模原市広域避難場所に指定されており、自然災害時においては、近隣の住民が身の安全を確保できる場所となっている。

2. 校舎等施設の整備計画

校舎面積は、49,489.46 ㎡となっており、敷地内には、15 棟の建物を有している。その施設には、講義室 46 室、演習室 43 室、実験実習室 73 室、情報処理学習施設 10 室など、各学科の教育に資する施設が整備されており、校舎等施設の整備計画において教育研究上支障のないものとなっている。【資料 8】

マーガレットホールは、学生食堂として「カフェテリア 101」（310 席）、軽食・喫茶スペースとして「ティーラウンジ 2002」（140 席）を設置している。マーガレットホールの外壁は全面ガラス張りで開放感のあるデザインとなっている。一部は、ファミリーレストラン風のテーブルやベンチシートになっており、電源タップも備えていることから、食堂の営業時間内でも学生のグループワークや自学学習スペース、学生同士のコミュニケーションの場として利用されている。

3 号館には、文具類・日用品・大学指定教科書・一般図書などを販売しているブックセンター（紀伊國屋書店）や飲食類を販売している売店を設置し、売店機能を充実させている。

また、飲料等の自動販売機（18 台）を配置し、学生生活の利便性を支援している。主たる講義棟にはラウンジを設置し、休憩はもとより学生同士のコミュニティーの場として学生が自由に使用できるように環境を整備している。授業時間外の自主学習やオンライン授業への対応を考慮して、マーガレット本館 1 階の個人ブース（6 席）や 2 階ラウンジや 11 号館 1 階の Study Roomに持参したノートパソコン・タブレット等も利用できるように電源を完備し、学びのスペースが充実している。各建物の外部テラスやピロティ―にテーブル、椅子を設置し四季の空気を感じながらくつろげるスペースを提供している。

また、2025 年に創立 125 周年を迎え、地域社会に開かれたキャンパスを目指し、キャンパス整備事業として、新棟を建設（2026 年度 8 月完成予定）する。その施設には、学生等が利用できるラーニングコモンズ、セミナールーム、プロジェクトルーム等の設置を予定している。

3. 図書館等の資料及び図書館の整備計画

本学は学芸学部、人間社会学部、栄養科学部の 3 学部及び大学院栄養科学研究科、専門職大学院社会起業研究科の 2 研究科を設置しているため、教育研究に必要な図書・文献については本学附属図書館に既に十分所蔵しているが、必要に応じて、「相模女子大学附属図書館収書方針」に基づき、図書・文献の充実化を図っている。【資料 9】

附属図書館には約 40 万冊の蔵書があり、システムで管理している。また、大学全体で 7,137 タイトルの学術雑誌(そのうち電子ジャーナル 2,285 タイトル）の閲覧が可能である。データベースにおいては、国内の総合データベース「日経 BP」「日経テレコン 21」等をそろえ、新聞データベース「朝日新聞クロスサーチ」「ヨミダス」「毎索」等とともに各種学習・研究のサポートをしている。さらに、雑誌記事検索・全文データベース・書籍情報として、「PressReader」や「EBSCO eBooks」、「ジャパンナレッジ Lib」等の利用が可能である。電子ジャーナルや電子ブック、データベースといった電子コンテンツは、館内だけでなく自宅等からもオンラインで情報を検索・入手することが可能となっている。図書館で所蔵していない資料については、該当資料を所蔵している他機関への文献複写依頼や貸借依頼、紹介状や県内大学図書館共通閲覧証発行等の支援をしている。学生は 10 冊まで貸出可能であり、和書は卒業年次生が 4 週間、1～3 年生が 2 週間貸出可能となっており、全学年ともに洋書は 4 週間まで貸出可能である。これら図書・電子資料の利用に際して、カウンターでのレファレンスサービス以外に、オリエンテーションやガイダンス等を適宜実施し、基本的な利用から発展的な利用まで対応できるサポート体制を整えている。図書館の各種催事やサービス関係の情報は、相模女子大学附属図書館 Web サイトと本学ホームページにて適宜広報している他、学生用ポータルサイト「Smile Sagami」より学生宛に直接周知し、利用を促している。開館時間は授業期間中の平日（月～金曜日）は 9 時から 20 時まで、土曜日は 9 時から 17 時まで、開館日数は学年暦に沿った開閉館を原則として、日曜日と授業のない祝日、創立記念日である 10 月 18 日は閉館している。

館内には、蔵書検索や学内外の電子データ利用のため 111 台の端末機を設置しているほか、学生自身のパソコンからも接続できるよう Wi-Fi 環境を整備している。また、館内にはグループ学習室があり、自由に使えるホワイトボードや電子黒板、ノートパソコンやプリンターを備え、希望者にはプロジェクターを貸し出し、グループ学習ができる環境を整えている。また、個室の読書室や畳の閲覧席、飲食可能なライブラリー・カフェや資格取得に必要な資料を置いた資格・検定学習室、視聴覚資料を閲覧できる視聴室や視聴覚ホールを備え、利用者の目的や用途によって使い分けができるようにしている。

XIV 管理運営

1. 教学面における管理運営体制について

本学の教授会は、学則第 52 条の2項に基づいて各学部に設置され、専任の教授、准教授、講師並びに特任教授（基幹教員に限る）、特任准教授（基幹教員に限る）をもって組織する。

運営等については「教授会規則」で定められており、学部長が議長となって、原則として月1回定例教授会を開催するほか、必要に応じて臨時教授会を開催する。定足数は専任の教授、准教授、講師並びに特任教授（基幹教員に限る）、特任准教授（基幹教員に限る）の過半数とし、議事は出席者の過半数によって決せられ、審議事項については学則と教授会規則に以下の通り定められている。

教授会は次の事項を審議し、学長がそれらの事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学（再入学及び編入学を含む）、卒業及び課程の修了
(2) 学位の授与
(3) 教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

教授会は次の事項を審議し、学長に対して意見を述べることができる。

(1) 学部長の選定に関する事項
(2) 学科長の選定に関する事項
(3) 教授、准教授、講師、助教及び助手の任用、昇任の際の教育研究業績に関する事項
(4) 名誉教授の推薦に関する事項
(5) 学則の改正に関する事項
(6) 学部学科の教育課程に関する事項
(7) 授業科目の種類及び編成に関する事項
(8) 各種委員の選出に関する事項
(9) 学術研究に関する事項
(10) 学生の留学、転学部転学科、休学、復学、退学、転学に関する事項
(11) 学生の試験及び単位修得に関する事項
(12) 委託生、外国学生、科目等履修生、単位互換履修生、研究生、聴講生に関する事項
(13) 学生の賞罰に関する事項
(14) 学生団体、学生活動、学生生活に関する事項
(15) その他教育研究に関する事項および学長からの諮問事項

2. 教授会以外に関連する委員会の役割について

（1） 全学教務委員会・共通教育機構運営委員会

学長は、大学及び短期大学部を包括する全学的な管理運営に関して必要と認めた全学委員会を、大学評議会の議を経て、設置することができる。

その中の 1 つである全学教務委員会は、教育担当副学長を委員長とし、学部代表の委員、共通教育機構代表委員及び各学科代表のオブザーバーで構成されており、教育課程の編成、シラバス作成方法、オンライン授業の選定等、本学の授業運営方針及び教務事項に関する審議をおこなっている。

また、共通教育機構運営委員会は、教育担当副学長を委員長とし、共通教育の科目を分野ごとに分けた部会の代表（部会長）を委員として構成されており、共通教育内の採用人事、教育課程の編成、シラバス作成方法等、全学的視点に基づき共通教育の在り方や運営に関する審議をおこなっている。

（2） 大学評議会

相模女子大学学則第 52 条の規定に基づき、大学評議会を設置している。

大学評議会は、開催の 3 日以上前に会議の目的たる事項及び日時、場所を通知した上で学長が招集し、その議長となる。学長に事故があるときは、予め学長が指名した副学長がその職務を代行する。原則として毎月 1 回開催することとしているが、必要に応じて臨時に開催することもできる。学長、副学長、学部長、研究科長、学科長（各学部から 1 名）、学園事務部長、大学事務部長、夢をかなえるセンター部長を委員として組織し、3 分の 2 以上の出席をもって成立としている。なお、議長が必要と認めたときは、委員以外の教職員に出席を求め、意見を聞くことができる。

大学評議会では、(1)学事に関する重要事項、(2)学生の身上に関する事項、(3)学則その他重要な規則の制定又は改廃に関する事項、(4)大学予算の原案に関する事項、(5)その他、学長の諮問事項を審議する。議決は、出席者の過半数で決し、可否同数の場合は議長が決することとしている。議案および議決の結果については、学部長または各学部から選出された学科長が教授会で報告している。

（3） 科会

科会は当該学科に所属する専任教員（教授、准教授、講師、助教）、非常勤教員（基幹教員に限る）、その他学科長が指名する当該学科所属の特任教員をもって組織し、当該学科に所属する専任教員である教授、准教授、講師の中から学科長を選挙する。

学科長は科会の承認を得て次の事項を行う。

ア 当該学科の人事に関して教授会に提案。ただし、人事の取扱いに関しては、各教授会規則第3条第3号及び第9条の定めを準用し、出席者の過半数をもって決する。

イ 次学年度の授業時間割の作成

ウ カリキュラムの改訂原案の作成

エ 当該学科の共通施設の運営管理

オ その他

XV 自己点検・評価

1. 実施体制

「相模女子大学内部質保証に関する規程」に基づき、全学における内部質保証の推進に責任を負う組織として「質保証委員会」、自己点検・評価の実施に関する事項を審議・運営する組織として「自己点検評価委員会」を設置している。

質保証委員会は、内部質保証について責任と権限を有する組織であり、同委員会が自己点検・評価に係る基本方針の策定、点検及び調整、改善活動の監理、結果の公表を審議する役割を担っている。学長を委員長とし、副学長4名、事務局長（総務担当理事）、学園事務部長、大学事務部長、夢をかなえるセンター部長、学事企画課長、その他学長が委嘱する者若干名を構成員としている。

自己点検評価委員会は、質保証委員会で策定した方針や計画に基づき、自己点検・評価に係る項目及び実施体制を審議・決定し、各機関での自己点検・評価活動を推進するとともに、自己点検・評価の結果をとりまとめている。副学長（総務担当）を委員長とし、研究科長、学部長、事務局長、学園事務部長、大学事務部長、夢をかなえるセンター部長、学事企画課長、その他学長が委嘱する者若干名を構成員としている。

また、自己点検・評価の客観性・妥当性を確保するため、産業界等による外部評価や学生代表からの意見聴取を実施している。

2. 実施方法

本学の自己点検・評価は、「相模女子大学内部質保証に関する規程」に基づき、質保証委員会が定めた「相模女子大学内部質保証の基本方針」に沿って毎年度実施しており、自己点検評価委員会から学部学科・研究科及び事務部門（以下、各機関）へ依頼し、各機関において自己点検・評価を実施している。各機関が実施した自己点検・評価の結果は、点検評価報告書として自己点検評価委員会がとりまとめ、質保証委員会に報告し改善を図る仕組みとなっている。

質保証委員会は、提出された点検評価報告書が内部質保証の基本方針に基づいた内容であるかを検証し、その結果を各機関にフィードバックするとともに、改善が必要であると判断した場合には、期限を定めた上で改善を指示し、半期毎に改善報告書の提出を求めることにより教育研究活動の質の向上に努めている。また、事務部門の自己点検・評価に基づく課題については、次年度の事業計画に盛り込んでいる。そこから所属部署の組織目標、個人目標へと紐づけられ課題の改善を図っている。

3. 点検項目

学部・学科・研究科及び事務部門の点検項目は、公益財団法人大学基準協会の評価基準に基づいて次のとおり定めている。

学部学科・研究科の点検項目は、主に教育活動に関する項目を評価対象として、「1.教育課程」、「2.学習成果」、「3.学生の受け入れ」、「4. 教員・教員組織」、「5. 学生支援」、「6. 社会連携・社会貢献(学園連携)」とし、3つのポリシーを踏まえて自己点検・評価を実施している。

事務部門の点検項目は、基準1「理念・目的」、基準 2「内部質保証」、基準 3「教育研究組織」基準 4「教育課程・学習成果」、基準 5「学生の受入れ」、基準 6「教員・教員組織」、基準 7「学生支援」、基準 8「教育研究等環境」、基準 9「社会連携・社会貢献」、基準 10「大学運営・財務(1)大学運営、(2)財務」としている。

また、教職課程の点検項目は、基準領域1「教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み」、基準領域 2「学生の確保・育成・キャリア支援」、基準領域 3「適切な教職課程カリキュラム」としている。

4. 認証評価

2021 年度に公益財団法人大学基準協会による大学の認証評価を受審し、審査の結果、同協会の定める大学基準に「適合」しているとの認定を受けた。認定の期間は 2029 年 3 月 31 日までである。

5. 公表・活用

本学の自己点検・評価によってとりまとめた相模女子大学点検評価報告書や教職課程自己点検評価報告書、大学基準協会による認証評価の結果や同協会に提出した点検・評価報告書は、本学のウェブサイトにて公表している(https://www.sagami-wu.ac.jp/public/external-valuation/)。

また、大学の認証評価の結果、大学基準協会より付された提言や意見については質保証委員会にて検証がなされ、改善報告書又は現況報告書の提出を求めて改善に努めている。

XVI 情報の公表

本学では、学校教育法第 113 条, 学校教育法施行規則第 172 条の 2 に基づき、教育研究活動等に関する情報を積極的に提供するため、各種刊行物及び大学 web を利用した情報提供を行っている。

1. 大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)に関すること

・相模女子大学学則

(https://www.sagami-wu.ac.jp/university/outline/#360c2ba0)

トップ情報の公開＞教育研究基本情報＞教育研究上の目的＞学則

・3つのポリシー

（https://www.sagami-wu.ac.jp/university/outline/#e76989e6）
トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞教育研究上の目的＞各種ポリシー

2. 教育研究上の基本組織に関すること

・相模女子大学組織図
（https://www.sagami-wu.ac.jp/foundation/organization/）
トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞組織図＞相模女子大学組織図

3. 教育研究実施組織，教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

・教員組織
（https://www.sagami-wu.ac.jp/public/policy/）
トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞専任教員数＞求める教員像と教員組織の編制方針

・教員の数
（https://www.sagami-wu.ac.jp/public/fulltime/）
トップ＞情報の公開＞教育基本情報＞専任教員数＞専任教職員数

・各教員が有する学位及び業績に関すること
（https://www.sagami-wu.ac.jp/faculty-introduction/）
トップ＞教員紹介

4. 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数，収容定員及び在学する学生の数，卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職数その他進学及び就職等の状況に関すること

・アドミッション・ポリシー
（https://www.sagami-wu.ac.jp/exam/admission-policy/）
トップ＞情報の公開＞修学情報＞入学に関すること＞アドミッションポリシー

・入学者数・収容定員・在籍者数
（https://www.sagami-wu.ac.jp/public/capacity/）
トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞収容定員数・在籍者数＞収容定員・在籍者数

・卒業者数・修了者数
（https://www.sagami-wu.ac.jp/public/completion/）
トップ＞情報の公開＞修学情報＞卒業に関すること＞卒業者・修了者数（学位授与者数）

・進学状況・就職状況
（https://www.sagami-wu.ac.jp/work/employment/）
トップ＞情報の公開＞修学情報＞就職者数・就職状況＞学科別就職先

5. 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

・シラバス

（https://www.sagami-wu.ac.jp/student/class/syllabus/）

トップ＞情報の公開＞修学情報＞授業に関すること＞シラバス

・授業について

（https://www.sagami-wu.ac.jp/student/class/about/）

トップ＞情報の公開＞修学情報＞授業に関すること＞授業について

6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

・卒業に関すること

（https://www.sagami-wu.ac.jp/university/outline/#360c2ba0）

トップ＞情報の公開＞修学情報＞卒業に関すること＞相模女子大学学則

7. 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

・大学施設

（https://www.sagami-wu.ac.jp/campuslife/institution/facility/）

トップ＞情報の公開＞キャンパス情報＞施設・環境＞大学施設一覧

・アクセスマップ

（https://www.sagami-wu.ac.jp/university/access/）

トップ＞情報の公開＞キャンパス情報＞施設・環境＞交通アクセス

・学内施設（キャンパスマップ）

（https://www.sagami-wu.ac.jp/campuslife/institution/）

トップ＞情報の公開＞キャンパス情報＞施設・環境＞校地・校舎等の施設（キャンパスマップ）

8. 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

・学費について

（https://www.sagami-wu.ac.jp/student/procedure/#047edfcd）

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞学費に関すること＞学費について

9. 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

・奨学金

（https://www.sagami-wu.ac.jp/campuslife/scholarship/）

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞奨学金に関すること＞奨学金について

・進路選択

（https://www.sagami-wu.ac.jp/work/career/）

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞就職支援＞就職支援について

・学生相談室

（https://www.sagami-wu.ac.jp/student/support/consultation/）

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞心身の健康に関する支援＞学生相談室

・保健センター

（https://www.sagami-wu.ac.jp/student/support/health/）

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞心身の健康に関する支援＞保健センター

・障がい学生支援

（https://www.sagami-wu.ac.jp/student/support/disability-support/）

トップ＞在学生の皆様へ＞学生生活支援＞障がい学生支援に関する基本方針

・ハラスメント

（https://www.sagami-wu.ac.jp/student/support/harassment/）

トップ＞情報の公開＞学生サポート情報＞心身の健康に関する支援＞ハラスメントについて

10. その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報，学則等各種規程，設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書，自己点検・評価報告書，認証評価の結果　等）

・自己点検・外部認証評価

（https://www.sagami-wu.ac.jp/public/external-valuation/）

トップ＞情報の公開＞自己点検・外部認証評価

11. 学位論文に係る評価に当たっての基準について

・相模女子大学学則

（https://www.sagami-wu.ac.jp/university/outline/#360c2ba0）

トップ＞情報の公開＞教育研究基本情報＞教育研究上の目的＞学則

12. 専門性が求められる職業についている者，当該職業に関連する事業を行う者その他の関係者との協力の状況について

・社会起業研究科教員紹介

（https://www.gsse-sagami.jp/people/）

XVII 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

1. 授業の内容及び方法の改善を図るための取組

教員の教育研究活動の質的向上・能力開発、授業改善に資することを目的として、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会を設置し、毎年度策定する「FD 事業実施計画」に基づき、教育方法の研究、工夫を積極的に推進するための様々な取組を行っている。

具体的な取組内容は以下の通りである。2025 年度以降も引き続き全学的に同様の活動を実施していく予定である。

(1) FD 研修会

年 2 回、専任教職員を対象に実施している。本学教員による授業改善の事例紹介、外部講師による講演等、本学の諸課題に基づいたテーマや教員の関心が高いテーマを設定し、教育能力の向上を図っている。オンライン形式で実施した場合は録画を行い、非常勤講師の希望者にも動画を公開することで研修内容を共有している。

(2) 授業参観

授業の質的向上、教員間の交流の活性化を目的に、原則として非常勤講師も含めた全教員の全授業を通年で参観可能としている。参観後は所定の報告書を授業担当者及びFD委員会事務局に提出することを義務付けている。

(3) 学修振り返りアンケート

大学院栄養科学研究科を除く全学科・研究科の全学年を対象に、年 2 回、manaba を利用した WEB アンケート形式にて実施している。実施科目は原則として全科目としている(除外条件あり)。アンケートの集計結果は授業科目毎に担当教員に配付し、教員はそれに基づき授業改善を図ると共に、manaba に所見を入力し、履修学生に公開している。

2. 大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るための取組

＜教員に対する SD＞

毎年度策定している「SD 研修実施計画」に基づき、大学を取り巻く環境の変化や高度化・複雑化する諸課題への対応に向けた能力の開発を図るための取組を行っている。2024 年度は以下の研修を実施した。引き続き、2025 年度以降においても、大学を取り巻く環境の変化や諸課題に対応するため、教育業界の動向を探りながら、SD 研修を行う。

(1) 全体研修

・教員集会【対象:専任教員、事務管理職】(頻度:年 2 回程度)
・教員研修 SD 研修会【対象:専任教員、事務管理職】(頻度:年 1 回程度)

(2) 階層別研修

・大学改革懇談会【対象:大学役職者(学科長以上)、事務管理職】(頻度:年 2 回程度)
・新任教員研修会【対象:新任教員】(頻度:年 1 回)

(3) テーマ別研修

・ハラスメント防止・対策研修会【対象：専任教員、専任事務職員】（頻度：年1回）
・全学キャリア委員会主催勉強会【対象：専任教員、専任事務職員】（頻度：年1回）

（4）学外研修

・主に本学が加盟する団体の研修会【対象：専任教員】（頻度：適宜）

＜事務職員に対する SD＞

毎年度策定する「事務職員研修計画」に基づき、全体、階層別、初任者、業務別など、職制や役割等級、適時必要性に応じたテーマを取り扱い実施している。2024 年度は、全体研修テーマを「業務改善（業務効率化）」とし、事前学習・課題をもとに、一般職員と管理職員のそれぞれで実践可能な業務改善案を検討した。階層別では、係長は「中期的な経営視点から逆算した課題解決」、主任は「リーダーシップとフォロワーシップ」をテーマに、初任者は人事評価や学園史、各課研修、試用期間終了確認などを実施した。業務別としては、「障害者雇用」をテーマとして管理職向けの研修や全職員（非正規を含む）を対象とした「Excel 講座（e-learning）」を実施した。また、大学職員としての資質向上や業務別専門知識等の修得を目的とした個別受講型の「学外研修（業務・SD）」や自部署等の課題解決を目的とした「課題解決研修」、職員の学習ニーズに応じて費用を助成する「Off-JT」のように、事務職員個々の多様なニーズに応じた研修制度を展開している。

2025 年度以降もこれまでと同様に、中期計画等に基づく「全体研修」、事務職員人事制度役割等級基準に基づく「階層別研修」並びに「初任者研修」、事務職員や部署のニーズ等に応じた「業務別研修」等を企画し、また、事務職員個々の多様なニーズにも応じながら実施する予定である。

3. 授業補助者に対する取組について

前述のとおり、本学では、授業により、SA（スチューデント・アシスタント）等の授業補助者を設置することがある。SA に対しては、それぞれの授業担当教員が学期ごとの事前研修において、授業補助者の役割、学生への対応方法、ICT 機器等の教育ツールの活用方法等について教授すると共に、毎回の授業後に点検等を実施している。今後、SA に対する全学的な支援方針を作成し、取り組む予定である。

XVIII 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

1. 教育課程内の取組について

国際コミュニケーション学科では、教育課程内で社会的・職業的自立を促すために以下の取組を実施する。

（1）キャリア関連科目の設置

全学共通科目として設置されている「キャリア・プランニング」や「ビジネス実務総論」の履修を推奨する。これらの科目では、履歴書の作成方法、面接対策、ビジネスマナーなど、社会で求められるスキルを実践的に学ぶ。

(2) プロジェクト型学習の導入

学生が実際の課題解決に取り組む機会を提供するため、全学共通科目の「問題発見・解決型プロジェクト」履修を促したり、学科設置の「コミュニケーション・デザインⅠ、Ⅱ」「越境・協働学習教育Ⅰ、Ⅱ」などの履修を通して、チームワークやリーダーシップ、実社会で求められる問題解決能力を養う。

(3) 専門性と実務経験の統合

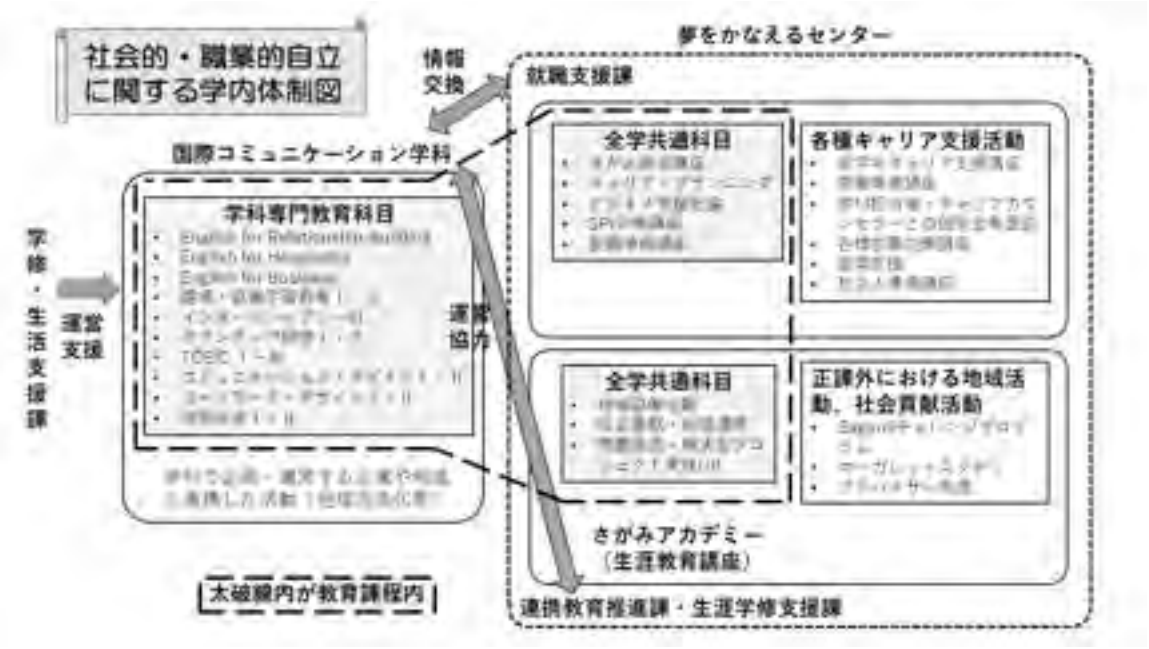
学科専門科目の「インターンシップ」や「ボランティア研修」などの実践科目を通じて、学科で学んだ専門知識を社会で応用する経験を提供する。これらの科目はキャリア形成の重要な一環として位置づけられる。

2. 教育課程外の取組について

夢をかなえるセンターが掲げる学生のキャリア観を醸成する「キャリア形成支援ポリシー」のもと、連携教育推進課では、正課で学んだ専門知識を活かして地域活動や社会貢献活動に取り組む正課外教育プログム「Sagami チャレンジプログラム」を全学生向けに展開している【資料 10】。活動に際しては、学生自身の目指すキャリアに敵った活動を選択し計画的に行うことができるよう、正課と同様に正課外にも「Sagami チャレンジプログラムシラバス」を策定し、入学と同時に学生に配布し指導している【資料 11】。当プログラム実施に向けた支援体制としては、教職員に加え、卒業生・自治体・企業・外部講師など、学内外の多様な立場の方々が活動の助言をする「Sagami チャレンジプログラムアドバイザー制度」を設けている。卒業生アドバイザーに関しては、在学時の活動経験が現在のキャリアにどう活かされているかなど、学生にとって社会で働く最も身近な先輩から助言を受ける貴重な機会になっている。これらのように、多様なバックグラウンドを持つ社会人が学生の教育に関わることにより、学生のキャリアに対する意識が高められている。なお、これら活動の事前・事後の学びを「マーガレットスタディ」と称し、学びのPDCAサイクルを展開している。事後の学びの一例として、年度末に活動の集大成として「Sagami チャレンジプログラム活動報告会」を実施している【資料 12】。学生が、活動の学修成果をプレゼンテーションし、上述のアドバイザー等から講評・評価を受ける仕組みとしており、「マーガレットスタディ」の目標設定に対する振り返りの機会としている。

就職支援課では、オープンカンパニーや職業体験の機会を提供し、学生が多様な働き方や職業現場を知ることで視野を広げ、自分のキャリアについて主体的に考えるきっかけを作っている。また、社会的・職業的自立を支援する講座の実施に加え、学生全員との面談を通じて自己理解を深

め、一人ひとりの適性に応じた丁寧な支援を行っている。さらに、履歴書作成や面接対策など、就職活動や大学院進学を具体的にサポートするプログラムも実施している。【資料 10】



3. 適切な体制の整備について

本学が第 4 のポリシーとして全学で掲げる「キャリア形成支援ポリシー」のもと、連携・キャリア担当副学長が責任者となって学内の連携を強化し、学生の社会的および職業的自立を支援する体制を整備する。「社会連携推進委員会」および「全学キャリア委員会」を通じて全学的に連携し、学生のキャリア形成業務を所管する「夢をかなえるセンター（連携教育推進課、就職支援課、生涯学修支援課）」によって効果的な学生支援を推進する。

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

資料 1「履修モデル①（韓国＋コミュニケーション）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
資料 2「履修モデル②（英語＋実践）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
資料 3「履修モデル③（国際教育＋教職）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
資料 4 「履修モデル_編入」・・・ 5
資料 5「実習受け入れ協定書一覧」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
資料 6 「就業規則」・・・ 23
資料 7 「相模女子大学特任教員に関する規程」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
資料 8 「国際コミュニケーション学科時間割」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
資料 9 「主な学術雑誌」・・・ 43
資料 10 「2024 年度夢をかなえるセンター冊子」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
資料 11 「2024 年度「Sagami チャレンジプログラム」シラバス」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
資料 12 「2024 年度「Sagami チャレンジプログラム活動報告会」案内チラシ」・・・・・・・・ 119

【資料1】

履修モデル①（韓国＋コミュニケーション）

科目区分			履修年次：1年次		履修年次：2年次		履修年次：3年次		履修年次：4年次		科目区分別履修単位合計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
専門教育科目	導入	基礎	国際教養入門	2							80
			異文化コミュニケーション	2							
	文化・社会	基礎			グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2					
					グローバル文化Ⅱ（フィリピン・タイ）	2					
					グローバル文化Ⅲ（韓国・台湾）	2					
		専門	アジアパシフィック・スタディーズ	2							
					国際日本学	2					
					国際韓国学	2					
		統合					映像文化コミュニケーション	2			
							文化演習Ⅰ	2			
							文化演習Ⅱ	2			
	アート	基礎			芸術作品鑑賞（英語文学）	2					
					ポピュラーアート（韓国系）	2					
		専門					英語文学	2			
					映像芸術	2					
		統合			複合芸術	2					
							アート＆コミュニケーション演習Ⅰ	2			
							アート＆コミュニケーション演習Ⅱ	2			
	教育	基礎									
		専門									
		統合									
	言語	基礎	英語文章読解	2							
			英語文章表現	2							
		専門									
		統合					コースワーク演習Ⅰ	2			
							コースワーク演習Ⅱ	2			
	表現・スキル	基礎	Speaking Skills Ⅰ	1							
			Speaking Skills Ⅱ	1							
					Speaking SkillsⅢ	1					
					Speaking SkillsⅣ	1					
		専門									
							English for Presentation	2			
							English for Relationship-building	2			
							English for Translation	2			
							English for Business	2			
		統合			Integrated Communication Ⅰ	2					
					Integrated Communication Ⅱ	2					
	探究・研究	深める							地域研究：韓国Ⅰ	2	
									地域研究：韓国Ⅱ	2	
		耕す									
									コミュニケーション・デザインⅠ	2	
									コミュニケーション・デザインⅡ	2	
		極める									
	実践	オンキャンパス	TOEIC Ⅰ	1							
					越境・協働学習教育Ⅰ	1					
					越境・協働学習教育Ⅱ	1					
		グローバル									
			短期韓国語研修Ⅰ	1							
					短期韓国語研修Ⅱ	1					
			特別研修Ⅰ	1							
					特別研修Ⅱ	1					
					ボランティア研修Ⅰ	1					
							ボランティア研修Ⅱ	2			
							インターンシップⅠ	1			
							インターンシップⅡ	1			
全学共通科目	基礎科目		さがみ総合講座	2							45
			基礎教育講座	2							
			コンピュータリテラシー	2							
	教養科目		諸外国の社会と文化	2	文学	2					
			メディアと文化	2							
			アート	2							
	発想・実践科目		地域から学ぶ知の実践	2	さがみ発想講座	2					
			AIと社会	2	ジェンダー論	2					
			くらしと文化	2	情報リテラシー	1					
	キャリア支援		キャリア・プランニング	2			SPI対策講座	2			
			ビジネス実務総論	2			就職支援講座	2			
	健康・スポーツ		ウエルネス	2	ラケットスポーツ	1					
			身体の科学	2							
			健康スポーツ	1							
	語学		韓国／朝鮮語Ⅰ	1	韓国／朝鮮語Ⅲ	1					
			韓国／朝鮮語Ⅱ	1			韓国／朝鮮語Ⅳ	1			
			スペイン語Ⅰ	1							
			スペイン語Ⅱ	1							
年次別　履修単位合計			46		38		33		8		
履修単位合計			125								

【資料2】

履修モデル②（英語＋実践）

科目区分			履修年次：1年次		履修年次：2年次		履修年次：3年次		履修年次：4年次		科目区分別履修単位合計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
専門教育科目	導入	基礎	国際教養入門	2							89
			異文化コミュニケーション	2							
	文化・社会	基礎			グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2					
					グローバル文化Ⅱ（フィリピン・タイ）	2					
							グローバル文化Ⅲ（韓国・台湾）	2			
		専門	アジアパシフィック・スタディーズ	2							
		統合					映像文化コミュニケーション	2			
							文化演習Ⅰ	2			
							文化演習Ⅱ	2			
	アート	基礎			芸術作品鑑賞（英語文学）	2					
		専門					英語文学	2			
							映像芸術	2			
		統合					複合芸術	2			
	教育	基礎									
		専門									
		統合									
	言語	基礎	英語文章読解	2							
			英語文章表現	2							
		専門			英語音声学	2					
					英語学概論	2					
							応用言語学	2			
		統合			上級英語読解・表現	2					
							コースワーク演習Ⅰ	2			
							コースワーク演習Ⅱ	2			
	表現・スキル	基礎	Speaking Skills Ⅰ	1							
			Speaking Skills Ⅱ	1							
					Speaking Skills Ⅲ	1					
							Speaking Skills Ⅳ	1			
		専門					English for Advanced Speaking Ⅰ	2			
							English for Advanced Speaking Ⅱ	2			
							English for Relationship-building	2			
							English for Business	2			
		統合			Integrated Communication Ⅰ	2					
							Integrated Communication Ⅱ	2			
							Integrated Communication Ⅲ	2			
							Integrated Communication Ⅳ	2			
	探究・研究	深める									
		耕す									
		極める							Advanced English Studies Ⅰ	2	
									Advanced English Studies Ⅱ	2	
									コースワーク・デザインⅠ	2	
									コースワーク・デザインⅡ	2	
	実践	オンキャンパス	TOEIC Ⅰ	1							
					TOEIC Ⅱ	1					
							TOEIC Ⅲ	1			
		グローバル									
									短期韓国語研修Ⅰ	1	
									短期韓国語研修Ⅰ	1	
					長期語学留学 Ⅰ	6					
					長期語学留学 Ⅱ	6					
			特別研修Ⅰ	1							
									ボランティア研修Ⅰ	1	
							インターンシップ Ⅰ	1			
全学共通科目	基礎科目		さがみ総合講座	2							37
			基礎教育講座	2							
			コンピュータリテラシー	2							
	教養科目		社会学	2							
			諸外国の社会と文化	2							
			メディアと文化	2							
	発想・実践科目		日本の社会と文化	2	ジェンダー論	2					
					AIと社会	2					
					情報リテラシー	1					
	キャリア支援		キャリア・プランニング	2			SPI対策講座	2			
			ビジネス実務総論	2			就職支援講座	2			
	健康・スポーツ		ウエルネス	2	ラケットスポーツ	1					
			健康スポーツ	1							
	語学		英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1	英語Ⅲ	1			
			スペイン語Ⅰ	1			英語Ⅳ	1			
							スペイン語Ⅱ	1			
年次別 履修単位合計			37		35		44		10		
履修単位合計			126								

【資料3】

履修モデル③（国際教育＋教職）

科目区分			履修年次：1年次		履修年次：2年次		履修年次：3年次		履修年次：4年次		科目区分別履修単位合計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
専門教育科目	導入	基礎	国際教養入門	2							81
			異文化コミュニケーション	2							
	文化・社会	基礎			グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2					
		専門	アジアパシフィック・スタディーズ	2							
					国際日本学	2					
		統合			映像文化コミュニケーション	2					
	アート	基礎			芸術作品鑑賞（英語文学）	2					
		専門			英語文学	2					
		統合									
	教育	基礎			英語科教育法（中）Ⅰ	2					
					英語科教育法（中）Ⅱ	2					
		専門					英語科教育法（中・高）Ⅰ	2			
							英語科教育法（中・高）Ⅱ	2			
		統合					国際教育論Ⅰ	2			
							国際教育論Ⅱ	2			
							国際教育論Ⅲ	2			
							教育演習Ⅰ	2			
							教育演習Ⅱ	2			
	言語	基礎	英語文章読解	2							
			英語文章表現	2							
		専門			英語音声学	2					
					英語学概論	2					
							応用言語学	2			
		統合					上級英語読解・表現	2			
	表現・スキル	基礎	Speaking Skills Ⅰ	1							
			Speaking Skills Ⅱ	1							
					Speaking SkillsⅢ	1					
					Speaking SkillsⅣ	1					
		専門					English for Advanced Speaking Ⅰ	2			
							English for Advanced Speaking Ⅱ	2			
							English for Presentation	2			
							English for Relationship-building	2			
		統合					Integrated Communication Ⅰ	2			
							Integrated Communication Ⅱ	2			
									Integrated Communication Ⅲ	2	
									Integrated Communication Ⅳ	2	
	探究・研究	深める									
		耕す							グローバル教育Ⅰ	2	
									グローバル教育Ⅱ	2	
		極める									
	実践	オンキャンパス	TOEIC Ⅰ	1							
					TOEIC Ⅱ	1					
					越境・協働学習教育Ⅰ	1					
					越境・協働学習教育Ⅱ	1					
		グローバル			スクール・インターンシップ Ⅰ	1					
							スクール・インターンシップⅡ	1			
					短期英語研修 Ⅰ	1					
			特別研修Ⅰ	1							
					ボランティア研修Ⅰ	1					
							ボランティア研修Ⅱ	2			
全学共通科目	基礎科目		さがみ総合講座	2							24
			基礎教育講座	2							
			コンピュータリテラシー	2							
	教養科目		日本国憲法	2	言語学	2					
					メディアと文化	2					
	発想・実践科目				情報処理概論	2					
	キャリア支援科目		キャリア・プランニング	2			就職支援講座	2			
	健康・スポーツ科目		健康スポーツ	1	ラケットスポーツ	1					
	語学科目		中国語Ⅰ	1	中国語Ⅱ	1					
					スペイン語 Ⅰ	1	スペイン語 Ⅱ	1			
教職課程	教育の基礎的理解に関する科目		教育の原理	2	教職論	2					30
			教育の制度	2	特別支援教育概論	2					
			教育心理学	2							
			カリキュラム論	1							
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳教育論	2	総合的な学習の時間の指導	2	情報通信技術の活用	1			
			特別活動論	2							
			教育方法論	1							
			生徒・進路指導	2							
			教育相談	2							
	教育実践に関する科目								教育実習Ⅰ	4	
									事前・事後指導	1	
									教育実践演習（中・高）	2	
年次別 履修単位合計			42		41		37		15		
履修単位合計			135								

【資料4】

履修モデル_編入①（韓国＋コミュニケーション）

科目区分			履修年次：1年次		履修年次：2年次		履修年次：3年次		履修年次：4年次		科目区分別履修単位合計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
専門教育科目	導入	基礎	国際教養入門	2							80
			異文化コミュニケーション	2							
	文化・社会	基礎			グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2					
					グローバル文化Ⅱ（フィリピン・タイ）	2					
					グローバル文化Ⅲ（韓国・台湾）	2					
		専門	アジアパシフィック・スタディーズ	2							
					国際日本学	2					
					国際韓国学	2					
		統合					映像文化コミュニケーション	2			
							文化演習Ⅰ	2			
							文化演習Ⅱ	2			
	アート	基礎			芸術作品鑑賞（英語文学）	2					
					ポピュラーアート（韓国系）	2					
		専門					英語文学	2			
					映像芸術	2					
		統合			複合芸術	2					
							アート＆コミュニケーション演習Ⅰ	2			
							アート＆コミュニケーション演習Ⅱ	2			
	教育	基礎									
		専門									
		統合									
	言語	基礎	英語文章読解	2							
			英語文章表現	2							
		専門									
		統合									
							コースワーク演習Ⅰ	2			
							コースワーク演習Ⅱ	2			
	表現・スキル	基礎	Speaking Skills Ⅰ	1							
			Speaking Skills Ⅱ	1							
					Speaking SkillsⅢ	1					
					Speaking SkillsⅣ	1					
		専門									
							English for Presentation	2			
							English for Relationship-building	2			
							English for Translation	2			
							English for Business	2			
		統合			Integrated Communication Ⅰ	2					
					Integrated Communication Ⅱ	2					
	探究・研究	深める							地域研究：韓国Ⅰ	2	
									地域研究：韓国Ⅱ	2	
		耕す									
									コミュニケーション・デザインⅠ	2	
									コミュニケーション・デザインⅡ	2	
		極める									
	実践	オンキャンパス	TOEIC Ⅰ	1							
					越境・協働学習教育Ⅰ	1					
					越境・協働学習教育Ⅱ	1					
		グローバル									
			短期韓国語研修Ⅰ	1							
					短期韓国語研修Ⅱ	1					
			特別研修Ⅰ	1							
					特別研修Ⅱ	1					
					ボランティア研修Ⅰ	1					
							ボランティア研修Ⅱ	2			
							インターンシップⅠ	1			
							インターンシップⅡ	1			
全学共通科目	基礎科目		さがみ総合講座	2							45
			基礎教育講座	2							
			コンピュータリテラシー	2							
	教養科目		諸外国の社会と文化	2	文学	2					
			メディアと文化	2							
			アート	2							
	発想・実践科目		地域から学ぶ知の実践	2	さがみ発想講座	2					
			AIと社会	2	ジェンダー論	2					
			くらしと文化	2	情報リテラシー	1					
	キャリア支援		キャリア・プランニング	2			SPI対策講座	2			
			ビジネス実務総論	2			就職支援講座	2			
	健康・スポーツ		ウエルネス	2	ラケットスポーツ	1					
			身体の科学	2							
			健康スポーツ	1							
	語学		韓国／朝鮮語Ⅰ	1	韓国／朝鮮語Ⅲ	1					
			韓国／朝鮮語Ⅱ	1			韓国／朝鮮語Ⅳ	1			
			スペイン語Ⅰ	1							
			スペイン語Ⅱ	1							
年次別　履修単位合計			46		38		33		8		
履修単位合計			125								

出身校の既修得単位を精査し、学科ごとに規定された認定可能な単位数の上限を超えない範囲で、認定する。

履修モデル_編入②（英語＋実践）

科目区分			履修年次：1年次		履修年次：2年次		履修年次：3年次		履修年次：4年次		科目区分別履修単位合計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
専門教育科目	導入	基礎	国際教養入門	2							89
			異文化コミュニケーション	2							
	文化・社会	基礎			グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2					
					グローバル文化Ⅱ（フィリピン・タイ）	2					
							グローバル文化Ⅲ（韓国・台湾）	2			
		専門	アジアパシフィック・スタディーズ	2							
		統合					映像文化コミュニケーション	2			
							文化演習Ⅰ	2			
							文化演習Ⅱ	2			
	アート	基礎			芸術作品鑑賞（英語文学）	2					
		専門					英語文学	2			
							映像芸術	2			
		統合					複合芸術	2			
	教育	基礎									
		専門									
		統合									
	言語	基礎	英語文章読解	2							
			英語文章表現	2							
		専門			英語音声学	2					
					英語学概論	2					
							応用言語学	2			
		統合			上級英語読解・表現	2					
							コースワーク演習Ⅰ	2			
							コースワーク演習Ⅱ	2			
	表現・スキル	基礎	Speaking Skills Ⅰ	1							
			Speaking Skills Ⅱ	1							
					Speaking SkillsⅢ	1					
							Speaking SkillsⅣ	1			
		専門					English for Advanced Speaking Ⅰ	2			
							English for Advanced Speaking Ⅱ	2			
							English for Relationship-building	2			
							English for Business	2			
		統合			Integrated Communication Ⅰ	2					
							Integrated Communication Ⅱ	2			
							Integrated Communication Ⅲ	2			
							Integrated Communication Ⅳ	2			
	探究・研究	深める									
		耕す									
		極める							Advanced English Studies Ⅰ	2	
									Advanced English Studies Ⅱ	2	
									コースワーク・デザイン Ⅰ	2	
									コースワーク・デザイン Ⅱ	2	
	実践	オンキャンパス	TOEIC Ⅰ	1							
					TOEIC Ⅱ	1					
							TOEIC Ⅲ	1			
		グローバル									
									短期韓国語研修Ⅰ	1	
									短期韓国語研修Ⅰ	1	
					長期語学留学 Ⅰ	6					
					長期語学留学 Ⅱ	6					
			特別研修Ⅰ	1							
									ボランティア研修Ⅰ	1	
							インターンシップ Ⅰ	1			
全学共通科目	基礎科目		さがみ総合講座	2							37
			基礎教育講座	2							
			コンピュータリテラシー	2							
	教養科目		社会学	2							
			諸外国の社会と文化	2							
			メディアと文化	2							
	発想・実践科目		日本の社会と文化	2	ジェンダー論	2					
					AIと社会	2					
					情報リテラシー	1					
	キャリア支援		キャリア・プランニング	2			SPI対策講座	2			
			ビジネス実務総論	2			就職支援講座	2			
	健康・スポーツ		ウエルネス	2	ラケットスポーツ	1					
			健康スポーツ	1							
	語学		英語Ⅰ	1	英語Ⅱ	1	英語Ⅲ	1			
			スペイン語Ⅰ	1			英語Ⅳ	1			
							スペイン語Ⅱ	1			
年次別 履修単位合計			37		35		44		10		
履修単位合計			126								

出身校の既修得単位を精査し、学科ごとに規定された認定可能な単位数の上限を超えない範囲で、認定する。

履修モデル_編入③（国際教育＋教職）

科目区分			履修年次：1年次		履修年次：2年次		履修年次：3年次		履修年次：4年次		科目区分別履修単位合計
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	
専門教育科目	導入	基礎	国際教養入門	2							81
			異文化コミュニケーション	2							
	文化・社会	基礎			グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）	2					
		専門	アジアパシフィック・スタディーズ	2							
					国際日本学	2					
		統合			映像文化コミュニケーション	2					
	アート	基礎			芸術作品鑑賞（英語文学）	2					
		専門			英語文学	2					
		統合									
	教育	基礎			英語科教育法（中）Ⅰ	2					
					英語科教育法（中）Ⅱ	2					
		専門					英語科教育法（中・高）Ⅰ	2			
							英語科教育法（中・高）Ⅱ	2			
		統合					国際教育論Ⅰ	2			
							国際教育論Ⅱ	2			
							国際教育論Ⅲ	2			
							教育演習Ⅰ	2			
							教育演習Ⅱ	2			
	言語	基礎	英語文章読解	2							
			英語文章表現	2							
		専門			英語音声学	2					
					英語学概論	2					
							応用言語学	2			
		統合					上級英語読解・表現	2			
	表現・スキル	基礎	Speaking Skills Ⅰ	1							
			Speaking Skills Ⅱ	1							
					Speaking SkillsⅢ	1					
					Speaking SkillsⅣ	1					
		専門					English for Advanced Speaking Ⅰ	2			
							English for Advanced Speaking Ⅱ	2			
							English for Presentation	2			
							English for Relationship-building	2			
		統合					Integrated Communication Ⅰ	2			
							Integrated Communication Ⅱ	2			
									Integrated Communication Ⅲ	2	
									Integrated Communication Ⅳ	2	
	探究・研究	深める									
		耕す							グローバル教育Ⅰ	2	
									グローバル教育Ⅱ	2	
		極める									
	実践	オンキャンパス	TOEIC Ⅰ	1							
					TOEIC Ⅱ	1					
					越境・協働学習教育Ⅰ	1					
					越境・協働学習教育Ⅱ	1					
		グローバル			スクール・インターンシップ Ⅰ	1					
							スクール・インターンシップⅡ	1			
					短期英語研修 Ⅰ	1					
			特別研修Ⅰ	1							
					ボランティア研修Ⅰ	1					
							ボランティア研修Ⅱ	2			
全学共通科目	基礎科目		さがみ総合講座	2							24
			基礎教育講座	2							
			コンピュータリテラシー	2							
	教養科目		日本国憲法	2	言語学	2					
					メディアと文化	2					
	発想・実践科目				情報処理概論	2					
	キャリア支援科目		キャリア・プランニング	2			就職支援講座	2			
	健康・スポーツ科目		健康スポーツ	1	ラケットスポーツ	1					
	語学科目		中国語Ⅰ	1	中国語Ⅱ	1					
					スペイン語 Ⅰ	1	スペイン語 Ⅱ	1			
教職課程	教育の基礎的理解に関する科目		教育の原理	2	教職論	2					30
			教育の制度	2	特別支援教育概論	2					
			教育心理学	2							
			カリキュラム論	1							
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		道徳教育論	2	総合的な学習の時間の指導	2	情報通信技術の活用	1			
			特別活動論	2							
			教育方法論	1							
			生徒・進路指導	2							
			教育相談	2							
	教育実践に関する科目								教育実習Ⅰ	4	
									事前・事後指導	1	
									教育実践演習（中・高）	2	
年次別　履修単位合計			42		41		37		15		
履修単位合計			135								

出身校の既修得単位を精査し、学科ごとに規定された認定可能な単位数の上限を超えない範囲で、認定する。

【資料 5】　実習受け入れ協定書一覧

	国名・都市名	大学名	コース名称	受け入れ人数	研修期間	協定書名
本学協定校	オーストラリア・メルボルン	ビクトリア大学	英語集中コース(ELICOS)	制限なし	6 カ月、又は 12 カ月	Memorandum of Understanding Victoria University (VU) Sagami Women's University (SWU)
	カナダ・ウィニペグ	マニトバ州立大学	Intensive Academic English Program (IAEP)	制限なし	12 カ月	MEMORANDUM OF UNDERSTANDING BETWEEN SAGAMI WOMEN'S UNIVERSITY and THE UNIVERSITY OF MANITOBA, CANADA On behalf of its Extended Education Division
	台湾・高雄市	文藻外語大学	中国語センター(華語中心)	制限なし	2 週間	相模女子大学と文藻外語大学との交換留学生に関する協定書 日本国相模女子大学並びに相模女子大学短期大学部と台湾文藻外語大学との間における教育及び学術上の交流に関する協定書
	韓国・ソウル市	ソウル女子大学	韓国語教育部(語学堂)	制限なし	4 週間	MEMORANDUM OF UNDERSTANDING BETWEEN SAGAMI WOMEN'S UNIVERSITY, JAPAN AND SEOUL WOMEN'S UNIVERSITY, KOREA
学科認定研修校	フィリピン・セブ	ラプラプセブ国際大学	Center for English Language Studies (CELS)	制限なし	4 週間	―
	フィリピン・マニラ	エンデラン大学	Enderun Extension Program	制限なし	4 週間	―

P.9～P.22　実習先の協定書は削除

【資料6】

就業規則

昭和43年２月10日
制定

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は、法令に定められるもののほか、学校法人相模女子大学（以下「本法人」という。）に勤務する職員の就業に関する基本的事項を定めることを目的とする。

（職員の定義）

第２条　本規則において職員とは、常勤者であって、教育職員及び事務職員に任用された者をいう。

２　教育職員の種類

教育職員	学長、教授、准教授、講師、助教、助手、校長、副校長、教諭、養護教諭、司書教諭、実習助手

（適用範囲）

第２条ノ２　本規則は、前条に定める職員に適用する。ただし、管理職規程第２条に定める者については第３条を適用しない。

２　嘱託、非常勤職員及び臨時職員は、特に定められるもののほか、原則として本規則を準用する。

３　パートタイマーについては、別に定めるパートタイマー雇用・就業要項を適用する。

４　外国人英語指導助手については、外国人指導助手に関する要項を適用する。

５　認定こども園相模女子大学幼稚部に勤務する職員の就業については、認定こども園相模女子大学幼稚部就業規則を適用する。

（規則の改正について）

第２条ノ３　この就業規則に定められる労働条件及び服務規律等は、法律の改正及び本法人の経営環境の変化その他業務上の必要性により、職員の過半数で組織する労働組合がある場合においてはその労働組合、職員の過半数で組織する労働組合がない場合においては職員の過半数を代表する者の意見を聴いて、変更することがある。ただし、個別労働契約により、当該規則の変更により変更し得ない特約がある場合には、本条で変更された労働条件は適用されない。

第２章　勤務

（勤務時間と休憩時間）

第３条　教育職員における１週間の勤務時間は、38.5時間以内とし、原則として始業午前９時、終業午後５時（土曜日は午後０時30分）、休憩時間は午後０時30分から１時間とする。事務職員における１週間の勤務時間は、40時間以内とし、原則として始業午前９時、終業午後６時（土曜日は休日）、休憩時間は午後０時30分から１時間とする。

２　始業時刻とは、所定の就業場所で業務を開始する時刻をいい、終業時刻とは、業務終業の時刻をいう。

3　業務の都合により必要がある場合、各所属長は理事長の承認を得て、第１項の始業・終業時刻を繰り上げ、又は繰り下げることができる。

4　本条の適用を受ける職員の、月の平均労働時間数は、次の計算式による。

（年間日数－年間総休日日数）×１日の所定労働時間数÷12 カ月

なお、月の平均労働時間数に１未満の端数がある場合、小数点第１位を四捨五入する。

5　前項における年間とは、４月１日で始まり３月 31 日で終わる一年間をいう。

6　監視又は断続的な業務に従事する者が行政官庁の許可を受けた場合は、この限りでない。

（１年単位の変形労働時間制）

第３条ノ２　前条の規定にかかわらず、職員の過半数で組織する労働組合がある場合においてはその労働組合、職員の過半数で組織する労働組合がない場合においては職員の過半数を代表する者と協定を締結した場合はその定めにより、毎年４月１日を起算日とする１年単位の変形労働時間制を採用し、勤務時間は１年間を平均して１週あたり 38.5 時間以内とする。

2　１日の勤務時間は 10 時間以内とする。１週間の勤務時間は 52 時間以内とする。

3　各日の始業・終業の時間は、各部における「変形労働カレンダー（年間）」の勤務パターン表によるものとする。ただし、授業時間、学校行事その他の業務の都合により、これを繰り上げ、又は繰り下げることができる。この場合、所属長は、予め職員にその旨を通知するものとする。

4　中途採用者、中途退職者その他変形期間の中途においてこの変形労働時間制の適用を打ち切られた職員の勤務時間については、それまでの期間で算出する。

5　本条の適用を受ける職員の、月の平均労働時間数は、次の計算式による。

（年間日数－年間総休日日数）×１日の所定労働時間数÷12 カ月

なお、月の平均労働時間数に１未満の端数がある場合、小数点第１位を四捨五入する。

（時間外勤務、休日出勤の振替休日及び代休）

第４条　業務の都合により必要がある場合は、時間外勤務及び休日出勤をさせることがある。ただし、法定の労働時間を超える労働又は法定の休日における労働は、職員の過半数で組織する労働組合がある場合においてはその労働組合、職員の過半数で組織する労働組合がない場合においては職員の過半数を代表する者と協定を締結し、労働基準監督署に届出た協定書面に定める範囲以内とする。

2　本法人は、業務上の都合によりやむを得ない場合は、第６条に定める休日を同一週内の休日以外の日に振替えることができる。なお、この場合の週とは、日曜日で始まり土曜日で終わる一週間をいう。ただし、第６条第４号の休日は、同一週を超えて振替えることができるものとする。

3　前項により休日の振替を行うときは、所属長が前日までに振り替える休日を指定し、職員に通知する。

4　業務の都合により前第２項及び第３項に定める振替休日が指定できない場合に限り、当該休日後の１カ月以内において勤務に支障のない日に代休日を与えるものとする。

（勤務態様の特例）

第５条　出張その他必要があると認めたときは、就業の場所以外において勤務させることがある。

２　前項の場合、労働時間の全部又は一部について就業の場所以外で業務に従事した場合において、労働時間を算定しがたいときは、第３条に定める労働時間を労働したものとみなす。

（休日）

第６条　休日は、次のとおりとする。

（１）　日曜日

（２）　国民の祝日、その他国が定めた休日

（３）　創立記念日（10月18日）

（４）　年末年始（12月28日から１月７日まで）

（５）　その他本法人において特に定めた日

２　事務職員については、前項に加えて土曜日を休日とする。

（変形労働時間制の休日）

第６条ノ２　前条の規定にかかわらず、１年単位の変形労働時間制に関する協定を締結した場合、その定めにより毎年４月１日を起算日とする１週間ごとに１日以上、１年間に105日以上となるように、原則として次にとおり休日を指定して、「変形労働カレンダー（年間）」に定め、毎年３月末日までに職員に通知する。

（１）　土曜日及び日曜日

（２）　国民の祝日、その他国が定めた休日

（３）　創立記念日（10 月 18 日）

（４）　年末年始（12 月 28 日から１月７日まで）

（５）　その他本法人において特に定めた日

（当直）

第７条　本法人において必要があると認めた場合は、休日における日直又は夜間における宿直をさせることがある。

（大学の授業担当時間）

第８条　大学、短期大学部（以下「大学」という。）の教育職員の授業担当時間については、別に定める。

２　大学の助手の勤務については、学長の定めるところによる。

（授業担当時間）

第８条ノ２　授業を担当する者の授業時間は、理事長の承認を得て学校の長が定める。

（始業及び終業時刻の記録）

第９条　始業及び終業時は出退勤管理用ＩＣカード等による打刻を行い、始業及び終業時刻を記録しなければならない。出勤記録が出勤簿による場合で、始業時刻までに出勤したときは、出勤簿に押印もしくは署名をしなければならない。

２ 出勤記録が出勤簿による場合で、始業時刻後に出勤したときは、出勤簿に遅刻印を捺さなければならない。
３ 出勤記録が出勤簿による場合で、特に指定された場合を除き、前第２項の定める手続きをとらないときは、出勤しても欠勤したものとして処理することがある。

（遅刻・早退）

第10条 病気その他やむを得ない緊急事由により遅刻又は早退しようとするときは、所属長の承認を得なければならない。
２ 遅刻又は早退の取り扱いについては、勤務に関する取扱細則第４条による。

第11条 削除

（遅刻・早退の特例）

第12条 次の各号の一に該当し、所属長の承認を受けたときは、やむを得ないと認められた時間について出勤したものと認めることができる。
（１）公民としての選挙権その他の権利を行使するとき。ただし、公職に立候補するときもしくは公職につくときは、予め本法人の承認を受けた場合に限る。
（２）裁判所に証人、鑑定人、参考人等として出頭を命ぜられたとき。
（３）本人の罹病によらず学校保健安全法施行規則第18条に定める感染症（以下「感染症」という。）の予防のため出勤できなかったとき及び本法人が日時等を斡旋して行う精密検査をうけるとき。
（４）交通事故もしくは交通遮断のため出勤できなかったとき。
（５）その他前各号に準ずるとき。
２ 第５条により就業の場所以外において勤務する場合の取扱は、具体的事情により理事長が決める。

（育児時間）

第12条ノ２ 生後１年に達しない生児を育てる職員が予め所属長に申し出た場合は、所定の休憩時間のほか、１日について２回各30分間の育児時間を受けることができる。
２ 前項育児時間は、本人の申し出により１日１回１時間とすることができる。ただし、就業時間が４時間以内の場合は30分間とする。
３ 前第１項の育児時間は有給とする。

（欠勤）

第13条 業務外の傷病又は事故により欠勤するときは、予め所定の願又は届を提出して所属長の承認を得なければならない。
２ やむを得ない事情により予め願い出又は届出ができない場合は、速やかに所属長に連絡してその承認を得、欠勤のため業務に支障を来さないように努め、その後に届けを提出し承認を得なければならない。
３ 業務外の傷病又は事故による欠勤が引続き１週間を超えるときは、医師の診断書を提出しなければならない。また、１週間以内であっても医師の診断書を求めることがある。

４　前項の診断書が提出された場合であっても、必要あれば職員に対して指定する医師への受診を求めることがある。

（年次有給休暇）

第 14 条　職員は、４月１日から翌年３月３１日までを年度として、当該年度内に２０日の年次有給休暇を付与するものとする。ただし、新規採用者の付与日数は、第３項のとおりとする。

２　年次有給休暇の付与に係る勤続年数の算出に当たっては、1年未満の端数は1年に切り上げる。ただし、３項の当該年度に新たに採用された者は除く。また勤務日数の算定に当たっては以下の期間は出勤したものとみなす。

（１）　業務上の負傷、疾病による療養のための休業期間

（２）　産前産後の休業期間

（３）　年次有給休暇を取得した期間

（４）　慶弔休暇、特別休暇を取得した期間

（５）　育児介護休業法に基づく育児休業及び介護休業期間

３　付与日数

（１）前年度以前に採用された者で、前年度の勤務日数が所定労働日数の８割以上の者

勤続年数	１年	２年	３年	４年	５年	６年以上
休暇日数	12日	13日	14日	16日	18日	20日

（２）前年度以前に採用された者で、前年度の勤務日数が所定労働日数の５割以上８割未満の者

勤続年数	１年	２年	３年	４年	５年	６年以上
休暇日数	10日	11日	12日	14日	16日	18日

（３）前年度以前に採用された者で、前年度の勤務日数が所定労働日数の５割未満の者

勤続年数	１年	２年	３年	４年	５年	６年以上
休暇日数	８日	９日	10日	12日	14日	16日

（４）当該年度に新たに採用された者（その月の１６日以降に採用された者については、翌月欄を適用する）

採用月	４～９月	10 月	11 月	12～３月
付与月	採用月～3月	10～3月	11～3月	採用月～3月
日数	10 日	６日	４日	２日

４　年次有給休暇は、１日又は半日を単位として願い出るものとする。ただし、労使協定に基づき年次有給休暇日数のうち、１年について５日の範囲内で、１時間を単位とすることができる。

５　１時間を単位として使用した年次有給休暇を１日に換算する場合には、１年間における１日平均所定労働時間数をもって１日とする。

６　年次有給休暇は、所属に応じその業務に支障のないように受けるものとする。

７　年次有給休暇の残余日数は、当該年度分のみ次年度に繰り越すことができる。また、年次有給休暇の繰越分は、新年度分に先立って与えられるものとする。

８　所属長は、請求された時季に年次有給休暇を与えることが事業の正常な運営を妨げる場合においては、他の時季にこれを与えることができる。

（生理休暇）

第14条ノ２　生理日の就業がいちじるしく困難な職員が生理休暇を請求したときは、生理に必要な日数の有給休暇を与えることができる。

（妊娠中の通院等）

第14条ノ３　妊娠中及び出産後１年以内の女性が母子保健法による健康診査等のために勤務時間内に通院する必要がある場合は、請求により時間内通院をすることができる。

（妊娠中の通勤緩和・勤務の短縮）

第14条ノ４　妊娠中の女性に対し、医師等から通勤緩和の指導があった場合は、本人の請求により始業時間30分繰下げ、終業時間30分繰上げることができる。

２　前項通勤緩和時間は、本人の申し出により１日１時間以内を限度として時差出勤、あるいは勤務時間を短縮することができる。ただし、就業時間が４時間以内の場合は30分間とする。

３　前項の勤務時間の短縮については有給とする。

（勤務中の休憩）

第14条ノ５　妊娠中の女性に対し、医師等から休憩に関する措置について指導があった場合又は妊娠中の女性が業務を長時間継続することが身体に負担になる場合は、請求により所定の休憩時間以外に適宜休憩をとることができる。

（妊娠中及び産後の症状等に対応する措置）

第14条ノ６　妊娠中及び出産後１年以内の女性が、身体に何らかの症状又は症状が発生するおそれがあるとして、医師等から勤務状態が健康状態に支障を及ぼすとの指導を受けた場合は、本人の請求により「母性健康管理指導事項連絡カード」に基づきその指導が守れるよう、業務内容の軽減、勤務時間の短縮等の措置をとることができる。また、休業が必要な場合は、本人の申請により理事長が許可する。

２　前項の勤務時間の短縮等の措置に伴う給与の扱いについては、給与規程第18条ノ２による。

３　前第１項の休業の扱いについては、本規則第13条に準じる。

（産前産後休業）

第14条ノ７　女子職員が出産のため休業を請求したときは、出産予定日前８週間（多胎妊娠の場合は14週間）以内の休業（産前休業）を受けることができる。

２　女子職員が出産したときは、出産の翌日以後８週間は休業（産後休業）しなければならない。ただし、本人が請求し、医師が支障がないと認めた場合は産後６週間経過後に復職することができる。

３ この休業期間は、その２分の１を勤続期間に算入する。

（慶弔休暇）

第15条　次の表に該当して請求したときは、それぞれの事由に該当する日数（休日を含む）以内の慶弔休暇を受けることができる。

休暇の種類	休暇日数	備考
結婚休暇　本人	７日	入籍当日を含み180日以内に取得するものとする。
子女	２日	挙式当日を含む。
出産休暇　配偶者出産	３日	事由発生日から 14 日以内に取得するものとする。
忌引き休暇　配偶者、一親等の血族	７日	
二親等の血族、一親等の姻族	５日	
三親等の血族、二親等の姻族	３日	

２　慶弔休暇は、継続して受けるものとする。

３　削除

４　削除

５　職員は、第１項の慶弔休暇を取得しようとする場合、事前に書面により申請し、所属長の承認を得なければならない。ただし、やむを得ず事前に申請することができない場合、事後速やかに申請し、承認を得ることとする。

６　職員が、前項の手続きを怠った場合、原則として無断欠勤として取り扱う。

（特別休暇）

第16条　勤務に関する取扱細則第６条に定める事由により必要があるときは、理事長の許可を受けて特別休暇を受けることができる。

（休暇手続）

第17条　休暇を受けようとするときは、事前に願又は届を提出し、所属長の承認を得なければならない。ただし、やむを得ず事前に申請することができない場合、事後速やかに申請し、承認を得なければならない。

第３章　給与

（給与）

第18条　給与・退職手当に関する事項は、別に定める。

第４章　出張

（出張）

第19条　出張に関する事項は、別に定める。

第５章　人事

第20条　削除

（任用基準）

第21条　任用の基準については、別に定める。

（採用及び職種の変更）

第22条　職員の採用及び職種の変更は、関係所属長の申請に基づいて本法人が行う。

（採用手続き）

第23条　採用手続きについては、別に定める。

（提出書類）

第24条　採用された者は、誓約書・身元保証書及び住民票記載事項証明書（個人番号が記載されていないものに限る）を提出しなければならない。ただし、その一部を省略することができる。

２　前項の書類を提出する時には、個人番号カード又は、通知カード及び運転免許証等の写真付き身分証明証を提示しなければならない。

（試用期間）

第25条　新たに職員として採用された者には、試用期間を設ける。ただし、特に試用期間の必要がないと認められた者については、この限りでない。

２　試用期間は、６カ月とする。ただし、３カ月まで短縮することができる。

３　試用期間中に能力、人物、勤務態度、健康状態等、業務上の適格性を欠くと認められたときは、本採用を行わない。

４　試用期間中の者が、引続き任用されたときは、勤務年数に通算する。

（異動）

第26条　本法人は、業務の都合により職員の就業の場所及び従事する業務の変更を命ずることができる。

２　前項の命令を受けた者は、正当な理由がない限りこれを拒むことはできない。ただし、特に事情がある者はその理由を具した書面をもって所属長を経由して理事長に上申することができる。

（役職）

第27条　本法人は必要ある場合は、職員に役職を命じ又は免ずることができる。ただし、役職に就く者は実質的に常勤できる者でなければならない。

２　役職に関する事項は、別に定める。

（休職・休業）

第28条　職員が次の各号の一に該当するときは、休職を命ずることができる。ただし、試用期間中の職員については、本条を適用しない。

（１）削除

（２）心身の故障により長期の休養を要し、次の欠勤をしたとき。

勤続年数	欠勤期間
１年未満	継続１ヶ月
３年未満	継続３ヶ月
10 年未満	継続４ヶ月

10年以上	継続５ヶ月

（３）刑事事件に関して起訴されたとき。ただし、罪名によっては直ちに休職としないことがある。

（４）災害その他の事由により生死又は所在不明となり、継続１カ月以上欠勤したとき。

（５）前第２号における休職に至る欠勤期間の「継続」については、次のとおりとする。

①欠勤（１週間超）後、出勤した場合であっても医師の診断書により、同一傷病で１カ月以内に再度欠勤したときは、欠勤の継続と看做し、欠勤期間として通算する。ただし、出勤に当たって医師の診断に基づく勤務時間の短縮等の措置を行った場合は、その期間を欠勤後に含めないものとする。

②前①の出勤については、日数を以て欠勤期間から控除するものとする。

（６）前第５号①による診断書の提出に際して、本法人が診断書を作成した医師に対する事情聴取を求めた場合、当該職員はその実現に協力しなければならない。

（７）前第５号①の診断書が提出された場合でも、本法人は、その指定する医師への検診を命ずることがある。本法人は、職員が正当な理由なくこれを拒否した場合、第５号①の診断書を欠勤事由が消滅したか否かの判断材料として採用しないことがある。

２　職員が次の各号の一に該当し３カ月以上職務に従事できないため休職を願い出た場合は、許可することがある。

（１）職務に関連があると認められる事項につき、本法人以外の機関に出向をしたとき。

（２）本法人が承認した公職に就任し、そのために業務遂行上支障が生ずると認められたとき。

（３）その他特に休職する正当な理由があると認められたとき。

３　本条第１項第２号により休職となった者が、復職後１年以内に再び傷病により継続１カ月以上欠勤したときは、直ちに休職を命ずることができる。ただし、復職に当たって、医師の診断に基づく勤務時間の短縮等の措置を行った場合は、その期間を復職後に含めないものとする。

４　職員が生後満１歳に達しない子を育児するための休業（育児休業）については、別に定める。

５　職員が要介護状態にある対象親族を介護するための休業（介護休業）については、別に定める。

６　休職・休業中の者は、職員としての身分を保有するが、業務に従事しない。

（休職・休業の期間）

第29条

削除

２　前条第１項第２号に該当する者の休職期間は、勤続年数に応じて次の期間を超えることはできない。

勤続年数	休職期間

３年未満	９ヶ月
10 年未満	18 ヶ月
10 年以上	24 ヶ月

３　本条第２項に該当した者が復職後３年以内に同一理由によって休職したときは、その期間を通算する。ただし、復職に当たって、医師の診断に基づく勤務時間の短縮等の措置を行った場合は、その期間を復職後に含めないものとする。

４　本条第２項以外の休職期間は以下のとおりとする。

（１）前条第１項第３号及び第４号の場合の休職期間は、夫々の事情により理事長が定める。

（２）前条第２項第１号の場合は、命じられた期間

（３）前条第２項第２号及び第３号の場合は、承認された期間

５　休職期間中であってもその理由が消滅したと認められるときは、復職を命ずる。

（１）前条第１項第２号及び第３項の規定に該当する休職者については、医師の診断書を付して復職を願い出て本法人がこれを許可したときは復職させる。

（２）前条第２項第１号・第２号及び第３号までの規定に該当する休職者については、期間が満了したとき復職させる。

（３）前条第１項第３号に該当する休職者については、判決が確定し、その結果無罪の場合及び有罪であっても復職させることが適当と認められる場合には復職させる。

（４）前条第１項第４号に該当する休職者については、その事故欠勤に正当な理由があると認められる場合には願い出により本法人がこれを許可したときは復職できる。

（５）第１号による診断書の提出に際して、本法人が診断書を作成した医師に対する事情聴取を求めた場合、当該職員はその実現に協力しなければならない。

（６）第１号の診断書が提出された場合でも、本法人はその指定する医師への検診を命ずることがある。本法人は、職員が正当な理由なくこれを拒否した場合、第１号の診断書を休職事由が消滅したか否かの判断材料として採用しないことがある。

６　理事長が特に必要と認めた場合は、休職期間を延長することができる。ただし、40カ月を超えることはできない。

７　休職・休業の期間は、その２分の１を勤続期間に通算する。

（依願退職）

第30条　退職を希望する者は、１カ月以前にその理由を記載した書面をもって申し出て、本法人の承認を得なければならない。ただし、次の第32条ノ２に定める選択退職の場合はこの限りでない。

（自然退職）

第30条ノ２　次の各号の一に該当した場合は、該当日の当日をもって自然退職とする。ただし、役員に就任した場合は、就任日の前日をもって退職日とする。

（１） 休職・休業期間の満了直後に復職しない場合
（２） 行方不明になり１ヶ月が経過した場合
（３） 死亡した場合
（４） 役員に就任した場合
（５） （削る）

（解雇）

第31条 次の各号の一に該当した場合は解雇とする。
（１） 身体もしくは精神の衰弱により、故障その他、職務に堪えないとき。
（２） 職務に通ぜず、明らかに通常業務に支障を生じたと認めたとき。
（３） 試用期間の途中又は終了の際、職員として不適格と認めたとき。
（４） 本法人の事業不振等のため解雇の必要が生じたとき。
（５） その他各号に準ずるやむを得ないとき。

（定年）

第32条 職員の定年は、満65歳とする。ただし、大学教育職員（助手を除く）にあっては満67歳とする。
２ 職員が定年に達したときは、その日の属する年度の末日を退職日とする。

（選択退職）

第32条ノ２ 選択退職については、別に定める。

（退職時の扱い）

第33条 退職する場合は、十分に引継ぎを行うとともに、退職後においても、業務上知り得た秘密事項及び個人情報を漏洩してはならない。

第６章 服務

（服務心得）

第34条 職員は、この規則に定められるもののほか、業務上の指示命令に従い品位を重んじ、自己の職務に専念して本法人の事業の振興をはかり、互いに協力して自他の職責を尊重し、職場の秩序の保持に努めなければならない。

（遵守事項）

第35条 職員は、次の事項を守らなければならない。
（１）常に品位を保ち、諸規則等をよく守って、本法人の名誉信用を傷つけるような行為はしないこと。
（２）職制を尊重し、互いに協調して職場の秩序を維持し、職務を誠実に行うこと。
（３）業務上の秘密事項及び本法人の不利益となる事項を他に洩らさないこと。また、別に定める個人情報保護規程及び特定個人情報取扱規程並びに学校法人相模女子大学情報セキュリティポリシーを遵守するとともに、学生、生徒、児童、幼児、取引先その他の関係者及び本法人の理事、職員等の個人情報及び特定個人情報等を正当な理由なく開示し、利用目的を逸脱して取り扱い、又は漏洩しないこと。
（４）災害等の未然防止に努め、火災等が発生したときは、万全の措置をとること。

（５）職務上の地位を利用して私利をはからないこと。
（６）許可なく本法人以外の業務に従事しないこと。
（７）本法人の施設内で政治的活動を行わないこと。
（８）その他酒気を帯びて就業する等、職員として相応しくない行為をしないこと。
（９）職員は、本法人が貸与した電子端末を業務遂行に必要な範囲で使用するものとし、私的に利用してはならない。

（ハラスメントの禁止）

第 35 条ノ２　セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、育児休業等に関するハラスメント、その他ハラスメントにより、本学の構成員の人権を侵害したり、就学、教育、研究又は就労の環境を悪化するようなことをしてはならない。

第36条　削除

（変更の届出）

第37条　氏名、住所、扶養家族の状況、その他必要な事項に変更があった場合には、その都度届出なければならない。

（願届の手続）

第38条　本法人に、勤務管理上必要な事項に関する願又は届を提出する場合は、所属長を経由しなければならない。

（特殊勤務）

第39条　削除

第７章　安全及び衛生

（総則）

第40条　本法人は、職員が常に健康で安全に就業できるような措置を講ずるとともに、職員も自己の健康及び安全に留意して、その能率の向上に努めなければならない。

（衛生管理者及び産業医）

第 41 条　本法人に、法定人数の衛生管理者及び産業医を置き、その任に当たらせる。

（火災防止）

第42条　火災の防止に特に留意するため各建築物毎に防火責任者を置いてその任に当たらせる。

（危険作業）

第43条　業務上危険な設備は、その担当者以外の者が作業に従事してはならない。

（器具の使用）

第44条　職員は、消防具及び救急品の備付場所並びに使用方法を知得して臨機に万全の措置を講ずるものとする。

（健康診断）

第45条　本法人は、職員について毎年１回定期的に健康診断を行う。

２　健康診断は、前項に定めるときのほか、随時全部又は一部の職員に対して行うことがある。

３　健康診断に参加できなかった者は、他の医師の診断書を提出しなければならない。

（ストレスチェック）

第 45 条ノ２　本法人は、職員について毎年１回、心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）を行う。

２　ストレスチェックの実施については、別に定める。

（防疫）

第46条　職員には、必要に応じ予防接種その他適宜の防疫措置を行う。

（感染症の届出）

第47条　職員は、自己、家族又は同居人が感染症にかかり、もしくはその疑いがある場合には、速やかに衛生管理者に届出なければならない。

（保護措置）

第48条　衛生管理上必要と認められる者に対しては、勤務箇所の変更、職務の転換、医師の診断に基づく勤務時間の短縮、療養、補導その他必要な保護措置を行う。

２　次の各号の一に該当する者は、出勤できない。

（１）感染症にかかっている者

（２）家族、同居人が感染症にかかっている者又はこれらの感染症にかかっている疑いがある者。ただし、予防措置をしたとき、もしくは医師において感染のおそれがないと認められたときはこの限りでない。

（３）精神疾患により勤務することが不適当と認められた者

（４）疾病にかかっている者で勤務することによって、病性が悪化すると認められる者

３　前第１項における勤務時間の短縮の措置に伴う給与の扱いについては、給与規程第18条ノ２による。

第８章　災害補償

（災害補償）

第49条　職員が業務上負傷し、疾病にかかり、又は死亡した場合の災害補償については、労働基準法及び労働者災害補償保険法の定めるところによる。

第９章　賞罰

（表彰の事由）

第50条　職員が次の各号の一に該当したときは、審議の上表彰を行う。

（１）　本法人の発展に特に功績があったとき。

（２）　学術上有益な研究業績があったとき。

（３）　教育実践上顕著な功績があったとき。

（４）　業務上顕著な功績があったとき。

（５）　永年職員として誠実に勤続したとき。

（６）　災害を未然に防止し、又は災害に際し特に功労があったとき。

（７）　その他特に表彰の価値があると認められたとき。

２　前項の認定は、所属長の推薦によって理事会にて行う。

（表彰の内容）

第51条　表彰は、表彰状及び記念品を授与して行う。

（表彰の取消）

第52条　表彰を受けた者が懲戒を受け、もしくは被表彰者たるの体面を汚す行為があったときは、表彰を取消すことがある。

（懲戒の種類）

第53条　懲戒は、譴責、減給、出勤停止、諭旨退職及び懲戒解雇とする。

２　譴責は、始末書を提出させ文書をもって将来を戒める。

３　減給は、始末書を提出させ１回につき平均賃金の１日の半額以内、月給の10分の１以内を１カ月限度として減ずる。

４　出勤停止は、始末書を提出させ１日以上６カ月以内の出勤を停止し、その間の給与を支払わない。

５　諭旨退職は、期間を設け退職を勧告する。なお、情状により所定退職金を減ずることができる。また、期間内に退職に応じないときは、懲戒解雇とし退職金は支払わない。

６　懲戒解雇は、即時解雇し退職金は支払わない。

７　前第５項後段又は第６項の解雇にあたっては、所轄労働基準監督署長の認定を受けたときは、解雇予告手当ては支払わない。

（譴責、減給、出勤停止の事由）

第54条　職員が次の各号の一に該当するときは情状により譴責、減給又は出勤停止に処する。

（１）正当な理由なく無断欠勤し、又は遅刻を繰り返したとき。

（２）業務に不熱心なとき又は勤務状態が不良なとき。

（３）正当な理由なく労働時間中にみだりに職場を離れたとき。

（４）許可なく職務以外の目的で本法人の施設、物品等を使用し、又は他人にこれをなさしめたとき。

（５）許可なく法人の敷地内で集会、演説、放送、各種印刷物の掲示・貼付・配布、署名活動、募金その他これに類する行為をしたとき。

（６）所属職員に対する指導監督の不行き届きにより事故が発生したとき。

（７）第35条「遵守事項」及び第35条ノ２「ハラスメントの禁止」に違反したとき。

（８）前各号の他、就業規則並びにこれに基づく諸規程に違反したとき。

（９）その他前各号に準ずる程度の不都合な行為があったとき。

２　前項の認定は、所属長の内申により理事会にて行う。

（諭旨退職、懲戒解雇の事由）

第54条ノ２　職員が次の各号の一に該当するときは諭旨退職又は懲戒解雇に処する。ただし、情状により減給又は出勤停止にとどめることがある。

（１）正当な理由なく無断欠勤が14日以上におよんだとき。

（２）重要な経歴を偽り、その他不正な方法で採用されたとき。

(3)正当な理由なく職務上の指揮系統を乱し、又は上司の指示に従わないとき。
(4)他人に暴行、脅迫その他不正な手段を加え他人の業務を妨げ、又は妨げようとしたとき。
(5)本法人又は他人に対し誹謗中傷を行い、信用を失墜させ、又は名誉を傷つけたとき。
(6)本法人の公金を不正に流用又は費消したとき。
(7)本法人の金品、文書、データ等を許可なく持ち出し、又は搾取もしくは横領したとき、あるいはこれらの行為をしようとしたとき。
(8)本法人の機密ないし業務上の重要な情報(番号利用法上の特定個人情報ファイルを含む)を外部に漏らし、又は漏らそうとしたとき。
(9)故意又は重大な過失により本法人に著しい損害を与えたとき。
(10)業務を利用し金品その他を授受、貸借又は搾取して私利を図ったとき。
(11)自己の非行に起因して禁錮以上の刑の確定判決の言い渡しを受けたとき。
(12)数回にわたり譴責、減給又は出勤停止を受けたにもかかわらず、なお改悛の見込みがないとき。
(13)第35条「遵守事項」及び第35条ノ2「ハラスメントの禁止」に違反し、その情状が重く酌量の余地がないとき。
(14)前条各号の事由によるものでその情状が重く酌量の余地がないとき。
(15)その他前各号に準ずる程度の不都合の行為があったとき。

2　前項の認定は、所属長の内申により理事会にて行う。

(懲戒の軽減)

第55条　懲戒は、特に情状酌量の余地があるか、もしくは改悛の情が明らかに認められるときは、事後においても軽減することができる。

(異議の申立)

第56条　懲戒に関するこの規則の適用について異議があるときは、本人は所属長を通じて発令の日から2週間以内に異議の申立をなすことができる。

第10章　福利厚生

(研究補助)

第57条　職務に関する研究に資するため、毎年一定額の研究補助を行うことがある。

(留学補助)

第58条　職務に関する研究のため国内又は国外に留学する者について理事長が特に必要と認めたときは、補助を行うことがある。

(慶弔等)

第59条　職員の慶弔等に関する事項は、別に定める。

(授業料の減免)

第60条　職員又は職員の子供が本学に在学するときは、別に定めるところにより授業料等を減免する。

附　則

1　この規則は、昭和43年５月１日から施行する。

2　この規則の施行の日から、現行の「学校法人相模女子大学服務規定」はこれを廃止する。

3　昭和58年２月２日一部改訂

4　昭和62年４月16日一部改訂、昭和62年４月１日から施行する。

5　昭和62年10月１日一部改訂、昭和62年４月１日から施行する。

6　昭和63年６月30日一部改訂、昭和63年７月11日から施行する。

7　平成２年２月22日一部改訂、同日から施行する。

8　平成３年６月27日一部改訂、同日から施行する。

9　平成４年３月13日一部改訂、平成４年４月１日から施行する。

10　平成５年２月18日一部改定、平成５年４月１日から施行する。

11　平成５年３月25日一部改定、平成５年４月１日から施行する。

12　平成５年７月15日一部改定、平成６年３月31日から施行する。

（経過措置）

13　附則12の改定にかかわらず、大学教育職員及び事務職員については、次のとおり経過措置を講ずる。

（１）　大学教育職員（助手を除く）

定年退職後、１年更新の非常勤講師として継続採用することができる改定前の制限年齢77歳を、平成６年度76歳、７年度75歳、８年度74歳、９年度73歳とし、10年度以降継続採用は行わない。

（２）　事務職員

定年退職後、１年更新の嘱託として継続採用することができる改定前の制限年齢72歳を平成６年度71歳とし、７年度以降は継続採用は行わない。

14　平成８年５月22日一部改定、平成９年４月１日から施行する。ただし、第32条（定年）については、経過措置として、平成13年度までの間、下記「年度別定年退職該当年齢表」を適用する。

年度別定年退職該当年齢表（1997年～2001年）

職種 年度	大学教員 大学非常勤講師	助手・併設教員 事務職員・事務嘱託 併設非常勤講師	労務職員 労務嘱託
1997（平９）	1925年04月02日生～ 1927年04月01日生（満72歳～満71歳）	1927年04月02日生～ 1929年04月01日生（満70歳～満69歳）	1930年04月02日生～ 1932年04月01日生（満67歳～満66歳）
1998（平10）	1927年04月02日生～	1929年04月02日生～	1932年04月02日生～

	1929年04月01日生（満71歳～満70歳）	1931年04月01日生（満69歳～満68歳）	1934年04月01日生（満66歳～満65歳）
1999（平11）	1929年04月02日生～1931年04月01日生（満70歳～満69歳）	1931年04月02日生～1933年04月01日生（満68歳～満67歳）	1934年04月02日生～1936年04月01日生（満65歳～満64歳）
2000（平12）	1931年04月02日生～1933年04月01日生（満69歳～満68歳）	1933年04月02日生～1935年04月01日生（満67歳～満66歳）	1936年04月02日生～1938年04月01日生（満64歳～満63歳）
2001（平13）	1933年04月02日生～1935年04月01日生（満68歳～満67歳）	1935年04月02日生～1937年04月01日生（満66歳～満65歳）	1938年04月02日生～1940年04月01日生（満63歳～満62歳）

15　平成10年２月12日一部改定、平成10年４月１日から施行する。

16　平成10年３月20日一部改定、平成10年４月１日から施行する。

17　平成11年３月25日一部改定、平成11年４月１日から施行する。

18　平成12年１月20日一部改定、平成12年１月20日から施行する。

19　平成13年４月12日一部改定、平成13年４月１日から施行する。

20　平成17年11月17日一部改定、平成17年４月１日から施行する。

21　平成21年４月16日一部改定、平成21年４月１日から施行する。

22　平成22年４月15日一部改正、平成22年４月15日から施行する。

23　平成24年２月23日一部改正、平成24年４月１日から施行する。ただし、第14条第3項の付与日数は、平成22年４月15日以降に採用された者に適用する。

24　平成28年３月17日一部改正、平成28年４月１日から施行する。

25　平成28年11月24日一部改正、平成29年１月１日から施行する。

26　平成28年12月15日一部改正、平成29年１月１日から施行する。

27　令和２年12月17日一部改正、令和３年１月１日から施行する。ただし、第14条ノ７については、令和４年４月１日から施行する。

28　令和４年３月24日一部改正、令和４年４月１日から施行する。

29　令和４年12月22日一部改正、令和５年４月１日から施行する。

30　令和５年２月 22 日一部改正、令和５年４月１日から施行する。

31　令和６年３月21日一部改正、令和６年４月１日から施行する。

32　令和７年３月 19 日一部改正、令和７年４月１日から施行する。

【資料7】

相模女子大学特任教員に関する規程

平成 18 年 11 月 16 日
制定

（目的）

第１条　この規程は相模女子大学（以下「本学」という。）において任用される特任教員に関し定めることを目的とする。

（特任教員の定義）

第２条　この規程に定める特任教員とは、職務及び期間を限定して任用される本学の専任教員をいう。

（資格）

第３条　特任教員は、実務家、他機関などの者のうち、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

(1) 学術・芸術・文化について特に優れた業績を有する者、またはそれと同等以上の知識及び経験を有する者。

(2) 実務において特に優れた知識及び経験を有する者。

（身分）

第４条　特任教員の身分は、特任教授、特任准教授とする。

（職務）

第５条　特任教員は、本学における教育・研究、その他の職務に従事する。

（任用期間）

第６条　特任教員の任用期間は、原則として５年間を超えないものとする。

２　前項の規定にかかわらず、特任教員は、満 75 歳で定年とし、定年に達した日の年度の末日をもって退職するものとする。

（任用の手続き）

第７条　特任教員は、学長の推薦により理事長がこれを委嘱する。

（待遇）

第８条　特任教員に適用される待遇については、別に定める。

（細則の制定）

第９条　この規程の運用について必要と認める場合は、細則を定めることができる。

附則

１　この規程は、平成 19 年４月１日から施行する。

２　令和５年６月 29 日一部改正、令和６年４月１日から施行する。

３　令和７年３月 12 日一部改正、令和８年４月１日から施行する。

完成年度（案）

国際コミュニケーション学科　授業時間割

【資料8】国際コミュニケーション学科時間割

【春学期】

時限	曜日		月			火			水			木			金		
	学年	セメスター	授業科目	担当者	教室	授業科目	担当者	教室	授業科目	担当者	教室	授業科目	担当者	教室	授業科目	担当者	教室
1（9:00～10:30）	1	1セメ	□ 中国語IB	熊　慧蘇	733	□ 地域から学ぶ知の実践A □ 社会貢献・地域連携 □ AIと社会A □ 英語IH □ 英語IIG □ 英語IIW Speaking　Skills IA Speaking　Skills IB Speaking　Skills IC	春山　純一 湧口、久保 三橋　大輔 伊藤　達也 朝熊　悠 宮本　節子 Jason David Gold D. Barnett Goddard James Allen	721 711 1126 734 1121 1122 736 144 134	□ 経済学A □ ラケットスポーツ5 □ 韓国／朝鮮語IA □ 中国語IA □ スペイン語IA	杉山　章 中村　浩平 宣　元錫 薬　会 清水　純子	1115 体育館 733 727 1113	□ ジェンダー論A □ データサイエンスA □ 健康スポーツ5 □ 英語IIA □ 中国語IC □ フランス語IG □ イタリア語IA	永山　聡子 三橋　大輔 園部　豊 Bates James William 黄　耀進 山下　雄大 Martina　Diego	2131 1111 体育館 1141 732 1142 733	□ 言語学A □ ラケットスポーツ13 □ 英語II □ 中国語II □ フランス語IA □ ドイツ語IC	永谷　直子 泉　圭祐 石垣　弥麻 黄　耀進 大前　元伸 鈴木　里香	314 体育館 1143 723 144 1122
	2	3セメ	■ 特別支援教育概論A ■ 学校図書館サービス論	増南　太志 中塚　ゆり子	1123 1113				■ 図書館サービス概論	宮原　志津子	1127	□ 中国語II Speaking　Skills IIIA Speaking　Skills IIIB Speaking　Skills IIIC	劉　霊均 A. Brockman 上條　美和子 N.Jacobs	736 132 1126 144	■ 学校経営と学校図書館	宮原　志津子	2143
	3	5セメ	■ 情報サービス演習IIA □ 就職支援講座	宮原　志津子 中村　真理	1111 2131	英語科教育法（中・高）I	赤塚　祐哉	1113	■ 情報資源組織論IIA	金井　喜一郎	1111						
	4	7セメ															
2（10:40～12:10）	1	1セメ	□ 身体の科学B	笹田　周作	2131	□ 地域から学ぶ知の実践B □ AIと社会B □ 英語IM □ 英語IIH □ 英語IIQ □ 英語IIIC	春山　純一 三橋　大輔 伊藤　達也 朝熊　悠 D. Barnett 上原　寿和子	721 1126 734 1121 144 1141	□ 社会学C □ 書道A □ キャリア・プランニングB □ 健康スポーツ3 □ 韓国／朝鮮語IB □ スペイン語IB 英語文章読解A 英語文章読解B	杉山　章 下田　章平 小泉　京美 中村　浩平 宣　元錫 清水　純子 中林　正身 堤　龍一郎	1115 1134 1133 体育館 733 1113 1121 1122	□ ジェンダー論B □ ラケットスポーツ7 □ 健康スポーツ1 □ 英語IIB □ 韓国／朝鮮語IE □ 中国語ID □ 中国語IE □ イタリア語IB ■ 教育の制度A	永山　聡子 岩見　亮 山岡　若菜 Bates James William 申　明浩 黄　耀進 劉　霊均 Martina　Diego 森田　満夫	2131 テニスコート体育館 831 1141 2141 732 736 733 1114	□ メディアと文化C □ アートA □ くらしと文化A □ ビジネス実務総論A □ ラケットスポーツ1 □ 英語IB □ 中国語IJ □ フランス語IB 国際教養入門	松下　優一 伊東、山本 村松　彰子 中家　八千代 泉　圭祐 三井　敏朗 黄　耀進 大前　元伸 渡辺　幸倫他	711 133 314 2131 テニスコート体育館 134 723 144 2132
	2	3セメ	□ フランス語III 英語科教育法（中）I	坂本　佳子 赤塚　祐哉	1113 1122	複合芸術 Integrated Communication　I	中林　正身 Bourke Gary	1113 132	□ 中国語IIA	薬　会	727	□ フランス語IIB TOEIC IIA TOEIC IIB	山下　雄大 渡辺　幸倫 野添　絹子	1142 727 142	上級英語読解・表現	宮本　節子	1122
	3	5セメ	■ 情報資源組織演習IA	金井　喜一郎	1111	English for Presentation	Jason David Gold	1114	■ ＜介護等体験、事前事後指導A＞ ■ 情報サービス演習IA ■ 情報資源組織論IIB	松永　幸子 宮原　志津子 金井　喜一郎	1123 1144 1111	Integrated Communication　III	N.Jacobs	132	■ 図書館制度・経営論	葉山　敦美	1114
	4	7セメ				グローバル教育 I	赤塚　祐哉	2126									
3（13:00～14:30）	1	1セメ	□ スペイン語IC	松本　有希子	723	□ 基礎教育講座Ba □ 基礎教育講座Bb □ 倫理学A □ 言語と異文化 □ 英語IW □ 英語Ii □ 英語IVC □ フランス語IF ■ 教育相談A	堤　龍一郎 赤塚　祐哉 伊東　俊彦 松永　幸子他 朝熊　悠 伊藤　達也 上原　寿和子 平澤　暢之 圖子田　優子	723 725 314 711 1121 134 1141 1142 722	□ メディアと文化A □ ウエルネスA □ 英語Ig □ 英語IIP □ 韓国／朝鮮語IC □ 韓国／朝鮮語ID □ フランス語ID □ スペイン語IG	塚田　修一 肥後　梨恵子 野添　絹子 上條　美和子 権　赫麟 申　明浩 長谷川　朋太郎 清水　純子	314 711 1143 2141 736 732 134 1113	□ 日本の社会と文化A □ キャリア・プランニングA □ ラケットスポーツ9 □ 健康スポーツ7 □ 韓国／朝鮮語IM □ 中国語IF □ 中国語IM	犬飼　智 木崎　英司 岩見　亮 山岡　若菜 申　明浩 黄　耀進 劉　霊均	2131 731 テニスコート体育館 833 2141 732 736	□ 諸外国の社会と文化C □ メディアと文化D □ 球技スポーツ3 □ 英語IC □ 英語IK □ フランス語IC	鄭　安君 松下　優一 肥後　梨恵子 三井　敏朗 石垣　弥麻 大前　元伸	711 314 体育館 134 1143 144
	2	3セメ	芸術作品鑑賞（英語文学）	中村　真理	1126	□ 中国語III □ ドイツ語III 英語音声学	岡部　芳広 中川　純子 上條　美和子	2141 1123 2142	□ 韓国／朝鮮語III グローバル文化 II（フィリピン、タイ）	宣　元錫 渡辺　幸倫	733 1127	□ ドイツ語IIA □ イタリア語IIA	堀　弥子 Martina　Diego	1113 733	英語文学 ■ 教職論A	中林　正身 富田　充保	1122 145
	3	5セメ	教育演習 I ■ 情報資源組織演習IB	赤塚　祐哉 金井　喜一郎	2122 1111				English for Advanced Speaking I	Bourke Gary	2121	国際教育論 I	木村　光宏	1122	English for Translation	宮本　節子	1127
	4	7セメ				Advanced English Studies I	Bourke Gary	2121	■ 事前・事後指導A ■ 事前・事後指導B	富田　充保 松永　幸子	734 141						
4（14:40～16:10）	1	1セメ	□ コンピュータリテラシーH □ 諸外国の社会と文化A □ 健康スポーツ9 -1 (後) □ スペイン語IH	佐々木　康成 舟橋　倫子 笹田　周作 松本　有希子	2142 732 144 723	□ 日本国憲法A □ 心理学A □ 英語ID □ 英語II I □ ドイツ語IB ■ カリキュラム論A (前) ■ 教育方法論A (前)	松井　丈晴 石川　勇一 上原　寿和子 上條　美和子 中川　純子 松永　幸子 松永　幸子	143 711 1141 2141 1123 1114 1114	□ 書道B □ 韓国／朝鮮語IG □ 韓国／朝鮮語IO □ フランス語IE ■ 道徳教育論A	足立　敦子 権　赫麟 宣　元錫 長谷川　朋太郎 松永　幸子	1134 736 733 134 142,143	□ 文学A □ 中国語IN □ ドイツ語IA	江口　文恵 劉　霊均 堀　弥子	143 736 1113	□ 身体の科学A □ 球技スポーツ1 ■ 教育心理学A	笹田　周作 肥後　梨恵子 茂垣　まどか	143 体育館 1124
	2	3セメ				□ フランス語IIA 英語学概論	平澤　暢之 伊藤　達也	1142 131	□ 韓国／朝鮮語IIA	申　明浩	732	□ 韓国／朝鮮語IIE	申　明浩	2141			
	3	5セメ	English for Business ■ 学校図書館メディアの構成	Bourke Gary 金井　喜一郎	1114 1113	English for Hospitality	渡辺　幸倫	1113	アート＆コミュニケーション演習 I 文化演習 I	堤　龍一郎 中村　真理	1114 132				コースワーク演習 I	宮本　節子	1121
	4	7セメ															
5（16:20～17:50）	1	1セメ	□ 健康スポーツ9 -2	笹田　周作	144	□ 日本国憲法B □ 社会学B □ ドイツ語ID ■ 特別活動論A	松井　丈晴 木本　玲一 中川　純子 松永　幸子	144 314 1123 131,132	□ 韓国／朝鮮語IK □ 韓国／朝鮮語IQ	権　赫麟 宣　元錫	736 733	□ 健康スポーツ11 ■ 生涯学習概論	中野渡　快人 宮崎　敦子	体育館 1125	□ 球技スポーツ7 ■ 教育の原理A	肥後　梨恵子 原　圭寛	体育館 722
	2	3セメ	グローバル文化 I（伝統的英語圏）	堤　龍一郎	1124				□ 音楽A ■ 図書館情報技術論 ■ 情報資源組織論IB	渡邊　佐恵子 池下　花恵 山川　恭子	314 2143 1111	■ 情報資源組織論IA	渡邊　晃一朗	1111			
	3	5セメ				□ SPI対策講座	松中　玲子	2131							■ 情報メディアの活用	池下　花恵	421
	4	7セメ				地域研究：韓国 I	宣　元錫	1114	コミュニケーション・デザイン I	堤　龍一郎	1114				コースワーク・デザイン I	宮本　節子	1121
6（18:00～19:30）	1	1セメ															
	2	3セメ															
	3	5セメ															
	4	7セメ															

【通年集中】□地域協働活動　中村　真理　2年生
【春学期集中】□さがみ総合講座B　渡辺　幸倫　1年生
【通年集中】□シーズンスポーツ1　肥後　梨恵子　1年生
【通年集中】□シーズンスポーツ2　肥後　梨恵子　1年生
【春学期集中】□フランス語IN　大前　元伸　1年生

【春学期集中】越境・協働学習教育 I　宮本　節子　2年生
【春学期集中】スクール・インターンシップII　赤塚　祐哉　3年生

【春学期集中】■総合的な学習の時間の指導A　制野　俊弘　2年生
【春学期集中】■情報通信技術の活用A　加藤　由樹　3年生

【通年集中】□問題発見・解決型プロジェクト実践I　池田　仁人　3年生
【通年集中】■図書館実習（事前・事後の指導を含む）　宮原　志津子　3年生

【通年集中】□問題発見・解決型プロジェクト実践II　池田　仁人　4年生
【通年集中】■教育実習I　富田　充保　4年生
【通年集中】■教育実習II　松永　幸子　4年生

＜履修上の注意＞
1. 年次配当について
この時間割表には、1～8セメスター（短期大学部は1～4セメスター）開講される科目を載せています。1年生は、1・2セメスター開講科目のみ履修でき、2年生以上は下の学年の開講科目も受講できます。
2. 授業科目名について
（ ）は授業科目名と一体のものです。
3. 複数クラス開講について（科目の末尾の記号A・B・・・）
同一授業科目で複数開講されているものを区別する記号です。
履修指定のないものは自由に選択できますが、専門科目において、一部の学科では、指定されたクラスを受講する必要があります。
4. □、■、*の記号について
□：全学共通科目
■：教職科目、司書・学校司書・司書教諭科目のいずれか
＊：他学科が開講している、コード・シェアリング科目

5. 教室欄について
(1) 授業が行われる教室の略称を示し、数字は教室番号となります。
(2) 履修学生数等の関係により、教室を変更することがありますので、各学期始業時は、掲示板にて教室変更の有無を確認してくださ
(3) 1科目に対し、教室が複数掲載されている場合は、日によって使用する教室が異なることがあります。担当教員の指示、もしくは掲示板の指示に従ってください。
6. 専門教育科目について
(1) [でつながっている科目は、2限続きもしくは3限続きで授業が行われることを示します。続きの授業は「-1、-2」のように、科目名の末尾に数字を記載しています。
(2) (前) のついている科目は、該当する時限の「前半まで授業が行われる」ということを示します。
(3) (後) のついている科目は、該当する時限の「後半から授業が行われる」ということを示します。

完成年度（案）

国際コミュニケーション学科　授業時間割

【秋学期】

時限	曜日	月			火			水			木			金		
	学年	授業科目	担当者	教室	授業科目	担当者	教室	授業科目	担当者	教室	授業科目	担当者	教室	授業科目	担当者	教室
1（9:00～10:30）	1 2セメ	□ 倫理学C □ 中国語IH	本郷 朝香 熊 慧蘇	1115 733	□ データサイエンスB □ ビジネス実務総論D □ 英語IG □ 英語IV □ 英語IN Speaking Skills IIA Speaking Skills IIB Speaking Skills IIC	三橋 大輔 木崎 英司 伊藤 達也 朝熊 悠 宮本 節子 Jason David Gold D. Barnett Goddard James Allen	1143 722 734 1121 1142 736 144 134	□ 経済学B □ 社会学D □ ラケットスポーツ6 □ 韓国／朝鮮語IP □ 中国語IG □ スペイン語IF	湧口 清隆 杉山 章 中村 浩平 宣 元錫 薬 会 清水 純子	133 145 体育館 733 727 1113	□ 健康スポーツ6 □ 英語IIE □ 中国語IIC □ フランス語IL □ イタリア語IC	園部 豊 Bates James William 黄 耀進 山下 雄大 Martina Diego	体育館 1141 134 1142 733	□ さがみ発想講座 □ 書道D □ 球技スポーツ8 □ 英語IN □ 中国語IK □ フランス語IH □ ドイツ語IE	池田 仁人他 津村 幸恵 泉 圭祐 石垣 弥麻 黄 耀進 大前 元伸 鈴木 里香	1123 1134 体育館 1143 134 144 1122
	2 4セメ	■ 特別支援教育概論B	増南 太志	1114				英語文章表現A 英語文章表現B ■ 図書館基礎特論 ■ 図書館施設論	中林 正身 堤 龍一郎 金井 喜一郎 宮原 志津子	1121 1122 1111 1144	Speaking Skills IVA Speaking Skills IVB Speaking Skills IVC ■ 児童サービス論A	A. Brockman 上條 美和子 N.Jacobs 小泉 美優	132 1126 144 131			
	3 6セメ	■ 情報サービス演習IIB	宮原 志津子	1111										■ 学習指導と学校図書館	宮原 志津子	1114
	4 8セメ										■ 教職実践演習（中・高）A ■ 教職実践演習（中・高）B	松永 幸子他 富田 充保他	1125 1123	Advanced English Studies II	Jason David Gold	736
2（10:40～12:10）	1 2セメ	□ ビジネス実務総論B □ 中国語IIE	中家 八千代 熊 慧蘇	2131 733	□ データサイエンスC □ 英語IO □ 英語IID □ 英語IIL	三橋 大輔 伊藤 達也 上原 寿和子 朝熊 悠	1143 734 1141 1121	□ キャリア・プランニングC □ 健康スポーツ4 □ 韓国／朝鮮語IIB □ 中国語IIB □ スペイン語IIA	小泉 京美 中村 浩平 宣 元錫 薬 会 清水 純子	1124 体育館 733 727 1113	□ AIと社会C □ ラケットスポーツ8 □ 健康スポーツ2 □ 英語IIU □ 韓国／朝鮮語IID □ 中国語IID □ フランス語IM □ イタリア語ID TOEIC IA TOEIC IB ■ 教育の制度B	三橋 大輔 岩見 亮 山岡 若菜 Bates James William 申 明浩 黄 耀進 山下 雄大 Martina Diego 渡辺 幸倫 野添 絢子 森田 満夫	1124 テニスコート,体育館 831 1141 2141 134 1142 733 1122 1121 1114	□ アートB □ ラケットスポーツ2 □ 英語IJ □ 英語IP □ 中国語IIH □ フランス語II ■ 道徳教育論B	伊東、山本 泉 圭祐 三井 敏朗 石垣 弥麻 黄 耀進 大前 元伸 松永 幸子	133 テニスコート,体育館 1122 1143 134 144 131,132
	2 4セメ	英語科教育法（中）II ■ 学校図書館情報サービス論	赤塚 祐哉 中塚 ゆり子	1122 1111	Integrated Communication II ポピュラーアート（韓国系）	Bourke Gary 宣 元錫	1122 2133	□ 中国語IV グローバル文化III（韓国、台湾） ■ 読書と豊かな人間性	岡部 芳広 宣 元錫 金井 喜一郎	725 1114 1123	■ 児童サービス論B	小泉 美優	131	異文化コミュニケーション	渡辺 幸倫	1125
	3 6セメ	■ 情報資源組織演習IIB	金井 喜一郎	1144	English for Relationship-building	Jason David Gold	132	■ 情報サービス演習IB	宮原 志津子	1144	Integrated Communication IV	N.Jacobs	727	■ 図書館サービス特論I	宮原 志津子	1113
	4 8セメ															
3（13:00～14:30）	1 2セメ	□ 心理学B □ 情報リテラシーF □ 書道C □ ビジネス実務総論C □ スペイン語IIB ■ 教育の原理B	武部 正明 佐々木 康成 早川 桂央 中家 八千代 松本 有希子 山本 一生	314 2142 1134 1125 734 725	□ 法学 □ 英語IIY □ 英語IIIA □ フランス語IK □ ドイツ語IIB □ メディアと文化B	松井 丈晴 上原 寿和子 上條 美和子 平澤 暢之 中川 純子 井坂 聡	134 1141 2133 1142 725 314	□ 言語学B □ ウエルネスB □ 英語IVD □ 韓国／朝鮮語IF □ フランス語IC □ スペイン語II	田代 ひとみ 肥後 梨恵子 上條 美和子 権 赫麟 長谷川 朋太郎 清水 純子	2131 711 2142 734 1114 1113	□ コンピュータリテラシーK □ ラケットスポーツ10 □ 健康スポーツ8 □ 英語Ie □ 韓国／朝鮮語IH □ 中国語IL □ 中国語IIF □ イタリア語IIB	窪田 尚 岩見 亮 山岡 若菜 野添 絢子 申 明浩 劉 霊均 黄 耀進 Martina Diego	2133 テニスコート,体育館 831 1143 2141 725 134 733	□ 諸外国の社会と文化B □ 英語IU アジアパシフィック・スタディーズ ■ 教育相談B	鄭 安君 三井 敏朗 上條美和子 半田 知佳	1124 1122 1113 141
	2 4セメ	映像芸術 ■ 情報サービス論A	堤 龍一郎 山川 恭子	1113 1111				□ 韓国／朝鮮語IV 国際日本学	宣 元錫 Bourke Gary	733 1126						
	3 6セメ	教育演習II ■ 情報資源組織演習IIA	赤塚 祐哉 金井 喜一郎	2122 1144	国際教育論II 文化演習II ■ 図書館サービス特論II	赤塚 祐哉 宣 元錫 金井 喜一郎	1113 2122 723	コースワーク演習II	宮本 節子	2122	国際教育論III	松﨑 秀彰	1113			
	4 8セメ							グローバル教育II	赤塚 祐哉	2125						
4（14:40～16:10）	1 2セメ	□ 情報リテラシーG □ 健康スポーツ14 -1 □ 英語IS □ スペイン語ID ■ 図書館概論	佐々木 康成 笹田 周作 宮本 節子 松本 有希子 土屋 深優	2142 131 1114 734 1125	□ 日本国憲法C □ くらしと文化B □ 日本の社会と文化B □ 球技スポーツ10 □ 英語Id □ 英語IIa □ 英語IVB □ フランス語IIE □ ドイツ語IF ■ 特別活動論B	松井 丈晴 鈴木 勝己 松下 みどり 宗野 文俊 伊藤 達也 上原 寿和子 上條 美和子 平澤 暢之 中川 純子 松永 幸子	134 2132 2131 体育館 144 1141 2142 1142 725 131,132	□ 情報処理概論B □ 英語IQ □ 英語IT □ 英語IIIB □ 韓国／朝鮮語IJ □ 韓国／朝鮮語IIC □ フランス語IID ■ 生徒・進路指導A	佐々木 康成 野添 絢子 中村 真理 上條 美和子 権 赫麟 宣 元錫 長谷川 朋太郎 富田 充保	731 723 736 2142 734 733 1114 1126	□ 社会学A □ 健康スポーツ10 □ 韓国／朝鮮語II □ 中国語IJ □ ドイツ語IG ■ 生徒・進路指導B	松下 優一 中野渡 快人 申 明浩 劉 霊均 堀 弥子 三浦 芳恵	2131 体育館 2141 725 1113 1114	□ 文学B □ ラケットスポーツ14 □ 中国語IIG ■ 学校教育概論	中林 正身 肥後 梨恵子 鄭 安君 諏訪部 真史	314 体育館 1114 1131
	2 4セメ	■ 情報サービス論B	山川 恭子	1111	映像文化コミュニケーション	堤 龍一郎	723	国際韓国学	宣 元錫	1141				■ 教職論B	富田 充保	1123
	3 6セメ				アート＆コミュニケーション演習II	中林 正身	2123	応用言語学	渡辺 幸倫	144				英語科教育法（中・高）II	赤塚 祐哉	1113
	4 8セメ															
5（16:20～17:50）	1 2セメ	□ 情報リテラシーH □ 健康スポーツ14 -2 □ スペイン語IE	佐々木 康成 笹田 周作 松本 有希子	2142 131 734	□ 日本国憲法D ■ カリキュラム論B（集中） ■ 教育方法論B（後）	松井 丈晴 松永 幸子 松永 幸子	134 1121 1121	□ 韓国／朝鮮語IL □ フランス語IJ	権 赫麟 長谷川 朋太郎	734 1114	□ 情報リテラシーE □ 健康スポーツ12 □ 韓国／朝鮮語IN □ 中国語IIK ■ 図書館情報資源概論 ■ 図書・図書館史	窪田 尚 中野渡 快人 申 明浩 劉 霊均 渡邊 晃一朗 松井 健人	2133 体育館 2141 725 1111 1126	□ 倫理学B □ ラケットスポーツ12 ■ 教育心理学B	伊東 俊彦 肥後 梨恵子 茂垣 まどか	711 体育館 1124
	2 4セメ	TOEIC III	高橋 基治	1143												
	3 6セメ				English for Advanced Speaking II	Bourke Gary	1114									
	4 8セメ	コミュニケーション・デザインII	堤 龍一郎	2123	地域研究：韓国II	宣 元錫	1113	コースワーク・デザインII	宮本 節子	1113						
6（18:00～19:30）	1 2セメ															
	2 4セメ															
	3 6セメ															
	4 8セメ															

【秋学期集中】■総合的な学習の時間の指導B　制野 俊弘　2年生
【秋学期集中】■情報通信技術の活用B　加藤 由樹　3年生

【秋学期集中】越境・協働学習教育II　宮本 節子　2年生
【秋学期集中】スクール・インターンシップI　赤塚 祐哉　2年生

【資料９】主な学術雑誌

No.	タイトル	電子ジャーナル	外国書
1	ビブリア / 典籍學會 [編集]		
2	現代の図書館 / 日本図書館協会 [編集]		
3	学校図書館 : 全国学校図書館協議会機関誌		
4	医学図書館 / 日本医学図書館協議会 [編]		
5	児童図書館 / 「児童図書館」編集委員会		
6	こどもの図書館 / 児童図書館研究会		
7	Library and information science		
8	みんなの図書館 / 図書館問題研究会 [編集]		
9	日本図書館情報学会誌 / 日本図書館情報学会編集		
10	専門図書館		
11	圖書館界		
12	短期大学図書館研究		
13	圖書館雜誌 / 日本文庫協會 [編]		
14	Technical services / 図書館技術研究会		
15	図書館科学 / 図書館科学会		
16	図書館史研究 / 図書館史研究会 [編]		
17	図書館研究シリーズ / 国立国会図書館 [編]		
18	図書館文化史研究 / 日本図書館文化史研究会 [編集]		
19	亞細亜		
20	世界文化		
21	環 : 歴史・環境・文明 : 学芸総合誌・季刊		
22	アジア経済 / アジア経済研究所 [編]		
23	道徳教育		
24	英語展望 / 英語教育協議会 [編]		
25	実践みんなの特別支援教育		
26	教育 / 国土社 [編]		
27	教育学研究 / 東京文理科大學教育學會		
28	教育心理学研究 / 日本教育心理学会		
29	教育経営 / 教育経営研究会		
30	教育心理		
31	教育評論 : 日本教職員組合機関誌		
32	教育と社會 / 社會教育聯合會 [編纂]		
33	季刊教育法		
34	教育ジャーナル		
35	興亞教育 / 東亞教育協會編輯		
36	教育雑誌 / 文部省		
37	留学ジャーナル / 国際文化教育センター		
38	指導と評価 / 教育評価研究会 [編]		
39	特別支援教育研究 / 全日本特別支援教育研究連盟編集		
40	Art it = 季刊アートイット		
41	月刊文化財 / 文化財保護委員会監修		

【資料９】主な学術雑誌

No.	タイトル	電子ジャーナル	外国書
42	BT : 美術手帖 : bijutsu techo : monthly art magazine		
43	現代芸術 / 記録芸術の会		
44	季刊現代芸術 / 記録芸術の会		
45	月刊言語 / 大修館書店 [編]		
46	言語生活 / 言語生活編集部 [編]		
47	言語研究 / 日本言語學會 [編]		
48	Anglica		
49	英語教育 = The English teachers' magazine		
50	英語青年 : the rising generation		
51	The English teachers' magazine		
52	現代英語教育 / 研究社 [編]		
53	時事英語研究 / 研究社出版		
54	時事英語 = Current English		
55	アメリカ文学 : 日本アメリカ文学会東京支部会報		
56	アルビオン = Albion / 京大英文學研究會編輯		
57	英文学研究		
58	Bulletin of the American Library Association		○
59	College and research libraries		○
60	Library & information science abstracts / Library Association		○
61	The library quarterly		○
62	Library resources & technical services		○
63	Library journal		○
64	Foreign affairs : an American quarterly review		○
65	The journal of Japanese studies		○
66	Transactions of the Asiatic Society of Japan		○
67	The journal of special education		○
68	Variety's film reviews		○
69	Computer assisted language learning		○
70	JEGP : journal of English and Germanic philology		○
71	Language in society		○
72	Language learning : a quarterly journal of applied linguistics		○
73	Modern languages		○
74	PMLA : publications of the Modern Language Association of America		○
75	Word : journal of the Linguistic Circle of New York		○
76	American speech : a quarterly of linguistic usage		○
77	Anglia : Zeitschrift für englische Philologie		○
78	The bulletin of the Institute for Research in English Teaching		○
79	College English / National Council of Teachers of English		○
80	The English journal		○
81	English today		○
82	English language teaching journal		○

【資料９】主な学術雑誌

No.	タイトル	電子ジャーナル	外国書
83	Language : journal of the Linguistic Society of America		○
84	Studies in language		○
85	TESOL quarterly		○
86	American literature		○
87	Ariel : a review of international English literature		○
88	Abstracts of English studies		○
89	American literary history		○
90	Anglistica		○
91	The British critic		○
92	The Baker Street journal : an irregular quarterly of Sherlockiana		○
93	Critique : studies in modern fiction		○
94	The Chap-book		○
95	Contemporary literature		○
96	Canadian children's literature : a journal of criticism and review		○
97	The English review		○
98	English studies		○
99	English literature in transition : 1880-1920		○
100	Eighteenth century studies : a journal of literature and the arts		○
101	The Horn book		○
102	James Joyce quarterly		○
103	The London mercury		○
104	Literature		○
105	The loiterer		○
106	Mark Twain journal		○
107	Nineteenth-century fiction		○
108	Nineteenth-century literature		○
109	Poetry review		○
110	Prose studies : history, theory, criticism		○
111	Review of English studies		○
112	A Review of English literature		○
113	The Shakespeare quarterly		○
114	Studies in English literature 1500-1900		○
115	Studies in philology : a quarterly journal		○
116	Studies in short fiction		○
117	Studies in English literature		○
118	The Savoy : an illustrated quarterly		○
119	The Spectator / Addison, Steele and others		○
120	The Sewanee review		○
121	The Spectator		○
122	Transition		○
123	The Transatlantic review		○

【資料９】主な学術雑誌

No.	タイトル	電子ジャーナル	外国書
124	Yale literary magazine		○
125	The Yellow book : an illustrated quarterly		○
126	Asia Europe Journal	○	○
127	Asia Pacific Education Review	○	○
128	Asia Pacific Journal of Management	○	○
129	Asian Archaeology	○	○
130	Asian Bioethics Review	○	○
131	Asian Journal of Business Ethics	○	○
132	Asian Journal of Civil Engineering	○	○
133	Asian Journal of Criminology	○	○
134	Asian Journal of Philosophy	○	○
135	The Asia-Pacific Education Researcher	○	○
136	Asia-Pacific Financial Markets	○	○
137	Asia-Pacific Journal of Atmospheric Sciences	○	○
138	Asia-Pacific Journal of Regional Science	○	○
139	Cultural Studies of Science Education	○	○
140	East Asia	○	○
141	English Teaching & Learning	○	○
142	Global Public Policy and Governance	○	○
143	Global Social Welfare	○	○
144	International Journal of the Classical Tradition	○	○
145	International Journal of Global Business and Competitiveness	○	○
146	International Journal of Politics, Culture, and Society	○	○
147	International Review of Education	○	○
148	The Journal of East Asian Philosophy	○	○
149	Journal of East Asian Linguistics	○	○
150	Journal of Logic, Language and Information	○	○
	計	25	93

【資料10】

ユメカナ

2024年度 | 相模女子大学・相模女子大学短期大学部

夢をかなえるセンター

125th Anniversary

キャリア形成支援

発想力を育て、
未来を、社会を見つめ、
道を、答えを見つける
人になる。

9期連続
地域貢献度ランキング
全国女子大
No.1

相模女子大学
学園キャラクター
さがっぱ・ジョー

地域貢献度ランキング全国女子大学No.1!※1 「組織・制度分野」※2でも上位にランキング!

※1雑誌「日経グローカル」の調査「大学の地域貢献度ランキング」にて、本学は2011～2023年度（2016年度より隔年調査）の間、9期連続で全国女子大学のうち第1位を獲得しています。
※2「大学の地域貢献度ランキング」のうち、地域貢献の推進に向けた組織・制度面の取り組みを調査する項目です。

写真:「復興支援学生ボランティア委員会」の学生たち

夢をかなえるセンターは
「キャリア形成支援ポリシー」のもと

キャリア形成支援ポリシー

相模女子大学･相模女子大学短期大学部は、「社会との関わりの中で積み重ねる全ての経験を通して、社会と自分自身をしっかりと見つめ、自らの進む道を見つけ出し、人生を前向きに生きてゆくこと」を「キャリア形成」と位置付け、学生が、以下の力を身につけ、主体的に「キャリア形成」をするための「学びの場」を提供し、そこでの活動を支援します。

①興味･関心を幅広く持ち、物事の本質を見つめ、筋道を立てて問題を解決する力。

②社会との関わりにおける自分のありかたを考え、他者と柔軟なコミュニケーションをとり、協働できる力。

③「働くこと」の意義を理解し、自分らしい生き方を見つけ出し、プランニングできる力。

夢をかなえるセンター沿革

- 2017年3月　キャリア形成支援ポリシー制定
- 2018年3月　夢をかなえるセンター開設
- 2020年4月　「Sagamiチャレンジプログラム」新設
- 2021年1月　夢をかなえるセンター特設サイト開設

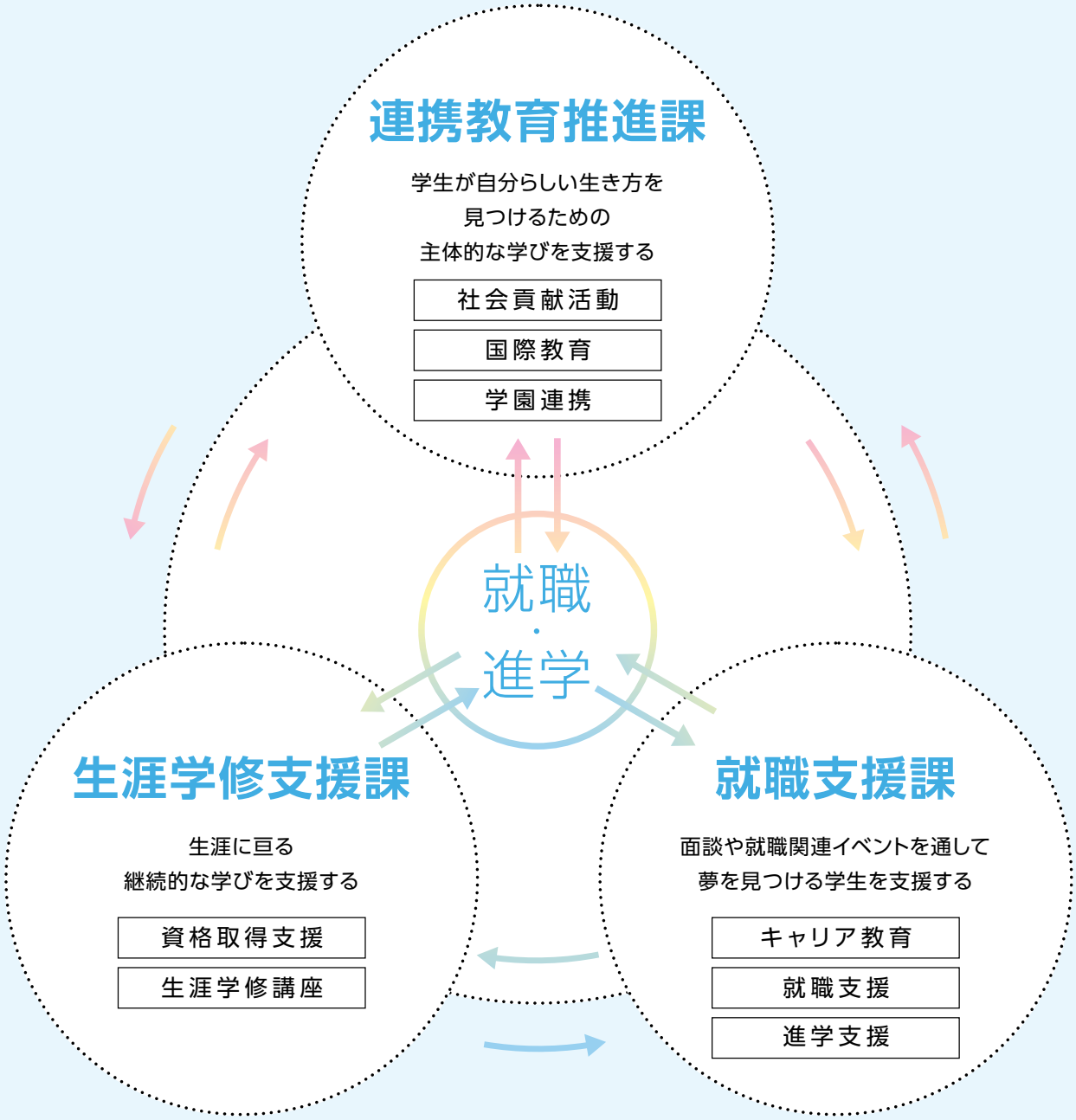
MESSAGE

相模女子大学･相模女子大学短期大学部　学長
田畑　雅英

夢をかなえるセンターは、上に掲げた本学のキャリア形成支援ポリシーの制定を受けて、その具現化のために設立されました。このパンフレットで具体的に見ていただけますように、学生の就職支援はもとより、地域連携なども含めた正課外の活動、また広く一般対象の生涯学修などに関わる業務を担当し、多様な成果をあげてまいりました。社会の中での自己実現と他者への貢献ができるように、学生各自が、基礎的な知力だけでなく、総合的な人間力を高めることを支援するのは大学の重要な責務と考えておりますが、その実現のために、当センターはこれからもできる限りの努力をしてまいります。どうかご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学生を支援しています。

夢をかなえるセンターにおける学びの支援体制



「Sagamiチャレンジプログラム」

本学では、学園スローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」のもと、
「しなやかな発想力と豊かな包容力を身につけながら、未来を、社会を見つめ、道を、答えを見つける人になる。」
そのような人材を育成することを教育目標に掲げています。
「Sagamiチャレンジプログラム」は、上記の教育目標に則り「キャリア形成支援ポリシー」のもと
学生の「キャリア形成」を支援するプログラムです。

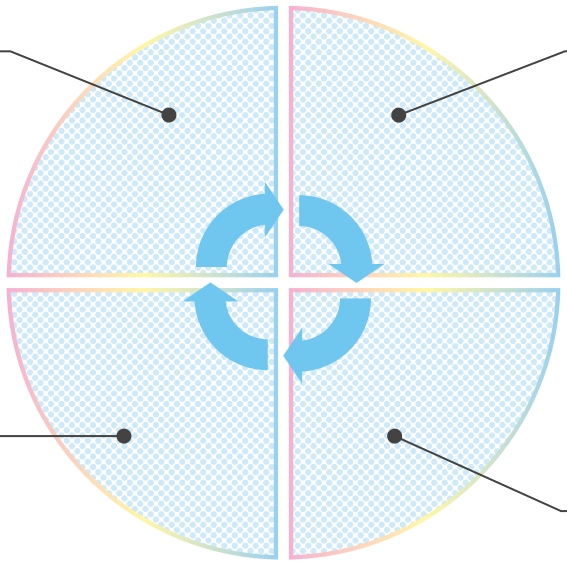
「Sagami チャレンジプログラム」 における学びの仕組み

マーガレットスタディ

すべての学科・学年の学生を対象とした正課外活動における学びの仕組み「マーガレットスタディ」。
それぞれの活動においてPDCAサイクルを回すことにより、
目標の達成度を確認しながら自身の成長に気づき、弱点を補うことで次の活動につなげています。

Action
スキルの補強

- 次の活動に向けての講座
  「キャリア☆カフェ」を受講し、
  スキルを補強



Plan
自己分析・目標設定

- 「Sagamiチャレンジプログラム」
  シラバスを使い、活動の目標や地
  域の課題を共有し、参加者を募集
- 目標設定に向けた講座
  「キャリア☆カフェ」の受講

Check
活動の振り返り

- 「活動報告書」への記載
- 「活動報告会」でのプレゼンテーション
- 目標設定に対する振り返りのための講座
  「キャリア☆カフェ」の受講

Do
各フィールドでの活動

- 学内外における地域活動／
  海外での語学研修・留学

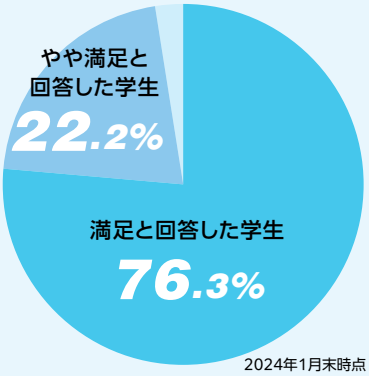
キャリア☆カフェ・ユメカナ★カフェとは？

《キャリア☆カフェ》 … 外部講師、教職員、地域の方など社会で働く（働いた）大人による講座・座談会です。
《ユメカナ★カフェ》 … 学生が主体となって開催する講座・座談会です。

とは？

数字で見る!!「Sagamiチャレンジプログラム」の満足度

満足度98.5%以上!



2024年1月末時点

心強いアドバイザー制度があります

「Sagami チャレンジプログラム」アドバイザー制度

教職員、卒業生、地域や企業の方、外部講師などが一丸となって学生を支援する制度です。

きめ細やかな支援

多様なバックグランドを持つ学内外様々な人がアドバイザーとなって学生が主体的に学ぶことができるよう支援します。

支援してくださる地域の方々

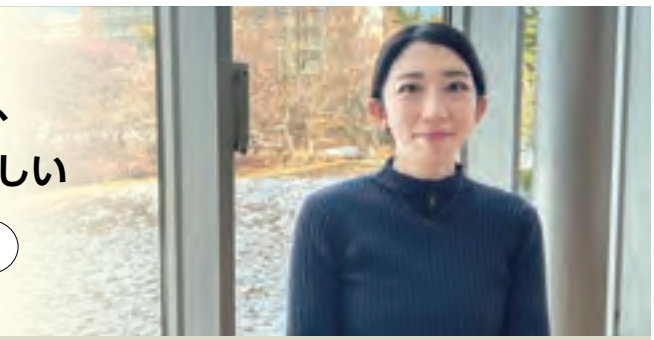
アドバイザーの役割

（例）

- 活動に対する指導や助言
- 「マーガレットスタディ」における、各種講座の企画・運営・講話
- 地域の人脈を活かしながら、関係各所と連携し、活動を企画・運営

卒業生アドバイザーからのメッセージ

学生時代に経験したことを共有し、在学生に充実した活動を行ってほしい



福岡県糸島市　女性のはたらき方研究プロジェクト

管理栄養学科　2020年度卒業　**深澤 多絵**

「Sagamiチャレンジプログラム」参加へのきっかけ

多様な働き方・生き方をする方々と関わりを持ち、自分自身のキャリア形成の軸となるものを得たかったことと、学年や学科を超えた繋がりが欲しかったことから、活動に参加しました。

卒業生アドバイザーに登録した理由

実際に活動に参加したからこそ感じたこと、経験したことを後輩に共有することにより、学生の活動がより充実したものになれば嬉しいなと思い、登録しました。また、社会人として経験したことを後輩に何か伝えられるのではないかと思ったのも登録した理由の1つです。

在学生へのメッセージ

活動に参加したことにより、コミュニケーション能力はもちろん、その経験で得た価値観や物事への考え方が、社会人になって活きていると感じます。また、活動で出会った糸島の地域の方々とは今でも繋がりがあります。このような出会いは一生ものです。ぜひ皆さんも「Sagami チャレンジプログラム」に参加してみてください。

「Sagamiチャレンジプログラム」に参

キャリア形成支援ポリシー

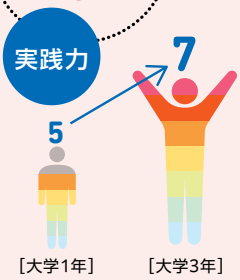
キャリア形成支援ポリシーにより学生が身につける力

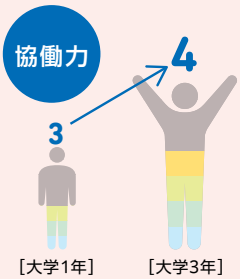
- ●興味・関心を幅広く持ち、物事の本質を見つめ、筋道を立てて問題を解決する力。
- ●社会との関わりにおける自分のありかたを考え、他者と柔軟なコミュニケーションをとり、協働できる力。
- ●「働くこと」の意義を理解し、自分らしい生き方を見つけ出し、プランニングできる力。

社会人基礎力テスト「PROG」で測定可能な9つの力

課題発見力	計画立案力	実践力
親和力	協働力	統率力
感情制御力	自信創出力	行動持続力

Case 1 実践力・協働力が伸びました！





武井 ひなきさん
学芸学部　子ども教育学科3年（撮影当時）
復興支援学生ボランティア委員会 所属

Student's Voice

私はSagamiチャレンジプログラムに参加をして、「実践力」と「協働力」の2つが大きく成長したと感じています。1年生から復興支援学生ボランティア委員会に所属し、今年は委員長を務めています。

「実践力」では、4月に「どのようなことをやりたいですか?」とメンバーに聞いたところ、「学園祭で出店したい!」と声が上がりました。そこから約半年間かけて大船渡のお菓子屋さんとのオンラインミーティング等を通し、メンバーの声を反映しながら、11月には学園祭でコラボスイーツを販売し大盛況で終えることができました。また、インスタグラムのフォロワーやいいねが伸び悩んでいることから、メンバーと話し合う機会を設け、更新頻度をあげることを決めました。委員長になり、私1人では思いつかないような意見とも出会い、メンバーの意見に耳を傾けながら、チームでより良い成果を上げるために行動ができるようになりました。

「協働力」ではメンバー全員が「居心地が良い」と感じるように、関係性作りも大切にしました。分かりやすい文章で連絡することはもちろんのこと、普段の何気ない会話も大切にしました。さらに自分では気づきませんでしたが、「武井さんは話しやすい雰囲気があるよね。〇〇さんは前も素敵な意見を言ってくれたから、どうかな?と聞いてよかったよ。」と言っていただくこともありました。その言葉を聞いて振り返ってみると、今年度行った小学校での教育実習のことを思い出しました。指導していただいた先生から、「子どもとの関わり方が上手だね」と言っていただきました。活動を通して身につけることができた力は、活動以外でも生かすことができていました。

3年間の活動を通して自分自身を見つめ、多くの人や考えと出会うことができました。これらの体験が「実践力」と「協働力」の2つの成長に繋がったと思います。

武井 真二さん（学生のご家族）
津波被害を受けた大船渡市越喜来（おきらい）地区の産業用地に建てられたイチゴ栽培ハウスでのイチゴ狩り体験

学生のキャリア形成を支援する教育プログラム「Sagamiチャレンジプログラム」の活動で学生がどのような力を身につけたか、実際に活動に同行いただきご家族の視点から評価いただく「学生活動モニター」を実施しました。今回は「復興支援学生ボランティア委員会」の活動に同行いただいた学生のお父様より、学生の成長に対する評価いただきました。

実践力については、今自分がやるべき事、任されたことについて目標を明確に持ち、それに向かい達成するための努力を惜しむことなく発揮し、親と離れて生活するようになり、改めて自立してきたように思います。今回私も活動に参加させていただきましたが、様々な場面で自分から積極的に話し掛け、地域の方々と関わっていました。また自分で決めたことに対し途中で投げ出すことのない責任感の強い面もあります。高校3年生のふとした折に「人の役に立ちたい」と話してくれたことを思い出しました。同じ志を持ったメンバーと互いに意見を出しながら計画を立て、話し合い、実行に移したのだと思います。そういったことからも、相補的な協働力が身に付いていると感じました。

これから進路に向け更に多忙な毎日になると思いますが、どんなことに対しても自分から意欲的に挑戦し、夢を実現してほしいと思います。

加した学生が身につけた力

社会人基礎力テストPROGでは、9つの力を7段階で評価しています。

1～4段階：学士課程終了レベル　5～6段階：社会人1～3年目に期待されるレベル　7段階：若手リーダーレベル

対課題基礎力

①課題発見力
課題の所在を明らかにし、必要な情報分析を行う

②計画立案力
課題解決のための適切な計画を立てる

③実　践　力
実践行動をとる

対人基礎力

④親　和　力
他者との豊かな関係を築く

⑤協　働　力
目標に向けて協力的に仕事を進める

⑥統　率　力
場をよみ、組織を動かす

対自己基礎力

⑦感情制御力
気持ちの揺れを制御する

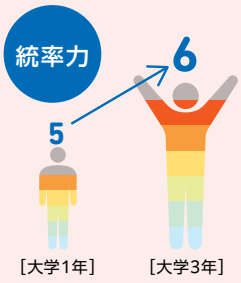
⑧自信創出力
前向きな考え方ややる気を維持する

⑨行動持続力
主体的に動き、良い行動を習慣づける

※PROGについて：（株）リアセックが提供する「学生に社会が求めるジェネリックスキル（社会人基礎力）」を測定

Case 2

自信創出力・統率力が伸びました！



渡邊　栞女さん
栄養科学部　健康栄養学科3年（撮影当時）
電子回路ペンプロジェクト 所属

Student's Voice

私がこれまでのSagamiチャレンジプログラムに参加をして、特に成長を感じた部分は「自信創出力」と「統率力」の2つです。成長した過程として、年間を通じて活動する電子回路ペンプロジェクトをはじめ、様々な短期の活動に参加してきたことが大きく関わっています。

私が現在、副リーダーを務めている電子回路ペンプロジェクトの活動では、学内体験会や小学校での出前授業にて電子回路ペンを用いた講座を行っています。学内体験会では、呼び込みから会場への誘導、講座の説明までを一人で行うため、初対面の学生相手に最初のころは緊張してスムーズに行うことができませんでした。そこで、先輩方の言動を真似することや、自分なりに工夫したところ、体験した学生から「分かりやすかった」との声をいただき、また先輩からも「上手だった」と褒めていただきました。複数回行われたこの体験会を経たおかげで、人前に立つ自信が持てました。また、小学校での出前授業においても、体験会で身に付けた事をもとに、子供たちに分かりやすい言葉遣いと、講座を楽しんでもらう工夫をしたことで、「楽しかった」と喜んでもらうことができました。挑戦・工夫・達成この3つの段階を繰り返し経験したことで、「自信創出力」が身に付いたと思います。

プロジェクト活動の他にも、短期の活動に参加をするなかで、他学科の学生や後輩と交流する機会がよくありました。グループでの行動を求められる場面もあり、積極的にコミュニケーションをとることや、先輩としてサポートできるところを探すことで、円滑に活動できるよう心掛けました。全体で話し合う場面では意見を積極的に出し、関連付けて他の人に質問することで新たな視点やアイデアが出ることもありました。明確なリーダーという立場ではありませんでしたが、似たような状況を経験したことで「統率力」が身についたのだと思います。

相模原市印刷広告協同組合
山本 博之さん
（学外アドバイザー）

学生のキャリア形成を支援する教育プログラム「Sagamiチャレンジプログラム」の活動で学生がどのような力を身につけたか、今回は「電子回路ペンプロジェクト」の活動を支援いただいている学外アドバイザーより、学生の成長に対する評価いただきました。

このプロジェクトに入りたての頃と今の渡邊さんを比較すると、「自身創出力」「統率力」の成長は確かに感じたと思います。それに加えて「視野の広さ」と「積極性」という、とても素晴らしい素質を持っています。

- 視野の広さ→"社会人"という立場の人間と接することで、違う考え方や視点があるということに気づかれたと思います。会議でも、自分の意見に対するこちら側の意見を「なるほど」と飲み込み、違う結論になることをそんなに無理なく受け入れている様子が見れます。
- 積極性→おそらく徐々にプロジェクトへの思いが強くなったこともあり、大学内のメンバー増加のための体験会などで積極的に学生に声掛けをされています。また、新しいアイデアもたくさん、諦めずに発言されています。

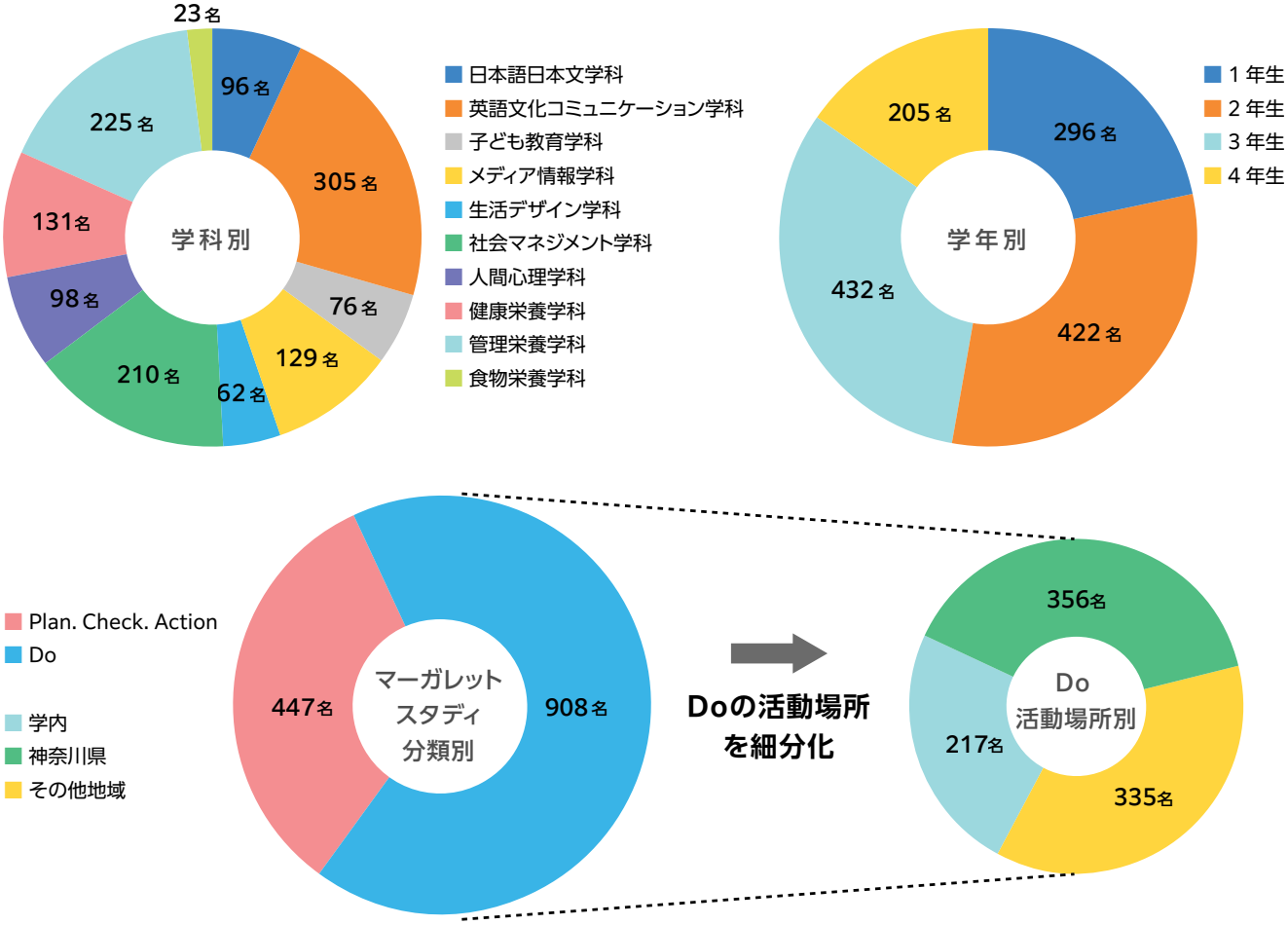
来年度は4年生となり、リーダーとしてプロジェクトを引っ張る立場になります。挑戦・工夫・達成のサイクルを加速させ、更なる成長を期待しています。

「Sagamiチャレンジプログラム」活動実績（2023年度）

「Sagamiチャレンジプログラム」の活動には、本学の大学または短期大学部に在籍している学生であれば、学年・学科問わず誰でも参加することができます。友人同士はもちろん1人で参加する学生も多く、参加した学生からは「学科・学年を越えて新しい友人ができた！」「社会人との交流が増え、ビジネスマナーが身についた」などの意見が多く寄せられていますので、安心して参加してくださいね。皆さんのチャレンジをお待ちしています！

延べ参加人数：1,355名

〈2024年1月末時点〉



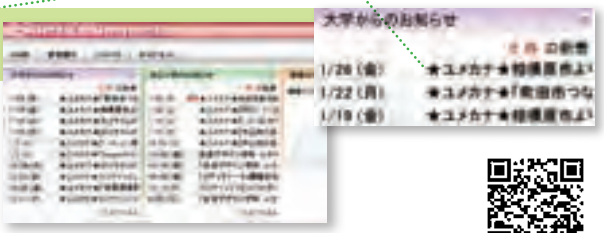
※上記表内のその他地域とは福島県、三重県、新潟県、長野県、岩手県、福岡県、群馬県、東京都、国際プログラムを含みます

「Sagamiチャレンジプログラム」活動情報の入手方法

活動の様子や参加者募集に関する情報は、様々なツールを利用して発信しています。
活動への参加を希望する方、活動に興味がある方は要チェックです！

SmileSagami のお知らせ配信

このタイトルからのお知らせを要チェック！



募集説明会などの情報は、SmileSagami のお知らせ配信をチェック！
件名に、★ユメカナ★とつけて各活動の募集説明会のお知らせなどを行っています。

https://sagamistyle.sagami-wu.ac.jp

「Sagami チャレンジプログラム」専用掲示板

下記場所にて募集中の活動や募集説明会に関するチラシを掲載しています。

■連携教育推進課窓口前
■English Room
■カフェテリア 101 入口
■7 号館入口

夢をかなえるセンター特設サイト

夢をかなえるセンター特設サイトでは、「Sagami チャレンジプログラム」に関する情報や活動に参加する学生からのお知らせ、活動報告等を掲載しています。

https://ymkn.sagami-wu.jp

連携教育推進課 SNS 公式アカウント

（旧ツイッター）
ユーザー名／@sagajo_yumekana

Instagram
ユーザー名／@sagajo_yumekana

YouTube
チャンネル名／相模女子大学　連携教育推進課

連携教育推進課Instagramアカウントで「プロジェクト活動」を対象としたフォトコンテストを実施しました。最もいいね！を獲得した「復興支援学生ボランティア委員会」に当冊子の表紙を飾っていただきました！

「Sagami チャレンジプログラム」への参加方法

上記の情報発信ツールから募集説明会の情報を GET ▶ 募集説明会に参加 ▶ 申込み ▶ 活動への参加♪

日本全国に拡がる社会貢献活動

学生たちの活躍のフィールドは、神奈川県相模原市を拠点として日本全国に拡がっています。

地域との協働

相生祭(学園祭)

連携先の地域・企業が一堂に会し、地域物産展を開催。

毎年11月3・4日に開催される相生祭において、本学と交流のある地域や企業が一堂に会し、「地域物産展」を開催します。地域の特産品や企業とのコラボレーション商品の販売を通してそれぞれの魅力を発信し、日本各地の活性化を目指します。2日間で約2万人が来場する一大イベントです。

新潟県 佐渡市

伝承されている鬼太鼓や能楽を学び、島民に披露

長野県 生坂村

巨峰の収穫や出荷作業、観光資源を活かした新商品開発

京都府 和束町

お茶の収穫、加工工場での補助、清掃ボランティア活動

福岡県 糸島市

地域の人・仕事・生活にふれあい、「これからの女性のはたらき方」を研究

三重県 熊野市

田植え体験、稲刈り体験、特産品「新姫」収穫などの補助

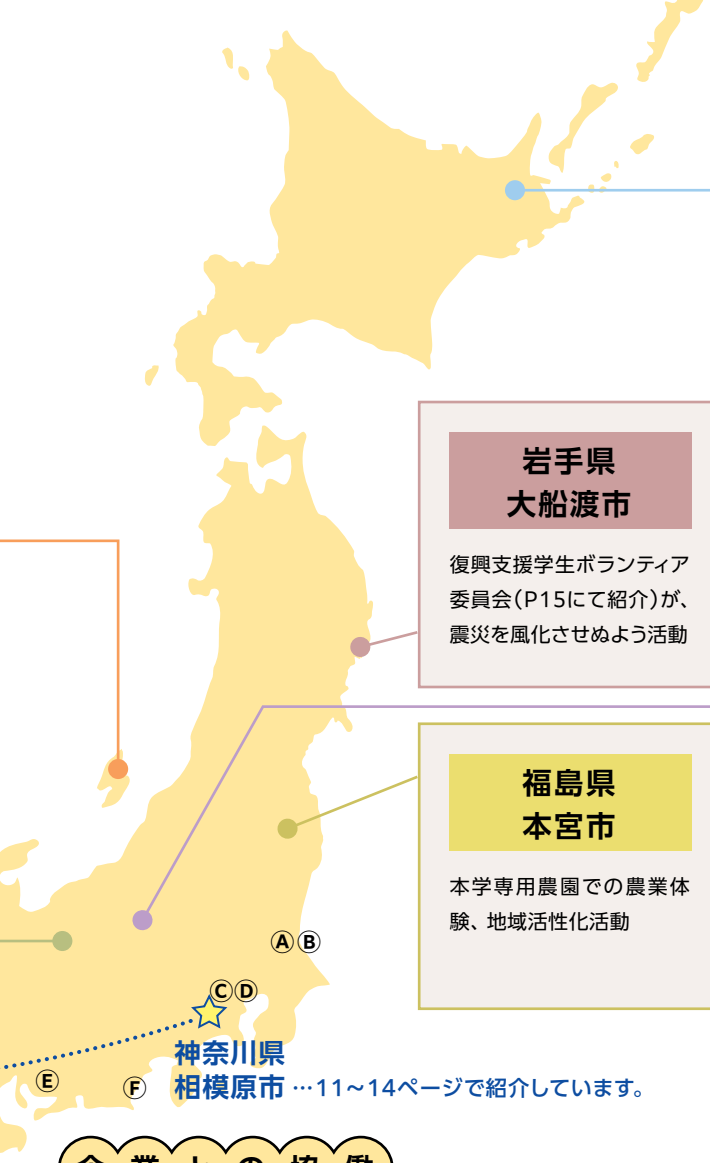
9期連続
地域貢献度ランキング
全国女子大
No.1

「地域貢献度ランキング」全国女子大学で第1位(※1)

「組織・制度分野」でも上位にランキング!(※2)

夢をかなえるセンターにおける活動は、本学ならではの学生の主体的な学びです。その原動力となっているのは、社会に貢献する豊かな"発想力"の育成。日本はもとより世界を舞台に、様々な課題解決に取り組んでいます。

※1雑誌「日経グローカル」の調査「大学の地域貢献度ランキング」にて、本学は2011～2023年度(2016年度より隔年調査)の間、9期連続で全国女子大学のうち第1位を獲得しています。
※2「大学の地域貢献度ランキング」のうち、地域貢献の推進に向けた組織・制度面の取り組みを調査する項目です。



北海道 標津町

衛生管理システム地域HACCPの体験、食育活動

岩手県 大船渡市

復興支援学生ボランティア委員会（P15にて紹介）が、震災を風化させぬよう活動

群馬県 富岡市・沼田市

農業体験、過疎化・高齢化問題への提案、地域活性化活動

福島県 本宮市

本学専用農園での農業体験、地域活性化活動

神奈川県
相模原市 …11～14ページで紹介しています。

企業との協働

Ⓐ 株式会社つかもと（茨城県）

社会マネジメント学科金森ゼミの学生と、茨城県龍ケ崎市の株式会社つかもとが共同で開発した、さつまいも（紫芋）の甘なっとうです。砂糖や食品添加物を一切使っていないので低カロリーで、すっきりとした甘さが魅力です。

Ⓑ 株式会社ふじ屋（茨城県）

食物栄養学科の学生がレシピを提案し、コラボレーションプリンを開発しました。

Ⓒ 株式会社東京ポンパドウル（東京都）

株式会社東京ポンパドウルと、大学・短期大学部そして高等部がコラボレーションし、2015年度より毎年、オリジナルパンのレシピコンテストを開催しています。学生・生徒が独自に考えたレシピは審査によって採用・商品化が決定し、ポンパドウル町田店や大学祭・地域物産展などで販売されます。

Ⓓ 株式会社銀座甘楽（東京都）

食物栄養学科の学生が和菓子販売店「銀座甘楽」とコラボレーションし、鎌倉の美しい海をもとに真珠と貝殻をイメージした最中を開発しました。塩飴や求肥を使い「もう一つ！」とつい手が伸びてしまうような後を引く美味しさです。

Ⓔ 株式会社サガミホールディングス（愛知県）
Ⓕ 石田缶詰株式会社（静岡県）

本学と株式会社サガミホールディングス、石田缶詰株式会社の三者共同により研究開発した「サガミ純鶏 名古屋コーチン味噌煮」が、2021年1月に宇宙航空研究開発機構より「宇宙日本食」としての認証を取得しました。

神奈川県や相模原市内における社会貢献活動

久保田酒造株式会社 × 相模原市観光協会

地元酒蔵とこだわりの梅酒造り

地元酒蔵「久保田酒造株式会社」とコラボし、大学内で収穫した梅を使った梅酒「翠想（すいそう）」を毎年造っています。梅の収穫からラベルのデザイン、仕込み、瓶詰めなど、全ての工程に学生が携わっています。

ノジマステラ神奈川相模原

学生ボランティア活躍中！

2013年4月に神奈川県唯一の女子プロサッカーチーム「ノジマステラ神奈川相模原」とパートナーシップ協定を締結し、スポーツを通じた地域振興に貢献しています。本学の学生は試合運営に係るボランティアスタッフとしてスタジアムの内外で活躍しています。

株式会社 3pm･さんじ

次世代型ケーキ『マーガレットケーキ』

相模女子大学の校章「マーガレット」型で焼き上げた上品なケーキを販売。厳選された国産材料に加え、大学内で収穫した梅で造った梅酒と梅の実を生地に使い、しっとりとした食感に仕上げました。

第1回神奈川なでしこブランド認定商品

フード･アクション･ニッポン アワード2012 審査員特別賞受賞

カゴメ株式会社 × 神奈川県

野菜がとれるおやつ･スイーツレシピコンテスト

2020年度から2021年度にかけて、神奈川県･カゴメ株式会社との産官学連携活動「野菜がとれるおやつ･スイーツレシピコンテスト～子どもたちも美味しく食べられるおやつ･スイーツで手軽に70グラムの野菜をとろう～」を開催しました。学生は神奈川県県央地域の季節の野菜を使用した、子どもたちも美味しく食べられるおやつ･スイーツレシピを考案しました。全4回のレシピコンテストで計17作品が入賞しました。

神奈川県清川村

清川村特産品開発プロジェクト

清川村の特産品である清川茶を使った特産品開発をしています。グループに分かれレシピ開発を行い、試作品をクリスマスイベントで販売することや、村内の飲食店に完成したレシピを提案するなどしています。

神奈川県大磯町

特産品のみかんの有効活用に向けて

大磯町の特産品であるみかんを活用した様々な取り組みを行っています。これまでにアロマオイルの商品開発やPR、みかんをはじめとする柑橘類をテーマとしたレシピコンテストをしています。

神奈川産学チャレンジプログラム

毎年多くのチームが入賞しています!!

一般社団法人神奈川経済同友会の会員が所属する企業と神奈川県内の大学が協働し、産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究プログラムです。

神奈川県住宅供給公社

「団地活性サポーター」を導入

2018年12月に相模原市内にある公営住宅「相武台団地」を運営している神奈川県住宅供給公社と包括協定を締結し、団地内にある商店街等との地域連携や、学生の活動による地域コミュニティの活性化を図っています。

神奈川つくい農業協同組合

スパークリング日本酒「HARUHIME」商品化！

相模原市津久井地域で採れたお米『はるみ』を使用したスパークリング日本酒「HARUHIME」の商品化に際し、本学の学生が瓶のラベルデザインを担当。オンラインにて何度も打合せを重ね、柔らかな優しい色合いのラベルデザインが完成しました。

CEMLA（多文化学習支援センター）

外国につながる子どもたちへの支援活動を行っています！

CEMLA（多文化学習支援センター）は、「Center for Multicultural Learning &Activities」の略で、外国につながる子どもたちの支援センターです。
毎週土曜日、本学をはじめとする近隣大学等の学生が中心となって、日本語や教科学習の指導を行っています。

相模原市×相模原市民文化財団

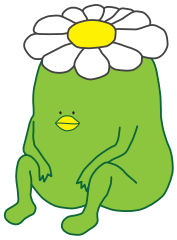
相模原薪能

地域の皆様に対し、伝統芸能を鑑賞する機会を提供させていただく社会貢献事業「相模原薪能」。日本古来の伝統芸能である能楽を「相模原」に定着させ、本市の文化の向上を図ることを目的として、毎年実施している催しです。舞台上に創り出される幽玄な空間で非日常の特別な時間を体感いただけます。

相模原市民文化財団

シネマ&トーク

地域の皆様に対し、映画を通じて文化・芸術を発信するイベント「シネマ&トーク」。本公演では、本学の客員教授である金子修介氏が監督を手掛けた作品を上映し、上映後は、金子監督ならびにゲストをむかえ、映画撮影時のエピソード等をテーマに対談します。



神奈川県や相模原市をフィールドに様々な活動を行っています！

プロジェクト活動

プロジェクト活動とは、同じ想いや目的を持って集まった学生が、
地域や企業等と協働しながら、それぞれが実現したいことに向けて活動を行います。
メンバーの募集やプロジェクトリーダーの選出等も学生が自ら行い、
連携先地域や大学内をフィールドとして年間を通じて活動します。

学生の運用しているSNSアカウントはこちらから ▶

女性のはたらき方研究プロジェクト
［福岡県糸島市］

糸島市の魅力あふれる自然や歴史、そして人に囲まれながら、多様なはたらき方をする方へのインタビューを通じて、キャリアについて考えるとともに、SNSを活用して糸島市の魅力発信を行っています。

復興支援学生ボランティア委員会
［岩手県大船渡市］

東日本大震災発生後の2011年6月に炊き出しのボランティアとして訪問したことをきっかけに発足。定期的な現地訪問では、保育園や幼稚園、イベントでの市の花「椿」を活用した地域活性化活動などを行っています。近年はSNSを利用した広報活動にも力を入れており、震災を後世に伝えることを今後も継続していきます。

もとみやSMILEプロジェクト
［福島県本宮市］

原発事故による風評被害で苦しむ本宮市へ"私たちができること"は何かを考えたとき、有志の学生が立ち上がり発足したのが「もとみやSMILEプロジェクト」です。本宮市にある農園「マーガレットファーム」で野菜を育て、「食」について考えるとともに、本宮市のPRを目的とした様々な広報活動を行っています。

丸山千枚田魅力発信プロジェクト
［三重県熊野市］

年間計3回ほど丸山千枚田を訪れ、丸山千枚田を支援している保存会の方々と交流をしながら、田植えや稲刈り、畦そりなどに参加しています。また、大学だけでなく東京や神奈川のイベントスペースをお借りした地域のPR活動も行っており、丸山千枚田を応援したいと思って頂けるような魅力発信をしています。

「海外に子ども用車椅子を届けよう!」プロジェクト
［東京都・東南アジア ほか］

東日本大震災の際にタイからの支援に対する日本の「ARIGATO」を車椅子にのせて届けよう!とスタートしたプロジェクトです。日本国内において子どもの成長により不要になった車椅子を修理し、ミャンマー、ラオス、マレーシアなどに年間100台近くの子ども用車椅子を寄贈してきました。今後も沢山の「ARIGATO」を伝えていきます。

おっきリンピック宣伝部
［群馬県富岡市］

群馬県富岡市の郷土料理「おっきりこみ」の魅力を多くの人に発信する活動です。この活動を通して富岡市やおっきりこみ、人とのつながりの大切さを学ぶこと、「食」を通した地域の活性化に関わることが出来ます。主な活動としては、SNSを活用した広報活動や、学園祭で地域の特産品を販売するお手伝い等を通じて、地域に貢献しています。

電子回路ペンプロジェクト
［東京都・神奈川県 ほか］

小学生を対象に「電子回路が書けるペン」を使った講座を企画・運営して、理科の楽しさを伝えていく活動です。学生が講座の内容も含めた企画段階から関わり、実際に近隣の小学校で出張授業を行います。小学生の喜ぶ顔を間近で見ることができるのはもちろん、仲間や企業の方とプロジェクトを運営していくことで協働力が身につく、とてもやりがいのある活動です。

佐渡プロジェクト
［新潟県佐渡市］

佐渡の魅力を首都圏の大学生や高校生に伝えるため、2020年度に学生たちが立ち上がり発足したのが「佐渡プロジェクト」です。佐渡の豊かな伝統芸能を切り口に、地域の方々との交流を深めることを通じて、佐渡の歴史や文化について深く学ぶとともに魅力を発信することを目的としています。

サガジョ盛り上げ隊プロジェクト
［相模原市 ほか］

「大学をより楽しい場所だと思ってもらいたい」「相模女子大学をより好きになってもらいたい」「相模女子大学をいろんな人に知ってもらいたい」という目標を掲げ、教職員と協働して様々な活動を行っているプロジェクトです。SNSを活用した広報活動や、入学式・卒業式などの学校行事の機会を利用して、「Sagamiチャレンジプログラム」の活動、大学の魅力をPRしています。

海外をフィールドとした国際教育

国際プログラム

「国際プログラム」とは？

日本を飛び出して海外をフィールドとして異文化や語学を学ぶプログラムです。
本学では、留学や研修を用意しています。

研　修

はじめての海外でも安心

夏季・春季休暇期間中に、海外の大学で実施している語学プログラムに参加する制度です。
研修修了者には単位が認定されます。

学習言語	国	滞在方法	期間	特徴
英語	オーストラリア	ホームステイ	5週間(春)	英語レベル毎のクラス編成
韓国語	韓国	学生寮	2週間(夏)	現地学生との豊富な交流
中国語	台湾	ホテル	2週間(春)※	※現地学生との豊富な交流

協定校留学・認定校留学

半年～1年間集中的に
語学を学び、実践力をつけよう!

留学には、本学と協定を結んでいる大学に留学し、語学プログラムを受講する協定校留学と、協定校以外に自分が希望する大学に留学し、語学プログラムを受講する認定校留学があります。

●協定校留学先
・マニトバ州立大学(カナダ)
・ビクトリア大学(オーストラリア)

奨学金

留学奨励奨学金(協定・認定)
●留学中の本学授業料相当額免除(協定)
●留学中の本学授業料半額相当額免除(認定)
条件：詳しくは連携教育推進課にお問い合わせください。

国際交流特待奨学金(協定校留学のみ)
●給付額　1年留学:60万円、半年留学:30万円
条件：詳しくは連携教育推進課にお問い合わせください。

交換留学

現地で正規授業を受講し、より高いレベルの実践力を身につけよう!

本学と協定を結んでいる大学に留学し、正規授業を履修する制度です。

●留学先
・文藻外語大学(台湾)
授業で使用される言語：英語

留学ロードマップ（協定校・認定校・交換留学）

計画性をもって準備を進めることが何より重要!

1年以上前 ▼
●留学計画をたてる
・留学の目的は?
・自分に適した留学制度は?
・費用はどのくらい必要?
・語学力と学内成績をのばそう

留学の1年前～6カ月前
●募集説明会参加・出願 ※語学能力証明書提出

▼
留学決定後～留学出発前
●留学決定後はスピーディに渡航準備
・協定校への出願や学生ビザ申請等
・出発までに計画的に語学の勉強を進めて留学に備えましょう

本学のサポート体制（留学・研修共通）

万全のサポート体制で皆さんの留学・研修を応援!

- ●出発前ガイダンスで各種手続きを丁寧に説明
- ●本学指定の海外旅行保険及び危機管理サポートシステムに加入
- ●クレジットカードやキャッシュパスポート等、海外でのお金の使い方を説明
- ●現地では、24時間日本語対応のコールセンターの利用が可能

協定校一覧　※記載されている一覧は、受入れ先の都合や情勢などにより変更となる可能性があります。

マニトバ州立大学（カナダ）

英語
研修：8月
協定校留学：4・9月

渡航時期　留学：1年間（4・9月出発）
費用　留学：約330万円
滞在方法　留学：ホームステイ
目安スコア　TOEICスコア350点

○ランゲージパートナーとの交流等、豊富なアクティビティ
○上級レベルの学生は正規授業の聴講可能

1877年創立、カナダ西部で最も伝統のある総合大学。英語とフランス語が公用語のカナダはバイリンガル教育に力を入れている。マニトバ州立大学の語学プログラムはその中でも高い評価を受けている。アクティビティ活動が盛んなのが特徴。

ビクトリア大学（オーストラリア）

英語
研修：2月
協定校留学：4・9月

渡航時期　研修：2月上旬から約5週間
　　留学：1年間もしくは半年間（4・9月出発）
費用　研修：約80万円／留学：約280万円
滞在方法　ホームステイ（研修・協定校留学共通）
目安スコア　TOEICスコア300点

○学習者のレベルに応じたクラス編成
○都市部に位置するキャンパスで日本人スタッフが駐在

1916年に設立された歴史ある公立大学。オーストラリア第2の都市であるビクトリアには、緑豊かな公園や庭園が多く、歴史ある建造物が混在する街並みが特徴。英語集中コース（ELICOS）として、初中級者から上級者まで学習者のレベルに合わせてクラス編成される。

ソウル女子大学（韓国）

韓国語
研修：8月

渡航時期　研修：8月上旬から約2週間
費用　研修：約30万円
滞在方法　学生寮

○韓国語だけでなく豊富な文化体験授業
○現地学生との豊富な交流（トウミ制度）

1960年創立、プロテスタント系の女子大学。
日本人大学生を対象とした特別プログラムで、韓国語と韓国文化をバランスよく学ぶことができる。共有キッチンや自習室などの設備が整った学生寮に滞在。

文藻外語大学（台湾）

中国語（研修）
英語（交換留学）
研修：3月
交換留学：8月

渡航時期　海外研修：3月上旬から約2週間
　　交換留学：1年間もしくは半年間
費用　研修：約27万円　（8月出発）
　　交換留学：※費用については募集説明会で確認すること
滞在方法　研修：ホテル／交換留学：学生寮

○中国語だけでなく豊富な文化体験授業
○現地日本語学科学生との交流

1966年創立、台湾唯一の外国語専門大学。
文化体験やチューターリング、日本語学科の学生との交流などを通して中国語だけでなく台湾の伝統文化も学ぶことができる。ホテル滞在なので安心・安全。

留学・語学研修の選考スケジュール（参考）

募集説明会 ※参加必須	出願時期	選考（面接） ※留学のみ	結果通知	出発前ガイダンス
春出発 前年秋学期開始時	10月上旬	10月下旬～11月上旬	11月中旬	11月下旬～
夏・秋出発 春学期開始時（交換留学のみ3月中旬）	4月上旬	4月下旬～5月上旬	5月中旬	5月下旬～

国内をフィールドとした国際教育

外国語・英語教育プログラム／異文化理解プログラム

「外国語・英語教育プログラム」とは？

世界の人々と英語等で的確に意思疎通を図る能力を身につけるプログラムです。

「異文化理解プログラム」とは？

異文化交流を通して、自分とは何かを考え、自己を確立するとともに、自分と異なる人や社会や文化などを理解し、これらを尊重しながら共に生きていく姿勢を身につけるプログラムです。

外国語・英語教育プログラム

キャンパス留学

1日40分×年間100回、ネイティブスピーカーの講師のもと、学内で英会話レッスンを受講するプログラムです。ゲームやアクティビティはもちろん、季節ごとのイベントなどを通して、楽しく英語を学ぶことができます。また、TOEIC®セミナーやWriting添削など、アカデミックな英語力を強化することもできます。

TOEIC®　IPテスト

年3回学内で実施しています。
TOEIC®公開テストよりも安価な受験料で受験することができます。

異文化理解プログラム

CEMLA

外国につながる生徒の学習支援教室・教育相談プログラム“CEMLA”で、外国につながる子供たちを対象に日本語学習や教科学習の支援を行うボランティア活動です。

「CEMLA」とは？

CEMLAは、Center for Multicultural Learning & Activitiesの略で、多文化学習活動センターという意味です。「世界の村」の「せむら」と覚えてください。高校、大学、NPO等が協働した「多文化共生の学習支援拠点」づくり事業です。

外国人 訪問学生／交換留学生 サポーター

本学の留学生との交流イベントを企画・運営したり、留学生の生活を支援する活動です。

「外国人訪問学生」とは？

海外の大学に通う学生が6～7月の2か月間本学に滞在し、異文化交流や英語教育プログラムを通して日本の文化や教育環境を学ぶ制度です。

「交換留学生」とは？

交換留学協定を結んでいる海外の大学生が、1年間または1学期間本学へ留学をするプログラムです。本学は、台湾にある文藻外語大学と交換留学協定を締結しています。

国内（学内）でも国際的な感覚を育む活動を実施しています。

横断プログラム　国際　外国語・英語教育　異文化理解

ユメカナ★カフェ

活動に参加した学生とこれから活動を行う学生が、活動体験や身につけたスキル、活動目標等を共有するイベントです。学生同士の交流を通して、主体的に学ぶ姿勢を身につけることを目的としています。

過去の実績

「自分のことを伝えてみようin English!」、
「Chat with 先輩」、
「大学入学後に私が取り組んだ活動とこれからの目標」

キャリア☆カフェ

社会で働く（働いた）大人が社会で身につけたスキルを学生と共有するイベントです。大人との交流を通して、キャリアを身近に感じてもらい、自分なりの夢を見つけることを目的としています。

過去の実績

「海外で夢を見つけよう!～モナシュ大学で学ぶ～」、
「国際交流のススメ（全5回シリーズ）」、
「私の英語勉強法」、
「『Let's try English』"Yes,We Can"オバマ大統領の就任演説を英語で聴いてみよう」

英語教材の貸出

連携教育推進課では、英語の本や漫画、TOEIC®の参考書や問題集などを取り揃えています。学生の皆さんへの貸出も行っていますので、お気軽にご利用ください。

国際教育プログラムに参加した学生に訊きました！

加門　由麗さん
（2021年度卒業生）

マニトバ州立大学
夏季英語研修参加

Q 国際教育のプログラムに参加した理由は？

A 私がマニトバ州立夏季英語研修に参加したのは自分の英語がどこまで通じるのか、どこまで自分の英語が身についているのか知りたかったからです。また、外国の寮生活がどのようなものなのか、文化の違いや生活習慣などを自分で体験してみたかったからです。

Q 活動を通して学んだことや身についた力は？

A 今回の研修を経て、リスニング力が前よりも向上しました。趣味でよく聴いている洋楽が前よりも聴きとれるようになりました。また、外国人とコミュニケーションを取る際に間違えを恐れなくなりました。

Q 後輩へのメッセージをどうぞ！

A 外国は怖いと言う印象が強いと思いますが、カナダはそうではありません。現地の方はとても優しく接してくれます。また、どこまで通じるのか不安だと思っている人も多いと思いますが、現地の方は理解してくれます。文法が間違っていたとしてもちゃんと会話を返してくれますし、楽しく会話をすることができます。安心して参加してください。

学園連携　幼稚部、小学部、中学部・高等部、大学間の連携

東京ドーム約4倍の広大なキャンパスの中に、幼稚部、小学部、中・高等部、大学・短期大学部、大学院までが集う総合学園です。「地域貢献度ランキング」全国女子大学で第1位にランキング※する大学の地域活動等を通じて、園児から大学院生まで、世代を超えた交流が行われています！

※雑誌「日経グローカル」の調査「大学の地域貢献度ランキング」にて、本学は2011～2023年度（2016年度より隔年調査）の間、8期連続で全国女子大のうち第1位を獲得しています。

サガジョの学び講座

高等部1・2年生を対象に、大学・短期大学部教員による講演会を定期的に行っています。大学ならびに短期大学部10学科の教員をはじめ、時には学長や副学長、教職センター長など、幅広い分野の先生方が講演を行います。高等部の生徒たちは、興味のあるひとつの講演を選択し、大学の授業がどのようなものかを体験しながら、将来を見つめる機会にしています。

ポンパドウルレシピコンテスト

2015年度より短大生を中心に株式会社東京ポンパドウルとの商品開発を行っており、近年は大学生と高校生を対象としたオリジナルパンのレシピコンテストを開催。株式会社東京ポンパドウルにより審査され、採用されたレシピは商品化し、学園祭の地域物産展ならびにポンパドウル町田店にて販売されます。

バジルチキンサンド
（2020年度高等部生考案作品）

太陽のかがやきパン
（2021年度高等部生考案作品）

クランベリーチョコロール
（2022年度高等部生考案作品）

復興支援学生ボランティア委員会×幼稚部コラボイベント

東日本大震災をきっかけに岩手県大船渡市の地域貢献に取り組む「復興支援学生ボランティア委員会」のメンバーが、大船渡市の園児向けに開催している「震災の記憶を風化させることなく後世に伝えること」を目的とした紙芝居を使い、幼稚部の園児向けに読み聞かせ等を行いました。

学園連携♪カフェ

幼稚部・小学部・中学部・高等部・大学、それぞれの幼児・児童・生徒・学生が互いの学びを共有し、世代を越えた交流を図っています。

キャリア☆カフェ

多様なバックグラウンドや専門的知見を持つ外部講師や地域の方、教職員が主催する講座を高等部生にも参加いただきました。
「チームビルディング講座」や「情報発信力アップ講座」「大人のマナー講座」など、多岐にわたる領域の講座を開講し、早い段階からキャリアを意識してもらえるよう、取り組んでいます。

何になりたい？どうなりたい？

将来の「なりたい自分」に出会えるよう就職支援課は共に走ります。

本学の就職支援プログラムは「就職準備講座」「PROG（プログ）」を通じて自己分析を行い、自分自身を知ることから始まります。そして、社会貢献活動・国際交流・学園連携などの活動に参加することにより「協働力」「文章力」「実践力」などを鍛え、さまざまな働き方を理解します。
正課で身につけた専門的知識とSagamiチャレンジプログラムで身につけた教養を基に、就職・編入学・進学など将来のなりたい自分に出会えるよう支援していきます。

- 就職準備講座
- 企業研究会
  合同企業説明会
- 面談
- インターンシップ・
  企業見学会
- その他

このランキングは株式会社大学通信が、全国749大学（医科・歯科の単科大学などを除く）を対象に実施したものです。

1年次

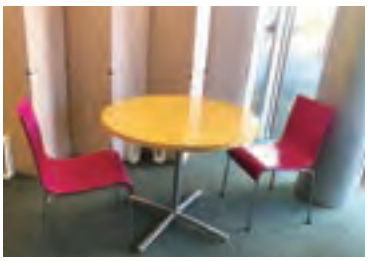
〈大学〉
自己の適性を見つめ、将来の目標を考える。
〈短期大学部〉
希望する進路に向けて実際に行動する。

〈大学〉
- 企業見学会
- PROG

〈短期大学部〉
- 就職準備講座
- 企業研究会
- 学科担当者との一斉面談
- インターンシップ
- 職業適性検査
- 編入生との交流会
- 就職活動用照明写真撮影会
- PROG
- 就職特訓講座
- SPI模試・一般常識模試

就職支援プログラム・3つの柱

1 面談



学生一人ひとりと向き合う「面談」を大切にしています。対面での面談では安心して話せる面談スペースをはじめ、プライバシーに配慮した個室面談ブースも用意しています。また、学校に来ない日であっても相談が出来るようにオンラインや電話での面談も行っています。
就職支援課には、就職活動全般の相談ができる「学科担当」と履歴書やエントリーシートの添削・面接練習ができる「キャリアカウンセラー」が常勤しています。大学3年生・短期大学部1年生の秋学期より、全学生を対象にした『一斉面談』を実施しており、就職活動に関する不安や悩みなど、さまざまな相談を受け付けています。面談を通して一人ひとりに寄り添い、希望の進路に進めるように支援しています。

2 就職準備講座

大学3年生・短期大学部1年生から、就職活動に欠かせない「自己分析」「履歴書・エントリーシートの書き方」「業界研究」「面接・グループディスカッション対策」「就活メイク」等について学びます。
就職準備講座では、外部講師をお招きしており、各分野の専門家から就職活動に関する話を聞くことができます。毎週木曜日にオンラインで実施しており、同じ内容を1日に3回配信するため、都合の良い時間帯に出席することができます。講座中は、講師から一方的にお話しいただくだけではなく、ワークの実践やチャット機能を利用して質問すること

2年次

〈大学〉
自己の適性を見つめ、将来の目標を考える。
〈短期大学部〉
社会にはばたく準備をする。

〈大学〉
- 2年生から始める就職準備講座
- SPI対策講座
- 企業見学会

〈短期大学部〉
- 合同企業説明会
- 学科担当者・キャリアカウンセラーとの個別面談
- 未内定者支援講座

3年次

希望する進路に向けて実際に行動する。

- 就職準備講座
- 面談・グループディスカッション対策
- Uターン、Iターン、Jターンガイダンス
- OGとの交流会
- 就活ヘア・メイク講座
- 筆記試験対策
- 企業研究会
- 学科担当者との一斉面談
- インターンシップ
- PROG
- 職業適性検査
- 就職特訓講座
- 就職活動用証明写真撮影会
- 公務員試験対策講座
- SPI模試・一般常識模試

4年次

社会にはばたく準備をする。

- 合同企業説明会
- 学科担当者・キャリアカウンセラーとの個別面談
- 未内定者支援イベント
- 社会人準備講座

もできます。各回、数多くの質問が寄せられることからも、学生が就職活動について積極的に取り組んでいることが分かります。

3 企業研究会

学内企業説明会の様子

大学3年生・短期大学部1年生の秋学期に、様々な業界の人事担当者をお招きし、各業界の動向や具体的な業務内容について説明していただきます。参加企業には本学OGが在籍している企業も多く、この企業研究会を通じて選考に進む学生も少なくありません。
11月から2月の期間にオンラインおよび対面で複数回開催し、合計100社以上の企業をお招きしています。各企業からの説明後、気になったことや不明な点についてその場で質問することができます。
企業研究会に参加した学生は、大学4年生・短期大学部2年生に行われる学内合同企業説明会にも積極的に参加しています。

就職支援・編入学・進学など

夢をかなえるお手伝いをします。

島村さんの就職活動経過

島村　純奈さん
英語文化コミュニケーション学科
4年(取材当時)
内定先:株式会社ネオキャリア／営業職

4月
春学期
「就職準備講座」
参加

5~6月
大学開催の
職業適性検査やPROG
を受検

7~8月
企業主催の
「1day仕事体験」
に複数社参加

9月
秋学期
「就職準備講座」
参加

10月
「学科担当との一斉面談」
に参加し、就職活動本格化
を前に今できることを
確認

11月
「企業研究会」等を活用し、
業界・企業研究に取り組む
「インターンシップ」にも
積極的に参加

11~2月
インターンシップを
きっかけに早期選考に挑戦
キャリアカウンセラーの
履歴書添削を活用

3月
就職活動が本格化し
企業説明会の参加や
エントリーシート提出、面接
で忙しい日々を送る

4~5月
最終選考に向けて
キャリアカウンセラーの
面接練習を活用

5月
就職支援課職員と面談を
重ね検討し、就職先を
「㈱ネオキャリア」
に決定

就職先一覧(過去3年間の主な就職先・順不同)

【専門職】

〈栄養士・管理栄養士〉
・横浜市立市民病院
・医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院
・IMSグループ(板橋中央総合病院グループ)
・国家公務員共済組合連合会横浜栄共済病院
・株式会社日本保育サービス(JPホールディングスグループ)
・エームサービス株式会社
・株式会社NECライベックス
・日清医療食品株式会社
・町田市役所
・小田原市役所　他

〈教諭(小・中・高)〉
・神奈川県教育委員会
・東京都教育委員会
・埼玉県教育委員会
・長野県教育委員会
・福島県教育委員会
・相模原市教育委員会
・横浜市教育委員会
・川崎市教育委員会

〈社会福祉士〉
・SOMPOケア株式会社
・社会福祉法人
横浜市社会福祉協議会
・横浜市役所
・中野区役所　他

〈食品衛生監視員〉
・横浜市役所

〈保育士・幼稚園教諭〉
・学校法人相模女子大学幼稚部
・公益財団法人横浜YMCA
・相模原市
・愛川町
・川崎市
・藤沢市
・茅ヶ崎市
・小田原市
・世田谷区　他

【企業・団体】

・C-United株式会社
・Kato Pleasure Group
・TBCグループ株式会社
・TISソリューションリンク株式会社
・YKK　AP株式会社
・オリックス・ホテルマネジメント株式会社
・コーナン商事株式会社
・コストコホールセールジャパン株式会社
・さがみ農業協同組合(JAさがみ)
・トランスコスモス株式会社
・トリンプ・インターナショナル・ジャパン株式会社
・プライムデリカ株式会社
・マルハニチロ株式会社
・ユザワヤ商事株式会社
・ラッシュジャパン合同会社
・リゾートトラスト株式会社
・旭情報サービス株式会社
・横浜トヨペット株式会社
・横浜信用金庫
・横浜農業協同組合(JA横浜)
・横浜冷凍株式会社
・株式会社JR東日本ステーションサービス
・株式会社アダストリア
・株式会社イオン銀行
・株式会社カインズ
・株式会社キャン
・株式会社サザビーリーグ アイビーカンパニー
・株式会社ジェイ・エス・エス
・株式会社ジャックス
・株式会社シャトレーゼ
・株式会社ストライプインターナショナル
・株式会社チュチュアンナ
・株式会社トラストネットワーク
・株式会社ニチイ学館
・株式会社パリミキ
・株式会社ポンパドウル
・株式会社マイナビ
・株式会社ヤマダホールディングス
・株式会社リロパートナーズ
・株式会社ローソン
・株式会社横浜銀行
・株式会社京王プラザホテル
・株式会社共立メンテナンス
・株式会社小田急ビルサービス
・株式会社星野リゾート・マネジメント
・株式会社総合車両製作所
・株式会社大塚商会
・株式会社東急イーライフデザイン
・株式会社東急ストア
・株式会社日立物流南関東
・三井住友信託銀行株式会社
・社会福祉法人川崎市社会福祉協議会
・住友電装株式会社
・小田急商事株式会社
・神奈川県警察本部
・清水建設株式会社
・相模鉄道株式会社
・第一生命保険株式会社
・東日本三菱自動車販売株式会社
・日本生命保険相互会社
・日本赤十字社
・日本郵便株式会社
・福山通運株式会社
・明治安田生命保険相互会社
・野村不動産パートナーズ株式会社　他

進学先一覧(過去3年間の主な進学先・順不同)

【大学院】

・相模女子大学大学院社会起業研究科
・筑波大学大学院人間総合科学研究群芸術学
・田園調布学園大学大学院人間学研究科心理学専攻
・共立女子大学大学院文芸学研究科文芸学専攻
・国士舘大学大学院総合知的財産法学研究科修士課程
・國學院大學大学院文学研究科
・岡山大学大学院社会文化科学研究科
・桜美林大学大学院国際学術研究科
・横浜国立大学大学院先進実践学環

【専修学校・各種学校】

・国立障害者リハビリテーションセンター学院視覚障害学科
・学校法人日本リハビリテーション学舎社会医学技術学院作業療法学科
・茅ケ崎リハビリテーション専門学校言語聴覚学科
・日本福祉教育専門学校 社会福祉士養成学科
・横浜高等教育専門学校養護科
・東洋美術学校夜間部グラフィックデザイン科
・東京デザイナー学院イラストレーション学部イラストレーション学科
・文化服装学院服飾研究科
・東京栄養食糧専門学校職業実践専門課程管理栄養士科
・服部栄養専門学校調理師本科　他

筆記試験対策

多くの企業が選考で取り入れている「SPI適性検査」の対策として、動画配信サイトを通じて自宅でいつでも視聴可能なオンデマンド講座を導入しています。このオンデマンド講座は、SPI適性検査の他に公務員試験対策にも導入しています。また、学生が自身の進捗度合いを測るためのライブ講座や学内模試も実施しています。

面接対策

常駐しているキャリアカウンセラーとの面談では、履歴書やエントリーシート添削のほかにも、面接の練習を受けることができます。自身の受ける選考に応じて、対面練習とオンライン練習を使い分けることができ、事前に複数回練習をしてから本番に臨む学生もいます。また、就職活動開始直前期には、外部講師に依頼しグループ面接やグループディスカッションの実践ができる講座も開催しています。

就職特訓講座

就職特訓講座は、就職準備講座で学んだ知識を「実践形式」で学び直す1day集中セミナーになります。大学3年生・短期大学部1年生の夏休み期間中に、「自己分析」「面接」「グループディスカッション」をワークシートや模擬面接等の実践を通じて学んでいきます。インターンシップや選考の事前準備として、多くの学生が参加しています。

PROG〈大学生対象〉

PROGは、「社会から求められる力(リテラシー・コンピテンシー)」を測定するプログラムになります。このプログラムを通じて、自分の強みと弱みを客観的に見つめ直し、就職活動初期に必須とされる自己分析に繋げています。

*リテラシー:
知識を活用して
問題を解決する力

*コンピテンシー:
経験を積むなかで
身につけた行動特性

UIJターン講座

UIJターンでの就職を考えている方に就職活動の進め方を解説し、各地域の就職情報サイトを紹介しています。

[Uターン]
地方から都心へ移住し、再び地方へ移住すること。
[Iターン]
地方から都市へ、または都市から地方へ移住すること。
[Jターン]
地方から都市へ移住したあと、地元近くの地方都市へ移住すること。

就職活動用証明写真撮影会

証明写真の撮影に長けたプロのスタイリスト・カメラマンによる撮影会を毎年学内で実施しています。撮影にあたり、スタイリストによるヘアメイク(ポイントメイク)を行っています。証明用写真のできばえだけでなく、個別メイクアドバイスも好評で、学生からは「自分に合ったメイクが分かった」「就職活動用のメイクについて参考になった」等の声も多くいただいています。

学生の資格取得を支援します！

資格取得講座・検定実施カレンダー

4月 / 5月

TOEIC® I Pテスト

【講座・試験内容】
主に過去に出題された問題が使用される団体受験。公式認定証は発行されませんが、個人で受験するTOEIC®公開テストより安価で受験でき、履歴書等にスコアを記載できます。（ただし公式認定証のみ有効の企業も一部あるため事前確認が必要）
【申込受付期間】テスト実施の1ヶ月前～（約1ヶ月）
【費用】3,200円

6月

ビジネス実務マナー技能検定

年間約500名の学生が受験しています!!

7月

世界遺産検定試験2級・3級

【講座・試験内容】
人類共通の財産・宝物である世界遺産を通して、国際的な教養を身に付け、持続可能な社会の発展に寄与する人材の育成を目指した検定です。グローバルな視点を持っていることのアピール材料になります。
【申込受付期間】テスト実施の2ヶ月前～（約2週間）
【費用】2級5,800円・3級4,700円

8月

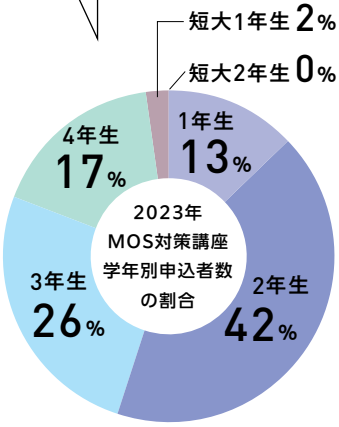
TOEIC® I Pテスト

MOS対策講座・検定試験

9月

【講座・試験内容】
マイクロソフト社のWord・Excel・PowerPointなどのパソコン操作スキルを認定する世界共通の資格です。Wordコース、Excelコース、PowerPointコースの3コースを開講します。それぞれ対策講座（3～4日間）を受講した後に検定試験を受験します。
【申込受付期間】実施の1ヶ月前～（約1ヶ月）
【費用】1コース 26,000円・2コースセット44,000円・3コースセット56,000円（検定料込）

どの資格試験も、
インターンシップ・就職活動が
本格化する前の
1・2年生のうちの取得が
オススメです！



10月

TOEIC® I Pテスト

11月

ビジネス実務マナー技能検定

12月

【講座・試験内容】
ビジネス社会に必要とされる基本ルールを身につけるための検定です。社会人としての判断・行動が適切にできるかどうか、人間関係やマナー、話し方を理解しているかを問われます。
【申込受付期間】実施の2ヶ月前～（約1ヶ月）
【費用】2級5,200円・3級3,800円

MOS成績優秀者にききました！

回答者

澤口　幸里さん

学芸学部　メディア情報学科
4年(取材当時)

Q 取得しようと思ったきっかけは何ですか？

A 情報科教員になる前に、必要な知識を学びたかったからです。元々パソコン操作はあまり得意ではなく、このままだと教員になった時に大丈夫なのかと焦りを感じていました。そんな時にMOS対策講座のお知らせを見て、資格取得できたらと考えたことがきっかけです。

Q 学内の対策講座の魅力は何ですか？

A 私にとっての一番の魅力は費用を抑えることができる所です。また、学内だと通いやすかったり、慣れている環境で受講できたりと安心して行うことができると思いますし、講師の方に質問しやすい環境でもあるので、途中で躓いたり分からなくなってもすぐに聞くことができます。

Q 勉強方法や試験対策のコツはありますか？

A ひたすら繰り返し問題を解くことだと思います。試験では講義で行っていない内容は出題されないので、自信をもって問題を解けるまで繰り返し解き、身に付けることができれば、問題なく資格取得できると思います。

Q MOSを取得してよかったことは何ですか？

A 頻繁に使用するWordを操作しやすくなり、卒業論文を進めやすくなったことです。私は取得の時期が遅かったので、学生生活においてそこまで多くを活かすことはできませんでしたが、早く取得できれば、プレゼンテーション資料やレポート作成にも役立てることができると思います。

Q いつ頃の受験がおすすめですか？

A 3年生が終わるまでに取得できると良いと思います。就職活動の自信にもなりますし、職業選択の幅も広がるからです。また、履歴書などにも書くことができるので、早く取得するに越したことはないと思います。

Q これから取得を目指す学生にメッセージをお願いします。

A 各々目的があって受講されると思いますが、どんな目的であれ資格取得すると自信につながるので、もし途中で難しいと感じても、最後まで諦めずに頑張ってほしいです。資格取得ができるよう、陰ながら応援しています。

学生が参加できる生涯講座もご用意しています！

さがみアカデミー

本学の伝統と特質を生かしつつ、知的財産を広く社会に還元することを目的として、様々な講座をご用意しております。

＊春季(5～7月)と秋季(9～12月)開催　＊学生は受講料半額
＊学生スタッフ(3名まで・講座前後の手伝い有)は無料

ホームページ

社会起業フォーラム

専門職大学院「社会起業研究科」主催の無料講座です。様々なジャンルで活躍する方をゲストにお招きし、現代社会の課題やその解決に向けた社会起業の在り方等について講演いただきます。

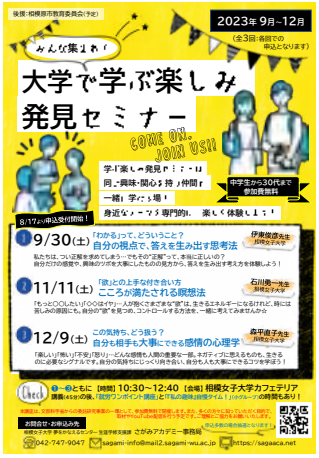
ホームページ

インクルーシブ生涯学習プログラム

相模原市と連携し、発達障害や知的障害のある若者を対象としたインクルーシブな生涯学習プログラムの研究開発に取り組んでいます。

＊9月～2月にかけて開催

ホームページ



卒業生・社会人の学びも支援します！

卒業後も待っています！

未来志向の女性に向けた リーダーシップ育成講座

本講座では、段階的な学びを通して、自分自身の魅力を再発見し、自分らしいリーダーシップスキルを身につけます。

ホームページ　インスタグラム

夢をかなえるセンター ～学生の皆さんが自由に使う

夢をかなえるセンターには、学生の皆さんが自由に使用できる学びのスペースが用意されています。個人の学習はもちろん、グループワークに必要な設備も整えられており、各種プログラムの自主学習に役立てることができます。大学生活をより充実したものにするために、積極的に活用してください。

1F English Room

電子黒板や可動式の机・椅子が設置されていますので、自由な発想で主体的に学ぶことができ、グループワークなどに適したスペースです。

〈利用例〉・授業の空き時間に、「ユメカナ★カフェ」「キャリア☆カフェ」「プロジェクト活動」などに参加して他学科の学生や先輩・後輩等と交流を図りましょう。

〈開室時間〉平日9:00~18:00

1F 連携教育推進課前のスペース

ユメカナの情報発信拠点として、「Sagamiチャレンジプログラム」に関する情報を常時発信しています。
また、大学では、教職員・学生・卒業生・地域や企業の方・外部講師など沢山の人が、アドバイザーとなって学生を支援しています。相談や質問など、気軽に来てくださいね。

〈利用例〉・地域での活動、開発した商品、留学した学生の様子などを要チェック!
・「こんな活動があったらいいな」「活動することに不安があります」等々、ちょっと聞いてみたい時や、じっくり相談したい時など。

〈開室時間〉平日9:00~17:00

2F カフェテリア101&ティーラウンジ2002

飲食可能な学生食堂を、昼休み(12:10 ~ 13:00)を除き、ゆっくり過ごすことができるスペースとして開放しています。電子黒板や一部テーブルにはモニターが設置されていますので、自主学習スペースとしても有効に活用してください。

〈利用例〉・「Sagami チャレンジプログラム」活動報告書を書く
・パソコンを繋げてモニターを見ながら意見交換、個人での自主学習

〈開室時間〉平日9:00~19:00

4F ガーデンホール

開放的な広いスペースに、可動式の机・椅子が設置されています。発表会・報告会・講演会など、複数の人との集まりや、沢山の方と係わる活動に適しています。

〈利用例〉・プロジェクト活動報告会　・人前で話して、プレゼンテーションスキルを磨く
・アドバイザーの講演を聴いて、知識を深める

〈開室時間〉平日9:00~18:00

ノートPC、電子黒板、活用してください!

センター内で使用できるノートPCの無料貸出しを行っています。また、センター内に設置している電子黒板やプリンター(用紙は各自で用意)も自由に利用できます。個人やプロジェクトミーティングなどの学びに活用してください。

ユメカナからのお知らせ配信

センター内の電子黒板を利用して、ユメカナからのお知らせを中心に、学内のイベントやコンテストについて告知しています。お昼を食べながらチェックしてください!また、告知したい情報があれば、ぜひご相談ください。

※施設使用、備品貸し出しには手続きが必要です。詳しくは生涯学修支援課窓口まで。

ことができる学びのスペース～

フロアマップ

夢をかなえるセンターのフロアマップです。1階には学生・地域の皆さんを支援する「連携教育推進課」「生涯学修支援課」「就職支援課」の窓口があります。2階の食堂「カフェテリア101」「ティーラウンジ2002」や、4階の「ガーデンホール」、さらにビオトープ上にある「English Room」は学生の皆さんにも使用いただける施設です。

1F

2F

English Room

ビオトープ

夢をかなえるセンターの活動を知らせる掲示板があります。

ティーラウンジ2002

就職支援課

生涯学修支援課

連携教育推進課

EV

WC

WC

カフェテリア101

EV

WC

WC

3F

EV

WC

WC

4F

屋上庭園

ガーデンホール

EV

WC

WC

写真の背景「茜館（旧第一本部棟）・フランス庭園」

茜館(旧第一本部棟)は、相模原市の登録文化財となっており、付設するフランス庭園も、相模原市の登録名勝として保存されています。庭園は、集会所に付設された庭園で現存する洋風庭園として貴重であり、当時の優れた施工技術を知ることができます。

夢をかなえるセンター特設サイト

夢をかなえるセンターで行う社会貢献活動や
国際教育について、情報を発信しています。
https://ymkn.sagami-wu.jp

Sagami Women's University

相模女子大学・相模女子大学短期大学部

〒252-0383　神奈川県相模原市南区文京2-1-1　TEL 042-742-1411(代表)／小田急線相模大野駅下車徒歩10分

〈大学院〉栄養科学研究科 栄養科学専攻(博士前期課程・博士後期課程)・社会起業研究科 社会起業専攻(専門職学位課程)〈大学〉[学芸学部]日本語日本文学科・英語文化コミュニケーション学科・子ども教育学科・メディア情報学科・生活デザイン学科 [人間社会学部]社会マネジメント学科・人間心理学科 [栄養科学部]健康栄養学科・管理栄養学科 〈短期大学部〉食物栄養学科

https://www.sagami-wu.ac.jp/

問合せ先
夢をかなえるセンター　連携教育推進課　社会連携推進室
TEL 042-813-5038　FAX 042-747-9599　renkei@mail2.sagami-wu.ac.jp

2024年4月発行

【資料11】

2024年度

「Sagami チャレンジプログラム」シラバス

「活動に興味はあるけど、詳細や参加方法がわからない…」
「どこで活動の情報を入手できるの?」
「学内で活動する時に利用できる場所は?」
知りたいことがわかる「Sagamiチャレンジプログラム」徹底ガイドブックです。

9期連続
地域貢献度ランキング
全国女子大
No.1

「復興支援学生ボランティア委員会」の学生

ユメカナ

相模女子大学・相模女子大学短期大学部
夢をかなえるセンター　連携教育推進課

本冊子の利用方法

「Sagami チャレンジプログラム」について知りたい

社会貢献活動や国際教育活動に興味があり、詳細について詳しく知りたい方におすすめの一冊です。本冊子では「Sagami チャレンジプログラム」のシラバスを掲載しています。シラバスとは、「Sagami チャレンジプログラム」において扱われる正課外活動の形態・目標・期間・計画などを活動の概要として示したものです。自分の気になる活動を見つけて、参加してみましょう。

〈シラバスの見方〉

活動情報の収集方法や利用可能な設備について知りたい

夢をかなえるセンター 連携教育推進課前には、ラーニングコモンズがあります。そこでは、「Sagami チャレンジプログラム」の活動情報を収集することができ、更にはミーティングのスペースとしても利用可能な設備が整っています。積極的に活用してください。本冊子の P35 ～ 36 にて施設設備をご紹介しています。

目　次

1.「Sagami チャレンジプログラム」について知りたい　P.4 ～ P.7

2.「Sagami チャレンジプログラム」シラバス　P.8 ～ P.32

活動形態	活動名	ページ
ボランティア	オリジナル梅酒『翠想』　製造ボランティア / ノジマステラ試合運営ボランティア	8
ボランティア	相模原市ボランティア認定制度 / ポンパドウルレシピコンテスト	9
ボランティア	清川村特産品開発プロジェクト	10
体験活動	福島県本宮市　田植え・農家民泊体験 / 農作業・農家民泊体験	11
体験活動	福島県本宮市　稲刈り・農家民泊体験 / 秋祭り・農家民泊体験	12
体験活動	三重県熊野市　歴史巡りと丸山千枚田・田植え体験 / 稲刈り体験	13
体験活動	新潟県佐渡市　歴史的遺産巡りと伝統芸能体験 / 能楽体験	14
地域協働活動	長野県生坂村【夏季・春季】/ 群馬県富岡市【夏季・春季】	15
地域協働活動	群馬県沼田市【夏季・春季】/ 京都府和束町【夏季・春季】	16
プロジェクト活動	サガジョ盛り上げ隊プロジェクト	17
プロジェクト活動	丸山千枚田魅力発信プロジェクト	18
プロジェクト活動	もとみや SMILE プロジェクト	19
プロジェクト活動	「海外に子ども用車椅子を届けよう！」プロジェクト	20
プロジェクト活動	群馬県富岡市　おっきリンピック宣伝部	21
プロジェクト活動	福岡県糸島市　女性のはたらき方研究プロジェクト	22
プロジェクト活動	復興支援学生ボランティア委員会	23
プロジェクト活動	電子回路ペンプロジェクト	24
プロジェクト活動	佐渡プロジェクト	25
国際教育	【国際プログラム】ビクトリア大学協定校留学 / マニトバ州立大学協定校留学	26
国際教育	【国際プログラム】文藻外語大学交換留学 / ビクトリア大学英語研修	27
国際教育	【国際プログラム】ソウル女子韓国語研修 / 文藻外語大学中国語研修	28
国際教育	【外国語・英語教育】　キャンパス留学 /TOEIC® IP テスト	29
国際教育	【異文化理解】　CEMLA ボランティア / 外国人訪問学生・交換留学生サポーター	30
その他	キャリア☆カフェ	31
その他	ユメカナ★カフェ	32
その他	神奈川産学チャレンジプログラム / 「Sagami チャレンジプログラム」for kids プロジェクト	33
その他	資格取得	34

3．利用可能なスペース・設備紹介　35 ～ 36

4．よくある質問　37

活動形態の定義

ボランティア

概　　要	自らの意思に基づき主体的に参加する、社会貢献活動です。
参加単位	個人での参加が可能です。
活動期間	1 日から数日の短期間のものや年間を通して長期間で行うものまで様々あります。

体験活動

概　　要	地域に赴き農作業や伝統芸能等の体験を行う、宿泊を伴う活動です。
参加単位	個人での参加が可能です。
活動期間	2 ～ 5 日程度です。

地域協働活動

概　　要	指定されたプログラムを修了することにより、単位（1 単位）を修得することができる活動です。なお、事前指導の受講・事後報告書の提出・報告会への参画が必須となります。
参加単位	個人での参加が可能です。
活動期間	夏季もしくは春季休業期間中に 1 週間程度、現地に滞在します。

プロジェクト活動

概　　要	大学にプロジェクト設置の申請を行い、認められることで行うことができる活動です。同じ想いや目的を持って集まった学生が、地域や企業等と協働しながら、それぞれが目的の達成に向けて活動を行います。メンバーの募集やプロジェクトリーダーの選出等も学生自ら行い、学内外をフィールドとして年間を通して活動します。
参加単位	目的・目標をともにする仲間同士でプロジェクトを発足し、共に活動します。既存のプロジェクトに参加する場合は、個人での申込が可能です。
活動期間	プロジェクトにより様々です。

国際教育活動

国際教育活動は、以下 3 つに分類されます。

国際プログラム	異文化理解、外国語・英語教育を海外というフィールドで行います。海外協定校への留学や語学研修プログラムが含まれます。
外国語・英語教育	国内で外語国・英語を学ぶプログラムです。世界の人々と意思疎通を図る能力を身につける活動です。
異文化理解	異文化との相互交流を通して、自分と異なる人や社会や文化などを理解し、お互いに尊重しながら共に生きていく姿勢を身につける活動です。

その他

「ボランティア」「体験活動」「地域協働活動」「プロジェクト活動」「国際教育活動」以外の活動

「Sagami チャレンジプログラム」とは?

本学では、学園スローガン「見つめる人になる。見つける人になる。」のもと、「しなやかな発想力と豊かな包容力を身につけながら、未来を、社会を見つめ、道を、答えを見つける人になる。」そのような人材を育成することを教育目標に掲げています。「Sagami チャレンジプログラム」は、上記の教育目標に則り「キャリア形成支援ポリシー」のもと学生の「キャリア形成」を支援するプログラムです。

キャリア形成支援ポリシー

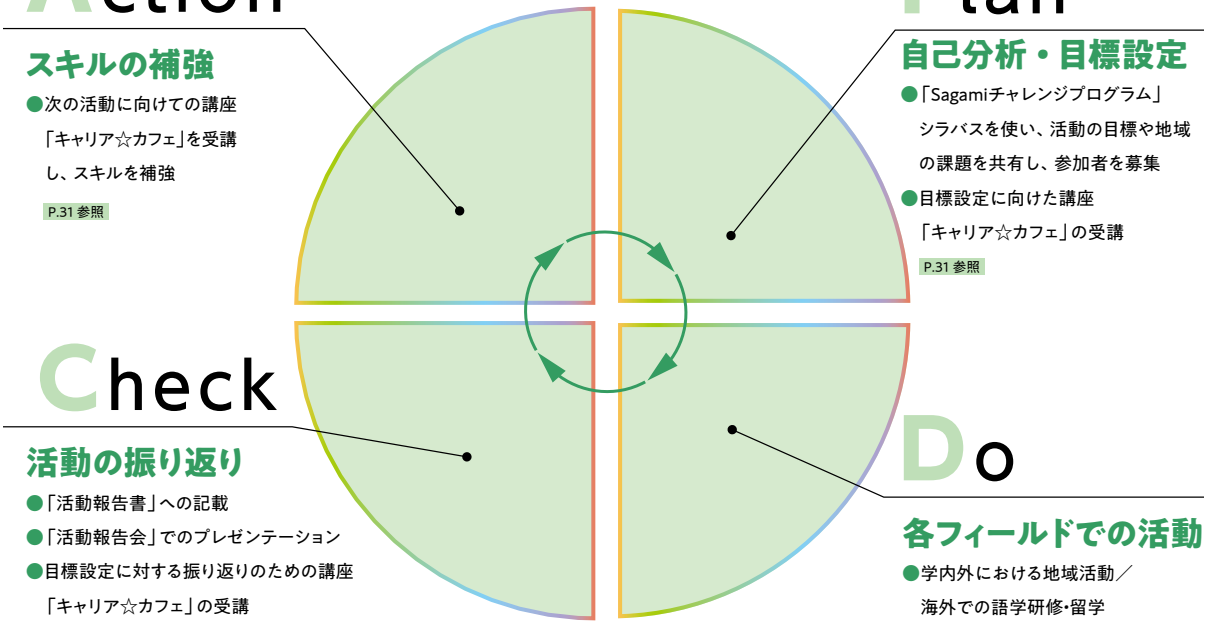
相模女子大学・相模女子大学短期大学部は、「社会との関わりの中で積み重ねる全ての経験を通して、社会と自分自身をしっかりと見つめ、自らの進む道を見つけ出し、人生を前向きに生きてゆくこと」を「キャリア形成」と位置付け、学生が、以下の力を身につけ、主体的に「キャリア形成」をするための「学びの場」を提供し、そこでの活動を支援します。

❶ 興味・関心を幅広く持ち、物事の本質を見つめ、筋道を立てて問題を解決する力。
❷ 社会との関わりにおける自分のありかたを考え、他者と柔軟なコミュニケーションをとり、協働できる力。
❸「働くこと」の意義を理解し、自分らしい生き方を見つけ出し、プランニングできる力。

「Sagami チャレンジプログラム」における学びの仕組み

「マーガレットスタディ」

すべての学科・学年の学生を対象とした正課外活動における学びの仕組み「マーガレットスタディ」。それぞれの活動において PDCA サイクルを回すことにより、目標の達成度を確認しながら自身の成長に気づき、弱点を補うことで次の活動につなげています。



積極的に利用しよう！

「Sagami チャレンジプログラム」アドバイザー制度

教職員、卒業生、地域や企業の方、外部講師などが一丸となって学生を支援する制度です。

きめ細やかな支援

多様なバックグランドを持つ学内外様々な人がアドバイザーとなって学生が主体的に学ぶことができるよう支援します。

<支援してくださる地域の方々>

アドバイザーの役割

（例）

- 活動に対する指導や助言
- 「マーガレットスタディ」における、各種講座の企画・運営・講話
- 地域の人脈を活かしながら、関係各所と連携し、活動を企画・運営

<学生とアドバイザーの相関図>

卒業生アドバイザーからのメッセージ

学生時代に経験したことを共有し、在学生に充実した活動を行ってほしい

福岡県糸島市 女性のはたらき方研究プロジェクト
管理栄養学科 2020 年度卒業　深澤 多絵

①「Sagami チャレンジプログラム」への参加のきっかけ

多様な働き方・生き方をする方々と関わりを持ち、自分自身のキャリア形成の軸となるものを得たかったことと、学年や学科を超えた繋がりが欲しかったことから、活動に参加しました。

②卒業生アドバイザーに登録した理由

実際に活動に参加したからこそ感じたこと、経験したことを後輩に共有することにより、学生の活動がより充実したものになれば嬉しいなと思い、登録しました。また、社会人として経験したことを後輩に何か伝えられるのではないかと思ったのも登録した理由の１つです。

③在学生へのメッセージ

活動に参加したことにより、コミュニケーション能力はもちろん、その経験で得た価値観や物事への考え方が、社会人になって活きていると感じます。また、活動で出会った糸島の地域の方々とは今でも繋がりがあります。このような出会いは一生ものです。ぜひ皆さんも「Sagami チャレンジプログラム」に参加してみてください。

積極的に利用しよう！

「Sagami チャレンジプログラム」活動情報の入手方法

活動の様子や参加者募集に関する情報は、様々なツールを利用して発信しています。
活動への参加を希望する方、活動に興味がある方は要チェックです！

1 SmileSagami のお知らせ配信

募集説明会などの情報は、SmileSagami のお知らせ配信をチェック！件名に、★ユメカナ★とつけて各活動の募集説明会のお知らせなどを行っています。 https://sagamistyle.sagami-wu.ac.jp

2 「Sagami チャレンジプログラム」専用掲示板

下記場所にて募集中の活動や募集説明会に関するチラシを掲載しています。

■連携教育推進課窓口前
■ EnglishRoom
■カフェテリア 101 入口
■ 7 号館入口

3 夢をかなえるセンター特設サイト

夢をかなえるセンター特設サイトでは、「Sagami チャレンジプログラム」に関する情報や活動に参加する学生からのお知らせ、活動報告等を掲載しています。
https://ymkn.sagami-wu.jp

▲特設サイト

4 連携教育推進課 SNS 公式アカウント

▲ X　▲ Instagram　▲ YouTube

フォトコンテスト

連携教育推進課 Instagram アカウントでプロジェクト活動を対象としたフォトコンテストを実施しました。

最もいいね！を獲得した「復興支援学生ボランティア委員会」に当冊子の表紙を飾っていただきました！

「Sagami チャレンジプログラム」活動への参加方法

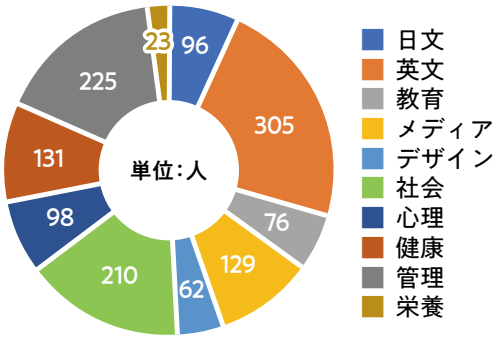
上記①②の情報発信ツールから募集説明会の情報を GET
↓
募集説明会に参加
↓
申込み
↓
活動への参加♪

2023 年度「Sagami チャレンジプログラム」活動実績

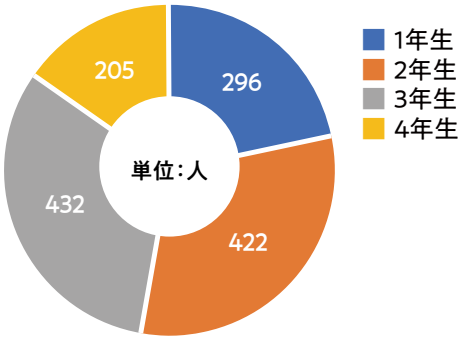
「Sagami チャレンジプログラム」の活動には、本学の大学または短期大学部に在籍している学生であれば、学年・学科問わず誰でも参加することができます。友人同士はもちろん１人で参加する学生も多く、参加した学生からは「学科・学年を越えて新しい友人ができた!」「社会人との交流が増え、ビジネスマナーが身についた」などの意見が多く寄せられていますので、安心して参加してくださいね。皆さんのチャレンジをお待ちしています!

延べ参加人数：1,355 名

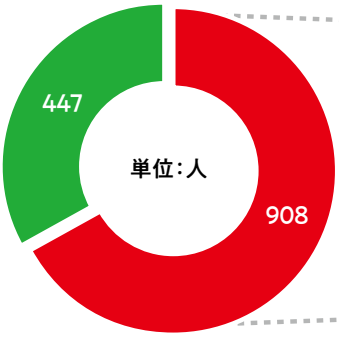
学科別



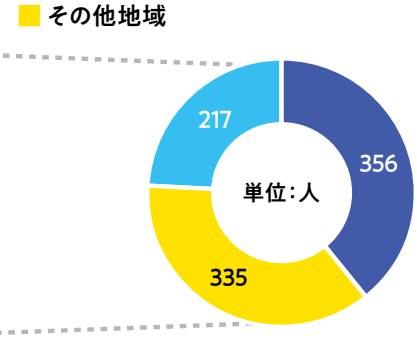
学年別



マーガレットスタディ 分類別



Do 活動場所別



Doの活動場所を細分化

※上記表内のその他地域とは
福島県、三重県、新潟県、長野県、岩手県、福岡県、群馬県、東京都、国際プログラムを含みます

オリジナル梅酒『翠想』製造ボランティア

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	–	5月～9月の間に3～5日間
活動フィールド	**参加費の目安**	
神奈川県・相模原	–	

活動の到達目標

大学にある梅の木から梅の実を収穫し、地元の酒蔵である久保田酒造（株）と連携してオリジナル梅酒『翠想』を製造します。事前学習として相模女子大学と久保田酒造（株）の連携事業のきっかけや、地元の酒蔵が抱える課題についても学ぶことができます。そのうえで実際に梅の実の収穫・梅酒の仕込み作業や瓶詰め作業、販売までに携わり、地元産業への理解を深めます。

活動計画

4月	募集説明会・事前学習
5～6月	梅の実の収穫・仕込み
7月	（生活デザイン学科のみ）ラベルデザイン考案
9月	梅酒瓶詰め作業・販売

活動の概要

本学のキャンパスには梅の木が多くあり、5月には若々しい翠（みどり）の実をつけます。その梅の実が地元の久保田酒造（株）の「相模灘純米吟醸」に漬け込まれ、本学オリジナル梅酒『翠想』として販売されます。『翠想』の名前の由来は、梅の実の「翠」と、このキャンパスで学ぶ学生たちの「想い」を込めて「翠想（すいそう）」から名付けられました。梅酒の製造には、仕込みから瓶詰め、ラベル貼りまで携わることができます。また、ラベルは例年生活デザイン学科の学生が考案しています。

職員からのメッセージ

『翠想』は地域の方に根強い人気があり、販売開始後数日で完売してしまうことがしばしばです。そんな地域の皆さんに愛される梅酒の製作に関わるボランティア活動にぜひご参加ください。

ノジマステラ試合運営ボランティア

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	–	都度参加
活動フィールド	**参加費の目安**	
神奈川県・相模原市	–	

活動の到達目標

相模原市内にある、相模原ギオンスタジアムを主な活動フィールドとして試合運営のボランティアを行います。ボランティアには相模女子大学の学生だけではなく、様々な年齢・職業の方が参加します。様々な人とコミュニケーションを取りながら地域や社会、スポーツ振興に貢献することで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画

4月	2023-24 シーズン募集説明会
4～6月	（都度）試合運営ボランティア
9月	2024-25 シーズン募集説明会
10～6月	（都度）試合運営ボランティア

活動の概要

女子プロサッカーチーム「ノジマステラ神奈川相模原」のホームゲームにおける運営ボランティアスタッフとして年間を通じて活動します。来場者の受付や誘導、グッズ販売等の運営を補助し、チームの勝利に貢献することができます。

職員からのメッセージ

相模原市のサッカーチームとの活動です。初めて社会貢献活動へ挑戦してみたい、と考えている方も気軽に挑戦できるボランティア活動ですので、新たなことへ挑戦してみたい方、積極的になりたい方、ぜひご参加ください。

相模原市ボランティア認定制度

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	–	1年間
活動フィールド	**参加費の目安**	
神奈川県・相模原市ほか	–	

活動の到達目標

相模原市内を中心とした地域の様々な問題、課題について向き合い、社会の一員として主体的に行動することのきっかけとします。また、認定の対象となるためにはボランティア活動を継続的に行う必要があります。積極的に社会貢献活動に参加し、またその活動を継続する力を身につけます。

活動計画

6月	エントリー
6月～3月	ボランティアに参加
12月	活動レポート・報告書を提出
3月	認定証贈呈式

活動の概要

相模原市が認定する市民協働事業のボランティア活動、もしくは夢をかなえるセンターが提供する社会貢献活動等に参加し、一定の活動時間と活動内容が認められた後、相模原市長から地域に貢献した証として認定書が贈られます。
おもな活動事例：森林活用モデル検討事業、人と猫の共生社会支援事業など。

職員からのメッセージ

相模原市内を中心とした地域の様々な課題に向き合い、ボランティア活動を行います。活動日数・活動時間によって授与される認定証も学士、修士、博士と種類が変わります。ぜひ、博士の認定証を目指して積極的にご参加ください。

ポンパドウルレシピコンテスト

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	–	最長10ヶ月 （実際の活動期間は 2ヶ月程度）
活動フィールド	**参加費の目安**	
町田市・相模原市	–	

活動の到達目標

（株）東京ポンパドウルについて企業研究を行った上で、テーマに沿ったオリジナルパンのレシピを考案することにより、主体性・行動力を身に付けます。また、自分のアイデアを形あるものとして表現し、それを他者へ正確に伝える力を身に付けることも目標とします。

活動計画

6月	募集説明会
6～8月	レシピ募集
10月	結果通知
11・3月	商品化および販売

活動の概要

2015年度より（株）東京ポンパドウルとの産学連携活動として開催している本レシピコンテストは、学生考案のオリジナルパンのレシピを募集・商品化する取組みを行っています。応募作品は（株）東京ポンパドウルにより審査され、採用となったレシピは商品化され、相生祭やポンパドウル町田店等にて販売されます。

職員からのメッセージ

テレビ番組でも取り上げられる有名店「ポンパドウル」にて、自らが考案したレシピを審査していただける機会は滅多にありません。応募作品数に上限はありませんので、思い付く限りのレシピを応募してみてください。皆さんのご応募をお待ちしています。

清川村特産品開発プロジェクト

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	15 名	1 年間
活動フィールド	**参加費の目安**	
清川村	–	

活動の到達目標

清川村のお茶を活用した特産品開発を行います。地域の課題を理解した上で、清川村役場や村内の協力店舗など様々の方と協力しながら、試作を重ね清川村の特産品開発を進めていただきます。この活動を通して、学年や学科が異なるメンバーと協力し課題を解決する力を磨きます。

活動計画

4 ～ 5 月	募集説明会
7 ～ 12 月	レシピ試作等、活動への参加
2 月	試作品の販売

活動の概要

神奈川県唯一の村である清川村を舞台に、清川村の特産品である清川茶を使用した特産品開発を行います。レシピ試作は月 1 回程度、清川村の調理室または大学内の調理室で行います。完成した試作品を村内の協力店舗で販売することを目標として活動します。

職員からのメッセージ

清川村役場や村内の協力店舗の方々にサポートいただきながら活動できるので、社会貢献活動が初めての方も安心です。栄養系に限らず幅広い学科の学生が活動しています。

福島県本宮市
田植え・農家民泊体験験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	20 名	2 日間
活動フィールド	参加費の目安	
福島県本宮市	6,500 円	

活動の到達目標

福島県のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であったことから「福島のへそのまち」と言われている本宮市を訪問し、田植えや農家民宿などを体験します。地域の方々と交流し、多様な考え方や生き方を学ぶことで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画

4 月	募集説明会
5 月	参加者対象説明会
5 月	現地訪問

活動の概要

福島県本宮市を 1 泊 2 日で訪問し、田植え体験や大学専用農地「マーガレットファーム」での農作業体験や農家民宿への宿泊を通して地域の方々と交流深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ

田植えや農家民泊など、普段の大学生活ではできないことを体験することで、自分の考え方や価値観に変化が出てきます。課外活動に参加したことのない学生にも参加しやすい内容となっています。

福島県本宮市
農作業・農家民泊体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	20 名	2 日間
活動フィールド	参加費の目安	
福島県本宮市	6,500 円	

活動の到達目標

福島県のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であったことから「福島のへそのまち」と言われている本宮市を訪問し、農作業や農家民泊などを体験します。地域の方々と交流し、多様な考え方や生き方を学ぶことで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画

5 月	募集説明会
6 月	参加者対象説明会
7 月	現地訪問

活動の概要

福島県本宮市を 1 泊 2 日で訪問し、大学専用農地「マーガレットファーム」での農作業体験や農家民宿への宿泊を通して地域の方々と交流深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ

農作業や農家民泊など、普段の大学生活ではできないことを体験することで、自分の考え方や価値観に変化が出てきます。課外活動に参加したことのない学生にも参加しやすい内容となっています。

福島県本宮市
稲刈り・農家民泊体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	20 名	2 日間
活動フィールド	**参加費の目安**	
福島県本宮市	6,500 円	

活動の到達目標

福島県のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であったことから「福島のへそのまち」と言われている本宮市を訪問し、稲刈りや農家民泊などを体験します。地域の方々と交流し、多様な考え方や生き方を学ぶことで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画

7 月	募集説明会
9 月	参加者対象説明会
10 月	現地訪問

活動の概要

福島県本宮市を 1 泊 2 日で訪問し、稲刈り体験や大学専用農地「マーガレットファーム」での農作業体験、農家民宿への宿泊を通して地域の方々と交流深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ

稲刈りや農家民泊など、普段の大学生活ではできないことを体験することで、自分の考え方や価値観に変化が出てきます。特に、田植えに参加した学生は、自分が植えた苗を収穫する機会にもなっています。

福島県本宮市
秋祭り・農家民泊体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	20 名	3 日間
活動フィールド	**参加費の目安**	
福島県本宮市	6,500 円	

活動の到達目標

福島県のほぼ中央に位置し、古くから交通の要衝であったことから「福島のへそのまち」と言われている本宮市を訪問し、地域の祭りや農家民泊などを体験します。地域の方々と交流し、多様な考え方や生き方を学ぶことで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画

9 月	募集説明会
10 月	参加対象者説明会
10 月	現地訪問

活動の概要

福島県本宮市を 2 泊 3 日で訪問し、本宮市伝統の秋祭りに参加します。お揃いの化粧と法被を纏い女性しか担げない「真結女御輿」で地元の方々と一緒に祭りを盛り上げます。
また農作業体験や農家民宿への宿泊を通して地域の方々と交流深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ

御輿担ぎや農家民泊など、普段の大学生活ではできないことを体験することで、自分の考え方や価値観に変化が出てきます。

三重県熊野市
歴史巡りと丸山千枚田・田植え体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	30 名	3 日間
活動フィールド	**参加費の目安**	
三重県熊野市	11,000 円	

活動の到達目標

日本の偉大なる遺産の宝庫・三重県熊野市を訪問し、歴史的遺産等を巡り熊野市がなぜ日本の聖地と言われているかを探ります。また、日本最大規模の棚田・丸山千枚田では、昔ながらの手法による手作業で田植えを行います。日常では経験することができない貴重な体験を通じて、日本の歴史や農耕文化について理解を深めます。

活動計画

4 月	募集説明会
5 月	参加者対象説明会
5 月	現地訪問

活動の概要

熊野市の遺産等を巡り、丸山千枚田で手作業による田植えを体験します。この活動は、2008 年に農林水産省が主催する「田舎で働き隊」に 30 名の本学生が参加したことがきっかけで始まり、全国で初めて女子大生が参加するということで注目を集めました。地域の方々との協働により交流を深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ

2008 年から継続的に行っている、本学の学生活動を代表する取組みです。活動の導入として初心者でも参加しやすい内容となっています。

三重県熊野市
歴史巡りと丸山千枚田・稲刈り体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	30 名	3 日間
活動フィールド	**参加費の目安**	
三重県熊野市	11,000 円	

活動の到達目標

日本の偉大なる遺産の宝庫・三重県熊野市を訪問し、歴史的遺産等を巡り熊野市がなぜ日本の聖地と言われているかを探ります。また、日本最大規模の棚田・丸山千枚田では、昔ながらの手法による手作業で稲刈りを行います。日常では経験することができない貴重な体験を通じて、日本の歴史や農耕文化について理解を深めます。

活動計画

7 月	募集説明会
8 月	参加者対象説明会
9 月	現地訪問

活動の概要

熊野市の遺産等を巡り、丸山千枚田で手作業による稲刈りを体験します。この活動は、2008 年に農林水産省が主催する「田舎で働き隊」に 30 名の本学生が参加したことがきっかけで始まり、全国で初めて女子大生が参加するということで注目を集めました。地域の方々との協働により交流を深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ

2008 年から継続的に行っている、本学の学生活動を代表する取組みです。活動の導入として初心者でも参加しやすい内容となっています。

新潟県佐渡市
歴史的遺産巡りと伝統芸能体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	10 名程度	5 日間
活動フィールド	**参加費の目安**	
新潟県佐渡市	18,000 円	

活動の到達目標

広大な自然の中で展開された歴史や文化などが多様に織りなす新潟県佐渡市を訪問し、佐渡市がなぜ「日本の縮図」と言われているかを探ります。また、佐渡島内で現在も集落ごとに伝承されている伝統芸能（鬼太鼓など）を地域の方から教わります。豊かな自然の中で育った農水産物を頂いたり、歴史的遺産を巡ったりするなど地域社会を様々な角度から学び、日本の歴史や伝統文化について理解を深めます。

活動計画

5 月	募集説明会
6 ～ 7 月	参加者対象
8 月	現地訪問
10 月	振り返り
11 月	相生祭での鬼太鼓披露（一部集落のみ）

活動の概要

新潟県佐渡市を 4 泊 5 日で訪問し、高千地区内の集落に学生を 2 名程度ずつ受け入れていただき、各集落に伝承されている伝統芸能（鬼太鼓など）を教わります。教わった芸能を、「夏の彩典　たかち芸能祭」で島民や帰省客・観光客に披露します。
芸能体験を通して地域の方々との交流を深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ

活動期間中は公民館に泊まり込み、炊事や掃除などを協力して行います。地域の方との交流はもちろん、現地での共同生活を通して参加者同士の交流も深められます。主体的に参加することで学ぶ機会を多く得ることができます。ハードルが高いと思われがちな伝統芸能体験ですが親切・丁寧にご指導いただけるので、興味や関心がある方はぜひ挑戦してください！

新潟県佐渡市
歴史的遺産巡りと能楽体験

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5 名	5 日間
活動フィールド	**参加費の目安**	
新潟県佐渡市	7,000 円	

活動の到達目標

広大な自然の中で展開された歴史や文化などが多様に織りなす新潟県佐渡市を訪問し、佐渡市がなぜ「日本の縮図」と言われているかを探ります。また、佐渡島内で現在も大衆に愛されている能楽を地域の方から教わります。豊かな自然の中で育った農水産物を頂いたり、歴史的遺産を巡ったりするなど地域社会を様々な角度から学び、日本の歴史や伝統文化について理解を深めます。

活動計画

5 月	募集説明会
6 ～ 9 月	参加説明会及び事前お稽古
9 月	現地訪問
10 月	振り返り

活動の概要

新潟県佐渡市を 4 泊 5 日で訪問し、地域の能楽団体「羽茂昭諷会」の方に能楽を教わり、草刈神社の「乙祭」の前座で仕舞を披露します。
事前に能楽のお稽古を行いますので、能楽未経験学生も参加可能です。
能楽や佐渡の民謡「佐渡おけさ」体験を通して地域の方々との交流を深め、地域の暮らしや生き方を学びます。

職員からのメッセージ

活動期間中はコテージタイプの宿舎に泊まり込み、炊事や掃除などを協力して行います。地域の方との交流はもちろん、現地での共同生活を通して参加者同士の交流も深められます。主体的に参加することで学ぶ機会を多く得ることができます。ハードルが高いと思われがちな能楽ですが親切・丁寧にご指導いただけるので、興味や関心がある方はぜひ挑戦してください！

長野県生坂村【夏季・春季】

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5名	2ヶ月 （滞在期間は1週間）
活動フィールド	**参加費の目安**	
長野県生坂村	未定	

活動の到達目標

地域の人々と交流し、多様な考え方、生き方を学び、社会・対人間関係力、自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、ファシリテーション力、課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とします。

活動計画

7・12月	募集説明会
8・2月	事前学習講座
9・3月	現地訪問
9・3月	事後学習講座・報告会

活動の概要

長野県生坂村に1週間ほど滞在します。農業体験を中心としたプログラムで、地域の農産物・温泉を活用した新商品開発や物産品の販売方法などを提案します。

職員からのメッセージ

夏季・春季休業期間を利用して行う活動です。自然豊かな生坂村での活動は、参加時期によってプログラムが自然の変化なども楽しめます。味噌づくり、おやきづくり、蕎麦打ち体験など盛りだくさんのプログラムです。

群馬県富岡市【夏季・春季】

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5名	2ヶ月 （滞在期間は1週間）
活動フィールド	**参加費の目安**	
群馬県富岡市	未定	

活動の到達目標

地域の人々と交流し、多様な考え方、生き方を学び、社会・対人間関係力、自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、ファシリテーション力、課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とします。

活動計画

7・12月	募集説明会
8・2月	事前学習講座
9・3月	現地訪問
9・3月	事後学習講座・報告会

活動の概要

群馬県富岡市には、煮込み麺を使った郷土料理「おっきりこみ」があります。地元の農産物の活用することで消費拡大に貢献し、「おっきりこみ」をさらに家庭の味として PR していきます。その他、現地での滞在中は「富岡製糸場」など富岡市の農文化とその歴史、自然を学び、都会からどのように観光客を誘致できるかなど、提案をしていきます。

職員からのメッセージ

夏季・春季休業期間を利用して行う活動です。世界文化遺産の町、富岡市の歴史と文化を学ぶことができます。地元の方々との交流や郷土料理「おっきりこみ」の PR など観光客誘致の課題解決にも取り組みます。

群馬県沼田市【夏季・春季】

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5名	2ヶ月 （滞在期間は1週間）
活動フィールド	**参加費の目安**	
群馬県沼田市	未定	

活動の到達目標

地域の人々と交流し、多様な考え方、生き方を学び、社会・対人間関係力、自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、ファシリテーション力、課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とします。

活動計画

7・12月	募集説明会
8・2月	事前学習講座
9・3月	現地訪問
9・3月	事後学習講座・報告会

活動の概要

群馬県沼田市に1週間ほど滞在します。観光農園・古民家を活用した農泊（ホームステイ）や現地の農作物を利用した料理作りなどを通して、観光活性化策を提案します。

職員からのメッセージ

夏季・春季休業期間を利用して行う活動です。日本有数の温泉地での活動では、観光資源の実体験や農業体験、市場体験、農泊体験など、このほかにも沢山のプログラムが用意されています。

京都府和束町【夏季・春季】

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	5名	2ヶ月 （滞在期間は1週間）
活動フィールド	**参加費の目安**	
京都府和束町	未定	

活動の到達目標

地域の人々と交流し、多様な考え方、生き方を学び、社会・対人間関係力、自己成長及び他者貢献を継続・向上させる力、ファシリテーション力、課題解決に対する行動力を身に付け、今後の社会活動に活かす素養を得ることを目標とします。

活動計画

7・12月	募集説明会
8・2月	事前学習講座
9・3月	現地訪問
9・3月	事後学習講座・報告会

活動の概要

京都府和束町に1週間ほど滞在します。茶畑での収穫作業を中心に加工工場での補助作業等を通して、お茶の作法や歴史・文化も学び、地域の魅力の掘り起こしや活性化に繋がる提案などを行います。

職員からのメッセージ

夏季・春季休業期間を利用して行う活動です。和束町は「宇治茶」の生産量が日本一の町です。ここでの活動は、お茶の収穫や歴史を学ぶとともに、和束カフェの運営や美味しいお茶の飲み方など地域との交流も楽しみの一つです。

サガジョ盛り上げ隊プロジェクト

活動の到達目標

「相模女子大学をさらに好きになってほしい、より多くの人に知ってもらいたい」という目標を掲げ、「Sagami チャレンジプログラム」を中心とした広報活動を行います。
目標達成に向け様々な活動に取り組む中で、主体性・発信力を身につけていきます。企画を一つ一つこなすことで、協働力を向上させ、自分自身の成長にもつながります。

活動の概要

サガジョ盛り上げ隊とは、『大学を私たちの手で盛り上げていきたい！』という想いのもと、発足したプロジェクトです。広報プランを主体的に立案し、「Sagami チャレンジプログラム」や大学にまつわるニュース記事、映像などのコンテンツ制作、SNS 運用などを行います。加えて、オープンキャンパスで受験生向けの「Sagami チャレンジプログラム」活動紹介や、社会貢献活動・国際教育コーナーにて開催するイベント企画・運営等、社会人としても必要されるコミュニケーション力や発信力を身に付けながら、活動を進めていくことができます。

活動計画

4 月	入学式登壇・募集説明会
5 ～ 8 月	歴史マッププロジェクト 企画・準備
9 月	オープンキャンパスで歴史マップイベント実施・学生考案オリジナルノベルティ配布
11 月	相生祭で「サガジョ歴史ツアー」開催
12 ～ 2 月	次年度の活動計画の立案

＊ 2023 年度の実績です。

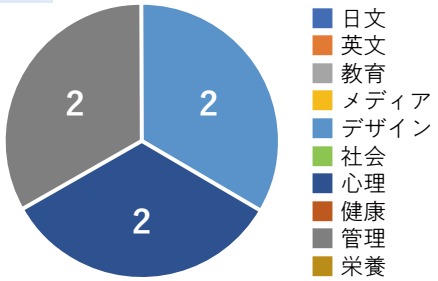
● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

プロジェクト学生からのメッセージ

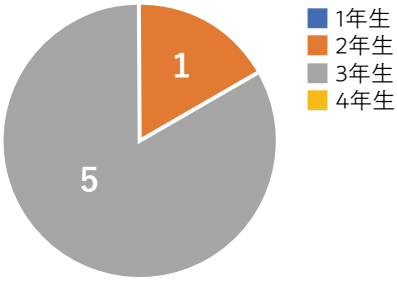
今の自分に満足していますか？
もし何か挑戦してみたいという気持ちが少しでもあったら、是非サガジョ盛り上げ隊プロジェクトに入り、自分の可能性を広げてみませんか？
サガジョ盛り上げ隊プロジェクトは、新しい仲間をつくり、人との繋がりの大切さを学び、楽しい思い出を作り、大変なこともあるけれど職員の方も含め皆で一緒に乗り越えていくプロジェクトです。
あなたは思っている以上に沢山のパワーを持っていることを忘れないで下さい！
より成長できる自分に、より成長できる相模女子大学にしていきましょう！新しい冒険の始まりです！

〈活動の様子〉

〈所属学生のデータ〉



学科



学年

単位：人
＊2023年度の実績です。

丸山千枚田魅力発信プロジェクト

活動の到達目標

三重県熊野市にある棚田・丸山千枚田の保存活動に参画し「丸山千枚田を守る会」の会員を増やすことを目標としています。目標達成のために、多くの方へ丸山千枚田の情報を発信する活動を行います。この活動を通して、他者に思いを伝える " 発信力 " を、メンバーとともに楽しみながら養っていただきたいと思います。

活動の概要

日本の農耕文化を代々継承することで守られてきた丸山千枚田ですが、地域の過疎化や高齢化により、農業の担い手不足だけでなく、下支えするオーナーや守る会会員の減少が課題となっています。私たちはそんな丸山千枚田の課題と向き合い魅力を発信する活動を行なっています。活動の場所は学内のみならず、実際に現地を訪問し地域の方々とともに農作業を行う等、貴重な体験をしています。

活動計画

5 月	田植え体験
9 月	稲刈りインターンシップ（1 週間程度現地滞在）
11 月	相生祭での活動 PR など
2 月	畦そりインターンシップ（1 週間程度現地滞在）
3 月	都内アンテナショップにて P R 活動

＊ 2023 年度の実績です。

上記以外にも適宜 PR 活動を行うことがあります。

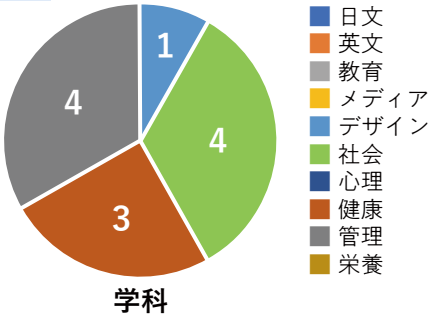
● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

プロジェクト学生からのメッセージ

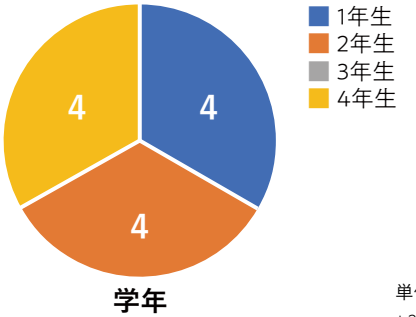
活動を通じて、実際に現地を訪問しなければわからない人の温かさや、綺麗な景観の裏側を知ったりすることができます。学部学科問わず様々な学生が在籍している為多種多様なアイディアが生まれ、助け合いながら活動をしています。農作業をしてみたい方、現地の方と交流してみたい方、PR 活動をしてみたい方 是非一緒に活動をしましょう！皆さんのご参加をお待ちしています！

〈活動の様子〉

〈所属学生のデータ〉



学科



学年

単位：人
＊2023年度の実績です。

もとみや SMILE プロジェクト

活動の到達目標

本宮市とプロジェクトメンバーで１年間の活動計画を決定します。主に地域が抱える課題の解決策や地域イベント、コラボ商品開発、地域連携フェア（物産展）の開催など本宮市と連携し地域の活性化や学生個々のスキルアップを目指します。

活動の概要

相模女子大学と福島県本宮市は地域協働活動事業に係る協定を締結しています。その中で「もとみや SMILE プロジェクト」は東日本大震災や台風 19 号で被災した市民の皆さんをもっと笑顔に、もっと元気にしたい！という想いを持つ有志の学生が集まったプロジェクトです。年間を通して様々な活動やイベントに参加し本宮市の PR をしています。

● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードよりご覧ください。

活動計画

5 月	本宮市訪問①（田植えや放射能についての学習）
7 月	本宮市訪問②（野菜の収穫や放射能についての学習）
8 ～ 9 月	今後の活動についての打合せ
10 月	本宮市訪問③（稲刈りや放射能についての学習）
10 月	本宮市訪問④（もとみや秋祭りへの参加や農作業）
11 月	相生祭の地域物産展への参加
11 月	相模原市農業まつりでの販売補助
11 月	福島県と安達地方の観光物産展（浅草寺）での販売補助
1 ～ 2 月	今後の活動についての打合せ
時期未定	マーガレットカフェ （開催に向けたレシピ試作、現地での試作会（本宮市訪問⑤）、カフェ当日（本宮市訪問⑥）など）

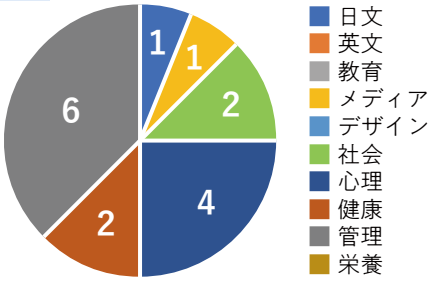
＊ 2023 年度の実績です。

プロジェクト学生からのメッセージ

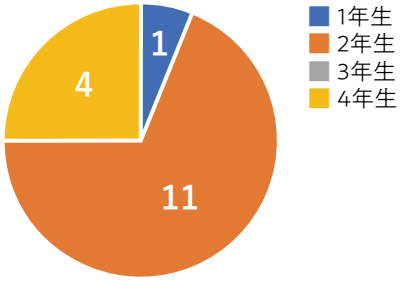
2023 年度は 4 回の本宮訪問に加え、首都圏で開催された物産展で本宮の特産物の PR を 3 回行いました。コロナ前の活動に戻しつつ、更なる活性化を目指すため、新たな取り組みも実施しており、活動の幅が広がると共に、本宮の方に直接お会いできる機会が増えています。
私たちと一緒に、本宮の美味しい食材や本宮市の方のあたたかさに触れ、その良さを広げていきましょう！学生生活を彩る思い出になってくれるはずです！

〈活動の様子〉

〈所属学生のデータ〉



学科



学年

単位：人
＊2023年度の実績です。

「海外に子ども用車椅子を届けよう!」プロジェクト

活動の到達目標

「ARIGATO」を実現するため、私たちができる限りの活動を行います。車椅子は送るだけでなく、車椅子を日本で使っていた方々の思いを伝えられるように、私たちが実際に修理し現地に訪問し直接手渡しします。また、海外だけでなく、地域活動のイベントやお祭りなどにも参加し、地域の方々からの支援をいただくとともに、活動の PR を行っています。

活動の概要

東日本大震災でタイからの支援に対する日本の「ARIGATO」を車椅子にのせて届けよう！とスタートしたプロジェクトです。海外では、貧困のために沢山の障害児が車椅子もなく不自由な生活を送っています。日本国内において子どもの成長により不要になった車椅子を修理し、ミャンマー、ラオス、マレーシアなどにこれまで寄贈してきました。今後も子ども達と触れ合うことを大切に、NPO 法人「海外に子ども用車椅子を送る会」のサポートをしながら沢山の「ARIGATO」を伝えていきます。

活動計画

4 月	新メンバー加入
8 月	「もんじぇ祭り」への参加
9 月	「つながりマルシェ」への参加
11 月	相生祭の出店出展 「日光国立公園マウンテンランニング大会」のボランティア活動
1 月	日光の「天然氷の切り出し」のボランティア活動
3 月	海外（タイ）でのボランティア活動

＊ 2023 年度の実績です。

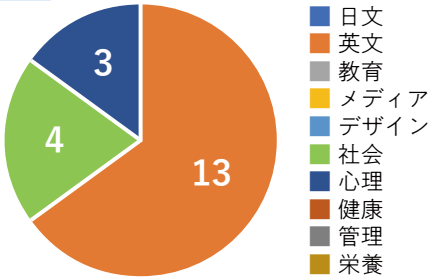
● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

プロジェクト学生からのメッセージ

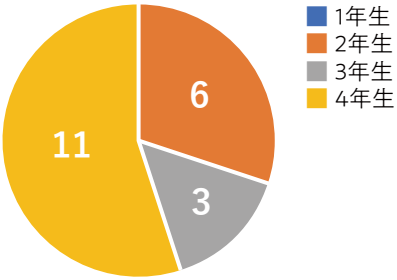
「興味はあるけどよく分からない、不安だな」という学生さんが多いと思います。質問なども受け付けていますので活動内容が気になる方は遠慮なくお声がけください。一緒に楽しみながら活動していきましょう！

〈活動の様子〉

〈所属学生のデータ〉



学科



学年

単位：人
＊2023年度の実績です。

群馬県富岡市
おっきリンピック宣伝部

活動の到達目標

群馬県富岡市の郷土料理である「おっきりこみ（上州風煮込みうどん）」を調理・販売することで、富岡市や相生祭に貢献することを目指します。さらに富岡市の歴史や文化について学び、富岡市の魅力を多くの方に知ってもらえるような取り組みを企画・運営することも目標です。

活動計画

6 月	募集説明会
9 月	相生祭でのおっきりこみ提供に向けた試作
11 月	相生祭（地域物産展）でのおっきりこみの提供
2 月	富岡市訪問（おっきりこみの提供）

＊ 2023 年度の実績です。

活動の概要

おっきりこみをはじめ、富岡市の魅力を多くの人に発信する活動です。私たちは NPO 法人「ふれあいパーク岡成」の皆様のご協力をいただきながら、富岡市で行われる「おっきリンピック」というイベントを運営しています。そのほかにも相生祭や SNS で、おっきりこみや養蚕業について発信しています。詳細は、新規メンバー募集説明会にて説明します。SNS からもお気軽にお問い合わせください！

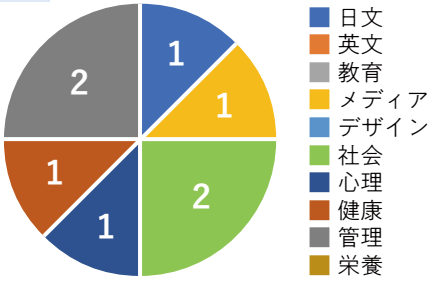
● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

プロジェクト学生からのメッセージ

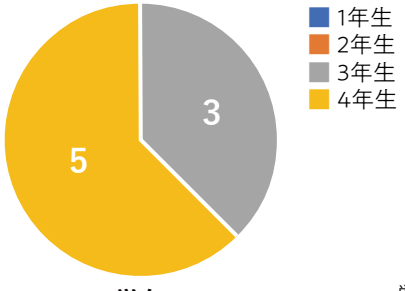
田舎が好きな方、作ること・食べることが好きな方、必見です！農村のとれたて新鮮な食材を使って、新しいおっきりこみのレシピ作成や調理・販売を経験できます。
地元愛にあふれる現地の NPO 法人の方々と一緒に、富岡市を盛り上げていきましょう！

〈活動の様子〉

〈所属学生のデータ〉



学科



学年

単位：人
＊2023年度の実績です。

福岡県糸島市
女性のはたらき方研究プロジェクト

活動の到達目標

多様な生き方・働き方をする方々との出会いを通じて、自分自身を見つめ、自分の進路にヒントを見つけることを目標とします。また、学科・学年を問わずに集まったメンバーが、役割分担や意見交換などを通して、他者と協力する力を身につけます。

活動の概要

移住先として人気の福岡県糸島市をフィールドに「これからの女性のはたらき方」について研究します。糸島の魅力あふれる自然や歴史、人に囲まれながら、多様なはたらき方をする方へのインタビュー通じて、自分自身がどのように生きていくかを考えます。また、相生祭での商品販売やSNSでの情報発信等により、糸島の魅力を多くの人に伝えていきます。

活動計画

6月	募集説明会
7月	メンバー顔合わせ・役割分担決め
7～3月	SNSを活用した情報発信
8月	現地訪問活動（2泊3日）
9～10月	相生祭「地域物産展」準備
11月	相生祭「地域物産展」出展
3月	活動報告書の作成・活動報告会

＊2023年度の実績です。

プロジェクト学生からのメッセージ

このプロジェクトに参加してみて、幅広い年齢層の方々とのコミュニケーション能力が高まりました。たくさんの人生の先輩方にお話を聞くことは、自分の考え方が広がるため、とても価値があります。是非、ご参加ください！

● Instagram
運用中のアカウントは、こちらの二次元コードよりご覧ください。

〈活動の3本の柱〉

はたらき方研究に関するインタビュー

糸島で暮らす・働く人たちや社会に出た卒業生へのインタビューなどを通じ、これからの“女性のはたらき方”や“自らのはたらき方”について考え、将来のビジョンを確立します。

糸島の魅力発信

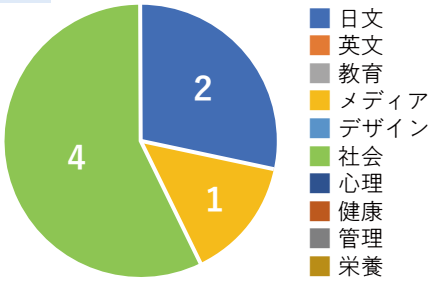
糸島で暮らす・働く人たちや社会に出た卒業生へのインタビューなどを通じ、これからの“女性のはたらき方”や“自らのはたらき方”について考え、将来のビジョンを確立します。

OGとのプラットフォーム作り

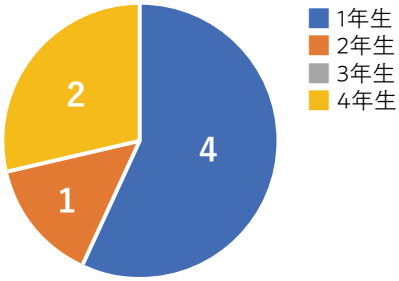
これまでに糸島プロジェクトに参加した上級生や卒業生と交流できるプラットフォームを構築します。交流をとおして、社会に出てから必要となるコミュニケーション能力の向上や人脈の構築を図ります。

〈活動の様子〉

〈所属学生のデータ〉



学科



学年

単位：人
＊2023年度の実績です。

復興支援学生ボランティア委員会

活動の到達目標

東日本大震災の被災地である岩手県大船渡市の復興を支援するとともに、震災の記憶を風化させることなく後世に伝えることです。
「被災地のために何ができるか」を自ら考え、それを実現するために行動しようとする主体性を身につけます。

活動計画

5 月～ 11 月	相生祭に向けた準備
8 月	幼稚部とのコラボイベント実施、大船渡訪問
11 月	相生祭にて商品開発したスイーツを販売
12 月	募集説明会
2 月	大船渡訪問

＊ 2023 年度の実績です。

活動の概要

東日本大震災発生後の 2011 年 6 月に炊き出しのボランティアとして、岩手県大船渡市を訪問したことをきっかけに発足したプロジェクト団体です。定期的に岩手県大船渡市に訪問し、同市の婦人会の方々から郷土料理を教わったり、漁業体験を行っています。加えて、同市内の保育園を訪問し、同市の市花「椿」を題材とした紙芝居の読み聞かせを行う等、地域の方々との交流を深めています。2023 年度は新たな取り組みとして、本学の学園祭で同市の銘菓とコラボしたオリジナルスイーツの開発・販売を行いました。その他にも YouTube や Instagram 等の SNS を活用した広報活動も行なっています。

● YouTube
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

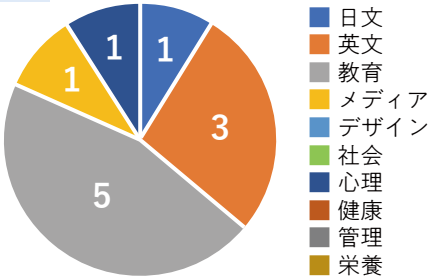
● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

プロジェクト学生からのメッセージ

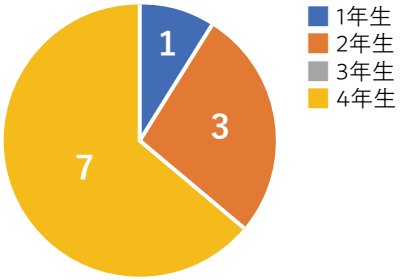
大船渡市を訪問することだけが復興支援ではありません。自分が今いる場所でできることを考えて、それを行動に移してください。復興への想いをもった学生が集まっているプロジェクトです。
大船渡の魅力を一緒に広めていきましょう！皆さんのご参加をお待ちしています！

〈活動の様子〉

〈所属学生のデータ〉



学科



学年

単位：人
＊2023年度の実績です。

電子回路ペンプロジェクト

活動の到達目標

出前授業で接する子どもたちの疑問に対して、正確に分かりやすく伝える力を身につけるとともに、学ぶことの楽しさを共有します。また、他のメンバーと協働しながら１つの授業を作り上げることで、協働力・コミュニケーション力を身につけます。

活動の概要

「電子回路が書けるペン」を使った理科の授業を運営し、電気のしくみや理科の楽しさを伝えていく活動です。学生自らが企画した授業内容を、近隣の小学校で出前授業として行います。ペンで電子回路を描き、LED ランプを光らせたときの嬉しさを小学生と共有することができます。「相模原市印刷広告協同組合」との連携のもと、みんなで協力して授業を作り上げています。

活動計画

4 月	募集説明会
5 ～ 7 月	体験会実施、出前授業の企画、講習会イベント
8 月	雪谷小学校（東京都大田区）での出前授業
10 月	体験会実施
11 月～	次年度に向けてのﾐｰﾃｨﾝｸﾞ

＊ 2023 年度の実績です。

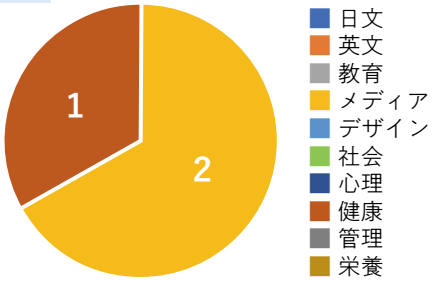
定例会は月１回ほど実施しています。

プロジェクト学生からのメッセージ

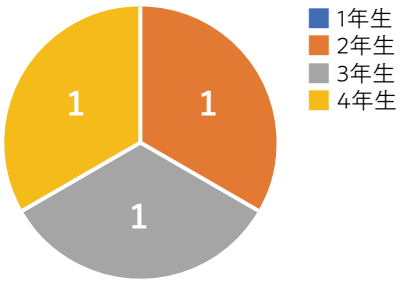
プロジェクトメンバーは、“ 子どもを一緒に楽しませることで学ぼう ” をモットーとしています。“ 理科・電気系は苦手です ” という学生の方も、子どもと同じ目線で楽しめて良い経験が出来ると思います。また、プロジェクト内の雰囲気は和気あいあいとしていて、メンバーで助け合いながら楽しく活動しています。
学年・学科問いません。皆さんのご参加をお待ちしております！

〈活動の様子〉

〈所属学生のデータ〉



学科



学年

単位：人
＊2023年度の実績です。

佐渡プロジェクト

活動の到達目標

伝統芸能を切り口として、新潟県佐渡市の地域社会や自然、歴史を深く学び学びます。
地域の方との交流やメンバーとの共同生活を通して、社会とどのように係わり、貢献していくかなど、社会の一員として自分自身の在り方や生き方を見つめ直し、成長へつなげます。

活動の概要

佐渡島内の各集落が代々継承することで守られてきた伝統芸能ですが、地域の過疎化や高齢化により、芸能の担い手や後継者不足が課題となっています。私たちは現地で鬼太鼓や能楽を芸能を教わるだけでなく、地域の方との交流を通して佐渡島の地域社会や歴史を学び、一人一人が見つけた佐渡の魅力を発信する活動を行っています。また、芸能によって生まれた佐渡とのつながりを卒業後も継続できるような仕組みづくりにも取り組みます。

活動計画

4 ～ 5 月	募集説明会、ポスター作成
7 月	佐渡の伝統芸能に関する勉強会
8 月	「佐渡伝統芸能（鬼太鼓）合宿」*4 泊 5 日
9 月	「佐渡能合宿」*4 泊 5 日
10 月	佐渡市立高千中学校生徒による佐渡の伝統芸能「文弥人形」鑑賞
11 月	佐渡市の PR を目的とした都内イベントへの参加
2 月	佐渡市内での活動報告会

＊ 2023 年度の実績です。

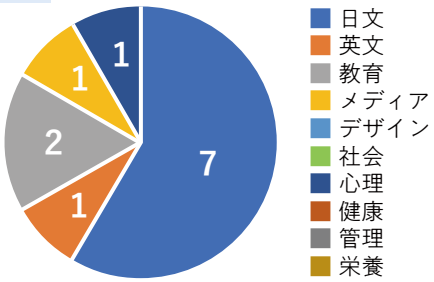
● Instagram
運用中のアカウントは、
こちらの二次元コードより
ご覧ください。

プロジェクト学生からのメッセージ

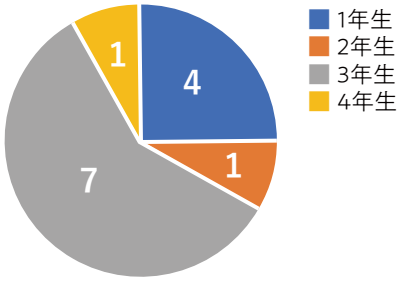
学内の方だけでなく、地域の方々と触れ合い、夏や秋にはその地域の文化や自然にも触れることができる活動です。
歴史・文化・自然に興味がある方、「芸能」が紡ぐ地域の方との温かな時間を過ごしたい方、人とのつながりを通して自分自身の在り方や生き方を見つめ直してみたい方、魅力沢山の活動を是非一緒にやりましょう！
学部学科問いません。ご参加お待ちしています。

〈活動の様子〉

〈所属学生のデータ〉



学科



学年

単位：人
＊2023年度の実績です。

【国際プログラム】
ビクトリア大学協定校留学

参加対象	定員	活動期間
相模女子大学・ 相模女子大学短期大学 部留学規程に準ずる	なし （選考結果による）	半年 又は 1 年間
活動フィールド	**参加費の目安**	**滞在形式**
ビクトリア （オーストラリア）	半年間：約 160 万円 1 年間：約 280 万円	ホームステイ

活動の到達目標

半年間又は 1 年間の留学を通して、英語で的確に意思疎通を図る能力を身につけることはもちろん、様々な国から集まった他国の学生と交流を深めることにより、異なる文化や価値観を知ることができます。また、海外で過ごすにあたって自身の暮らす日本という国や地域のことを改めて見つめ、伝統や文化、歴史等に対する理解を深めることに繋げます。

活動計画

4・9 月	募集説明会、出願
5・10 月	選考、出発前ガイダンス（～ 8 月）
9・4 月	出発
翌年 9・4 月	帰国後ガイダンス

活動の概要

語学プログラムを半年間又は 1 年間履修します。週末のアクティビティ活動が盛んで、授業で学んだ語学を発揮する機会がたくさん設けられています。
英語を学ぶために世界各国から学生が集まっており、様々なバックグランドを持った留学生との交流を深めることができます。
募集説明会に必ず参加してください。欠席した場合は留学に申込むことは出来ません。

職員からのメッセージ

プログラムに参加する際に大切なことは、なぜ留学をしたいのか、留学した後にどんなビジョンを描いているのか等、留学に対する目標をしっかりと設定し、プログラムに対して主体的に動くための原動力とすることです。現地でのプログラムをより充実させるためには、準備から丁寧に行うことが大切です。より良い留学となるように、がんばりましょう。

【国際プログラム】
マニトバ州立大学協定校留学

参加対象	定員	活動期間
相模女子大学・ 相模女子大学短期大学 部留学規程に準ずる	なし （選考結果による）	1 年間
活動フィールド	**参加費の目安**	**滞在形式**
ウィニペグ （カナダ）	約 280 万円	ホームステイ

活動の到達目標

1 年間の留学を通して、英語で的確に意思疎通を図る能力を身につけることはもちろん、様々な国から集まった他国の学生と交流を深めることにより、異なる文化や価値観を知ることができます。また、海外で過ごすにあたって自身の暮らす日本という国や地域のことを改めて見つめ、伝統や文化、歴史等に対する理解を深めることに繋げます。

活動計画

4・9 月	募集説明会、出願
5・10 月	選考、出発前ガイダンス（～ 8 月）
9・4 月	出発
翌年 9・4 月	帰国後ガイダンス

活動の概要

語学プログラムを 1 年間履修します。平日午後や週末のアクティビティ活動が盛んで、授業で学んだ語学を発揮する機会がたくさん設けられています。英語を学ぶために世界各国から学生が集まっており、様々なバックグランドを持った留学生との交流を深めることができます。募集説明会に必ず参加してください。欠席した場合は留学に申込むことは出来ません。

職員からのメッセージ

プログラムに参加する際に大切なことは、なぜ留学をしたいのか、留学した後にどんなビジョンを描いているのか等、留学に対する目標をしっかりと設定し、プログラムに対して主体的に動くための原動力とすることです。現地でのプログラムをより充実させるためには、準備から丁寧に行うことが大切です。より良い留学となるように、がんばりましょう。

【国際プログラム】
文藻外語大学交換留学

参加対象	定員	活動期間
相模女子大学・ 相模女子大学短期大学 部留学規程に準ずる	なし （選考結果による）	半年又は１年間
活動フィールド	**参加費の目安**	**滞在形式**
高雄 （台湾）	約 10 万円	学生寮

活動の到達目標

半年間もしくは１年間の交換留学プログラムを通して、英語・中国語で的確に意思疎通を図る能力を身につけます。また、現地の学生との交流を通して、異なる文化に触れ、様々な価値観を知り、自分自身のことや自分の住む日本という国のことを見つめ直し、さらにその経験を次の活動に活かします。

活動計画

３月	募集説明会、出願
４月	出願
５月	選考、出発前ガイダンス（～８月、３月）
８月	出発
翌年１・７月	帰国後ガイダンス

活動の概要

台湾唯一の外語大学で、正規授業を英語もしくは中国語で履修するプログラムです。現地の学生だけでなく世界各国から留学生が集まっており、様々なバックグランドを持った学生との交流を深めることができます。
募集説明会に必ず参加してください。欠席した場合は留学に申込むことは出来ません。

職員からのメッセージ

プログラムに参加する際に大切なことは、なぜ留学をしたいのか、留学した後にどんなビジョンを描いているのか等、留学に対する目標をしっかりと設定し、プログラムに対して主体的に動くための原動力とすることです。現地でのプログラムをより充実させるためには、準備から丁寧に行うことが大切です。より良い留学となるように、がんばりましょう。

【国際プログラム】
ビクトリア大学英語研修

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	10 ～ 15 名程度	５週間
活動フィールド	**参加費の目安**	**滞在形式**
ビクトリア （オーストラリア）	約 75 万円	ホームステイ

活動の到達目標

約５週間のプログラムの中で、英語の技能を身につけることはもちろん、異なる言語、文化や価値観を持つ人々と触れ合います。また、世界各国から集まる留学生との交流を通して、改めて日本の文化や伝統について考えるとともに、異なる国や地域の文化・伝統を尊重する姿勢を育みます。

活動計画

９月	募集説明会
10 月	申込締め切り / 制度説明会 出発前ガイダンス（～１月）
２月	出発
４月	帰国後ガイダンス

活動の概要

春休み期間中に語学プログラムを５週間履修する語学研修です。週末のアクティビティ活動が盛んで、授業で学んだ語学を発揮する機会がたくさん設けられています。英語を学ぶために世界各国から学生が集まっており、様々なバックグランドを持った留学生との交流を深めることができます。募集説明会に必ず参加してください。

職員からのメッセージ

語学プログラム自体は５週間と短く感じるかもしれませんが、より良い研修期間とするためには半年～１年以上の準備が必要です。現地の生活の中で英語の技能だけではなく、人として成長できるように、万全な準備をして出発しましょう。

【国際プログラム】
ソウル女子大学韓国語研修

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	10 ～ 15 名程度	17 日間
活動フィールド	**参加費の目安**	**滞在形式**
ソウル （韓国）	約 30 万円	学生寮

活動の到達目標

韓国語だけではなく、韓国の文化や価値観などを実際に現地で過ごすことで実感し、日本とは異なる国や地域の文化を認め、尊重する姿勢を身につけます。また、語学の向上や異文化を理解することで自身の持つ価値観や生き方を考えるきっかけとします。

活動計画

4 月	募集説明会
5 月	申込締め切り / 制度説明会 出発前ガイダンス (～ 8 月)
8 月	出発
10 月	帰国後ガイダンス

活動の概要

日本人大学生を対象とした特別プログラムで、韓国語と韓国文化をバランスよく学ぶことができます。現地学生とバディを組んで宿題を教わったり外出したりできるトウミ制度が人気です。滞在形式は学生寮です。
募集説明会に必ず参加してください。

職員からのメッセージ

17日間の研修ですが、研修を行うための準備には多くの時間を要します。準備を丁寧にするほど、現地での活動がより意味の深いものになるはずです。より良い研修期間となるように、アドバイザーも支援します。少しでも興味のある方は説明会へお越しください。

【国際プログラム】
文藻外語大学中国語研修

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	10 ～ 15 名程度	2 週間
活動フィールド	**参加費の目安**	**滞在形式**
高雄 （台湾）	約 27 万円	ホテル （相部屋）

活動の到達目標

中国語を学ぶだけではなく、現地の学生との交流を通して、新たな文化や価値観に触れることで自分の生き方や価値観を見つめ直し、次につなげます。文化体験授業や、日本語学科の現地学生との交流により、台湾の文化だけではなく日本の文化や伝統についても見つめ、互いの文化を尊重し合う姿勢を身につけます。

活動計画

10 月	募集説明会
11 月	申込締め切り / 制度説明会　出発前ガイダンス (～ 3 月)
3 月	出発
4 月	帰国後ガイダンス

活動の概要

台湾唯一の外語大学で受講する 2 週間の中国語研修です。文化体験やチュータリング、日本語学科の学生との交流などを通して、中国語だけでなく台湾の伝統文化も学ぶことができます。滞在形式はホテルです。募集説明会に必ず参加してください。

職員からのメッセージ

2 週間という短い期間のプログラムです。滞在時には引率教員がつき、皆さんの現地での生活をサポートします。中国語を学ぶことはもちろん、文化体験や現地学生との交流を通して自分自身や日本について見つめ直し、今後の活動へとつなげましょう。

【外国語・英語教育】キャンパス留学

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	なし （選考結果による）	半年又は 1 年間
活動フィールド	**参加費の目安**	
学内	通期（春・秋）： 135,000 円 1 学期のみ：72,500 円	

活動の到達目標

半年または 1 年間を通して、毎日 40 分 / 週 5 日間、ネイティブ講師のレッスンを受けることにより英語の技能を身につけます。実践的な英会話のレッスンで、英語で的確に意思疎通を図る能力を身につけます。SDGs を英語でディスカッションする等、多様なプログラムにより英語を学ぶことができます。

活動計画

4・9 月	募集説明会
5・10 月	申込締め切り／受講費納入／受講開始
7・1 月	春学期（7 月）／秋学期（1 月）講座終了

活動の概要

この講座は授業の空き時間を利用して、キャンパス内で毎日 40 分 / 週 5 日（月～金）実践的な英会話のレッスンを行います。英会話が初心者という方もクラスは原則 6 名（一部時間帯を除く）のグループレッスンなので、楽しみながら続けられます。また英会話だけでなくアカデミックな内容（TOEIC®、Writing 添削、ディスカッション等）を網羅しています。

職員からのメッセージ

日本人コーディネーターによるきめ細やかなサポート（定期的な個別カウンセリング、年度途中からの受講について等）を受けることができます。少しでも興味のある方は説明会へぜひお越しください。

【外国語・英語教育】TOEIC® IP テスト

※詳細は、P34 をご確認ください。

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	なし	年 3 回
活動フィールド	**参加費の目安**	
学内	3200 円	

活動の到達目標

この活動を通して、世界の人々と的確に意思疎通を図る英語力を身につけます。

活動計画

※試験日や申込期間はお知らせ配信や
ポスターで確認してください。

活動の概要

試験日は年間 3 回設定されます。
試験日や申込期間については、SmileSagami のお知らせ配信やポスターで周知されますので、そちらを確認の上お申し込みください。
申込期間中にパピルスメイトに受験料を振り込み、申請用紙を生涯学修支援課に提出してください。

職員からのメッセージ

TOEIC® 公開テストよりも割安に受験することができます。就職活動や資格による単位認定のために受験することはもちろん、英語学習におけるモチベーション維持やレベルチェックとしても活用できます。会場が学内であることも TOEIC®IP テストの魅力の一つです。少しでも興味のある方は積極的に受験してください。

【異文化理解】
CEMLA ボランティア

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	なし	1 年間
活動フィールド	**参加費の目安**	
学内	なし	

活動の到達目標

神奈川県内の中学・高校に通う「外国につながる子どもたち」の学習支援を行います。学習支援ボランティアには相模女子大学の学生だけではなく、他大学の学生や様々な年齢・職業の方が参加します。日本国内で私たちと一緒に生活を送る外国につながる子どもたちとコミュニケーションをとることで自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画

未定	募集説明会、申込
5 ～ 7 月	春学期講座
9 ～ 12 月	秋学期講座

活動の概要

毎週土曜日に、相模女子大学内の茜館もしくはオンラインで開催される CEMLA にて、学習支援ボランティアとして外国につながる子どもたちの日本語や教科指導を行います。年 2 回、外国につながる子どもたちや学習支援ボランティアとの交流会が開催され、ゲーム等を通して交流を深めることができます。

職員からのメッセージ

国内で私たちと一緒に生活を送る外国につながる子どもたちとの交流を通して、日本の文化や歴史などについて改めて考え直したり自分の生き方や価値観を見つめ直すきっかけになるかもしれません。積極的に交流を図り、自分の糧にしてください。

【異文化理解】
外国人訪問学生・交換留学生サポーター

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	なし （選考結果による）	適宜
活動フィールド	**参加費の目安**	
学内外	未定 （活動内容による）	

活動の到達目標

本学に滞在する外国人訪問学生や交換留学生を支援し、交流を深める活動です。各々が自身の得意分野を活かしつつ、他のサポーターと協力しながら活動を進めることにより、自分の視野を広げ、自身を見つめ直すきっかけとします。

活動計画

※活動期間や申込期間はお知らせ配信やポスターで確認してください

活動の概要

サポーター学生を募り、本学に滞在する外国人学生や交換留学生を支援し、交流を深める活動です。同年代の外国人学生と交流を図ることにより、日本の伝統や文化、歴史等の理解を深めると共に、異なる国や地域の伝統や文化に対する理解を深めることを目的としています。

職員からのメッセージ

日本語を母国語としない学生との交流活動ですが、サポーターとしての活動に外国語能力は求められていません。語学力も大切ですが、相手に伝えたいという気持ちや伝えるための工夫がサポーターとしての活動を成功に導くための秘訣となるでしょう。

キャリア☆カフェ

活動の概要	職員からのメッセージ
多様なバックグラウンドや専門的知見を持つ外部講師や地域の方、教職員が主催する講座・座談会です。「チームビルディング講座」や「情報発信力アップ講座」「大人のマナー講座」など、多岐にわたる領域の講座を開講し、学生の皆さんの自己成長を育む取組みを支援しています。キャリア☆カフェの開催に関する情報は SmileSagami のお知らせ配信にてご確認ください。	多岐にわたるテーマ・内容で開催しているので、自分の学びたい領域に合わせて参加することが可能です。講座によっては、事前予約を要するものがありますので、SmileSagami のお知らせ配信を確認した上で積極的にご参加ください。

●過去のキャリア☆カフェー覧

講座名	参加対象	講師
「女子の人間関係がちょっとラクになる“おトク女子”(全６回シリーズ)」	全学年・全学科	外部講師
連携教育推進課×就職支援課　共同開催「活動の選び方のヒント」	全学年・全学科	連携教育推進課・ 就職支援課職員
「梅酒『翠想』やマーガレットケーキに用いる梅の収穫に関わる事前学習」	全学年・全学科	夢をかなえるセンター職員
「TOEIC セミナー」	全学年・全学科	外部講師
「情報発信力アップ講座」	全学年・全学科	外部講師
「大人のマナー講座」	全学年・全学科	外部講師
小田急電鉄㈱で働く卒業生による「1 歩踏み出してみよう！」	全学年・全学科	卒業生
「夢をかなえるセンター　連携教育推進課の職員ってどんな人！？」	全学年・全学科	連携教育推進課職員
「世界遺産検定とは？」	全学年・全学科	連携教育推進課職員
「チームビルディング～リーダー・副リーダー・フォロワーの役割とは～」	プロジェクト参加学生	外部講師

●過去に開催したキャリア☆カフェのチラシ（一部抜粋）

ユメカナ★カフェ

学生による学生のための学びの「場」「空間」です。
参加者として出席するもよし、主催者として企画・運営するもよし。
勇気をもって一歩踏み出してみよう！

活動の概要【3 つの活動区分】	
ユメカナ★カフェ	学生が主催する講座･座談会です（主に、既存の「Sagami チャレンジプログラム」に係る講座・座談会を想定）。
学生提案型企画	上記ユメカナ★カフェのうち、「Sagami チャレンジプログラム」の枠組みにとらわれずに、自分の興味ある事や学びを、他学生と共有したいと考える学生が主催する講座・座談会です。

職員からのメッセージ

連携教育推進課では、学生自らが積極的に活動しやすい環境を整えてお待ちしています。
とはいえ、新しいことを始めるとき、ワクワクする気持ちと同時に不安や恐怖もあると思います。
私たち職員は、学生が安心して挑戦できるよう全力でバックアップしますので、ぜひチャレンジしてみてくださいね！

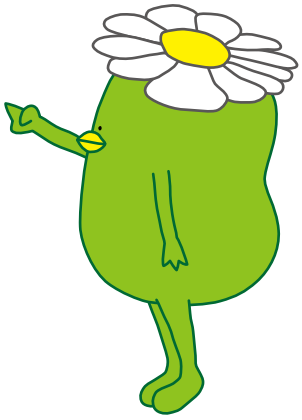
開催に関する情報は SmileSagami のお知らせ配信にてご確認ください。

●過去に開催したキャリア☆カフェのチラシ（一部抜粋）

区分	講座名	参加対象	主催者
ユメカナ★カフェ	「電子回路ペンプロジェクト」学内体験会	全学年・全学科	電子回路ペン プロジェクト学生
ユメカナ★カフェ	各プロジェクトによるメンバー募集説明会 （実績例：Pepper プロジェクト、復興支援学生ボランティア委員会、おっきリンピック宣伝部、もとみや SMILE プロジェクト、佐渡プロジェクト）	全学年・全学科	各プロジェクト学生
学生提案型企画	「素敵な本や仲間に出会おう ～学生生活を充実させたい人あつまれ～」	全学年・全学科	英語文化コミュニケーション 学科学生
学生提案型企画	「教えてセンパイ！ ～ Sagami チャレンジプログラムのすゝめ～」	全学年・全学科	管理栄養学科学生

ユメカナ★カフェを開催したい場合は？

4 月に開催するプロジェクト対象の説明会にてプロジェクト活動に関するルール等について説明します。そちらの案内に沿って手続きを進めてください。



神奈川産学チャレンジプログラム

参加対象	定員	活動期間
大学２～４年生・全学科（短大生除く）	各チーム４～６名 ＊必ずチーム単位で応募（個人単位不可）	９ヶ月
活動フィールド	**参加費の目安**	
神奈川県	－	

活動の到達目標

企業の課題を解決する研究コンペです。チームごとに研究テーマの選択から、課題に対する提案、検証、フィールドワークなど行います。それを通して、社会に積極的に関わり、自分自身の発想を深めます。また、プレゼンテーションも審査対象となり、自分たちの思いや考えを他の人に対して分かりやすく説明するため、産学チャレンジ参加者を対象としたキャリア☆カフェでその力を身につけ、実践します。

活動計画

４月	説明会（～４月末エントリー）
５月	研究テーマ決定
６～９月	レポート作成
10～11月	プレゼンテーション審査
11月	審査結果通知
12月	表彰式

活動の概要

神奈川県内の大学と一般社団法人神奈川経済同友会の会員が所属する企業とが協同し、産学連携による学生の人材育成を目的とした課題解決型研究プログラムです。企業が日常の経営課題の中から実践的な研究テーマを挙げ、それに対して学生が各テーマにチャレンジし研究成果を提出するというもので、書類審査、プレゼンテーション等の審査は全て企業が行います。

職員からのメッセージ

活動の中で、１つの企業と深く関わることができます。
企業へのメールや電話、レポートの提出など、ぜひ就職活動の先取りをしてみてください。

「Sagami チャレンジプログラム」for kids プロジェクト

参加対象	定員	活動期間
全学年・全学科	50名	８月
活動フィールド	**参加費の目安**	
学内	なし	

活動の到達目標

地域の小学生を対象とした夏の大学体験教室「Sagami チャレンジプログラム for kids」の企画から運営までに係わってもらいます。この活動では、イベント主催のノウハウや、子ども・保護者と触れ合うことにより、人に対しての対応力を学びます。また、参加対象は全学年・全学科の学生です。イベント成功という一つの目標に向かいながら学生同士の協働力を学びます。

活動計画

４月	募集開始
５～７月	イベント開催に向けての企画
８月	イベント開催

活動の概要

「Sagami チャレンジプログラム」における各プロジェクトの学生が中心となり、学部・学科の学びや地域連携など本学園の特色ある取り組みを活かした子ども向けの体験講座を開講します。イベント当日のみならず、企画の段階から係わってもらいます。子ども・保護者と積極的に係わり参加者へ楽しんでもらうためにはどうしたらよいか？"考えて・実行する"活動です。

職員からのメッセージ

企画・運営に“主体的に”に係わってくれる“意欲ある”方、また将来子どもと係わる職業などを考えている方には絶好の機会です。ほとんどの方が初心者なので、積極的にご応募ください。

資格取得 ※申込受付期間・実施時期・費用は予定

講座・検定名称		定員	参加対象	実施場所	申込方法	申込受付期間	実施時期	費用	概要
TOEIC®IP（団体受験）		なし	全学年・全学科	学内	生涯学修支援課窓口	4月中旬～5月上旬	5月	3,200円	リスニング（約45分間･100問）、リーディング（75分間・100問）、合計約2時間で200問に答えるマークシート方式の一斉客観テストです。出題形式は毎回同じで、解答はすべて問題用紙とは別の解答用紙に記入します。テストは英文のみで構成されており、英文和訳・和文英訳といった設問はありません。 https://www.iibc-global.org/toeic.html
						6月	7月		
						9月中旬～10月上旬	10月		
MOS対策講座・検定試験	①Word・ワード	各100名	全学年・全学科	学内	ホロンエデュケーション ※学内掲示のQRコード・URLより申込	7月	【対策講座】8月上旬 【検定試験】8月上旬	Word・Excel・PowerPoint 1コース 26,000円 2コースセット 44,000円 3コースセット 56,000円 ※検定料込	マイクロソフト社のWord・Excel・PowerPointなどのパソコン操作スキルを認定する世界共通の資格です。Wordコース、Excelコース、PowerPointコースの3コースを開講します。それぞれ対策講座（3～4日間）を受講した後に検定試験を受験します。 ※合格実績（2023年度） Word：合格者数51名／合格率100% Excel：合格者数69名／合格率99% PowerPoint：合格者数43名／合格率100% 参考：https://mos.odyssey-com.co.jp/about/
	②Excel・エクセル					7月上旬～8月上旬	【対策講座】8月中旬 【検定試験】8月下旬		
	③PowerPoint・パワーポイント					7月上旬～8月中旬	【対策講座】8月下旬 【検定試験】8月下旬		
ビジネス実務マナー技能検定2級・3級（検定試験）		なし	全学年・全学科	学内	生涯学修支援課窓口	4月上旬～5月上旬	6月	2級 5,200円 3級 3,800円 ※3級に限り後援会からの補助があります。	ビジネス社会に必要とされる基本ルールを身につけるための検定です。社会人としての判断・行動が適切にできるかどうか、人間関係やマナー、話し方を理解しているかを問われます。 試験時間：3級120分、2級130分 ※合格実績（2023年度） 3級：合格者数188名／合格率 69.6% 2級：合格者数2名／合格率28.6% 参考：https://jitsumu-kentei.jp/BZ/index
						9月上旬～10月上旬	11月		
世界遺産検定試験2級・3級		なし	全学年・全学科	学内	世界遺産検定HP	5月上旬～5月中旬	7月	3級 4,700円 2級 5,800円 ※団体受験割引適用後の検定料です。	世界遺産検定は、人類共通の財産・宝物である世界遺産を通して、国際的な教養を身に付け、持続可能な社会の発展に寄与する人材の育成を目指した検定です。 参考：https://www.sekaken.jp/each_grade/

■資格取得に係る問合せ先：生涯学修支援課

積極的に利用しよう！

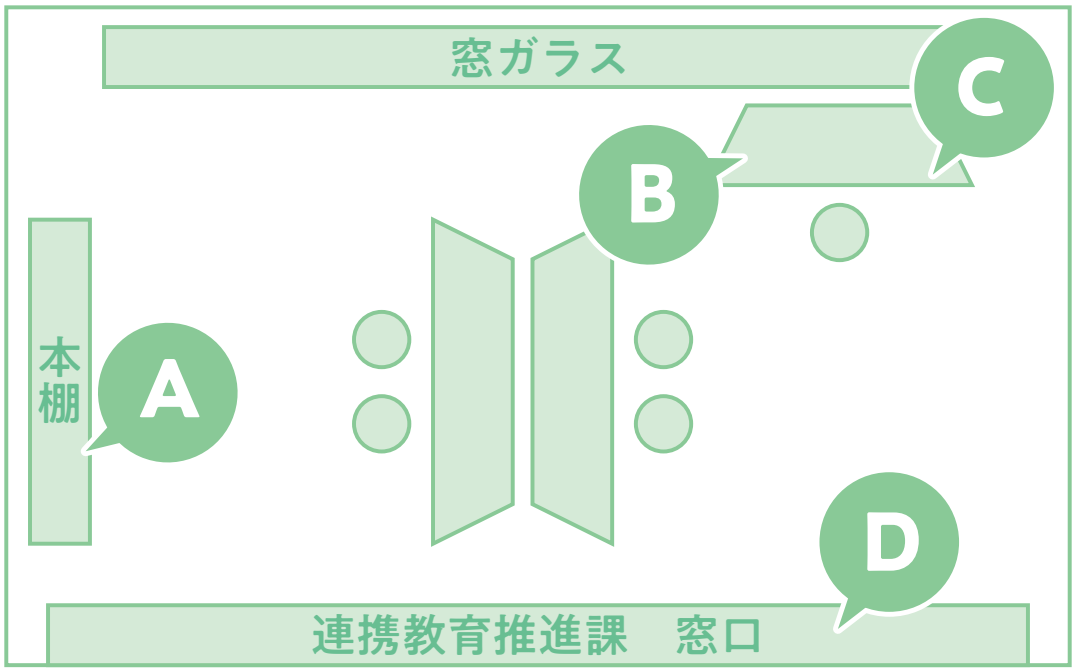
夢をかなえるセンター
連携教育推進課前スペースをご紹介します！

夢をかなえるセンター 連携教育推進課窓口前のスペースは、「Sagami チャレンジプログラム」で活用できる“ラーニングコモンズ”となります。大きく2つの特徴がありますので、本冊子にてご紹介します。この機会に積極的にご利用ください。

〈ラーニングコモンズの特徴〉①活動をサポートする施設設備　②活動情報の発信

①活動をサポートする施設設備

●連携教育推進課前ラーニングコモンズ見取り図



A 書籍の貸出し

語学学習の際に参考になる外国語の書籍を貸出ししています。TOEIC 教材や英字本、海外版の漫画等様々です。気になる本があれば、連携教育推進課職員までお声がけください。

私は、ラーニングコモンズで主に洋書を借りていました。借りようと思ったきっかけは、英語のリーディングの力をつけたいと思ったからです。新しい単語に出会い、「あの場面でこの単語が使われてたなぁ」と思い出すことができるので、他国の文化を知れたり、物語を楽しむことができるのもそうですが、記憶に残る英語学習にもつながっていると思います。短編のものが多いのでとても読みやすいです！また、ほとんどの本の裏表紙に英語のレベルが書かれているので、自分の英語力に合った本を選ぶことができます。みなさんも、ぜひ手に取ってみてください！

答えてくれたのは…
英語文化コミュニケーション学科　卒業生（2021 年度卒）

B iPad

地域や企業の方とオンラインで交流や打合せを行う際は、ラーニングコモンズに常置している iPad を利用することが可能です。加えて、机や椅子が用意されています。机や椅子の移動は自由です。利用用途や仲間の人数などに応じて机や椅子を動かして、ミーティングを行ってください。

C ワイヤレス充電器

ラーニングコモンズでは、スマートフォンの充電をすることができます。スマートフォンを利用した情報収集をする際は、ご利用ください。

＊充電器の利用中におけるスマートフォンの破損・盗難・紛失については、大学は責任を負いかねますので、充電中は傍を離れないよう注意してください。

D 連携教育推進課 窓口

連携教育推進課では、「Sagami チャレンジプログラム」の活動をサポートしています。活動について聞きたいことがあれば、気軽に窓口の職員に相談してください。

②活動情報の発信

ラーニングコモンズを含め、学内では活動情報の発信を行っています。近日開催予定のキャリア☆カフェや募集を行っている活動の概要を示したポスター・チラシ等を掲示しています。また、シラバスには掲載していない活動や夢をかなえるセンター以外で主催している社会貢献活動の情報についてもお知らせしているので、気になる方は要チェックです。 ＊SmileSagami のお知らせ配信でも情報発信を行っています。

掲示板

活動情報の取得方法については、6ページで詳しく紹介しています♪

よくある質問

Q. 興味はあるけど参加方法が分からない

A. 「Sagamiチャレンジプログラム」の活動の多くは、参加希望者向けの募集説明会を事前に開催します。募集説明会の案内は、SmileSagamiのお知らせ配信より、件名に★ユメカナ★を付けて発信しています。気になる活動を見逃さないようこまめにチェックしてください。
なお、本冊子のシラバスには、応募説明会の時期を掲載していますが、あくまで目安となります。年度によっては活動時期の変更や、開催の見合わせを行うこともあります。詳細が気になる活動があれば、連携教育推進課までお気軽にお問い合わせください。

活動への参加 STEP

6ページに掲載されている情報発信ツールから募集説明会の情報をGET

↓

募集説明会に参加

↓

申込み

↓

活動への参加♪

Q. 参加する際にお金はかかりますか

A. 活動によっては、費用が発生する場合もあります。費用が発生する場合は、募集説明会で事前にお伝えします。

＊「相模女子大学・相模女子大学短期大学部　後援会」地域連携助成費より、活動に係る費用の一部をご支援いただいております。

Q. 相談する場所はどこですか

A. 夢をかなえるセンター1F 連携教育推進課までお越しください。
メールでのお問い合わせ場合：renkei@mail2.sagami-wu.ac.jp

Q. 活動報告書とはなんですか

A. 「Sagamiチャレンジプログラム」の参加者に対して、活動の振り返りを行うために提出してもらう書類です。活動によって書式が異なりますので、連携教育推進課からのお知らせを必ず確認するようにしてください。なお、活動報告書は就職活動のエントリーシート作成や面接等にも役立ちますので、提出した活動報告書は各自保管することをおすすめしています。

夢をかなえるセンター特設サイト

夢をかなえるセンターで行う社会貢献活動や
国際教育について、情報を発信しています。
https://ymkn.sagami-wu.jp

相模女子大学・相模女子大学短期大学部

〒252-0383　神奈川県相模原市南区文京2-1-1　TEL 042-742-1411（代表）／小田急線相模大野駅下車徒歩10分

〈大学院〉栄養科学研究科 栄養科学専攻（博士前期課程・博士後期課程）・社会起業研究科 社会起業専攻（専門職学位課程）〈大学〉［学芸学部］日本語日本文学科・英語文化コミュニケーション学科・子ども教育学科・メディア情報学科・生活デザイン学科［人間社会学部］社会マネジメント学科・人間心理学科［栄養科学部］健康栄養学科・管理栄養学科〈短期大学部〉食物栄養学科

https://www.sagami-wu.ac.jp/

問合せ先

夢をかなえるセンター　連携教育推進課　社会連携推進室

TEL 042-813-5038　FAX 042-747-9599　renkei@mail2.sagami-wu.ac.jp
夢をかなえるセンター特設サイト　https://ymkn.sagami-wu.jp/

Sagami Women's University

2024年4月発行

相模女子大学・相模女子大学短期大学部　夢をかなえるセンター

2024年度「Sagamiチャレンジプログラム」学生による活動報告会＆参加者募集

聞くだけ大歓迎！

～この1年間、大学の外(地域)に飛び出し果敢にチャレンジしてきた学生の発表と、そんな学生たちと一緒に活動してくれる仲間を大募集～

3/11(火)

相模女子大学・相模女子大学短期大学部　夢をかなえるセンターでは、大学の外（地域）での活動を通して、主体性やキャリアを身につける「Sagamiチャレンジプログラム」を実施しています。

この度、10の学生によるプロジェクト団体が一堂に会し、今年度実施した活動の集大成を発表します。

また、発表を聞いて「一緒に活動したい！」と思ってくれる学生も募集します！　当日決断しなくてもOK、聞くだけでもOKです！

開催概要

【日　　時】 2025年3月11日(火) 14：00-16：00

【会　　場】 2131教室（マーガレット本館）

【開催形態】 ハイブリッド

【参加対象】 高校生、学生、高校生や学生のご家族、連携先の方々、教職員　等々

プログラム

入退場自由

① 開会

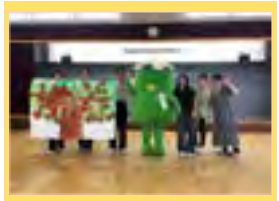
② 活動報告(5団体)

（休憩）

③ 活動報告(5団体)

④ 総括・閉会

発表団体



①海外に子ども用車椅子を届けよう！プロジェクト
②丸山千枚田魅力発信プロジェクト(三重県熊野市)
③おっきリンピック宣伝部(群馬県富岡市)
④もとみやSMILEプロジェクト(福島県本宮市)
⑤復興支援学生ボランティア委員会(岩手県大船渡市)
⑥女性のはたらき方研究プロジェクト(福岡県糸島市)
⑦電子回路ペンプロジェクト
⑧佐渡プロジェクト(新潟県佐渡市)
⑨サガジョ盛り上げ隊プロジェクト
⑩清川村特産品開発プロジェクト(神奈川県清川村)

各種SNS

連携教育推進課 公式アカウント

プロジェクト団体

相模女子大学・
相模女子大学短期大学部

問合せ先
夢をかなえるセンター　連携教育推進課
renkei@mail2.sagami-wu.ac.jp

お気軽にご参加ください！

お申込み
右記の申込フォームより
受け付けております。

学生の確保の見通し等を記載した書類　目次

Ⅰ　新設組織の概要 2
1. 新設組織の概要 2
2. 新設組織の特色 2
Ⅱ　人材需要の社会的な動向等 3
1. 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析 3
2. 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析 5
3. 新設組織の主な学生募集地域 7
4. 既設組織の定員充足の状況 7
Ⅲ　学生確保の見通し 8
1. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果 8
2. 競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況） 10
3. 先行事例分析 17
4. 学生確保に関するアンケート調査 17
5. 人材需要に関するアンケート調査等 18
Ⅳ　新設組織の定員設定の理由 19

Ⅰ 新設組織の概要

1. 新設組織の概要

新設組織	入学 定員	3 年次 編入学定員	収容 定員	所在地 （教育研究を行うキャンパス）
学芸学部国際コミュニケーション学科	60 名	5 名	250 名	神奈川県相模原市南区文京 2-1-1

2. 新設組織の特色

(1) 国際コミュニケーション学科で養成する人材像

国際コミュニケーション学科では、英語を中心とした実践的な言語運用能力を基盤に、多文化理解や異文化コミュニケーションのスキルを備えた人材を養成する。さらに、広い視野を持ち、国際社会での調整や協働に必要な実践的スキルを身につけることで、国際ビジネス、教育、文化交流など多様な分野で活躍することを目指す。学生一人ひとりへの丁寧な指導に注力し、少人数教育を通じて個別の成長を支援する。

(2) 学位の分野を踏まえた新学科で養成する人材像

学位分野が文学関係の「国際コミュニケーション学」であることに鑑み、新学科では英語だけでなく、韓国文化をはじめとする幅広い地域文化や国際的な実践に対応できる能力を持つ人材を育成する。観光分野などの実践的なスキルを学ぶ機会も提供し、グローバル社会の多様なニーズに応えられる柔軟性を養う。カリキュラムの幅広さと専門性を両立し、卒業後に即戦力となる人材を目指す。

(3) 学位の分野を踏まえた新設組織の特徴

国際コミュニケーション学科の新設により、既設の英語文化コミュニケーション学科(学位：文学)を廃止し、英語に特化した教育から、幅広い学問領域と実践的スキルを学べる学科へと発展させる。この変更により、学生は英語だけでなく、多文化共生や異文化対応の実践的能力を幅広く学べるようになる。さらに、定員を 60 名に削減することで、少人数制教育による個別指導を強化し、学生一人ひとりに合わせたきめ細やかな教育支援を実現する。

また、新学科では韓国をはじめ台湾や ASEAN に関する学びの機会も豊富に提供し、東アジアや東南アジア地域への理解を深める。24 時間 365 日利用可能なオンライン英会話や生成 AI を取り入れた授業など独自の教育環境を活用し、場所や時間にとらわれない柔軟な学びを提供する点も新学科の特徴である。

(4) 新設組織と関連する既設組織

国際コミュニケーション学科は、英語文化コミュニケーション学科を基盤として設置される。英語

文化コミュニケーション学科は、これまで英語教育を中心としたカリキュラムで異文化理解やコミュニケーション能力の育成を担ってきたが、新設学科ではその枠を広げ、国際社会での多様なニーズに応える教育を目指す。英語教育を基盤としつつ、多文化や実践的スキルを取り入れた包括的な学びを提供することで、新たな人材育成の可能性を開く。

組織名称	入学 定員	3 年次 編入学定員	収容 定員	・所在地 ・新設組織開設後の予定
学芸学部英語文化コミュニケーション学科	110 名	5 名	450 名	・神奈川県相模原市南区文京 2-1-1 ・2026 年度 4 月学生募集停止 ・2028 年度 3 年次編入学募集停止

Ⅱ 人材需要の社会的な動向等

1. 新設組織で養成する人材の全国的，地域的，社会的動向の分析

(1) 社会・地域・全国における人材需要とその根拠

ア 全国的なニーズの高まり

近年、グローバル化や DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展に伴い、産業や地域社会の枠を超えて「コミュニケーション力」と「多文化協働力」を備えた人材に対する全国的なニーズが一段と高まっている。リクルートワークス研究所の「大卒求人倍率調査（2024 年卒）」（2023 年 4 月公表）では、1.71 倍という高水準を維持しており多くの分野が人材不足を抱える状況にある。

さらに、縮小する国内市場を念頭に国内企業の国際展開が継続的に拡大している。これに伴い、英語を含む複数言語の活用や異なる文化圏の理解を求められる場面が増加している。現場では、海外支社や海外顧客とのやり取りを担う担当者のみならず、国内拠点においても在住外国人労働者や海外取引先と協働する機会が増え、ビジネスのあらゆる局面で多文化コミュニケーションが不可欠となりつつある。一方、厚生労働省の「外国人雇用状況」（2022 年 10 月末現在）によれば、外国人労働者数は約 182 万人に達しており、今後も増加が見込まれることから、国内の職場でも外国人材といかに協働していくかが多くの企業の課題となっている。

イ 地域における外国人労働者との協働と多文化共生

本学が所在する神奈川県や東京都西部の地域社会においては、外国人住民や海外関連企業の増加に伴い、多文化共生の推進が大きな課題となっている。たとえば、神奈川県では「かながわ国際施策推進指針（第 5 版）」（2024 年）により、地域コミュニティや企業、自治体が連携して外国人住民の生活支援や日本人住民との協働体制を整えることが確認されている。しかし、多言語対応や異文化理解の専門性をもつ人材が十分に確保されていない現状があり、企業や自治体、NPO などからは「外国人材と共に働き、地域の課題解決を担う力をもった学生を確保したい」という声が高まっている。

さらに、本学の就職支援部門がまとめた求人動向（2022～2024 年度）をみると、サービス業や情報通信業における求人が著しく増加している。特に、ホテル・観光関連企業や IT・通信系企業からは、多文化背景の従業員との協働や海外拠点とのやり取りを担える人材のニーズが強く表れている。実際、本学に在籍する語学力や協働力を備えた学生は早期に内定を得る例が増えており、地域社会においても多様な文化や言語に対応できる人材は大きな競争力を発揮しているといえる。このように、神奈川県・東京都西部を中心とした地域では、外国人材との共存・協働が既に現実の課題として浮上し、自治体や企業が多文化共生に対応できる人材の育成・確保を急務としている。国際コミュニケーション学科が目指す多文化理解と高いコミュニケーション力を兼ね備えた人材は、地域における多文化共生施策の推進や、サービス業・情報通信業などの主要産業の競争力強化に寄与できる存在として期待されている。したがって、本学科での人材育成は、地域の課題解決に直結するものであり、今後さらに重要性を増していくと考えられる。

ウ 社会的課題への対応

日本社会では、多文化理解と高いコミュニケーション能力を持つ人材の必要性がますます高まっている。なかでもこの傾向が顕著なのは拡大を続ける観光・インバウンド需要への対応とグローバルビジネスの進展である。

観光やインバウンド需要の増加が日本社会の重要な課題として浮き彫りになっている。日本政府観光局（JNTO）の統計によれば、コロナ禍からの回復期は過ぎ、2024 年には過去最高であった 2019 年を大きく超えることが予想されている。このような状況下で、観光地域創生を目指す自治体や旅行業界では、多言語対応や異文化理解を基盤とした地域振興策の必要性が一層高まっている。観光業の現場では、訪日外国人旅行者の多様な文化的背景に配慮した接遇やサービスが求められており、国際的な視野とコミュニケーション能力を持つ人材の育成が急務となっている。

また、グローバルビジネスと地域連携においても課題が顕在化している。経済産業省「我が国企業の海外展開動向調査」（2022 年版）によれば、海外支社や海外取引先を持つ中堅・中小企業の数が増加している一方で、社内外のコミュニケーションや文化的ギャップが、円滑な海外展開を妨げる要因となっている。このような企業では、英語等の言語スキルだけでなく、多文化の文脈を理解し、国内外のステークホルダーと協働できる能力を備えた人材が強く求められている。特に、多様な文化的価値観を理解し、調整役として活躍できる人材の確保が、企業の競争力向上に直結する重要な要素となっている。

こうした社会的課題に対応するためには、国際的な感覚を養い、多言語運用能力と異文化理解を基盤に持つ人材を育成する教育プログラムの整備が求められる。本学科が目指す人材育成は、これらの社会的ニーズに応える具体的な取り組みとして位置付けられるものである。

以上のことから、国際コミュニケーション学科の設置は、

①全国的な企業のグローバル化や海外取引拡大によるコミュニケーション力人材の需要

②地域における外国人住民の増加に伴う多文化共生・協働課題

③コロナ禍後の観光・サービス業の需要回復と人材不足

④自治体やNPOとの連携を通じた地域貢献

これらの多様なニーズに応えるものである。具体的な教育課程として、言語運用能力の段階的習得、多文化協働力を育む専門科目と地域連携科目、実践的なインターンシップを統合し、学生を「グローバルかつ地域社会に根差した問題解決型人材」へと育成する。結果として、サービス業・情報通信業・観光業等の求人ニーズに合致するだけでなく、外国人材との協働が増加する地域課題の解決にも寄与する。

これらを踏まえると、本学科の設置は「社会・地域・全国」の三つの視点から十分に根拠づけられた正当性を有し、企業・自治体・NPOからの高い評価を得るものと考える。

2. 中長期的な18歳人口等入学対象人口の全国的，地域的動向の分析

本学が立地する神奈川県は、東京都に次ぐ人口を擁するとともに、大学進学時には、他県から神奈川県の大学に進学する人数の方が、他県に進学する人数よりも多い流入超過の状況となっている。2024年度の大学全体の入学者数671名の出身都道府県では、神奈川県538名（80.2%）、東京都61名（9.1%）、静岡県21名（3.1%）の1都2県で全体の92.4%であり、その他の県から数名ずつ入学者がいる状況である。過去5年間を遡っても、1都2県で入学者の約9割を確保している状況が続いている。【資料1】

神奈川県は前述したとおり流入超過の状況ではあるが、日本全国で人口が減少しているので、ここでは、本学入学者の出身割合が高い神奈川県、東京都、静岡県を中心として、中期的な18歳人口の動向を、国勢調査結果を参考として検証する。

2020年の国勢調査によると、女子の人口は14歳が全国で515,263人、神奈川県36,911人、東京都47,218人、静岡県15,716人であり、1都2県で全国の19.4%の人口を有する。また、9歳の女子の人口は全国で503,635人、神奈川県36,271人、東京都49,467人、静岡県14,898人であり、1都2県で全国の20%の人口を有している。さらに、4歳の女子の人口においても、全国で465,233人、神奈川県33,947人、東京都51,498人、静岡県13,124人であり、1都2県で全国の21.2%の人口を有している。

将来的に日本の人口が減少となっていくが、中期的にみて1都2県での18歳人口に大きな変化はみられず、本学が入学者を確保するには十分な18歳人口があると考える。

表　地域別女子の人口

地域名	0歳		4歳		9歳		14歳	
	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)	人口(人)	割合(%)
全国	397,871	―	465,233	―	503,635	―	515,263	―
神奈川	29,082	7.3%	33,947	7.3%	36,271	7.2%	36,911	7.2%
東京	46,831	11.8%	51,498	11.1%	49,467	9.8%	47,218	9.2%

静岡	10,828	2.7%	13,124	2.8%	14,898	3.0%	15,716	3.1%
1 都 2 県合計	86,741	21.8%	98,569	21.2%	100,636	20.0%	99,845	19.4%

（2020 年国勢調査人口等基本集計より作成）

また、大学等進学率は全国的に上昇している状況ではあるが、本学への入学者の出身割合が高い神奈川県、東京都、静岡県の 1 都 2 県の大学等進学率を、学校基本調査「高等学校（全日制・定時制）卒業後の状況調査」を参考として検証する。2023 年より過去 3 年間の神奈川県、東京都、静岡県の大学等進学状況では、2023 年の卒業者 189,085 人のうち大学等進学者は 130,086 人で大学等進学率は 68.8%、2022 年の卒業者 193,663 人のうち大学等進学者は 130,152 人で大学等進学率は 67.2%、2021 年の卒業者 195,508 人のうち大学等進学者は 126,364 人で大学等進学率は 64.6%となっている。

2021 年から 2023 年までの間に 4.2 ポイントの上昇がみられ、18 歳人口が減少している状況においても、大学等進学率は増加していることから、中期的にみても受験対象者層の人数は十分にあると考える。

表　年別高等学校卒業者数と大学等進学者数・進学率

卒業者数(人)	神奈川県	東京都	静岡県	合計
2023 年	62,649	96,812	29,624	189,085
2022 年	64,786	98,713	30,164	193,663
2021 年	65,293	98,943	31,272	195,508

大学等進学者数（人）	神奈川県	東京都	静岡県	合計
2023 年	42,649	70,463	16,974	130,086
2022 年	42,779	70,555	16,818	130,152
2021 年	41,218	68,292	16,854	126,364

大学等進学率(%)	神奈川県	東京都	静岡県	合計
2023 年	68.1%	72.8%	57.3%	68.8%
2022 年	66.0%	71.5%	55.8%	67.2%
2021 年	63.1%	69.0%	53.9%	64.6%

（2023 年・2022 年・2021 年学校基本調査「高等学校（全日制・定時制）卒業後の状況調査」より作成）

3. 新設組織の主な学生募集地域

学芸学部および人間社会学部における主な学生募集地域は、神奈川県を中心としつつ隣接している東京都及び静岡県、千葉県としている。

新設組織が置かれる神奈川県への入学状況について、2024 年度の学校基本調査に基づいて算出した直近年度における出身高校の所在地県別の構成比（上位 3 県）をみると、神奈川県 52.2%、東京都 29.9%、千葉県 6.5%となっている。【別紙 1】

また、本学の既設学部（大学）における直近の 5 年間の都道府県別の入学者状況（保護者住所で算出）を見ると、神奈川を中心に東京都、静岡県出身で 9 割前後と大半を占めており、既設学部における直近 5 年間の入学状況から 1 都 3 県の出身者の本学への入学傾向は今後も続くことが見込まれる。【資料 1】

以上のことから、学芸学部国際コミュニケーション学科における学生募集地域の設定は妥当性があるものと考えられる。

4. 既設組織の定員充足の状況

本学の既設学部等の過去5年間の入学志願状況等（志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率）は、【別紙 2】の通りとなっている。推薦や総合型選抜など、年内入試での受験が増えてきている。複数学科による定員未充足の外部要因は、コロナ禍において高校での進路指導や受験生の志望校選びのプロセスが変化し、併願校数を絞る傾向が強くなったことや、18 歳人口の継続的な減少により、偏差値上位大学による推薦入試等の年内入試枠の増加や入試の易化による影響が大きい。共学志向の高まりから女子大学の人気が低迷してきていることも影響している。また、内部要因としては、2013 年度に生活デザイン学科を 2 年制から 4 年制へと変更したことを除くと、2008 年度以来改組を行ってきておらず、現代のニーズにあった体制になっていなかったことや、実態にあわせた定員設定の見直しを行ってこなかったことがあげられる。2026 年度には入学定員の見直しを行いより現実的な数値となるため、2026 年度の改組をきっかけに、既設学科を含め大学を広く広報していくことで、改善を図ることができると考えている。また、受験生が大学の立地等アクセスを重視する傾向が強まったことは、本学としては追い風になっている。日本語日本文学科においては収容定員の充足率が 0.64 倍となっているが、他の学科に比べ実践的なスキルを身につける機会が少なく、就職市場での需要が低いと感じられてしまうことが影響していると考えられる。文学が持つ文化的価値や、将来のキャリアにどのように役立つかということを受験生に伝えられていないことが充足率の低い原因の一つだと考えられる。定員設定が実態に合っていないことも大きな原因である。英語文化コミュニケーション学科においては収容定員の充足率が 0.54 倍となっているが、英語を活かした職業は多岐にわたり、特定の資格や専門知識が求められる職業が増えていることもあり、より専門的な学部を選ぶ傾向があることが考えられる。他学部での英語教育の充実が進んでいることも影響している。そのような中でも英語文化コミュニケーション学科はキャリア教育に力を入れ、高い就職実績を出しているが、英語や英文学とキャリア教育の関連を分かりや

すく受験生に周知することができていないことも充足率の低い原因の一つだと考えられる。定員設定が実態に合っていないことも大きな原因である。

一方、生活デザイン学科における現行の 45 名から 80 名への定員増について、当該学科の最近 5 年の収容定員の充足率は、どの年度も 100%を上回っており、また本学への入学率が高いオープンキャンパスへの参加においても、当該学科希望者は、どの年度も定員数の約4～5 倍の参加者（全日程合計数）が認められている。したがって、定員を充足する見通しが強く、また、当該学科のみならず大学全体の定員充足に貢献することが期待される。

Ⅲ 学生確保の見通し

1. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

(1) 既設組織における取組とその目標

既設組織の学生募集のためのPR活動の実績について、【別紙 3】の通りとなっている。

ア オープンキャンパス

2024 年度高校3年生の受験対象者総数 1, 291 名のうち約 43.7%に当たる 564 名が入学しており、2023 年度の実績を見ても同程度の比率で入学している。最終的な入学者数は 2023 年が 766 名、2024 年が 704 名であり、入学者の約 80%がオープンキャンパスに参加していることが分かる。

イ 祝日授業公開

2024 年度高校3年生の受験対象者総数 110 名のうち約 77.3%に当たる 85 名が入学しており、かなり高い確率で入学までつなげられている。

ウ 進学相談会・高校ガイダンス

進学相談会においては、受験対象者総数 240 名のうち約 17.1%に当たる 41 名が入学していて、高校ガイダンスにおいては、受験対象者総数 183 名のうち約 31.7%に当たる 58 名が入学している。

(2) 新設組織における取組とその目標

新設組織の学生確保のための募集活動においては、現在の高校生の進路選択の動きにあわせた時期設定をし、行動特性にあわせたツールを用いて広報を行うことを基本とし、「情報を届けたい層に情報を届ける」ことを意識した施策を実施していく。

ア 各種広報媒体による広報

大学案内や新設組織のパンフレット等の印刷物配布においては、通常の資料請求者への対応

や各種イベントでの配布に加え、大手広告代理店の保有する受験生データへのダイレクトメール発送等、積極的にアプローチをしていく。SNSにおいてはLINEとInstagramを活用する。LINEでは、友だち登録をしているアカウントに対し、イベントの告知や入試情報を発信するが、Instagramでは、普段の学生生活や大学の様子が分かるような情報をすることで、ツールを使い分けて情報検索をする現在の高校生にあわせて情報を発信する。また、広告代理店が企画する進学情報サイトや受験雑誌等の各種メディアも活用し、幅広くPRしていく。

イ オープンキャンパス

年間 7 回の実施を予定しているが、高校生の進路選択行動の早期化にあわせ、年度内の早いタイミングで実施する。「タイパ」を重視する現在の高校生にあわせ、大学のことを効率的に知ることができるよう、オンデマンド動画を活用しながら、短い時間で効率的に周ることができるようなタイムスケジュールを組んで実施する。また、リアルな学生生活を知ることができるように、在学生と関わる機会を多く創出する。内容としては、教員による学部説明や体験授業、学科の学びを紹介する企画および個別相談、在学生による施設見学および個別相談、職員による入試対策セミナーおよび個別相談、保護者対象の大学説明等、様々な催しを予定している。昨年度を超える来場者数を目標値とし、来場者には積極的に新学科の PR をする。来場した受験生や保護者に丁寧な対応を行うことにより、入学率を上げていきたい。

ウ 高校訪問

学生募集の事務を所管している入試課員とアドミッションズ・オフィス室員全員で高校訪問を行う。 神奈川県・東京都・静岡県東部エリアから入試課が訪問対象高校を選定し、入試課員とアドミッションズ・オフィス室員全員に担当高校を割り当てる。訪問対象高校は約260 校を予定している。訪問前にはマニュアルを作成し、アドミッションズ・オフィス室員向けに説明会を行うことで、精度の高い案内ができるよう準備をする。神奈川県・東京都・静岡県東部以外のエリアの高校についても、年 1～2 回は訪問する機会を設ける。 高校教員への情報提供内容としては、大学・学科の魅力や入試制度のポイントに加え、訪問校生徒のアプローチ状況等も伝え、信頼関係を構築し、入学者の確保につなげる。訪問の際には大学案内や入試ガイドに加え、新学科の紹介に特化したチラシを作成し、新学科広報の効果を高められるよう工夫する。なお、高校訪問は専任職員だけでなく、元高校教員の業務委託スタッフと連携して取り組む。

エ 進学相談会

全国で開催される民間業者が主催する進学相談会は、入試課員とアドミッションズ・オフィス室員全員で対応し、約 100 会場の参加を予定している。神奈川県・東京都・静岡県が中心となるが、それ以外にも北関東や東北、長野県等の会場にも参加する。大学案内等各種パンフレットを配付しながら、個別相談で大学・学科の魅力や入試制度のポイント等、幅広く情報を提供すること

により、広域から学生を確保することの効果が期待される。新学科の紹介に特化したチラシを持参し、新学科の広報を積極的に行う。

オ 高校ガイダンス

各高校からの参加依頼に応える形での参加になるが、積極的に参加をしていく考えである。依頼内容は大学説明の場合もあれば、学問系統の説明の場合もあるが、特に大学説明の依頼の際には、新学科の広報を積極的に行う。なお、2023 年度の参加校数は 213 回であった。

(3) 当該取組の実績の分析結果に基づく，新設組織での入学者の見込み数

上記取組を行うことにより、国際コミュニケーション学科の定員 60 名を確保する。既設組織における過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析については、【別紙 3】の通りとなっており、各取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者数は 60 名（オープンキャンパス 48 名、祝日授業公開 4 名、進学相談会 3 名、高校ガイダンス 5 名）である。また、入学者数の見込みを立てることが困難であり、計算に含めていない高校訪問の取り組みもあることから、新設組織における定員充足においては十分な見込みがあるものと考えている。

2. 競合校の状況分析（立地条件，養成人材，教育内容と方法の類似性と定員充足状況）

(1) 競合校の選定理由と新設組織との比較分析，優位性

ア 競合校選定の理由

本学科の競合する大学は、学校種、定員規模、学問分野、所在地、学力層、その他の観点から大妻女子大学、共立女子大学、実践女子大学、関東学院大学、東海大学、フェリス女学院大学を選定した。【資料 2】

まず、学校種としては、本学と同様の私立大学（4 年制）とし、特に女子大学を含めることとした。また、定員規模の観点からは、前身となる英語文化コミュニケーション学科の定員 110 人を中心に前後を含める形で選定した。さらに学問分野としては、人文・社会科学関係の中でも国際コミュニケーション学となる。そのため、一義的には学部学科に「国際」「コミュニケーション」が含まれる学科、学部となる。さらに、本学科の設置にあたっての母体である英語文化コミュニケーション学科についても視野に入れておく必要がある。そのため「英語」「文化」が含まれる学科、学部も対象とした。さらに地域的には、本学の受験層の中心が神奈川県と東京都であることから、これらの地域にある大学が競合の中心となると考えた。学力層の観点からは、本学のいわゆる偏差値が 35.0 から 37.5（旺文社パスナビ調べ）であることを鑑み、同程度から中間層である 50.0 程度までを範囲とした。

なお、そのほかの観点として、本学との併願（入学手続き後の辞退者への聞き取りから推定）先を考慮して、下記の6大学を主要競合校として設定した。なお、東海大学（学生数：約 2.8 万人）と関東学院大学（同、1.1 万人）は本学と規模が異なるが地域性や学問分野の類似性から競合が予測されるため対象とした。

イ 競合校との比較分析，優位性

新設組織である国際コミュニケーション学科は、次の各点の特徴があり、それぞれの点で優位性や独自性を発揮することが考える。以下、教育内容と方法、入試（競合校の受験時期、入学手続き時期との関係）、学生納付金・奨学制度などの修学支援、就職支援、取得できる資格、その他の順で示したい。

① 教育内容と方法

競合校の国際系学科のカリキュラムは、広く全世界を視野に入れ、留学や異文化理解を重視したカリキュラムを導入し、多様な経験を積めるように配慮している。特に人文・社会科学の両分野を横断的に学ぶ学際的なアプローチを取り入れている大学が多い。それにもかかわらず、これらの競合校では同一大学内に英語系学科と国際系学科の両者を設置しており、カリキュラム上の差異化のためか、学生の履修できる学びの範囲がすみわけされる形になっている。その結果、学科を超えて大学内での設置科目を履修することが難しく、学生の学びという観点から十分なシナジー効果を産めていないという課題がある。

これに対して、本学の国際コミュニケーション学科は、これまでの英語文化コミュニケーション学科において提供してきた英語科目を選択科目化しながらも残すことで、英語を志す者のニーズにこたえながらも、あらたに韓国をはじめとする東アジア、東南アジアに焦点化した科目構成となっている点が異なる。特に、近年注目が高まる韓国文化をカリキュラムの柱としていることは競合校にはない本学科の大きな特色である。

また、本学科では「コミュニケーション」を単なる言語運用能力に限定せず、デジタル技術を活用した情報発信やデータ分析の手法も含めた概念としてとらえている。この点でも従来の語学系学科との差別化を図っている。言い換えれば、学習の方法として AI を活用したコミュニケーション手法やデジタルメディアを活用した国際発信スキルの習得を重視しており、結果として高いデジタルリテラシーを身につけられるよう設計されている。この点においても、本学科は従来型の国際学科や英語系学科とは一線を画す独自性を有している。

加えて、本学科は大学全体でも方針としている地域社会との連携を重視した実践型教育にも力を入れており、自治体や企業と連携したプロジェクトを通じて、学生が実際の国際コミュニケーションの場で経験を積む機会を提供している。これにより、単なる理論的な学習にとどまらず、現場での対応力を磨くことができることを重視している。

したがって、本学の国際コミュニケーション学科は、英語学習を維持しながらも、韓国・東南アジアへの重点的なアプローチ、デジタル技術を活用した国際コミュニケーション能力の育成、地域社会との実践的な連携を強化することで、これまでにない特色ある学びを提供する学科として位置づけられる。

② 入試（競合校の受験時期、入学手続き時期との関係）

本学では、例年、競合校の受験時期や入学手続き時期を分析し、受験生の利便性を考慮した適切な入試日程を設定している。今後も特に、神奈川県および東京都西部における主要競合校（大妻女子大学、共立女子大学、実践女子大学、関東学院大学、東海大学、フェリス女学院大学）の入試スケジュールを比較しながら、日程調整を行うことで、受験生が選択しやすい環境を整える。

本学では、受験生の多様なニーズに応えるため、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜を組み合わせた多様な入試方式を実施している。特に、総合型選抜においては各学科のアドミッションポリシーを反映した入試ができる仕組みとなっており、国際的な視野を持つ学生や多文化理解に関心のある学生を積極的に受け入れる予定で、これにより、英語・韓国語・デジタルスキルなどを評価要素に含めた選抜方式としたい。

さらに、競合校の入学手続き時期と比較して、早期の出願機会と柔軟な手続きスケジュールを設定することで、併願者の確保を図っている。例えば、大妻女子大学や共立女子大学では、総合型選抜の合格発表が 10 月～11 月に行われることが多いが、本学ではそれよりも早い時期に選抜時のパフォーマンス評価をフィードバックすることで、早期に進路を確定できる仕組みを整備する。これにより、受験生が安心して進学を決定できる環境を提供し、併願率の向上を図る。

このように、本学の入試制度は、競合校と比較して、受験しやすい日程調整、特色ある総合型選抜、早期の進学決定機会を提供する点で独自性を持っており、受験生にとって魅力的な選択肢となるよう設計されている。

③ 学生納付金・奨学制度などの修学支援

本学では、合格者に対する奨学金制度を充実させ、入学後の学費負担を軽減する支援体制を競合校と遜色のないレベルで整えている。特に、成績優秀者や国際コミュニケーション分野への高い関心を示した志願者を対象に既存の「相模女子大学特別奨学生制度」に学科枠を設け、初年度の授業料を全額免除することで、経済的な理由で進学が困難な学生にも学びの機会を提供する。本奨学金は入試成績をもとに選考されるため、学業への意欲が高い学生にとって大きな支援となる。

また、「相模女子大学奨学金」では、入学年度から卒業年次まで授業料相当額を給付する制度を設けており、家庭の経済状況に応じて学業継続を支援する。これにより、学費面での不安を抱える学生も安心して学業に専念できる環境を整えている。

さらに、本学では日本学生支援機構（JASSO）奨学金をはじめ、各種の民間・自治体奨学金との併用が可能であり、学生の多様なニーズに対応できる柔軟な制度設計を行っている。加えて、「海外留学支援奨学金」など、国際的な経験を積むための経済的支援制度も整備しており、新設の国際コミュニケーション学科においても積極的に活用されることが期待される。

④ 就職支援

本学では、学生一人ひとりのキャリア形成を支援するため、入学から卒業後までの一貫したサポート体制を構築している。特に、就職支援課が中心となり、就職支援にとどまらず、将来のキャリア

ビジョンを主体的に描けるよう、競合校と同等以上の支援を提供していると考える。

本学のキャリア支援の特徴として、オープンカンパニーや職業体験の機会を提供し、多様な業界・職種を知る機会を設けることで、学生の視野を広げることを重視している。また、自己理解を深めるための個別カウンセリングを全員に実施し、履歴書作成や面接対策などの実践的な就職活動サポートも充実している。

さらに、本学では独自の就職支援 WEB サイト(S ナビ)を導入し、DX(デジタル・トランスフォーメーション)を活用した支援体制を強化しており、オンラインでの個別相談やキャリアカウンセリングも導入している。特に、既設組織である英語文化コミュニケーション学科の上級生や卒業生が後輩をサポートする仕組みを導入し、新設組織でありながら先輩・後輩が自然と支え合えるような支援を実現する。

また、本学では自治体や企業との連携による実践型キャリア教育にも力を入れており、インターンシップやプロジェクト型学習を通じて、実際の業務経験を積む機会を提供している。これにより、就職活動だけでなく、卒業後のキャリア形成においても活かせるスキルを身につけることが可能となる。

このような包括的なキャリア支援の結果、本学の近年の就職率は安定して高水準を維持しており、多様な業界への就職実績を積み重ねている。特に、国際コミュニケーション学科では、グローバルビジネスやインバウンド産業、多文化共生を推進する自治体・企業など、国際的な視点を活かせる分野への就職を積極的に支援したい。

⑤ 取得できる資格

本学国際コミュニケーション学科で取得可能な資格は下記のとおりである。学科の特徴の一つである英語教育を軸に、本学科の教育課程を全学的に提供されている科目と合わせて履修することで、教員免許中・高一種(英語)、司書、司書教諭、学校司書の取得を可能としている。

表　取得できる資格・免許の種類

中学・高校教員 1 種(英語)	学校司書
司書	情報処理士
司書教諭	社会福祉主事

ウ 競合校と比較しての新設学科の位置づけ

学校基本調査によるとコロナ禍後、国際関係の志願者数は 2019 年度の 46,591 人から、2020 年度には 40,672 人(前年比▲5,919 人、▲12.7%)、2021 年度には 37,084 人(前年比▲3,588 人、▲8.8%)、2022 年度には 33,834 人(前年比▲3,250 人、▲8.8%)と減少を続けた。しかし、2023 年度には 33,532 人となり、前年からの減少幅はわずか 302 人(▲0.9%)と大幅に縮小した。2024 年度には、ついに志願者数が増加に転じた(https://www.keinet.ne.jp/exam/past/review/private.html)。一方、入学者数においては、コロナ

渦中に増減はあったものの、最新データのある 2022 年度の 4,408 人から 2023 年度には 4,698 人と増加に転じており、全体として国際系分野の回復が始まりつつある兆候が見られる。これらのデータから、国際関係系は今後回復基調に向かうことが期待される。

このような全体の傾向の中、書生に焦点化してみると、女性の入学志願者数と入学者数は一貫して男性を上回っており、特に女性志願者の存在感が顕著であることがわかる。例えば、2019 年度の女性志願者数は 27,351 人と全体の 58.7%を占め、2023 年度でも 19,453 人と全体の 57.9%を維持している。入学者数においても、2019 年度は 2,902 人と全体の 66.1%を占め、2023 年度には 2,827 人と女性が全体の 60.2%を占める結果となっている。このデータは、国際関係学における女性志向の強さを示しており、国際的なキャリアを目指す女性の増加がこの分野の堅調な志願者数の維持に寄与していることを示唆している。本学が女性向けの教育環境を強化することは、この需要に応えるだけでなく、さらなる志願者数の増加を期待できる合理的な戦略といえる。

表　国際関係学部の志願者状況

	国際関係学（国際関係学部）					
	入学志願者			入学者		
	計	男	女	計	男	女
2019年度	46,591	19,240	27,351	4,391	1,489	2,902
2020年度	40,672	16,987	23,685	4,626	1,760	2,866
2021年度	37,084	14,514	22,570	4,652	1,669	2,983
2022年度	33,834	13,742	20,092	4,408	1,673	2,735
2023年度	33,532	14,079	19,453	4,698	1,871	2,827

（2023 年-2019 年学校基本調査「高等教育機関学校調査学校調査票（大学・大学院）」より作成）

競合校として設定した各校にも類似の傾向がみられるものの、さらに大きな点は、英語系の不振とそれに比しての国際系の堅調さである。英語系学科においては、多くの競合校で入学者数が定員を下回る傾向が見られる。例えば、大妻女子大学文学部英語英文学科では、2022 年の入学者数 123 名から 2023 年に 106 名へと減少し、2024 年も 116 名と回復が鈍い。一方、共立女子大学文芸学部（英語・英語圏文学専修を含む）は、2023 年の 328 名から 2024 年に 349 名と回復しているものの、依然として安定性に欠ける状況である。

これに対し、国際系学科は堅調さを維持している。特に、実践女子大学国際学部国際学科は 2024 年に 142 名を確保し、定員を上回る実績を示している。同様に、東海大学国際学部国際学科では 2023 年の 196 名から 2024 年に 232 名へと増加しており、国際系学科の人気が再び高まっていることを示唆している。フェリス女学院大学の国際交流学部国際交流学科も 2024 年に 118 名を記録しているが、前年の 148 名と比較して減少が見られるものの、英語系学科と比べれば相対的に安定している。他大学のことではあるが、フェリス女学院の近年の未充足は全体の学生数(1,875)

に対する、国際コミュニケーション系ととらえられる学科が3つと過多であり、それぞれが学内で競合している恐れが指摘できるだろう。

以上のデータから、偏差値上位の競合校では、英語系学科に比べて国際系学科が堅調であり、志願者数や入学者数が安定していることが明確に見て取れる。特に、英語系学科が相対的に減少傾向にある中で、国際系学科が堅調であることは、学生の選好がより広い国際性を持つ学問分野へと移行していることを示している。この傾向は、競合校がマーケットの変化を敏感に捉え、カリキュラム改編や新設（実践女子大学国際学部（2024 年設立）など国際系学科を充実させていることとも一致する。

また、地域の競合校に目を向けると、国際系学部・学科はほぼすべて定員を充足しており、不合格者も一定数出ていることが確認できる。例えば、関東学院大学の国際文化学部や東海大学の国際学部では、毎年多くの学生が志願し、その一部が不合格となっている現状がある。これらの不合格者は、これまでの入学手続き後の辞退者のデータからも本学を併願する可能性があると考えられるため、本学にとって潜在的な志願者層ととらえることができ、地域における受け皿としての役割を果たすこともできるだろう。

さらに、女子大学においても、大妻女子大学、実践女子大学、共立女子大学などの想定される競合校だけでなく、昭和女子大学、学習院女子大学など、偏差値上位校が国際系学部・学科を設置し、定員を充足するだけでなく、多数の不合格者を出している状況が見られる。このことは、女子大にも国際系のニーズがあることを強く示しており、本学が女子大学の国際系を志願しながらも入学できなかった学生を受け入れる可能性を高めることを示唆している。

これらの分析結果を踏まえると、本学が英語文化コミュニケーション学科から国際コミュニケーション学科へと移行することは、マーケットの変化に適応し、広がりを見せる国際系分野への学生需要を的確に捉えた合理的な戦略といえる。本学の地域的、社会的役割を強化し、競合校に対する優位性を築く上で、この学科改組は極めて重要な意味を持つと考える。

表　競合校の入学定員と入学者数

				2022	2023	2024
			入学定員	入学者数	入学者数	入学者数
女子大競合校	大妻女子大学	文学部コミュニケーション文化学科	120	128	126	137
		文学部英語英文学科	120	123	106	116
	共立女子大学	国際学部（コミュニケーションスタディーズコース含む3コース）	250	269	257	246
		文芸学部（英語・英語圏文学含む 7 専修）	350	363	328	349
	実践女子大学	国際学部国際学科	120	NA	NA	142
		文学部英文学科	110	115	118	104
地域競合校	関東学院大学	国際文化学部比較文化学科	138	141	139	122
		国際文化学部比較文化学科英語文化学科	138	135	139	144
	東海大学	国際学部国際学科	200	199	196	232
		文学部英語文化コミュニケーション学科	90	77	86	100
	フェリス女学院	文学部コミュニケーション学科	90	104	91	87
		文学部英語英米文学科	90	63	67	60
		国際交流学部国際交流学科	197	142	148	118

学科の定員規模は本学は 60 名を設定しており、これらの大学に比べて少ない。しかしこれは、大学全体の規模に占める国際系学科という観点から見れば妥当と考える。受験生の動向は、先述のように学問分野を一つのマーケットと考えるだけでなく、相模女子大学を志望する受験生というセクションにおける国際系という位置づけも考慮しなければならない。この点を鑑みると、本学の学生総数 3161 人に対して、国際コミュニケーション学科の完成年度における想定割合（現在の学生総数と完成年度が同数と仮定）は 7.59％と、大妻女子大学（7.45％）と同程度で、実践女子大学（11.2％）を下回る一方、関東学院を（5.03％）上回る水準となる。なお、東海大学は 2.8％と離れているが、これは本学との規模が大きく異なるため例外的なものとみてよいだろう。以上のことから、本学規模の女子大学で 60 名という設定は、全国的に復調傾向にある国際系の中で、相模女子大学を志望する層を想定した際にも、現実的かつ妥当なものと考える。

⑵ 競合校の入学志願動向等

競合校として設定した大学の過去 3 年間の志願状況は【資料 3】の通りである。国際コミュニケーション学科の競合校では、3 年間分の数値が確認できている大学の 3 年間の志願倍率平均値をみると、大妻女子大学コミュニケーション文化学科が 5.6 倍、共立女子大学観光学科が 4.0 倍、実践女子大学国際学科が 5.1 倍、東海大学国際学科が 5.4 倍、フェリス女子大学コミュニケーション学科が 3.0 倍であり、いずれも十分な志願者を確保し、入学定員を充足している。上記大学の志願者数の合計の平均値をみると、国際コミュニケーション学科の競合校では 4 校合計で 2,844 名である。以上のことから、国際コミュニケーション学科においても入学者を確保できると考える。

⑶ 新設組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

該当なし

⑷ 学生納付金等の金額設定の理由

新設組織となる国際コミュニケーション学科の入学時納入金は、授業料 765,000 円、施設・設備費 350,000、実験実習費 50,000 円（予定）、入学金 260,000 円に設定している。国際コミュニケーション学科は学芸学部に設置され、同分野にあたり廃止となる既設学科の英語文化コミュニケーション学科や同学部内の日本語日本文学科と同等の額となっている。また、初年度納付金は入学金の金額設定上、競合校と比較してやや高めとなってはいるものの、自治会費や後援会費を除いた 4 年間の納付金は 4,901,000 円と、同分野の競合校と比較しても平均的な金額となっている。

大学及び学部の運営にあたり、永続的に教育・研究活動が行えることはもちろん、競合校と比較しても差別化された教育環境や、中規模大学としての利点を活かしたキャリア教育を展開するための体制整備等、学生への還元を考慮した上で校納金を設定している。

表　本学と競合校の学生納付金

大学	学生納付金（記載のないものは 2025 年度）
相模女子大学学芸学部国際コミュニケーション学科	4,901,000 円（2026 年度予定）
大妻女子大学文学部	5,103,050 円
共立女子大学国際学部（コミュニケーションスタディーズコース含む 3 コース）	4,670,000 円
共立女子大学文芸学部	4,510,000 円
実践女子大学国際学部国際学科	5,156,010 円
実践女子大学文学部英文学科	4,916,010 円
関東学院大学国際文化学部	4,761,660 円
東海大学国際学部国際学科	5,290,200 円
東海大学文学部英語文化コミュニケーション学科	5,246,200 円
フェリス女学院大学文学部・国際交流学部	4,685,300 円（2024 年度参考）

3. 先行事例分析

該当事例なし

4. 学生確保に関するアンケート調査

国際コミュニケーション学科の設置にあたり、同学科への志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的に株式会社高等教育総合研究所を介してアンケート調査を実施した。【資料 4】

対象は、令和8年3月に高校卒業予定の高校2年生（令和6年度現在）とし、令和6年12月に開催したオープンキャンパスでの配付と令和7年1月～令和 7 年3月にかけて本学の所在する神奈川県や主たる学生募集エリアと想定される近隣都県の高等学校 42 校から調査の協力を得て実施した。

高校へのアンケート調査は、協力校に対し、アンケート用紙と学科の内容を紹介する「相模女子大学 2026 年度設置構想　人間社会学部地域クリエーション学科（学科名仮称）　学芸学部国際コミュニケーション学科（学科名仮称）　」のリーフレットを送付し、高校側の希望に基づき、紙方式・WEB 方式のいずれかの方法で回答を募った。アンケート調査の回答は、株式会社高等教育総合研究所に直接送付され集計された。なお、アンケート用紙を送付した協力校には、共学校も含まれていたが、集計にあたっては女子のみを抽出している。調査内容は、回答者の基本情報（性別、居

住地)、卒業後の志望進路、志望する大学等の設置者、興味のある学問分野、国際コミュニケーション学科及び同時に設置する人間社会学部地域クリエーション学科への受験・入学意向とし、5,288 件の有効回答を得た。

アンケート調査をクロス集計した結果、国際コミュニケーション学科に対し受験意向を持ち、「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望として受験する」を選択したのは合計 194 名で、予定する入学定員 60 名の 3.2 倍の水準におよぶことが明らかとなった。また、「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は 12 名おり、同学科に合格した場合、確実に入学が見込まれる。「第二志望として受験する」「第三志望として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」を選択した合計 142 名は、他大学の合否次第ではあるが、この中から 48 名(33.8%)の入学者がいれば「入学する」とした12名とあわせ入学定員の充足が可能であり、必要十分な人数の高校生が同学科を志願しているといえる。

なお、高校卒業後の進路に「大学」、志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「文学」を選択した上で同学科に受験・入学意向を示した人数を集計した合計は 241 名であり、同学科を「第一志望として受験する」として「入学する」と回答した人数と「第二志望として受験する」「第三志望として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合は入学する」と回答した人数を集計した合計は 40 名であった。入学定員を下回る結果となったが、同学科の学位の分野は「文学関係」ではあるものの、その学びの内容としては英語のみならず英語圏の文化に加え、韓国語・韓国文化とアジアの多様性を学びカリキュラムを編成しており、世界の様々な場所、フィールドでの活躍を目指す高校生をそのターゲットとしていることから、学位の分野＝文学関係とは認識されていないが、人文・社会科学、芸術やポップカルチャーなどの分野に関心を持つ幅広い層への訴求が可能と思われる。

5. 人材需要に関するアンケート調査等

相模女子大学では、新設予定の国際コミュニケーション学科の設置が社会的な人材需要と合致していることを確認するため、独自の人材需要アンケート調査を実施した。この調査は、企業・団体・教育機関を対象に、本学科が育成する人材に対する期待や採用意向を把握することを目的として行われた【資料 5】。その結果、約 8 割の回答者が本学科が育成する人材への社会的ニーズが「高い」または「ある程度高い」と評価し、約 65.6%がその卒業生を「採用したい」と明言するなど、明確な人材需要が確認された調査結果を基に分析する。

(1) 言語能力としての英語力の需要

本学による調査の自由記述でも、企業や団体が求める人材のスキルとしてグローバルな業務に対応できる英語力を持つ人材が必要との回答が多く、特に観光・サービス業、IT 業界、教育分野において英語能力の重要性が強調された。外部データとしても、一般財団法人 IIBC の調査で「今後のビジネスパーソンにとって最も重要なスキルは英語」とする企業が 82.6%に達していることから、

本学科のカリキュラムが社会的ニーズに対応していることが裏付けられる。また、英語教員免許の取得も可能であり、教育機関からは「英語教員の供給源として期待できる」との評価を得た。具体的に、「高校（英語）の免許取得者がいればぜひ採用したい」「小学校教諭として採用したい」などのコメントがあった。

⑵ 韓国文化理解を軸にした異文化対応力のニーズ

「異文化対応力」の重要性についても多くのコメントがあった。国際ビジネスは海外進出企業だけでなく地域の多文化化を念頭にした対応力に期待する内容が多かった。特に日韓ビジネスを特定した上で、「貴学の場合、英語力の他に多様性や韓国語・韓国文化といった内容もあるため、学びたいという学生は多いのではないか。卒業後に韓国系企業への就職が可能ならなお良い」と、本学科で韓国文化に触れることの意義を評価する意見が見られた。

⑶ AI を活用した学習の必要性と人材需要

企業側からは、DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展に伴い、AI を使いこなせる人材が求められているという声が多く寄せられた。特に本学科が AI を活用したコミュニケーション教育を取り入れる点に対し、「実務的な観点から非常に有意義である」との評価が得られた。外部データとしても、マイクロソフトと LinkedIn のグローバル調査（2024 年）では、企業幹部の 71%が「AI スキルを持つ候補者を優先的に採用する」と回答しており、79%の経営層が「競争力維持に AI 活用が不可欠」と認識しているとされている。本学科が育成する人材像と市場ニーズが一致していることが明確である。

⑷ 社会的ニーズに基づいた計画的な学科設置

本学の独自調査及び外部調査により、英語力・異文化理解力・AI 活用スキルを持つ人材への社会的需要が非常に高いことが明らかになった。本学科のカリキュラムは、従来の語学系学科とは異なり、「言語×文化×デジタル」の融合を重視した実践的な内容となっており、今後の社会・経済的環境の変化にも柔軟に対応できると考える。今回の調査結果を踏まえ、本学科の新設は、単なる学問分野の拡充ではなく、実社会において必要とされる人材を育成するための戦略的な取り組みであると考える。

Ⅳ 新設組織の定員設定の理由

近年、グローバル化や DX 化（デジタルトランスフォーメーション化）の進展に伴い、産業や地域社会の枠を超えて「コミュニケーション力」と「多文化協働力」を備えた人材に対する全国的なニーズが一段と高まっており、英語を中心とした実践的な言語運用能力を基盤に多文化理解や異文化コミュニケーションのスキルを備えた人材を養成する国際コミュニケーション学科は、それに応えることができるといえる。実際に人材需要に関するアンケート調査では、約8割の回答者が本学科の

養成する人材への社会的ニーズが「高い」あるいは「ある程度高い」と評価し、約 65.6％がその卒業生を「採用したい」と回答している。また、受験生の志願動向をみると、コロナ禍後、英語系学科に比べ国際系学科の回復は堅調で、女子大や近隣の競合校でも入学定員を充足している大学が多い。当学科の定員設定については、これら社会的な人材需要の状況や採用実績のある企業からの具体的な調査結果、近隣の競合校の志願動向、学生確保に関するアンケート結果、主たる学生募集エリアである東京都・神奈川県の 18 歳人口の推移、さらには大学全体の定員規模等を勘案し総合的に踏まえたものであり、合理性のある設定であると考えている。

学生の確保の見通し等を記載した書類　資料目次

資料 1「相模女子大学・相模女子大学短期大学部出身都道府県別入学者数」・・・・・・・・・・・2
別紙 1「新設組織が置かれる都道府県への入学状況」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
別紙 2「既設学科等の入学定員の充足状況（直近5年間）」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
別紙 3「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
資料 2「競合校の入試動向」・・15
資料 3「国際コミュニケーション学科競合校入試状況」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57
資料 4「相模女子大学新学科設置構想についての高校生アンケート調査報告書」・・・・・・・・・58
資料 5「相模女子大学新学科設置構想についての人材需要アンケート調査報告書」・・・・・・ 76

【資料1】相模女子大学・相模女子大学短期大学部出身都道府県別入学者数

都道府県	2020年度	割合	2021年度	割合	2022年度	割合	2023年度	割合	2024年度	割合
北海道	2	0.19	1	0.11	3	0.37	0	0.00	4	0.60
青森県	4	0.38	1	0.11	2	0.25	1	0.14	1	0.15
岩手県	1	0.09	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00
宮城県	1	0.09	2	0.23	2	0.25	2	0.28	1	0.15
秋田県	2	0.19	1	0.11	2	0.25	1	0.14	1	0.15
山形県	1	0.09	3	0.34	4	0.50	2	0.28	4	0.60
福島県	9	0.85	3	0.34	10	1.25	8	1.13	0	0.00
茨城県	9	0.85	4	0.45	2	0.25	2	0.28	3	0.45
栃木県	11	1.04	1	0.11	9	1.12	5	0.71	3	0.45
群馬県	7	0.66	10	1.13	4	0.50	4	0.56	1	0.15
埼玉県	5	0.47	4	0.45	0	0.00	0	0.00	1	0.15
千葉県	2	0.19	6	0.68	3	0.37	3	0.42	3	0.45
東京都	111	10.51	101	11.40	80	9.99	75	10.58	61	9.09
神奈川県	774	73.30	686	77.43	604	75.41	545	76.87	538	80.18
新潟県	21	1.99	10	1.13	11	1.37	7	0.99	7	1.04
富山県	3	0.28	1	0.11	0	0.00	2	0.28	1	0.15
石川県	2	0.19	2	0.23	1	0.12	2	0.28	0	0.00
福井県	1	0.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.15
山梨県	8	0.76	8	0.90	7	0.87	4	0.56	5	0.75
長野県	15	1.42	5	0.56	7	0.87	4	0.56	6	0.89
岐阜県	2	0.19	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
静岡県	46	4.36	23	2.60	34	4.24	29	4.09	21	3.13
愛知県	1	0.09	1	0.11	2	0.25	1	0.14	1	0.15
三重県	1	0.09	0	0.00	2	0.25	0	0.00	0	0.00
滋賀県	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
京都府	1	0.09	0	0.00	0	0.00	1	0.14	1	0.15
大阪府	0	0.00	3	0.34	0	0.00	0	0.00	1	0.15
兵庫県	1	0.09	0	0.00	1	0.12	1	0.14	0	0.00
奈良県	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
和歌山県	0	0.00	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00
鳥取県	0	0.00	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
島根県	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
岡山県	1	0.09	0	0.00	0	0.00	1	0.14	1	0.15
広島県	2	0.19	0	0.00	0	0.00	1	0.14	0	0.00
山口県	0	0.00	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
徳島県	1	0.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
香川県	1	0.09	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
愛媛県	0	0.00	0	0.00	0	0.00	1	0.14	1	0.15
高知県	1	0.09	0	0.00	0	0.00	1	0.14	1	0.15
福岡県	2	0.19	1	0.11	1	0.12	2	0.28	0	0.00
佐賀県	0	0.00	0	0.00	1	0.12	1	0.14	0	0.00
長崎県	0	0.00	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00
熊本県	1	0.09	1	0.11	0	0.00	0	0.00	0	0.00
大分県	0	0.00	0	0.00	1	0.12	0	0.00	0	0.00
宮崎県	0	0.00	3	0.34	1	0.12	0	0.00	0	0.00
鹿児島県	1	0.09	0	0.00	2	0.25	0	0.00	2	0.30
沖縄県	4	0.38	2	0.23	1	0.12	3	0.42	1	0.15
その他	1	0.09	0	0.00	0	0.00	0	0.00	0	0.00
合計	1056		886		801		709		671	

●1都2県（東京都・神奈川県・静岡県）の入学者状況

2020	2021	2022	2023	2024
88.16%	91.42%	89.64%	91.54%	92.40%

新設組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙１

〇出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位５都道府県）※直近年度

	都道府県名	人　　数	構成比
1	神奈川県	18,080人	52.2%
2	東京都	10,365人	29.9%
3	千葉県	2,239人	6.5%
4	静岡県	2,065人	6.0%
5	埼玉県	1,897人	5.5%
	全　　体	34,646人	100.0%

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

〇新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地（都道府県）	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	神奈川県	100.33%	98.85%	96.29%
2				

※２校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

〇新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和４年度	令和５年度	令和６年度
1	人文科学系学部（大学）	98.93%	96.28%	95.96%
2	社会科学系学部（大学）	102.73%	102.70%	102.48%
	家政学部（大学）	95.28%	89.01%	83.78%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１

大学学部学科等名：相模女子大学学芸学部日本語日本文学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		30人	25人	25人	25人	25人	26人
	延べ人数	志願者数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
		受験者数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
		合格者数	32人	24人	19人	20人	14人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	1人	0人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
		受験者数	32人	24人	19人	21人	14人	22人
		合格者数	32人	24人	19人	20人	14人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	1人	0人	0人	0人	1人
	入学者数		29人	23人	19人	19人	13人	21人
学校推薦型選抜	募集人数		65人	65人	65人	65人	55人	63人
	延べ人数	志願者数	66人	63人	46人	41人	38人	51人
		受験者数	66人	62人	46人	41人	38人	51人
		合格者数	63人	62人	46人	41人	38人	50
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	66人	63人	46人	41人	38人	50.8
		受験者数	66人	62人	46人	41人	38人	50.6
		合格者数	63人	62人	46人	41人	38人	50
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		62人	62人	46人	39人	38人	49.4
一般選抜	募集人数		24人	27人	27人	27人	20人	25
	延べ人数	志願者数	156人	86人	64人	46人	31人	76.6
		受験者数	141人	72人	55人	38人	27人	66.6
		合格者数	80人	51人	50人	38人	25人	48.8
		うち追加合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	0.6
		辞退者数	12人	18人	13人	12人	4人	11.8
	実人数	志願者数	156人	86人	64人	46人	31人	76.6
		受験者数	141人	72人	55人	38人	27人	66.6
		合格者数	80人	51人	50人	38人	25人	48.8
		うち追加合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	0.6
		辞退者数	12人	18人	13人	12人	4人	11.8
	入学者数		41人	16人	12人	11人	6人	17.2
共通テスト利用入試	募集人数		11人	13人	13人	13人	10人	12
	延べ人数	志願者数	195人	111人	66人	49人	37人	91.6
		受験者数	195人	111人	66人	49人	37人	91.6
		合格者数	95人	63人	58人	42人	37人	59
		うち追加合格者数	0人	2人	0人	0人	0人	0.4
		辞退者数	11人	3人	3人	1人	1人	3.8
	実人数	志願者数	195人	111人	66人	49人	37人	91.6
		受験者数	195人	111人	66人	49人	37人	91.6
		合格者数	95人	63人	58人	42人	37人	59
		うち追加合格者数	0人	2人	0人	0人	0人	0.4
		辞退者数	11人	3人	3人	1人	1人	3.8
	入学者数		20人	6人	2人	2人	1人	6.2
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	2人	2人	0人	3人	2人	1.8
		受験者数	1人	2人	0人	3人	2人	1.6
		合格者数	1人	2人	0人	3人	2人	1.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	2人	2人	0人	3人	2人	1.8
		受験者数	1人	2人	0人	3人	2人	1.6
		合格者数	1人	2人	0人	3人	2人	1.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		1人	2人	0人	3人	2人	1.6
合計	募集人数		130人	130人	130人	130人	110人	126人
	延べ人数	志願者数	451人	286人	195人	160人	122人	243人
		受験者数	435人	271人	186人	152人	118人	232人
		合格者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
		うち追加合格者数	0人	5人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	25人	22人	16人	13人	5人	16人
	実人数	志願者数	451人	286人	195人	160人	122人	243人
		受験者数	435人	271人	186人	152人	118人	232人
		合格者数	271人	202人	173人	144人	116人	181人
		うち追加合格者数	0人	5人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	25人	22人	16人	13人	5人	16人
	入学者数		153人	109人	79人	74人	60人	95人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	130人	130人	130人	130人	110人	126
入学定員充足率	1.18	0.84	0.61	0.57	0.55	0.75
歩留率	0.56	0.54	0.46	0.51	0.52	0.52

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－２

大学学部学科等名：相模女子大学学芸学部英語文化コミュニケーション学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		25人	25人	25人	25人	25人	25人
	延べ人数	志願者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
		受験者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
		合格者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
		受験者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
		合格者数	24人	17人	16人	13人	9人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		23人	15人	16人	13人	9人	15人
学校推薦型選抜	募集人数		60人	60人	60人	60人	55人	59人
	延べ人数	志願者数	84人	52人	41人	37人	31人	49人
		受験者数	83人	52人	41人	37人	31人	49人
		合格者数	73人	52人	41人	37人	31人	46.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2
	実人数	志願者数	84人	52人	41人	37人	31人	49
		受験者数	83人	52人	41人	37人	31人	48.8
		合格者数	73人	52人	41人	37人	31人	46.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0.2
	入学者数		70人	50人	41人	37人	30人	45.6
一般選抜	募集人数		24人	24人	24人	24人	20人	23.2
	延べ人数	志願者数	147人	79人	54人	38人	10人	65.6
		受験者数	138人	70人	45人	34人	10人	59.4
		合格者数	64人	56人	42人	33人	10人	41
		うち追加合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	0.6
		辞退者数	17人	24人	11人	9人	0人	12.2
	実人数	志願者数	147人	79人	54人	38人	10人	65.6
		受験者数	138人	70人	45人	34人	10人	59.4
		合格者数	64人	56人	42人	33人	10人	41
		うち追加合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	0.6
		辞退者数	17人	24人	11人	9人	0人	12.2
	入学者数		23人	10人	5人	6人	2人	9.2
共通テスト利用入試	募集人数		11人	11人	11人	11人	10人	10.8
	延べ人数	志願者数	182人	102人	75人	29人	17人	81
		受験者数	182人	102人	74人	29人	17人	80.8
		合格者数	82人	88人	74人	29人	17人	58
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	12人	7人	1人	0人	0人	4
	実人数	志願者数	182人	102人	75人	29人	17人	81
		受験者数	182人	102人	74人	29人	17人	80.8
		合格者数	82人	88人	74人	29人	17人	58
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	12人	7人	1人	0人	0人	4
	入学者数		10人	2人	2人	1人	1人	3.2
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	1人	0人	1人	2人	0人	0.8
		受験者数	1人	0人	1人	2人	0人	0.8
		合格者数	0人	0人	1人	2人	0人	0.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	1人	0人	1人	2人	0人	0.8
		受験者数	1人	0人	1人	2人	0人	0.8
		合格者数	0人	0人	1人	2人	0人	0.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		0人	0人	1人	2人	0人	0.6
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	110人	118人
	延べ人数	志願者数	438人	250人	187人	119人	67人	212人
		受験者数	428人	241人	177人	115人	67人	206人
		合格者数	243人	213人	174人	114人	67人	162人
		うち追加合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	30人	33人	12人	9人	0人	17人
	実人数	志願者数	438人	250人	187人	119人	67人	212人
		受験者数	428人	241人	177人	115人	67人	206人
		合格者数	243人	213人	174人	114人	67人	162人
		うち追加合格者数	0人	3人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	30人	33人	12人	9人	0人	17人
	入学者数		126人	77人	65人	59人	42人	74人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	110人	118
入学定員充足率	1.05	0.64	0.54	0.49	0.38	0.62
歩留率	0.52	0.36	0.37	0.52	0.63	0.48

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－３

大学学部学科等名：相模女子大学学芸学部子ども教育学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		10人	10人	10人	10人	20人	12人
	延べ人数	志願者数	31人	36人	36人	19人	25人	29人
		受験者数	31人	36人	36人	19人	25人	29人
		合格者数	31人	36人	36人	18人	25人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	31人	36人	36人	19人	25人	29人
		受験者数	31人	36人	36人	19人	25人	29人
		合格者数	31人	36人	36人	18人	25人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		31人	36人	34人	18人	21人	28人
学校推薦型選抜	募集人数		45人	45人	45人	45人	50人	46人
	延べ人数	志願者数	58人	59人	65人	37人	47人	53人
		受験者数	58人	59人	65人	37人	47人	53人
		合格者数	57人	58人	65人	37人	47人	52.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	実人数	志願者数	58人	59人	65人	37人	47人	53.2
		受験者数	58人	59人	65人	37人	47人	53.2
		合格者数	57人	58人	65人	37人	47人	52.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0.2
	入学者数		57人	58人	64人	37人	46人	52.4
一般選抜	募集人数		34人	34人	34人	34人	21人	31.4
	延べ人数	志願者数	92人	79人	53人	30人	30人	56.8
		受験者数	80人	70人	43人	25人	26人	48.8
		合格者数	46人	26人	25人	25人	26人	29.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	13人	8人	6人	3人	4人	6.8
	実人数	志願者数	92人	79人	53人	30人	30人	56.8
		受験者数	80人	70人	43人	25人	26人	48.8
		合格者数	46人	26人	25人	25人	26人	29.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	13人	8人	6人	3人	4人	6.8
	入学者数		14人	5人	4人	4人	3人	6
共通テスト利用入試	募集人数		11人	11人	11人	11人	9人	10.6
	延べ人数	志願者数	112人	116人	67人	35人	40人	74
		受験者数	112人	116人	67人	35人	40人	74
		合格者数	70人	50人	46人	32人	40人	47.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	1人	2人	2人	0人	2
	実人数	志願者数	112人	116人	67人	35人	40人	74
		受験者数	112人	116人	67人	35人	40人	74
		合格者数	70人	50人	46人	32人	40人	47.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	1人	2人	2人	0人	2
	入学者数		14人	2人	1人	4人	1人	4.4
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	2人	3人	4人	0人	0人	1.8
		受験者数	2人	3人	4人	0人	0人	1.8
		合格者数	2人	3人	4人	0人	0人	1.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	2人	3人	4人	0人	0人	1.8
		受験者数	2人	3人	4人	0人	0人	1.8
		合格者数	2人	3人	4人	0人	0人	1.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		2人	3人	4人	0人	0人	1.8
合計	募集人数		100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	志願者数	295人	293人	225人	121人	142人	215人
		受験者数	283人	284人	215人	116人	138人	207人
		合格者数	206人	173人	176人	112人	138人	161人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	18人	9人	9人	5人	4人	9人
	実人数	志願者数	295人	293人	225人	121人	142人	215人
		受験者数	283人	284人	215人	116人	138人	207人
		合格者数	206人	173人	176人	112人	138人	161人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	18人	9人	9人	5人	4人	9人
	入学者数		118人	104人	107人	63人	71人	93人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入学定員充足率	1.18	1.04	1.07	0.63	0.71	0.93
歩留率	0.57	0.60	0.61	0.56	0.51	0.57

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－４

大学学部学科等名：相模女子大学学芸学部メディア情報学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		15人	15人	15人	15人	20人	16人
	延べ人数	志願者数	37人	23人	23人	23人	23人	26人
		受験者数	37人	23人	23人	23人	23人	26人
		合格者数	37人	23人	23人	22人	23人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
	実人数	志願者数	37人	23人	23人	23人	23人	26人
		受験者数	37人	23人	23人	23人	23人	26人
		合格者数	37人	23人	23人	22人	23人	26人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	0人	1人	1人	1人
	入学者数		36人	22人	21人	18人	19人	23人
学校推薦型選抜	募集人数		37人	37人	37人	37人	47人	39人
	延べ人数	志願者数	50人	67人	73人	74人	77人	68人
		受験者数	50人	67人	73人	74人	77人	68人
		合格者数	50人	67人	72人	74人	77人	68
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	50人	67人	73人	74人	77人	68.2
		受験者数	50人	67人	73人	74人	77人	68.2
		合格者数	50人	67人	72人	74人	77人	68
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		50人	67人	72人	74人	77人	68
一般選抜	募集人数		19人	19人	19人	19人	19	19
	延べ人数	志願者数	141人	111人	59人	59人	26人	79.2
		受験者数	127人	105人	54人	49人	25人	72
		合格者数	41人	32人	34人	45人	25人	35.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	0.6
		辞退者数	5人	7人	9人	10人	7人	7.6
	実人数	志願者数	141人	111人	59人	59人	26人	79.2
		受験者数	127人	105人	54人	49人	25人	72
		合格者数	41人	32人	34人	45人	25人	35.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	0.6
		辞退者数	5人	7人	9人	10人	7人	7.6
	入学者数		20人	12人	13人	8人	5人	11.6
共通テスト利用入試	募集人数		9人	9人	9人	9人	9人	9
	延べ人数	志願者数	152人	138人	75人	35人	15人	83
		受験者数	151人	137人	75人	35人	15人	82.6
		合格者数	87人	41人	37人	13人	13人	38.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	8人	3人	4人	0人	1人	3.2
	実人数	志願者数	152人	138人	75人	35人	15人	83
		受験者数	151人	137人	75人	35人	15人	82.6
		合格者数	87人	41人	37人	13人	13人	38.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	8人	3人	4人	0人	1人	3.2
	入学者数		17人	4人	1人	1人	1人	4.8
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
		受験者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
		合格者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
		受験者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
		合格者数	2人	3人	4人	3人	3人	3
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		2人	3人	4人	3人	3人	3
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	95人	83人
	延べ人数	志願者数	382人	342人	234人	194人	144人	259人
		受験者数	367人	335人	229人	184人	143人	252人
		合格者数	217人	166人	170人	157人	141人	170人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	1人
		辞退者数	14人	11人	13人	11人	9人	12人
	実人数	志願者数	382人	342人	234人	194人	144人	259人
		受験者数	367人	335人	229人	184人	143人	252人
		合格者数	217人	166人	170人	157人	141人	170人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	3人	0人	1人
		辞退者数	14人	11人	13人	11人	9人	12人
	入学者数		125人	108人	111人	104人	105人	111人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	80人	80人	80人	80人	95人	83
入学定員充足率	1.56	1.35	1.39	1.30	1.11	1.34
歩留率	0.58	0.65	0.65	0.66	0.74	0.66

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－５

大学学部学科等名：相模女子大学学芸学部生活デザイン学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		5人	5人	5人	5人	10人	6人
	延べ人数	志願者数	20人	21人	13人	17人	19人	18人
		受験者数	20人	21人	13人	17人	19人	18人
		合格者数	20人	21人	13人	16人	19人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	20人	21人	13人	17人	19人	18人
		受験者数	20人	21人	13人	17人	19人	18人
		合格者数	20人	21人	13人	16人	19人	18人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		20人	21人	13人	16人	18人	18人
学校推薦型選抜	募集人数		23人	23人	23人	23人	22人	23人
	延べ人数	志願者数	26人	45人	34人	34人	34人	35人
		受験者数	26人	45人	34人	33人	34人	34人
		合格者数	26人	41人	34人	33人	34人	33.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	26人	45人	34人	34人	34人	34.6
		受験者数	26人	45人	34人	33人	34人	34.4
		合格者数	26人	41人	34人	33人	34人	33.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		26人	41人	34人	32人	34人	33.4
一般選抜	募集人数		11人	11人	11人	11人	8人	10.4
	延べ人数	志願者数	68人	44人	52人	38人	31人	46.6
		受験者数	62人	38人	44人	36人	23人	40.6
		合格者数	27人	8人	22人	32人	19人	21.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	3人	8人	9人	2人	5
	実人数	志願者数	68人	44人	52人	38人	31人	46.6
		受験者数	62人	38人	44人	36人	23人	40.6
		合格者数	27人	8人	22人	32人	19人	21.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	3人	8人	9人	2人	5
	入学者数		11人	3人	3人	6人	5人	5.6
共通テスト利用入試	募集人数		6人	6人	6人	6人	5人	5.8
	延べ人数	志願者数	83人	55人	58人	31人	23人	50
		受験者数	83人	54人	58人	31人	23人	49.8
		合格者数	48人	12人	26人	15人	16人	23.4
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0.4
		辞退者数	4人	0人	2人	0人	1人	1.4
	実人数	志願者数	83人	55人	58人	31人	23人	50
		受験者数	83人	54人	58人	31人	23人	49.8
		合格者数	48人	12人	26人	15人	16人	23.4
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0.4
		辞退者数	4人	0人	2人	0人	1人	1.4
	入学者数		7人	1人	0人	1人	0人	1.8
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	2人	1人	1人	2人	4人	2
		受験者数	2人	1人	1人	2人	4人	2
		合格者数	1人	1人	1人	2人	4人	1.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	2人	1人	1人	2人	4人	2
		受験者数	2人	1人	1人	2人	4人	2
		合格者数	1人	1人	1人	2人	4人	1.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		1人	1人	1人	2人	4人	1.8
合計	募集人数		45人	45人	45人	45人	45人	45人
	延べ人数	志願者数	199人	166人	158人	122人	111人	151人
		受験者数	193人	159人	150人	119人	103人	145人
		合格者数	122人	83人	96人	98人	92人	98人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	3人	10人	9人	3人	6人
	実人数	志願者数	199人	166人	158人	122人	111人	151人
		受験者数	193人	159人	150人	119人	103人	145人
		合格者数	122人	83人	96人	98人	92人	98人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	3人	10人	9人	3人	6人
	入学者数		65人	67人	51人	57人	61人	60人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	45人	45人	45人	45人	45人	45
入学定員充足率	1.44	1.49	1.13	1.27	1.36	1.34
歩留率	0.53	0.81	0.53	0.58	0.66	0.62

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－６

大学学部学科等名：相模女子大学人間社会学部社会マネジメント学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	志願者数	36人	21人	23人	17人	17人	23人
		受験者数	36人	21人	23人	16人	16人	22人
		合格者数	36人	21人	23人	16人	16人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	36人	21人	23人	17人	17人	23人
		受験者数	36人	21人	23人	16人	16人	22人
		合格者数	36人	21人	23人	16人	16人	22人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	入学者数		36人	21人	20人	14人	15人	21人
学校推薦型選抜	募集人数		60人	60人	60人	60人	55人	59人
	延べ人数	志願者数	47人	62人	43人	38人	37人	45人
		受験者数	47人	62人	43人	38人	37人	45人
		合格者数	47人	62人	43人	38人	37人	45.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実　人　数	志願者数	47人	62人	43人	38人	37人	45.4
		受験者数	47人	62人	43人	38人	37人	45.4
		合格者数	47人	62人	43人	38人	37人	45.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		46人	61人	43人	37人	37人	44.8
一般選抜	募集人数		26人	26人	26人	26人	25人	25.8
	延べ人数	志願者数	201人	143人	88人	81人	29人	108.4
		受験者数	180人	134人	76人	70人	25人	97
		合格者数	66人	63人	66人	70人	25人	58
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	12人	11人	21人	21人	5人	14
	実　人　数	志願者数	201人	143人	88人	81人	29人	108.4
		受験者数	180人	134人	76人	70人	25人	97
		合格者数	66人	63人	66人	70人	25人	58
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	12人	11人	21人	21人	5人	14
	入学者数		24人	15人	9人	13人	4人	13
共通テスト利用入試	募集人数		14人	14人	14人	14人	10人	13.2
	延べ人数	志願者数	243人	202人	109人	93人	23人	134
		受験者数	243人	201人	109人	93人	23人	133.8
		合格者数	139人	136人	101人	85人	23人	96.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	25人	15人	8人	2人	1人	10.2
	実　人　数	志願者数	243人	202人	109人	93人	23人	134
		受験者数	243人	201人	109人	93人	23人	133.8
		合格者数	139人	136人	101人	85人	23人	96.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	25人	15人	8人	2人	1人	10.2
	入学者数		31人	11人	10人	7人	1人	12
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	3人	4人	1人	1人	4人	2.6
		受験者数	3人	4人	1人	1人	4人	2.6
		合格者数	3人	4人	1人	1人	4人	2.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実　人　数	志願者数	3人	4人	1人	1人	4人	2.6
		受験者数	3人	4人	1人	1人	4人	2.6
		合格者数	3人	4人	1人	1人	4人	2.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		3人	4人	1人	1人	4人	2.6
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	110人	118人
	延べ人数	志願者数	530人	432人	264人	230人	110人	313人
		受験者数	509人	422人	252人	218人	105人	301人
		合格者数	291人	286人	234人	210人	105人	225人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	37人	26人	30人	23人	6人	24人
	実　人　数	志願者数	530人	432人	264人	230人	110人	313人
		受験者数	509人	422人	252人	218人	105人	301人
		合格者数	291人	286人	234人	210人	105人	225人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	37人	26人	30人	23人	6人	24人
	入学者数		140人	112人	83人	72人	61人	94人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	120人	120人	120人	120人	110人	118
入学定員充足率	1.17	0.93	0.69	0.60	0.55	0.79
歩　留　率	0.48	0.39	0.35	0.34	0.58	0.43

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－７

大学学部学科等名：相模女子大学人間社会学部人間心理学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		20人	20人	20人	20人	25人	21人
	延べ人数	志願者数	33人	29人	19人	28人	31人	28人
		受験者数	33人	29人	19人	27人	30人	28人
		合格者数	33人	29人	19人	26人	28人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	33人	29人	19人	28人	31人	28人
		受験者数	33人	29人	19人	27人	30人	28人
		合格者数	33人	29人	19人	26人	28人	27人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	1人	0人	0人
	入学者数		32人	28人	17人	21人	26人	25人
学校推薦型選抜	募集人数		55人	55人	55人	55人	60人	56人
	延べ人数	志願者数	63人	77人	84人	77人	51人	70人
		受験者数	63人	77人	84人	77人	51人	70人
		合格者数	59人	70人	84人	77人	51人	68.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	1人	0人	0.4
	実人数	志願者数	63人	77人	84人	77人	51人	70.4
		受験者数	63人	77人	84人	77人	51人	70.4
		合格者数	59人	70人	84人	77人	51人	68.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	1人	0人	1人	0人	0.4
	入学者数		57人	69人	83人	76人	50人	67
一般選抜	募集人数		26人	26人	26人	26人	26人	26
	延べ人数	志願者数	169人	156人	89人	65人	39人	103.6
		受験者数	159人	147人	77人	56人	35人	94.8
		合格者数	37人	55人	53人	53人	35人	46.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
		辞退者数	9人	13人	14人	12人	7人	11
	実人数	志願者数	169人	156人	89人	65人	39人	103.6
		受験者数	159人	147人	77人	56人	35人	94.8
		合格者数	37人	55人	53人	53人	35人	46.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1.2
		辞退者数	9人	13人	14人	12人	7人	11
	入学者数		17人	12人	12人	11人	10人	12.4
共通テスト利用入試	募集人数		9人	9人	9人	9人	9人	9
	延べ人数	志願者数	148人	139人	85人	58人	26人	91.2
		受験者数	148人	138人	85人	58人	26人	91
		合格者数	69人	52人	44人	43人	17人	45
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	5人	3人	1人	1人	4人	2.8
	実人数	志願者数	148人	139人	85人	58人	26人	91.2
		受験者数	148人	138人	85人	58人	26人	91
		合格者数	69人	52人	44人	43人	17人	45
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	0人	0.4
		辞退者数	5人	3人	1人	1人	4人	2.8
	入学者数		16人	11人	2人	3人	1人	6.6
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
		受験者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
		合格者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
		受験者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
		合格者数	5人	4人	4人	4人	3人	4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		5人	4人	4人	4人	3人	4
合計	募集人数		110人	110人	110人	110人	120人	112人
	延べ人数	志願者数	418人	405人	281人	232人	150人	297人
		受験者数	408人	395人	269人	222人	145人	288人
		合格者数	203人	210人	204人	203人	134人	191人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	6人	0人	1人
		辞退者数	14人	17人	16人	15人	11人	15人
	実人数	志願者数	418人	405人	281人	232人	150人	297人
		受験者数	408人	395人	269人	222人	145人	288人
		合格者数	203人	210人	204人	203人	134人	191人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	6人	0人	2人
		辞退者数	14人	17人	16人	15人	11人	15人
	入学者数		127人	124人	118人	115人	90人	115人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	110人	110人	110人	110人	120人	112
入学定員充足率	1.15	1.13	1.07	1.05	0.75	1.03
歩留率	0.63	0.59	0.58	0.57	0.67	0.61

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－８

大学学部学科等名：相模女子大学栄養科学部健康栄養学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		10人	10人	10人	10人	15人	11人
	延べ人数	志願者数	16人	25人	17人	31人	42人	26人
		受験者数	16人	25人	17人	30人	37人	25人
		合格者数	16人	25人	17人	28人	34人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	2人	1人	1人
	実　人　数	志願者数	16人	25人	17人	31人	42人	26人
		受験者数	16人	25人	17人	30人	37人	25人
		合格者数	16人	25人	17人	28人	34人	24人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	2人	1人	1人
	入学者数		16人	24人	17人	25人	30人	22人
学校推薦型選抜	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	46人	57人	48人	37人	46人	47人
		受験者数	46人	57人	48人	37人	46人	47人
		合格者数	41人	52人	48人	37人	46人	44.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実　人　数	志願者数	46人	57人	48人	37人	46人	46.8
		受験者数	46人	57人	48人	37人	46人	46.8
		合格者数	41人	52人	48人	37人	46人	44.8
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		39人	51人	48人	36人	45人	43.8
一般選抜	募集人数		18人	18人	18人	18人	16人	17.6
	延べ人数	志願者数	59人	54人	38人	23人	22人	39.2
		受験者数	47人	44人	27人	18人	16人	30.4
		合格者数	42人	31人	24人	17人	11人	25
		うち追加合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
		辞退者数	10人	8人	3人	2人	0人	4.6
	実　人　数	志願者数	59人	54人	38人	23人	22人	39.2
		受験者数	47人	44人	27人	18人	16人	30.4
		合格者数	42人	31人	24人	17人	11人	25
		うち追加合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0.2
		辞退者数	10人	8人	3人	2人	0人	4.6
	入学者数		13人	10人	8人	7人	4人	8.4
共通テスト利用入試	募集人数		12人	12人	12人	12人	9人	11.4
	延べ人数	志願者数	63人	44人	34人	16人	23人	36
		受験者数	63人	44人	34人	16人	22人	35.8
		合格者数	55人	29人	22人	13人	15人	26.8
		うち追加合格者数	0人	4人	0人	0人	0人	0.8
		辞退者数	4人	0人	0人	0人	1人	1
	実　人　数	志願者数	63人	44人	34人	16人	23人	36
		受験者数	63人	44人	34人	16人	22人	35.8
		合格者数	55人	29人	22人	13人	15人	26.8
		うち追加合格者数	0人	4人	0人	0人	0人	0.8
		辞退者数	4人	0人	0人	0人	1人	1
	入学者数		4人	1人	0人	0人	0人	1
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	7人	4人	2人	2人	1人	3.2
		受験者数	7人	4人	2人	2人	1人	3.2
		合格者数	7人	4人	2人	2人	1人	3.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実　人　数	志願者数	7人	4人	2人	2人	1人	3.2
		受験者数	7人	4人	2人	2人	1人	3.2
		合格者数	7人	4人	2人	2人	1人	3.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		7人	4人	2人	2人	1人	3.2
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	191人	184人	139人	109人	134人	151人
		受験者数	179人	174人	128人	103人	122人	141人
		合格者数	161人	141人	113人	97人	107人	124人
		うち追加合格者数	0人	5人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	14人	9人	3人	4人	2人	6人
	実　人　数	志願者数	191人	184人	139人	109人	134人	151人
		受験者数	179人	174人	128人	103人	122人	141人
		合格者数	161人	141人	113人	97人	107人	124人
		うち追加合格者数	0人	5人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	14人	9人	3人	4人	2人	6人
	入学者数		79人	90人	75人	70人	80人	79人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	80人	80人	80人	80人	80人	80
入学定員充足率	0.99	1.13	0.94	0.88	1.00	0.99
歩　留　率	0.49	0.64	0.66	0.72	0.75	0.65

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－９

大学学部学科等名：相模女子大学栄養科学部管理栄養学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		5人	5人	5人	5人	15人	7人
	延べ人数	志願者数	8人	6人	12人	32人	27人	17人
		受験者数	8人	6人	12人	21人	22人	14人
		合格者数	8人	6人	12人	17人	18人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	8人	6人	12人	32人	27人	17人
		受験者数	8人	6人	12人	21人	22人	14人
		合格者数	8人	6人	12人	17人	18人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		8人	6人	12人	17人	18人	12人
学校推薦型選抜	募集人数		50人	50人	50人	50人	50人	50人
	延べ人数	志願者数	57人	51人	52人	43人	55人	52人
		受験者数	57人	51人	52人	43人	55人	52人
		合格者数	55人	45人	50人	41人	55人	49.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実　人　数	志願者数	57人	51人	52人	43人	55人	51.6
		受験者数	57人	51人	52人	43人	55人	51.6
		合格者数	55人	45人	50人	41人	55人	49.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		54人	42人	48人	39人	54人	47.4
一般選抜	募集人数		27人	27人	27人	27人	24人	26.4
	延べ人数	志願者数	209人	144人	116人	100人	53人	124.4
		受験者数	195人	120人	95人	79人	40人	105.8
		合格者数	82人	100人	85人	76人	38人	76.2
		うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2.4
		辞退者数	14人	12人	17人	13人	11人	13.4
	実　人　数	志願者数	209人	144人	116人	100人	53人	124.4
		受験者数	195人	120人	95人	79人	40人	105.8
		合格者数	82人	100人	85人	76人	38人	76.2
		うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2.4
		辞退者数	14人	12人	17人	13人	11人	13.4
	入学者数		34人	31人	30人	24人	9人	25.6
共通テスト利用入試	募集人数		18人	18人	18人	18人	11人	16.6
	延べ人数	志願者数	180人	124人	118人	112人	47人	116.2
		受験者数	179人	122人	118人	112人	47人	115.6
		合格者数	84人	90人	99人	68人	45人	77.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	1人	5人	0人	1人	2
	実　人　数	志願者数	180人	124人	118人	112人	47人	116.2
		受験者数	179人	122人	118人	112人	47人	115.6
		合格者数	84人	90人	99人	68人	45人	77.2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	3人	1人	5人	0人	1人	2
	入学者数		9人	8人	10人	3人	2人	6.4
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	6人	3人	2人	1人	0人	2.4
		受験者数	6人	3人	2人	1人	0人	2.4
		合格者数	5人	1人	1人	1人	0人	1.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実　人　数	志願者数	6人	3人	2人	1人	0人	2.4
		受験者数	6人	3人	2人	1人	0人	2.4
		合格者数	5人	1人	1人	1人	0人	1.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		5人	1人	1人	1人	0人	1.6
合計	募集人数		100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	志願者数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
		受験者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
		合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
		うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2人
		辞退者数	17人	13人	22人	13人	12人	15人
	実　人　数	志願者数	460人	328人	300人	288人	182人	312人
		受験者数	445人	302人	279人	256人	164人	289人
		合格者数	234人	242人	247人	203人	156人	216人
		うち追加合格者数	0人	6人	0人	6人	0人	2人
		辞退者数	17人	13人	22人	13人	12人	15人
	入学者数		110人	88人	101人	84人	83人	93人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入　学　定　員	100人	100人	100人	100人	100人	100
入学定員充足率	1.10	0.88	1.01	0.84	0.83	0.93
歩　留　率	0.47	0.36	0.41	0.41	0.53	0.44

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙２－１０

大学学部学科等名：相模女子大学短期大学部食物栄養学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
総合型選抜	募集人数		30人	30人	30人	30人	25人	29人
	延べ人数	志願者数	48人	28人	13人	16人	11人	23人
		受験者数	48人	28人	13人	16人	11人	23人
		合格者数	48人	28人	13人	15人	11人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	0人	1人	1人
	実人数	志願者数	48人	28人	13人	16人	11人	23人
		受験者数	48人	28人	13人	16人	11人	23人
		合格者数	48人	28人	13人	15人	11人	23人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	0人	1人	1人
	入学者数		47人	26人	12人	15人	10人	22人
学校推薦型選抜	募集人数		70人	70人	70人	70人	45人	65人
	延べ人数	志願者数	60人	59人	52人	53人	33人	51人
		受験者数	59人	59人	52人	53人	33人	51人
		合格者数	59人	59人	51人	53人	33人	51
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	60人	59人	52人	53人	33人	51.4
		受験者数	59人	59人	52人	53人	33人	51.2
		合格者数	59人	59人	51人	53人	33人	51
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		59人	56人	50人	48人	33人	49.2
一般選抜	募集人数		11人	11人	11人	11人	7人	10.2
	延べ人数	志願者数	29人	7人	4人	2人	3人	9
		受験者数	25人	5人	3人	2人	3人	7.6
		合格者数	20人	5人	2人	2人	3人	6.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	2人	0人	1人	0人	0.6
	実人数	志願者数	29人	7人	4人	2人	3人	9
		受験者数	25人	5人	3人	2人	3人	7.6
		合格者数	20人	5人	2人	2人	3人	6.4
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	2人	0人	1人	0人	0.6
	入学者数		12人	3人	2人	0人	2人	3.8
共通テスト利用入試	募集人数		9人	9人	9人	9人	3人	7.8
	延べ人数	志願者数	21人	11人	7人	5人	0人	8.8
		受験者数	21人	11人	7人	5人	0人	8.8
		合格者数	16人	11人	6人	5人	0人	7.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	1人	0人	1人	0人	0.8
	実人数	志願者数	21人	11人	7人	5人	0人	8.8
		受験者数	21人	11人	7人	5人	0人	8.8
		合格者数	16人	11人	6人	5人	0人	7.6
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	2人	1人	0人	1人	0人	0.8
	入学者数		1人	0人	1人	0人	0人	0.4
その他の特別選抜	募集人数		若干名	若干名	若干名	若干名	若干名	#DIV/0!
	延べ人数	志願者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
		受験者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
		合格者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	実人数	志願者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
		受験者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
		合格者数	1人	5人	0人	2人	2人	2
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0
	入学者数		1人	5人	0人	2人	2人	2
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	80人	112人
	延べ人数	志願者数	159人	110人	76人	78人	49人	94人
		受験者数	154人	108人	75人	78人	49人	93人
		合格者数	144人	108人	72人	77人	49人	90人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	5人	0人	2人	1人	2人
	実人数	志願者数	159人	110人	76人	78人	49人	94人
		受験者数	154人	108人	75人	78人	49人	93人
		合格者数	144人	108人	72人	77人	49人	90人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	5人	0人	2人	1人	2人
	入学者数		120人	90人	65人	65人	47人	77人

３．入学定員充足率

	R２年度入学者	R３年度入学者	R４年度入学者	R５年度入学者	R６年度入学者	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	80人	112
入学定員充足率	1.00	0.75	0.54	0.54	0.59	0.68
歩留率	0.83	0.83	0.90	0.84	0.96	0.87

（備考）特記事項がある場合は記載すること。
本学の一般選抜および共通テスト利用入試は、学内併願において主となる学科を定めないため、学科別の実人数を算出することができない。よって「実人数」の欄に併願分も含めた「延べ人数」と同じ人数を記載している。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部のオープンキャンパス

	R５年度入試	R６年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	2162人	2222人	①取組概要 受験生を対象に学科の紹介や体験授業、在学生とのフリートーク、各学科の学びを楽しく体験するイベント、キャンパスツアー、入試対策を実施。 R5年度入試対象（R4開催）：計10回開催 （3/19.4/30.5/22.6/19.7/10.7/31.8/21.9/18.10/8.11/27） R6年度入試対象（R5開催）：計7回開催（3/19.4/30.5/27.6/25.7/30.8/20.9/18） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 最終的な入学者数はR5が766名、R6が704名であり、入学者の約80%がオープンキャンパスに参加していることが分かる。
うち受験対象者数(b)	1344人	1291人	
うち受験者数(c)	694人	615人	
うち入学者数(d)	608人	564人	
（受験率 c/b）	51.6%	47.6%	
（入学率 d/b）	45.2%	43.7%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部の授業公開

	R５年度入試	R６年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	70人	143人	①取組概要 高校生を対象に通常の大学の授業へ参加してもらい、大学の学びについて理解を深めるイベントとして実施。 R5年度入試対象（R4開催）：開催日（6/6~6/24）の木曜日を除く平日 R6年度入試対象（R5開催）：開催日（5/3.7/17）と（6/12~6/23）の木曜日を除く平日 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 R5およびR6の結果から、本イベント参加者の入学率は非常に高いことが分かる。R6の最終的な入学者数は704名であり、入学者の約7%が参加していることが分かる。
うち受験対象者数(b)	55人	110人	
うち受験者数(c)	38人	88人	
うち入学者数(d)	34人	85人	
（受験率 c/b）	69.1%	80.0%	
（入学率 d/b）	61.8%	77.3%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部の大学案内の配付（郵送）

	R５年度入試	R６年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	10565人	10525人	①取組概要 次年度広報用大学案内が納品後、個人情報取得済みの受験生に対して一斉に新規資料を発送し、受験生に新しい媒体の情報を届けている。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 最終的な入学者数はR5が766名、R6が704名であり、R6では入学者の約47%の入学者との新年度広報における最初の接点となっていたことが分かる。
うち受験対象者数(b)	7966人	6935人	
うち受験者数(c)	125人	398人	
うち入学者数(d)	102人	333人	
（受験率 c/b）	1.6%	5.7%	
（入学率 d/b）	1.3%	4.8%	

④募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部の進学相談会

	R５年度入試	R６年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	464人	719人	①取組概要 神奈川・東京・静岡を中心に進学相談会に参加。地区入試会場を設けている都道府県にも複数回参加。 R5年度入試対象（R4開催）：計87回参加 R6年度入試対象（R5開催）：計105回参加 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 最終的な入学者数はR5が766名、R6が704名であり、入学者の約5%が参加していることが分かる。
うち受験対象者数(b)	214人	240人	
うち受験者数(c)	47人	48人	
うち入学者数(d)	38人	41人	
（受験率 c/b）	22.0%	20.0%	
（入学率 d/b）	17.8%	17.1%	

⑤募集を行った学科等名称及び取組の名称：相模女子大学・相模女子大学短期大学部の高校ガイダンス

	R５年度入試	R６年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数(a)	384人	499人	①取組概要 高校にて系統別分野の説明や大学説明を実施。神奈川と東京を中心に参加。 R5年度入試対象（R4開催）：計144回参加 R6年度入試対象（R5開催）：計213回参加 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 R5およびR6の結果から、本学の説明を聞いた生徒の多くが入学に至っていることが分かる。R6の最終的な入学者数は704名であり、入学者の約8%が参加していることが分かる。
うち受験対象者数(b)	143人	183人	
うち受験者数(c)	61人	59人	
うち入学者数(d)	59人	58人	
（受験率 c/b）	42.7%	32.2%	
（入学率 d/b）	41.3%	31.7%	

【資料2】競合校の入試動向

学校種	私立4年制女子大学	
大学名	大妻女子大学	
学科名	文学部コミュニケーション文化学科	文学部英語英文学科
入学定員	120	120
学問分野	言語コミュニケーション学・地域文化学・言語文化学	英語英文学・英米言語文化
所在地	東京都千代田区	
学力層（旺文社パスナビ偏差値）	40.0	35.0
学力層（ベネッセ偏差値）	52.0	55.0
就職支援	就職支援センターによる就職指導プログラム（全学生向け）	就職支援センターによる就職指導プログラム（全学生向け）
取得できる資格（国家資格・免許）	司書・学芸員・レクリエーション・インストラクター	教員免許（英語）、司書教諭、学芸員、レクリエーション・インストラクター
その他		
総合型選抜	・総合型選抜（自己推薦型）Ⅰ期： 募集人数 コミュニケーション文化学科 25 英語英文学科18 出願期間：一次選考　9/2~9/9 面接日：9/28（土）, 9/29（日）,10/5（土）,10/6（日） のうち、いずれか1日 結果発表：10/13（日） 出願期間：二次選考　10/14（月・祝）～10/25 合格通知：11/1（金） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅱ期： 募集人数　英語英文学科5 コミュニケーション文化学科5 出願期間：12/1（日）～12/6（金） 面接日：12/15（日） 合格発表　12/20（金） 入学手続き期間：12/21（土）～12/26（木） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅲ期 募集人数　英語英文学科のみ若干名 出願期間：2/3（月）～2/12（水） 面接日：2/23 合格発表　2/25（火） 入学手続き期間：2/26（水）～3/3（月）	

学校推薦型選抜 （公募制）	条件： 文学部: コミュニケーション文化学科　全体の学習成績の状況が3.4以上の者 英語英文学科: 全体の学習成績の状況が3.2以上の者 ただし、次にあげる資格・検定試験のうち、いずれかの基準を満たした者は、全体の学習成績の状況が3.2以上を満たしていなくても出願を認める。 実用英語技能検定試験（英検）2級以上（S-CBT含む）／TEAP225点以上／TOEFL iBT®42点以上／TOEIC®1150点以上*1／TOEIC®S&W240点以上（IPも可）／TOEIC®L&R550点以上（IPも可）／IELTS4.0以上／GTEC CBTタイプ 930（960）点以上 募集人数　コミュニケーション文化学科 10 英語英文学科 10 出願期間：11/1（金）～11/6（水） 面接日：11/17 結果発表：12/1 入学手続き期間：12/2（月）～12/6（金）
一般選抜A方式 （個別テスト利用）	Ⅰ期 募集人数 英語英文学科35 コミュニケーション文化学科20 出願期間：1/6（月）～1/20（月） 試験日：2/1 （土）又は2/2（日） 合格発表：2/6 入学手続き締切日：2/13（木） Ⅱ期 募集人数 英語英文学科　5 コミュニケーション文化学科 5 出願期間：2/6（木）～2/19（水） 試験日：3/2 合格発表：3/6 入学手続き締切日：3/13

一般選抜B方式（大学入学共通テスト利用）	Ⅰ期 募集人数 英語英文学科 2科目型　9,3科目型　5 コミュニケーション文化学科2科目型 6,3科目型　6 出願期間：1/6（月）～1/22（水） 試験日：(大学入学共通テスト) 1/18（土）・1/19（日） 合格発表：2/8 入学手続き締切日：2/15 Ⅱ期 募集人数 英語英文学科3 コミュニケーション文化学科3 出願期間：2/6（木）～2/20 試験日：(大学入学共通テスト) 1/18（土）・1/19（日） 合格発表：3/6 入学手続き締切日：3/13
奨学金制度（大学独自）	•大妻女子大学育英奨学金：学費の支弁が困難な学生を支援するために創立された奨学金で、原則として採用された年度（12カ月間）に月額2万円が給付されます。返還義務はありません。 選考基準は成績と困窮度です。 •学校法人大妻学院石間奨学金：経済的に困窮する大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部の最終学年の学生を援助する奨学金で、年額40万円が給付されます。返還義務はありません。 選考基準は成績と困窮度です。 •一般財団法人大妻コタカ記念会育英奨学金：学費の支弁が困難になった学生の学業奨励のために設けられた奨学金で、原則として採用された年度（12カ月間）に月額2万円が給付されます。返還義務はありません。選考基準は成績と困窮度です。

【資料2】競合校の入試動向

学校種	私立4年制女子大学	
大学名	共立女子大学	
学科名	国際学部（コミュニケーションスタディーズコース含む3コース）	文芸学部（英語・英語圏文学含む７専修）
入学定員	250	350
学問分野	比較文化学・地域文化学	英語英文学・英米言語文化（英語・英語圏文学専修の場合）
所在地	東京都千代田区	
学力層（旺文社パスナビ偏差値）	40.0	42.5
学力層（ベネッセ偏差値）	50.0	49.0
就職支援	学生支援課キャリア支援グループによる就職指導プログラム（全学生向け）	学生支援課キャリア支援グループによる就職指導プログラム（全学生向け）
取得できる資格（国家資格・免許）	教員免許（社会・地歴・公民）又は教員免許（英語）、司書教諭、学芸員	教員免許（英語）、司書教諭、学芸員
その他		7つの専修（日本語・日本文学、英語・英語圏文学、フランス語・フランス文学、劇芸術、美術史、文化、文芸メディア）。 2年次から4つの領域に分かれ、3年次からは7つの専修に分かれる

総合型選抜	・総合型選抜（自己推薦型）Ⅰ期： 募集人数 コミュニケーション文化学科 25 英語英文学科18 出願期間：一次選考　9/2~9/9 面接日：9/28（土）, 9/29（日）,10/5（土）,10/6（日） のうち、いずれか1日 結果発表：10/13（日） 出願期間：二次選考　10/14（月・祝）～10/25 合格通知：11/1（金） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅱ期： 募集人数　英語英文学科5 コミュニケーション文化学科5 出願期間：12/1（日）～12/6（金） 面接日：12/15（日） 合格発表　12/20（金） 入学手続き期間：12/21（土）～12/26（木） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅲ期 募集人数　英語英文学科のみ若干名 出願期間：2/3（月）～2/12（水） 面接日：2/23 合格発表　2/25（火） 入学手続き期間：2/26（水）～3/3（月）

学校推薦型選抜（公募制）	公募制推薦入試 •募集人員: 20名 •出願資格: ◦2025年3月に高等学校または中等教育学校の後期課程を卒業見込みの者。 ◦出身高等学校長の推薦がある者。 ◦高等学校の3学年1学期までの学習成績の状況が出願条件を満たしている者。 ◦本学の学問に深い興味を持ち、入学後も積極的に学問に取り組むことができる者。 •試験内容: 調査書、小論文、面接 •加点: 外部英語検定試験（CEFR A2レベル以上）、中国語検定4級以上またはHSK2級以上、実用フランス語技能検定試験4級以上、ニュース時事能力検定3級以上のいずれかに該当する資格・検定を有する者にそれぞれ20点加点。 •試験日程: 11月16日（土）または11月17日（日）に小論文と面接を実施。 •合格発表日: 12月2日（月） •入学手続締切日: 12月9日（月）	公募制推薦入試 •募集人員: 20名 •出願資格: ◦2025年3月に高等学校または中等教育学校の後期課程を卒業見込みの者。 ◦出身高等学校長の推薦がある者。 ◦高等学校の3学年1学期までの学習成績の状況が出願条件を満たしている者。 ◦本学の学問に深い興味を持ち、入学後も積極的に学問に取り組むことができる者。 ◦学習成績の状況: 3.2以上。 •試験内容: 調査書、小論文、面接 ◦小論文: 事前準備として課題図書を読むこと。 ▪課題図書：栗木京子『現代女性秀歌』 •試験日程: 11月16日（土）または11月17日（日）に小論文と面接を実施。 •合格発表日: 12月2日（月） •入学手続締切日: 12月9日（月）

学校推薦型選抜（公募制）	卒業生子女推薦入試 •募集人員: 若干名 •出願資格: ◦2025年3月に高等学校または中等教育学校の後期課程を卒業見込みの者。 ◦出身高等学校長の推薦がある者。 ◦高等学校の3学年1学期までの学習成績の状況が出願条件を満たしている者。 ◦本学の学問に深い興味を持ち、入学後も積極的に学問に取り組むことができる者。 ◦卒業生（別科修了生は除く）の子女、姉妹（在学生の場合は最終学年に限る）、孫であること。 学習成績の状況: 3.4以上。 •試験内容: 調査書、小論文、面接 •試験日程: 11月16日（土）または11月17日（日）に小論文と面接を実施。 •合格発表日: 12月2日（月） •入学手続締切日: 12月9日（月）	卒業生子女推薦入試 •募集人員: 若干名 •出願資格: ◦2025年3月に高等学校または中等教育学校の後期課程を卒業見込みの者。 ◦出身高等学校長の推薦がある者。 ◦高等学校の3学年1学期までの学習成績の状況が出願条件を満たしている者。 ◦本学の学問に深い興味を持ち、入学後も積極的に学問に取り組むことができる者。 ◦卒業生（別科修了生は除く）の子女、姉妹（在学生の場合は最終学年に限る）、孫であること。 ◦学習成績の状況: 3.4以上。 •試験内容: 調査書、小論文、面接 •試験日程: 11月16日（土）または11月17日（日）に小論文と面接を実施。 •合格発表日: 12月2日（月） •入学手続締切日: 12月9日（月）

一般選抜A方式（個別テスト利用）	一般選抜 •募集人員: ◦2月日程: 81名 ◦3月日程: 21名 ◦全学統一方式: 30名 •試験日程: ◦全学統一方式: 試験日1月22日(月)、合格発表日1月29日(月)、入学手続締切日2月5日(月) ◦2月日程: 試験日2月4日(日), 2月5日(月)、合格発表日2月11日(日), 入学手続締切日2月20日(火) ◦3月日程: 試験日3月1日(金)、合格発表日3月8日(金)、入学手続締切日3月15日(金) •試験内容: ◦全学統一方式: 3科目（各100点）＋調査書（10点） ◦2月日程: 3科目（各100点）＋調査書（10点） ◦3月日程: 2科目（各100点）＋調査書（10点） ◦2月日程、3月日程: 一部教科はマークシート・記述併用 •試験科目: 国語、英語、選択科目（数学、化学、生物、世界史、日本史、地理から1科目選択） •合格発表: ◦全学統一方式：1月29日(月) ◦2月日程：2月11日(日) ◦3月日程：3月8日(金) •入学手続締切日: ◦全学統一方式：2月5日(月) ◦2月日程：2月20日(火) ◦3月日程：3月15日(金)	一般選抜 •募集人員: ◦2月日程: 60名 ◦3月日程: 5名 ◦全学統一方式: 25名 •試験日程: ◦全学統一方式: 試験日1月22日(月)、合格発表日1月29日(月)、入学手続締切日2月5日(月) ◦2月日程: 試験日2月4日(日), 2月5日(月)、合格発表日2月11日(日), 入学手続締切日2月20日(火) ◦3月日程: 試験日3月1日(金)、合格発表日3月8日(金)、入学手続締切日3月15日(金) •試験内容: ◦全学統一方式: 3科目（各100点）＋調査書（10点） ◦2月日程: 3科目（各100点）＋調査書（10点） ◦3月日程: 2科目（各100点）＋調査書（10点） ◦2月日程: 一部教科はマークシート・記述併用 •試験科目: 国語、英語、選択科目（数学、化学、生物、世界史、日本史、地理から1科目選択） 国語の選択問題は、必ず「古文」を選択 •合格発表: ◦全学統一方式：1月29日(月) ◦2月日程：2月11日(日) ◦3月日程：3月8日(金) •入学手続締切日: ◦全学統一方式：2月5日(月) ◦2月日程：2月20日(火) ◦3月日程：3月15日(金)

一般選抜B方式（大学入学共通テスト利用）	大学入学共通テスト利用選抜 •募集人員: 2月日程 5名、3月日程 5名 •試験内容: 大学入学共通テストの成績を利用して合否判定 ◦利用科目: 国語、英語、地理歴史、公民、数学から高得点1科目 ◦外国語: 『英語』のリーディングとリスニングの合計得点を1.5倍し300点満点に換算、『フランス語』『中国語』は200点満点を1.5倍し、300点満点に換算 •合格発表: ◦2月日程：2月11日(日) ◦3月日程：3月13日(水) •入学手続締切日: ◦2月日程：2月20日(火) ◦3月日程：3月19日(火) 共通テスト併用選抜 •募集人員: 10名 •試験内容: 大学入学共通テストの成績と本学の個別試験を併用して合否判定 ◦個別試験: 2科目（各100点）+調査書（10点）+大学入学共通テスト1科目（100点） ◦大学入学共通テスト利用科目: 『国語』『英語』に加えて、地理歴史、公民、数学から1科目選択 ◦国語の選択問題は出願時に「現代文」または「古文」を選択 •合格発表日: 2月11日(日) •入学手続締切日: 2月20日(火) •その他：一般選抜（2月5日）との併願が可能	大学入学共通テスト利用選抜 •募集人員: 2月日程 4名、3月日程 1名 •試験内容: 大学入学共通テストの成績を利用して合否判定 ◦利用科目: 国語、外国語（英語、フランス語から1科目選択）、地理歴史、公民、数学、理科から高得点1科目 ◦国語: 近代以降の文章（100点満点）、古文（50点満点）の合計得点を200点満点に換算 •合格発表: ◦2月日程：2月11日(日) ◦3月日程：3月13日(水) •入学手続締切日: ◦2月日程：2月20日(火) ◦3月日程：3月19日(火)

奨学金制度（大学独自）	・資格取得・進路支援等給付奨学金：在学生を対象とした、資格取得、進路支援を目的とした給付奨学金です。TOEICのスコアに応じて1万円～5万円、その他の検定料相当額（大学：上限額1万円、短大：上限額なし）が給付されます。 大学では、TOEICのスコアの他、日商簿記検定、ファッションビジネス能力検定、色彩検定、秘書技能検定、ビジネス実務法務検定、心理学検定、ニュース時事能力検定、福祉住環境コーディネーター検定、eco検定、世界遺産検定、MOS、インテリアコーディネーター、FP国家検定、専門フードスペシャリスト、登録販売者試験、日本漢字能力検定などの資格取得が対象です。また、中国語検定、HSK、実用フランス語技能検定、DALF、DELF、幼児教育・保育英語検定、ハングル能力検定などの語学検定も対象です。 •共立女子大学・共立女子短期大学実務体験奨学金：大学事務局での実務体験を伴う奨学金で、月3万円が1年間（10月～翌年9月）給付されます。全学生（大学院および卒業期学生除く）のうち、勉学意欲があるにもかかわらず、修学が困難な学生が対象です。 20名が募集されます。 •クワハラタカシ給付奨学金：文芸学部文芸学科英語・英語圏文学専修3年次以上、文科グローバル・コミュニケーションコース2年次以上に在籍する学業成績優秀な学生を対象とした給付奨学金で、10万円が給付されます。GPAが3.2以上である必要があり、在学中1回限りの給付です。大学・短大各1名が募集されます。

奨学金制度（大学独自）	•共立女子大学・共立女子短期大学　独立行政法人日本学生支援機構貸与奨学金利用者限定給付奨学金：日本学生支援機構の貸与奨学金を利用している学生を対象とした給付奨学金で、10万円が給付されます。募集時期は9月～10月で、50名が募集されます。 •栗山ヒロ給付奨学金：国際学部2年次以上に在籍する学業成績優秀な学生を対象とした給付奨学金で、10万円が給付されます。GPAが3.2以上である必要があり、在学中1回限りの給付です。募集時期は10月で、1名が募集されます。 •共立女子大学・共立女子短期大学正課外活動奨励奨学金：正課外活動において顕著な成果をあげた学生または団体を対象とした奨励奨学金で、5万円が給付されます。 * 在学中1回限りの給付です。 * 募集時期は12月～翌年1月です。 •共立女子大学・共立女子短期大学養護施設等出身者給付奨学金：児童養護施設等出身者特別選抜制度により入学を認められた学生を対象とした奨学金で、1年次は施設設備維持費全額、2年次以降は施設設備維持費半額が減免されます。2名が募集されます。 • 国際交流奨学金制度：留学する際の授業料免除の他、本学の学生を対象とした国際交流に関する独自の奨学金制度があります。選考の上、留学や海外研修で奨学金を希望する学生に返還の必要がない奨学金が給付されます。

【資料2】競合校の入試動向

学校種	私立4年制女子大学	
大学名	実践女子大学	
学科名	国際学部国際学科	文学部英文学科
入学定員	120	110
学問分野	地域文化学・言語文化学・観光学	英語英文学・英米言語文化
所在地	東京都日野市	
学力層（旺文社パスナビ偏差値）	45.0	45.0
学力層（ベネッセ偏差値）	54.0	50.0
就職支援	就職指導プログラム（全学生向け）・学科別就職ガイダンス	就職指導プログラム（全学生向け）・学科別就職ガイダンス
取得できる資格（国家資格・免許）	なし	教員免許（英語）、司書教諭、学芸員
その他		

総合型選抜	・総合型選抜（自己推薦型）Ⅰ期： 募集人数 コミュニケーション文化学科 25 英語英文学科18 出願期間：一次選考　9/2~9/9 面接日：9/28（土）, 9/29（日）,10/5（土）,10/6（日） のうち、いずれか1日 結果発表：10/13（日） 出願期間：二次選考　10/14（月・祝）～10/25 合格通知：11/1（金） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅱ期： 募集人数　英語英文学科5 コミュニケーション文化学科5 出願期間：12/1（日）～12/6（金） 面接日：12/15（日） 合格発表　12/20（金） 入学手続き期間：12/21（土）～12/26（木） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅲ期 募集人数　英語英文学科のみ若干名 出願期間：2/3（月）～2/12（水） 面接日：2/23 合格発表　2/25（火） 入学手続き期間：2/26（水）～3/3（月）

総合型選抜	総合型選抜Ⅲ期 •募集人員: 2名 •選考方式: 総合評価方式、探究学習・プレゼンテーション方式【探究学習活用型】 •出願期間: 2025年2月7日（金）～3月4日（火）必着 * 出願期間最終日のみ窓口受付可（12：00締切） •試験日: 2025年3月6日（木） •選考内容: ◦ 総合評価方式: ▪ 1次選考: エントリーシート ▪ 2次選考: 面接（口頭試問を含む） ◦ 探究学習・プレゼンテーション方式【探究学習活用型】: ▪ 1次選考: エントリーシート、調査書、事前課題 ▪ 2次選考: 面接（口頭試問を含む） •合格発表日: 2025年3月8日（土） •手続締切日: 2025年3月14日（金）	総合型選抜Ⅲ期 •募集人員: 2名 •選考方式: 総合評価方式、探究学習・プレゼンテーション方式【探究学習活用型】 •出願期間: 2025年2月7日（金）～3月4日（火）必着 •試験日: 2025年3月6日（木） •選考内容: 総合評価方式: ▪ 1次選考: エントリーシート、調査書 ▪ 2次選考: 小論文、面接（口頭試問を含む） •探究学習・プレゼンテーション方式【探究学習活用型】: ◦ 1次選考: エントリーシート、調査書、探究学習の成果物 ◦ 2次選考: 面接（口頭試問を含む） •合格発表日: 2025年3月8日（土） •手続締切日: 2025年3月14日（金）

学校推薦型選抜（公募制）	学校推薦型選抜（公募） •募集人員: 9名 •出願期間: 11月1日(金)～11月18日(月) •試験日: 11月24日(日) •試験内容: 小論文、面接 •合格発表日: 12月2日(月) •手続締切日: 12月6日(金) 出願資格: ◦ 全体の学習成績の状況が3.3以上、またはCEFR B1相当以上の外部英語試験のスコア取得者 学校推薦型選抜（公募併願） •募集人員: 2名 •出願期間: 11月1日(金)～11月18日(月) •試験日: 11月24日(日) •試験内容: 小論文、面接 •合格発表日: 12月2日(月) •手続締切日: 12月6日(金) (一次納入)、2025年3月11日(火) (二次納入)2... ◦ 入学金：12月6日(金) ◦ 入学金以外の費用：3月11日(火) •出願資格: ◦ 全体の学習成績の状況が3.5以上、またはCEFR B1相当以上の外部英語試験のスコア取得者	学校推薦型選抜（公募） •募集人員: 4名 •出願期間: 11月1日(金)～11月18日(月) •試験日: 11月24日(日) •試験内容: 小論文、面接 •合格発表日: 12月2日(月) •手続締切日: 12月6日(金) •出願資格: ◦ 全体の学習成績の状況が3.3以上3 学校推薦型選抜（卒業生・在学生推薦） •募集人員: 1名1 •出願期間: 11月1日(金)～11月18日(月) •試験日: 11月24日(日) •試験内容: 小論文、面接 •合格発表日: 12月2日(月) •手続締切日: 12月6日(金) •出願資格: ◦ 全体の学習成績の状況が3.3以上 ◦ 本学園の卒業生・在学生の子・孫、または姉妹である者
学校推薦型選抜（公募制）	学校推薦型選抜（卒業生・在学生推薦） •募集人員: 1名 •出願期間: 11月1日(金)～11月18日(月) •試験日: 11月24日(日) •試験内容: 小論文、面接 •合格発表日: 12月2日(月) •手続締切日: 12月6日(金) •出願資格: ◦ 全体の学習成績の状況が3.3以上、またはCEFR A2相当以上の外部英語試験のスコア取得者 ▪ 本学園の卒業生・在学生の子・孫、または姉妹である者	

一般選抜A方式（個別テスト利用）	一般選抜 •募集人員: ◦ Ⅰ期：15名 ◦ Ⅱ期：15名 ◦ Ⅲ期：8名 •実施日: ◦ Ⅰ期：2025年1月24日(金) ◦ Ⅱ期：2025年2月2日(日) ◦ Ⅲ期：2025年2月26日(水) •試験内容: ◦ Ⅰ期: 2科目または3科目選択型。英語は必須 ▪ 2科目型：選択科目2科目（120分） ▪ 3科目型：選択科目2科目（120分）、英語（60分） ▪ 3科目型（外部試験利用方式）：選択科目2科目（120分）、英語（任意受験） ◦ Ⅱ期: 2科目または3科目選択型。英語は必須 ▪ 2科目型：選択科目2科目（120分） ▪ 3科目型：選択科目2科目（120分）、英語（60分） ▪ 3科目型（外部試験利用方式）：選択科目2科目（120分）、英語（任意受験）	一般選抜 •募集人員: ◦ Ⅰ期：14名 ◦ Ⅱ期：14名 ◦ Ⅲ期：5名 •実施日: ◦ Ⅰ期：2025年1月24日(金) ◦ Ⅱ期：2025年2月2日(日) ◦ Ⅲ期：2025年2月26日(水) •試験内容: ◦ Ⅰ期: 2科目または3科目選択型。英語は必須 * 2科目型：選択科目2科目（120分） * 3科目型：選択科目2科目（120分）、英語（60分） * 3科目型（外部試験利用方式）：選択科目2科目（120分）、英語（任意受験） ◦ Ⅱ期: 2科目または3科目選択型。英語は必須 ▪ 2科目型：選択科目2科目（120分） ▪ 3科目型：選択科目2科目（120分）、英語（60分） ▪ 3科目型（外部試験利用方式）：選択科目2科目（120分）、英語（任意受験）

一般選抜A方式（個別テスト利用）	◦ III期: 2科目選択型。英語は必須 * 2科目型：選択科目2科目（120分） * 2科目型（高校時代活動評価方式）：選択科目2科目（120分）、高校時代の活動評価を加算 ◦ 選択科目: 国語（現代文のみ、または現代文と古文）、英語、地理歴史、理科、数学から選択 ◦ 全科目マークシート方式 •合格発表日: ◦ I 期：2025年1月26日(日) ◦ II 期：2025年2月7日(金) ◦ III期：2025年3月4日(火) •手続締切日: ◦ I 期：2025年2月14日(金) ◦ II 期：2025年2月14日(金) (一次納入)、2025年3月3日(月) (二次納入) ◦ II 期3科目型（外部試験利用方式）：2025年3月3日(月) (一次納入), 2025年3月17日(月) (二次納入) ◦ III期：2025年3月11日(火)	◦ III期: 2科目選択型。英語は必須 ▪ 2科目型：選択科目2科目（120分） ▪ 2科目型（高校時代活動評価方式）：選択科目2科目（120分）、高校時代の活動評価を加算 ◦ 選択科目: 国語（現代文のみ、または現代文と古文）、英語、地理歴史、理科、数学から選択 ◦ 全科目マークシート方式 合格発表日: ◦ I 期：2025年1月26日(日) ◦ II 期：2025年2月7日(金) ◦ III期：2025年3月4日(火) •手続締切日: ◦ I 期：2025年2月14日(金) ◦ II 期：2025年2月14日(金) (一次納入)、2025年3月3日(月) (二次納入) ◦ II 期3科目型（外部試験利用方式）：2025年3月3日(月) (一次納入), 2025年3月17日(月) (二次納入) ◦ III期：2025年3月11日(火)

一般選抜B方式（大学入学共通テスト利用）	大学入学共通テスト利用選抜 •募集人員: ◦ Ⅰ期：10名 ◦ Ⅱ期：15名 ◦ Ⅲ期：3名 ◦ Ⅳ期：2名 •試験内容: 大学入学共通テストの成績を利用 ◦ Ⅰ期: 2科目または3科目選択型。外国語（英語）は必須 ▪ 2科目型：必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ▪ 2科目型（外部試験利用方式）：必須科目以外は高得点の科目を自動で採用。外国語は外部試験スコア換算も可能 ▪ 3科目型：必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ▪ 3科目型（外部試験利用方式）：必須科目以外は高得点の科目を自動で採用。外国語は外部試験スコア換算も可能	大学入学共通テスト利用選抜 •募集人員: ◦ Ⅰ期：15名 ◦ Ⅱ期：14名 ◦ Ⅲ期：2名 ◦ Ⅳ期：1名 •試験内容: 大学入学共通テストの成績を利用 ◦ Ⅰ期: 2科目または3科目選択型。外国語（英語）は必須 ▪ 2科目型：必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ▪ 2科目型（外部試験利用方式）：必須科目以外は高得点の科目を自動で採用。外国語は外部試験スコア換算も可能 ▪ 3科目型：必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ▪ 3科目型（外部試験利用方式）：必須科目以外は高得点の科目を自動で採用。外国語は外部試験スコア換算も可能

一般選抜B方式（大学入学共通テスト利用）	◦ II期: 2科目選択型。外国語（英語）は必須。傾斜配点方式だが、国際学科は傾斜配点を行わない ■必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ◦ III期: 2科目選択型。外国語（英語）は必須 ■必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ◦ IV期: 2科目選択型。外国語（英語）は必須 ■必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ◦必須科目: 国語（近代以降の文章のみ）、外国語（英語） ◦選択科目: 地理歴史・公民、理科、数学、情報から選択 ◦大学入学共通テスト教科・科目について： ■国語：「国語[近代以降の文章、古典（古文・漢文）]」 ■外国語：「英語」、国際学科は「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「韓国語」からも選択可 ■地理歴史・公民：「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」から1科目 ■理科：「物理」「化学」「生物」「地学」「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」から1科目 ■数学：「数学Ⅰ」「数学Ⅰ、数学Ａ」「数学Ⅱ、数学Ｂ、数学Ｃ」から1科目 ■情報：「情報Ⅰ」	◦ II期: 2科目選択型。外国語（英語）は必須。英文学科は傾斜配点を行わない ■必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ◦ III期: 2科目選択型。外国語（英語）は必須 ■必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ◦ IV期: 2科目選択型。外国語（英語）は必須 ■必須科目以外は高得点の科目を自動で採用 ◦必須科目: 国語（近代以降の文章のみ）、外国語（英語） ◦選択科目: 地理歴史・公民、理科、数学、情報から選択 ◦大学入学共通テスト教科・科目について：＊国語：「国語[近代以降の文章、古典（古文・漢文）]」＊外国語：「英語」＊地理歴史・公民：「地理総合、地理探究」「歴史総合、日本史探究」「歴史総合、世界史探究」「公共、倫理」「公共、政治・経済」「地理総合／歴史総合／公共」から1科目＊理科：「物理」「化学」「生物」「地学」「物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎」から1科目 ■数学：「数学Ⅰ」「数学Ⅰ、数学Ａ」「数学Ⅱ、数学Ｂ、数学Ｃ」から1科目 ■情報：「情報Ⅰ」

一般選抜B方式（大学入学共通テスト利用）	•合格発表日: ◦ Ⅰ期：2025年2月7日(金) ◦ Ⅱ期：2025年2月22日(土) ◦ Ⅲ期：2025年3月8日(土) ◦ Ⅳ期：2025年3月14日(金) •手続締切日: ◦ Ⅰ期：2025年2月14日(金)（一次納入)、2025年3月3日(月)（二次納入） ◦ Ⅱ期：2025年3月3日(月)（一次納入), 2025年3月7日(金)（二次納入） ◦ Ⅲ期：2025年3月14日(金) ◦ Ⅳ期：2025年3月21日(金)	•合格発表日: ◦ Ⅰ期：2025年2月7日(金) ◦ Ⅱ期：2025年2月22日(土) ◦ Ⅲ期：2025年3月8日(土) ◦ Ⅳ期：2025年3月14日(金) •手続締切日: ◦ Ⅰ期：2025年2月14日(金)（一次納入)、2025年3月3日(月)（二次納入） ◦ Ⅱ期：2025年3月3日(月)（一次納入), 2025年3月7日(金)（二次納入） ◦ Ⅲ期：2025年3月14日(金) ◦ Ⅳ期：2025年3月21日(金)
奨学金制度（大学独自）	•経済支援を目的とした奨学金 ◦教職員奨学金: 経済的に困窮しており、学費の納入が困難な学生に対して、半期分の学費相当額が給付されます。応募型で、1年生は後期以降、年2回募集があります。原則として在学期間中の給付は1回ですが、困窮理由が明確に異なる場合は2回目の給付もありえます。 ファーストイヤースカラシップ: 大学1年生を対象とした奨学金で、20万円が最大25名に給付されます。卒業生の佐久間繁子氏からの寄付を原資としています。日本学生支援機構第一種奨学金（貸与型）受給者で、1年次前期の成績優秀者、かつ本学で修学を継続する意思が強い学生が対象です。 ◦応急特別奨学金（無利子）: 大学・短期大学部の卒業年次生で、就職が内定しているものの、家計の急変や天災などにより学費の納入が困難になった学生に対して、後期学納金相当額が貸与されます。日本学生支援機構奨学金や学内奨学金との併用も可能です（大学院生は除く）。	

奨学金制度（大学独自）	•成績優秀者に対する学業奨励金 ◦学祖下田歌子奨学金: 各学科・専攻の推薦により、在学中の学業成績と人物が優秀な学生に対し、在学年度は記念品、卒業年度には30万円の奨励金が給付されます。 •課外活動・留学に対する奨励・支援金 ◦羽山昇・昭子奨学金: 教育・研究及び課外活動で顕著な成績を上げた学生、国際交流事業に参加する学生、検定試験合格・資格取得した学生（英検2級以上、TOEIC550点以上、MOS試験満点など）を対象に、5千円～20万円が給付されます。応募型で、前後期に各1回募集があります。 ◦JISSEN Student's Reflection Award: 大学2年生・短期大学部2年生を対象に、学生生活で頑張った経験やチャレンジしたことなどを振り返り、レポート提出とプレゼンテーションを行った上で、優れた言語化能力を発揮した学生に対し5～10万円が給付されます。 ◦実践チャレンジ奨励金: 福祉・文化・芸術などの分野で多様な知的好奇心に基づく探求心旺盛な活動を行う学生個人やサークル・グループを対象とし、活動費用の一部（上限20万円）を助成します。 •恵那市からの進学を歓迎する奨学金 ◦創立120周年記念奨学金（実践女子学園下田歌子奨学金）: 岐阜県恵那市に保護者が在住し、実践女子大学に入学した学生に対し、在学年度中、毎年度20万円が支給されます。累計8名までが対象です。

【資料2】競合校の入試動向

学校種	私立4年制共学大学	
大学名	関東学院大学	
学科名	国際文化学部比較文化学科	国際文化学部英語文化学科
入学定員	138	138
学問分野	比較文化学・国際文化学	英語英文学・英米言語文化
所在地	横浜市金沢区	横浜市金沢区
学力層（旺文社パスナビ偏差値）	35.0	35.0
学力層（ベネッセ偏差値）	48.0	47.0
就職支援	就職支援センターによる就職指導プログラム（全学生向け）	就職支援センターによる就職指導プログラム（全学生向け）
取得できる資格（国家資格・免許）	教員免許（社会・地歴・公民）、司書教諭、学芸員	教員免許（英語）、司書教諭、学芸員
その他		

総合型選抜	・総合型選抜（自己推薦型）Ⅰ期： 募集人数　コミュニケーション文化学科 25 英語英文学科18 出願期間：一次選考　9/2~9/9 面接日：9/28（土）, 9/29（日）,10/5（土）,10/6（日） のうち、いずれか1日 結果発表：10/13（日） 出願期間：二次選考　10/14（月・祝）～10/25 合格通知：11/1（金） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅱ期： 募集人数　英語英文学科5 コミュニケーション文化学科5 出願期間：12/1（日）～12/6（金） 面接日：12/15（日） 合格発表　12/20（金） 入学手続き期間：12/21（土）～12/26（木） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅲ期 募集人数　英語英文学科のみ若干名 出願期間：2/3（月）～2/12（水） 面接日：2/23 合格発表　2/25（火） 入学手続き期間：2/26（水）～3/3（月）

総合型選抜	11月募集 •出願期間: 2024年11月4日～11月12日（消印有効） •試験日: 2024年12月8日 •試験内容: ◦基礎学力評価型（併願方式）: 書類審査、基礎力テスト（英語50点、国語50点）、面接 ◦課題型［小論文］（専願方式）: 書類審査、小論文、面接 ◦課題型［プレゼンテーション］（専願方式）: 書類審査、プレゼンテーション・口頭試問、面接 ◦資格型（専願方式）: 書類審査、資格取得証明書、面接 ◦探究評価型（専願方式）: 書類審査、プレゼンテーション・口頭試問、面接 •合格発表日: 2024年12月19日 •入学金納入期間: 2024年12月19日～2025年1月14日	11月募集 •出願期間: 2024年11月4日～11月12日（消印有効） •試験日: 2024年12月8日 •試験内容: ◦基礎学力評価型（併願方式）: 書類審査（調査書、大学入学希望理由書、学修計画書）、基礎力テスト（英語50点・国語50点）、面接 ◦課題型［小論文］（専願方式）: 書類審査（調査書、大学入学希望理由書、学修計画書）、小論文、面接 ◦資格型（専願方式）: 書類審査（調査書、大学入学希望理由書、学修計画書）、資格取得証明書、面接 ◦探究評価型（専願方式）: 書類審査（調査書、大学入学希望理由書、学修計画書、探究学習報告書）、プレゼンテーション、口頭試問、面接 •合格発表日: 2024年12月19日 •入学金納入期間: 2024年12月19日～2025年1月14日

学校推薦型選抜 （公募制）	いわゆる「公募型」の推薦入試制度は行っていない。 ・学校推薦型選抜（指定校）募集人数は非公開 出願期間：2024/11/1（金）～11/6（水）消印有効 選抜内容：学部・学科／コース 大学入学希望理由書、事前課題（小論文）、調査書、面接 試験日：2024/11/24（日） 合格発表日：2024/12/5（木） 入学手続期間：2024/12/5（木）～2025/1/14（火） ・総合型選抜（帰国生） 出願期間：2024/10/7（月）～15（火）必着 試験日：2024/11/6（水） 合格発表日：2024/11/15（金） 入学手続期間：2024/11/15(金)～2025/1/14（火） 選抜方法 【国際文化学部 英語文化学科 】 筆記試験　英語（60分）【100点】、小論文（60分）【100点】、面接【100点】 【国際文化学部 英語文化学科を除く学部・学科／コース 】 小論文（60分）【100点】、面接【100点】 その他の推薦型入試 海外指定校推薦型入学者選抜試験

一般選抜A方式（個別テスト利用）	一般選抜には、前期日程、中期日程、後期日程があります。（いずれも募集人数は非公開でした。） 前期日程 •出願期間: 2025年1月6日～1月20日（消印有効） •試験日: ◦2科目型: 2025年2月6日 ◦3科目（均等配点）型: 2025年2月3日～2月5日のいずれか1日を選択 ◦3科目（科目重視）型: 2025年2月3日～2月5日のいずれか1日を選択 ◦3科目（英語外部試験利用）型: 2025年2月3日～2月5日のいずれか1日を選択 ◦3科目（共通テスト併用）型: 2025年2月3日～2月5日のいずれか1日を選択 •試験内容: ◦2科目型: 国語または数学から1科目選択、外国語 ◦3科目（均等配点）型: 国語、地理歴史/公民から1科目選択、外国語 ◦3科目（科目重視）型: 国語、地理歴史/公民から1科目選択、外国語。高得点の科目を2倍にする ◦3科目（英語外部試験利用）型: 国語、地理歴史/公民から1科目選択、英語資格・検定試験の得点換算 ◦3科目（共通テスト併用）型: 大学入学共通テストの国語または数学の高得点1科目、地理歴史/公民から1科目選択、外国語 •合格発表日: 2025年2月17日 •入学金納入期間: 2025年2月17日～2月26日	一般選抜 一般選抜には、前期日程、中期日程、後期日程があります。（いずれも募集人数は非公開でした。） 前期日程 •出願期間: 2025年1月6日～1月20日（消印有効） •試験日: ◦2科目型: 2025年2月6日 ◦3科目（均等配点）型: 2025年2月3日～2月5日のいずれか1日を選択 ◦3科目（科目重視）型: 2025年2月3日～2月5日のいずれか1日を選択 ◦3科目（英語外部試験利用）型: 2025年2月3日～2月5日のいずれか1日を選択 ◦3科目（共通テスト併用）型: 2025年2月3日～2月5日のいずれか1日を選択 •試験内容: ◦2科目型: 国語、数学から1科目選択、外国語 ◦3科目（均等配点）型: 国語、地理歴史/公民から1科目選択、外国語 ◦3科目（科目重視）型: 国語、地理歴史/公民から1科目選択、外国語。高得点の科目を2倍にする ◦3科目（英語外部試験利用）型: 国語、地理歴史/公民から1科目選択、英語資格・検定試験の得点換算 ◦3科目（共通テスト併用）型: 大学入学共通テストの国語または数学の高得点1科目、地理歴史/公民から1科目選択、外国語 •合格発表日: 2025年2月17日 •入学金納入期間: 2025年2月17日～2月26日

一般選抜A方式（個別テスト利用）	中期日程 •出願期間: 2025年2月3日～2月7日（消印有効） •試験日: 2025年2月18日 •試験内容: ◦ 3科目（均等配点）型: 国語、数学、外国語 ◦ 3科目（共通テスト併用）型: 大学入学共通テストの地理歴史/公民の高得点1科目、国語、外国語 •合格発表日: 2025年2月26日 •入学金納入期間: 2025年2月26日～3月3日 後期日程 •出願期間: 2025年2月12日～2月21日（必着） •試験日: 2025年3月2日 •試験内容: ◦ 2科目型: 国語または数学から1科目選択、外国語 ◦ 英語外部試験利用型: 国語または数学から1科目選択、英語資格・検定試験の得点換算 •合格発表日: 2025年3月11日 •入学金納入期間: 2025年3月11日～3月14日	中期日程 •出願期間: 2025年2月3日～2月7日（消印有効） •試験日: 2025年2月18日 •試験内容: ◦ 3科目（均等配点）型: 国語、数学、外国語 ◦ 3科目（共通テスト併用）型: 大学入学共通テストの地理歴史/公民の高得点1科目、国語、外国語 •合格発表日: 2025年2月26日 •入学金納入期間: 2025年2月26日～3月3日 後期日程 •出願期間: 2025年2月12日～2月21日（必着） •試験日: 2025年3月2日 •試験内容: ◦ 2科目型: 国語または数学から1科目選択、外国語 ◦ 英語外部試験利用型: 国語または数学から1科目選択、英語資格・検定試験の得点換算 •合格発表日: 2025年3月11日 •入学金納入期間: 2025年3月11日～3月14日

一般選抜B方式（大学入学共通テスト利用）	大学入学共通テスト利用選抜には、前期日程、中期日程、後期日程があります。（いずれも募集人数は非公開でした。） 前期日程 •出願期間: 2025年1月6日～1月24日（消印有効） •試験日: 本学独自の個別学力検査は行わない •試験内容: 外国語、国語/数学/情報から高得点1科目、地理歴史/公民から高得点1科目 •合格発表日: 2025年2月17日 •入学金納入期間: 2025年2月17日～2月26日 •春学期学費納入期間: 2025年2月17日～3月3日 中期日程 •出願期間: 2025年2月3日～2月10日（必着） •試験日: 本学独自の個別学力検査は行わない •試験内容: 外国語、国語/数学/情報から高得点1科目、地理歴史/公民から高得点1科目 •合格発表日: 2025年2月26日 •入学金納入期間: 2025年2月26日～3月3日	大学入学共通テスト利用選抜 大学入学共通テスト利用選抜には、前期日程、中期日程、後期日程があります。（いずれも募集人数は非公開でした。） 前期日程 •出願期間: 2025年1月6日～1月24日（消印有効） •試験日: 本学独自の個別学力検査は行わない •試験内容: 外国語、国語/数学/情報から高得点1科目、地理歴史/公民から高得点1科目 •合格発表日: 2025年2月17日 •入学金納入期間: 2025年2月17日～2月26日 中期日程 •出願期間: 2025年2月3日～2月10日（必着） •試験日: 本学独自の個別学力検査は行わない •試験内容: 外国語、国語/数学/情報から高得点1科目、地理歴史/公民から高得点1科目 •合格発表日: 2025年2月26日 •入学金納入期間: 2025年2月26日～3月3日

一般選抜B方式（大学入学共通テスト利用）	後期日程 •出願期間: 2025年2月12日～2月21日（必着） •試験日: 本学独自の個別学力検査は行わない •試験内容: 外国語、国語/数学/地理歴史/公民/情報から高得点1科目 •合格発表日: 2025年3月11日 •入学金納入期間: 2025年3月11日～3月14日 •春学期学費納入期間: 2025年3月11日～3月14日 後期日程 5科目スカラシップ型 •出願期間: 2025年3月6日～3月14日（必着） •試験日: 本学独自の個別学力検査は行わない •試験内容: 外国語、国語、地理歴史/公民から1科目、数学/地理歴史/公民/理科/情報から高得点2科目（ただし、地理歴史/公民1で採用した科目は除く） •合格発表日: 2025年3月19日 •入学金納入期間: 入学金免除	後期日程 •出願期間: 2025年2月12日～2月21日（必着） •試験日: 本学独自の個別学力検査は行わない •試験内容: 外国語、国語/数学/地理歴史/公民/情報から高得点1科目 •合格発表日: 2025年3月11日 •入学金納入期間: 2025年3月11日～3月14日 •春学期学費納入期間: 2025年3月11日～3月14日 後期日程 5科目スカラシップ型 •出願期間: 2025年3月6日～3月14日（必着） •試験日: 本学独自の個別学力検査は行わない •試験内容: 外国語、国語、数学/地理歴史/公民/理科/情報から高得点3科目 •合格発表日: 2025年3月19日 •入学金納入期間: 入学金免除

奨学金制度（大学独自）	•全学生対象の奨学金 ◦スカラシップ制度（給付）：一般選抜（前期日程）の成績上位者100名、または大学入学共通テスト利用選抜（後期日程）の合格者全員が対象です。入学金と初年度の年間授業料が全額免除され、2年次以降は成績による継続審査の上、最大4年間継続が可能です。 ◦チャレンジ・スカラシップ制度（給付）：「総合型選抜」または「学校推薦型選抜」の合格者で、「チャレンジ・スカラシップ選考試験」の成績上位者若干名が対象です。入学金と初年度の年間授業料が全額免除され、2年次以降は成績による継続審査の上、最大4年間継続が可能です。 ◦特待生制度（給付）：3・4年次に在学する大学入学後の成績が極めて優れた学生が対象で、各年度70名以内が選ばれます。年間授業料相当額が給付されます。 ◦関東学院大学 給付奨学金： ▪給付奨学金：学部2年次生以上で、学業・人物ともに優秀で、経済的理由により修学困難な日本学生支援機構奨学金貸与者が対象です（外国人留学生、特待生、各スカラシップ生は除く）。年間20万円が給付されます。 ▪緊急時給付奨学金：学部生で、家計支持者の失職、死亡、または火災・地震・風水害などによる家計の急変により学業継続が困難になった学生が対象です。申請する学期の学費全額が給付されます。 ◦関東学院大学冠奨学金（給付）：学部生で、寄付者の申し出内容の条件に合った学生が対象です（学内給付奨学金受給者、特待生、スカラシップ生、休学・原級留年者は除く）。年間5～30万円が給付されます。 ◦関東学院大学兄弟姉妹給付奨学金（給付）：新入生（学部生）で、入学時に兄弟姉妹が関東学院大学の学部または大学院に在学している者が対象です。入学金相当額が給付されます。 ◦斉藤小四郎奨学金（給付）：学部長の推薦するキリスト教に理解のある3・4年次生が対象です。金額は採用実施年度により異なります。 ◦学費教育ローン 利息補給奨学金（給付）：教育ローン利用者のうち、人物・学業・経済状況を総合的に審査し、教育ローン利用者に利息分相当額を給付します（上限あり）。 各学部・研究科に所属する学生対象の奨学金 ◦GAP留学給付金：国際文化学部英語文化学科の入学者選抜における成績上位者（最大15名）が対象です。最大40万円が給付されます。 ◦関東学院大学 兵藤奨学金（給付）：国際文化学部生、社会学部生が対象です。学業奨励とキャリア支援（留学・資格取得・ボランティア）の二項目について、項目ごとの審査要件を満たす必要があります。学芸奨励として15万円、キャリア支援として3万円～が給付されます。

【資料2】競合校の入試動向

学校種	私立4年制共学大学	
大学名	東海大学	
学科名	国際学部国際学科	文学部英語文化コミュニケーション学科
入学定員	200	90
学問分野	国際関係学	英語英文学・英米言語文化・英語教育学
所在地	神奈川県平塚市(1,2年）東京都港区（3,4年）	神奈川県平塚市
学力層（旺文社パスナビ偏差値）	37.5	40.0
学力層（ベネッセ偏差値）	51.0	50.0
就職支援	キャリア就職担当による就職指導プログラム（全学生向け）	キャリア就職担当による就職指導プログラム（全学生向け）
取得できる資格（国家資格・免許）	なし	教員免許（英語）、司書教諭、学芸員
その他		

総合型選抜	・総合型選抜（自己推薦型）Ⅰ期： 募集人数 コミュニケーション文化学科 25 英語英文学科18 出願期間：一次選考　9/2~9/9 面接日：9/28（土）, 9/29（日）,10/5（土）,10/6（日） のうち、いずれか1日 結果発表：10/13（日） 出願期間：二次選考　10/14（月・祝）～10/25 合格通知：11/1（金） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅱ期： 募集人数　英語英文学科5 コミュニケーション文化学科5 出願期間：12/1（日）～12/6（金） 面接日：12/15（日） 合格発表　12/20（金） 入学手続き期間：12/21（土）～12/26（木） ・総合型選抜（自己推薦型）Ⅲ期 募集人数　英語英文学科のみ若干名 出願期間：2/3（月）～2/12（水） 面接日：2/23 合格発表　2/25（火） 入学手続き期間：2/26（水）～3/3（月）

総合型選抜	適性面接型 •募集人数: 国際学部国際学科：若干名 文学部英語文化コミュニケーション学科：若干名 •出願期間: 2024年12月6日（金）～12月16日（月）締切日必着 •試験日: 2024年12月25日（水） •試験内容: ◦ 出願書類： 志望理由書（600字以内） 活動報告書 調査書 ◦ 適性面接試験: ▪ 自己PRを含めたプレゼンテーションと質疑応答 ▪ 内容は、環境や持続可能な開発、平和、人権、文化的多様性など、グローバルな問題について、大学生活や卒業後の活動計画について説明する ◦ 口述試験: ▪ 英語による自己アピールと、現代世界の基礎知識についての議論 •合格発表日: 2025年1月10日（金） 入学手続期間: 2025年1月10日（金）～1月21日（火）
学校推薦型選抜（公募制）	公募制学校推薦型選抜 •募集人員: 国際学部国際学科：13名 文学部英語文化コミュニケーション学科：5名 •出願期間: 2024年11月1日（金）～11月5日（火） •試験日: 2024年11月17日 •試験内容: ◦ 選考方法: ▪ 「調査書」「志望理由書」「推薦書」を基本資料とし、「小論文」「面接試験（口述試験含む）」を総合的に判断して選考 ◦ 試験内容詳細: ▪ 小論文: 60分、800字以内 ▪ 面接試験: 口述試験を含む 、**英語による自己アピール、現代世界の基礎知識（主に志願者が興味・関心を持っていること）**について •合格発表日: 12月2日（月） 入学手続期間: 12月2日（月）～12月13日（金）

一般選抜A方式（個別テスト利用）	「文系・理系学部統一選抜」と「一般選抜」の2タイプの選抜試験を実施 **文系・理系学部統一選抜（前期／後期）** •募集人員: 国際学部国際学科：26名（前期）、6名（後期） 英語文化コミュニケーション学科：12名（前期）、2名（後期） • 出願期間: ◦前期：1月に出願する入試 1/4～1/18 ◦後期：2月以降に出願する入試 2/1～2/13 •試験日: 2月2日（日）、3日（月）（前期）、2月28日（金）（後期） •試験内容: ◦3科目受験し、高得点の2科目で合否判定 •合格発表日: 2月10日（月）（前期） •入学手続期間: 2月10日（月）～2月19日（水）17:00厳守（前期） **一般選抜** •募集人員: 国際学部国際学科：60名 英語文化コミュニケーション学科：30名 出願期間: 1/4～1/22 •試験日: 2月7日（金）、8日（土）、9日（日）、10日（月） ◦受験日を自由に選択可能 •試験内容: ◦3教科型で合否判定 ◦試験科目:「英語」は必須 •合格発表日: 2月21日（金） •入学手続期間: 2月21日（金）～3月6日（木）

一般選抜B方式（大学入学共通テスト利用）	大学入学共通テスト利用選抜（前期／後期） •募集人員: 国際学部国際学科：15名（前期）、若干名（後期） 英語文化コミュニケーション学科：5名（前期）、若干名（後期） •出願期間: ◦前期：1/4～1/24 ◦後期：2/8～3/4 •試験日: 大学入学共通テスト •試験内容: ◦外国語：「英語」（リスニング含む） ◦国語：「国語」（近代以降の文章） ◦数学：「数学Ⅰ」、「数学Ⅰ,数学A」,「数学Ⅱ,数学B,数学C」 から1科目選択 ◦地理歴史・公民：「歴史総合,日本史探究」、「歴史総合,世界史探究」、「地理総合,地理探究」、「地理総合/歴史総合/公共」、「公共,倫理」、「公共,政治･経済」から1科目選択 •合格発表日: 2/10（前期）,3/15（後期） •入学手続期間: 2/10～2-19（前期）, 3/15～3/19（後期）

奨学金制度（大学独自）	奨励型奨学金: ◦学部奨学金：学業・人物ともに優れた学部生を対象とし、前学期までの成績と人物を審査し、奨学金が給付されます。第1種は大学が選考し、第2種は公募制です。第1種は学期ごとに20万円、第2種は学期ごとに10万円が給付されます。 ◦【松前重義記念基金】自己研鑽奨学金：文化活動、スポーツ活動、社会活動、ボランティア活動などの分野で優れた計画を持ち、その実現に向けて努力している学生を支援します。個人には30万円以内、グループには50万円以内が給付されます。 ◦【松前重義記念基金】建学記念奨学金（建学記念論文）: 大学が指定する課題について独創的な論文を提出した学生に対し、審査の上、優秀者に奨学金が給付されます。最優秀賞には20万円、優秀賞には10万円、入選には5万円が給付されます。 ◦キャンパス間留学奨学金：キャンパス間留学が許可され、人物・学業成績ともに優れた学生に対し、留学タイプや居住形態に応じて28万円または14万円が給付されます。在学中に1回のみ適用されます。 •経済支援型奨学金: ◦ワークスタディ奨学金：人物・学業成績が優れており、経済的な理由で修学が困難な学生を対象に、大学内での業務を行うことで奨学金が給付されます。月額2.5万円（年額30万円）が給付されます。学部生は第6セメスターまでが対象です。 ◦応急奨学金：天災や火災による家屋の被災、または家計支持者の死亡・失職などにより家計が急変し、修学が困難になった学生に対して、当該学期に納付すべき学費相当額以内（60万円以内）が無利子で貸与されます。学部生は第5セメスター以上が対象です。日本学生支援機構奨学金の貸与を最大限受けていることが条件です。 •海外派遣留学プログラム奨学金: * 東海大学国際交流奨学金：本学と協定を結んだ海外大学への留学が許可された学生に、留学先に応じて奨学金が給付されます。 •被災学生への特別措置: ◦大規模自然災害など被災学生支援: 天災などにより家計状況が急変し、修学困難になった学生に対し、学費相当額の減免が行われます。 ◦ 東海大学後援会奨学金: 台風、地震、火災などで自宅が被害を受け、家計が急変した学生に対し、一時金5万円または10万円、もしくは月額1万円～5万円（最長1年間）が給付されます。

【資料2】競合校の入試動向	私立4年制女子大学		
大学名	フェリス女学院		
学科名	文学部コミュニケーション学科	文学部英語英米文学科	国際交流学部国際交流学科
入学定員	90	90	197
学問分野	言語コミュニケーション学・情報学	英語英文学・英米言語文化	国際文化学・言語文化学
所在地	横浜市泉区	横浜市泉区	横浜市泉区
学力層（旺文社パスナビ偏差値）	35.0	35.0	35.0
学力層（ベネッセ偏差値）	48.0	48.0	48.0
就職支援	就職課による就職指導プログラム（全学生向け）	就職課による就職指導プログラム（全学生向け）	就職課による就職指導プログラム（全学生向け）
取得できる資格（国家資格・免許）	社会調査士・認定心理士	教員免許（英語）、司書教諭、学芸員	教員免許（社会・地歴・公民）、司書教諭、学芸員
その他			

総合型選抜	•総合型選抜 ◦ Ⅰ期: ▪ 募集人数：32名（併願型） ▪ 試験日: 10月14日（土） ▪ 内容: 筆記試験と個人面接 ▪ 筆記試験は、大学での学習に必要な学力を測る観点から、設問への理解力や教科書レベルの基礎的な知識のほか、表現力といった点を学科ごとの出題によって評価。 ▪ 合格発表日: 11月1日（水） ▪ 入学手続期限: 11月8日（水） ◦ Ⅱ期: 募集人数：若干名 ▪ 試験日: 11月下旬 ▪ 内容: 筆記試験と面接 ▪ 合格発表日: 12月上旬 ▪ 入学手続期限: 12月中旬	•総合型選抜 ◦ Ⅰ期: ▪ 募集人数：不明 ▪ 試験日: 10月14日（土） ▪ 内容: •専願型: 書類審査（事前課題のレポート）と個人面接（口頭試問を含む） •併願型: 筆記試験（小論文）と個人プレゼンテーション ▪ 合格発表日: 11月1日（水） ▪ 入学手続期限: 11月8日（水） ◦ Ⅱ期: ▪ 募集人数：不明 ▪ 試験日: 11月下旬 ▪ 内容: 筆記試験と個人プレゼンテーション ▪ 合格発表日: 12月上旬 ▪ 入学手続期限: 12月中旬
学校推薦型選抜（公募制）	公募制推薦入試は実施していない。 指定校推薦入学試験（情報公開なし）のほか、 帰国生徒入試 卒業生子女等入試 外国にルーツを持つ生徒対象入試 を若干名を対象に実施している。	

一般選抜A方式（個別テスト利用）	○A日程: ▪募集人数　3科目型：10名、 ▪2科目型：28名 ▪試験日: 1月27日（土）、1月28日（日） ▪内容: 2科目型または3科目型を選択。個別試験（英語、国語、世界史または日本史）と英検®の最大4要素から高得点要素で合否判定。2科目型は、国語と外国語（英語）。3科目型は、国語、外国語（英語）、地理歴史。 ▪合格発表日: 2月2日（金） ▪入学手続期限: 一括納入手続 2月7日（水）、二次手続 2月14日（水）	•一般入試 ○A日程: ▪募集人数： * 3科目型：8名、2科目型：30名 ▪試験: 1月27日（土）、1月28日（日） ▪内容: 2科目型または3科目型を選択。個別試験（英語、国語、世界史または日本史）と英検®の最大4要素から高得点要素で合否判定。2科目型は、国語と外国語（英語）。3科目型は、国語、外国語（英語）、地理歴史。 ▪合格発表日: 2月2日（金） ▪入学手続期限: 一括納入手続 2月7日（水）、二次手続 2月14日（水）	•一般入試 ○A日程: ▪募集人数：3科目型：30名 、2科目型：50名 ▪試験日: 1月27日（土）、1月28日（日） ▪内容: 2科目型または3科目型を選択。個別試験（英語、国語、世界史または日本史）と英検®の最大4要素から高得点要素で合否判定。2科目型は、国語と外国語（英語）。3科目型は、国語、外国語（英語）、地理歴史。 ▪合格発表日: 2月2日（金） ▪入学手続期限: 一括納入手続 2月7日（水）、二次手続 2月14日（水）

一般選抜A方式（個別テスト利用）	◦B日程: ▪ 募集人数：若干名 ▪ 試験日: 2月14日（水） ▪ 内容: 個別試験3科目（英語・国語・世界史または日本史）、共通テスト1科目、英検®の最大5要素から高得点の2要素で合否判定 ▪ 合格発表日: 2月中旬 ▪ 入学手続期限: 2月中旬 ◦C日程: ▪ 募集人数：若干名 ▪ 試験日: 3月2日（土）午前 ▪ 内容: 外国語（英語）。個別試験または英検®のいずれか高得点の1科目で合否判定 ▪ 合格発表日: 3月6日（水） ▪ 入学手続期限: 一括納入手続 3月11日（月）、二次手続 3月14日（木）	◦B日程: ▪ 募集人数：5名 ▪ 試験日: 2月14日（水） ▪ 内容: 個別試験3科目（英語・国語・世界史または日本史）、共通テスト1科目、英検®の最大5要素から高得点の2要素で合否判定 ▪ 合格発表日: 2月中旬 ▪ 入学手続期限: 2月中旬 ◦C日程: 募集人数：若干名 ＊試験日: 3月2日（土）午前＊内容: 外国語（英語）または小論文を選択。個別試験または英検®のいずれか高得点の1科目で合否判定 ▪ 合格発表日: 3月6日（水）＊入学手続期限: 一括納入手続 3月11日（月）、二次手続 3月14日（木）	◦B日程: 募集人数：若干名 ▪ 試験日: 2月14日（水） ▪ 内容: 個別試験3科目（英語・国語・世界史または日本史）、共通テスト1科目、英検®の最大5要素から高得点の2要素で合否判定 ▪ 合格発表日: 2月中旬 ▪ 入学手続期限: 2月中旬 ◦C日程: 募集人数：若干名 ▪ 試験日: 3月2日（土）午前 ▪ 内容: 外国語（英語）または小論文を選択。個別試験または英検®のいずれか高得点の1科目で合否判定 ▪ 合格発表日: 3月6日（水） ▪ 入学手続期限: 一括納入手続 3月11日（月）、二次手続 3月14日（木）

一般選抜B方式（大学入学共通テスト利用）	•共通テスト利用入試 ◦前期: 募集人数：12名 ▪内容: 大学入学共通テストの成績を利用。外国語（英語）、国語、選択科目1科目（地理歴史、公民、数学、理科から高得点1科目）。「英語」を英検®に代えることが可能 ▪合格発表日: 3月6日（水） ▪入学手続期限: 3月11日（月）と3月14日（木） ◦後期: 募集人数：若干名 ▪内容: 大学入学共通テストの成績を利用。選択科目2科目（外国語（英語）、国語、地理歴史、公民、数学、理科から高得点2科目）。「英語」を英検®に代えることが可能。 ▪合格発表日: 3月6日（水） ▪入学手続期限: 3月11日（月）と3月14日（木） •その他: ◦一般入試、共通テスト利用入試ともに英検®の成績を利用可能。一般入試（C日程）では、個別試験の代わりに英検®を利用可能	•共通テスト利用入試 ◦前期: ▪募集人数：15名 ▪内容: 大学入学共通テストの成績を利用。外国語（英語）、国語、選択科目1科目（地理歴史、公民、数学、理科から高得点1科目）。「英語」を英検®に代えることが可能。 ▪合格発表日：3月6日（水） ▪入学手続期限：3月11日（月）と3月14日（木） ◦後期: ▪募集人数：若干名 ▪内容: 大学入学共通テストの成績を利用。選択科目2科目（外国語（英語）、国語、地理歴史、公民、数学、理科から高得点2科目）。「英語」を英検®に代えることが可能。 ▪合格発表日: 3月6日（水） ▪入学手続期限: 3月11日（月）と3月14日（木） •その他: ◦一般入試、共通テスト利用入試ともに英検®の成績を利用可能。一般入試（C日程）では、個別試験の代わりに英検®を利用可能	•共通テスト利用入試 ◦前期: ▪募集人数：25名 ▪内容: 大学入学共通テストの成績を利用。外国語、選択科目2科目（国語、地理歴史、公民、数学、理科から高得点2科目）。外国語は英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語から選択。英語はリーディングとリスニングの合計点で評価、または英検®で代替可能。 ▪合格発表日: 3月6日（水） ▪入学手続期限: 3月11日（月）と3月14日（木） ◦後期: ▪募集人数：若干名 ▪内容: 大学入学共通テストの成績を利用。選択科目2科目（外国語（英語）、国語、地理歴史、公民、数学、理科から高得点2科目）。「英語」を英検®に代えることが可能。 ▪合格発表日: 3月6日（水） ▪入学手続期限: 3月11日（月）と3月14日（木） •その他: ◦一般入試、共通テスト利用入試ともに英検®の成績を利用可能。一般入試（C日程）では、個別試験の代わりに英検®を利用可能

奨学金制度（大学独自）	•経済支援を目的とした奨学金 ◦フェリス女学院大学経済支援給付奨学金：学部2～4年次を対象とし、日本学生支援機構奨学金第一種家計基準以内の者で、成績優秀者に年額100,000円が給付されます。採用年度限りです。 ◦フェリス女学院大学石間奨学金: 学部4年次（卒業見込資格取得者）を対象とし、日本学生支援機構奨学金の申込資格を有する者で、所定の家計基準に該当し、成績優秀者に年額400,000円が給付されます。採用年度限りです。 ◦フェリス女学院大学奨学金：勉学意欲があり、経済的に学費の支弁が困難な学生を対象に、年額授業料相当額、または半額、または年額学納金相当額が無利子で貸与されます。採用年度限りで、第1種は年額授業料相当額、第2種は年額授業料相当額の半額、第3種は年額学納金相当額が貸与されます。 •成績優秀者・自己研鑽に対する奨学金 ◦フェリス女学院大学奨学会学業成績優秀者給付奨学金：学部2年次と4年次を対象とし、大学が選考した成績優秀者に年額100,000円が給付されます。採用年度限りです。 ◦フェリス女学院大学奨学会自己研鑽給付奨学金：学部1～4年次を対象とし、学内・学外の活動で顕著な自己研鑽を行った学生に対し、レベルに応じて上限50,000円、100,000円、200,000円が給付されます。採用年度限りです。 •障がい者に対する奨学金 ◦フェリス女学院大学障がい学生奨学金：各市区町村発行の障害者手帳に記載されている「身体障害程度等級」が1級及び2級に認定されている学生に対し、年額100,000円が給付されます。採用年度限りです。 ▪公認団体等への活動支援を目的とした奨励金 ◦公認団体活動サポート金（奨学会）：明確な活動目的を持つ本学公認団体に対し、最大50万円程度が給付されます。 ◦公認団体奨励助成金（奨学会）：顕著な活動があった本学公認団体に対し、上限10万円が給付されます。

【資料3】

国際コミュニケーション学科競合校入試状況

大学	学部	学科	令和4年度（2022年度）					令和5年度（2023年度）					令和6年度（2024年度）				
			入学定員	志願者	倍率	入学者数	定員充足率	入学定員	志願者	倍率	入学者数	定員充足率	入学定員	志願者	倍率	入学者数	定員充足率
大妻女子大学	文学部	コミュニケーション文化学科	75	615	8.20	128	1.71	80	387	4.84	126	1.58	120	452	3.77	137	1.14
共立女子大学	国際学部（コミュニケーションスタディーズコース含む3コース）	観光学科	250	860	3.44	269	1.08	250	1077	4.31	257	1.03	250	1042	4.17	246	0.98
実践女子大学	国際学部	国際学科	―	―	―	―	―	―	―	―	―	―	120	607	5.06	142	1.18
関東学院大学	国際文化学部	比較文化学科	138	非公表	―	141	1.02	138	非公表	―	139	1.01	138	391	2.83	122	0.88
東海大学	国際学部	国際学科	200	1265	6.33	207	1.04	200	1003	5.02	199	1.00	200	990	4.95	232	1.16
フェリス女子大学	文学部	コミュニケーション学科	―	299	―	108	―	90	256	2.84	95	1.06	90	286	3.18	87	0.97

【資料4】

相模女子大学

新学科設置構想についての

高校生アンケート調査

報告書

令和７年３月

株式会社高等教育総合研究所

目次

1. 高校生アンケート調査 概要..... 2

2. 調査実施高等学校等一覧..... 3

3. 高校生アンケート調査 集計結果..... 4

4. 高校生アンケート調査 結果の要点..... 8

（添付資料）

高校生アンケート調査用紙..... 12

「相模女子大学２０２６年度設置構想」概要..... 13

1.高校生アンケート調査 概要

調査目的	令和8年（2026年）度に相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称） 」（入学定員各60名）における志願者・入学者等の学生確保の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	[調査対象] 令和8年3月に高校卒業予定である高校2年生（令和6年度） [調査地域] 「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」の主たる学生募集エリアと想定される地域の高等学校42校から調査の協力を得た。 また、オープンキャンパスに来場した学生には個別で調査の協力を得た。
調査内容	・回答者の基本情報（性別、居住地） ・卒業後の志望進路 ・志望する大学等の設置者 ・興味のある学問分野 ・相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」への受験・入学意向
調査時期	令和7年1月～3月
調査方法	高校側の希望に基づき、紙方式・WEB方式のいずれかでアンケート調査を実施。 [紙方式] ① 高校での実施依頼分については、各高校の希望に基づき、アンケート用紙・「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」概要資料を必要部数送付。ホームルームで配付の上、その場で回答し回収いただいた。 ② オープンキャンパス実施分については、協力を承諾いただいた来場者に対し、個別にアンケート用紙・「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」概要資料を配布し、その場で回答いただいた。 [WEB方式] 担当教員のメールアドレスにアンケート調査サイトURLおよびアクセス用QRコードを送付。自校対象生徒のタブレット端末等に配信の上、原則その場で回答し送信するよう促していただいた。
回収件数	有効回答数5,288件（41校実施分：計5,238件＋オープンキャンパス実施分：計50件）

2.調査実施高等学校等一覧

高校コード	高校名	回収数	高校コード	高校名	回収数
09138D	真岡女子高等学校	85	14518B	聖ヨゼフ学園高等学校	22
13303F	山崎高等学校	70	14520D	横浜商科大学高等学校	96
13559D	桐朋女子高等学校	148	14522A	英理女子学院高等学校	157
13617E	立正大学付属立正高等学校	352	14529H	横浜創学館高等学校	101
13714G	八王子実践高等学校	75	14533F	三浦学苑高等学校	45
14172A	上溝南高等学校	133	14534D	緑ヶ丘女子高等学校	60
14189F	津久井高等学校	77	14542E	平塚学園高等学校	77
14199C	上鶴間高等学校	287	14546H	北鎌倉女子学園高等学校	79
14200A	大和南高等学校	218	14547F	鎌倉女子大学高等部高等学校	108
14223K	寒川高等学校	124	14556E	聖園女学院高等学校	54
14228A	保土ケ谷高等学校	248	14557C	向上高等学校	127
14266C	元石川高等学校	161	14559K	旭丘高等学校	122
14279E	城郷高等学校	7	14563H	相模原（私立）高等学校	306
14283C	相模田名高等学校	241	14564F	相模女子大学高等部高等学校	264
14296E	藤沢総合高等学校	201	14567A	聖セシリア女子高等学校	113
14297C	鶴見総合高等学校	115	14570A	清心女子高等学校	80
14303A	横浜緑園高等学校	69	19136B	上野原高等学校	53
14307D	小田原東高等学校	116	19501E	山梨英和高等学校	68
14313J	平塚中等教育学校	102	22119J	沼津西高等学校	170
14507G	関東学院高等学校	41	22123G	吉原高等学校	29
14510G	横浜清風高等学校	237			

3.高校生アンケート調査 集計結果

※「回答割合」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問１　あなたの現在の居住地をお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
神奈川県	4,213	79.7%
東京都	638	12.1%
埼玉県	4	0.1%
千葉県	3	0.1%
茨城県	3	0.1%
栃木県	86	1.6%
群馬県	4	0.1%
その他	332	6.3%
無回答	5	0.1%
合計	5,288	100.0%

問２　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ）

選択肢	回答数	回答割合
男性	1,635	30.9%
女性	3,493	66.1%
答えたくない	140	2.6%
無回答	20	0.4%
合計	5,288	100.0%

問３　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべて）

＊複数回答のため回答数はのべ／回答割合＝各回答数÷回答対象（5,288人）

選択肢	回答数	回答割合
大学	3,928	74.3%
短期大学	328	6.2%
専門職大学	254	4.8%
専門職短期大学	73	1.4%
専門学校	1,301	24.6%
就職	439	8.3%
その他	89	1.7%

問４　問３で①～④を選択した方に質問です。（※問３で①～④を選択しなかった方は問５に進んでください）志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべて）

＊複数回答のため回答数はのべ／回答割合＝各回答数÷回答対象（問３で①～④を選択した4,173人）

選択肢	回答数	回答割合
私立	3,590	86.0%
国立	811	19.4%
公立	1,048	25.1%

問５　高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。（あてはまるものすべて）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
文学	888	16.8%
史学	298	5.6%
哲学	299	5.7%
人文科学その他	395	7.5%
社会学	488	9.2%
法学・政治学	448	8.5%
商学･経営学	864	16.3%
社会科学その他	174	3.3%
数学	180	3.4%
物理学	119	2.3%
化学	159	3.0%
生物	338	6.4%
地学	75	1.4%
理学その他	116	2.2%
機械工学	251	4.7%
電気通信工学	161	3.0%
土木建築学	163	3.1%
応用化学	65	1.2%
工学その他	161	3.0%
農学	185	3.5%
農芸化学	51	1.0%
農業工学	33	0.6%
農業経済学	35	0.7%
水産学	78	1.5%
農学その他	85	1.6%
医学	184	3.5%

選択肢	回答数	回答割合
歯学	93	1.8%
薬学	207	3.9%
看護学	425	8.0%
保健その他	326	6.2%
商船学	71	1.3%
家政学	114	2.2%
食物学	335	6.3%
被服学	137	2.6%
住居学	67	1.3%
家政その他	67	1.3%
教育学	478	9.0%
小学校課程	157	3.0%
中・高校課程	210	4.0%
体育学	306	5.8%
教育その他	173	3.3%
美術	374	7.1%
デザイン	635	12.0%
音楽	371	7.0%
芸術その他	336	6.4%
健康科学	189	3.6%
国際関係学	451	8.5%
環境学	98	1.9%
教養学	97	1.8%
総合科学	102	1.9%
無回答	0	0.0%
合計	5,288	100.0%

問６　令和８(2026)年4月に相模女子大学で設置構想中である以下の２学科のうち、あなたが特に興味のある学科を選択してください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）	2,726	51.6%
学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）	2,332	44.1%
無回答	230	4.3%
合計	5,288	100.0%

問７　問６で選択した最も興味のある学科が開設された場合、受験を希望しますか。次より１つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
第一志望として受験する	109	2.1%
第二志望として受験する	121	2.3%
第三志望以降として受験する	338	6.4%
受験しない	4,505	85.2%
無回答	215	4.1%
合計	5,288	100.0%

問８　上記、問７で①～③を選択した方に質問です。問６で選択した学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より１つ選択してください。

選択肢	回答数	回答割合
入学する	122	21.5%
志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	385	67.8%
入学しない	71	12.5%
無回答	0	0.0%
合計	568	100.0%

4.高校生アンケート調査 結果の要点

※「構成比」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。
※ 以降、集計対象は女子のみ。

■人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）

(1)【女子のみ】受験・入学意向クロス集計結果（「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より）

以下の図1の通り、高校生アンケート調査の問6結果より、相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」に対し受験意向を持ち、「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を選択したのは206人で、予定する入学定員計60名の3.4倍の水準に及ぶことが明らかとなった。
「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は22人おり、地域クリエーション学科（学科名仮称）に合格した場合、確実に入学が見込まれる。「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」のした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」合計145人は、他大学の合否次第ではあるが、この中から38人（145人中26.2%）の入学者がいれば、「入学する」とした22人とあわせ、入学定員の充足が可能であり、必要十分な人数の高校生が地域クリエーション学科（学科名仮称）を志願していると言える。

図１

受験意向		入学意向	
第一志望として受験する	31	入学する	22
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4
第二志望として受験する	44	入学する	13
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	30
第三志望以降として受験する	131	入学する	4
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	115

(2)【女子のみ】受験・入学意向五重クロス集計結果(「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より)

以下の図2の通り、高校卒業後の進路に「大学」、志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「社会学」または「家政学」のいずれか、もしくは両方を選択した上で、相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科(学科名仮称)」に受験・入学意向を示した人数を確認した。

「大学」進学、かつ「私立」を選択し、興味のある学問分野として「社会学」または「家政学」のいずれか、もしくは両方を選択する者は合計299人で、その上で同学部学科を「第一志望として受験する」としたのは2人、「第二志望として受験する」8人、「第三志望以降として受験する」28人と合計すると38人であった。

なお「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は2人であった。「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で30人いた。

図2

進路		設置者		学問分野		興味のある学部学科専攻		受験意向		入学意向	
大学	2,623	私立	2,321	社会学、家政学	299	人間社会学部地域クリエーション学科(学科名仮称)	170	第一志望として受験する	2	入学する	2
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	0
								第二志望として受験する	8	入学する	4
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4
								第三志望として受験する	28	入学する	0
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	26

■学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）

(1)【女子のみ】受験・入学意向クロス集計結果(「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より)

以下の図1の通り、高校生アンケート調査の問6結果より、相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科(学科名仮称)」に対し受験意向を持ち、「第一志望として受験する」「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」を選択したのは194人で、予定する入学定員計60名の3.2倍の水準に及ぶことが明らかとなった。

「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は12人おり、国際コミュニケーション学科(学科名仮称)に合格した場合、確実に入学が見込まれる。「第二志望として受験する」「第三志望以降として受験する」のした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」合計142人は、他大学の合否次第ではあるが、この中から48人(142人中33.8%)の入学者がいれば、「入学する」とした 12人とあわせ、入学定員の充足が可能であり、必要十分な人数の高校生が国際コミュニケーション学科(学科名仮称)を志願していると言える。

図１

受験意向		入学意向	
第一志望として受験する	17	入学する	12
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4
第二志望として受験する	40	入学する	13
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	26
第三志望以降として受験する	137	入学する	8
		志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	116

(2)【女子のみ】受験・入学意向五重クロス集計結果(「3. 高校生アンケート調査 集計結果」より)

以下の図2の通り、高校卒業後の進路に「大学」、志望する大学の設置者に「私立」を選択し、興味のある学問分野として「文学」を選択した上で、相模女子大学「学芸学部　国際コミュニケーション学科(学科名仮称)」に受験・入学意向を示した人数を確認した。

「大学」進学、かつ「私立」を選択し、興味のある学問分野として「文学」を選択する者は合計480人で、その上で同学部学科を「第一志望として受験する」としたのは1人、「第二志望として受験する」6人、「第三志望以降として受験する」42人と合計すると49人であった。
なお「第一志望として受験する」とした上で「入学する」は1人であった。「第二志望として受験する」または「第三志望以降として受験する」とした上で「志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する」は合計で39人いた。

本学科は学位の分野については「文学関係」ではあるものの、その学びの内容としては英語のみならず英語圏の文化に加え、韓国語・韓国文化とアジアの多様性を学ぶカリキュラムを編成しており、世界のさまざまな場所、フィールドでの活躍を目指す高校生をそのターゲットとしている。学位の分野＝文学関係とは認識されていないが、人文・社会科学、芸術やポップカルチャーなどの分野に関心をもつ幅広い層への訴求が可能と思われる。

図２

進路		設置者		学問分野		興味のある学部学科専攻		受験意向		入学意向	
大学	2,623	私立	2,321	文学	480	学芸学部 国際コミュニケーション学科(学科名仮称)	241	第一志望として受験する	1	入学する	1
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	0
								第二志望として受験する	6	入学する	2
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	4
								第三志望として受験する	42	入学する	5
										志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する	35

相模女子大学 新学科設置構想についての高校生アンケート
（対象：2024年度　高校2年生の皆様）

相模女子大学では、令和8（2026）年4月に「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」を設置構想中です。新学科についての概要資料をご覧の上、それぞれの学科への進学意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。

※本アンケート調査への回答は1回のみとなります。
　本アンケート調査と同一内容のアンケートに過去に回答した方は回答できません。
※本アンケート調査は相模女子大学から委託された第三者機関（株式会社進学教育総合研究所）が実施しています。
※本アンケート調査および概要資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1 回答は所定の欄を塗りつぶしてください。 2 回答用紙を汚したり、折り曲げたりしないでください。 3 記入は必ず鉛筆及びシャープペンシルで濃く書いてください。	記入例	良い例 ●
			悪い例 ✓ ◉ ― ○ ⬬

◆最初にあなた自身についてお聞きします。

問1　あなたの現在の居住地をお答えください。（あてはまるもの1つ）

① 神奈川県　② 東京都　③ 埼玉県　④ 千葉県　⑤ 茨城県　⑥ 栃木県　⑦ 群馬県
⑧ その他

問2　あなたの性別をお答えください。（あてはまるもの1つ）

① 男性　② 女性　③ 答えたくない

◆高校卒業後の進路や、興味のある学びについてお聞きします。

問3　卒業後の進路をどのように考えていますか。（あてはまるものすべて）

① 大学　② 短期大学　③ 専門職大学　④ 専門職短期大学
⑤ 専門学校　⑥ 就職　⑦ その他

►問4　問3で①～④を選択した方に質問です。（※問3で①～④を選択しなかった方は問5に進んでください）
志望する大学等の設置者の希望を選択してください。（あてはまるものすべて）

① 私立　② 国立　③ 公立

→裏面に続く

問5　高校を卒業後、学びたいと考えている興味のある学問分野を次の中から選択してください。
（あてはまるものすべて）※現時点で進学を希望されていない方も進学する場合を想像してお答えください。

人文科学	① 文学	② 史学	③ 哲学	④ 人文学その他		
社会科学	⑤ 社会学	⑥ 法学・政治学	⑦ 商学・経済学	⑧ 社会科学その他		
理　学	⑨ 数学	⑩ 物理学	⑪ 化学	⑫ 生物	⑬ 地学	⑭ 理学その他
工　学	⑮ 機械工学	⑯ 電気通信工学	⑰ 土木建築学	⑱ 応用化学	⑲ 工学その他	
農　学	⑳ 農学	㉑ 農芸化学	㉒ 農業工学	㉓ 農業経済学	㉔ 水産学	㉕ 農学その他
保　健	㉖ 医学	㉗ 歯学	㉘ 薬学	㉙ 看護学	㉚ 保健その他	
商　船	㉛ 商船学					
家　政	㉜ 家政学	㉝ 食物学	㉞ 被服学	㉟ 住居学	㊱ 家政その他	
教　育	㊲ 教育学	㊳ 小学校課程	㊴ 中・高校課程	㊵ 体育学	㊶ 教育その他	
芸　術	㊷ 美術	㊸ デザイン	㊹ 音楽	㊺ 芸術その他		
その他	㊻ 健康科学	㊼ 国際関係学	㊽ 環境学	㊾ 教養学	㊿ 総合科学	

ここからは別添・相模女子大学の新学科に関する概要資料を見てからお答えください

問6　令和8（2026）年4月に相模女子大学で設置構想中である以下の2学科のうち、あなたが特に興味のある学科を選択してください。（あてはまるもの1つ）

① 人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）

② 学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）

問7　問6で選択した最も興味のある学科が開設された場合、受験を希望しますか。
次より1つ選択してください。

① 第一志望として受験する　② 第二志望として受験する
③ 第三志望以降として受験する　④ 受験しない

▶問8　**上記、問7で①～③を選択した方に質問です。**
問6で選択した学科を受験して合格した場合、入学を希望しますか。次より1つ選択してください。

① 入学する

② 志望順位が上位の他の志望校が不合格の場合に入学する

③ 入学しない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

相模女子大学
2026年度設置構想

人間社会学部
地域クリエーション学科
（学科名仮称）

学芸学部
国際コミュニケーション学科
（学科名仮称）

SAGAMI WOMEN'S UNIVERSITY

アンケートにご回答いただく前にご覧ください。

人間社会学部

地域クリエーション学科（仮称 設置構想中）

学科の概要

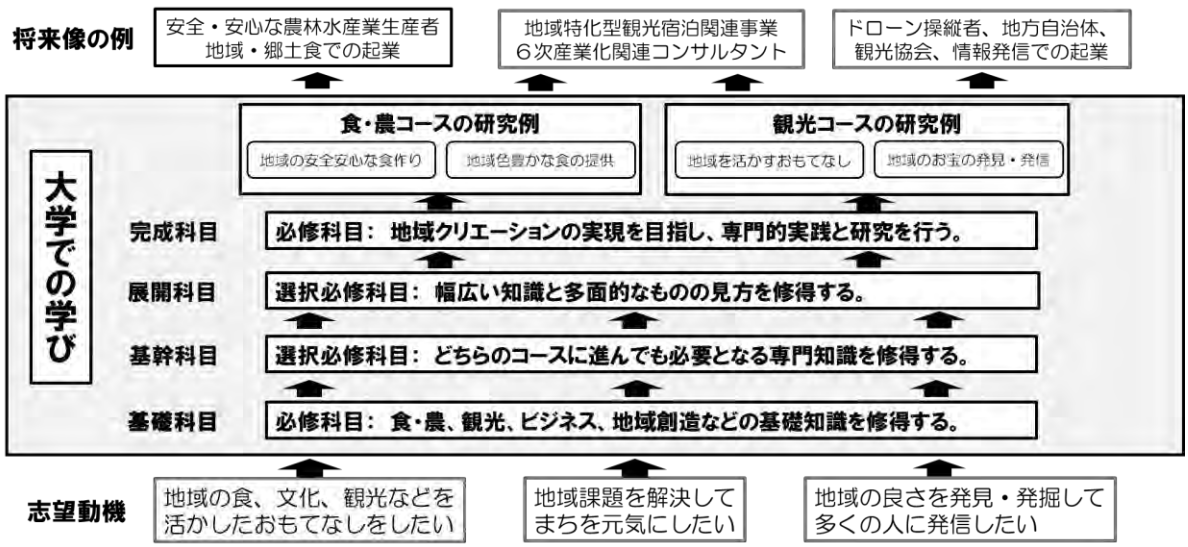
所在地：相模女子大学キャンパス 神奈川県相模原市南区文京2-1-1
入学定員：60名（収容定員：250名） ※2026年度予定
修業年限：4年
取得学位：学士（地域クリエーション学）
養成する人材：地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローカルな視点からの専門的知見をもとに、地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材を育成します。

設置の理念

世界的に気候変動や自然災害に直面し、国内的にも人口減少や少子高齢化に伴う人材不足が課題となる中で、地域の居住者や生物のウェルビーイングにも配慮しながら、国内外からの来訪者に対し安心安全な食やおもてなしを提供でき、有事にも即戦力となれる人材を育成することを目的にしています。

学びの特徴

地域クリエーション学科の志望動機、学び、将来のライフプラン



■取得可能な資格・免許

食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）／二等無人航空機（ドローン）操縦士受験資格／温泉保養士（バルネオセラピスト）

卒業後の進路

- 観光業（ホテル・テーマパーク など）
- 運輸業（航空・鉄道・バス など）
- 飲食業（レストラン・カフェ など）
- 旅行業・観光協会・地方自治体
- コンサルティング業（食関係 ほか）
- 農林水産業・農協・漁協
- 卸売業（地域商社・専門商社 など）
- 起業（カフェ・映像制作 など）

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

- 地域振興に対して熱意を持って取り組める者。また、地域が抱えている諸課題の解決のために自らの考えを実践してみたいと思う者。
- 地域の食や文化、観光などに関心を持ち、居住者や国内外からの来訪者を温かく迎える気持ちを有する者。
- 地域とのかかわりのなかで、グローカルな視点から地域文化やウェルビーイングを実践し、広く地域内外に発信することに関心を持つ者。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

学芸学部

国際コミュニケーション学科（仮称 設置構想中）

学科の概要

所在地：相模女子大学キャンパス 神奈川県相模原市南区文京2-1-1
入学定員：60名（収容定員：250名） ※2026年度予定
修業年限：4年
取得学位：学士（国際コミュニケーション学）
養成する人材：キャンパス、国境、オン・オフライン、ヒトとAIの領域を主体的に横断することで、多様な人、社会、文化に共感・協働する能力を育成し、自身の特性を最大限に活かす力を養います。また、得られた多様な経験や知識を体系化し、生涯にわたり自己開発し続ける能力を培います。これにより、多様な社会で活躍する資質を備えた人材を養成します。

設置の理念

多文化・多様性社会において、日本は自らの文化や価値観を際立たせつつ、国際社会の中で対話し柔軟に対応できる人材の育成が求められています。国際コミュニケーション学科は、国内外の文化や社会について包括的に学び、自らに問いを立て、自らの視点を柔軟に転換する力、どのような環境・社会においても異なる価値観を積極的に受け入れながら、多様な人々と共感し協働できる力、新しい関係性を創り出す力、自己成長に必要な非認知能力を育成します。

学びの特徴

多様な学びの掛け合わせで、国際感覚あふれた自分を創る5つの横断型プログラム

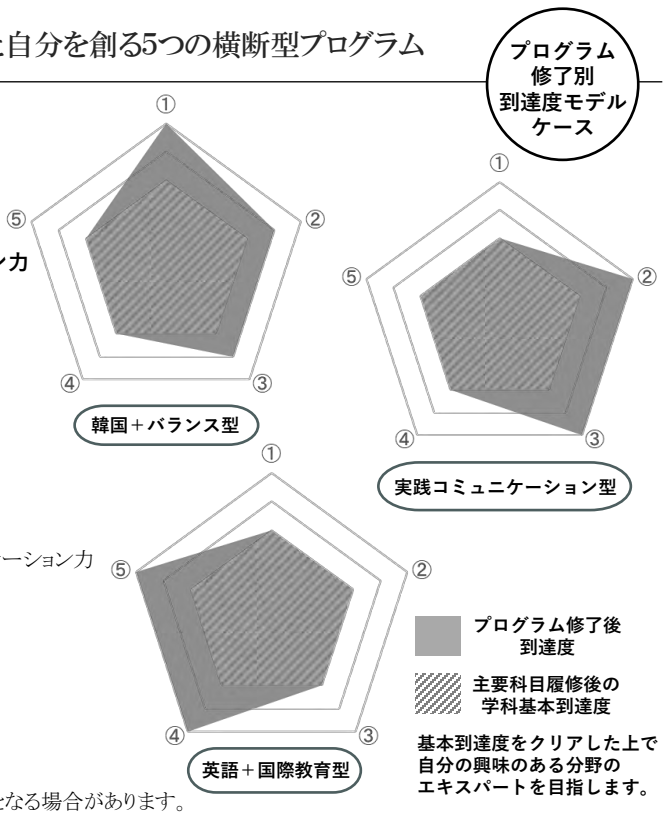
①Area Studies Program on Korea/민국
韓国文化とアジアの多様性を学ぶ
韓国語の習得を通じ、アジアの豊かな文化を学び、ポップカルチャーや現地研修で生きた体験を重ねます。

②Communication Designer Program
デザイン・アート思考で価値を創造するコミュニケーション力
協働によって新しい価値をデザインし、関係性を深める対話力、メディアで情報を編集・発信する力を養います。

③Global Practitioner Program
実践的な社会課題への挑戦
国内外の地域や企業、教育機関でのフィールドワークやインターンシップを通じ、課題解決力や経験を学びに変える力を磨きます。

④Advanced English Studies Program
高度な英語力と異文化コミュニケーション力
英語の総合力を高め、異文化理解と柔軟な対話力、プレゼンテーション力など多文化社会でのコミュニケーション力を育成します。

⑤Global Education Program
英語教育と国際基準の教える力の探求
国際的な基準と視点で英語教育と指導法を学び、教える力、育てる力、マネジメントする力を養います。



■取得可能な資格・免許
中学・高校教員1種（英語）、司書、司書教諭 ※予定のため変更となる場合があります。

卒業後の進路

- 貿易・商社、金融・保険
- 韓国系企業や英語圏の企業の日本支社、海外営業サポート
- 観光・ホスピタリティ業（旅行会社、ホテル）
- 教育関連（中・高英語教員、小学英語教員、英語・韓国語塾講師、インターナショナルスクール教職員）
- 国際交流団体・NPO・webメディア・エンターテイメント（韓流コンテンツ関連企業、多言語コンテンツ作成）
- 福祉・介護関連（高齢者施設・障害者支援施設スタッフ、多文化共生を目指す地域の福祉団体職員）

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

- 自己のコミュニケーション能力を開発し、よりインクルーシブな社会の実現に貢献したいと考える者。
- キャンパス外での実践的な学習活動に意欲がある者。
- 英語のみならず、韓国語などの学習を通して多様な視点からグローバルなつながりに関心を持つ者。
- グローバルな視点から英語教育について探究し、指導者を志す者。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

※こちらは裏面です。アンケートにご回答いただく前にご覧ください。

納付金

学科名	地域クリエーション学科（仮称）	国際コミュニケーション学科（仮称）
初年度	1,518,000円	1,475,000円
2年次以降	1,130,000円＋実験実習費※ ※年次により変動、以下「内容」を参照ください	1,085,000円＋実験実習費※ ※年次により変動、以下「内容」を参照ください
内容	入学金：300,000円（入学時のみ）・授業料：730,000円（毎年）・施設・設備費：390,000円（毎年）、実験実習費：48,000円（1年次）・27,000円（2年次）・10,000円（3年次）・8,000円（4年次）、自治会費：20,000円（入学時のみ）、後援会費：10,000円（毎年）、同窓会終身会費：20,000円（入学時のみ）	入学金：300,000円（入学時のみ）・授業料：725,000円（毎年）・施設・設備費：350,000円（毎年）、実験実習費：50,000円（1年次）、55,000円（2年次）、66,000円（3年次）、10,000円（4年次）・自治会費：20,000円（入学時のみ）、後援会費：10,000円（毎年）、同窓会終身会費：20,000円（入学時のみ）

※学費は予定のものです。

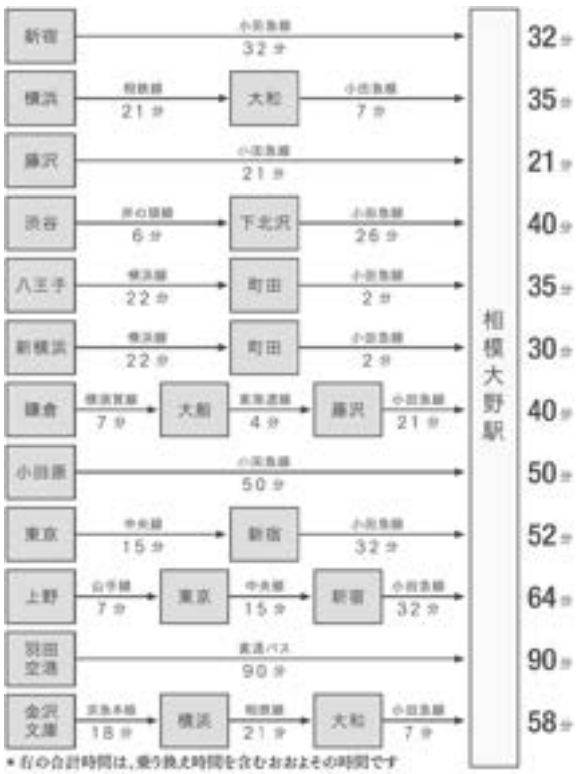
アクセス

▼ 住所・電話番号

住所：神奈川県相模原市南区文京2-1-1
TEL：042-742-1411（代表）

▼ 周辺マップ

▼相模大野駅までの所要時間



競合校

地域クリエーション学科（仮称）	国際コミュニケーション学科（仮称）
文教大学国際観光学科 國學院大学観光まちづくり学科 桜美林大学ビジネスマネジメント学類 東海大学観光学科 神奈川大学国際文化交流学科	大妻女子大学英語英文学科 共立女子大学文芸学科英語・英語圏文学専修 実践女子大学英文学科 関東学院大学英語文化学科 東海大学英語文化コミュニケーション学科

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

【資料5】

相模女子大学

新学科設置構想についての

人材需要アンケート調査

報告書

令和７年３月

株式会社高等教育総合研究所

目次

1.　人材需要アンケート調査 概要 **2**

2.　人材需要アンケート調査 集計結果 **3**

3.　人材需要アンケート調査 結果の要点 **13**

（添付資料）

人材需要アンケート調査用紙 15

「相模女子大学2026年度設置構想」概要 17

1.人材需要アンケート調査 概要

調査目的	令和8年（2026年）度に相模女子大学が構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」（入学定員：60名）および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」（入学定員：60名）の設置における卒業後の採用・就職（人材需要）の見込みを測定することを目的とする。
調査対象	［調査対象］ 過去3年間に相模女子大学卒業生の採用実績がある地方公共団体や企業のうち 前述の学部学科専攻が育成する人材像に適した業種等 ［業種］ 卸売業、小売業、サービス業各種、IT関連業等 ［調査地域］ 主に首都圏を中心とするエリア ［依頼件数］ 1,270件
調査内容	・回答対象先の基本情報（業種・所在地・従業員／職員規模） ・相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」卒業生の人材ニーズ ・相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」卒業生の採用意向
調査時期	令和7年1月～2月
調査方法	調査対象事業所に対しアンケートを郵送し依頼することにより実施 （紙方式・web方式での回答方法を案内し、いずれかで回答を依頼）
回収件数	有効回答数224件（回収率17.64%）

2.人材需要アンケート調査 集計結果

※「構成比」（%）はいずれも、小数点第二位を四捨五入。

問１　貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。

選択肢	回答数	回答割合
北海道	1	0.4%
青森県	0	0.0%
岩手県	0	0.0%
宮城県	1	0.4%
秋田県	0	0.0%
山形県	0	0.0%
福島県	1	0.4%
茨城県	1	0.4%
栃木県	2	0.9%
群馬県	1	0.4%
埼玉県	2	0.9%
千葉県	0	0.0%
東京都	113	50.4%
神奈川県	73	32.6%
新潟県	2	0.9%
富山県	0	0.0%
石川県	0	0.0%
福井県	0	0.0%
山梨県	3	1.3%
長野県	4	1.8%
岐阜県	0	0.0%
静岡県	6	2.7%
愛知県	4	1.8%
三重県	0	0.0%

選択肢	回答数	回答割合
滋賀県	0	0.0%
京都府	0	0.0%
大阪府	4	1.8%
兵庫県	1	0.4%
奈良県	0	0.0%
和歌山県	0	0.0%
鳥取県	0	0.0%
島根県	0	0.0%
岡山県	0	0.0%
広島県	1	0.4%
山口県	0	0.0%
徳島県	0	0.0%
香川県	0	0.0%
愛媛県	0	0.0%
高知県	0	0.0%
福岡県	2	0.9%
佐賀県	1	0.4%
長崎県	1	0.4%
熊本県	0	0.0%
大分県	0	0.0%
宮崎県	0	0.0%
鹿児島県	0	0.0%
沖縄県	0	0.0%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問２　貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
農業・林業・漁業・鉱業	1	0.4%
建設業	7	3.1%
電気・ガス・熱供給・水道業	0	0.0%
製造業	13	5.8%
通信業	1	0.4%
IT関連業	29	12.9%
放送、新聞、出版業	2	0.9%
運輸業、郵便業	2	0.9%
金融業（銀行・信託・証券・貸金）	7	3.1%
保険業	0	0.0%
学術研究、専門・技術サービス	5	2.2%
卸売業、小売業	41	18.3%
不動産業、物品賃貸業	8	3.6%
旅行業	0	0.0%
宿泊業、飲食サービス業	18	8.0%
教育・学習支援業	14	6.3%
生活関連サービス業、娯楽業	6	2.7%
医療	8	3.6%
福祉	31	13.8%
その他サービス業	18	8.0%
国家公務	0	0.0%
地方公務	3	1.3%
非営利団体	2	0.9%
その他	8	3.6%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問３　貴社・貴団体の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
20名未満	12	5.4%
20名以上100名未満	32	14.3%
100名以上300名未満	39	17.4%
300名以上1,000名未満	54	24.1%
1,000名以上	86	38.4%
無回答	1	0.4%
合計	224	100.0%

問４　相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	85	37.9%
ニーズはある程度高い	101	45.1%
ニーズはあまりない	15	6.7%
ニーズはない	2	0.9%
わからない	21	9.4%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問５　相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	145	64.7%
採用しない	17	7.6%
わからない	62	27.7%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問６　問５で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	18	12.4%
2人	18	12.4%
3人	14	9.7%
4人	2	1.4%
5人以上	27	18.6%
人数は未定だが、最低1人	66	45.5%
無回答	0	0.0%
合計	145	100.0%

問７　相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
ニーズは高い	85	37.9%
ニーズはある程度高い	98	43.8%
ニーズはあまりない	18	8.0%
ニーズはない	1	0.4%
わからない	22	9.8%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問８　相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」が養成する人材について採用したいと思われますか。（あてはまるもの１つ）

選択肢	回答数	回答割合
採用したい	147	65.6%
採用しない	16	7.1%
わからない	61	27.2%
無回答	0	0.0%
合計	224	100.0%

問９　問８で「採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

選択肢	回答数	回答割合
1人	24	16.3%
2人	18	12.2%
3人	10	6.8%
4人	3	2.0%
5人以上	24	16.3%
人数は未定だが、最低1人	68	46.3%
無回答	0	0.0%
合計	147	100.0%

※相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

番号	回答
1	社会課題に関心を持ち、主体的に行動することのできる演習などがあるとよろしいのではと考えます
2	地域という抽象的な表現ではなく、具体的にしてほしい
3	福祉の領域とは違う分野の知識を活かし、地域社会の土台を支える活動の企画などを期待したい
4	生活の基盤である衣・食・住において強い関心を持ち、探求心に優れた人材。
5	どちらの学科においてもですが、直接的に弊社の事業と関係する分野ではありませんが、業務内容に魅力を感じ、熱意を持って取り組める方を採用したいと思います。学生時代に学業でも部活でも趣味でも何か没頭した経験ができる環境であると、いいと思います。
6	現時点ではニーズはありませんが、今後事業領域を拡大する中でニーズが生まれる可能性はあります。
7	多角的に物事が見られる力。
8	地域振興は今後重要なテーマであり、学生一般の志向としても、地元に貢献したいという意識が年々高まっているように感じていますのでとてもよいことと考えます。当社の事業領域と異なるため、③とさせていただきました。
9	災害被災地の復興を担う人材を育成していただけると、社会ニーズに貢献できるのではないでしょうか。
10	地域の課題、食に関する文化や新たな発見。地域と関わる中で人として成長できる学科にとても有意義な機会になると感じます。
11	社会貢献に携わっていただけるような人材
12	多様な職種にチャレンジできる人材
13	コミュニケーション能力の高い人材を求めています。カリキュラムに社会に出てからのセルフブランディングであるとかコミュニケーションの方法を期待しています
14	地域に暮らす”普通の人”だけではなく、子ども・高齢者・障がい者等まで視野を広く持つこと
15	地域の知見を持った意見を業務に活かせる
16	福祉の現場で生かせる科目があるといい
17	弊社はテレビ番組を制作するのが仕事なのでなかなか仕事と直結しない。しかし、インバウンドは増加の一方なので対応できる人材育成にはニーズがあると考えます
18	栄養士資格、管理栄養士資格も選択して取れるようであれば、採用したい。
19	教員免許が取得できると良い
20	地域振興の観点からその地域に興味を持ち学習を始めとしたさまざまな意欲をもつ人材を育てるという点でものすごく関心がある。
21	地域とのつながりを大切にしている貴学ですので、 地域への視点を持った学生が学びを活かされることを期待しています。
22	映像制作や、イベント運営など、音楽ライブ、SNS等の制作、運営に携わっていただけると思います。 弊社では、芸能イベント(音楽・演劇・地域イベント)なども行っている関係で、専任が欲しい。
23	会社としての取り組みに地域振興観点の商品開発等の業務もあり 学んだ内容が行かせると思います
24	貴学に新設予定の「人間社会学部 地域クリエーション学科」につきまして、資料を拝読させていただきました。当社はIT企業ではございますが、分野を問わず自ら考え課題に挑戦していく人材に期待を寄せております。

25	地域社会の諸課題への取り組み方やおもてなしなどに関わるコミュニケーション能力などは、IT業界でも、重要視されるスキルです。 選考の際にまだ、IT未学習であったとしても、入社後、分析能力やコミュニケーション能力等、培ってきたスキルでじゅうぶんに頑張っていただけます。
26	弊社も相模原で創業し37年目に入りました。 その中で、地域に根差し・地域から発信していくことを目指しています。 いっしょに相模原からモノ作りしてくれる人材を採用したいと考えます。
27	我々は農業協同組合ですので、地域社会において好循環を創造することを理念としており、御校の人材はそれを担っていただけるものと期待しております。
28	地域について考える事により課題が見えてくると思います。それは他のどの地域にも当てはまるのかを調べることにより年齢の違う人が住み生活を営んでいることにも関心が向き未来へ向け必要なことは何かを考えられる人材の育成につながると思います。
29	首都圏集中ではなく地方に目を向けられる人材を育成して頂きたいです。
30	地域の健康増進のためのイベント（食生活の改善やこども薬剤師体験など）に力を入れておりますので、学んだことを活かしていただけると存じます。
31	弊社においてご活躍いただけるのではと、期待させていただいている点は2点ございます。 ・私たちニチレイグループでは「くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する」というミッションを掲げており、国内外の来訪者に対し安心安全な食やおもてなしを提供でき、即戦力となれる人材を育成する、という理念は当グループが求めている人材であるのではないかと期待しています。 ・アドミッションポリシーにおいて、「地域の食に興味をもち、地域が抱えている諸課題の解決のために自らの考えを実践してみたいと思う物」という箇所、弊社の事業・業務内容・働き方においてマッチング度が高いと期待しております。
32	IT業界、ソフトウェア開発に興味のある方であれば基本的にどの科学部の方でも大歓迎です。
33	懸念点： ・競合大学が多いため、特色を出す必要がある。例えば「SDGsに特化した国際教育」や「特定地域との強力な連携プログラム」などの具体性が重要。 全体的な評価と提案 1. ポジティブ要素： ・時代のニーズに合った学部構成。 ・「地域」と「国際」という対照的なテーマが学生層の幅を広げる可能性がある。 2. 注意点： ・具体的な差別化戦略（地域連携・国際教育プログラムの具体化）が不可欠。 ・持続可能な定員確保に向けたマーケティングやプロモーション戦略が必要。
34	地域振興に貢献するため、柔軟な視点で課題を捉え、自ら考え抜いて解決策を提案し、実行できる学生の育成を期待しております。
35	ITと連携した研究が行われれば採用の可能性も出てくるかと思います
36	国内では少子高齢化が進む中、政府のインバウンド増加施策は続き、今以上にオーバーツーリズムが問題視されることが予想されます。また地球温暖化対策が急務な中、難しい対応が可能な社会人の育成が期待されると思います。
37	地域振興に対して熱意をもって取り組める人材である事から、当組合の経営方針と同様であり、また地域の関わりに関心を持つ学生は企業としても採用したい人材である。
38	弊社が募集している職種は、学科と直接関連するものではないかもしれませんが、地域クリエーション学科で学ばれた課題解決能力は、職種問わず活躍して下さるものと期待しております。
39	地域の特性・調剤薬局の特性を生かした提案・活動実施
40	教員免許状を取得できない学科のため、採用ができません。そのため、教員免許状を取得可能となる場合については、状況によって採用が可能となります。
41	医療分野は地域密着型の業種であり貴校の掲げる設立理念と親和性が高いと推測される

42	資格要件が弊グループの事業とは合わないので採用は難しいですが、農福一体など、農業はどの分野ともコラボレーションできると思いますので、農業に関する知識がある人材の需要はあると思います。
43	地域クリエーション学科と弊社の企業理念が合致しております。多角的なものの見方ができ、自ら考動できる方を望みます。
44	弊社は建築の設計事務所であり、今回の新学科の生徒さん達の就職等に関わることはないと思われますが、地域に根差した考え・貢献する姿勢は同じですので将来何かしらで融合できること期待しています。
45	自ら色々なことを提案する力を身につくようにしてほしい
46	弊社IT業界に属するため、デジタルの活用に向けての学習がどの程度あるのかが分かると大変興味があります。
47	現在、観光地にてメインの客層とも言えるインバウンド層のお客様に対し、インターネットや観光書籍などから得られる情報だけではなく、ユニークな情報やおもてなし、非常時の対応が出来るような人材が養成されること。
48	当社の新卒採用は栄養士、管理栄養士、調理師の資格保有（予定）者の採用を主としているため、専門職としての採用は難しいです。ですが、総合職を僅かではありますが、募集しているため、募集要項に当てはまり、当社の希望する学生像と一致する学生がいた場合、総合職としての採用検討をさせていただきたく存じます。

※相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

番号	回答
1	国内外において多様な文化や価値観と共生している企業、団体とのつながりをもてるよう外部講師による講義がうけられると面白いのではと思いました
2	日本国民の人口が減少する中でニーズはあると思う。Society5.0実現に向けて生徒を社会に輩出してほしい
3	特定技能実習生の雇用促進等、多文化的な関わりが増えており、今後そうした知見を持つ人材の活躍が期待されている
4	高度な英語力や多種多様な言語能力を持つ人材。
5	当法人の障碍者福祉には、コミュニケーション能力が高い学生を必要としています。人材不足の中、応募いただければうれしいです。福祉分野に興味を持ってもらえるカリキュラムをぜひ整えてほしいです。
6	当外学科において、小学校教諭免許状が取得できるのであれば、本市小学校教諭（英語コース）として採用したい。
7	多角的に物事が見られる力。
8	教員の養成
9	柔軟な対応力
10	韓国の芸能プロダクションの日本進出にあたってのサポートなど、ニーズは高いのではないでしょうか。
11	高校（英語）の免許取得者がいればぜひ採用したい
12	グローバルな視点での物事の考え方が学べ、コミュニケーション力を高められることは、学生にとっても大きな武器になると思います。
13	多様な職種に挑戦できる人材
14	地域に暮らす”普通の人”だけではなく、子ども・高齢者・障がい者等まで視野を広く持つこと
15	特定技能外国人等に関する知識
16	多様な方の支援を行っているので、コミュニケーション能力を備えられることは望ましい（どんな分野でも活かせる）
17	こういう人材の育成は他大学や機関でもすでにあると考えます。地域クリエーション学科に比べ人材育成の中身が新鮮とは思えません。
18	世界の中の日本という考えの中では国際的な学習は必要かもしれないが当社としては関心度は低い。
19	国際、コミュニケーションという言葉での学部や学科設置は 他にも多いと思います。 貴学の場合は、英語力の他に多様性、韓国語や文化といった内容もあるため、学びたいという学生は多いのではないでしょうか？ 卒業後の韓国系企業への就職が可能ならなお良いと思われます。
20	英語力を求められるIT現場が存在するため、弊社では、帰国子女が3名おります。 ニーズが高まっているため、採用を考えています。
21	海外のオーガニック市場の視察等の出張もあり 語学スキルが高い人材は有望
22	貴学に新設予定の「国際コミュニケーション学科」につきまして、資料を拝読させていただきました。当社では文系・理系を問わず幅広く採用しております。特にコミュニケーション能力の高い人材は当社でも活躍しており、貴学の新設学科ではそのような人材が成長できるようなアドミッションポリシーを掲げていると感じました

23	IT業界では、英語も多用されます。 しっかり学んでいただければ、ITの技術は習得の際にも、学びやすくなると思います。 また、コミュニケーション能力は、お仕事をするにあたって、最も重要なスキルです。 上記2点をしっかり学べる学生様は、弊社はとても期待が持てます。
24	地域も企業も成長する中で、色々な文化・環境で育ってきた人たちと共存していかないといけない時代になってきていると実感します。 そういった人たちといっしょに成長していきたいと思っています。
25	なぜ今さら「韓国文化」なのか分からない。ブームに乗じた学生集めにしか映らない。
26	韓国文化を学ぶことはいいことだと思います。これだけ韓国料理や音楽が身近になっているのに韓国の歴史については学ぶ機会がありません。歴史上の王様の名前を一人も知らないと思います。国の歴史も知らずに相手を理解することは難しいと思います。また英語でのコミュニケーション能力の向上も大切で新しい学科に期待しております。
27	患者さん対応に必要な接客、コミュニケーション能力
28	弊社においてご活躍いただけるのではと、期待させていただいている点は2点ございます。 ・2024年問題もあり、今後大きく変化が求められている物流業界に身を置く弊社として、国内外の文化や社会において多様な人々と共感し協働できる力は、即戦力となると期待しています。 ・外国のカルチャーのみならず、コミュニケーション能力の開発まで広く学ぶことができることで、これまでにない革新的な人材であるのではないかと期待しています。また、親会社であるニチレイロジグループ本社において、海外事業も行っておりますので、そういった面でもご活躍の場は広いのではないかと考えています。
29	IT業界、ソフトウェア開発に興味のある方であれば基本的にどの科学部の方でも大歓迎です。
30	弊社では、学部や専攻を問わず、志望する学生をITシステムエンジニアとして育成する体制を整えております。未経験の方でも安心してご応募いただける環境をご用意しております。 現在、2025年卒業予定でまだ就職先が決まっていない学生や、2026年卒業予定の学生の皆様に向けて、弊社でのキャリアの可能性をご紹介したいと考えております。 貴学の学生の皆様に少しでもご興味をお持ちいただけましたら、ぜひご紹介いただけますと幸いです。
31	特にありません
32	様々な国籍、文化、宗教に対し柔軟に対応し、双方の中をとりもつ、といった業務が期待されます。
33	多様性社会において様々な国や文化の方々とコミュニケーションを図る中、多様な人々と共感し協働することは今後、求められる人材であると考えます。
34	エンジニア人材においてもコミュニケーションは非常に大切な能力のため、自己コミュニケーション能力を鍛えた学生は企業に限らず、社会が必要とする人材になられることと存じます。
35	インターンシップや学校 サポーター等により、大学と学校現場での経験を往還的に深めて実践力を高めるような学びを期待しています。本市でのインターンシップや教育実習の受け入れについては、ぜひご相談いただければ幸いです。
36	昨今の医療分野では外国人需要が急速に高まっており、医療分野は御学科の育成目的とする人材の活躍出来る業種であると思われる。
37	教員免許を取得できるとのことで、弊グループの事業(放課後等デイサービス)の児童指導員として活躍いただけると思います。
38	地域クリエーション学科と同様に、学んだ知識から柔軟な発想力を育んだ方たちとお仕事をご一緒できることを期待しています。
39	弊社IT業界に属するため、デジタルの活用に向けての学習がどの程度あるのかが分かると大変興味があります。
40	こちらも、さきの設問で記載したインバウンド層への対応はもちろん、そのような層へのサービス内容等の構想なども非常に重要になると考え、そういった人材養成のニーズを感じる。
41	当社の新卒採用は栄養士、管理栄養士、調理師の資格保有（予定）者の採用を主としているため、専門職としての採用は難しいです。ですが、総合職を僅かではありますが、募集しているため、募集要項に当てはまり、当社の希望する学生像と一致する学生がいた場合、総合職としての採用検討をさせていただきたく存じます。

3.人材需要アンケート調査 結果の要点

（1）「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」が養成する人材のニーズ・採用意向

相模女子大学「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）」で養成する人材のニーズについては「ニーズは高い」85箇所（38.0%）、「ニーズはある程度高い」101箇所（45.0%）で合計すると186箇所（83.0%）がそのニーズの高さを認める結果となった。

また、145箇所（64.7%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度）合計は予定する入学定員60名の5.0倍となる301人であった。

問４　養成する人材の社会ニーズ

ニーズは高い・ある程度高い	186事業所	83.0%
ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	38事業所	17.0%
合計	224事業所	100.0%

問５　卒業生の採用意向

採用したい	145事業所	64.7%
採用しない・わからない・無回答	79事業所	35.3%
合計	224事業所	100.0%

問６　単年度の採用可能人数

	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未定だが、最低1人	無回答	合計
「採用したい」の回答数	18	18	14	2	27	66	0	145
採用可能人数計（回答数×採用可能人数）	**18人**	**36人**	**42人**	**8人**	**135人**	**66人**	**0人**	**305人**

※「5人以上」は5人として計算した。

※「人数は未定だが、最低1人」は1人として計算した。

※採用可能人数へ無回答の場合は集計から除外した。

（2）「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」が養成する人材のニーズ・採用意向

相模女子大学「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）」で養成する人材のニーズについては「ニーズは高い」85箇所（38.0%）、「ニーズはある程度高い」98箇所（43.8%）で合計すると183箇所（81.7%）がそのニーズの高さを認める結果となった。

また、147箇所（65.6%）が採用意向を示し、その上での採用可能人数（単年度）合計は予定する入学定員60名の4.8倍となる290人であった。

問７　養成する人材の社会ニーズ

ニーズは高い・ある程度高い	183事業所	81.7%
ニーズはない・あまりない・わからない・無回答	41事業所	18.3%
合計	224事業所	100.0%

問８　卒業生の採用意向

採用したい	147事業所	65.6%
採用しない・わからない・無回答	77事業所	34.4%
合計	224事業所	100.0%

問９　単年度の採用可能人数

	1人	2人	3人	4人	5人以上	人数は未定だが、最低1人	無回答	合計
「採用したい」の回答数	24	18	10	3	24	68	0	147
採用可能人数計（回答数×採用可能人数）	**24人**	**36人**	**30人**	**12人**	**120人**	**68人**	**0人**	**290人**

※「5人以上」は5人として計算した。

※「人数は未定だが、最低1人」は1人として計算した。

※採用可能人数へ無回答の場合は集計から除外した。

相模女子大学 新学科設置構想についての人材需要アンケート

相模女子大学では、令和 8(2026)年 4 月、「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称)」および「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称)」の設置を構想しております。新学科についての概要資料をご覧の上、同学科への採用意向に関する調査にご協力をお願いします。なお、この調査の結果は、統計資料としてのみ用い、他の用途に使用することはありません。また、設置計画は予定であり、今後変更となる可能性があります。

※このアンケート調査は相模女子大学から委託された第三者機関（株式会社高等教育総合研究所）が実施しています。

※本アンケートおよび概要資料に記載されている内容については予定であり、変更される可能性があります。

記入要領	1. 回答は**所定の欄を塗りつぶしてください。** 2. この用紙は電算処理しますので汚さないようにしてください。 3. 記入は必ず**鉛筆またはシャープペンシル**で濃く書いてください。	【記入例】● 1) 大学 0 2) 短期大学

問１　貴社の本社または貴団体の本部所在地について、お答えください。（あてはまるもの１つ）

0 北海道	0 青森県	0 岩手県	0 宮城県	0 秋田県	0 山形県	0 福島県
0 茨城県	0 栃木県	0 群馬県	0 埼玉県	0 千葉県	0 東京都	0 神奈川県
0 新潟県	0 富山県	0 石川県	0 福井県	0 山梨県	0 長野県	0 岐阜県
0 静岡県	0 愛知県	0 三重県	0 滋賀県	0 京都府	0 大阪府	0 兵庫県
0 奈良県	0 和歌山県	0 鳥取県	0 島根県	0 岡山県	0 広島県	0 山口県
0 徳島県	0 香川県	0 愛媛県	0 高知県	0 福岡県	0 佐賀県	0 長崎県
0 熊本県	0 大分県	0 宮崎県	0 鹿児島県	0 沖縄県		

問２　貴社・貴団体の業種（主な事業内容）として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

0 農業、林業、漁業、鉱業	0 建設業	0 電気、ガス、熱供給、水道業	0 製造業
0 通信業	0 IT 関連業	0 放送、新聞、出版業	0 運輸業、郵便業
0 金融業（銀行・信託・証券・貸金）	0 保険業	0 学術研究、専門・技術サービス	0 卸売業、小売業
0 不動産業、物品賃貸業	0 旅行業	0 宿泊業、飲食サービス業	0 教育・学習支援業
0 生活関連サービス業、娯楽業	0 医療	0 福祉	0 その他サービス業
0 国家公務	0 地方公務	0 非営利団体	0 その他

問３　貴社・貴団体の従業員・職員規模として、最もあてはまるものをお選びください。（あてはまるもの１つ）

0 20 名未満	0 20 名以上 100 名未満	0 100 名以上 300 名未満
0 300 名以上 1,000 名未満	0 1,000 名以上	

ここからは別添・相模女子大学の新学科に関する概要資料を
見てからお答えください

◆人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称）についてお聞きします。

問４　相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称)」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。（あてはまるもの１つ）

0 ニーズは高い	0 ニーズはある程度高い	0 ニーズはあまりない
0 ニーズはない	0 わからない	

問５　相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称)」が養成する人材について採用したいと思われますか。(あてはまるもの１つ)

0 ①採用したい　0 ②採用しない　0 ③わからない

問６　問５で「①採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

0 1人　0 2人　0 3人
0 4人　0 5人以上　0 人数は未確定だが、最低１人

※　相模女子大学が設置構想中の「人間社会学部 地域クリエーション学科（学科名仮称)」について期待される点ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

◆学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称）についてお聞きします。

問７　相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称)」が養成する人材についての社会ニーズについてお答えください。(あてはまるもの１つ)

0 ニーズは高い　0 ニーズはある程度高い　0 ニーズはあまりない
0 ニーズはない　0 わからない

問８　相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称)」が養成する人材について採用したいと思われますか。(あてはまるもの１つ)

0 ①採用したい　0 ②採用しない　0 ③わからない

問９　問８で「①採用したい」とされた場合、単年度で採用可能な人数をお答えください。

0 1人　0 2人　0 3人
0 4人　0 5人以上　0 人数は未確定だが、最低１人

※　相模女子大学が設置構想中の「学芸学部 国際コミュニケーション学科（学科名仮称)」について期待される点、ご要望がありましたらご自由にご記入ください。

※宜しければ貴社名をお教えください。こちらは、どの企業にご返送いただいたかを把握するための質問であり、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の企業・団体が識別できる情報として公表されることはございません。(ゴム印の押印でも問題ございません)

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

相模女子大学
2026年度設置構想

人間社会学部
地域クリエーション学科
（学科名仮称）

学芸学部
国際コミュニケーション学科
（学科名仮称）

SAGAMI WOMEN'S UNIVERSITY

アンケートにご回答いただく前にご覧ください。

人間社会学部

地域クリエーション学科（仮称 設置構想中）

学科の概要

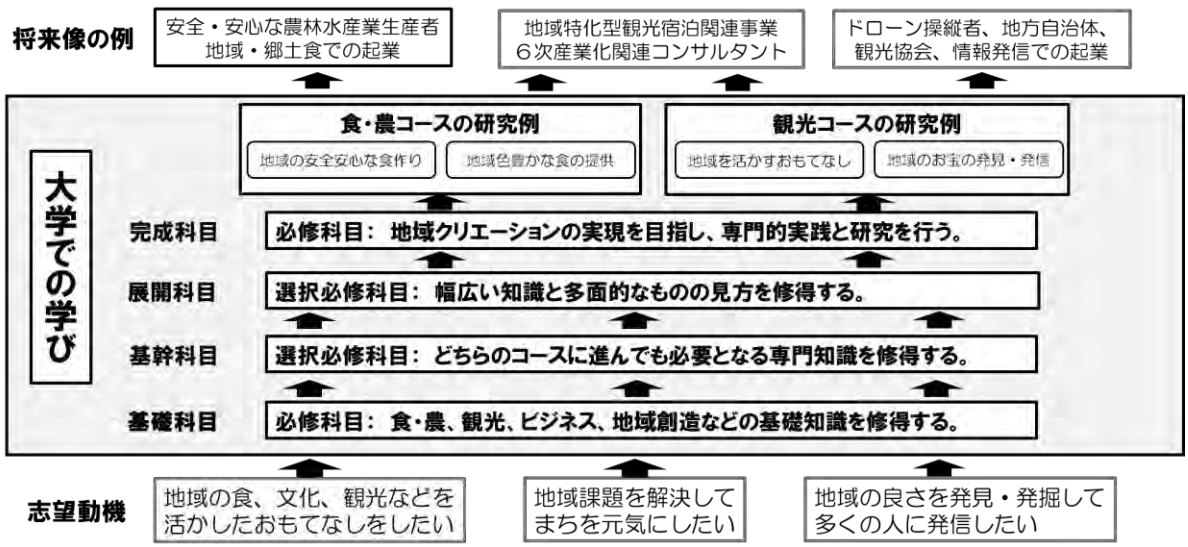
所在地：相模女子大学キャンパス 神奈川県相模原市南区文京2-1-1
入学定員：60名（収容定員：250名） ※2026年度予定
修業年限：4年
取得学位：学士（地域クリエーション学）
養成する人材：地域固有の資源を発掘し、地域の食、観光についてのグローカルな視点からの専門的知見をもとに、地域の持続可能なウェルビーイングを総合的に分析、実践し、取組みをストーリー化して広く地域内外に発信できる人材を育成します。

設置の理念

世界的に気候変動や自然災害に直面し、国内的にも人口減少や少子高齢化に伴う人材不足が課題となる中で、地域の居住者や生物のウェルビーイングにも配慮しながら、国内外からの来訪者に対し安心安全な食やおもてなしを提供でき、有事にも即戦力となれる人材を育成することを目的にしています。

学びの特徴

地域クリエーション学科の志望動機、学び、将来のライフプラン



■取得可能な資格・免許

食品衛生管理者・食品衛生監視員（任用資格）／二等無人航空機（ドローン）操縦士受験資格／温泉保養士（バルネオセラピスト）

卒業後の進路

- 観光業（ホテル・テーマパーク など）
- 運輸業（航空・鉄道・バス など）
- 飲食業（レストラン・カフェ など）
- 旅行業・観光協会・地方自治体
- コンサルティング業（食関係 ほか）
- 農林水産業・農協・漁協
- 卸売業（地域商社・専門商社 など）
- 起業（カフェ・映像制作 など）

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

- 地域振興に対して熱意を持って取り組める者。また、地域が抱えている諸課題の解決のために自らの考えを実践してみたいと思う者。
- 地域の食や文化、観光などに関心を持ち、居住者や国内外からの来訪者を温かく迎える気持ちを有する者。
- 地域とのかかわりのなかで、グローカルな視点から地域文化やウェルビーイングを実践し、広く地域内外に発信することに関心を持つ者。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

学芸学部

国際コミュニケーション学科（仮称 設置構想中）

学科の概要

所在地：相模女子大学キャンパス 神奈川県相模原市南区文京2-1-1
入学定員：60名（収容定員：250名） ※2026年度予定
修業年限：4年
取得学位：学士（国際コミュニケーション学）
養成する人材：キャンパス、国境、オン・オフライン、ヒトとAIの領域を主体的に横断することで、多様な人、社会、文化に共感・協働する能力を育成し、自身の特性を最大限に活かす力を養います。また、得られた多様な経験や知識を体系化し、生涯にわたり自己開発し続ける能力を培います。これにより、多様な社会で活躍する資質を備えた人材を養成します。

設置の理念

多文化・多様性社会において、日本は自らの文化や価値観を際立たせつつ、国際社会の中で対話し柔軟に対応できる人材の育成が求められています。国際コミュニケーション学科は、国内外の文化や社会について包括的に学び、自らに問いを立て、自らの視点を柔軟に転換する力、どのような環境・社会においても異なる価値観を積極的に受け入れながら、多様な人々と共感し協働できる力、新しい関係性を創り出す力、自己成長に必要な非認知能力を育成します。

学びの特徴

多様な学びの掛け合わせで、国際感覚あふれた自分を創る5つの横断型プログラム

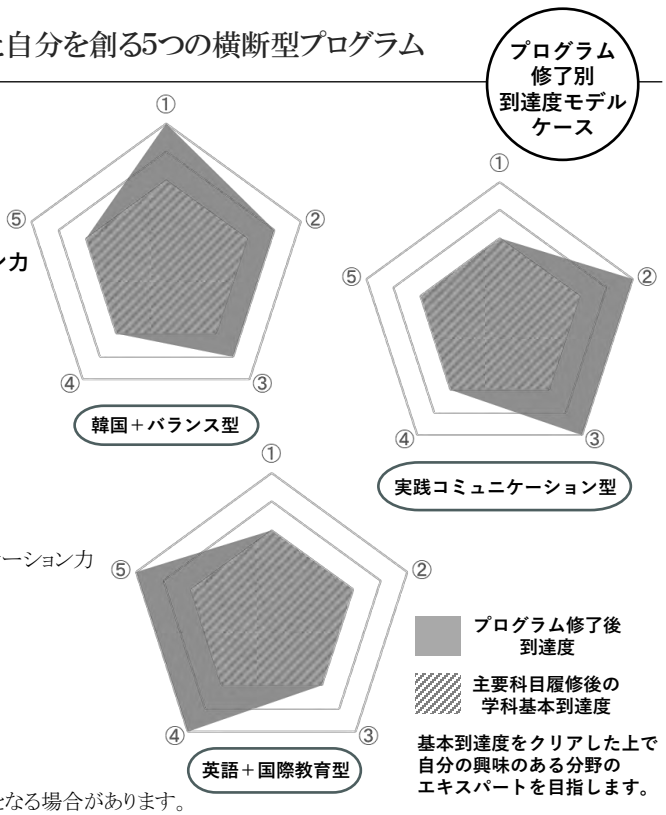
①Area Studies Program on Korea/민국
韓国文化とアジアの多様性を学ぶ
韓国語の習得を通じ、アジアの豊かな文化を学び、ポップカルチャーや現地研修で生きた体験を重ねます。

②Communication Designer Program
デザイン・アート思考で価値を創造するコミュニケーション力
協働によって新しい価値をデザインし、関係性を深める対話力、メディアで情報を編集・発信する力を養います。

③Global Practitioner Program
実践的な社会課題への挑戦
国内外の地域や企業、教育機関でのフィールドワークやインターンシップを通じ、課題解決力や経験を学びに変える力を磨きます。

④Advanced English Studies Program
高度な英語力と異文化コミュニケーション力
英語の総合力を高め、異文化理解と柔軟な対話力、プレゼンテーション力など多文化社会でのコミュニケーション力を育成します。

⑤Global Education Program
英語教育と国際基準の教える力の探求
国際的な基準と視点で英語教育と指導法を学び、教える力、育てる力、マネジメントする力を養います。



■取得可能な資格・免許
中学・高校教員1種（英語）、司書、司書教諭 ※予定のため変更となる場合があります。

卒業後の進路

- 貿易・商社、金融・保険
- 韓国系企業や英語圏の企業の日本支社、海外営業サポート
- 観光・ホスピタリティ業（旅行会社、ホテル）
- 教育関連（中・高英語教員、小学英語教員、英語・韓国語塾講師、インターナショナルスクール教職員）
- 国際交流団体・NPO・webメディア・エンターテイメント（韓流コンテンツ関連企業、多言語コンテンツ作成）
- 福祉・介護関連（高齢者施設・障害者支援施設スタッフ、多文化共生を目指す地域の福祉団体職員）

アドミッションポリシー（入学者受け入れ方針）

- 自己のコミュニケーション能力を開発し、よりインクルーシブな社会の実現に貢献したいと考える者。
- キャンパス外での実践的な学習活動に意欲がある者。
- 英語のみならず、韓国語などの学習を通して多様な視点からグローバルなつながりに関心を持つ者。
- グローバルな視点から英語教育について探究し、指導者を志す者。

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

※こちらは裏面です。アンケートにご回答いただく前にご覧ください。

納付金

学科名	地域クリエーション学科（仮称）	国際コミュニケーション学科（仮称）
初年度	1,518,000円	1,475,000円
2年次以降	1,130,000円＋実験実習費※ ※年次により変動、以下「内容」を参照ください	1,085,000円＋実験実習費※ ※年次により変動、以下「内容」を参照ください
内容	入学金：300,000円（入学時のみ）・授業料：730,000円（毎年）・施設・設備費：390,000円（毎年）、実験実習費：48,000円（1年次）・27,000円（2年次）・10,000円（3年次）・8,000円（4年次）、自治会費：20,000円（入学時のみ）、後援会費：10,000円（毎年）、同窓会終身会費：20,000円（入学時のみ）	入学金：300,000円（入学時のみ）・授業料：725,000円（毎年）・施設・設備費：350,000円（毎年）、実験実習費：50,000円（1年次）、55,000円（2年次）、66,000円（3年次）、10,000円（4年次）・自治会費：20,000円（入学時のみ）、後援会費：10,000円（毎年）、同窓会終身会費：20,000円（入学時のみ）

※学費は予定のものです。

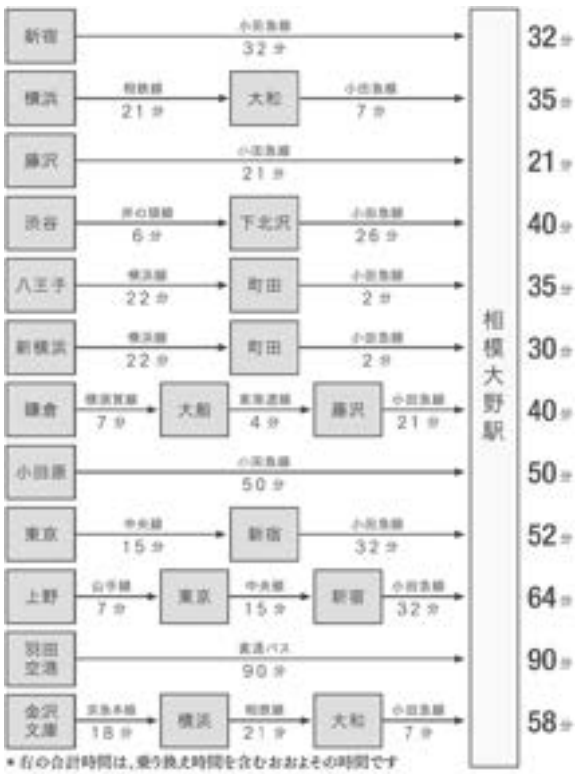
アクセス

▼ 住所・電話番号

住所：神奈川県相模原市南区文京2-1-1
TEL：042-742-1411（代表）

▼ 周辺マップ

▼相模大野駅までの所要時間



競合校

地域クリエーション学科（仮称）	国際コミュニケーション学科（仮称）
文教大学国際観光学科 國學院大学観光まちづくり学科 桜美林大学ビジネスマネジメント学類 東海大学観光学科 神奈川大学国際文化交流学科	大妻女子大学英語英文学科 共立女子大学文芸学科英語・英語圏文学専修 実践女子大学英文学科 関東学院大学英語文化学科 東海大学英語文化コミュニケーション学科

上記内容は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教　　員　　名　　簿

学　長　又　は　校　長　の　氏　名　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職（就任年月）
―	学長	タバタ　マサヒデ 田畑　雅英 ＜令和3年4月＞		文学修士		相模女子大学・相模女子大学短期大学部　学長 （令和3年4月～令和9年3月）

別記様式第３号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

教員の氏名等

（学芸学部 国際コミュニケーション学科）

調書番号	教員区分	職位	氏名 ＜就任（予定）年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	担当授業科目の名称	主要授業科目	配当年次	担当単位数	年間開講数	現職（就任年月）	教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況				申請に係る大学等の職務に従事する週当たり平均日数	申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況
													教授会	教務委員会	その他	「その他」の場合、会議等の名称		
1	基（主専）	教授 （学部長）	ナカバヤシ　マサミ 中林　正身 ＜令和8年4月＞		Doctor of Philosophy （英国）		文学		1前・後	2	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平20.4）	○				4日	
							言語と異文化　※		1前	0.6	1							
							英語文学　※		2前	1.6	1							
							複合芸術		2前	2	1							
							アート＆コミュニケーション演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							英語文章読解	○	1前	2	1							
							英語文章表現	○	1後	2	1							
2	基（主専）	教授 （学科長）	ワタナベ　ユキノリ 渡辺　幸倫 ＜令和8年4月＞		博士 （学術）		さがみ総合講座		1前	2	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平19.4）	○				4日	
							さがみ発想講座　※		1後	0.1	1							
							異文化コミュニケーション	○	1後	2	1							
							グローバル文化Ⅱ（フィリピン・タイ）		2前	2	1							
							応用言語学		3後	2	1							
							English for Hospitality		3前	2	1							
							TOEIC Ⅰ		1後	1	1							
							TOEIC Ⅱ		2前	1	1							
							短期英語研修Ⅰ		1前	1	1							
							短期英語研修Ⅱ		1前	1	1							
							短期韓国語研修Ⅰ		1前	1	1							
							短期韓国語研修Ⅱ		1前	1	1							
							長期語学留学Ⅰ		2後	6	1							
							長期語学留学Ⅱ		2後	6	1							
							長期語学留学Ⅲ		2後	12	1							
							長期語学留学Ⅳ		2後	12	1							
							特別研修Ⅰ		1前	1	1							
							特別研修Ⅱ		1前	1	1							
							ボランティア研修Ⅰ		1前	1	1							
							ボランティア研修Ⅱ		1後	2	1							
							インターンシップⅠ		1前	1	1							
							インターンシップⅡ		1前	1	1							
							インターンシップⅢ		2前	2	1							
3	基（主専）	教授	カミジョウ　ミワコ 上條　美和子 ＜令和8年4月＞		文学修士 言語学修士 ※		英語Ⅱ		1前・後	2	2	相模女子大学 学芸学部 教授 （平22.4）	○				4日	
							英語Ⅲ		1前・後	2	2							
							英語Ⅳ		1前・後	2	2							
							海外研修Ⅰ		1後	2	1							
							海外研修Ⅱ		2前	2	1							
							海外研修Ⅲ		2後	2	1							
							日本語Ⅰ		1前	1	1							
							日本語Ⅱ		1後	1	1							
							アジアパシフィック・スタディーズ		1後	2	1							
							英語音声学		2前	2	1							
							Speaking Skills Ⅲ	○	2前	1	1							
							Speaking Skills Ⅳ	○	2後	1	1							
4	基（主専）	教授	ソン　ウォンソク 宣　元錫 ＜令和8年4月＞		博士 （社会学）		韓国／朝鮮語Ⅰ		1前・後	5	5	相模女子大学 学芸学部 非常勤講師 （令3.4）	○				4日	
							韓国／朝鮮語Ⅱ		1後・2前	2	2							
							韓国／朝鮮語Ⅲ		2前	1	1							
							韓国／朝鮮語Ⅳ		2後	1	1							
							グローバル文化Ⅲ（韓国・台湾）		2後	2	1							
							国際韓国学		2後	2	1							
							文化演習Ⅱ	○	3後	2	1							
							ポピュラーアート（韓国系）		2後	2	1							
							地域研究：韓国Ⅰ	○	4前	2	1							
							地域研究：韓国Ⅱ	○	4後	2	1							
5	基（主専）	教授	ツツミ　リュウイチロウ 堤　龍一郎 ＜令和8年4月＞		Master of Arts in Film Studies （英国）		基礎教育講座		1前	2	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平26.4）	○				4日	
							さがみ発想講座　※		1後	0.1	1							
							グローバル文化Ⅰ（伝統的英語圏）		2前	2	1							
							映像文化コミュニケーション		2後	2	1							
							映像芸術		2後	2	1							
							アート＆コミュニケーション演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							英語文章読解	○	1前	2	1							
							英語文章表現	○	1後	2	1							
							コミュニケーション・デザインⅠ	○	4前	2	1							
							コミュニケーション・デザインⅡ	○	4後	2	1							
6	基（主専）	教授	ナカムラ　マリ 中村　真理 ＜令和8年4月＞		文学修士※		地域協働活動		2通	1	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平4.4）	○ （令9.4～）		○ （～令9.3）	大学評議会	4日	
							就職支援講座		3前	2	1							
							英語Ⅰ		1前・後	1	1							
							文化演習Ⅰ	○	3前	2	1							
							芸術作品鑑賞（英語文学）		2前	2	1							
7	基（主専）	教授	ボーク　ギャリー BOURKE GARY ＜令和8年4月＞		MA（Advance Japanese Studies） （英国）		国際教養入門　※	○	1前	1.9	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平21.4）	○				4日	
							国際日本学		2後	2	1							
							English for Advanced Speaking Ⅰ		3前	2	1							
							English for Advanced Speaking Ⅱ		3後	2	1							
							English for Business		3前	2	1							
							Integrated Communication Ⅰ		2前	2	1							
							Integrated Communication Ⅱ		2後	2	1							
							Advanced English Studies Ⅰ	○	4前	2	1							

8	基（主専）	教授	ミヤモト　セツコ 宮本　節子 ＜令和8年4月＞		Master of Philosophy （愛蘭）		英語Ⅰ 英語Ⅱ 上級英語読解・表現 コースワーク演習Ⅰ コースワーク演習Ⅱ English for Translation コースワーク・デザインⅠ コースワーク・デザインⅡ 越境・協働学習教育Ⅰ 越境・協働学習教育Ⅱ	 ○ ○ ○ ○ 	1前・後 1前・後 2前 3前 3後 3前 4前 4後 2前 2後	1 1 2 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平16.4）	○	○			4日	
9	基（主専）	准教授	ジェイソン　デイビッド ゴールド GOLD JASON DAVID ＜令和8年4月＞		Doctor of Literacy, Culture, and Language Education （米国）		国際教養入門　※ Speaking Skills Ⅰ Speaking Skills Ⅱ English for Presentation English for Relationship-building Advanced English Studies Ⅱ	○ ○ ○ ○	1前 1前 1後 3前 3後 4後	1.9 1 1 2 2 2	1 1 1 1 1 1	相模女子大学 学芸学部 准教授 （令6.4）	○				4日	
10	基（主専）	講師	アカツカ　ユウヤ 赤塚　佑哉 ＜令和8年4月＞		博士（教育学）		基礎教育講座 英語科教育法（中）Ⅰ 英語科教育法（中）Ⅱ 英語科教育法（中・高）Ⅰ 英語科教育法（中・高）Ⅱ 国際教育論Ⅱ 教育演習Ⅰ 教育演習Ⅱ グローバル教育Ⅰ グローバル教育Ⅱ スクール・インターンシップⅠ スクール・インターンシップⅡ	 ○ ○ ○ ○ 	1前 2前 2後 3前 3後 3後 3前 3後 4前 4後 2後 3前	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 1 1	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	相模女子大学 学芸学部 講師 （令5.4）	○				4日	
11	その他	教授	イケシタ（ヤマゾエ）　ハナエ 池下（山添）　花恵 ＜令和9年4月＞		博士（国際情報通信学）		図書館情報技術論 情報メディアの活用		2前 3前	2 2	1 1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平27.4）						
12	その他	教授	イケダ　ヨシト 池田　仁人 ＜令和8年9月＞		博士（学校教育学）		さがみ発想講座　※ 問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅰ 問題発見・解決型プロジェクト実践Ⅱ		1後 3通 4通	0.9 1 1	1 1 1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平20.4）						
13	その他	教授	イサカ　サトシ 井坂　聡 ＜令和8年9月＞		文学士		メディアと文化		1前・後	2	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平27.4）						
14	その他	教授	イシカワ　ユウイチ 石川　勇一 ＜令和8年4月＞		修士（人間科学）		心理学		1前・後	2	1	相模女子大学人間社会学部 教授 （平12.5）						
15	その他	教授	イトウ　トシヒコ 伊東　俊彦 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		倫理学 アート　※		1前・後 1前・後	4 2	2 2	相模女子大学人間社会学部 教授 （平24.4）						
16	その他	教授	イナダ　ダイスケ 稲田　大祐 ＜令和8年9月＞		修士（芸術）		さがみ発想講座　※		1後	0.1	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平25.4）						
17	その他	教授	オカベ　ヨシヒロ 岡部　芳広 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		言語と異文化　※ 中国語Ⅲ 中国語Ⅳ		1前 2前 2後	0.1 1 1	1 1 1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平22.4）						
18	その他	教授	カトウ　ユウキ 加藤　由樹 ＜令和10年4月＞		博士（学術）		情報通信技術の活用		3前・後	2	2	相模女子大学 学芸学部 教授 （平23.4）						

19	その他	教授	カナイ　キイチロウ 金井　喜一郎 ＜令和9年9月＞		修士（文化情報学）※		情報資源組織論Ⅱ 情報資源組織演習Ⅰ 情報資源組織演習Ⅱ 図書館基礎特論 図書館サービス特論Ⅱ 学校図書館メディアの構成 読書と豊かな人間性		3前 3前 3後 2後 3後 3前 2後	4 2 2 2 2 2 2	2 2 2 1 1 1 1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平31.4）						
20	その他	教授	キモト　レイイチ 木本　玲一 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		社会学		1前・後	2	1	相模女子大学人間社会学部 教授 （平20.4）						
21	その他	教授	クボ　ヤスヒコ 久保　康彦 ＜令和8年4月＞		修士（商学）※		社会貢献・地域連携　※ さがみ発想講座　※		1前 1後	0.7 0.1	1 1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平17.4）						
22	その他	教授	クワハラ　シゲル 桑原　茂 ＜令和8年9月＞		MASTER OF SCIENCE（米国）		さがみ発想講座　※		1後	0.4	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平30.4）						
23	その他	教授	コイズミ（モリ）　キョウミ 小泉（森）　京美 ＜令和8年4月＞		修士（経営管理学）※		キャリア・プランニング		1前・後	4	2	相模女子大学 学芸学部 教授 （平22.4）						
24	その他	教授	サカモト　ヨシコ 坂本　佳子 ＜令和8年4月＞		修士（学術）※		言語と異文化　※ フランス語Ⅲ		1前 2前	0.3 1	1 1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平12.4）						
25	その他	教授	ササダ　シュウサク 笹田　周作 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		身体の科学 健康スポーツ		1前 1前・後	4 2	2 2	相模女子大学 栄養科学部 教授 （平26.4）						
26	その他	教授	スワベ　マサシ 諏訪部　真史 ＜令和8年9月＞		工学士		学校教育概論		1後	2	1	相模女子大学教職センター 特任教授 （令3.4）						
27	その他	教授	ソウノ　フミトシ 宗野　文俊 ＜令和8年9月＞		論文博士（教育学）		球技スポーツ		1前・後	1	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平27.9）						
28	その他	教授	トミタ　ミツヤス 富田　充保 ＜令和8年9月＞		人文学修士※		教職論 生徒・進路指導 教育実習Ⅰ 事前・事後指導 教職実践演習（中・高）		2前・後 1前・後 4通 4前・後 4後	4 2 4 1 4	2 1 1 1 2	相模女子大学教職センター 教授 （平27.4）						
29	その他	教授	ナガタニ　ナオコ 永谷　直子 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		言語学		1前・後	2	1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平27.4）						
30	その他	教授	マツナガ　サチコ 松永　幸子 ＜令和8年4月＞		博士（教育学）		言語と異文化　※ 国際教養入門　※ 英語文学　※ カリキュラム論 道徳教育論 特別活動論 教育方法論 教育実習Ⅱ 事前・事後指導 教職実践演習（中・高）	○	1前 1前 2前 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 4通 4前・後 4後	0.6 0.2 0.4 2 4 4 2 2 2 4	1 2 1 2 2 2 2 1 2 2	相模女子大学教職センター 教授 （令5.4）						

31	その他	教授	ミズカミ　ユキ 水上　由紀 ＜令和8年4月＞		博士（食物栄養学）		さがみ発想講座　※ 言語と異文化　※		1後 1前	0.1 0.7	1 1	相模女子大学 栄養科学部 教授 （平22.4）						
32	その他	教授	ミヤハラ（マツシマ）　シヅコ 宮原（松嶋）　志津子 ＜令和9年4月＞		修士（教育学） ※		図書館サービス概論 情報サービス演習Ⅰ 情報サービス演習Ⅱ 図書館サービス特論Ⅰ 図書館施設論 図書館実習（事前・事後の指導を含む） 学校経営と学校図書館 学習指導と学校図書館		2前 3前・後 3前・後 3後 2後 3通 2前 3後	2 2 2 2 2 2 2 2	1 2 2 1 1 1 1 1	相模女子大学 学芸学部 教授 （平23.4）						
33	その他	教授	ユグチ　キヨタカ 湧口　清隆 ＜令和8年4月＞		博士（商学）		経済学 社会貢献・地域連携　※		1前・後 1前	2 1.3	1 1	相模女子大学人間社会学部 教授 （平16.4）						
34	その他	准教授	シモダ　ショウヘイ 下田　章平 ＜令和8年4月＞		博士（芸術学）		書道		1前・後	2	1	相模女子大学 学芸学部 准教授 （平30.4）						
35	その他	准教授	タケベ　マサアキ 武部　正明 ＜令和8年9月＞		博士（教育学）		心理学		1前・後	2	1	相模女子大学人間社会学部 准教授 （令6.4）						
36	その他	准教授	ツカダ　シュウイチ 塚田　修一 ＜令和8年4月＞		修士（社会学） ※		メディアと文化		1前・後	2	1	相模女子大学 学芸学部 准教授 （令2.4）						
37	その他	准教授	ヒゴ　リエコ 肥後　梨恵子 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		ウエルネス 球技スポーツ ラケットスポーツ シーズンスポーツ		1前・後 1前・後 1前・後 1通	4 3 2 2	2 3 2 2	相模女子大学人間社会学部 准教授 （令4.4）						
38	その他	准教授	ムラマツ（オダ）　アキコ 村松（小田）　彰子 ＜令和8年4月＞		論文博士（社会人類学）		くらしと文化		1前・後	2	1	相模女子大学人間社会学部 准教授 （平23.4）						
39	その他	准教授	ヤマモト　エリコ 山本　絵里子 ＜令和8年4月＞		博士（心理学）		アート ※ さがみ発想講座　※		1前・後 1後	2 0.1	2 1	相模女子大学人間社会学部 准教授 （令2.4）						
40	その他	講師	フジタ　ユウ 藤田　佑 ＜令和8年9月＞		博士（文学）		さがみ発想講座　※		1後	0.1	1	相模女子大学 学芸学部 専任講師 （令2.4）						
41	その他	講師	アサクマ　ハルカ 朝熊　悠 ＜令和8年4月＞		修士（学術）		英語Ⅰ 英語Ⅱ		1前・後 1前・後	2 3	2 3	関東学院大学 非常勤講師 （平31.4） 多摩美術大学 非常勤講師 （令4.4） 東京工科大学 非常勤講師 （令4.4） 立正大学 非常勤講師 （令4.4）						

42	その他	講師	アダチ　アツコ 足立　敦子 ＜令和8年4月＞		学士（文学）		書道		1前・後	2	1	相模女子大学日本語日本文学科 非常勤講師 （平27.9） YMCA茨城書道教室講師 （平27.6） 跡見女子大学中学校高等学校芸術科（書道） 非常勤講師 （令7.4）						
43	その他	講師	イシガキ（コセキ）　ミオ 石垣（小関）　弥麻 ＜令和8年4月＞		文学修士		英語Ⅰ		1前・後	4	4	相模女子大学学芸学部 非常勤講師 （平8.5）						
44	その他	講師	イズミ　ケイスケ 泉　圭祐 ＜令和8年4月＞		体育学修士 修士（スポーツ産業・マネジメント）		球技スポーツ ラケットスポーツ		1前・後 1前・後	1 3	1 3	相模女子大学 非常勤講師 （平20.4）						
45	その他	講師	イトウ　タツヤ 伊藤　達也 ＜令和8年4月＞		修士（文学）		英語Ⅰ 英語学概論		1前・後 2前	6 2	6 1	東京都立大学 非常勤講師 （平17.4）						
46	その他	講師	イヌカイ　サトシ 犬飼　智 ＜令和8年4月＞		修士（文学）		日本の社会と文化		1前・後	2	1	株式会社東京教育研 嘱託 （令6.4）						
47	その他	講師	イワミ　アキラ 岩見　亮 ＜令和8年4月＞		体育学士		ラケットスポーツ		1前・後	4	4	相模女子大学 非常勤講師 （平22.4）						
48	その他	講師	ウエハラ　スワコ 上原　寿和子 ＜令和8年4月＞		言語学修士		英語Ⅰ 英語Ⅱ 英語Ⅲ 英語Ⅳ		1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	1 3 1 1	1 3 1 1	電気通信大学情報理工学研究科 准教授 （平25.9）						
49	その他	講師	エグチ　フミエ 江口　文恵 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		文学		1前・後	2	1	早稲田大学理工学術院 非常勤講師 （平23.4） 早稲田大学人間科学学術院 非常勤講師 （平27.4） 法政大学通信教育部 兼任講師 （令3.4）						
50	その他	講師	オオマエ　モトノブ 大前　元伸 ＜令和8年4月＞		修士（学術）※ Master Recherche en philosophie（フランス）※		フランス語Ⅰ		1前・後	6	6	相模女子大学 非常勤講師 （令1.9）						
51	その他	講師	キザキ　エイジ 木崎　英司 ＜令和8年4月＞		修士（経営学）		キャリア・プランニング ビジネス実務総論		1前・後 1前・後	2 2	1 1	亜細亜大学経営学部 教授 （平29.4）						亜細亜大学経営学部 「基（主専）」
52	その他	講師	クボタ　ヒサシ 窪田　尚 ＜令和8年4月＞		学士（芸術学）		コンピュータリテラシー 情報リテラシー		1前・後 1前・後	2 1	1 1	日本大学芸術学部 非常勤講師 （平15.4）						

53	その他	講師	コイズミ　ミユウ 小泉　美優 ＜令和9年9月＞		学士（文学）		児童サービス論		2後	4	2	株式会社図書館流通センター 図書館員 （平31.3）						
54	その他	講師	ササキ　ヤスナリ 佐々木　康成 ＜令和8年4月＞		修士（人間科学）※		コンピュータリテラシー 情報処理概論 情報リテラシー		1前・後 1後 1前・後	2 2 3	1 1 3	早稲田大学人間科学部通信教育課程 教育コーチ （平16.4） 桜美林大学 非常勤講師 （平19.4） 相模女子大学 非常勤講師 （平20.4） 早稲田大学スポーツ科学学術院 非常勤講師 （平23.4） 相模原看護専門学校 非常勤講師 （平25.4） 明治大学 非常勤講師 （平26.4） 早稲田大学グローバルエデュケーションセンター 非常勤講師 （平26.4）						
55	その他	講師	シミズ　ジュンコ 清水　純子 ＜令和8年4月＞		修士（国際関係学）※		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ		1前・後 1後	5 1	5 1	東海大学総合教育センター語学教育センター国際言語教育学系 非常勤講師 （平10.4） 青山学院大学青山スタンダード 非常勤講師 （平13.4） 相模女子大学 非常勤講師 （平15.4）						
56	その他	講師	スギヤマ　アキラ 杉山　章 ＜令和8年4月＞		修士（経営管理）※		経済学 社会学		1前・後 1前・後	2 4	1 2	東京福祉大学 大学院 准教授 （令3.4）						
57	その他	講師	ズシダ　ユウコ 圖子田　優子 ＜令和8年4月＞		修士（社会科学）		教育相談		1前・後	2	1	聖心女子学院初等科 カウンセラー （平31.4）						
58	その他	講師	スズキ　カツミ 鈴木　勝己 ＜令和8年9月＞		博士（人間科学）		くらしと文化		1前・後	2	1	早稲田大学人間科学通信教育課程 教育コーチ （平16.4）						
59	その他	講師	スズキ　リカ 鈴木　里香 ＜令和8年4月＞		博士(文学)		ドイツ語I		1前・後	2	2	相模女子大学非常勤講師 （平23.4）						
60	その他	講師	セイノ　トシヒロ 制野　俊弘 ＜令和9年4月＞		博士（体育科学）		総合的な学習の時間の指導		2前・後	4	2	和光大学現代人間学部人間科学科 教授 （平28.4）						
61	その他	講師	ソノベ　ユタカ 園部　豊 ＜令和8年4月＞		博士（体育科学）		健康スポーツ		1前・後	2	2	帝京平成大学 准教授 （平28.4）						

62	その他	講師	タカハシ　モトハル 高橋　基治 ＜令和9年9月＞		Master of Arts in Teaching English as a Second Language（米国）		TOEIC Ⅲ		2後	1	1	東洋英和女学院大学国際社会学部国際社会学科 教授 （平22.4）						東洋英和女学院大学　国際社会学部国際社会学科 「基（主専）」
63	その他	講師	タシロ（エノキ）　ヒトミ 田代（榎木）　ひとみ ＜令和8年9月＞		人文科学博士		言語学		1前・後	2	1	明治大学経営学部 兼任講師 （平21.4）						
64	その他	講師	ツチヤ（クロキ）　ミユウ 土屋（黒木）　深優 ＜令和8年9月＞		博士(情報学)		図書館概論		1後	2	1	秋草学園短期大学 助教(令5.4)						秋草学園短期大学文化表現学科 「基（主専）」
65	その他	講師	ツムラ　サチエ 津村　幸恵 ＜令和8年9月＞		教育学修士		書道		1前・後	2	1	茨城キリスト教大学文学部 兼任講師 （令1.9） 都留文科大学文学部 非常勤講師 （令和3.4） 相模女子大学学芸学部 非常勤講師 （令4.4）						
66	その他	講師	ナカガワ　ジュンコ 中川　純子 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ ドイツ語Ⅲ		1前・後 1後・2前 2前	3 1 1	3 1 1	相模女子大学 非常勤講師 （令4.4）						
67	その他	講師	ナカノワタリ　カイト 中野渡　快人 ＜令和8年4月＞		修士（栄養科学）		健康スポーツ		1前・後	3	3	個人事業主 （平20.4）						
68	その他	講師	ナカムラ　コウヘイ 中村　浩平 ＜令和8年4月＞		教育修士		ラケットスポーツ 健康スポーツ		1前・後 1前・後	2 2	2 2	相模女子大学 非常勤講師 （平19.4）						
69	その他	講師	ナカイエ　ヤチヨ 中家　八千代 ＜令和8年4月＞		文学学士		ビジネス実務総論		1前・後	6	3	個人事業主（平15.4）						
70	その他	講師	ナカツカ　ユリコ 中塚　ゆり子 ＜令和9年4月＞		工学士		学校図書館サービス論 学校図書館情報サービス論		2前 2後	2 2	1 1	相模原市立相模台中学校 学校司書 （令4.4）						
71	その他	講師	ノゾエ　キヌコ 野添　絹子 ＜令和8年4月＞		教育学修士		英語Ⅰ TOEIC　Ⅰ TOEIC　Ⅱ		1前・後 1後 2前	3 1 1	3 1 1	元　一般社団法人認知的個性協会　副会長 （平27.3まで）						
72	その他	講師	ハヤカワ　ヨシオ 早川　桂央 ＜令和8年9月＞		修士（中国学）		書道		1前・後	2	1	麻布大学附属高等学校 非常勤講師 （令和3.4） 相模女子大学 非常勤講師 （令和3.9）						
73	その他	講師	ハヤマ　アツミ 葉山　敦美 ＜令和10年4月＞		文学士		図書館制度・経営論		3前	2	1	元　座間市立図書館　司書 （令2.3まで）						

74	その他	講師	ハラ　ヨシヒロ 原　圭寛 ＜令和8年4月＞		博士（教育学）		教育の原理		1前・後	2	1	昭和音楽大学短期大学部 専任講師 （令5.4）						昭和音楽大学短期大学部 「基（主専）」
75	その他	講師	ハルヤマ　ジュンイチ 春山　純一 ＜令和8年4月＞		理学博士		地域から学ぶ知の実践		1前	4	2	宇宙航空研究開発機構 助教 （平15.1）						
76	その他	講師	ハンダ　チカ 半田　知佳 ＜令和8年9月＞		修士（社会科学）		教育相談		1前・後	2	1	中央大学附属高等学校 スクールカウンセラー （令6.4）						
77	その他	講師	ヒラサワ　ノブユキ 平澤　暢之 ＜令和8年4月＞		Doctorat en langue et littérature française（フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前・後 1後・2前	2 2	2 2	日本学術振興会 特別研究員PD （令5.4）						
78	その他	講師	フナハシ　ミチコ 舟橋　倫子 ＜令和8年4月＞		博士（歴史学）		諸外国の社会と文化		1前・後	2	1	相模女子大学非常勤講師 （平25.7）						
79	その他	講師	ホリ　ヒサコ 堀　弥子 ＜令和8年4月＞		修士（文学）※		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ		1前・後 1後・2前	2 1	2 1	千葉大学 非常勤講師 （令5.4）						
80	その他	講師	ホンゴウ（マチダ）　アサカ 本郷（町田）　朝香 ＜令和8年9月＞		博士（人文科学）		倫理学		1前・後	2	1	お茶の水女子大学 非常勤講師 （平17.4）						
81	その他	講師	マスナミ　タイジ 増南　太志 ＜令和9年4月＞		博士（行動科学）		特別支援教育概論		2前・後	4	2	埼玉学園大学人間学部 教授 （平27.4）						
82	その他	講師	マツイ　タケハル 松井　丈晴 ＜令和8年4月＞		修士（法学）※		法学 日本国憲法		1後 1前・後	2 8	1 4	相模女子大学 非常勤講師 （平30.9）						
83	その他	講師	マツイ　ケント 松井　健人 ＜令和8年9月＞		博士（教育学）		図書・図書館史		1後	2	1	東洋大学文学部 助教 （令5.4）						東洋大学文学部 「基（主専）」
84	その他	講師	マツシタ　ユウイチ 松下　優一 ＜令和8年4月＞		博士（社会学）		社会学 メディアと文化		1前・後 1前・後	2 4	1 2	法政大学 兼任講師 （令2.4）						
85	その他	講師	マツシタ　ミドリ 松下　みどり ＜令和8年9月＞		文学修士※		日本の社会と文化		1前・後	2	1	相模女子大学 非常勤講師 （平10.4）						

86	その他	講師	マツナカ（オオニシ）　レイコ 松中（大西）　玲子 〈令和10年4月〉		博士（学術）		SPI対策講座		3前	2	1	東京大学大学院総合文化研究科 特任研究員 （平25.4）						
87	その他	講師	マツモト　ユキコ 松本　有希子 ＜令和8年4月＞		修士（言語文化）※		スペイン語Ⅰ スペイン語Ⅱ		1前・後 1後	4 1	4 1	相模女子大学 非常勤講師 （平30.4）						
88	その他	講師	ミツイ　トシロウ 三井　敏朗 ＜令和8年4月＞		修士（英文学） ※		英語Ⅰ		1前・後	4	4	相模女子大学 非常勤講師 （平8.4）						
89	その他	講師	ミツハシ　ダイスケ 三橋　大輔 ＜令和8年4月＞		修士（人間科学）		データサイエンス AIと社会		1前・後 1前・後	6 6	3 3	相模女子大学 非常勤講師 （平19.9）						
90	その他	講師	ミウラ　ヨシエ 三浦　芳恵 ＜令和8年9月＞		博士（教育学）		生徒・進路指導		1前・後	2	1	相模女子大学 非常勤講師 （令2.10）						
91	その他	講師	ミヤザキ　アツコ 宮崎　敦子 ＜令和8年4月＞		修士（教育学） ※		生涯学習概論		1前	2	1	相模女子大学学芸学部 非常勤講師 （平27.9）						
92	その他	講師	モガキ　マドカ 茂垣　まどか ＜令和8年4月＞		修士（心理学） ※		教育心理学		1前・後	4	2	帝京大学短期大学 講師 （令3.4）						
93	その他	講師	モリタ　ミツオ 森田　満夫 ＜令和8年4月＞		博士（学術）		教育の制度		1前・後	4	2	立教大学学校・社会教育講座　教職課程 特別専任教授 （令和6.4）						
94	その他	講師	ヤマオカ　ワカナ 山岡　若菜 ＜令和8年4月＞		学士（運動科学）		健康スポーツ		1前・後	4	4	相模女子大学 非常勤講師 （平26.4） 東海大学 非常勤講師 （令4.4）						
95	その他	講師	ヤマカワ　キョウコ 山川　恭子 ＜令和9年4月＞		博士（学術）		情報サービス論 情報資源組織論Ⅰ		2後 2前	4 2	2 1	相模女子大学 非常勤講師 （平16.4）						
96	その他	講師	ヤマシタ　タケオ 山下　雄大 ＜令和8年4月＞		修士（学術）、Master(Sociologie et philosophie politique)（フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前・後 1後・2前	3 1	3 1	中央大学総合政策学部 非常勤講師 （令6.4）						
97	その他	講師	ヤマモト　イッセイ 山本　一生 ＜令和8年9月＞		博士（教育学）		教育の原理		1前・後	2	1	東洋大学文学部 教授 （令5.4）						東洋大学文学部 「基（主専）」

98	その他	講師	ワタナベ　コウイチロウ 渡邊　晃一朗 ＜令和8年9月＞		修士（教育学）		図書館情報資源概論 情報資源組織論Ⅰ		1後 2前	2 2	1 1	株式会社pluszero 研究員 （令5.4）						
99	その他	講師	テイ　アンクン 鄭　安君 ＜令和8年4月＞		博士（国際学）		諸外国の社会と文化 中国語Ⅱ		1前・後 1後・2前	4 1	2 1	相模女子大学 非常勤講師 （平22.2） 国際医療福祉大学 非常勤講師 （平30.4） 千葉大学 特任研究員 （令5.6）						
100	その他	講師	クォン　ヒョクリン 権　赫麟 ＜令和8年4月＞		博士（観光学）		韓国／朝鮮語Ⅰ		1前・後	6	6	帝京大学 経済学部 准教授 （平31.4）						
101	その他	講師	シン　ミョンホウ 申　明浩 ＜令和8年4月＞		芸術学修士※		韓国／朝鮮語Ⅰ 韓国／朝鮮語Ⅱ		1前・後 1後・2前	6 3	6 3	相模女子大学 非常勤講師 （平25.4）						
102	その他	講師	ヤク　カイ 薬　会 ＜令和8年4月＞		文学修士		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後・2前	2 2	2 2	相模女子大学 非常勤講師 （平8.9） 東京都都立国際高等学校 特別市民講師 （平5.4） 法政大学 非常勤講師 （平8.9） 青山学院大学 非常勤講師 （平15.4）						
103	その他	講師	ユウ（ゴトウ）　ケイソ 熊（後藤）　慧蘇 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後・2前	2 1	2 1	相模女子大学 非常勤講師 （平22.4）						
104	その他	講師	コウ　ヨウシン 黄　耀進 ＜令和8年4月＞		修士（情報学） ※		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後・2前	6 4	6 4	相模女子大学 非常勤講師 （平31.4）						
105	その他	講師	リュウ　レイキン 劉　靈均 ＜令和8年4月＞		博士（文学）		中国語Ⅰ 中国語Ⅱ		1前・後 1後・2前	4 3	4 3	大阪公立大学人権問題研究センター 客員研究員 （令4.4） 元　三重大学人文学部 特任講師 （令和3.3まで）						
106	その他	講師	ブロックマン，アンソニー　ジョセフ BROCKMAN, ANTHONY JESEPH ＜令和9年4月＞		BA（カナダ）		Speaking Skills Ⅲ Speaking Skills Ⅳ	○ ○	2前 2後	1 1	1 1	相模女子大学 非常勤講師 （平12.4）						
107	その他	講師	ベイツ，ジェイムス ウイリアム BATES, JAMES WILLIAM ＜令和8年4月＞		Doctor of Education（豪州）		英語Ⅱ		1前・後	4	4	Seikei Institute of International Studies Associate Lecturer （令3.4）						
108	その他	講師	バーネット，ダニエル　ジェームズ BARNETT, DANIEL JAMES ＜令和8年4月＞		M.A. English Language Teaching（英国）		英語Ⅱ Speaking Skills Ⅰ Speaking Skills Ⅱ	 ○ ○	1前・後 1前 1後	1 1 1	1 1 1	桜美林大学 非常勤講師 （平16.9）						

109	その他	講師	ガダード，ジェイムズ アレン GODDARD, JAMES ALLEN ＜令和8年4月＞		Doctor of Leadership in Education（米国）		Speaking Skills Ⅰ Speaking Skills Ⅱ	○ ○	1前 1後	1 1	1 1	北里大学 准教授 （平15.4）						
110	その他	講師	マルティーナ　ディエゴ Martina　Diego ＜令和8年4月＞		修士（日本近現代文学）		イタリア語Ⅰ イタリア語Ⅱ		1前・後 1後・2前	4 2	4 2	東京大学 非常勤講師 （令4.4）						
111	その他	講師	ジェイコブズ，ニール ピーター JACOBS, NEIL PETER ＜令和9年4月＞		Bachelors in Business（豪州）		Speaking Skills Ⅲ Speaking Skills Ⅳ Integrated Communication Ⅲ Integrated Communication Ⅳ	○ ○	2前 2後 3前 3後	1 1 2 2	1 1 1 1	相模女子大学 非常勤講師 （平13.4）						
112	その他	講師	ハセガワ　トモタロウ 長谷川　朋太郎 ＜令和8年4月＞		Doctorat Esthétique（フランス）		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ		1前・後 1後・2前	3 2	3 2	日本学術振興会特別研究員 PD （令7.4）						
113	その他	講師	ナガヤマ　サトコ 永山　聡子 ＜令和8年4月＞		修士（社会学）		ジェンダー論		1前	4	2	成城大学研究機構グローカル研究センター 客員研究員 （令4.4）						
114	その他	講師	キムラ　ミツヒロ 木村　光宏 ＜令和10年4月＞		博士（総合社会文化）		国際教育論Ⅰ		3前	2	1	岡山理科大学 グローバルセンター 講師 （令4.4）						
115	その他	講師	マツザキ　ヒデアキ 松﨑　秀彰 ＜令和10年9月＞		修士(教育学)		国際教育論Ⅲ		3後	2	1	茗渓学園中学校高等学校 教諭 （平8.4）						

（注）
1　教員の数に応じ，適宜枠を増やして記入すること。
2　私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合又は大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合は，この書類を作成する必要はない。
3　「主要授業科目」の欄は，授業科目が主要授業科目に該当する場合，欄に「○」を記入すること。
4　「教育課程の編成等の意思決定に係る会議等への参画状況」の欄は，教育課程の編成等についての意思決定を行う会議体で所属予定の会議体がある場合，欄に「○」を記入すること。
5　「申請に係る大学等の職務に従事する週当たりの平均日数」及び「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は，基幹教員のみ記載すること。
6　「申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）での基幹教員としての勤務状況」の欄は，申請に係る学部等以外の組織（他の大学等に置かれる学部等を含む）で基幹教員として勤務している場合，その大学及び学部等の名称及びそれらの学部等での教員区分を記載すること。

別記様式第３号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基幹教員の年齢構成・学位保有状況										
職　位	学　位	29 歳 以 下	30 ～ 39 歳	40 ～ 49 歳	50 ～ 59 歳	60 ～ 64 歳	65 ～ 69 歳	70 歳 以 上	合　　計	備　　考
教　授	博　士	0人	0人	0人	1人	1人	1人	0人	3人	
	修　士	0人	0人	0人	1人	2人	1人	1人	5人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
准教授	博　士	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
講　師	博　士	0人	0人	1人	0人	0人	0人	0人	1人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
助　教	博　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	修　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
合　計	博　士	0人	0人	2人	1人	1人	1人	0人	5人	
	修　士	0人	0人	0人	1人	2人	1人	1人	5人	
	学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	短期大学　士	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	
	その他	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	0人	

（注）
1　この書類は，申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
2　この書類は，基幹教員についてのみ作成すること。
3　この書類は，申請又は届出に係る学部等の開設後，当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度における状況を記載すること。
4　「基幹教員の年齢構成・学位保有状況」欄の「基幹教員」は，大学院の研究科又は研究科の専攻の場合，「専任教員」と読み替えること。
5　専門職大学院若しくは専門職大学の前期課程を修了した者又は専門職大学又は専門職短期大学を卒業した者に対し授与された学位については，「その他」の欄にその数を記載し，「備考」の欄に，具体的な学位名称を付記すること。